Salesforce Spring '20 リリースノート

Salesforce, Spring '20

まったく新しい方法で顧客とつながる

@salesforcedocs

最終更新日: 2020/02/16

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2020 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Spring '20 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
リリースの準備 16
機能が使用可能になる方法と状況 17
サポートされるブラウザ 65
Salesforce 全体 68
Salesforce CMS 107
Essentials Edition 121
Salesforce Einstein 123
セールス 128
サービス 207
コマース 263
Analytics 271
コミュニティ 341
Chatter フィード 366
Files 367
モバイル 367
持続可能性 386
Industries 387
myTrailhead 426
カスタマイズ 431
セキュリティ、プライバシー、ID 495
リリース 516
開発 517
Quip 642
マーケティング 653
重要な更新 653
コンテンツへのスポットライト 660
その他の Salesforce 製品とサービス 666

Salesforce Spring '20 リリースノート

Spring '20 リリースは、Customer 360 プラットフォーム全体に関する広範なイノベーションを実現しているため、一元化された共有の顧客像を実現して重要な瞬間を増やすことができます。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '20 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体: Lightning Experience への移行、ユーザのガイド、および生産性の向上に役立つツール

拡張された Lightning Experience 設定コンバータを使用して Lightning Experience の準備を整えて、カスタマイズ可能なアプリケーション内プロンプトを使用してユーザをガイドします。1 回のクリックで Lightning Experience のごみ箱を空にして、削除済みのレポートとダッシュボードを管理します。アプリケーションランチャーの機能強化により作業効率を向上し、Lightning Extension で最新の Lightning Experience 機能を使用して、Einstein Voice アシスタントで Einstein に文字どおり「ハロー!」と呼びかけます。

Salesforce CMS: 複数の多様なチャネル、CMS ホーム、および柔軟なレイアウト

Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku など、Salesforce 内外のさまざまなチャネルで Salesforce CMS コンテンツを再利用します。CMS ホームを使用すると、Salesforce CMS アプリケーションから CMS ワークスペースおよびエクスペリエンスビルダーに簡単に移動できます。また、柔軟なレイアウトにより、カスタムコンテンツページに最適なレイアウトを作成できます。

Salesforce Essentials: メール-to-ケースの機能強化、新しいサービス機能、改善されたモバイルアプリケーションおよびアプリケーション内サブスクリプション管理

Google アカウントをメール-to-ケースに直接接続して、サポートメールを Salesforce にすばやく取り込みます。ケースマージを使用してケースリストを整理します。チャットとメッセージングを使用する場合、組み込みチャットウィンドウのチャネルメニューを使用して、連絡方法のメニューを顧客に提供します。Salesforce モバイルアプリケーションには、Essentials のパーソナライズされたナビゲーションが反映され、最も使用頻度の高い情報が優先されます。

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein Voice アシスタントを使用すると、ユーザは声を使用して Salesforce データを会話形式で追加および更新できます。エージェントは Einstein のナレッジ記事のおすすめを使用して、ケースをより迅速に解決できます。予測する項目を作成することなく、条件ロジックに基づいてカスタム予測を構築します。

Sales: High Velocity Sales メールの分岐およびメールのスケジュール、ToDo のキューへの割り当て、Salesforce Billing の収益認識レポート

High Velocity Sales マネージャはメールエンゲージメントに基づいてセールスケイデンスを分岐でき、営業担当はメールが送信されるタイミングをスケジュールできます。ToDoをキューに割り当てて、営業担当がワークロードを共有できるようにします。Salesforce Billing の収益認識 API を使用して、セールスプロセスや財務プロセスのどのフェーズでも収益認識を報告できます。Einstein 商談スコアリングは Sales Cloud Einstein ライセンスなしで使用できます。コラボレーション売上予測は商談リストでのインライン編集をサポートするようになりました。営業担当は、メールの到着時間を指定することで、メールが開封される可能性を高めることができます。さらに、Pardot には Einstein 行動スコアリングのダッシュボードや Account-Based Marketing 分析アプリケーションテンプレートなど、新しい分析ツールが追加されています。

サービス:チャネルメニュー、Einstein 記事のおすすめ、ケースマージ、WhatsApp メッセージングチャネル、フィールドサービスのシフト

組み込みサービスチャネルメニューを Web サイトに追加して、顧客の好みのチャネルで顧客とつながります。Einstein 記事のおすすめを使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。ケースマージを使用して重複するケースを結合します。海外の顧客には WhatsApp を使用してメッセージを送信します。フィールドサービスのシフトを設定することで、通常のスケジュール外(休日や営業時間外など) の作業をスケジュールします (ベータ)。

Commerce: Salesforce 注文管理の概要

Salesforce 注文管理により、Salesforce Platform の機能を e コマースの世界で利用でき、さまざまなツールを使用して注文ライフサイクルのすべてのステップを管理できます。

Analytics:迅速なレポート編集、ダッシュボードビルダーの機能強化、直接データクエリ、Einstein Discovery の What-If 分析

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。Spring '20 Analytics の改善では、操作の簡略化と共に接続の増加および生産性の向上に焦点を当てています。レポートプレビューへのライブ更新のオン/オフを切り替え可能な新機能を使用して、レポートを迅速に作成します。ダッシュボードビルダーのコラボレーションバージョン管理、対象を絞ったファセット、インタラクションの構築は、すべてコードではなくクリックで完了できます。Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Einstein Discovery で予測モデルを構築し、what-if 分析を使用して考えられる将来の結果を調べます。

コミュニティ: コミュニティのレポートビルダー、ExperienceBundle、強化されたセキュリティ、チャネルメニュー

パートナーと顧客はコミュニティおよびポータルでレポートの作成と実行ができるようになりました。ExperienceBundle メタデータ型を使用すると、お気に入りの開発ツールを使用して、Lightning コミュニティの更新とリリースをプログラムですばやく実行できます。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安全に維持できます。Service Cloud のチャネルメニューを使用して、サービスエージェントがさまざまなチャネルで顧客に連絡できるようにします。Lightning コミュニティの利用者をプログラムで作成および変更します。

Chatter フィード: ケースフィードの絶対または相対タイムスタンプ

ケースフィードの投稿とコメントのタイムスタンプを表示する方法を選択します。

ファイル: Adobe Flash 表示のサポート終了

Chatter REST API のファイル変換を Adobe Flash から SVG に切り替えるための準備を行います。

モバイル: すべてのユーザのためのアップグレードされた環境

Spring '20 では、すべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。システム管理者とユーザは、拡張されたカスタマイズオプション、強力な Lightning 機能、改善されたパフォーマンスを利用できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は、Apple Wallet アクセスとテスト専用の新しいアプリケーションによってさらに向上しています。

Salesforce Sustainability Cloud: カーボンニュートラルを実現するための信頼できるプラットフォーム

二酸化炭素排出量に関する重要なインサイトを取得できます。Sustainability Cloud ではグローバルな排出係数を使用して温室効果ガス排出量を計算するため、組織のビジネス活動全体を通じたエネルギー使用量および温室効果ガス排出量データを収集、分類、分析することができます。また、Salesforce Lightning プラットフォームに基づいて構築されているため、コラボレーション、プロジェクト管理、報告を容易にするツールにアクセスできます。

Industries: より容易な設定、柔軟性の向上、より大きな影響

Salesforce の専門ソリューションは、ビジネス固有の要件のサポートに関してさらに改善されました。Financial Services Cloud では、流通業者をより明確に把握でき、住宅ローンを作成するための新しい API が提供されます。Health Cloud では、ケアプランの設定が容易になり、適切なケア提供者を見つけるためのオプションが追加されました。Consumer Goods Cloud は、フィールド営業担当者が影響を最大化し、在庫レベルを追跡するのに役立ちます。Manufacturing Cloud では、取引先マネージャに詳細な制御が与えられ、販売計画と取引先販売予測の可視性が改善されます。

myTrailhead: Trailmaker Content のデザインの刷新およびお客様が作成するサブドメイン

Trailmaker Content が刷新されました。お客様は、独自の myTrailhead サブドメインを設定できます。

カスタマイズ: Lightning フローの機能強化、グローバリゼーションの改善、Einstein の更新

Flow Builder、フロー管理、およびプロセスビルダーの機能強化により、フローとプロセスをより効率的に作成します。翻訳、通貨、国際的な日時をより簡単に管理できます。Einstein 予測ビルダーと Einstein Next Best Action の更新を使用して、予測とおすすめを作成、設定、および管理します。

セキュリティ、プライバシー、ID: ID 検証オプションの増加、[私のドメイン] の変更、プラットフォームイベントの暗号化

Apple ID、Face ID、または Touch ID を使用した認証を許可して、ユーザの認証オプションを増やすことができます。または、SMS による認証のみを許可してより厳格な要件を設定できます。接続アプリケーションを介した Salesforce API への外部ユーザアクセスを制限できます。[私のドメイン] の証明書と URL の形式が変更されます。また、Salesforce Event Monitoring ストリミングイベントを含むすべてのプラットフォームイベントを暗号化できます。

リリース: アップロードした変更セットと新しい変更セットコンポーネントをすぐに使用可能

アップロードした変更設定をすぐにリリースできます。新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Quip: 関連リスト、管理者インサイト、絞り込まれた Salesforce レポート、新しい Quip プロセスビルダーおよび Flow Builder アクション、簡素化された設定など

従来よりも迅速に Salesforce 組織を Quip に接続できます。絞り込まれたレポートを Quip に追加して、Salesforce レコードに埋め込んで動的に絞り込むことができます。プロセスビルダーと Flow Builder で新しい Quip アクションを使用してビジネスワークフローを自動化できます。更新された Salesforce リストライブアプリケーションを使用して、関連 Salesforce リストを表示して編集できます。

マーケティング: Datorama データレイク、Einstein メッセージングインサイト、Instagram モバイルストーリーの公開

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

重要な更新とセキュリティアラート

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。これらの更新は、Spring '20 に重要な更新コンソールで使用できます。[セキュリティアラート] ページの更新と、以前にリリース済みで、新しく適用された重要な更新も確認してください。

コンテンツへのスポットライト

Salesforce アプリケーション内コンテンツ、Lightning Experience への移行のヒント、新しい技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブ、Sustainability Cloud について説明します。Trailhead のモジュールとプロジェクトが追加され、手順動画が更新されました。 また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「既知の問題」のサイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み
検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握
Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望
IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースノートの変更
リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて
貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、Salesforce アプリケーション (モバイル)、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

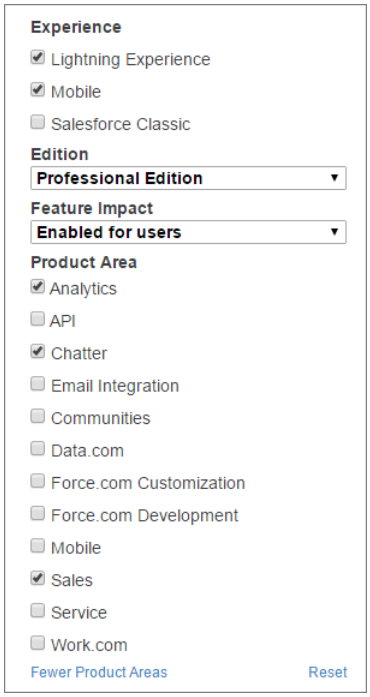
機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、右側にある [条件を表示] をクリックします。



絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択して URL をコピーし、その URL を任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、該当するリリースノートには最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- 新しい Service Cloud 機能は、*両方のデスクトップ環境*で使用可能であるため、リリースノートの [対象] セクションには「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能は、Lightning Experience でのみ使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能が Salesforce アプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
Salesforce 全体	
Lightning Experience の関連リストに 5 項目以上表示	拡張関連リストによる関連リストの強化 (正式リリース)
営業	
Email Deliverability Changes Not Tracked in Audit Log (監査ログでメール送信の変更が追跡されない)	送信メールアクセスレベルの変更の追跡 設定変更履歴でのより多くの変更の監視
Allow Task(s) to be assigned to a Queue (タスクをキューに割り当てられるようにする)	活動: ToDo をキューに割り当てて作業を効率的に共有
Inline Edit of Opportunities from the Forecast Tab ([販売予測] タブからの商談のインライン編集)	Lightning Experience で売上予測ページから複数の商談を更新
Configure Opportunity Team Related List in Lightning Experience (Lightning Experience での商談チームの関連リストの設定)	取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ
Product Filter in Lightning Experience - When Adding to Opportunity or Quote (Lightning Experience の商品条件 - 商談または見積に追加する場合)	Lightning Experience での検索条件を使用した商談商品検索の絞り込み *(部分的に実現)*
Opportunity Cloning Should Clone the Contact Roles Too (商談のコピーで取引先責任者の役割もコピーする) Lightning - Include Clone with Products Action on Opportunities (Lightning - 商談の [商品と共にコピー] アクションを含める) Cloning a Campaign Should Clone Campaign Member Status Options in Lightning (キャンペーンのコピーで Lightning のキャンペーンメンバーの状況オプションをコピーする)	商談またはキャンペーンの関連レコードを含めたコピー
Log an email set for Send Later in SalesforceIQ Inbox (SalesforceIQ Inbox で [後で送信] に設定されたメールの記録)	Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理 High Velocity Sales でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理
Allow Prospects to Opt Back In (見込み客に除外の取り消しを許可)	Enjoy More Control Over Prospect Resubscribe Messaging on Forms (フォームでの見込み客の再登録メッセージのより詳細な制御)
Allow Users to Disable Email Message Threading in the Inbox App for Android (ユーザへの Android 用 Inbox アプリケーションでのメールメッセージスレッド化の無効化の許可)	Android 用 Inbox で会話をスレッドにまとめずにメールを表示

IdeaExchange	実現したアイデア
Chatter	
Show exact date time of Chatter post or activity in Lightning Case Console feed (Lightning ケースコンソールフィードでの Chatter 投稿または活動の正確な日時の表示)	ケースフィード項目の日時スタンプの形式の設定
モバイル	
Path on Salesforce1 Not Showing Dependent Fields (Salesforce1 のパスで連動項目が表示されない)	モバイルデバイスでの連動選択リストによるパスの更新
Industries	
Add Edit and Clone functions to Action Plan Templates (アクションプランテンプレートへの編集機能およびコピー機能の追加)	ディープコピーを使用したアクションプランテンプレートのコピーの作成
カスタマイズ	
Save While Inside Screen Element of Flow Builder (Flow Builder での画面内要素での保存)	画面エディタを離れずに新しく作成した画面項目を参照
Support for sObject Collection Variables in Invocable Methods for Flows (フローの呼び出し可能なメソッドでの sObject コレクション変数のサポート)	複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成
Save-All-Fields Option in Fast Lookup in Flow (フローでの高速検索のすべての項目の保存オプション) Read into sObject Variable Directly in the Flow (フローでの sObject 変数への直接の読み取り) Flow Editor—Limit Selection of Object Fields to Those Actually Available (フローエディタ — 実際に使用可能な項目へのオブジェクト項目の選択の制限) Include a "Select All" Option for sObject Fields in Flow (フローの sObject 項目に「すべて選択」オプションを含める)	項目を選択せずに [レコードを取得] 要素を設定
開発	
Ability to Create 301 Redirects via API (API を使用して 301 リダイレクトを作成する機能)	Apex: 新規および変更された項目
Ability to Create a 301 Redirect from One URL to Another (1 つの URL から別の URL に 301 リダイレクトを作成する機能) (部分的に実現)	Apex: 新規および変更された項目

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は英語版ご覧ください。

2020 年 2 月 26 日

[JavaScript プロトタイプを凍結] セッション設定の削除 (ページ 538)

[JavaScript プロトタイプを凍結] 設定の削除に関するリリースノートが追加されました。

2020 年 2 月 19 日

Lightning Sync: NTLM 認証プロトコルを使用した Microsoft Exchange と Salesforce の接続

Salesforce カスタマーサポートに問い合わせなくても、NTLM を使用して Exchange と Salesforce を接続できるようになりました。また、2020 年 2 月 19 日以降、基本認証と NTLM が有効な場合、Lightning Sync の接続は基本認証に設定されます。Spring '20 以前の Lightning Sync では NTLM に設定されていました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

数値を変更するボタンが削除されたことが明確になるように `lightning:input` コンポーネントに対する変更が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

数値を変更するボタンが削除されたことが明確になるように `lightning-input` コンポーネントに対する変更が追加されました。

ダッシュボードデザイナの JSON の変更

より多くの方法でクエリのファセットを管理できるようにするための JSON の変更に関する情報が追加されました。

Winter '21 での従来のフォルダ共有の廃止 (ページ 278)

レポートおよびダッシュボードの従来のフォルダ共有の廃止を発表するリリースノートが追加されました。

追加費用なしで Einstein 予測ビルダーを試す

エディション情報が修正されました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境のサポートの変更

パイロットまたは Winter '20 で新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしたユーザのみが新しいナロービューのタブレット環境を使用できることが明記されました。

Analytics Web SDK を使用した読み込まれたアセットへの対応

ユーザが初回読み込み時と後続のリセット時の Analytics アセットの読み込みの終了をリスンして、必要に応じて対応するための `wave:assetLoaded` イベントが追加されました。

右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)

制限が明記されました。右から左へ記述される言語のサポートに関するリンク付きのヘルプページが更新され、Lightning Experience と Salesforce Classic の制限が要約されました。右から左へ記述される言語の検索の制限についての詳細が記載された新しいヘルプページへのリンクが追加されました。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが追加されました。

Tooling API

API バージョン 38.0 で FieldDefinition および EntityParticle オブジェクトに追加された項目に関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

CspTrustedSite オブジェクトが追加されました。

2020 年 2 月 12 日

機能が追加されたスクラッチ組織の作成

スクラッチ組織の新機能が多数追加されました。

レコードのホームページでのマクロの高速実行 (ページ 262)

マクロに含まれる送信アクション数に関係なく、マクロの完了後に 1 つの通知トーストが表示されることが明記されました。

Einstein Analytics Design を使用した独自の優れたアプリケーションの迅速な作成

顧客がアプリケーション設計の開始点として使用できる新しい Analytics 事前作成済みアプリケーションテンプレートが発表されました。

パッケージおよび変更セットへのユーザ拡張メタデータ (XMD) の追加

パッケージ化されたユーザ拡張メタデータ (XMD) は、移行先組織の UI 経由では編集できないことが明記されました。

組み込みダッシュボードからレコードを開く方法の管理

ダッシュボードウィジェットからレコードを開く方法を制御する設定に関する情報が追加されました。

簡略化された Outlook インテグレーションの設定

このリリースノートが削除されました。現時点では、簡略化された Outlook の設定は非公開パイロットとして使用できます。

Einstein ボット: ボットの [概要] ページのドロップダウン項目の動作を変更

ボットの [概要] ページの [カスタムチャットボットユーザ] 項目と [リリース] 項目の動作が、デフォルトですべて表示されることから入力予測検索に変更されたことが明記されました。

新しいボタンを使用した既存のケアプランへのテンプレートの追加の迅速化

Salesforce Classic ではなく Lightning Experience について説明するようにスクリーンショットと「方法」セクションが更新されました。

リリース: アップロードした変更セットをすぐにリリース可能

アップロードした変更セットが使用可能になるまでにかかる時間の短縮に関する情報が追加されました。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

v48 の新規および変更された CLI コマンドが追加されました。

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備 (ページ 81)

セキュアでない (HTTP) ブラウザアクセスでは Cookie が機能しない場所のリストに、Outlook および Gmail インテグレーションが追加されました。

Salesforce Classic Canvas 接続アプリケーションが HTTPS で機能することを確認し、HTTPS を使用するように URL を更新する指示が追加されました。

ファイル: Adobe Flash 表示のサポート終了

Winter '21 リリースで Adobe Flash サポートファイルの表示を廃止する予定が追加されました。

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した業績の促進 (ページ 416)

スクリーンショットが更新され、「方法」セクションのアドオンライセンスの詳細が修正されました。

2020 年 2 月 5 日

Lightning Experience での検索条件を使用した商談商品検索の絞り込み (ページ 143)

クイック検索条件に表示される項目を示す注記が修正されました。検索条件には、複数行エディタレイアウトではなく価格表エントリ検索レイアウトに含まれる商品オブジェクト項目が表示されます。

ケース関連レコードコンポーネントでのインライン編集によるケース所有者の変更 (ページ 259)

エージェントがケース関連レコードコンポーネントの [ケース所有者] 項目を更新したときの動作の変更を説明するリリースノートが追加されました。

Einstein Analytics for Manufacturing を使用した売上予測の強化と商品需要に関するより深いインサイトの取得

売上予測を改善し、Manufacturing Cloud ユーザによる需要予測をサポートする新しいダッシュボードが発表されました。

コンテンツへのスポットライト

最新のコンテンツの改善 (アプリケーション内コンテンツ、Lightning Experience の切り替えのヒント、新しい技術要件、パフォーマンスのベストプラクティスハブ、Sustainability Cloud など) に関する情報が追加されました。また、Trailhead モジュール、プロジェクト、更新された動画も追加されました。

AppExchange の Salesforce コンサルタントの詳細なレビューによる確実な採用

AppExchange の新しい Salesforce コンサルタントレビュー環境を発表するリリースノートが追加されました。

削除: `@namespaceAccessible` を使用した同じ名前空間の Visualforce ページ間でのコードの共有

この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が完了するまでは削除します。

見積ドキュメントをプレビューするための新しい権限

見積の [ドキュメントをプレビュー] ボタンを使用するのに必要な新しい権限に関するリリースノートが追加されました。

従来の Inbox: 取引先責任者補足情報の廃止予定

従来の Inbox アプリケーションの取引先責任者補足情報の廃止に関するリリースノートが追加されました。

使用できる API コールの増加

この変更が Developer Edition には適用されないことが明記されました。

メタデータ API

WaveXmdRecordDisplayLookup メタデータ型の新しい `sortIndex` 項目に関する情報が追加されました。

ユーザごとに一度に最大 5 件のレポートのエクスポート

ユーザごとのレポートの同時エクスポート制限 (5 件) を発表するリリースノートが追加されました。Lightning Experience からのフォーマット済みレポートのエクスポートは、この制限にカウントされません。

ユーザ設定の管理に関する変更

ユーザロールへのアクセス権の変更は Spring '20 リリースから削除されたため、この変更に関する情報が削除されました。

リンク共有で同僚と同じ情報を共有
共有リンクが Lightning URL であることが明記されました。

Jest テストで作成されたスナップショットの属性値の更新
スナップショット属性値の動作とテストの失敗の修正方法に関するリリースノートが追加されました。

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備
コミュニティ、ポータル、サイトに関する情報が追加されました。

レンズおよびダッシュボードでの数値形式のカスタマイズ
CSV のダウンロードでは指定されたカスタム区切り文字が考慮されないことが明記されました。

プロセスおよびフローの数式からの有効な HTML 出力の生成 (重要な更新、廃止)
この重要な更新は廃止されました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できないモバイルカード
モバイルカードが Lightning コンポーネントによって置き換えられたことを発表するリリースノートが追加されました。

1 つのフローを使用したケアプランの作成
既存のカスタムトリガとの潜在的な競合に関する注意事項が追加されました。また、この競合の解決策が記載されたナレッジ記事への関連トピックのリンクも追加されました。

2020 年 29 月 1 日

Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部でのみ使用) 項目の削除
Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部でのみ使用) 項目の API 参照名 (UserPermissionsMobileUser) が追加されました。

2020 年 1 月 31 日に廃止される予定の FullContact コネクタ
FullContact コネクタの廃止が発表されました。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)
この重要な更新の適用は Summer '20 に延期されました。

Customer Lifecycle Analytics を使用した顧客アンケートデータのアクション可能なインテリジェンスへの変換
新しい Customer Lifecycle Analytics アプリケーションが発表されました。

トピックコンポーネントから削除された ID 項目
動的に生成される ID 項目がトピックコンポーネントから削除されました。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)
セキュリティアラートの適用日が明記されました。

本番組織と Sandbox 組織での MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ) **(ページ 562)**
本番 (Prod) 組織の Tooling API MetadataComponentDependency (Dependency API) の可用性が発表されました。

2020 年 22 月 1 日

お客様のご要望
当社が配信したアイデアが追加されました。

Sales Cloud Einstein: データ要件の簡素化
正しい期間 (2 年) で Einstein 商談スコアリングの例が更新されました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
検索可能になったオブジェクトに関する情報を追加しました。

コラボレーション売上予測と会計年度の設定に関する権限の変更
メタデータ API の型に関する情報が追加されました。

セルフ登録およびユーザの作成での標準外部プロファイルの使用禁止 (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)
force.com および従来のポータルユーザの設定の有効化に関する情報が追加されました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト
Health Cloud オブジェクト `CarePlanTemplateGoal__c` および `CarePlanTemplateTask__c` の新しい入力規則に関する情報が追加されました。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新、延期) (ページ 541)
Spring '18 より前に作成された組織の動作が明記されました。

顧客の同意設定の追跡
関係者の同意オブジェクトに関するリリースノートが追加されました。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)
Apex による共有管理に関する情報が追加されました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ
機能の詳細な関連リリースノートへのインラインリンクが追加されました (使用可能な場合)。

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化
Next Best Action のおすすめの説明を暗号化できるようになったことを発表するリリースノートが追加されました。

モバイルアプリケーションのグローバルアクションの機能強化
「Salesforce モバイルおよび Lightning Experience アクション」が「Salesforce Classic のパブリッシャーのクイックアクション」に変更されました。

Einstein 記事のおすすめを使用したエージェントによるケースの迅速な解決 (正式リリース)
Einstein 記事のおすすめは英語で記述された記事でのみ使用できることと、400 以上の記事の知識ベースが必要であることが明記されました。

2020 年 15 月 1 日

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
LegalEntity オブジェクトの新しいリリースノートエントリが追加されました。

メタデータ API
新しい EmbeddedServiceMenuSettings 型の説明が追加されました。

右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)
コミュニティの右から左への記述のサポートに関するヘルプの詳細が追加されました。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (重要な更新) (ページ 543)
新しい重要な更新が追加されました。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新、延期) (ページ 541)
この重要な更新は延期されました。

Einstein 紹介スコアリングを使用したパイプラインの微調整 (正式リリース)
Einstein の上位の紹介コンポーネントを使用するために必要な権限セットに関する情報が追加されました。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新
自動化された UI テストが失敗する可能性があることと、失敗したテストを修正するためのヘルプの場所をユーザに通知します。

Einstein ケース分類の無料トライアル
Einstein ケース分類に関する新しいリリースノートが追加されました。

関連リストレコードのプレビューの表示 (ベータ)
関連リストのプレビュー動作を説明するリリースノートが追加されました。

セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)
必須の HTTPS 接続に関するリリースノートが追加されました。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド
Spring '20 の準備状況チェックが更新されたことの発表が追加されました。

2020 年 8 月 1 日

Financial Services Cloud の新しいオブジェクトおよび変更されたオブジェクト
Claim オブジェクトの RenewalChannel 項目と InsurancePolicy オブジェクトの FnolChannel 項目が削除ではなく廃止されたことが明確になるように 2 つのリリースノートエントリが更新されました。

権限セットグループ: 権限付与の柔軟性の向上 (正式リリース) (ページ 479)
変更と機能が Salesforce Classic に適用されることが記載されるように権限セットグループエントリが更新されました。

2020 年 1 月 1 日

右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)
Lightning の右から左への記述 (RTL) 言語サポートが Financial Service Cloud で正式リリースされたことが明記されました (ただしヘブライ語のサポートは引き続きベータ)。

ケースマージを使用した重複するケースの結合 (正式リリース)
論理削除の期間が 15 日に変更され、マージされたケースの削除時と保存時の動作の比較が明記されました。[ヘルプドキュメント]:「オムニチャネルキュー内のケースはマージできません」に関する制限が「オムニチャネルキューで待機しているかエージェントに割り当てられた重複ケースは、状況が[割り当て済み]または [オープン済み] の場合、マージできます」に変更されました。

高度な最適化を使用したスマートなスケジュールの構築 (正式リリース)
シフトの対応可能状況(ベータ)、連続作業(ベータ)、および拡張一致作業ルールを、高度な最適化でサポートされる機能のリストに追加しました。

別の予定の直後の予定のスケジュール (ベータ)
連動関係名を `[Immediately Follow (すぐ後に続く)]` に更新しました。

複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成
enforceSingleMember 属性へのすべての参照をコードから削除しました。

より効率的なレコード更新処理を使用して制限に達する回数を減少
これが (フローのみではなく) プロセスビルダーとフローの両方に適用されることをこのリリースノートで強調しました。

メタデータ API
CaseSettings メタデータ API 種別の 6 個の新規項目の説明を追加しました。

イベント監視ログを使用して Apex トリガで消費される CPU 時間を追跡
Apex トリガイベントの CPU_TIME 項目が入力されるようになったことを発表するリリースノートを追加しました。

TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)
組織の作成時に機能を有効にしたスクラッチ組織でのみ機能を使用できることに関する情報を追加しました。

他の検証方法を使用するユーザではメールによる ID 検証を防止 (ページ 639)
SecuritySettings メタデータ型の SessionSettings サブタイプの `canConfirmIdentityBySmsOnly` 設定の説明を追加しました。

組織をデータソースとしてクロスクラウドアプリケーションに接続することをユーザに許可
「Customer 360 Data Manager への組織の接続」権限の説明を追加しました。

キューに入っていないエージェントへのチャットの直接転送
オムニチャネルルーティングの制限がなくなったことを発表するリリースノートを追加しました。

拡張関連リストによる関連リストの強化 (正式リリース)
拡張関連リストが正式リリースされたことを発表するリリースノートを追加しました。

フローを使用した履行および支払収集の自動化
Salesforce 注文管理で提供されている 3 つすべての管理フローとプロセスがテンプレートであり、そのテンプレートをコピーしてビジネス要件に合わせてカスタマイズできることを明記しました。

Tooling API
Flow オブジェクトの RunInMode 項目を追加しました。

メタデータ API
QuickAction メタデータ API 種別の `standardLabel` 項目の新しい列挙値に関する情報を追加しました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーション: メジャーアップグレード、ナビゲーションと検索の改善
Salesforce モバイルアプリケーションの新機能の可用性がより正確に反映されるように、「モバイル」セクション全体の可用性の記述が更新されました。Lightning ベースのカスタマイズオプションは、Spring '20 が組織にロールアウトされたときに使用できるようになります。App Store または Google Play で入手できる Salesforce モバイルアプリケーションの最新バージョンを実行しているユーザには、改善されたナビゲーションおよび Lightning 機能が表示されます。Einstein Voice アシスタント (ベータ)、おすすめの結果の検索、Einstein Analytics

ナビゲーション項目などの他のすべての変更は、2020 年 2 月 17 日の週のモバイルアプリケーションの更新で使用できるようになります。

作業業務量データモデルの廃止
作業業務量データモデルの削除を発表するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
作業業務量データモデルが削除されたために使用できなくなったオブジェクトのリストが追加されました。

2019 年 12 月 16 日

Salesforce Spring '20 リリースノート
公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **Trailblazer Community** — Release Readiness Trailblazers グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ (#Winter20Feedback など) を使用してください。
- フィードバックフォーム — Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの新機能

- リリース概要デッキ (ROD)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- リリースマトリックス。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- Spring '20 プレリリースのサインアップ。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- Spring '20 リリース Web サイト。新しい機能を確認します。
- 「Spring '20 リリースの特長」モジュール。Spring '20 Trailhead バッジを取得します。

- Release in a Box。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- リリースのマイルストン。リリースの重要な日付を確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。
- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- カスタマーサクセスのイベントカレンダー。リリースの概要の Web セミナーに登録したり、Web セミナーの録画にアクセスしたりします。
- Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。
- Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)。メールに登録してリリースの準備を整えます。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '20 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザ	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザ	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Analytics でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

拡張された Lightning Experience 設定コンバータを使用して Lightning Experience の準備を整えて、カスタマイズ可能なアプリケーション内プロンプトを使用してユーザをガイドします。1 回のクリックで Lightning Experience のごみ箱を空にして、削除済みのレポートとダッシュボードを管理します。アプリケーションランチャーの機能強化により作業効率を向上し、Lightning Extension で最新の Lightning Experience 機能を使用して、Einstein Voice アシスタントで Einstein に文字どおり「ハロー!」と呼びかけます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience の移行: 重要な更新、設定コンバータ、準備状況チェック				
Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート				
有効化後の Lightning Experience の恒久化		✅		
Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス		✅		
Lightning Experience 設定コンバータ: 新しい [ホーム] タブ、JavaScript アラートの変換				
すべての Lightning Experience 設定コンバータタブを 1 か所で管理 (ベータ)		✅		
JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換		✅		
契約および ToDo オブジェクトの JavaScript ボタンの変換		✅		
準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド		✅		
Lightning Experience エンゲージメント: アプリケーション内ガイダンスのプロンプト				
アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
プロンプトの作成時にプロファイルを指定			✅	
ドッキングプロンプトへの動画の追加			✅	
プロンプトの表示ラベルを維持するためのトランスレーションワークベンチの使用			✅	
ユーザへのプロンプトの表示タイミングのカスタマイズ			✅	
ユーザインターフェースのその他の変更: プロンプト	✅			
リリースの遅延: Salesforce へのフィードバックの提供 (リリース遅延)	✅			
Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備	✅			
1 ステップでごみ箱を空にする		✅		
ごみ箱内のレポートとダッシュボードへのアクセス	✅			
アプリケーションランチャーの機能強化による効率の向上	✅			
Chrome の Lightning Extension での新しい Lightning Experience 機能の使用 (正式リリース)	✅			
Trailblazer.me を使用した Salesforce 関連サイトでのログインおよびプロファイルの簡素化	✅			
検索				
取引先責任者または商談を検索するときの関連する取引先の参照	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい時間に関する条件を使用したレコードの条件設定済みリストの作成 (ベータ)	✅			
関連リストレコードのプレビューの表示 (ベータ)	✅			
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✅			
Salesforce アンケート: カスタマイズ可能な参加者ジャーニー				
前の質問からの回答の挿入	✅			
画像によるアンケートの装飾	✅			
色分けされたスケールによるネットプロモータースコア® の改善	✅			
参加者の回答に基づいた質問の表示	✅			
参加者の回答でパスを決定	✅			
1回少ないクリックで次のページへ移動	✅			
ユーザエクスペリエンスの機能強化	✅			
質問種別名の変更	✅			
Customer Lifecycle Analytics を使用した顧客アンケートデータのアクション可能なインテリジェンスへの変換			✅	
アンケートメールのブランド設定に関する権限の変更		✅		
Lightning Scheduler: ゲストユーザのスケジュール、Lightning Scheduler 用 Chronos、簡素化された設定				
ゲストユーザによるインバウンド予定のスケジュール			✅	
Lightning Scheduler 設定アシスタントによる設定の簡素化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Scheduler と Einstein ボットの組み合わせ			✅	
スキル照合の適用		✅		
割り当て済みリソースからサービス予定へのアクセス		✅		
Lightning Scheduler API コールの活用		✅		
デフォルト項目値を含むレコードの作成ページへの移動		✅		
拡張関連リストによる関連リストの強化 (正式リリース)			✅	
セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)			✅	
数式項目でハイパーリンクを正しく開く (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	

Salesforce CMS

Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku など、Salesforce 内外のさまざまなチャネルで Salesforce CMS コンテンツを再利用します。CMS ホームを使用すると、Salesforce CMS アプリケーションから CMS ワークスペースおよびエクスペリエンスビルダーに簡単に移動できます。また、柔軟なレイアウトにより、カスタムコンテンツページに最適なレイアウトを作成できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
複数のチャネルおよびサイトへの魅力的なコンテンツの配信		✅		
CMS ホームからすべての CMS にアクセス		✅		
B2C Commerce ページデザイナによる Salesforce CMS コンテンツの使用		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
他の内部および外部エンドポイントへのチャンネルコンテンツ		✅		
CMSワークスペースおよびチャネルの管理		✅		
柔軟なレイアウトを使用した CMS コンテンツの強化		✅		
Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツの削除		✅		
date、datetime、および URL ノードを使用したカスタムコンテンツタイプの強化		✅		
ユーザが必要な CMS コンテンツを見つけやすくする		✅		
Salesforce CMS ワークスペースに動画をさらに追加	✅			

Essentials Edition

Google アカウントをメール-to-ケースに直接接続して、サポートメールを Salesforce にすばやく取り込みます。ケースマージを使用してケースリストを整理します。チャットとメッセージングを使用する場合、組み込みチャットウィンドウのチャネルメニューを使用して、連絡方法のメニューを顧客に提供します。Salesforce モバイルアプリケーションには、Essentials のパーソナライズされたナビゲーションが反映され、最も使用頻度の高い情報が優先されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
機能強化されたメール-to-ケースによる迅速な接続			✅	
重複するケースのマージによるサポートのToDoの明確化(正式リリース)	✅			
新しい Salesforce モバイルアプリケーションであらゆる場所から中小企業を経営				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
顧客への会話チャネルのメニューの提供 (正式リリース)			✅	

セールス

High Velocity Sales マネージャはメールエンゲージメントに基づいてセールスケイデンスを分岐でき、営業担当はメールが送信されるタイミングをスケジュールできます。ToDo をキューに割り当てて、営業担当がワークロードを共有できるようにします。Salesforce Billing の収益認識 API を使用して、セールスプロセスや財務プロセスのどのフェーズでも収益認識を報告できます。Einstein 商談スコアリングは Sales Cloud Einstein ライセンスなしで使用できます。コラボレーション売上予測は商談リストでのインライン編集をサポートするようになりました。営業担当は、メールの到着時間を指定することで、メールが開封される可能性を高めることができます。さらに、Pardot には Einstein 行動スコアリングのダッシュボードや Account-Based Marketing 分析アプリケーションテンプレートなど、新しい分析ツールが追加されています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
High Velocity Sales				
セールスケイデンス				
メールエンゲージメントに基づくアウトリーチのカスタマイズ	✅			
セールスケイデンスからの自動的なメールの送信	✅			
リンクされたセールスケイデンスのプレビュー	✅			
セールスケイデンス作成時の通話結果グルーピングの表示	✅			
High Velocity Sales でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理			✅	
High Velocity Sales レポート: リードパフォーマンスダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善				
チームによるリードの作業のペースの確認 (ベータ)	✅			
セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
営業担当のセールスケイデンスから週末を除外			✅	
API を使用したセールスケイデンスの調査		✅		
作業キューでの詳細の表示	✅			
新しい場所での High Velocity Sales の Inbox 機能の有効化			✅	
営業ユーザによる活動タイムラインのセールスケイデンスステップの絞り込み	✅			
組み込みの通話ソリューションなしでセールスケイデンスを進行	✅			
Sales Cloud Einstein	✅			
	中核的なセールス機能			
商談				
商談スコアで適切な商談に集中 (リリース遅延)			✅	
Lightning Experience での検索条件を使用した商談商品検索の絞り込み	✅			
コラボレーション売上予測				
Lightning Experience で売上予測ページから複数の商談を更新	✅			
テリトリー売上予測のオプションの追加			✅	
エンタープライズテリトリー管理				
テリトリー詳細による取引先レポートの拡張	✅			
テリトリー売上予測種別の追加			✅	
取引先責任者				
取引先責任者の役割のプロセスを自動化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience での取引先条件を使用したリストメール用の取引先責任者の検索	✅			
リード			✅	
価格表エントリ	✅			
パス			✅	
中核的なセールス機能のその他の変更				
商談またはキャンペーンの関連レコードを含めたコピー			✅	
取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ			✅	
エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新、適用済み)			✅	
カスタマイザブル売上予測の廃止		✅		
元のテリトリー管理の廃止		✅		
コラボレーション売上予測と会計年度の設定に関する権限の変更		✅		
元のテリトリー管理に関する権限の変更		✅		
生産性機能				
メール操作環境				
Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理			✅	
ドラフトを使用したリストメールの仕上げ	✅			
Lightning Experience で取引先の条件によってリストメールの取引先責任者をすばやく特定	✅			
Professional Edition でのコンプライアンス BCC メールの有効化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
拡張メールリレーの設定 (リリース遅延)		✅		
Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備		✅		
送信メールアクセスレベルの変更の追跡		✅		
メール認証機関リストの標準化		✅		
メールテンプレート				
問題のないマージ項目をより簡単に作成		✅		
テンプレートホームページからのメールテンプレートの管理		✅		
活動:ToDo をキューに割り当てて作業を効率的に共有			✅	
Einstein 活動キャプチャ				
メールスレッドでのすべての会話の確認	✅			
Einstein 活動キャプチャユーザの設定の新しい場所	✅			
Microsoft Exchange エンドポイントへの Salesforce の接続			✅	
Salesforce Inbox モバイル:Inbox からのスマートな営業	✅			
従来の Inbox アプリケーション				
メモ	✅			
カレンダー				
これまで以上にすばやく行動の詳細を表示	✅			
API からのオブジェクトカレンダーの作成		✅		
Lightning ニュース	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Gmail™ インテグレーション				
Gmail インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握	✅			
Gmail インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類	✅			
Gmail インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化	✅			
High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信	✅			
新しい場所での Gmail インテグレーションの Inbox 機能の有効化	✅			
Microsoft® とのインテグレーション				
Outlook® インテグレーション				
Outlook インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握	✅			
Outlook インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類	✅			
Outlook インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化	✅			
High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信	✅			
新しい場所での Salesforce Inbox 機能の有効化	✅			
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				
NTLM 認証プロトコルを使用した Microsoft Exchange と Salesforce の接続				✅
Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定の変更			✅	
Salesforce for Outlook			✅	
Salesforce CPQ と Salesforce Billing				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CPQ				
エバーグリーンサブスクリプションによる使用量ベースの商品注文	✅			
コンフィギュレータの価格ルールの改善による機能強化	✅			
コンフィギュレータでのルールの編集の効率的な適用	✅			
価格アクション数式でのパーセント値のロジックの更新	✅			
デフォルトでのバンドルの展開または折りたたみ			✅	
見積品目の消費レートの手動編集の有効化			✅	
管理パッケージライセンスから権限セットライセンスへの移行			✅	
過去の日付にさかのぼって有効になる修正の作成の回避				✅
見積ドキュメントをプレビューするための新しい権限	✅			
Salesforce Billing				
あらゆる時点の収益の認識	✅			
カスタム日付範囲の財務期間の作成	✅			
マイナスの請求書品目の変換の自動化	✅			
ユーザが Billing Visualforce ページにアクセスできなくなるバグの修正				
		Pardot		
行動スコアリングを決定する要素の探索			✅	
Einstein Discovery 予測を使用した取引先ベースのマーケティング戦略の強化 (パイロット)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リードや取引先責任者でエンゲージメント履歴データを探索			✅	
キャンペーンレコードでの最もエンゲージしている取引先の確認			✅	
リストメールレコードでのエンゲージメントアクティビティの表示	✅			
取引先とキャンペーンの間のリレーションの明示			✅	
B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットの変更	✅			
従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止				
2020 年 1 月 31 日に廃止される予定の FullContact コネクタ	✅			
Sales Cloud のその他の変更				
Data.com			✅	

サービス

組み込みサービスチャネルメニューをWebサイトに追加して、顧客の好みのチャネルで顧客とつながります。Einstein記事のおすすめを使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。ケースマージを使用して重複するケースを結合します。海外の顧客には WhatsApp を使用してメッセージを送信します。フィールドサービスのシフトを設定することで、通常のスケジュール外(休日や営業時間外など)の作業をスケジュールします (ベータ)。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein for Service				
Einstein記事のおすすめ(正式リリース)			✅	
Einstein 返信のおすすめ (パイロット)				✅
Einstein ボット				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
条件付きメッセージングを使用したカスタマイズされたチャットボット環境の作成	✅			
会話の修正を使用したエラーの適切な処理	✅			
アップグレードされたモデル管理ダッシュボードを使用したボットの迅速なトレーニング	✅			
詳細な会話ログによるボットの改善	✅			
エージェントの対応可能状況を含むSMSを介したスマート転送の作成	✅			
チャットボット入力インジケータを使用した顧客エンゲージメントの改善	✅			
WhatsApp: Einstein ボットで使用可能	✅			
Einstein ボット: その他のボットの更新	✅			
Einstein ケース分類				
区分とサンプルデータを使用したEinstein 項目値予測の改善			✅	
新しい設定ページ環境を使用した複数のモデルの管理			✅	
データの増加による予測の改善			✅	
Einstein ケース分類の無料トライアル		✅		
フィールドサービス				
臨時シフトを使用した Field Service Scheduling の柔軟性の確保 (ベータ)				✅
別の予定の直後の予定のスケジュール (ベータ)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
高度な最適化を使用したスマートなスケジュールの構築 (正式リリース)		✅		
最低限の資格を持つリソースまたは最も高いスキルを持つリソースへの作業の割り当て		✅		
状態チェックによる Field Service のウェルネスの改善 (正式リリース)		✅		
メンテナンス計画から生成された作業指示の把握			✅	
作業業務量データモデルの廃止				
Field Service Mobile アプリケーション				
改善されたオフラインプライミング UI を使用した最新情報の入手			✅	
セキュリティ属性を使用した機密データの保護			✅	
モバイルアプリケーションのグローバルアクションの機能強化			✅	
Android でのサービスレポートフローの実行			✅	
		チャネル		
Messaging				
米国のショートコードを使用してより多くの顧客にすばやくリーチ				✅
WhatsApp を使用した顧客のサポート (正式リリース)			✅	
同意管理による準拠		✅		
さらに多くのレコードタイプから会話を開始	✅			
メッセージングの一意の機密データルールの作成			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イタリアでのSMSのメッセージングサポートの終了	✅			
モバイルアプリケーション用埋め込みサービス	✅			
Web 用埋め込みサービス				
チャネルメニューの導入 (正式リリース)			✅	
コードスニペットでの表示ラベルの言語の設定			✅	
組み込みチャットの読み込みの高速化		✅		
Webチャットのモバイルアクセシビリティの改善			✅	
Lightning Web コンポーネントを使用したチャットのカスタマイズ			✅	
ナレッジ				
記事バージョンの比較による変更内容の確認 (ベータ)			✅	
チャットおよびメッセージングでの記事へのリンクにより知識を広める			✅	
挿入した記事での項目の表示ラベルの表示または非表示、および関連ファイルのスキップ			✅	
Google Chrome でのリッチテキスト項目内の画像のサイズ変更	✅			
ドラフトおよびドラフト翻訳の添付ファイルの制御	✅			
記事に添付するファイルのデフォルトのアクセス権の設定			✅	
より多くなったデータカテゴリを使用した記事の検索および整理				✅
ルーティング				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Omni-Channel Supervisor の検索条件の保持	✅			
作業スペースの確保 — 作業を受け入れるとオムニチャネルウィジェットが最小化			✅	
キューに入っていないエージェントへのチャットの直接転送	✅			
ケース管理				
ケース				
ケースマージを使用した重複するケースの結合 (正式リリース)			✅	
ケースフィードのタイムスタンプの表示方法のカスタマイズ			✅	
Lightning Experience でケースのフロート表示を使用してリストビューからケースの詳細を表示および編集	✅			
クローズケースの状況項目を表示するか非表示にするかを選択			✅	
ケースのエスカレーションマーカーを使用した時間の節約	✅			
Lightning Experience でのケースレコードホームページからのフォロワーの表示	✅			
ケースフィードメールへのコードサンプルの挿入	✅			
ケース関連レコードコンポーネントでのインライン編集によるケース所有者の変更	✅			
生産性				
Lightning Experience での一括マクロを使用した繰り返しタスクの自動化			✅	
レコードのホームページでのマクロの高速実行	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アクション&おすすめの [履歴] タブでの状況によるアクションの絞り込み	✅			
アクション&おすすめリリースを必須にする (重要な更新、適用済み)	✅			

コマース

Salesforce 注文管理により、Salesforce Platform の機能を e コマースの世界で利用でき、さまざまなツールを使用して注文ライフサイクルのすべてのステップを管理できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce 注文管理: 注文の大規模な管理、履行、サービス (正式リリース)				
注文管理コンソールを使用した効率の改善	✅			
単一のビューの注文履歴による注文管理の簡素化	✅			
フローを使用した履行および支払収集の自動化	✅			
コマースとサービスの接続	✅			
エンドツーエンドの自動化のためのサプライチェーンパートナーとの統合	✅			

Analytics

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。Spring '20 Analytics の改善では、操作の簡略化と共に接続の増加および生産性の向上に焦点を当てています。レポートプレビューへのライブ更新のオン/オフを切り替え可能な新機能を使用して、レポートを迅速に作成します。ダッシュボードビルダーのコラボレーションバージョン管理、対象を絞ったファセット、インタラクションの構築は、すべてコードではなくクリックで完了できます。Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Einstein Discovery で予測モデルを構築し、what-if 分析を使用して考えられる将来の結果を調べます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
レポートプレビューの自動更新をオフにしてレポートの編集を迅速化 (正式リリース)	✅			
項目間の検索条件を使用した項目の比較によるレポートの絞り込み (正式リリース)	✅			
レポート結果での値のユニーク数 (正式リリース)	✅			
フォーマット済みレポートのエクスポートからの社外秘情報免責事項の除外		✅		
右から左へ記述される言語でのレポートおよびダッシュボードの操作 (正式リリース)	✅			
ユーザごとに一度に最大 5 件のレポートのエクスポート		✅		
Winter '21 での従来のフォルダ共有の廃止			✅	
Einstein Analytics				
データインテグレーション				
データセット、レンズ、ダッシュボード、ストーリーデータの取得元の視覚化			✅	
Einstein Analytics Plus ライセンスを使用した 10 倍多いデータの分析		✅		
Mulesoft で接続されたデータソースからの同期		✅		
Mulesoft で接続された SAP SuccessFactors からのデータの同期		✅		
Analytics への Customer 360 グローバルプロファイルデータの取り込み (ベータ)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA のデータへの接続 [パイロット]				✅
専用コネクタを使用した外部 Salesforce オブジェクトデータへの接続 (パイロット)		✅		
Google BigQuery 標準 SQL データの同期		✅		
OAuth 2.0 認証を使用した Marketing Cloud データの同期		✅		
ローカルオブジェクトのデータ同期のより詳細なスケジュール		✅		
外部接続から同期されているデータの絞り込み		✅		
Microsoft Azure SQL データベースコネクタと Netsuite コネクタの新しい制限		✅		
FIPS 140-2 検証済み暗号化組織の新しいコネクタ同期制限		✅		
より多くのユーザのデータセットの行レベルアクセス権の自動付与		✅		
保存できるデータフローの増加		✅		
Sandbox 組織および Developer Edition 組織でのスケジュールの自動削除の準備		✅		
稼働前確認を使用して Einstein Analytics を有効化するときに最新情報を把握		✅		
接続された RDS および Aurora システムからの現在または新しい Amazon SSL/TLS 証明書の使用		✅		
事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Analytics Design を使用した独自の優れたアプリケーションの迅速な作成		✅		
Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した小売業の業績の促進			✅	
Salesforce アンケート用の Einstein Analytics を使用したアンケートデータに関するインサイトの迅速な取得			✅	
管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法		✅		
Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の信頼性向上		✅		
アプリケーションの構築				
Direct Data によるデータセットを使用しない Salesforce データの探索		✅		
1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (ベータ)	✅			
基準およびグループセレクタでの項目の簡単な識別	✅			
バインドからインタラクションへの名称変更	✅			
高度なインタラクションエディタを使用した簡単なインスタンスの作成	✅			
コードを使用しないグラフの動的基準線の作成	✅			
コードを使用しない対象を絞ったファセットの指定	✅			
組み込みダッシュボードからレコードを開く方法の管理			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ウィジェットカスタムオンボーディングへの URL の追加		✅		
更新された Einstein Analytics レコードアクションの確認	✅			
テーブルへの総計および小計の表示	✅			
レンズおよびダッシュボードでの数値形式のカスタマイズ	✅			
グラフおよびウィジェットでの合理化された数値の動作	✅			
パッケージおよび変更セットへのユーザ拡張メタデータ (XMD) の追加	✅			
コンパクトフォーム 2.0 への準拠 (ベータ)		✅		
公開者機能を使用したバックグラウンドでの新しいバージョンのダッシュボードに関するコラボレーション (正式リリース)	✅			
Analytics テンプレートでの複数のデータフローとのデータインテグレーションのきめ細かな制御		✅		
コネクタを Analytics テンプレートに追加することによる複数のソースからアプリケーションへのデータのインポート		✅		
Lightning Experience の任意の場所での JSON コンテンツの変換		✅		
Analytics Web SDK を使用した読み込まれたアセットへの対応		✅		
ダッシュボードデザイナの JSON の変更		✅		
Einstein Discovery				
外部データを使用したライブ予測スコアリングの強化		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
[何が起きる可能性があるか]インサイトを使用した将来の結果のシミュレーション		✅		
ストーリーの変更の追跡		✅		
3つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)				✅
ロジスティックモデルのスマート機能選択		✅		
ストーリーを作成する前の主要な要因の識別		✅		
Einstein Discovery で処理可能なデータの増加 (パイロット)				✅
Salesforce オブジェクトを使用しないモデルのリリース		✅		
インサイトへのすばやいドリルダウン		✅		
Einstein Discovery Classic の廃止		✅		
すべてのユーザのための Analytics				
Einstein Analytics ウォッチリストを使用した予定通りの進行 (ベータ)	✅			
複数の受信者へのメール通知	✅			
登録のプレビューとカスタマイズ (ベータ)			✅	
Analytics Studio での学習の Trailhead バッジの獲得	✅			
モバイルアプリケーション	✅			

コミュニティ

パートナーと顧客はコミュニティおよびポータルでレポートの作成と実行ができるようになりました。ExperienceBundle メタデータ型を使用すると、お気に入りの開発ツールを使用して、Lightning コミュニティの更新とリリースをプログラムですばやく実行できます。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安

全に維持できます。Service Cloud のチャネルメニューを使用して、サービスエージェントがさまざまなチャネルで顧客に連絡できるようにします。Lightning コミュニティの利用者をプログラムで作成および変更します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コミュニティ				
Lightning コミュニティのレポートビルダー (正式リリース)	✅			
Lightning コミュニティでのレポートの表示 (正式リリース)	✅			
柔軟なレイアウトをさらに拡張		✅		
コミュニティナビゲーションの新しいページ名属性の使用		✅		
コミュニティでの取引先チームと商談チームの関連リストのカスタマイズのサポート			✅	
コミュニティ検索ページの検索ルートパラメータの更新		✅		
通常のフィードとフィード項目詳細の間の往復移動の向上	✅			
より多くの利用者の作成、ワイルドカードを使用した検索、並び替え		✅		
ヘルプセンターへの関連レコードリストコンポーネントの追加		✅		
Salesforce CMS を使用したチャネル全体の魅力的な環境の作成		✅		
トピックコンポーネントから削除された ID 項目		✅		
開発者の生産性				
ExperienceBundle を使用した Lightning コミュニティの更新およびリリース (正式リリース)				
プログラムによるスクラッチ組織でのコミュニティの作成および公開		✅		
ExperienceBundle の機能強化		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
API を使用したコミュニティのパーソナライズ (正式リリース)		✅		
コミュニティの Lightning コンポーネントでの緩和された CSP の使用			✅	
ゲストユーザ共有				
ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)			✅	
ゲストユーザのオブジェクト権限の保護 (セキュリティアラート)		✅		
Sandbox 環境のゲストユーザプロファイルからの「すべてのユーザの表示」などの権限の削除		✅		
ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティアラート、適用済み)		✅		
ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)			✅	
ゲストユーザプロファイルの一部のユーザ権限の廃止		✅		
共有とセキュリティ				
Apple ID を使用したコミュニティユーザのログイン		✅		
外部サービス向けのコミュニティドメインの確認		✅		
メールではなくテキストメッセージによる ID 検証		✅		
UI での Lightning Locker の有効/無効の切り替え		✅		
API アクセスをインストール済み接続アプリケーションのみに制限				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)			✅	
外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)		✅		
セルフ登録およびユーザの作成での標準外部プロファイルの使用禁止 (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)			✅	
コミュニティのその他の変更				
チャネルメニューを使用して顧客の好みの場所で顧客と会話			✅	
サポートされていないブラウザでコミュニティにアクセスした場合の警告の表示		✅		
外部取引先階層 (ベータ)				
権限セットを使用した「外部ユーザの代理管理者」権限の割り当て		✅		
コミュニティワークスペースとコミュニティビルダーの名前変更		✅		
Microsoft Internet Explorer 11 でのエクスペリエンスワークスペースのサポートの終了		✅		

Chatter フィード

ケースフィードの投稿とコメントのタイムスタンプを表示する方法を選択します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ケースフィード項目の日時スタンプの形式の設定			✅	

Files

Chatter REST API のファイル変換を Adobe Flash から SVG に切り替えるための準備を行います。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Chatter REST API での File Rendition リソースの切り替え			✅	

モバイル

Spring '20 では、すべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。システム管理者とユーザは、拡張されたカスタマイズオプション、強力な Lightning 機能、改善されたパフォーマンスを利用できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は、Apple Wallet アクセスとテスト専用の新しいアプリケーションによってさらに向上しています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい Salesforce モバイルアプリケーション				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ		✅		
刷新された Salesforce アプリケーションのすべての新機能			✅	
Salesforce モバイルアプリケーションの要件	✅			
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境のサポートの変更			✅	
Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止の計画	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しいモバイルナビゲーション項目を使用した外出中での Einstein Analytics へのアクセス	✅			
新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できないモバイルカード			✅	
ナビゲーションバーをさらにカスタマイズ			✅	
検索するときに詳細を表示	✅			
モバイルでのおすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)			✅	
モバイルデバイスでの取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ			✅	
モバイルデバイスでの連動選択リストによるパスの更新			✅	
リンク共有で同僚と同じ情報を共有	✅			
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護				✅
新しい Salesforce モバイルアプリケーションの有効化 (重要な更新)			✅	
Mobile Publisher				
Playground アプリケーションを使用したモバイルコミュニティのテスト (ベータ)			✅	
Apple Wallet へのパスの追加 (iOS のみ)			✅	
モバイルのその他の機能強化				
MobileSession オブジェクトの削除		✅		
Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部でのみ使用) 項目の削除		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
接続アプリケーションと通知の配信設定の変更の追跡		✅		

持続可能性

二酸化炭素排出量に関する重要なインサイトを取得できます。Sustainability Cloud ではグローバルな排出係数を使用して温室効果ガス排出量を計算するため、組織のビジネス活動全体を通じたエネルギー使用量および温室効果ガス排出量データを収集、分類、分析することができます。また、Salesforce Lightning プラットフォームに基づいて構築されているため、コラボレーション、プロジェクト管理、報告を容易にするツールにアクセスできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
二酸化炭素排出量の削減および報告			✅	

Industries

Salesforce の専門ソリューションは、ビジネス固有の要件のサポートに関してさらに改善されました。Financial Services Cloud では、流通業者をより明確に把握でき、住宅ローンを作成するための新しい API が提供されます。Health Cloud では、ケアプランの設定が容易になり、適切なケア提供者を見つけるためのオプションが追加されました。Consumer Goods Cloud は、フィールド営業担当者が影響を最大化し、在庫レベルを追跡するのに役立ちます。Manufacturing Cloud では、取引先マネージャに詳細な制御が与えられ、販売計画と取引先販売予測の可視性が改善されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Financial Services Cloud				
Financial Services Cloud の住宅ローン: 新しい住宅ローン貸付 API、取引先からのローン申込の作成				
API コールを使用した住宅ローン融資の拡張		✅		
取引先または商談からローン申込の作成	✅			
ドキュメントの追跡および承認: アクションプランを使用したドキュメントの追跡、項目削除ルールの設定				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アクションプランを使用したドキュメント追跡の合理化			✅	
添付ファイルを保持したままのドキュメントチェックリストのクリーンアップ			✅	
Financial Services Cloud の保険: 流通業者パフォーマンス管理、募集人のライフイベント管理、募集人リレーションカード、拡張された総計値とグラフ				
流通業者パフォーマンスダッシュボードと総計値を使用したディストリビュータパフォーマンスの監視			✅	
ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを使用して募集人との強固な関係を築く			✅	
募集人リレーションカードを使用して主要な募集人情報を手元に置く			✅	
契約関連の総計値とグラフを計算するときに複数募集人契約を含める			✅	
アクションプラン: アクションプランテンプレートのコピーおよびパッケージ化				
ディープコピーを使用したアクションプランテンプレートのコピーの作成		✅		
パッケージ化を使用したアクションプランテンプレートの共有		✅		
アクションプランテンプレートへのドキュメントチェックリスト項目の関連付け			✅	
Financial Services Cloud の操作性の向上	✅			
Einstein 紹介スコアリングを使用したパイプラインの微調整 (正式リリース)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Financial Services Cloud の新しいオブジェクトおよび変更されたオブジェクト		✅		
REST API		✅		
Health Cloud				
ケアプランのテンプレートおよび使いやすさの向上				
1 つのフローを使用したケアプランの作成	✅			
使用事例に適したケアプランテンプレートの作成		✅		
テンプレート、問題、および目標の分類		✅		
新しいボタンを使用した既存のケアプランへのテンプレートの追加の迅速化			✅	
ケアプランの作成時に ToDo 名と日付をカスタマイズ	✅			
少ないクリックで ToDo の状況の変更	✅			
少ないクリックでケアプランの作成を迅速化	✅			
提供者リレーションカードのカスタマイズ				✅
ケア提供者の検索に役立つオプションの追加				✅
ケアプログラムのより効率的な作成およびカスタマイズ				
新しいケアプログラムのための既存の同意フォームのコピー				✅
電子署名の取得に関する免責事項メッセージのカスタマイズ				✅
プログラム登録フローにケアプランを含める				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
患者のコミュニケーション設定の追跡		✅		
アクセス制御の変更				✅
Einstein Analytics for Healthcare の機能強化により患者ケアの提供に関する専門知識を増幅				✅
Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト		✅		
Consumer Goods Cloud: 訪問順序の最適化、在庫レベルの監視業績の向上				
Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した業績の促進			✅	
Consumer Goods Cloud の販売計画を使用した小売実行の簡素化			✅	
Salesforce Maps による訪問順序の最適化			✅	
バーコードスキャナを使用したモバイルデバイスでの商品の詳細の検索			✅	
商品カテゴリの KPI の追跡			✅	
再利用可能なタスクの保存とテンプレートでの使用			✅	
Object Detection データの制御の向上				
Einstein Object Detection データのローカルへの保存	✅			
Einstein Object Detection へのアクセスの制御			✅	
Einstein Object Detection モデルの無効化	✅			
新しい KPI 種別による生産性の向上			✅	
Consumer Goods Cloud の新規および変更されたオブジェクト		✅		
Manufacturing Cloud: 販売計画と取引先販売予測の機能強化による環境の強化				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
指標を使用した取引先販売予測のカスタマイズ			✅	
取引先の通貨での販売予測収益指標の表示	✅			
ワンクリックでの新しい商品の取引先販売予測への追加	✅			
商品による契約期間および取引先販売予測の検索	✅			
契約期間および取引先販売予測の複数の値の更新	✅			
Einstein Analytics for Manufacturing を使用した売上予測の強化と商品需要に関するより深いインサイトの取得			✅	
新しいライセンスでのマニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートの使用			✅	
Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型		✅		
Manufacturing Cloud の新しい Tooling API		✅		
Industries の共有メタデータ API		✅		

myTrailhead

Trailmaker Content が刷新されました。お客様は、独自の myTrailhead サブドメインを設定できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
再設計された Trailmaker Content を使用した効率的で簡単なコンテンツ作成	✅			
独自の myTrailhead サブドメインの迅速な作成			✅	

カスタマイズ

Flow Builder、フロー管理、およびプロセスビルダーの機能強化により、フローとプロセスをより効率的に作成します。翻訳、通貨、国際的な日時をより簡単に管理できます。Einstein 予測ビルダーと Einstein Next Best Action の更新を使用して、予測とおすすめを作成、設定、および管理します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning フロー				
Flow Builder				
フロー内の保存前更新を使用した新規レコードと変更されたレコードの 10 倍速い更新		✅		
変数を作成せずにアクションを設定し、レコード要素を作成		✅		
項目を選択せずに[レコードを取得]要素を設定		✅		
Flow Builder からのフローの無効化		✅		
複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成		✅		
システムモードを使用してユーザ権限に関係なくフローを実行		✅		
ワンクリックでレコード変数から関連レコード値を選択		✅		
画面エディタを離れずに新しく作成した画面項目を参照		✅		
キーボードショートカットを使用した Flow Builder での作業効率の向上		✅		
マネージャーツールボックスで API 参照名、表示ラベル、または説明を使用してリソースをすばやく検索		✅		
アクションを分類してシステム管理者がアクションを容易に見つけることができるようにする		✅		
Lightning フローの管理				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
クラウドフローデザイナの使用終了		✅		
より効率的なレコード更新処理を使用して制限に達する回数を減少	✅			
フロー数式でのデータアクセス権の適用 (重要な更新)			✅	
フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮重要な更新 (重要な更新)			✅	
プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新、適用済み)		✅		
プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新、適用済み)			✅	
フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)			✅	
プロセスおよびフローの数式からの有効な HTML 出力の生成 (重要な更新、廃止)			✅	
プロセスおよびフローで失敗したアクションから成功したレコードの変更をバッチで保存	✅			
デスクトップ Flow Designer の廃止		✅		
プロセスビルダー				
Lightning フローを使用した取引先責任者の役割の作成および更新の自動化		✅		
プラットフォームイベントを登録しているプロセスの参照		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
自動項目更新によるメール通知の抑制の防止(重要な更新、適用済み)			✅	
グローバリゼーション				
最新の翻訳の維持		✅		
右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)	✅			
ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
言語およびロケール形式の変更への準備		✅		
Lightning Experience での高度な通貨管理の使用	✅			
ペルシア語を使用するユーザとつながる	✅			
トランスレーションワークベンチのその他の変更点	✅			
Einstein 予測ビルダー: Einstein 予測ビルダーを試す、信頼済み AI ヘルプによる十分な情報に基づいた予測、検索条件に基づく予測の作成				
Einstein 予測ビルダーの検索条件を使用した将来の予測			✅	
Einstein 予測ビルダーを使用したレコードの上位予測因子の表示			✅	
追加費用なしで Einstein 予測ビルダーを試す			✅	
Einstein 予測ビルダーでの信頼済み AI ヘルプよる十分な情報に基づいた予測			✅	
Einstein Next Best Action				
おすすめ戦略総計値を使用した Next Best Action の利用状況の分析		✅		
任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
おすすめが却下されたときのフローの起動		✅		
プラットフォーム状況アラートイベントの変更		✅		
Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化		✅		
Lightning アプリケーションビルダー				
モバイルを考慮したレコードページの設計、テンプレートの選択、およびコンポーネントの設定		✅		
アプリケーションビルダーのガイダンスを使用した Lightning ページの改善		✅		
Lightning ページ範囲へのより多くのコンポーネントの追加		✅		
注文管理コンポーネントを使用した注文の詳細の表示		✅		
外部データ				
公開インターネットにさらされることなくサードパーティサービスと統合 (パイロット)			✅	
外部データログイン情報の暗号化方法の変更		✅		
権限セットグループ				
ユーザの職務に基づく権限セットのグループ化により容易な割り当てを実現 (正式リリース)		✅		
新しい確認画面を使用した権限セットの編集の追跡		✅		
ミュート権限セットを使用した権限セットグループの権限の管理 (正式リリース)		✅		
共有				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
すべての組織で外部組織の共有設定をデフォルトで有効化		✅		
無効化できなくなった外部共有モデル		✅		
リードとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)		✅		
共有 API アクセスの変更		✅		
キューに関する権限の変更				
		AppExchange		
Trailblazer.me を使用した AppExchange のインストールと設定の簡単な管理	✅			
AppExchange の Salesforce コンサルタントの詳細なレビューによる確実な採用	✅			
		一般設定		
カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)			✅	
開発者およびスクラッチ組織のカスタム設定の保護		✅		
カスタム設定への参照アクセス権を取得するユーザの制御		✅		
拡張外部サービスの接続方法の追加 (正式リリース)		✅		
参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (重要な更新)			✅	
Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護		✅		
システム管理者タスクに関する権限の変更		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ユーザ設定の管理に関する変更		✅		

セキュリティ、プライバシー、ID

Apple ID、Face ID、または Touch ID を使用した認証を許可して、ユーザの認証オプションを増やすことができます。または、SMS による認証のみを許可してより厳格な要件を設定できます。接続アプリケーションを介した Salesforce API への外部ユーザアクセスを制限できます。[私のドメイン] の証明書と URL の形式が変更されます。また、Salesforce Event Monitoring ストリミングイベントを含むすべてのプラットフォームイベントを暗号化できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
ユーザが Apple ID で Salesforce 組織にログインできるようにする		✅		
外部サービス用のドメイン名の確認		✅		
メールによる ID 検証の防止		✅		
外部ユーザによる API アクセスの制限				✅
シングルログアウト設定への署名要求メソッドの適用		✅		
OAuth 承認ページのタイムアウトの延長		✅		
コンテンツ、Visualforce、Lightning ページのセッション状況の確認		✅		
組織をデータソースとしてクロスクラウドアプリケーションに接続することをユーザに許可		✅		
ドメイン				
[私のドメイン]の証明書の変更に向けた準備 (リリース遅延)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Edge を介した[私のドメイン]の転送(以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)			✅	
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
新規および更新後の Sandbox での [私のドメイン] URL の安定化		✅		
Salesforce Shield				
Shield Platform Encryption: プラットフォームイベントの暗号化				
プラットフォームイベントの暗号化			✅	
システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化		✅		
イベントモニタリング: 従来のトランザクションセキュリティの廃止、Event Monitoring Analytics アプリケーションの改善				
EventLogFile での Apex 要求を長時間要求としてカウントするかどうかの決定			✅	
従来のポリシーの移行(重要な更新)			✅	
Analytics アプリケーションのパフォーマンス向上			✅	
データ保護とプライバシー				
顧客の同意設定の追跡		✅		
コミュニケーション登録の管理		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
複数の連絡先および同意情報の保存		✅		
その他の変更				
Salesforce サイトでゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動割り当て			✅	
ホワイトリストに登録された信頼できる URL		✅		
セッションセキュリティレベルポリシーに対する変更		✅		
設定変更履歴でのより多くの変更の監視		✅		
指定ログイン情報の変更			✅	

リリース

アップロードした変更設定をすぐにリリースできます。新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
変更セットのアップロード後にカスタマイズをすぐにリリース		✅		
変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント		✅		

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
Lightning Web コンポーネントで不要になった @track デコレータ		✅		
厳密に等しいオブジェクトの生成が保証されないワイヤアダプタ		✅		
カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定		✅		
スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントのスマートなソース追跡		✅		
Lightning 基本コンポーネント: オープンソース			✅	
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止			✅	
開発者ガイドへの Aura の JavaScript API リファレンスドキュメントの移動		✅		
CSP 信頼済みサイトのリソース読み込みの管理		✅		
Lightning Locker が無効になっている Lightning コミュニティでのコンポーネントの使用			✅	
デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移動		✅		
Lightning Locker で insertHTML コンテンツをサニタイズ		✅		
Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)		✅		
Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新		✅		
Jest テストで作成されたスナップショットの属性値の更新		✅		
[JavaScript プロトタイプを凍結] セッション設定の削除		✅		
重要な更新: @AuraEnabled Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他				
API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)			✅	
ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)			✅	
暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新、延期)			✅	
重要な更新「管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期			✅	
Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (重要な更新)				
ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限				
ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限(セキュリティアラート)			✅	
ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)			✅	
Einstein Platform Services				
Einstein Vision: より詳細なエラーメッセージ				
Einstein Object Detection トレーニング API コールのより詳細なエラーメッセージの取得		✅		
Einstein Language: 新しいモデル評価指標				
Language API モデル評価指標の応答内の新しい要素により深まるモデルの理解		✅		
Einstein プラットフォーム				
Sandbox 組織での Einstein 予測の実行			✅	
Visualforce				
Lightning Message Service API を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)		✅		
IDパラメータによるリモートメソッドの種別チェックを使用したセキュリティの脆弱性からの保護		✅		
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルのURLからのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Visualforce アクセス総計値に関する権限の変更		✅		
		Apex		
SOQL クエリの WITH SECURITY_ENFORCED を使用した項目およびオブジェクトレベル権限チェックの有効化 (正式リリース)		✅		
Apex での項目およびオブジェクトレベルのセキュリティの適用 (正式リリース)		✅		
TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)		✅		
非グローバルコントローラコンストラクタへのリフレクティブアクセスの制限 (重要な更新)		✅		
組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新)		✅		
呼び出し可能なメソッドおよび呼び出し可能な変数での汎用 sObject データ型の使用		✅		
イベント監視ログを使用して Apex トリガで消費される CPU 時間を追跡		✅		
		API		
関連するオブジェクトドキュメントの検索の簡易化	✅			
本番組織と Sandbox 組織での MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)		✅		
改善された記号テーブルの生成		✅		
使用できる API コールの増加		✅		
API コールの日次上限の削除		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい使用量ベースのエンタイトルメントを使用した月次APIコールの表示		✅		
カスタムメタデータ型				
カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)			✅	
開発者およびスクラッチ組織のカスタムメタデータ型の保護		✅		
Salesforce CLI				
オートコンプリートを使用した時間の節約とエラーの削減		✅		
メタデータのリリース時の進行状況の表示		✅		
拡張標準 DX テンプレートを使用した推測を排除		✅		
スクラッチ組織: 新機能				
機能が追加されたスクラッチ組織の作成		✅		
Sandbox				
本番と異なるバージョンの Sandbox のコピー		✅		
Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護		✅		
AppExchange パートナー				
AppExchange の App Analytics を使用した Lightning ページの使用状況と組織情報の分析				✅
パッケージ化				
パッケージ開発をすばやく反復するための検証のスキップ		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パッケージバージョンの作成およびインストールの迅速化		✅		
外部共有モデルの変更に対応するための管理パッケージの更新		✅		
リストおよびレポートの Salesforce CLI コマンドでのパッケージの詳細の表示内容の増加		✅		
パッケージマネージャでの多数のコンポーネントの表示方法の決定			✅	
ロック解除済みパッケージでのフローの更新		✅		
変更データキャプチャ				
変更データキャプチャのオブジェクトのサポートの拡張		✅		
常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)				✅
変更イベントは暗号化が有効になっていない場合にブロックされない		✅		
プラットフォームイベント				
イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化		✅		
契約開始日に基づくプラットフォームイベントエンタイトルメントの取得		✅		

Quip

従来よりも迅速に Salesforce 組織を Quip に接続できます。絞り込まれたレポートを Quip に追加して、Salesforce レコードに埋め込んで動的に絞り込むことができます。プロセスビルダーと Flow Builder で新しい Quip アクションを使用してビジネスワークフローを自動化できます。更新された Salesforce リストライブアプリケーションを使用して、関連 Salesforce リストを表示して編集できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Quip文書への関連リストのインポート (リリース遅延)	✅			
Quip for Customer 360 の使用状況に関するインサイトの取得 (リリース遅延)			✅	
Quip からのライブ Salesforce レポートの動的な絞り込み(リリース遅延)	✅			
Quip での集計された Salesforce レポートの取得 (リリース遅延)	✅			
動的ライブアプリケーションを使用した Quip テンプレートの最新状態の維持 (リリース遅延)	✅			
新しい Quip プロセスおよび Flow Builder アクションを使用したワークフローの自動化				
Quip 文書へのアクセスレベルの異なるユーザの追加		✅		
編集のロックを使用して文書を完了とマーク		✅		
Quip テンプレートへのライブアプリケーションの追加	✅			
テキスト検出を使用したコピーされた文書の更新		✅		
Quip コンテンツを共有するタイミングと場所の制御		✅		
Quip テンプレートからのコメントのコピー	✅			
Quip関連文書コンポーネントになった Quip コンポーネント	✅			
Salesforce での既成の Quip テンプレートの使用	✅			
関連レコードにリンクされた Quip 文書の表示	✅			
複数の SSO を使用した Quip へのログイン			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
再接続せずに Salesforce ライブアプリケーションを使用(リリース遅延)	✅			
Quip for Salesforce の設定手順の簡略化			✅	
Salesforce レコードへの Quip スライドの追加	✅			
差し込み印刷の参照項目の上限の撤廃	✅			
[ファイル] タブからの Quip 文書でのリッチテキスト編集の使用	✅			

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ
Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ
Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x をサポートしています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ
Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic、Lightning Experience、または Salesforce モバイル Web のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを埋め込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザのリストについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。
- ベータ機能として、システム管理者が Lightning Experience の完全なデスクトップバージョンへのアクセス権を iPad iOS 12.0 ユーザに付与できるようにします。詳細は「iPad ブラウザでの Lightning Experience (ベータ)」を参照してください。また、Apple では iPad 用の新しいオペレーティングシステムとなる iPadOS を 2019 年の秋にリリースしました。デフォルトでは、iPadOS で Safari を使用して Salesforce にアクセスすると、以前の Salesforce モバイルブラウザエクスペリエンスではなく、デスクトップブラウザユーザエクスペリエンスが読み込まれます。詳細は、ナレッジ記事「Salesforce on the New iPadOS Operating System (新しい iPadOS オペレーティングシステムでの Salesforce)」を参照してください。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- コミュニティビルダーで Internet Explorer 11 を使用しないことを強くお勧めします。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	最新
Lightning コミュニティ	IE 11	最新	最新	最新	最新
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

関連トピック:

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x をサポートしています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

	Microsoft Internet Explorer	Microsoft Edge	Google Chrome	Mozilla Firefox	Apple Safari
Salesforce Classic	IE 11	最新	最新	最新	最新
Salesforce コンソール	IE 11	最新	最新	最新	なし
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	なし	なし	あり

メモ: 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

関連トピック:

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Salesforce 全体: Lightning Experience への移行、ユーザのガイド、および生産性の向上に役立つツール

拡張された Lightning Experience 設定コンバータを使用して Lightning Experience の準備を整えて、カスタマイズ可能なアプリケーション内プロンプトを使用してユーザをガイドします。1 回のクリックで Lightning Experience のごみ箱を空にして、削除済みのレポートとダッシュボードを管理します。アプリケーションランチャーの機能強化により作業効率を向上し、Lightning Extension で最新の Lightning Experience 機能を使用して、Einstein Voice アシスタントで Einstein に文字どおり「ハロー!」と呼びかけます。

このセクションの内容:

Lightning Experience の移行: 重要な更新、設定コンバータ、準備状況チェック

2020 年 1 月、Salesforce は、Lightning Experience をまだ有効にしていないすべての組織で Lightning Experience を有効にします。移行プロセスを自動化および高速化するいくつかのツールを使用して、組織およびユーザを準備します。

Lightning Experience エンゲージメント: アプリケーション内ガイダンスのプロンプト

主要な機能の採用の促進、重要な更新情報の発表、およびユーザとの連携を行うためのツールを使用して、ユーザに Lightning Experience での作業を促します。

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備

Google Chrome 80 リリースでは、Cookie のデフォルトのクロスドメイン (`SameSite`) 動作が変更されます。この変更はセキュリティとプライバシーを強化しますが、ユーザとパートナーは、Cookie を使用するカスタム Salesforce インテグレーションをテストする必要があります。Salesforce は Web 全体のプライバシーとセキュリティを改善するための継続的な取り組みをサポートします。Salesforce が設定する Cookie の `SameSite` 属性が更新されました。この修正は Spring '20 に含まれ、Chrome 78 以降に適用されます。

1 ステップでごみ箱を空にする

Lightning Experience で Salesforce 組織のごみ箱を 1 回のクリックで空にします。以前は、個々の項目を選択して削除するか、Salesforce Classic に切り替えて一度にすべての項目を完全に削除する必要がありました。

ごみ箱内のレポートとダッシュボードへのアクセス

Lightning Experience のごみ箱で削除されたレポードとダッシュボードを管理します。Salesforce Classic に切り替えることなく、レポートとダッシュボードを表示、復元、完全削除できるようになりました。

アプリケーションランチャーの機能強化による効率の向上

Lightning Experience アプリケーションランチャーの機能強化を使用して、アプリケーションと項目をすばやく見つけて開きます。アプリケーションと項目を検索し、上位のアプリケーションをすぐに使用できるようにします。

Chrome の Lightning Extension での新しい Lightning Experience 機能の使用 (正式リリース)

最新かつ最高の技術を早期に導入していますか?または今後早期に導入したいと考えていますか?正式リリースされた Lightning Extension では、最新の Lightning Experience 機能にアクセスし、他の誰よりも早く試すことができます。

Trailblazer.me を使用した Salesforce 関連サイトでのログインおよびプロファイルの簡素化

Trailblazer.me を使用すると、複数の Salesforce 関連サイトに 1 つのログインでアクセスでき、プロファイルおよび設定を 1 つの場所で管理できます。

検索: サーチ時のより詳細な情報と、より多くの検索可能オブジェクト

インスタント結果や取引先責任者および商談に関連する取引先を表示し、より多くのオブジェクトから検索結果を取得できるようになりました。

Salesforce アンケート: カスタマイズ可能な参加者ジャーニー

参加者に合わせてアンケートの質問をパーソナライズします。参加者の前の回答に基づいてページと質問を表示できるようになりました。アンケートページに画像を追加できるようになりました。前の質問の回答を挿入することで、質問を動的にカスタマイズできるようになりました。

Lightning Scheduler: ゲストユーザのスケジュール、Lightning Scheduler 用 Chronos、簡素化された設定

予定のスケジュールをゲストユーザにまで拡張し、Einstein ボットをインストールして Lightning Scheduler とチャットまたは SMS を一緒に使用します。

デフォルト項目値を含むレコードの作成ページへの移動

デフォルト項目値を新規レコードに渡すカスタムボタンとリンクを作成します。

拡張関連リストによる関連リストの強化 (正式リリース)

関連リストを強化しましょう。正式リリースされた拡張関連リストでは、最大 10 列の表示、列のサイズ変更と並び替え、一括アクションの実行、およびテキストの折り返しを行うことができます。

セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)

Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[セッションの設定] ページから HTTPS 接続を無効にできる [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が削除されます。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (以前にリリース済みの重要な更新)

`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は Winter '19 で最初に使用可能になりました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの重要な更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Lightning Experience の移行: 重要な更新、設定コンバータ、準備状況チェック

2020 年 1 月、Salesforce は、Lightning Experience をまだ有効にしていないすべての組織で Lightning Experience を有効にします。移行プロセスを自動化および高速化するいくつかのツールを使用して、組織およびユーザを準備します。

このセクションの内容:

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート
Salesforce は、まだ有効にしていないすべての組織で Lightning Experience を有効にします。Lightning Experience の有効化 (重要な更新) は、2020 年 1 月 7 日に有効化が開始されます。組織はローリング方式で有効化され、2020 年 1 月 31 日までにはすべての組織が有効化される予定です。Lightning Experience を有効にした後も、ユーザは Salesforce Classic にアクセスできます。ただし、ビジネスの成長を促進し、生産性を高めるには、すべてのユーザが Lightning Experience を使用することをお勧めします。準備を行うには、組織の既存の機能とカスタマイズを新しいインターフェースで検証し、変更管理のベストプラクティスに従ってユーザの準備を整えます。

Lightning Experience 設定コンバータ: 新しい [ホーム] タブ、JavaScript アラートの変換
Lightning Experience 設定コンバータを使用すれば、一般的な移行タスクの多くを自動または短時間で実行できます。新しい [ホーム] タブを使用すると、作業がさらに容易になります。[ホーム] タブでは、ツールにより評価されたすべての機能とカスタマイズの状況を一元的に追跡できます。また、[JavaScript ボタン] タブでより多くの厄介な作業が実行されるようになりました。より多くのオブジェクトがサポートされ、JavaScript アラートが Lightning 対応の代替法に変換されます。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド
Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Spring '20 では、機能の変更に合わせ、フィードバックに適切に対応するために準備状況チェックが更新されています。準備状況チェックレポートはメールに添付される代わりに Salesforce ファイルに保存されるようになりました。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート

Salesforce は、まだ有効にしていないすべての組織で Lightning Experience を有効にします。Lightning Experience の有効化 (重要な更新) は、2020 年 1 月 7 日に有効化が開始されます。組織はローリング方式で有効化され、2020 年 1 月 31 日までにはすべての組織が有効化される予定です。Lightning Experience を有効にした後も、ユーザは Salesforce Classic にアクセスできます。ただし、ビジネスの成長を促進し、生産性を高めるには、すべてのユーザが Lightning Experience を使用することをお勧めします。準備を行うには、組織の既存の機能とカスタマイズを新しいインターフェースで検証し、変更管理のベストプラクティスに従ってユーザの準備を整えます。

対象: この重要な更新は、まだ Lightning Experience が有効になっていないすべての組織の Group Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

メモ: この重要な更新に関する情報については、次の動画をご覧ください。Understand How the Lightning Experience Critical Update Affects My Users (Lightning Experience 重要な更新が自分の組織のユーザに及ぼす影響を理解する)。

時期: この更新は、Spring '19 から使用可能になっています。この更新の自動有効化はローリング方式で 2020 年 1 月 7 日に開始され、2020 年 1 月 31 日までにすべての組織で有効化されます。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者の [設定] にこの重要な更新が表示されます。

この更新は、「Lightning Experience ユーザ」権限を持つユーザ、つまり、標準プロファイルを持つすべてのユーザと「Lightning Experience ユーザ」権限が有効化されたカスタムプロファイルまたは権限セットを持つユーザに適用されます。デフォルトでは、Winter '16 より前に作成されたカスタムプロファイルには、「Lightning Experience ユーザ」権限が含まれません。Winter '16 以降、標準プロファイルからコピーされたカスタムプロファイルには

このユーザ権限が含まれますが、システム管理者はプロファイルを編集して権限を無効にすることができます。

Lightning Experience が有効になると、「Lightning Experience ユーザ」権限を持つユーザの Salesforce Classic ヘッダーに **[Lightning Experience に切り替え]** リンクが表示されます。Lightning Experience が有効になっていて Salesforce Classic を使用しているユーザは、週に 1 回、自動的に Lightning Experience にログインされます。これらのユーザは、必要に応じて Salesforce Classic に戻すことができます。

理由: Lightning Experience は次世代の Salesforce です。Salesforce Lightning には、従来の機能および「Lightning Experience のみ」の機能の刷新を含めて、Salesforce すべての新機能が実装されます。Lightning Experience への移行は、ビジネスリーダーやユーザからシステム管理者や IT チームまで、誰にとってもメリットがあります。新しいユーザインターフェースにより、ユーザの効率と生産性が向上します。さらに、Lightning プラットフォームの機能を活用することで、簡単で柔軟に UI をプロセスに合わせ、ビジネスの変化に遅れずに対応し、会社の収益を改善できます。

方法: 1 月になる前に Lightning Experience を有効化できます。新しいインターフェースで提供される機能を活用するためには、ご自身で有効化することをお勧めします。Lightning Experience 移行アシスタントなど、移行プロセスを自動化してスピードアップするためのツールを用意しています。

この重要な更新を Sandbox または Developer Edition 組織でテストしてから、本番組織で有効にすることをお勧めします。更新を有効にするには、[設定] の [重要な更新] に移動し、[Lightning Experience を有効化する] の横にある **[有効化]** を選択します。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) についての詳細は、よくある質問への回答を参照するか、「Lightning Now Trailblazer Community」 にアクセスしてください。

関連トピック:

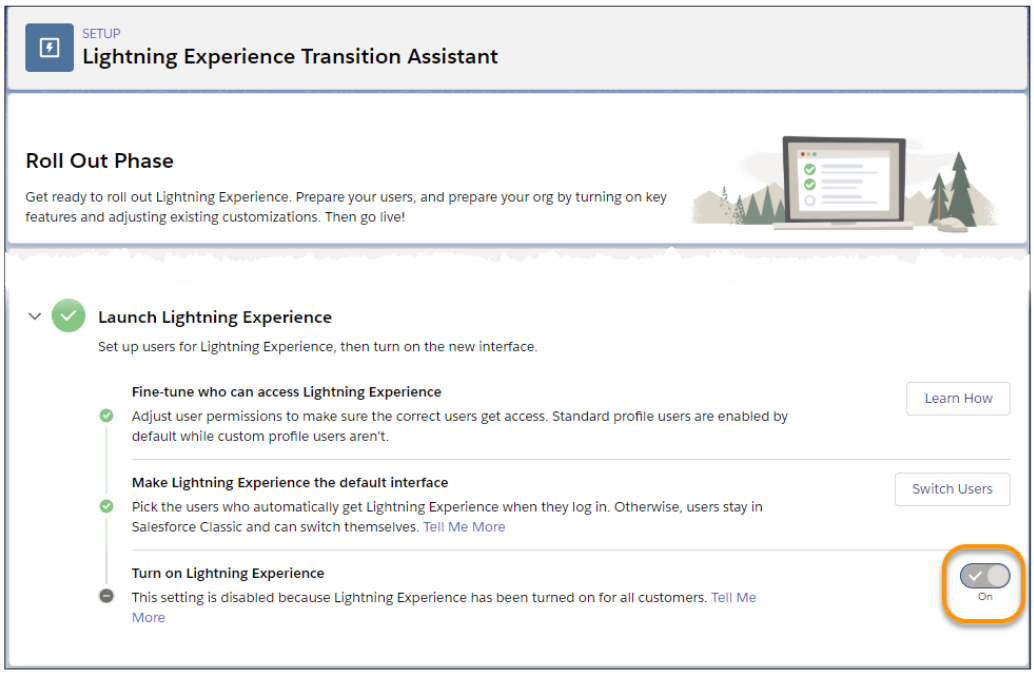
- 有効化後の Lightning Experience の恒久化
- Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス

有効化後の Lightning Experience の恒久化

Winter '20 以降、社内のシステム管理者または重要な更新「Lightning Experience の有効化」のいずれかの方法で Lightning Experience を有効化すると、Lightning Experience は恒久的に有効になります。Lightning Experience は一度有効化すると、無効化できません。すべてのユーザは Salesforce Classic に引き続きアクセスし、必要に応じて 2 つのインターフェース間を切り替えることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: 組織で Lightning Experience を有効化した後、Lightning Experience 移行アシスタントの **[Lightning Experience を有効化]** 切り替えボタンはグレー表示になります。



また、任意のバージョンの Metadata API で `S1DesktopEnabled` 組織設定を使用して Lightning Experience を無効化するオプションも無効になります。

Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス

Lightning Experience が有効になった後のユーザのデフォルトのインターフェースは、ユーザが組織に追加されたタイミングによって異なります。デフォルトのインターフェースに関係なく、Lightning Experience が有効になったユーザはスイッチャを使用して Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替えることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法:

- **Lightning Experience の有効化時に存在するユーザ**

  組織で Lightning Experience を有効化しても、すべての既存のユーザは Salesforce Classic をデフォルトインターフェースとして保持します。これは、Lightning Experience の有効時に既存のユーザに Lightning Experience ユーザ権限がすでにあるか、ユーザ権限が後で割り当てられるかに関係なく同様です。ユーザ権限が標準プロファイル、権限が有効になっているカスタムプロファイル、または権限セットのどれから継承されているかは重要ではありません。

- **Lightning Experience の有効化後に追加されたユーザ**

  Lightning Experience を有効にした後で組織に追加されたユーザの場合は異なります。こうしたユーザでは、「Lightning Experience ユーザ」権限が割り当てられると、そのタイミング(最初に追加されたときまたは後日)に関係なく必ず Lightning Experience がデフォルトのインターフェースになります。この場合も、ユーザ権限が標準プロファイル、権限が有効になっているカスタムプロファイル、または権限セットのどれから継承されているかは重要ではありません。

すべての Lightning Experience 対応ユーザには自動的にスイッチャが表示され、必要に応じてこれを使用して Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替えられます。

Lightning Experience 設定コンバータ: 新しい [ホーム] タブ、JavaScript アラートの変換

Lightning Experience 設定コンバータを使用すれば、一般的な移行タスクの多くを自動または短時間で実行できます。新しい [ホーム] タブを使用すると、作業がさらに容易になります。[ホーム] タブでは、ツールにより評価されたすべての機能とカスタマイズの状況を一元的に追跡できます。また、[JavaScript ボタン] タブでより多くの厄介な作業が実行されるようになりました。より多くのオブジェクトがサポートされ、JavaScript アラートが Lightning 対応の代替法に変換されます。

このセクションの内容:

すべての Lightning Experience 設定コンバータタブを 1 か所で管理 (ベータ)
新しい [ホーム] タブは移行ツールの拠点です。各タイルには Lightning Experience 設定コンバータの各タブの状況の概要が表示されます。各タブのスキャンを開始して、残りの作業を見つけます。

JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換
Lightning Experience 設定コンバータを使用して、簡単な JavaScript アラートを Lightning コンポーネントに変換できるようになりました。ツールで変換できない複雑なアラート (複数の操作が含まれるアラートなど) の場合、手動で変換するために実行できるアクションが設定コンバータによって推奨されます。

契約および ToDo オブジェクトの JavaScript ボタンの変換
Lightning Experience 設定コンバータの [JavaScript ボタン] タブに契約および ToDo オブジェクトのサポートが含まれるようになりました。Salesforce Classic から Lightning Experience に移行するときにこれらのオブジェクトの JavaScript ボタンを変換します。

すべての Lightning Experience 設定コンバータタブを 1 か所で管理 (ベータ)

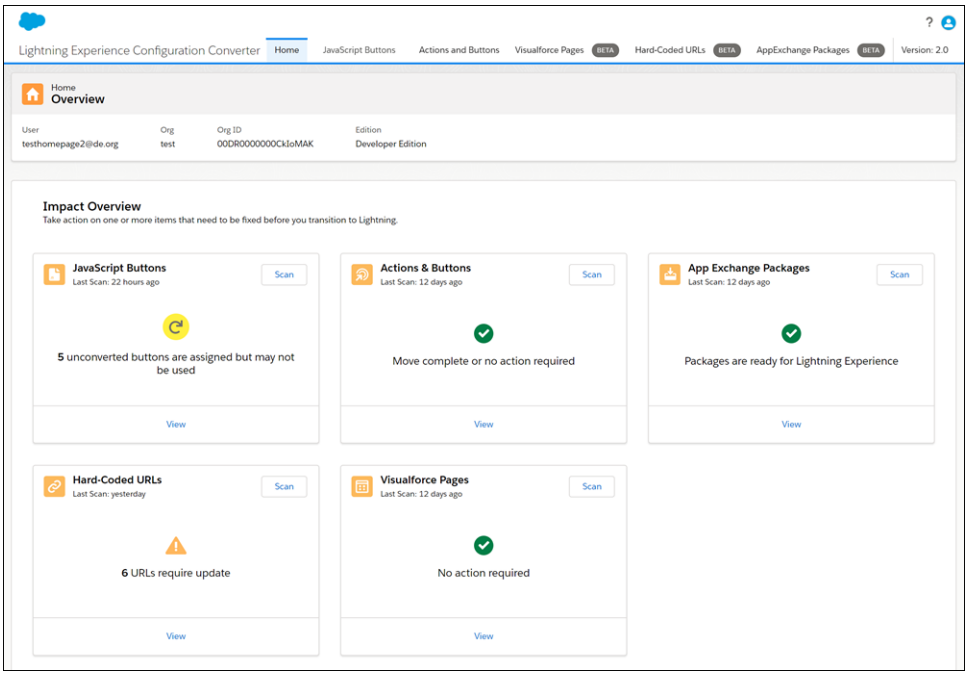
新しい [ホーム] タブは移行ツールの拠点です。各タイルには Lightning Experience 設定コンバータの各タブの状況の概要が表示されます。各タブのスキャンを開始して、残りの作業を見つけます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: Lightning Experience 設定コンバータのホームタブはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。ホームタブについてのフィードバックと提案は、Lightning Exp Configuration Converter Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: Lightning Experience 設定コンバータ機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

理由: 必要な修正の数が少なくなったことや、各タブの状況アイコンが緑に変わったことなど、進行状況を容易に追跡できます。



方法:

Lightning Experience 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または Developer Edition 組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換

Lightning Experience 設定コンバータを使用して、簡単な JavaScript アラートを Lightning コンポーネントに変換できるようになりました。ツールで変換できない複雑なアラート (複数の操作が含まれるアラートなど) の場合、手動で変換するために実行できるアクションが設定コンバータによって推奨されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: [JavaScript ボタン] タブを使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または Developer Edition 組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

契約および ToDo オブジェクトの JavaScript ボタンの変換

Lightning Experience 設定コンバータの [JavaScript ボタン] タブに契約および ToDo オブジェクトのサポートが含まれるようになりました。Salesforce Classic から Lightning Experience に移行するときにこれらのオブジェクトの JavaScript ボタンを変換します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この変更は Salesforce Winter '20 パッチリリースで導入されました。

対象ユーザ: [JavaScript ボタン] タブを使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または Developer Edition 組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド

Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Spring '20 では、機能の変更に合わせ、フィードバックに適切に対応するために準備状況チェックが更新されています。準備状況チェックレポートはメールに添付される代わりに Salesforce ファイルに保存されるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: カスタマイズされた準備状況レポートは、Lightning Experience の準備が最も整っているプロファイルと機能を評価し、組織の移行に応じて作業に優先度を付けるのに役立ちます。

方法: [設定] から準備状況チェックを実行します。[Lightning Experience 移行アシスタント] の下にある [使用を開始する] をクリックします。[発見フェーズ] タイルで [手順に進む] をクリックします。[Lightning Experience 利点と準備状況をチェックする] を展開し、[準備状況をチェック] をクリックします。

準備状況チェックレポートを表示するには、チェックの完了時に受信するメールのリンクをクリックします。または、Salesforce にログインして Salesforce ファイルを確認します。

Lightning Experience エンゲージメント: アプリケーション内ガイダンスのプロンプト

主要な機能の採用の促進、重要な更新情報の発表、およびユーザとの連携を行うためのツールを使用して、ユーザに Lightning Experience での作業を促します。

このセクションの内容:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート
対象ユーザグループに、より魅力的なプロンプトを提供します。

リリースの遅延: Salesforce へのフィードバックの提供

組織が Spring '20 リリースにアップグレードされると、リリース後の約 48 時間、ヘルプメニューの [Salesforce にフィードバックを送信] リンクと [Salesforce 製品のフィードバックフォーム] が一時的に使用できなくなります。

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

対象ユーザグループに、より魅力的なプロンプトを提供します。

このセクションの内容:

プロンプトの作成時にプロファイルを指定

特定の利用者、特定の利用者がアクセスできるオブジェクトとデータ、または特定の利用者が実行できる操作について、プロンプトのメッセージを微調整します。以前は、権限のみを使用して特定のユーザにプロンプトを表示できました。Spring '20 以降、標準プロファイルとカスタムプロファイルも使用します。

ドッキングプロンプトへの動画の追加

複雑なプロセスを説明したり、メッセージを強調したりする短い動画がある場合、その動画をプロンプトに容易に追加できるようになりました。この動画はドッキングプロンプト内でプレビューされます。

プロンプトの表示ラベルを維持するためのトランスレーションワークベンチの使用

すべての翻訳済み表示ラベルを 1 か所で追跡し、他で使用するための翻訳表示ラベルを容易にパッケージ化します。

ユーザへのプロンプトの表示タイミングのカスタマイズ

プロンプトの遅延時間をすばやく変更します。グローバル遅延時間を短くしてオンボーディングプロンプトを早めたり、遅延を長くしてお知らせや更新の間隔を広げたりします。ページの最初の読み込み時にプロンプトを表示したり、すべてのプロンプトのグローバル遅延時間を変更せずに 1 日に複数のプロンプトを表示したりするには、グローバル遅延時間を無視します。

ユーザインターフェースのその他の変更: プロンプト

Salesforce は、機能の強化に加えて、[アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページとフロート表示プロンプトの設計に小さな変更を加えました。

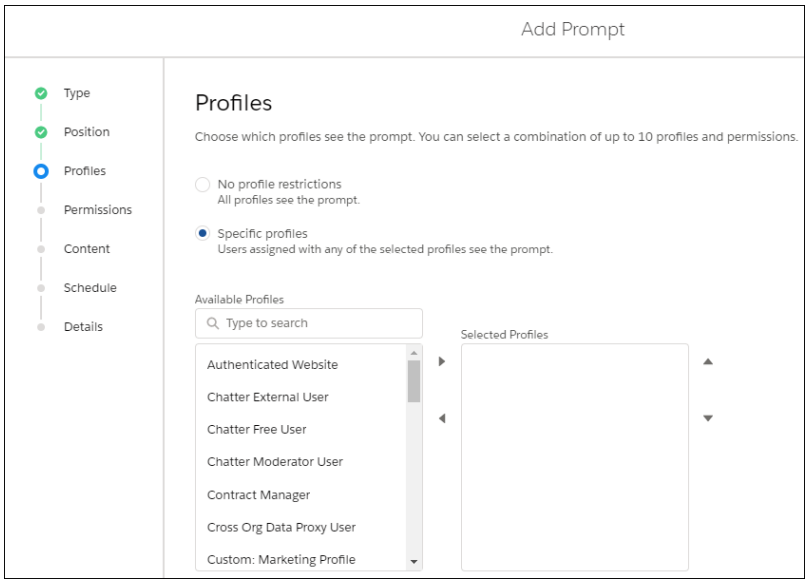
プロンプトの作成時にプロファイルを指定

特定の利用者、特定の利用者がアクセスできるオブジェクトとデータ、または特定の利用者が実行できる操作について、プロンプトのメッセージを微調整します。以前は、権限のみを使用して特定のユーザにプロンプトを表示できました。Spring '20 以降、標準プロファイルとカスタムプロファイルも使用します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。

複数のプロファイルを選択した場合、指定したすべてのプロファイルにプロンプトが表示されます。プロンプトごとに最大 10 個のプロファイルと権限の組み合わせを選択できます。複数の項目を選択した場合、プロンプトは、指定したすべての権限と指定したいずれかのプロファイルを持つユーザに表示されます。



また、特定の権限でのみ表示されるプロンプトを表示するのに、ユーザに「設定・定義を参照する」権限は必要ではなくなりました。

関連トピック:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

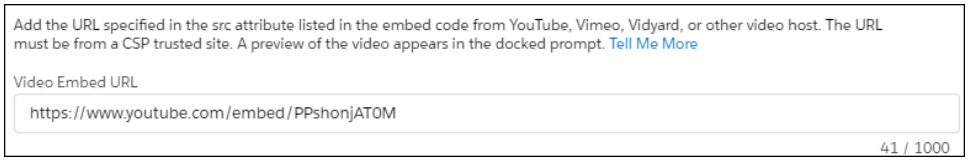
ドッキングプロンプトへの動画の追加

複雑なプロセスを説明したり、メッセージを強調したりする短い動画がある場合、その動画をプロンプトに容易に追加できるようになりました。この動画はドッキングプロンプト内でプレビューされます。

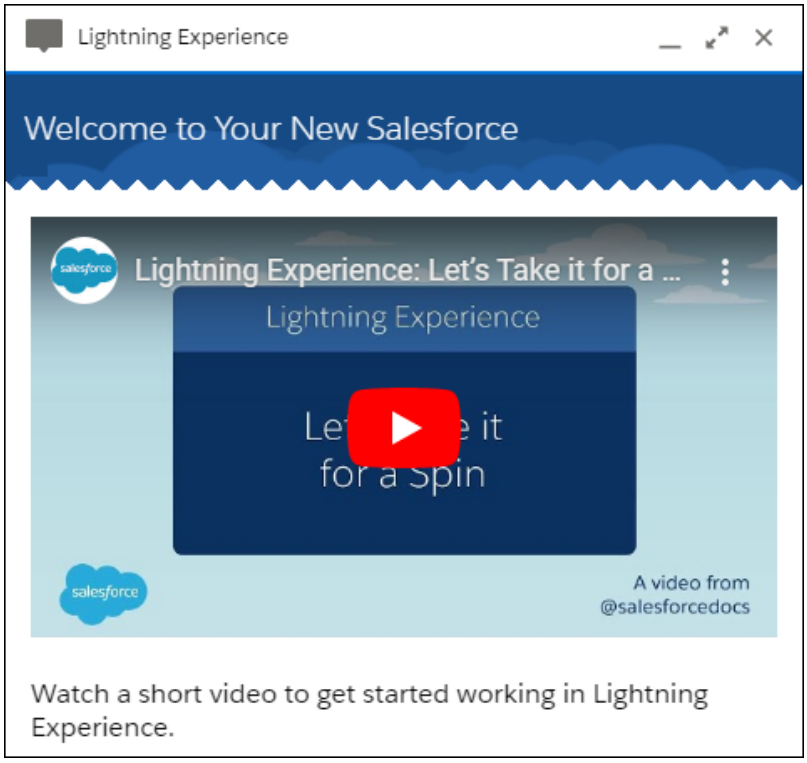
対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。

動画をドッキングプロンプトに追加する場合、動画ホストからの埋め込みコードに含まれる src 属性で指定された URL を入力します。



ユーザは動画をドッキングプロンプト、拡大されたドッキングプロンプト、または全画面で閲覧します。



関連トピック:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

プロンプトの表示ラベルを維持するためのトランスレーションワークベンチの使用

すべての翻訳済み表示ラベルを1か所で追跡し、他で使用するための翻訳表示ラベルを容易にパッケージ化します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*翻訳*」と入力し、[トランスレーションワークベンチ] を選択します。まず、**[Prompt]** および **[PromptVersion]** 設定コンポーネントを選択します。

関連トピック:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

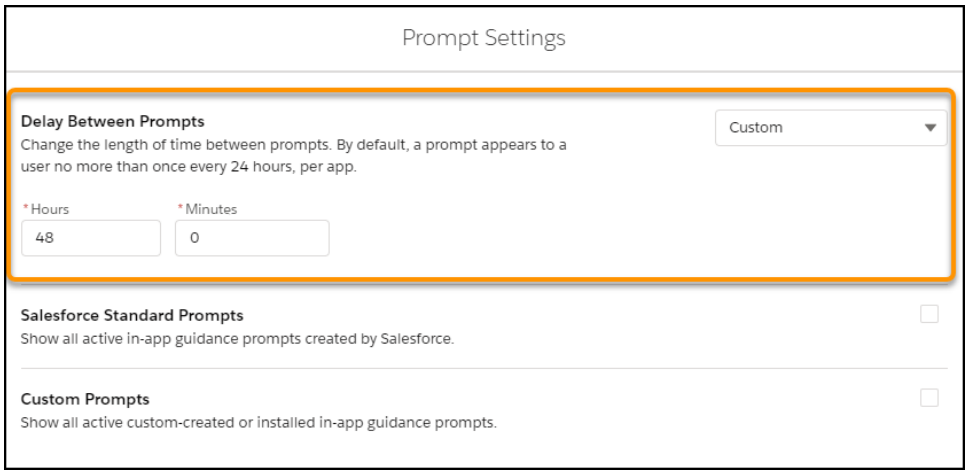
ユーザへのプロンプトの表示タイミングのカスタマイズ

プロンプトの遅延時間をすばやく変更します。グローバル遅延時間を短くしてオンボーディングプロンプトを早めたり、遅延を長くしてお知らせや更新の間隔を広げたりします。ページの最初の読み込み時にプロンプトを表示したり、すべてのプロンプトのグローバル遅延時間を変更せずに1日に複数のプロンプトを表示したりするには、グローバル遅延時間を無視します。

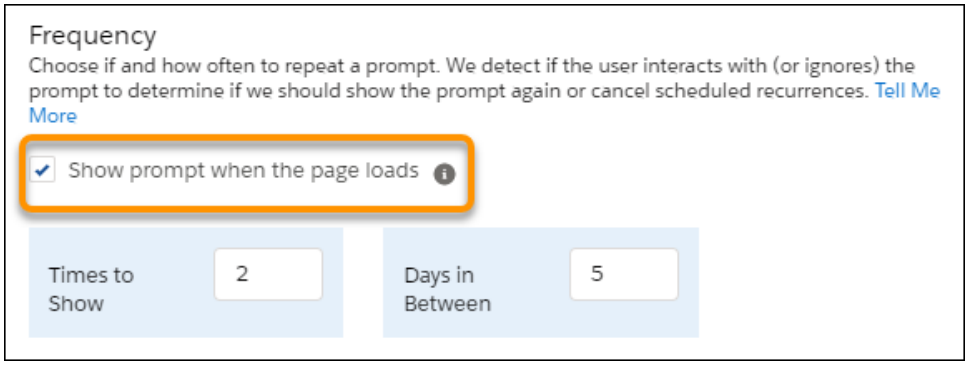
対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。

[プロンプト設定] をクリックし、[プロンプト間の遅延] で時間と分を変更します。最大 99 時間と最大 59 分を指定できます。デフォルトでは、アプリケーションごとに 24 時間に 1 回以下の間隔でユーザにプロンプトが表示されます。



グローバル遅延時間を無視するには、プロンプトの作成時に [スケジュール] ページで [ページの読み込み時にプロンプトを表示] をオンにします。



関連トピック:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

ユーザインターフェースのその他の変更: プロンプト

Salesforce は、機能の強化に加えて、[アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページとフロート表示プロンプトの設計に小さな変更を加えました。

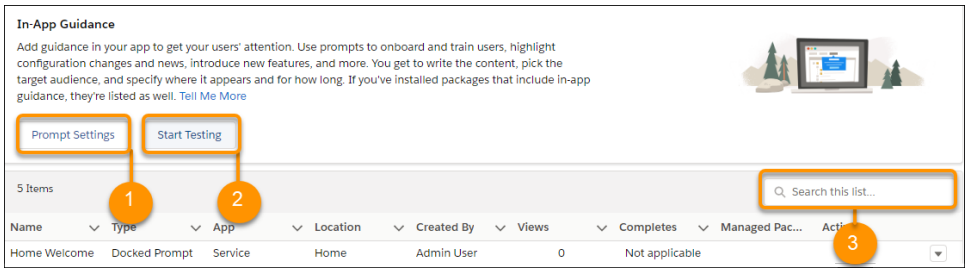
対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: [アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページに [プロンプト設定] ボタン (1) があります。このボタンによりモーダルが開き、次の操作を行うことができます。

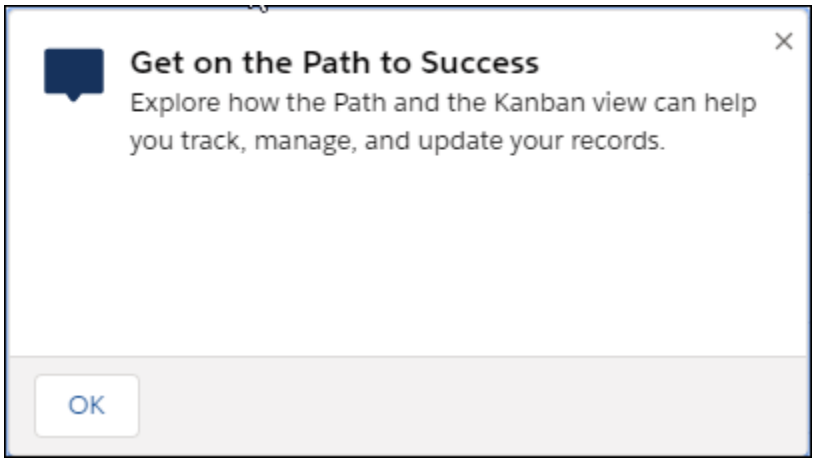
- Salesforce 組織に作成またはインストールされたすべてのプロンプトを無効または有効にします。
- Salesforce が作成したすべてのプロンプト、歓迎メッセージ、その他のアプリケーション内ガイダンスを無効または有効にします。
- すべてのプロンプト間の遅延時間を変更します。

[テストを開始] ボタン (2) は設定ページのままです。

多数のプロンプトを作成またはインストールしている場合、リストビュー検索 (3) を使用して、必要なものをすぐに見つけることができます。



フロート表示プロンプトが再設計され、本文テキストの制限が 240 文字に増加しました。



権限設定モーダルにあるラジオボタンの表示ラベルが [全員] から [権限による制限なし] に変更されました。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。

関連トピック:

アプリケーション内ガイダンス: プロファイルの絞り込み、動画、翻訳サポート

リリースの遅延: Salesforce へのフィードバックの提供

組織が Spring '20 **リリースにアップグレードされると、リリース後の約** 48 **時間、ヘルプメニューの** [Salesforce にフィードバックを送信] リンクと [Salesforce 製品のフィードバックフォーム] が一時的に使用できなくなります。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備

Google Chrome 80 リリースでは、Cookie のデフォルトのクロスドメイン (`SameSite`) 動作が変更されます。この変更はセキュリティとプライバシーを強化しますが、ユーザとパートナーは、Cookie を使用するカスタム Salesforce インテグレーションをテストする必要があります。Salesforce は Web 全体のプライバシーとセキュリティを改善するための継続的な取り組みをサポートします。Salesforce が設定する Cookie の `SameSite` 属性が更新されました。この修正は Spring '20 に含まれ、Chrome 78 以降に適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Google Chrome 80 リリースは 2020 年 2 月に予定されています。Chrome の `SameSite` ロールアウトスケジュールは、Salesforce の Spring '20 組織のアップグレードの完了日である 2020 年 2 月 15 日以降に開始されます。

対象ユーザ: この変更は、Google Chrome 80 リリース以降の Salesforce ユーザに適用されます。

理由: Chrome に関する次の重要な変更に注意してください。

- 組織のコミュニティ、ポータル、サイト、Outlook インテグレーション、または Gmail インテグレーションを含め、セキュアでない (HTTP) ブラウザアクセスでは Cookie は機能しません。代わりに、HTTPS を使用してください。
- Cookie を使用する一部のカスタムインテグレーションが Google Chrome で機能しなくなります。この変更は、特にクロスドメイン通信と、iframe を使用するインテグレーションに影響します (ただし、これらに限定されません)。

Cookie の `SameSite` 属性はクロスドメインの動作を制御します。この「Chrome Platform Status」では、`SameSite` 属性の目的が説明されています。

「`SameSite` は、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 攻撃の一部のクラスに対する適度に堅牢な防御ですが、現在、開発者は `SameSite` 属性を指定して保護を有効にする必要があります。つまり、デフォルトでは開発者は CSRF 攻撃に対して脆弱です。この変更により、開発者はデフォルトで保護されますが、クロスサイトリクエストの状態を必要とするサイトでは、現状の安全性の低いモデルを選択できます。」

`SameSite` 属性が指定されていない場合、Chrome 80 リリースは Cookie をデフォルトで `SameSite=Lax` として設定します。Chrome 80 リリースまでのデフォルトは `SameSite=None` です。Chrome 80 リリース後も、開発者は `SameSite=None; Secure` を明示的に設定することで、制限のない現状の使用方法を選択することができます。

詳細は、この Chromium Blog **投稿**を参照してください。

方法:

1. **HTTP の代わりに HTTPS を使用する**

   組織で HTTPS アクセスを必要とするには、[設定] の [セッションの設定] で以下の設定が有効になっていることを確認します。これらの設定はデフォルトで有効になっていますが、組織で HTTPS が必要とされていることを確認する必要があります。

   セキュアな接続 (HTTPS) が必要
   Salesforce へのログインまたはアクセスに HTTPS が必要かどうかを決定します。

   Spring '20 では、Salesforce へのアクセスに HTTPS 接続を必要とする重要な更新が追加されました。この重要な更新では、[セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定も削除されます。

   すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要
   サードパーティドメインへの接続に HTTPS が必要かどうかを決定します。

   このいずれかの設定が無効になっている場合、Chrome 80 リリース以降、Chrome ユーザでは Salesforce が完全に機能しない場合があります。

   コミュニティ、ポータル、またはサイトで **HTTPS** アクセスを必要とする手順は、次のとおりです。

   a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。
   b. 編集するサイトを選択し、[セキュアな接続 (HTTPS) が必要] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

   Salesforce Classic キャンバス接続アプリケーションが **HTTPS** で機能するかどうかを確認する手順は、次のとおりです。

   a. Salesforce Classic で、[設定] から [クイック検索] ボックスに「キャンバスアプリケーションのプレビューア」と入力し、[キャンバスアプリケーションのプレビューア] を選択します。

b. 確認するアプリケーションをクリックします。アプリケーションが読み込まれた場合は、HTTPS を使用するように URL がすでに設定されていることを意味します。アプリケーションがプレビューアに読み込まれない場合、HTTPS を使用するようにキャンバスアプリケーションの URL およびコールバック URL を更新します。

キャンバス接続アプリケーションを **HTTPS** を使用するように更新する手順は、次のとおりです。

a. Salesforce Classic で、[設定] から「*作成*」と入力し、[アプリケーション] をクリックします。
b. 更新するキャンバス接続アプリケーションを選択します。
c. [キャンバスアプリケーションの URL] 項目で、HTTPS を使用するように URL を更新します。
d. [コールバック URL] 項目で、HTTPS を使用するように URL を更新します。
e. [保存] をクリックします。
f. キャンバスアプリケーションのプレビューアに戻り、アプリケーションが期待どおりに開くことを確認します。

メモ: 初めて HTTPS URL に移動したときにタブを閉じで、再度開き、ブラウザの履歴をクリアします。

2. インテグレーションで所有および設定されている **Cookie** を使用しているカスタム **Salesforce** インテグレーションをテストする

Chrome 80 リリースの前に、インテグレーションで所有および設定されている Cookie を使用しているカスタム Salesforce インテグレーションをすべてテストします。回帰が確認された場合は、クロスドメイン通信で使用する Cookie の `SameSite` 属性を、`SameSite=None; Secure` を明示的に設定するように更新します。Apex で Cookie を設定する場合、`Cookie()` コンストラクタメソッドの新しい `SameSite` 属性を使用します。

この Chromium Blog 投稿では、Chrome で `SameSite` の変更がロールアウトされる前に、サイトまたは Cookie への新しい Chrome 動作の影響をテストする方法が説明されています。`chrome://flags` に移動して「`SameSite by default cookies`」および「`Cookies without SameSite must be secure`」の実験を有効化します。Spring '20 の Sandbox で最新バージョンの Chrome を使用してテストすることをおすすめします。Spring '20 に含まれる修正は Chrome 78 以降に適用されます。

メモ: Cookie をテストしながら、各 Cookie で機能する最も安全な `SameSite` 値は何かを考慮します。ファーストパーティのコンテキストでのみ Cookie にアクセスすることが意図されている場合、

`SameSite=Lax` または `SameSite=Strict` を適用して、外部アクセスを回避することができます。`SameSite=Lax` を明示的に設定することで、デフォルトのブラウザ動作に依存しなくなります。

関連トピック:

Chromium Blog: Developers: Get Ready for New SameSite=None; Secure Cookie Settings (開発者: 新しい SameSite=None への準備、安全な Cookie の設定)

Chrome Platform Status: Cookies default to SameSite=Lax (Coookie のデフォルトを SameSite=Lax に設定)

Chrome Platform Status: Reject insecure SameSite=None cookies (安全でない SameSite=None Cookie を拒否)

web.dev: SameSite cookies explained (SameSite Cookie について)

textslashplain.com: Same-Site Cookies By Default (Same-Site Cookie がデフォルトになる)

ietf.org: Incrementally Better Cookies (Cookie の段階的な改善)

セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)

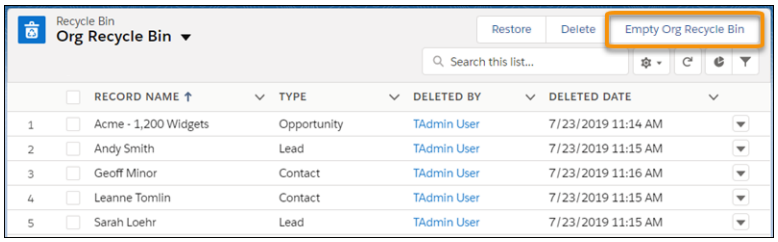
1 ステップでごみ箱を空にする

Lightning Experience で Salesforce 組織のごみ箱を 1 回のクリックで空にします。以前は、個々の項目を選択して削除するか、Salesforce Classic に切り替えて一度にすべての項目を完全に削除する必要がありました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 組織のごみ箱を空にするには、「すべてのデータの編集」権限が必要です。

方法: 組織のごみ箱を開き、[組織のごみ箱を空にする] をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのごみ箱の管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ごみ箱内のレポートとダッシュボードへのアクセス

Lightning Experience のごみ箱で削除されたレポートとダッシュボードを管理します。Salesforce Classic に切り替えることなく、レポートとダッシュボードを表示、復元、完全削除できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

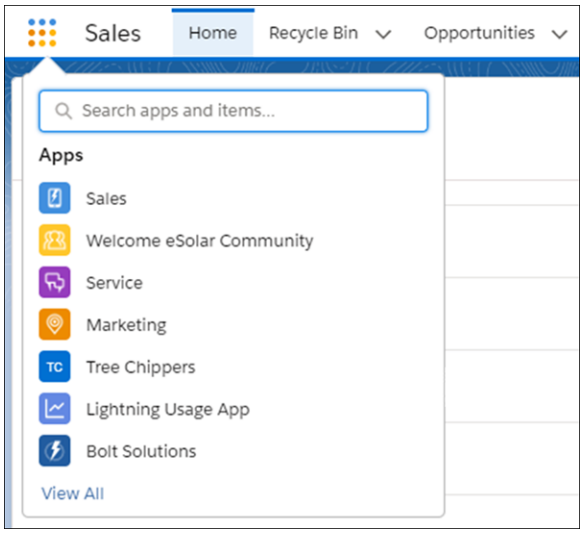
Salesforce ヘルプ: ごみ箱 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーションランチャーの機能強化による効率の向上

Lightning Experience アプリケーションランチャーの機能強化を使用して、アプリケーションと項目をすばやく見つけて開きます。アプリケーションと項目を検索し、上位のアプリケーションをすぐに使用できるようにします。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

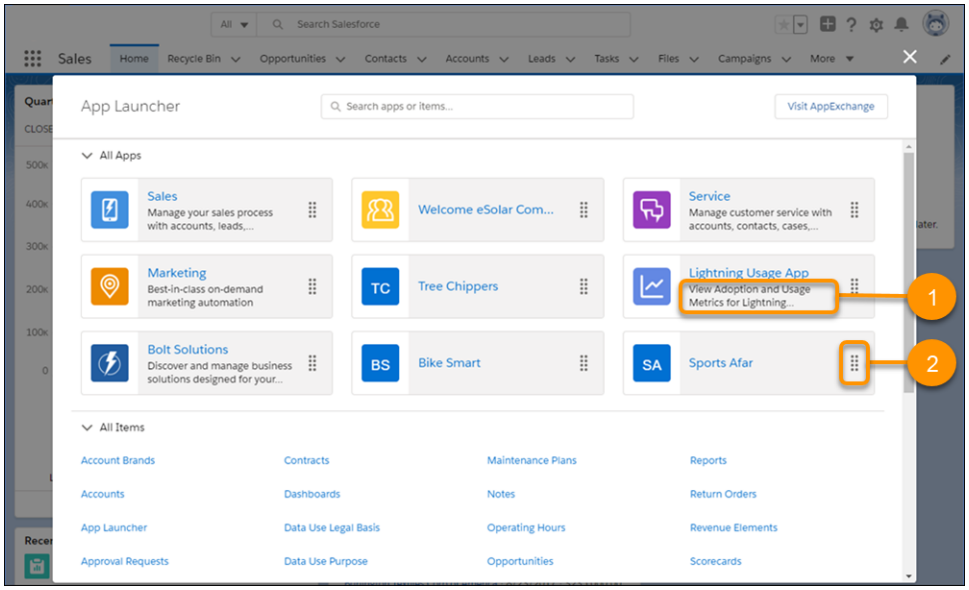
方法: アプリケーションランチャーを開くには、 をクリックしてアプリケーションを選択するか、アプリケーションと項目を検索します。



[すべて表示] を選択すると、すべてのアプリケーションと項目 (列のアルファベット順で並び替えられるようになりました)、および AppExchange にアクセスできます。

その他の機能強化:

- 説明が切り捨てられても、単語が途中で中断することはありません。切り捨てられた説明の上にマウスポインタを置くと、完全な説明が表示されます (1)。
- 改善された一貫性のあるドラッグ機能の視覚表現 (2)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience で別のアプリケーションを開く (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのアプリケーションランチャーのアプリケーションの並び替え (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

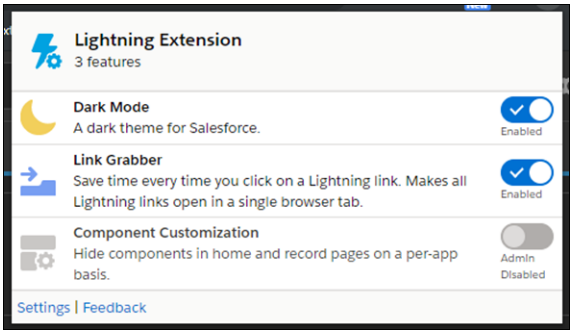
Chrome の Lightning Extension での新しい Lightning Experience 機能の使用 (正式リリース)

最新かつ最高の技術を早期に導入していますか? または今後早期に導入したいと考えていますか? 正式リリースされた Lightning Extension では、最新の Lightning Experience 機能にアクセスし、他の誰よりも早く試すことができます。

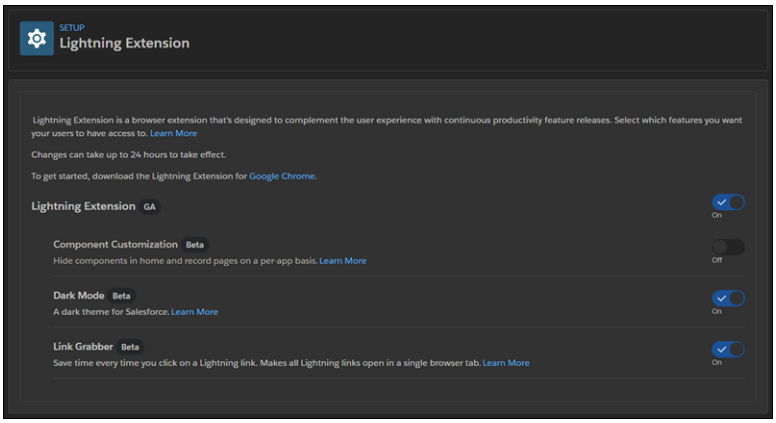
対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: Lightning Extension では、新機能を継続的にロールアウトできます。システム管理者は、ユーザがどの機能を使用できるかを制御できします。

方法: 使用しているブラウザの Lightning Extension をダウンロードします。Lightning Extension の機能パネルから、有効にする機能を選択します。



ユーザが使用できる機能を制御するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「Lightning Extension」と入力し、[Lightning Extension] を選択します。ここから個々の機能を有効化したり、拡張機能全体を無効化したりできます。変更が有効になるまで最大 24 時間かかる可能性があります。



関連トピック:

- *外部リンク*: Chrome ウェブストアからの Lightning Extension のダウンロード (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Chrome の Lightning Extension での新機能の使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Trailblazer.me を使用した Salesforce 関連サイトでのログインおよびプロファイルの簡素化

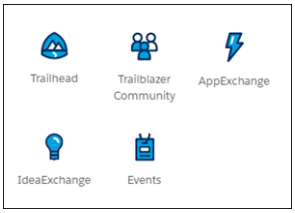
Trailblazer.me を使用すると、複数の Salesforce 関連サイトに 1 つのログインでアクセスでき、プロファイルおよび設定を 1 つの場所で管理できます。

対象: Trailblazer.me は、AppExchange、イベント、IdeaExchange、Trailblazer Community、Trailhead ユーザが使用できます。パートナーコミュニティは Trailblazer.me 機能を使用しませんが、Trailblazer.me は一部のプロファイルデータをパートナーコミュニティプロファイルと共有しています。

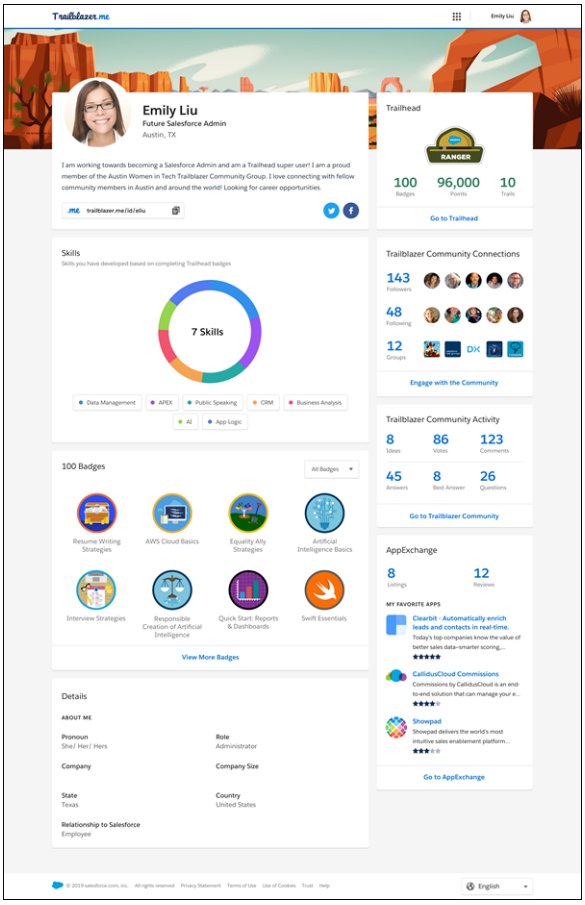
時期: Trailblazer.me は、2020 年 1 月 に正式リリースされます。

理由: 覚えておくべきユーザ名やパスワードはたくさんあります。Trailhead や Trailblazer Community などの Salesforce 関連サイトではプロファイルが異なります。Trailblazer.me を使用して、こうしたすべてのアカウントがまとめ

られたため、1 つのログインですべてのサイトにアクセスできます。アプリケーションランチャーを使用してサイト間を切り替えます。



また、こうしたすべてのサイトでプロファイルを同時に管理できます。Trailblazer.me プロファイルには、すべてのサイトおよびすべてのユーザの集計データが表示されます (サイトやユーザが複数ある場合)。Trailblazer.me プロファイルを確認または編集するには、プロファイル写真をクリックして [プロファイル] を選択します。プロファイルが公開に設定されている場合、デジタルレジュメのように使用できます。同僚や今後の雇用主が自分の Trailhead スキル、採用されたアイデア、役に立つコミュニティ投稿を確認できるように、プロファイルを公開しましょう。



方法: Trailblazer.me が正式にリリースされた後で最初に Salesforce 関連サイトにログインすると、一部のプロファイル情報の入力または更新を促すプロンプトが表示されます。Trailblazer.me が追加アカウントを認識すると、マージされます。[設定] ページでアカウントを手動でマージすることもできます。

検索: サーチ時のより詳細な情報と、より多くの検索可能オブジェクト

インスタント結果や取引先責任者および商談に関連する取引先を表示し、より多くのオブジェクトから検索結果を取得できるようになりました。

このセクションの内容:

取引先責任者または商談を検索するときの関連する取引先の参照
取引先責任者または商談を探しているがどの取引先に属しているか不明な場合、営業チームが検索するときにインスタント結果と最近使ったデータで関連する取引先が表示されるようになりました。そして何より、関連する取引先は検索可能であるため、適切なレコードをすばやく見つけるのが簡単になりました。

新しい時間に関する条件を使用したレコードの条件設定済みリストの作成 (ベータ)
対話形式の検索で時間に関する条件を使用して、レコードのリストを絞り込む方法が増えました。最も関連性の高い検索結果を取得するには、単語「modified (変更)」、「created (作成)」、「viewed (表示)」、または「closed (完了)」に続いて相対的な期間を使用して、対話形式の検索を入力します。たとえば、「cases closed this year (今年クローズしたケース)」と入力すると、状況がクローズになっている今年のケースのリストが表示されます。

関連リストレコードのプレビューの表示 (ベータ)
インスタント結果から関連オブジェクトに移動する前に関連レコードをプレビューしたくないですか?関連リスト内のクイックリンクにマウスポインタを置くと、使用可能なレコードのプレビューが表示されるようになりました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
Financial Services Cloud、Sales Cloud、Service Cloud、Commerce Cloud、および Consumer Goods Cloud のより多くのオブジェクトが検索可能になりました。

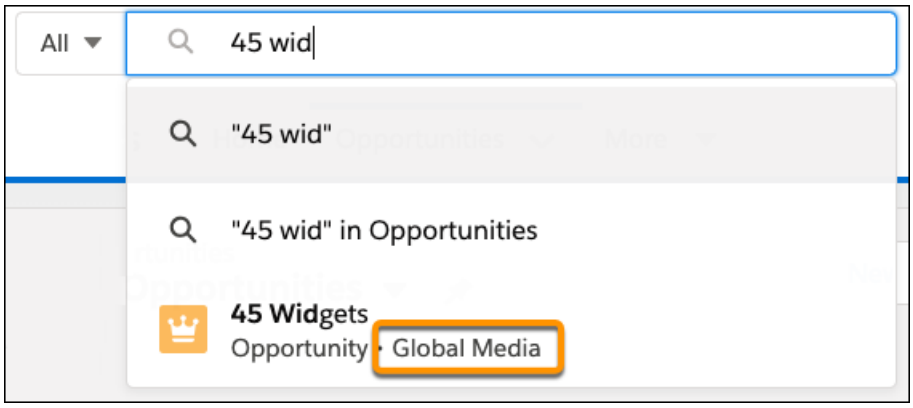
取引先責任者または商談を検索するときの関連する取引先の参照

取引先責任者または商談を探しているがどの取引先に属しているか不明な場合、営業チームが検索するときにインスタント結果と最近使ったデータで関連する取引先が表示されるようになりました。そして何より、関連する取引先は検索可能であるため、適切なレコードをすばやく見つけるのが簡単になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience、および Database.com を除くすべてのエディションに適用されます。

理由: 通常、オブジェクトの検索結果レイアウトによってどの項目がセカンダリ項目として表示されるかが決まります。取引先責任者および商談では、関連する取引先が重要な情報であるため、常にセカンダリ項目となります。

入力を開始すると、一致する結果で関連する取引先が表示されます。



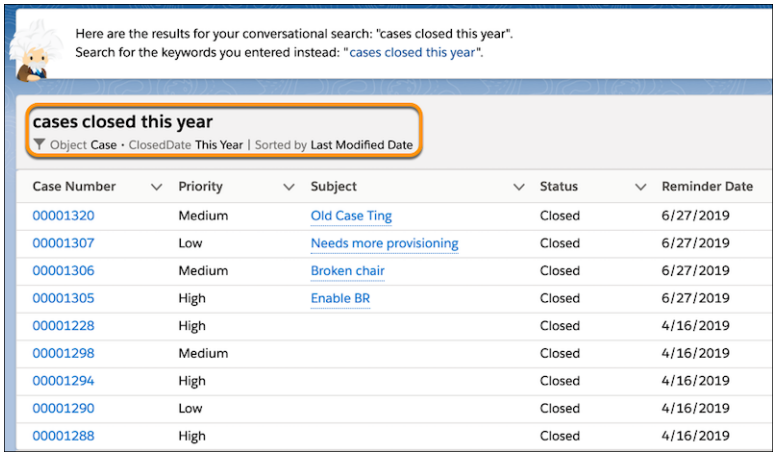
新しい時間に関する条件を使用したレコードの条件設定済みリストの作成(ベータ)

対話形式の検索で時間に関する条件を使用して、レコードのリストを絞り込む方法が増えました。最も関連性の高い検索結果を取得するには、単語「modified(変更)」、「created(作成)」、「viewed(表示)」、または「closed(完了)」に続いて相対的な期間を使用して、対話形式の検索を入力します。たとえば、「cases closed this year(今年クローズしたケース)」と入力すると、状況がクローズになっている今年のケースのリストが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: Einstein Search はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein Search に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: 対話形式の検索結果には、Einstein Search 権限セットライセンスが必要です。



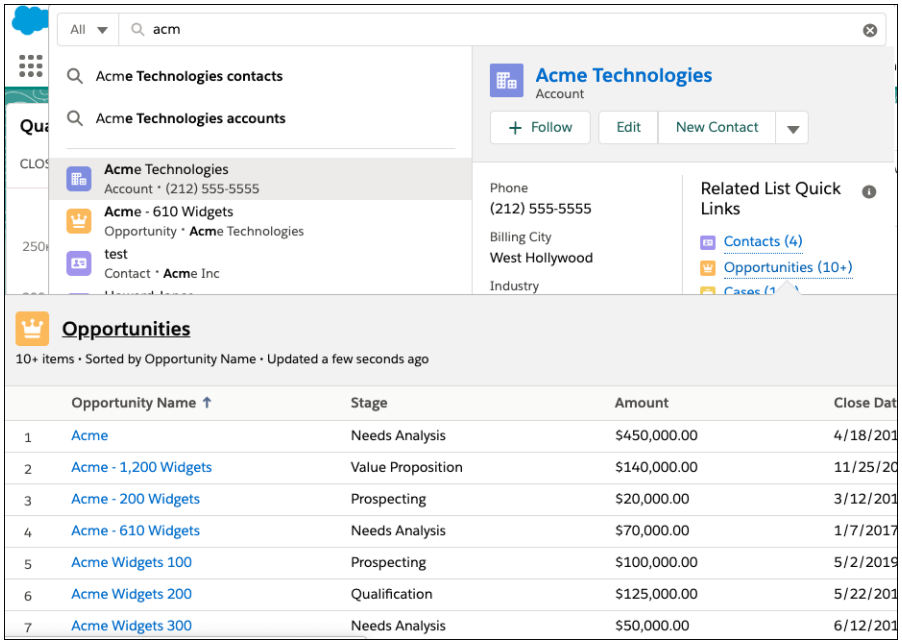
関連リストレコードのプレビューの表示 (ベータ)

インスタント結果から関連オブジェクトに移動する前に関連レコードをプレビューしたくないですか? 関連リスト内のクイックリンクにマウスポインタを置くと、使用可能なレコードのプレビューが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: Einstein Search **関連リストのプレビューには、**Einstein Search **権限セットライセンスが必要です。**

理由: プレビューウィンドウを離れる前に関連リスト内でアイテムをプレビューすることで不要なクリックを回避します。



さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Financial Services Cloud、Sales Cloud、Service Cloud、Commerce Cloud、および Consumer Goods Cloud のより多くのオブジェクトが検索可能になりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic **に適用されます。**

オブジェクト	対象
承認済み保険種目	Lightning Experience の Financial Services Cloud、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition
コミュニケーション登録	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
コミュニケーション登録チャネル種別	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
コミュニケーション登録の同意	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
コミュニケーション登録のタイミング	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
クレジットメモ請求書アプリケーション	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
代理店承認	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Financial Services Cloud
エンゲージメントチャネル種別	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
フィードコメント	Lightning Experience および Salesforce Classic の Contact Manager、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
フィード投稿	Lightning Experience および Salesforce Classic の Contact Manager、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
請求書	Lightning Experience の Commerce Cloud、Enterprise Edition
法人	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition
リストビュー	Lightning Experience の Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
マーケティングリンク	Lightning Experience のすべての Pardot エディション

オブジェクト	対象
関係者の同意	Lightning Experience および Salesforce Classic のすべてのエディション
支払ゲートウェイプロバイダ	Lightning Experience の Commerce Cloud、 Enterprise Edition
小売店 KPI	Lightning Experience の Consumer Goods Cloud、 Enterprise Edition、 Professional Edition、 Unlimited Edition
訪問	Lightning Experience の Enterprise Edition、 Professional Edition、 および Unlimited Edition

Salesforce アンケート: カスタマイズ可能な参加者ジャーニー

参加者に合わせてアンケートの質問をパーソナライズします。参加者の前の回答に基づいてページと質問を表示できるようになりました。アンケートページに画像を追加できるようになりました。前の質問の回答を挿入することで、質問を動的にカスタマイズできるようになりました。

このセクションの内容:

前の質問からの回答の挿入

より明確なコンテキストを参加者に提供します。前のページから参加者の回答を挿入して、アンケートの質問をパーソナライズします。

画像によるアンケートの装飾

質問や、お知らせページ、お礼ページに画像を挿入し、視覚的に考える人にアピールします。

色分けされたスケールによるネットプロモータースコア® の改善

ネットプロモータースコア® (NPS®) 質問種別のスケールが色分けされました。参加者は色を参考にして NPS スケールを把握できます。

参加者の回答に基づいた質問の表示

ページで参加者に表示する質問を選択します。ページの前の質問への参加者の回答に基づいて、次に表示する質問を決定します。

参加者の回答でパスを決定

複数のパスを含むジャーニーを作成し、前のページの質問の回答に基づいて、アンケート参加者に最も適したパスを表示します。ページの分岐ロジックを使用して、前のページの回答に基づいて、参加者に次に表示するページを決定します。

1 回少ないクリックで次のページへ移動

自動進行を有効にして、アンケート参加者のクリックを 1 回節約します。ページの最後の質問に回答したら、参加者は次のページに直接移動します。

ユーザエクスペリエンスの機能強化

より多くのオプションと、より少ないクリックにより、アンケートの作成者および参加者のアンケート環境が改善されました。

質問種別名の変更

「ラジオボタン」式の質問を「単一選択」に名前変更し、「複数選択肢」を「複数選択」に名前変更しました。

Customer Lifecycle Analytics を使用した顧客アンケートデータのアクション可能なインテリジェンスへの変換

Customer Lifecycle Analytics アプリケーションを使用すると、アンケートの回答の総計値を Salesforce の任意の場所に表示できます。顧客に関するインサイトを、作業している場所からすぐに得ることができます。アプリケーションのダッシュボードを Salesforce ページに埋め込んで、さまざまな顧客タッチポイントでフィードバックループを構築し、コンテキストフィードバックを収集して、顧客プロセスがどのように機能しているかを確認します。

アンケートメールのブランド設定に関する権限の変更

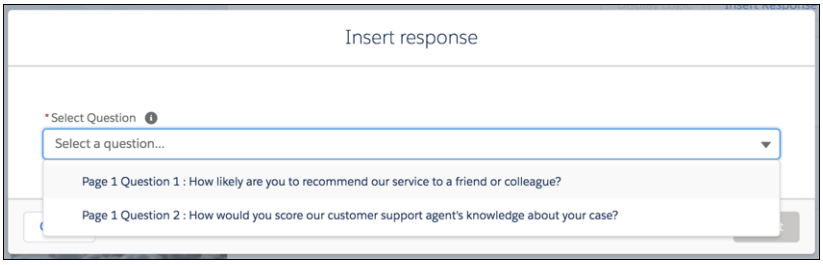
アンケート参加者に送信する招待メールの設定にアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。

前の質問からの回答の挿入

より明確なコンテキストを参加者に提供します。前のページから参加者の回答を挿入して、アンケートの質問をパーソナライズします。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 回答の挿入先の質問で [回答を挿入] をクリックします。[回答を挿入] モーダルで、追加する回答の質問を選択します。

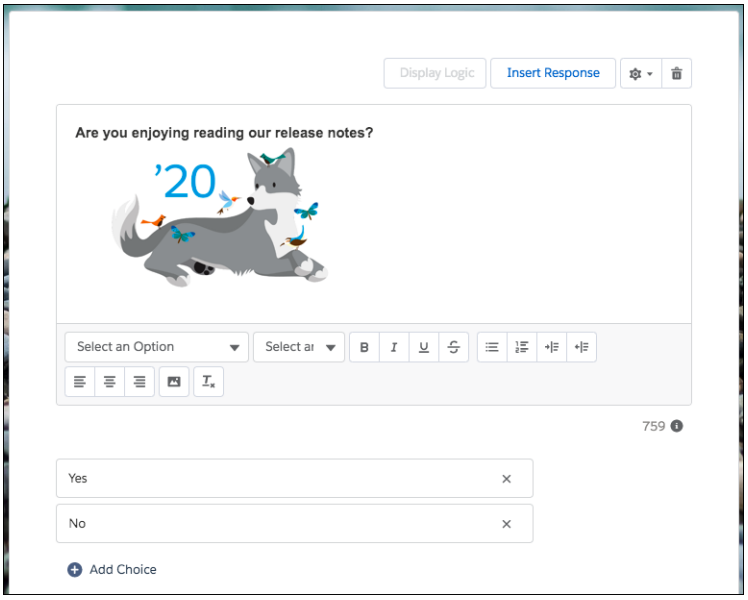


画像によるアンケートの装飾

質問や、お知らせページ、お礼ページに画像を挿入し、視覚的に考える人にアピールします。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

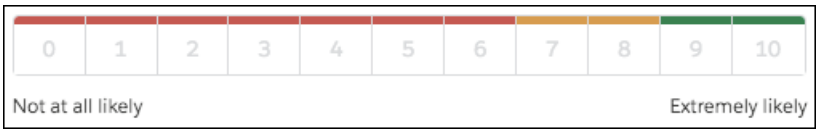
方法: 質問、お知らせページ、またはお礼ページのリッチテキストエディタで をクリックします。



色分けされたスケールによるネットプロモータースコア® の改善

ネットプロモータースコア® (NPS®) 質問種別のスケールが色分けされました。参加者は色を参考にして NPS スケールを把握できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

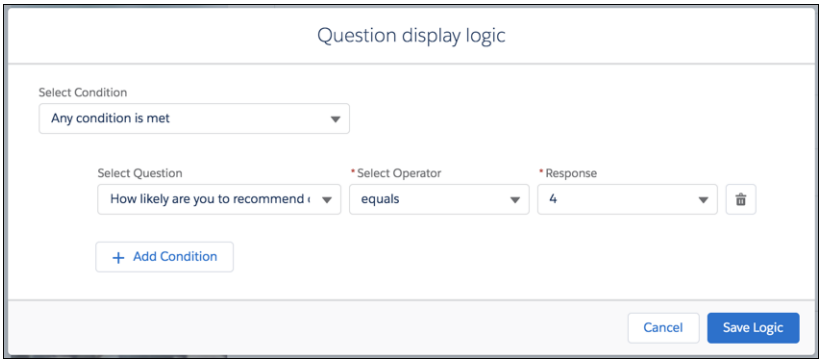


参加者の回答に基づいた質問の表示

ページで参加者に表示する質問を選択します。ページの前の質問への参加者の回答に基づいて、次に表示する質問を決定します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: 前の質問への回答に基づいて表示する質問で、[表示ロジック] をクリックします。[質問の表示ロジック] モーダルで、質問を表示するための基準となる条件を定義します。

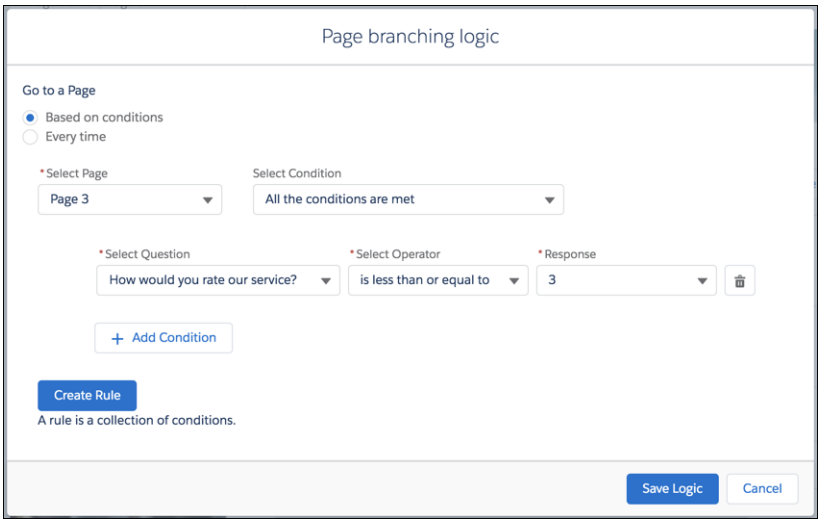


参加者の回答でパスを決定

複数のパスを含むジャーニーを作成し、前のページの質問の回答に基づいて、アンケート参加者に最も適したパスを表示します。ページの分岐ロジックを使用して、前のページの回答に基づいて、参加者に次に表示するページを決定します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 作成する分岐ロジックの対象のページで をクリックします。[ページの分岐ロジック] モーダルで、条件を設定するか、参加者が特定のページに無条件に移動するようにします。ページの分岐ロジックを使用すると、参加者がアンケートを送信してお礼ページに直接移動するようにできます。

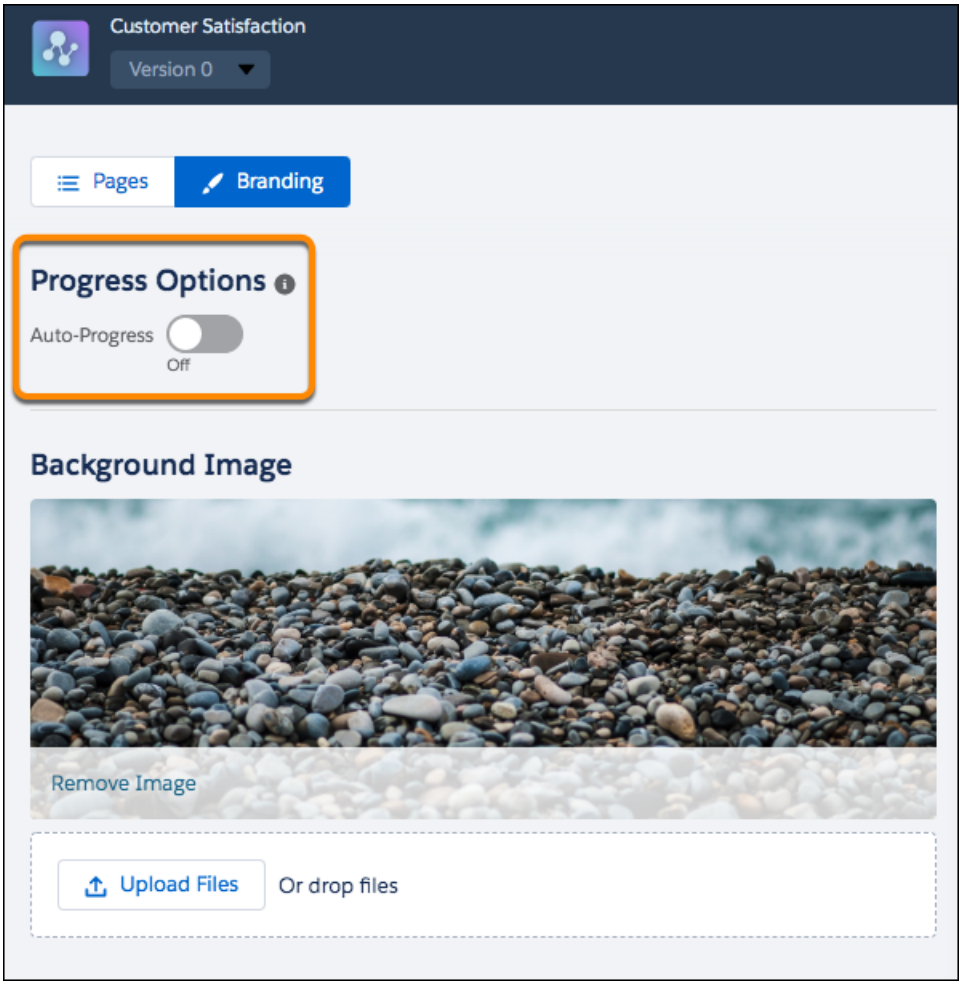


1 回少ないクリックで次のページへ移動

自動進行を有効にして、アンケート参加者のクリックを 1 回節約します。ページの最後の質問に回答したら、参加者は次のページに直接移動します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ブランド] タブで [自動進行] を有効にします。



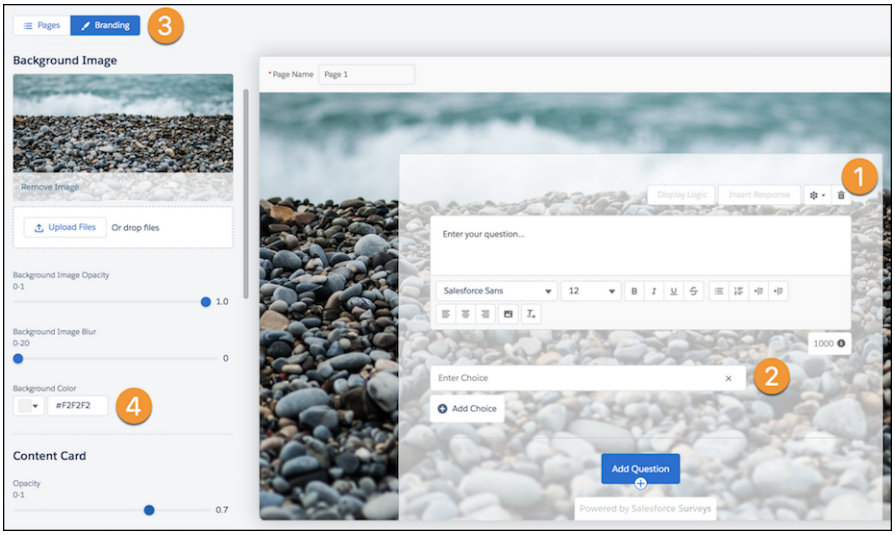
ユーザエクスペリエンスの機能強化

より多くのオプションと、より少ないクリックにより、アンケートの作成者および参加者のアンケート環境が改善されました。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: 次の新機能があります。

- **コンテンツカードの不透明度を変更できるようになりました** (1)。
- **デスクトップでは、複数選択、単一選択、および選択リスト質問種別の回答の選択肢ボタンの幅が短くなりました。また、回答の選択肢ボタンの不透明度を変更できるようになりました** (2)。
- [ページ] タブと [ブランド] タブの表示が改善されました (3)。
- **アンケートのデフォルトの背景色が白に変更されました** (4)。
- **ランキング項目ボタンの色が回答の選択肢ボタンの色に応じて変わります。**



質問種別名の変更

*「ラジオボタン」*式の質問を*「単一選択」*に名前変更し、*「複数選択肢」*を*「複数選択」*に名前変更しました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Customer Lifecycle Analytics を使用した顧客アンケートデータのアクション可能なインテリジェンスへの変換

Customer Lifecycle Analytics アプリケーションを使用すると、アンケートの回答の総計値を Salesforce の任意の場所に表示できます。顧客に関するインサイトを、作業している場所からすぐに得ることができます。アプリケーションのダッシュボードを Salesforce ページに埋め込んで、さまざまな顧客タッチポイントでフィードバックループを構築し、コンテキストフィードバックを収集して、顧客プロセスがどのように機能しているかを確認します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この機能は、2020 年 2 月下旬までに使用可能になります。

対象ユーザ: Customer Lifecycle Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Customer Lifecycle Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Customer Lifecycle Analytics]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

アンケートメールのブランド設定に関する権限の変更

アンケート参加者に送信する招待メールの設定にアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Lightning Scheduler: ゲストユーザのスケジュール、Lightning Scheduler 用 Chronos、簡素化された設定

予定のスケジュールをゲストユーザにまで拡張し、Einstein ボットをインストールして Lightning Scheduler とチャットまたは SMS を一緒に使用します。

このセクションの内容:

ゲストユーザによるインバウンド予定のスケジュール
未認証のゲストユーザは、Lightning Scheduler のセルフサービスインターフェースを使用して予定をスケジュールできます。Lightning Scheduler では、Lightning Scheduler オブジェクトのゲストユーザセキュリティが強化され、[受信 新規ゲスト予定] 標準フローテンプレートが含まれるようになりました。ゲストユーザの機能強化には、[サービス予定をレビュー] フロー画面コンポーネントの新しい［ゲストユーザの有効化］属性も含まれます。

Lightning Scheduler 設定アシスタントによる設定の簡素化
Lightning Scheduler 設定アシスタントは、Lightning Scheduler を設定するための例が組み込まれた一元的なインターフェースをシステム管理者に提供します。この機能は、Lightning Scheduler を初めて使用するシステム管理者に設定手順を示し、進行状況インジケータを含みます。

Lightning Scheduler と Einstein ボットの組み合わせ
Lightning Scheduler の新しい Einstein ボットである Chronos により、顧客はチャットまたは SMS を使用して Lightning Scheduler の予定をスケジュール、表示、再スケジュール、およびキャンセルすることができます。Chronos は AppExchange から入手できる未管理パッケージです。ビジネスプロセスに合わせた設定が可能で、スケジュールインテントについて事前トレーニング済みの自然言語が含まれています。

スキル照合の適用
Lightning Scheduler では、サービスリソースの予定でスキルおよびスキルレベルの照合が適用されるようになりました。

割り当て済みリソースからサービス予定へのアクセス
ユーザはサービス予定と Salesforce の行動の間をトラバースできるようになりました。この変更により、Salesforce カレンダーの行動に関連するサービス予定を表示または削除するために必要なクリック数が減少します。

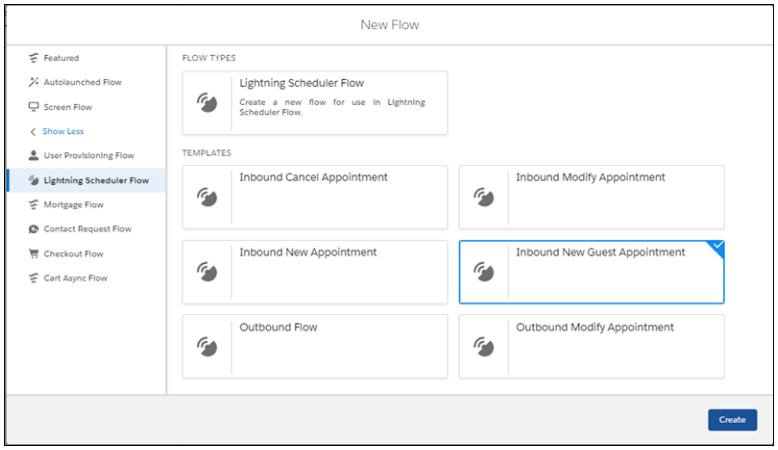
Lightning Scheduler API コールの活用
Lightning Scheduler には、2 つの新しい API と、予定時間枠の取得 API 用の新しい項目と追加機能があります。Lightning Scheduler の新しい API コールを使用して、サービス予定の作成またはサービステリトリーの取得を行います。マルチリソーススケジュールの予定時間枠を取得する場合、新しい `primaryResourceId` 項目を使用してプライマリリソースを指定します。

ゲストユーザによるインバウンド予定のスケジュール

未認証のゲストユーザは、Lightning Scheduler のセルフサービスインターフェースを使用して予定をスケジュールできます。Lightning Scheduler では、Lightning Scheduler オブジェクトのゲストユーザセキュリティが強化され、[受信新規ゲスト予定]標準フローテンプレートが含まれるようになりました。ゲストユーザの機能強化には、[サービス予定をレビュー] フロー画面コンポーネントの新しい［ゲストユーザの有効化］属性も含まれます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 開始するには、新しい [受信 新規ゲスト予定] 標準フローテンプレートをコピーして変更するか、Flow Builder で独自のフローを作成できます。



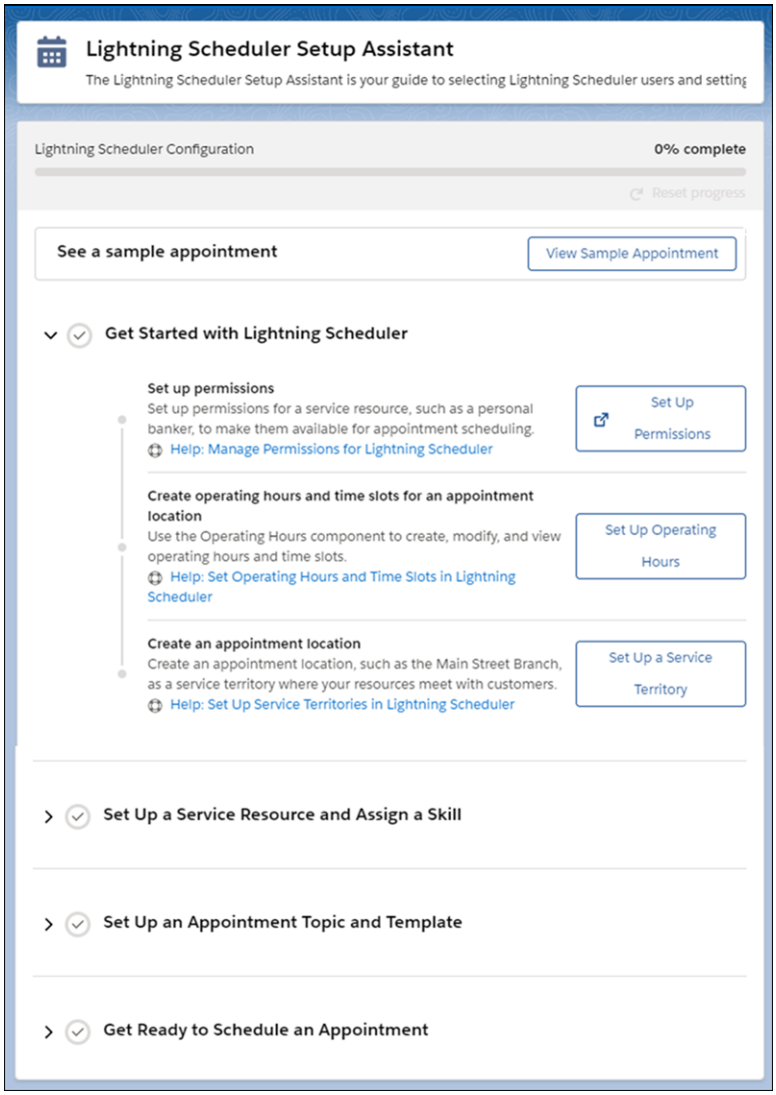
Lightning Scheduler 設定アシスタントによる設定の簡素化

Lightning Scheduler 設定アシスタントは、Lightning Scheduler を設定するための例が組み込まれた一元的なインターフェースをシステム管理者に提供します。この機能は、Lightning Scheduler を初めて使用するシステム管理者に設定手順を示し、進行状況インジケータを含みます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Scheduler を使用する新しい組織: アプリケーションランチャーから **[Lightning Scheduler 設定]** アプリケーションを見つけて開きます。

Lightning Scheduler を使用する既存の組織: アプリケーションマネージャで [Lightning Scheduler 設定] アプリケーションを編集します。[ナビゲーション項目] で [Lightning Scheduler 設定アシスタント] を [選択済みの項目] に移動します。次に、アプリケーションランチャーから **[Lightning Scheduler 設定]** アプリケーションを見つけて開き、**[Lightning Scheduler 設定アシスタント]** タブをクリックします。



関連トピック:

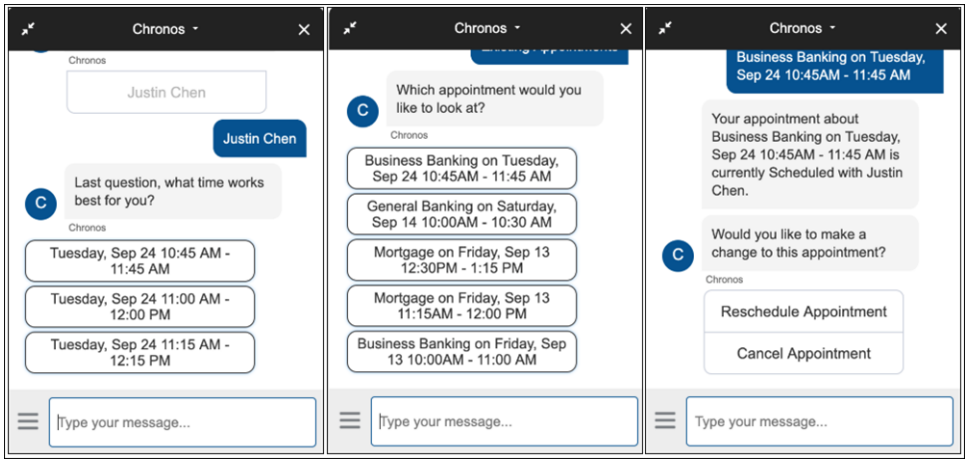
Salesforce ヘルプ: Lightning Scheduler 設定アシスタントガイダンスの使用 (省略可能) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Scheduler と Einstein ボットの組み合わせ

Lightning Scheduler の新しい Einstein ボットである Chronos により、顧客はチャットまたは SMS を使用して Lightning Scheduler の予定をスケジュール、表示、再スケジュール、およびキャンセルすることができます。Chronos は AppExchange から入手できる未管理パッケージです。ビジネスプロセスに合わせた設定が可能で、スケジュールインテントについて事前トレーニング済みの自然言語が含まれています。

対象: この変更は、Einstein ボットおよび Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:開始するには、Salesforce**のチャット用組み込みサービスを使用して**Web**サイトまたはモバイルアプリケーションに** Chronos **を埋め込むか、**SMS **番号を有効化します。**



関連トピック:

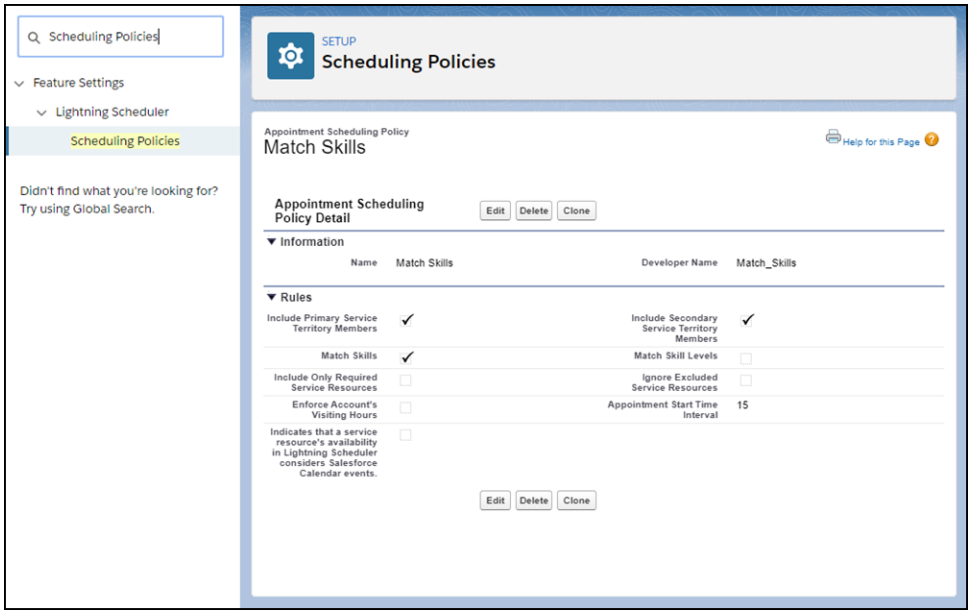
AppExchange: Chronos Bot: Lightning Scheduler Appointment Management (Chronos **ボット**: Lightning Scheduler **予定管理**)

スキル照合の適用

Lightning Scheduler **では、サービスリソースの予定でスキルおよびスキルレベルの照合が適用されるようになりました。**

対象: この変更は、Lightning Scheduler **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: 開始するには、Lightning Scheduler **の** [スケジュールポリシー] **で** [スキルを照合] **を編集し、適用するルールを選択します。**



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Scheduler でのスキル照合の適用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

割り当て済みリソースからサービス予定へのアクセス

ユーザはサービス予定と Salesforce の行動の間をトラバースできるようになりました。この変更により、Salesforce カレンダーの行動に関連するサービス予定を表示または削除するために必要なクリック数が減少します。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Lightning Scheduler API コールの活用

Lightning Scheduler には、2 つの新しい API と、予定時間枠の取得 API 用の新しい項目と追加機能があります。Lightning Scheduler の新しい API コールを使用して、サービス予定の作成またはサービステリトリーの取得を行います。マルチリソーススケジュールの予定時間枠を取得する場合、新しい `primaryResourceId` 項目を使用してプライマリリソースを指定します。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

REST API

デフォルト項目値を含むレコードの作成ページへの移動

デフォルト項目値を新規レコードに渡すカスタムボタンとリンクを作成します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience **に適用されます。この変更は、**Lightning Out、Lightning **コミュニティ、**Salesforce **モバイルアプリケーションには適用されません。**

方法: 事前入力された項目値を含む新規レコードを開始するカスタムボタンまたはリンクを作成するには、次のサンプル数式を使用します。

```
/lightning/o/Account/new?defaultFieldValues=
    Name={!URLENCODE(Account.Name)},
    OwnerId={!Account.OwnerId},
    AccountNumber={!Account.AccountNumber},
    NumberOfEmployees=35000,
    CustomCheckbox__c={!IF(Account.SomeCheckbox__c, true, false)}
```

重要: `URLENCODE` **関数は、カスタムボタンおよびカスタムリンクを作成する場合のみ機能します。これをカスタム項目で使用することはできません。**

関連トピック:

デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移動

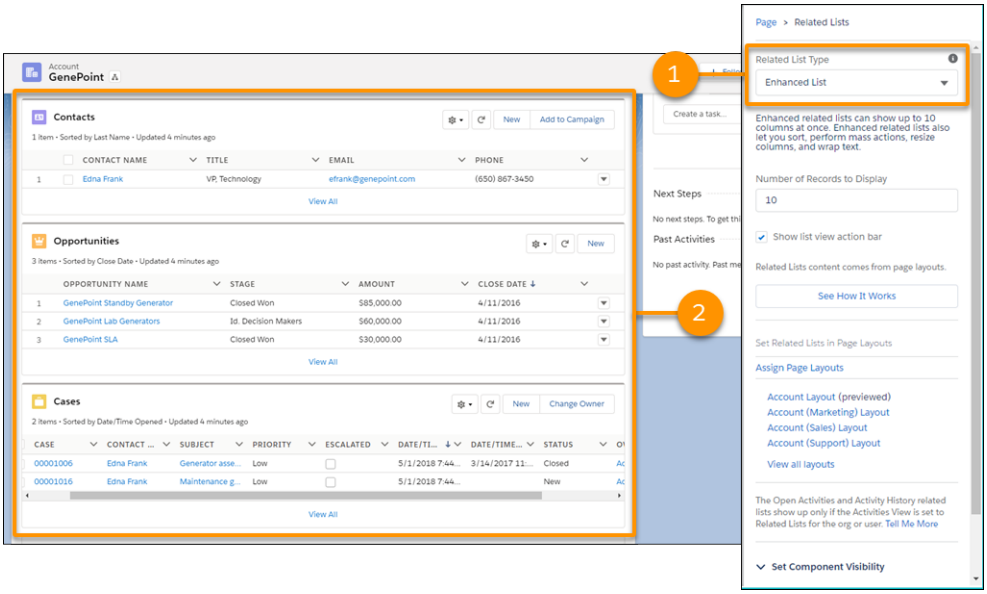
拡張関連リストによる関連リストの強化 (正式リリース)

関連リストを強化しましょう。正式リリースされた拡張関連リストでは、最大 10 **列の表示、列のサイズ変更と並び替え、一括アクションの実行、およびテキストの折り返しを行うことができます。**

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: Lightning **アプリケーションビルダーの関連リストコンポーネントで、[関連リスト種別] ドロップダウンリストから [拡張リスト] を選択します** (1)。**一度に表示するレコード数と、リストビューアクションバーの表示/非表示をカスタマイズできます。**

拡張リストを選択すると、コンポーネントのすべての関連リストに反映されます (2)。**特定の関連リストに表示される列をカスタマイズするには、ページレイアウトエディタで関連リストを編集して項目を追加してください。**



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:関連リストのカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Lightning Experience での 5 項目以上の関連リスト

セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)

Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[セッションの設定] ページから HTTPS 接続を無効にできる [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が削除されます。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、Sandbox では 2020 年 1 月 30 日、本番組織では 2020 年 5 月 1 日に自動的に有効化されます。

方法: この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストしてから Salesforce 本番組織で有効にすることをお勧めします。自動有効化日付の前までに、HTTPS 接続をサポートするように環境が設定されていることを確認し、HTTP プレフィックス付きのすべてのブックマークとリンクを更新します。

自動有効化日付より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[セキュアな HTTPS 接続が必要] で [有効化] をクリックします。

メモ: この重要な更新が表示されない場合は、組織で [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定がすでに有効になっているため、アクションは不要です。

関連トピック:

Salesforce インテグレーションを破損する可能性がある、SameSite Cookie の動作に関する Google Chrome の変更への準備

重要な更新とセキュリティアラート

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (以前にリリース済みの重要な更新)

HYPERLINK 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は Winter '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、Spring '20 で自動的に有効になります。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。[Lightning Experience で数式項目のハイパーリンクの target 値を適用] で、[承認] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 数式の演算子と関数 A – H (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの重要な更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

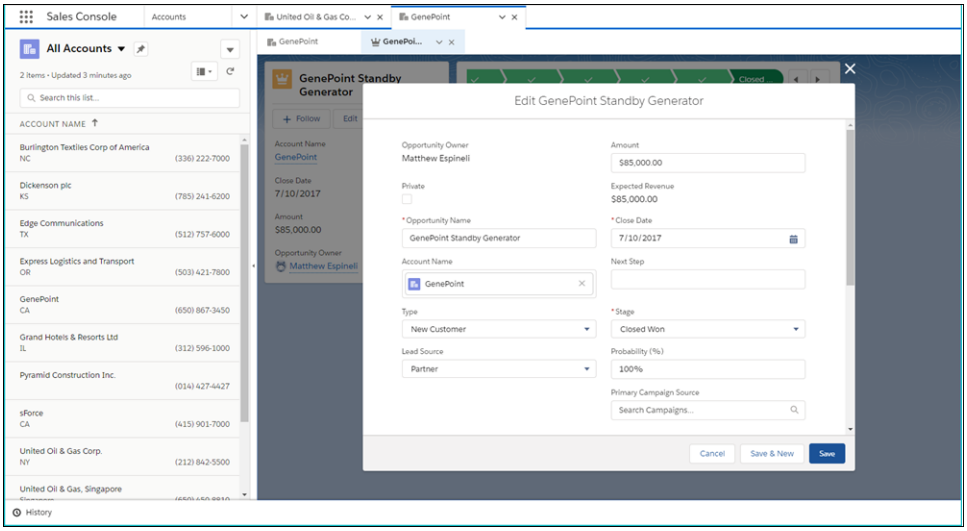
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: この更新はすぐに有効化できます。有効化しない場合、この更新は 2020 年 10 月 19 日に自動的に有効化されます。

理由: Winter '20 リリース以前は、Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブまたはサブタブでトリガされたすべてのダイアログがアプリケーション全体のフォーカスを獲得していました。この更新では、ダイアログが、そのダイアログをトリガしたタブのフォーカスのみを必要とするようになるため、アプリケーションの他の部分とのインタラクションが邪魔されることがなくなります。

方法:2020年10月19日より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新]を選択します。[タブ中心のダイアログを使い続ける方法]で[有効化]をクリックします。

更新後、ダイアログがトリガされても、そのダイアログを作成したタブに制限されます。



関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート

Salesforce CMS: 複数の多様なチャネル、CMS ホーム、および柔軟なレイアウト

Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku など、Salesforce 内外のさまざまなチャネルで Salesforce CMS コンテンツを再利用します。CMS ホームを使用すると、Salesforce CMS アプリケーションから CMS ワークスペースおよびエクスペリエンスビルダーに簡単に移動できます。また、柔軟なレイアウトにより、カスタムコンテンツページに最適なレイアウトを作成できます。

このセクションの内容:

複数のチャネルおよびサイトへの魅力的なコンテンツの配信

Salesforce CMS はハイブリッド CMS になりました。つまり、コンテンツを中央リポジトリで作成し、Salesforce 以外のシステムによって提供される環境とサイトを含む任意のエンドポイントと共有できます。Salesforce CMS でコンテンツを一度作成したら、それをさまざまなチャネル (Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、エクスペリエンスビルダー など) で再利用することで、時間を節約できます。

CMS ホームからすべての CMS にアクセス

CMS ホームでは最初に歓迎メッセージが表示され、ヘルプトピックへの有益なポインタやリンクでより快適な時間を過ごせます。CMS ワークスペースおよびエクスペリエンスビルダーへのナビゲーションタブや新しいエントリにより、目的の場所に移動できます。

B2C Commerce ページデザイナによる Salesforce CMS コンテンツの使用

Salesforce CMS コンテンツと B2C Commerce ページデザイナを使用して、顧客向けのコンテンツ駆動型のリッチなショッピング体験を開発します。B2C Commerce チャネルを CMS ワークスペースに追加して、コンテンツにアクセスします。その後、クラウド全体で一貫したカスタマーエクスペリエンスを作成します。

他の内部および外部エンドポイントへのチャンネルコンテンツ

顧客が使用するすべての場所で同じ Salesforce CMS コンテンツを使用して、カスタマーエクスペリエンスを向上させます。Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、または-サードパーティシステムチャネルを作成して、Delivery API を使用してそれらのエンドポイントで Salesforce CMS コンテンツを使用します。

CMS ワークスペースおよびチャネルの管理

Salesforce CMS ワークスペースおよび CMS チャネルを管理するユーザを制御できるように、ユーザ権限が更新されました。「CMS ワークスペースを作成」ユーザ権限は、「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」と呼ばれるようになりました。有効にすると、「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」権限により、ユーザは CMS ワークスペースの作成と編集、および CMS チャネルの追加が可能になります。

柔軟なレイアウトを使用した CMS コンテンツの強化

CMS コンテンツページを柔軟なレイアウトで自由に作成し、エクスペリエンスビルダーで高度にカスタマイズされたページを構築できます。調整可能な列と簡単に追加できるセクションで夢のようなデザインを実現できます。背景の画像と色を使用してあらゆるデザインを可能にします。

Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツの削除

不要になったコンテンツを削除して、CMS ワークスペースを整理し、コンテンツの上限を超えないようにします。

date、datetime、および URL ノードを使用したカスタムコンテンツタイプの強化

Salesforce CMS のカスタムコンテンツタイプを作成するときに、重要な日付、時間、タイムゾーンの詳細を含め、他のリソースへのリンクを追加できます。

ユーザが必要な CMS コンテンツを見つけやすくする

Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、その他のサイト環境からのコミュニティチャネル内の検索を設定します。ユーザが必要な Salesforce CMS コンテンツを簡単に見つけて、ビジネスへのエンゲージメントを維持できるようにします。

Salesforce CMS ワークスペースに動画をさらに追加

Salesforce CMS リッチテキストエディタの動画サポートに 4 つの新しいプロバイダが含まれるようになりました。既存の動画プロバイダに加えて、Wistia、Brightcove、Cloudinary、Amplience からの動画でコンテンツを強化できるようになりました。

複数のチャネルおよびサイトへの魅力的なコンテンツの配信

Salesforce CMS はハイブリッド CMS になりました。つまり、コンテンツを中央リポジトリで作成し、Salesforce 以外のシステムによって提供される環境とサイトを含む任意のエンドポイントと共有できます。Salesforce CMS でコンテンツを一度作成したら、それをさまざまなチャネル (Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、エクスペリエンスビルダー など) で再利用することで、時間を節約できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。CMS チャネルおよびワークスペースを作成するには、「CMS ワークスペースおよびチャネルの管理」ユーザ権限を有効にします。

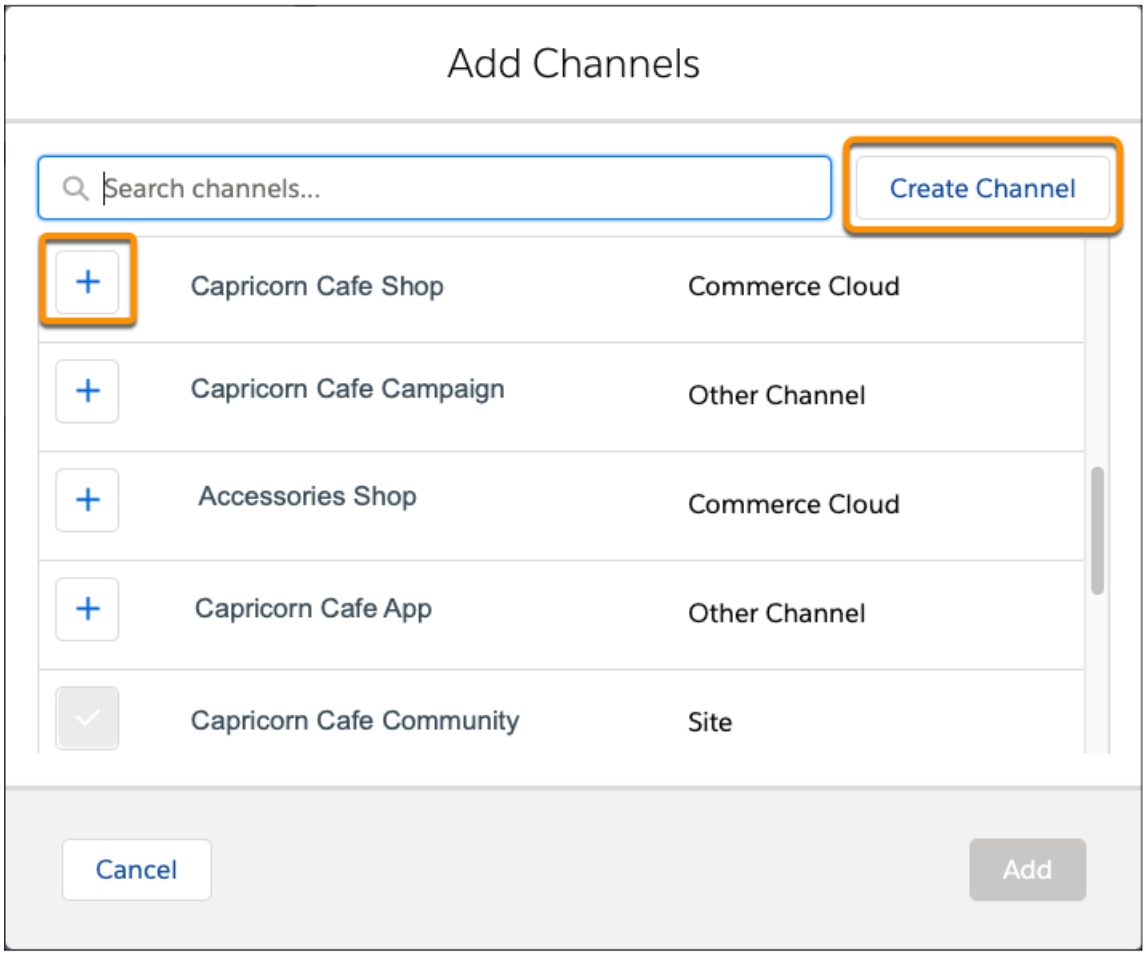
理由: Salesforce CMS は、従来の CMS でよく見られるコンテンツとプレゼンテーション間の密接なつながりが解消されます。以前は、Salesforce CMS コンテンツはコミュニティでのみ使用可能でしたが、新しい混合的なアプローチでは、Salesforce CMS を使用して Salesforce 内外のより多くのエンドポイントを使用できます。コンテンツをプレゼンテーションから分離することで、Salesforce CMS にコンテンツを追加してから、それを共有するチャネルを決定できます。その後、コンテンツを表示するさまざまな Web サイト、ポータル、またはモバイルアプリケーションにコンテンツを追加します。

Salesforce CMS の新しい混合的なアプローチをサポートするために、次の機能が追加されました。

- CMS ホーム: CMS ワークスペースとエクスペリエンスビルダーへの合理化されたエントリを提供
- B2C Commerce チャネルの接続オプション
- 他の内部および外部エンドポイントの接続オプション

方法: Salesforce CMS ホームおよび Salesforce CMS の [CMS チャネル] タブにアクセスするには、[設定] で関連ユーザプロファイルを開きます。[タブの設定] セクションで、[CMS チャネル]、[CMS エクスペリエンス]、[CMS ホーム]、[CMS ワークスペース] を [デフォルトで表示] に設定します。

Salesforce アプリケーションランチャーから、**Salesforce CMS** アプリケーションを見つけて開きます。**[CMS チャネル]**を選択します。**[チャネルを追加]**を選択して既存のチャネルを追加するか、**[チャネルを作成]**を選択してチャネルを作成します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce コンテンツ管理システム (CMS)

CMS ホームからすべての CMS にアクセス

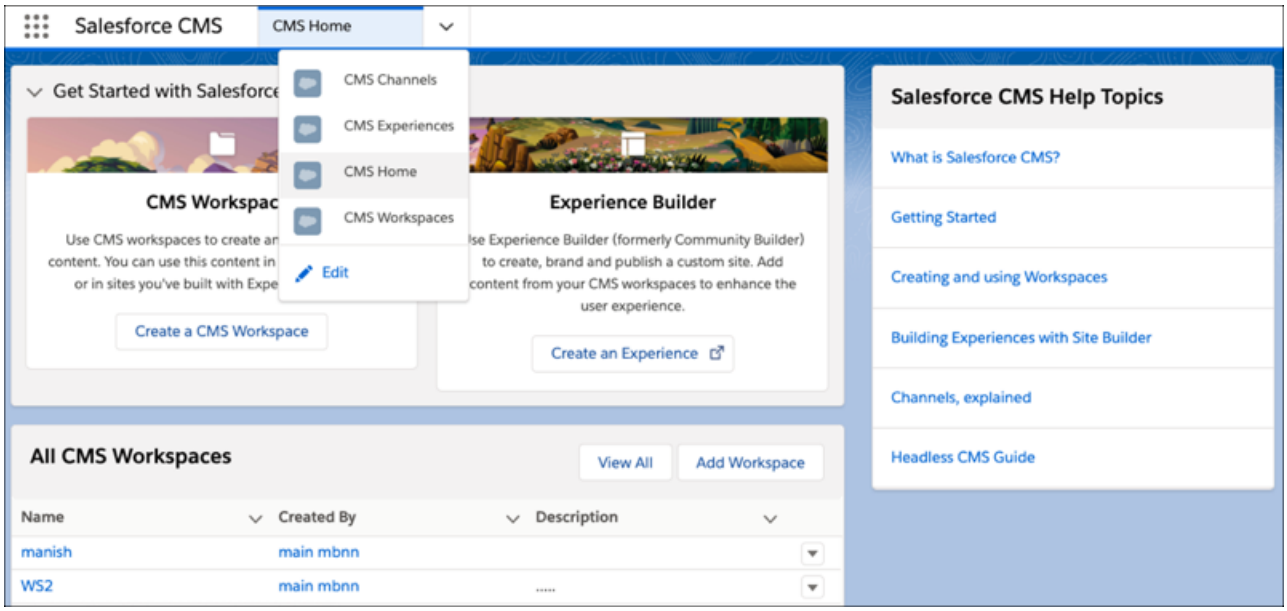
CMS ホームでは最初に歓迎メッセージが表示され、ヘルプトピックへの有益なポインタやリンクでより快適な時間を過ごせます。CMS ワークスペースおよびエクスペリエンスビルダーへのナビゲーションタブや新しいエントリにより、目的の場所に移動できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

方法: Salesforce CMS ホームへのアクセスを有効にするには、[設定] で関連ユーザプロファイルを開きます。[タブの設定] セクションで、[CMS エクスペリエンス]、[CMS ホーム]、[CMS ワークスペース] を [デフォルトで表示] に設定します。

Salesforce アプリケーションランチャーから、**Salesforce CMS** アプリケーションを見つけて開きます。[CMS ホーム] タブを使用して、[CMS チャネル]、[CMS エクスペリエンス]、[CMS ワークスペース] にアクセスします。[CMS ホーム] ページのタイルから CMS ワークスペースや CMS エクスペリエンスを作成します。



B2C Commerce ページデザイナによる Salesforce CMS コンテンツの使用

Salesforce CMS コンテンツと B2C Commerce ページデザイナを使用して、顧客向けのコンテンツ駆動型のリッチなショッピング体験を開発します。B2C Commerce チャネルを CMS ワークスペースに追加して、コンテンツにアクセスします。その後、クラウド全体で一貫したカスタマーエクスペリエンスを作成します。

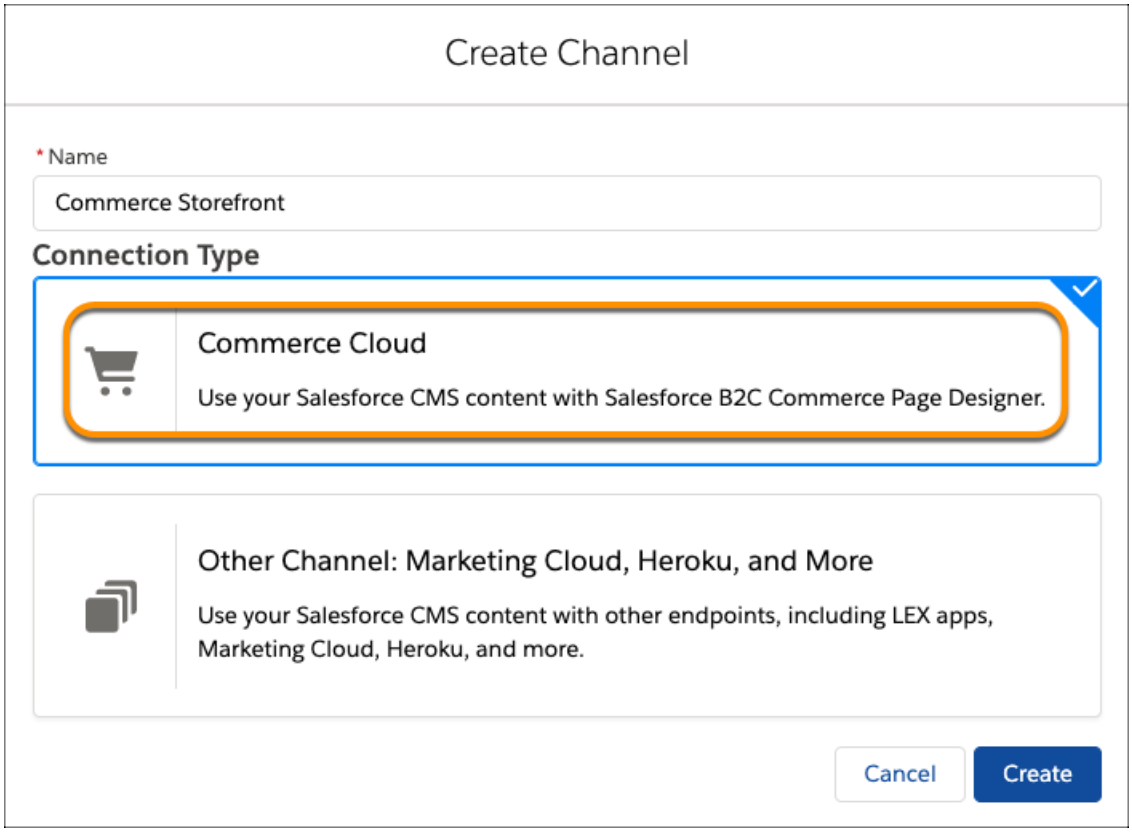
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースのコンテンツ管理者である必要があります。CMS チャネルおよびワークスペースを作成するには、「CMS ワークスペースおよびチャネルの管理」ユーザ権限を有効にします。

方法: Salesforce CMS と B2C Commerce インスタンス間の信頼関係を確立するように Salesforce サポートまたはサクセスマネージャに依頼してください。

関係が確立されたら、Salesforce アプリケーションランチャーから **Salesforce CMS** アプリケーションを見つけて開きます。[CMS チャネル] で、[チャネルを作成] を選択します。チャネルに名前を付けて、**[Commerce Cloud]** > **[作成]** を選択します。次に、B2C Commerce チャネルを CMS ワークスペースに追加します。

B2C Commerce ページデザイナで CMS コンテンツを使用するには、Business Manager システム管理者が Business Manager で接続済み Commerce Cloud インスタンスを設定する必要があります。



関連トピック:

複数のチャネルおよびサイトへの魅力的なコンテンツの配信

他の内部および外部エンドポイントへのチャンネルコンテンツ

顧客が使用するすべての場所で同じ Salesforce CMS コンテンツを使用して、カスタマーエクスペリエンスを向上させます。Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、または-サードパーティシステムチャネルを作成して、Delivery API を使用してそれらのエンドポイントで Salesforce CMS コンテンツを使用します。

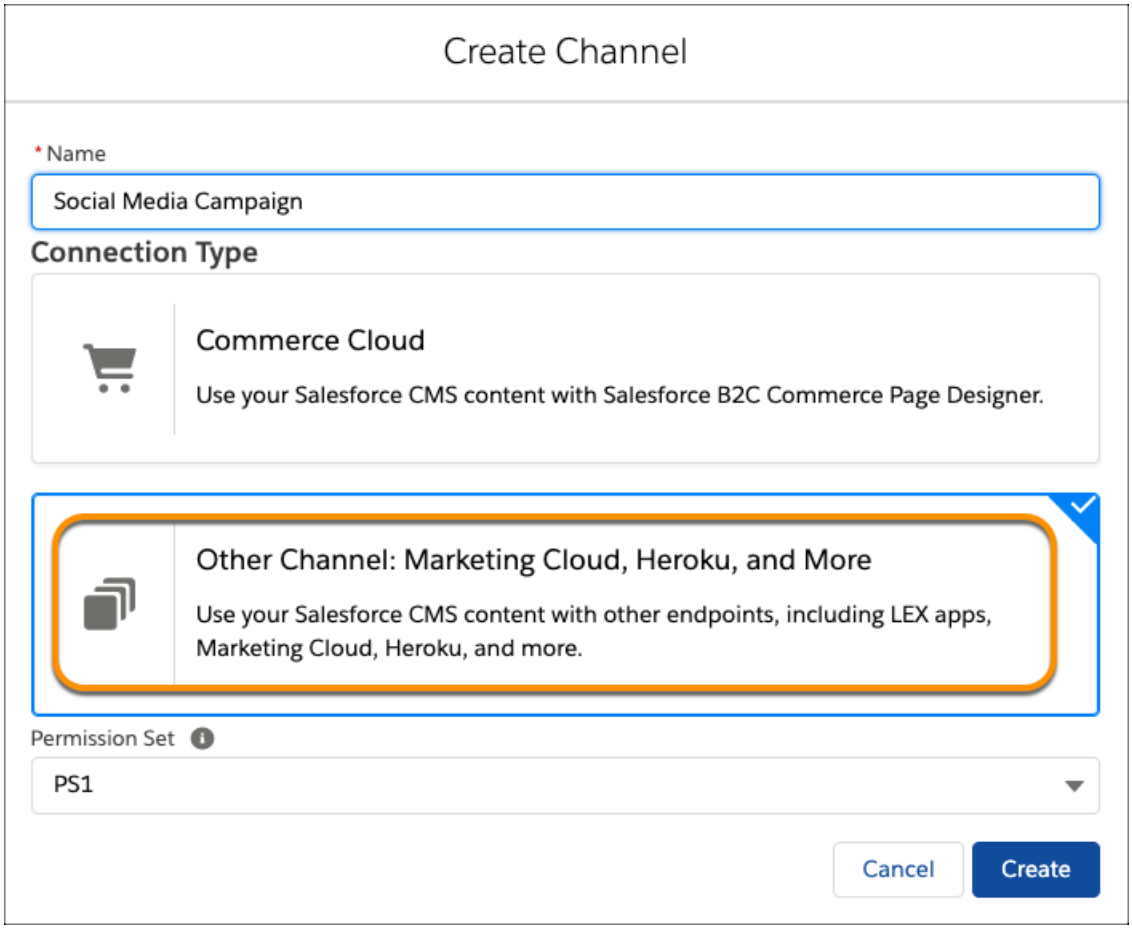
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースのコンテンツ管理者である必要があります。CMS チャネルおよびワークスペースを作成するには、「CMS ワークスペースおよびチャネルの管理」ユーザ権限を有効にします。

方法: Salesforce CMS ホームへのアクセスを有効にするには、[設定] で関連ユーザプロファイルを開きます。[タブの設定] セクションで、[CMS エクスペリエンス]、[CMS ホーム]、[CMS ワークスペース] を [デフォルトで表示] に設定します。

Salesforce アプリケーションランチャーから、**Salesforce CMS** アプリケーションを見つけて開きます。**[CMS チャネル] > [チャネルを作成]** を選択します。チャネルに名前を付けて、**[他のチャネル]** (Marketing Cloud や Heroku) な

どを選択します。[権限セット] を選択して [作成] を選択します。CMS ワークスペースから、[チャネルを追加] を選択します。次に、作成したチャネルを追加します。



Chatter REST API と Chatter in Apex では、チャネルの取得 (ベータ) およびチャネルの管理コンテンツの取得 (ベータ) がサポートされています。

CMS ワークスペースおよびチャネルの管理

Salesforce CMS ワークスペースおよび CMS チャネルを管理するユーザを制御できるように、ユーザ権限が更新されました。「CMS ワークスペースを作成」ユーザ権限は、「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」と呼ばれるようになりました。有効にすると、「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」権限により、ユーザは CMS ワークスペースの作成と編集、および CMS チャネルの追加が可能になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。CMS チャネルおよびワークスペースを作成するには、「CMS ワークスペースおよびチャネルの管理」ユーザ権限を有効にします。

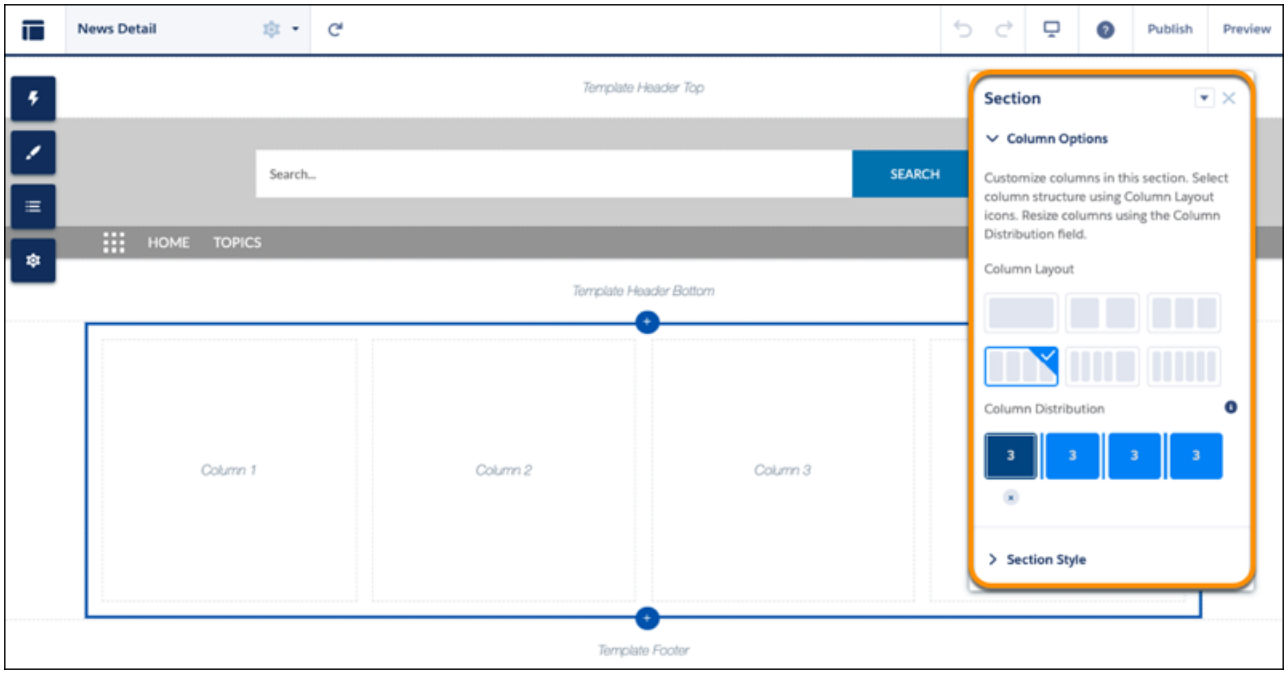
方法: Salesforce システム管理者の場合、「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」権限はデフォルトで有効になっています。

柔軟なレイアウトを使用した CMS コンテンツの強化

CMS コンテンツページを柔軟なレイアウトで自由に作成し、エクスペリエンスビルダーで高度にカスタマイズされたページを構築できます。調整可能な列と簡単に追加できるセクションで夢のようなデザインを実現できます。背景の画像と色を使用してあらゆるデザインを可能にします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Salesforce CMS および Lightning コミュニティに適用されます。

方法: Salesforce アプリケーションランチャーから、**Salesforce CMS** アプリケーションを見つけて開きます。**[CMS エクスペリエンス]** > **[ビルダー]** を開きます。**[新規ページ]** > **[CMS コンテンツページ]** を作成します。コンテンツタイプを選択し、ページを構築します。



メモ:

- Winter '20 より前に作成された CMS コンテンツページには影響せず、それらを作成するために使用された静的レイアウトは維持されます。既存のページを柔軟なレイアウトに変換するには、ページを削除してから再作成します。
- 新しいデフォルトの [ニュースの詳細] ページでも柔軟なレイアウトが使用されます。

関連トピック:

date、datetime、および URL ノードを使用したカスタムコンテンツタイプの強化
柔軟なレイアウトをさらに拡張

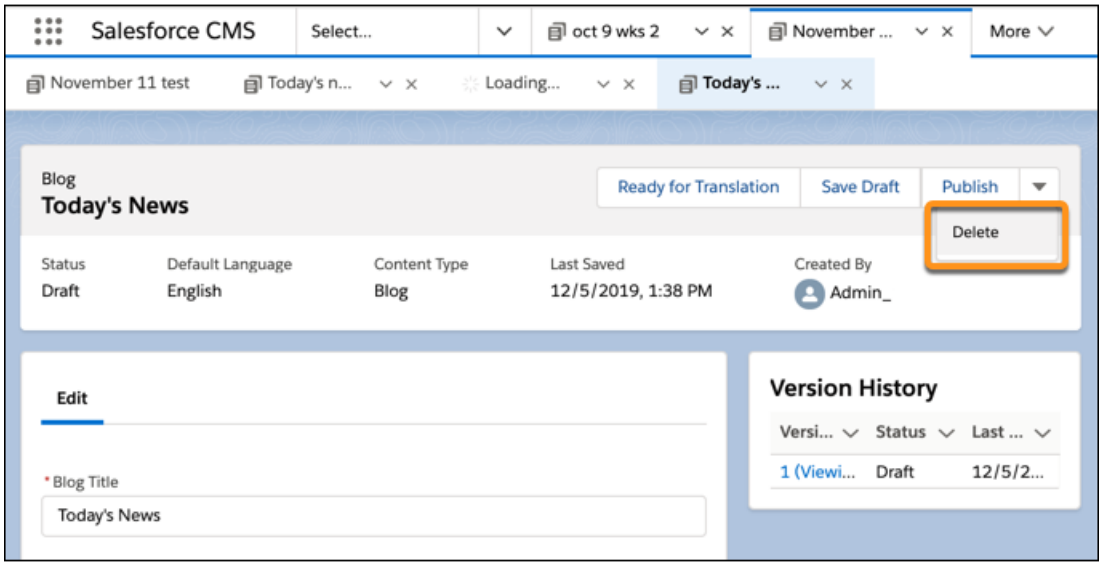
Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツの削除

不要になったコンテンツを削除して、CMS ワークスペースを整理し、コンテンツの上限を超えないようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを削除するには、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

方法: Salesforce CMS で、CMS ワークスペースを開き、削除するコンテンツ項目を選択します。コンテンツの詳細ページで、ページヘッダーのアクションリストから [削除] をクリックします。



メモ: 削除できるのは非公開コンテンツのみです。公開コンテンツを削除するには、最初に非公開にしてください。

コンテンツ項目に複数のバージョンを含めることができますが、特定の項目の 1 つのバージョンを削除すると、すべてのバージョンが削除されます。アプリケーションランチャーから使用可能なごみ箱から、削除したコンテンツを復元できます。

date、datetime、および URL ノードを使用したカスタムコンテンツタイプの強化

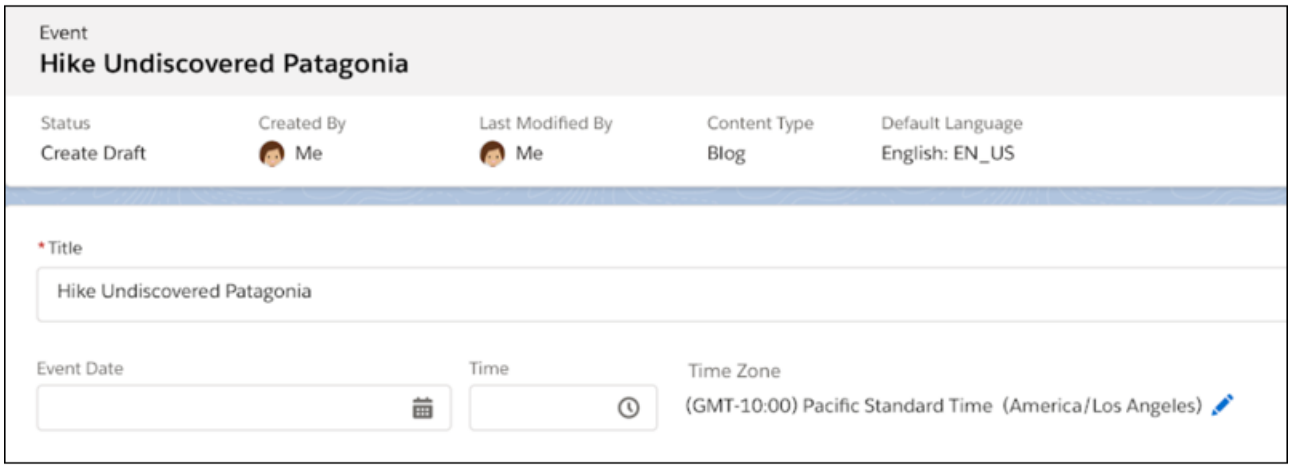
Salesforce CMS のカスタムコンテンツタイプを作成するときに、重要な日付、時間、タイムゾーンの詳細を含め、他のリソースへのリンクを追加できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

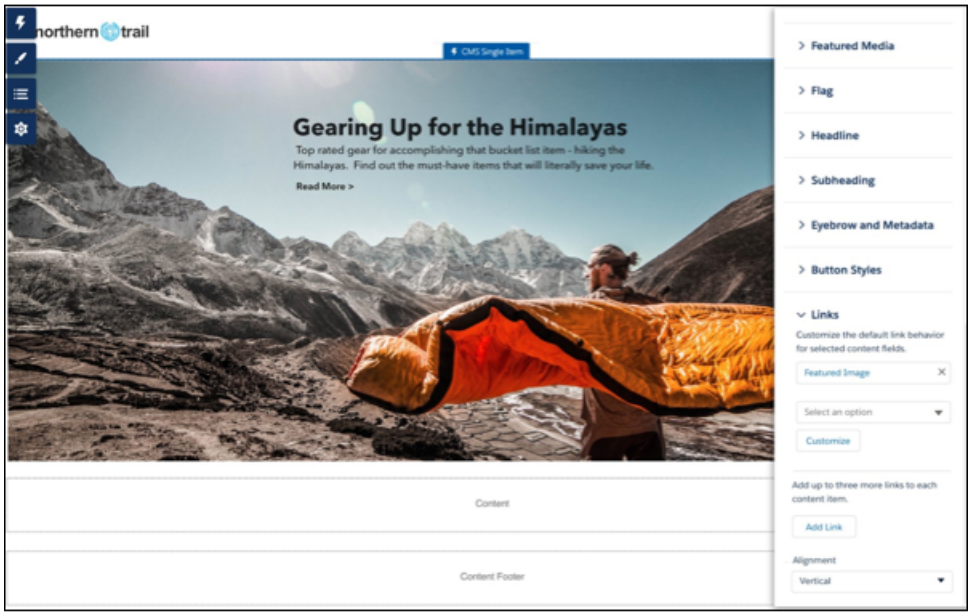
方法: メタデータ API の ManagedContentType を使用して、`date`、`datetime`、および `URL` ノードを含むカスタムコンテンツタイプを設定します。組織でカスタムコンテンツタイプを作成したら、Salesforce CMS アプリケーションにコンテンツを追加するフォームとして表示されます。

CMS ワークスペースで、日付、時間、およびタイムゾーンの詳細をカスタムコンテンツに追加できます。次に、エクスペリエンスビルダーで日付形式をカスタマイズして、この情報をユーザに表示する方法を選択します。



メモ: データノードでは、コンテンツを日付形式でのみ表示できます。日付または時間でコンテンツを絞り込んだり並び替えたりすることはできません。

同様に、Salesforce CMS で URL ノードを使用して、商品、記事、ブログ投稿、その他のメディアタイプへのリンクをコンテンツに含めることができます。エクスペリエンスビルダーでは、URL 表示をさらにカスタマイズして、ユーザがこれらのリンクを表示および操作する方法を制御できます。



関連トピック:

Lightning コミュニティ開発者ガイド: Create Custom Content Types for Salesforce CMS (Salesforce CMS のカスタムコンテンツタイプの作成)

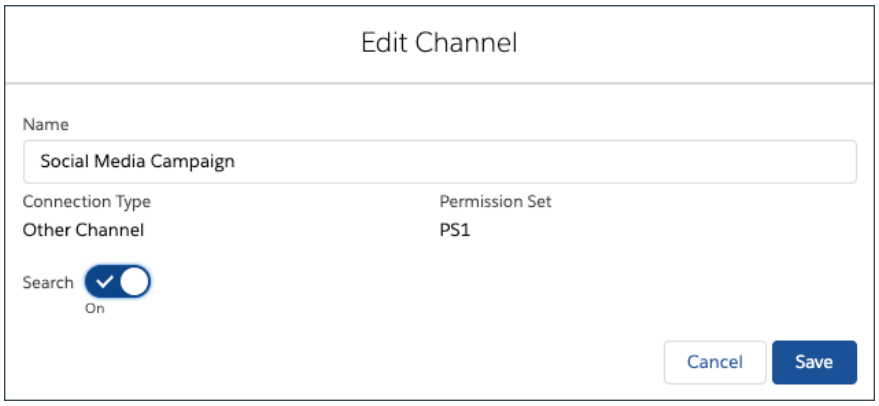
ユーザが必要な CMS コンテンツを見つけやすくする

Commerce Cloud、Marketing Cloud、Heroku、LEX アプリケーション、その他のサイト環境からのコミュニティチャネル内の検索を設定します。ユーザが必要な Salesforce CMS コンテンツを簡単に見つけて、ビジネスへのエンゲージメントを維持できるようにします。

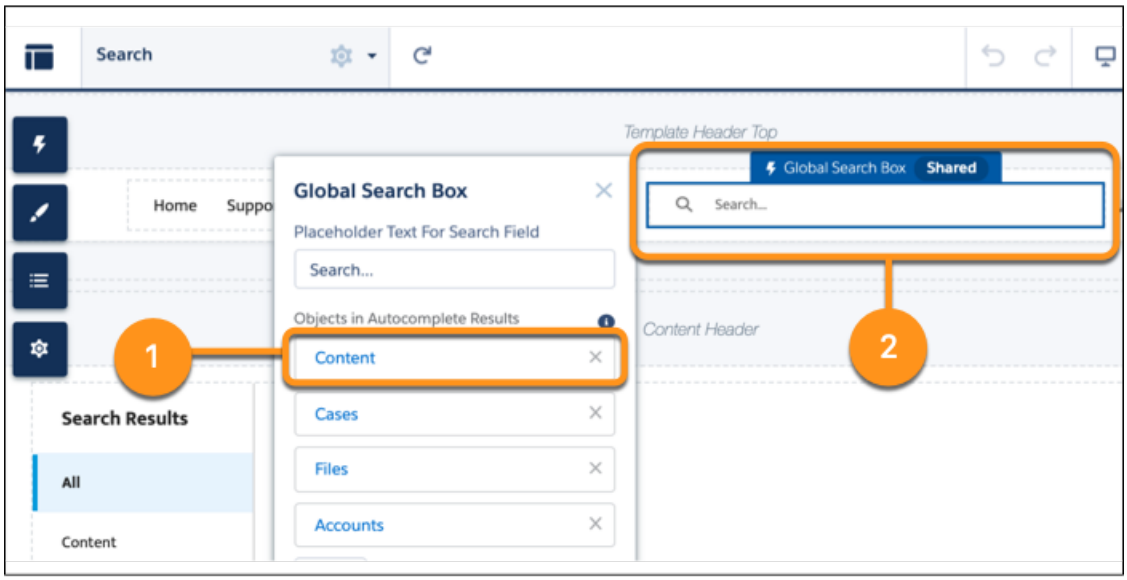
対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Salesforce CMS および Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 検索を有効にする [CMS チャネル] タブにアクセスするには、[設定] で関連ユーザプロファイルを開きます。[タブの設定] セクションで、[CMS チャネル] を [デフォルトで表示] に設定します。

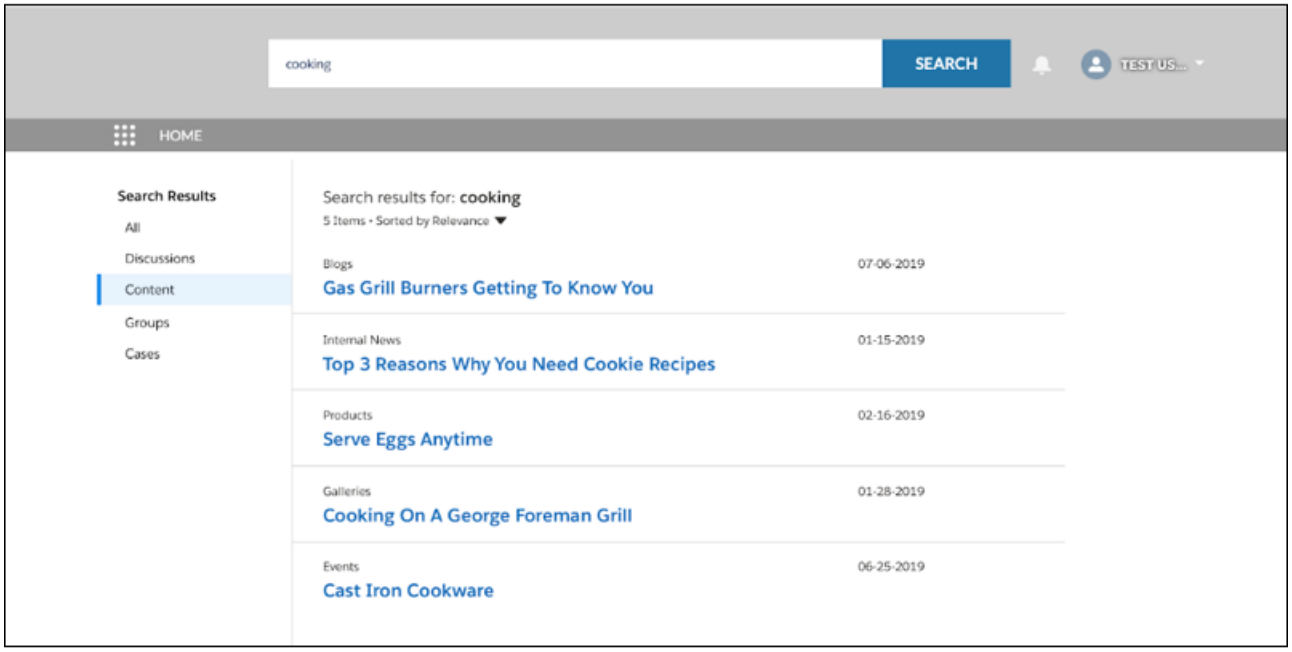
次に、組織のコミュニティチャネルまたは他のカスタムチャネルの検索を有効にするには、Salesforce CMS の [CMS チャネル] タブを開きます。チャネルの横にある > [編集] を選択し、[検索] 切り替えをクリックして、検索を有効にします。



エクスペリエンスビルダーを使用してコンテンツが表示されるコミュニティまたはサイトを作成している場合、チャネルの検索を有効にしたら、グローバル検索ボックスコンポーネントを設定する必要があります。ビルダーを開き、[コンテンツ] オブジェクト (1) を [グローバル検索ボックス] コンポーネント (2) に追加します。



チャネルの検索を有効にしたら、ユーザはその特定のチャネル内で公開されているすべてのCMSコンテンツタイプを検索できます。



メモ: ユーザがコミュニティで検索できるように、カスタムコンテンツタイプのコンテンツ詳細ページを設定します。

Chatter REST API では、管理コンテンツの検索がサポートされています。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:詳細ページの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CMS ワークスペースに動画をさらに追加

Salesforce CMS リッチテキストエディタの動画サポートに4つの新しいプロバイダが含まれるようになりました。既存の動画プロバイダに加えて、Wistia、Brightcove、Cloudinary、Amplience からの動画でコンテンツを強化できるようになりました。

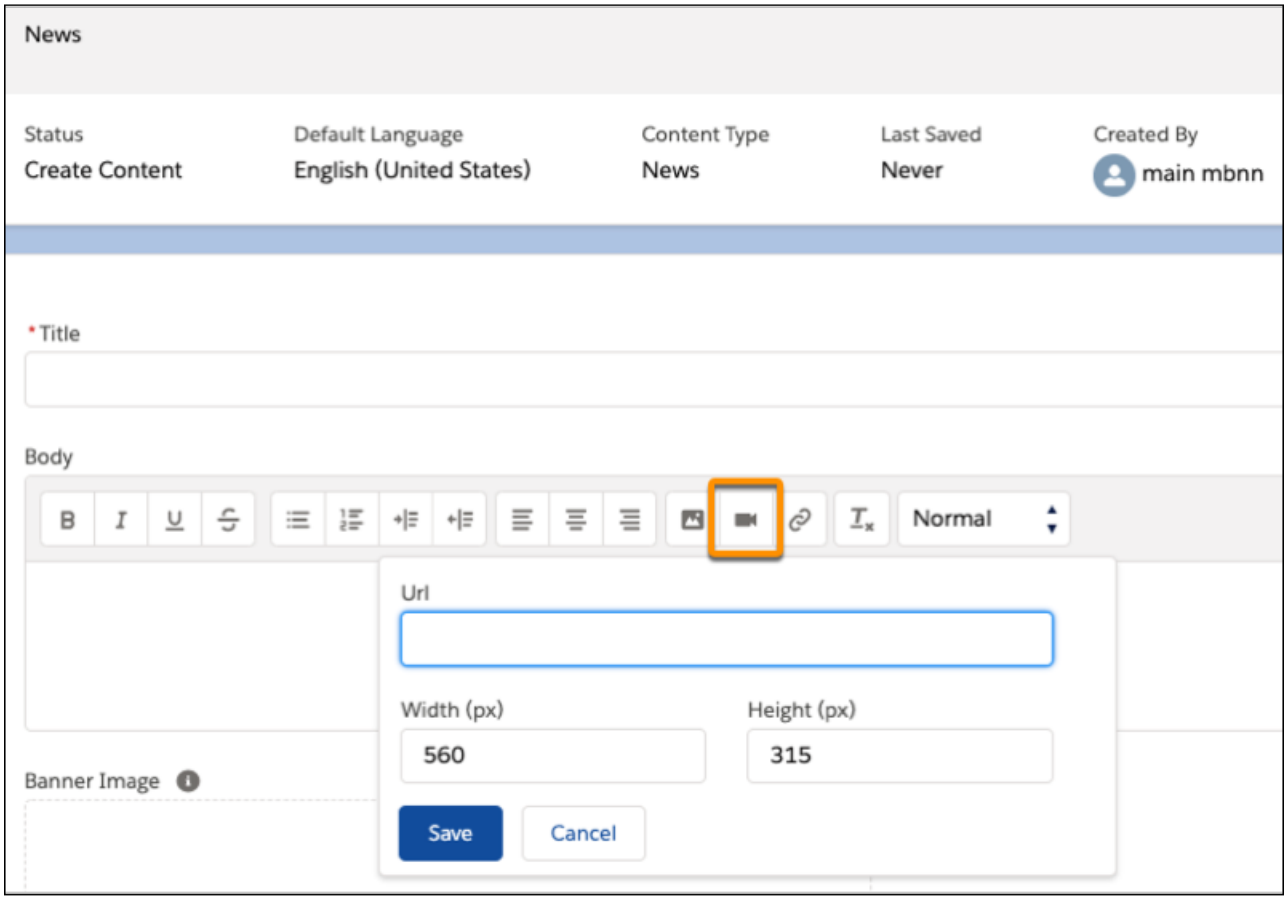
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

方法: Salesforce アプリケーションランチャーから、**Salesforce CMS** を見つけて開きます。CMS ワークスペースを選択して、[コンテンツを作成] を選択します。リッチテキストエディタで アイコンを選択します。次のいずれかのプロバイダからの動画への URL リンクを追加できます。

- YouTube
- Vimeo
- Vidyard

- Wistia
- Brightcove
- Cloudinary
- Amplience



ヒント: 動画がエディタに表示されない場合、URL リンクをクロスオリジンリソース共有 (CORS) のホワイトリストに追加して、Salesforce がリンクにアクセスして動画を表示できるようにします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: CORS を使用した Web ブラウザからの Salesforce リソースへのアクセス

Salesforce Essentials: メール-to-ケースの機能強化、新しいサービス機能、改善されたモバイルアプリケーションおよびアプリケーション内サブスクリプション管理

Google アカウントをメール-to-ケースに直接接続して、サポートメールを Salesforce にすばやく取り込みます。ケースマージを使用してケースリストを整理します。チャットとメッセージングを使用する場合、組み込みチャットウィンドウのチャネルメニューを使用して、連絡方法のメニューを顧客に提供します。Salesforce モバイルアプリケーションには、Essentials のパーソナライズされたナビゲーションが反映され、最も使用頻度の高い情報が優先されます。

このセクションの内容:

機能強化されたメール-to-ケースによる迅速な接続
以前よりも簡単にサポートメールをケースに変換できるようになりました。Google アカウントにログインして Salesforce にアクセスし、使用するメールアドレスを選択することで、Gmail の手動設定をスキップできます。Salesforce から顧客にメールする場合、顧客の [送信者] 項目には会社のサポートメールアドレスが表示されます。

重複するケースのマージによるサポートの ToDo の明確化 (正式リリース)
作業を整理して、中小企業にとって重要なこと (顧客) に集中します。重複する取引先や取引先責任者をマージするように重複するケースをマージします。最大 3 件の重複するケースを統合できます。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションであらゆる場所から中小企業を経営
改善された操作性で外出先で生産性を向上させることができます。モバイルアプリケーションには、Essentials のパーソナライズされたナビゲーションが反映され、最も使用頻度の高い情報が優先されます。

顧客への会話チャネルのメニューの提供 (正式リリース)
顧客が Web サイトやヘルプセンターのチャネルメニューを使用して、チャット、Facebook Messenger、電話、カスタムリンクなどのチャネルで連絡できるようにします。チャットとメッセージングアドオンを購入している場合、チャネルメニューを作成できます。

機能強化されたメール-to-ケースによる迅速な接続

以前よりも簡単にサポートメールをケースに変換できるようになりました。Google アカウントにログインして Salesforce にアクセスし、使用するメールアドレスを選択することで、Gmail の手動設定をスキップできます。Salesforce から顧客にメールする場合、顧客の [送信者] 項目には会社のサポートメールアドレスが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 1 つの簡単な設定フローで、顧客のサポートメールを受信する Gmail 受信トレイを直接 Essentials に迅速に接続できます。[サービスの設定] から [サポートメールを接続] をクリックします。

メールプロバイダとして Gmail を選択すると、ポップアップウィンドウを使用して Google アカウントにログインできます。次に、サポートメールアドレスを選択します。接続済み Google アカウントは、[設定] の **[Google メール-to-ケース]** ページから管理できます。

重複するケースのマージによるサポートのToDoの明確化(正式リリース)

作業を整理して、中小企業にとって重要なこと(顧客)に集中します。重複する取引先や取引先責任者をマージするように重複するケースをマージします。最大 3 件の重複するケースを統合できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

ケースマージを使用した重複するケースの結合 (正式リリース)

新しいSalesforceモバイルアプリケーションであらゆる場所から中小企業を経営

改善された操作性で外出先で生産性を向上させることができます。モバイルアプリケーションには、Essentials のパーソナライズされたナビゲーションが反映され、最も使用頻度の高い情報が優先されます。

対象: この変更は、Essentials Edition のエディションの iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ

顧客への会話チャネルのメニューの提供 (正式リリース)

顧客が Web サイトやヘルプセンターのチャネルメニューを使用して、チャット、Facebook Messenger、電話、カスタムリンクなどのチャネルで連絡できるようにします。チャットとメッセージングアドオンを購入している場合、チャネルメニューを作成できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

チャネルメニューの導入 (正式リリース)

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein Voice アシスタントを使用すると、ユーザは声を使用して Salesforce データを会話形式で追加および更新できます。エージェントは Einstein のナレッジ記事のおすすめを使用して、ケースをより迅速に解決できます。予測する項目を作成することなく、条件ロジックに基づいてカスタム予測を構築します。

Salesforce Einstein を使用して作業を効率化する方法はまだ他にもあります。

セールス

Sales Cloud Einstein: データ要件の簡素化

Sales Cloud Einstein のいくつかの機能のデータ要件が簡素化され、Salesforce 内で有益なセールスインテリジェンスを取得しやすくなりました。

セールス

行動スコアリングを決定する要素の探索

Einstein 行動スコアリングの構築方法に迷ったことはありますか? ここでそれを説明します。B2B Marketing Analytics の新しいダッシュボードには、カスタムモデルで各エンゲージメントアクティビティがどのように加重され、今後のコンバージョンに最も強く関係するアセットはどれかが示されます。

サービス

Einstein 記事のおすすめを使用したエージェントによるケースの迅速な解決 (正式リリース)

Einstein 記事のおすすめでは、過去のケースのデータを使用して、エージェントが顧客からの問い合わせに対応するのに最も役立ちそうなナレッジ記事を識別します。Einstein 記事のおすすめは、このリリースで正式リリースされました。

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (パイロット)

Einstein 返信のおすすめは、チャットトランスクリプトのデータを分析し、顧客からの問い合わせに対応するチャットの返信を作成します。エージェントは、顧客とやりとりするときに Lightning サービスコンソールでリストから最も関連性の高いチャットの返信を選択します。

条件付きメッセージングを使用したカスタマイズされたチャットボット環境の作成

ボットで組み込みのロジックを使用して顧客にパーソナライズされた環境を提供し、事前チャットフォーム、CRM 内のデータ、またはボットへの以前の返信のいずれかによる会話コンテキストに基づいて、カスタマイズされたメッセージを送信します。条件付きメッセージングを使用するボットは、よりインテリジェントに応答して微妙な議論を処理できるため、会話の質が向上されます。

会話の修正を使用したエラーの適切な処理

ボットは正確な情報がある場合はより効果的なヘルパーとなり、会話の修正により、親切かつ優雅に適切な形式のテキストをキャプチャできます。ボットはメールまたは電話番号の形式が正しくない場合に顧客に提案し、顧客がさらに支援が必要な場合はエージェントにその顧客を転送できるようになりました。

アップグレードされたモデル管理ダッシュボードを使用したボットの迅速なトレーニング

モデルの品質を改善するためのアクション可能なおすすめを提供する改善されたダッシュボードを使用して、ボットをトレーニングします。成果の高いインテントの特定などのおすすめにより、インテントトレーニングを改善するための提案が提供されます。インテントの質が高いほど、顧客に対するボットのパフォーマンスが向上します。

詳細な会話ログによるボットの改善

会話ログがより詳細になり、システム管理者はボットの改善が必要な場所をより深く理解できるようになりました。この追加機能ではダイアログで分類された顧客の入力とボットのアクションが示され、システム管理者はボットのすべての動きを確認できます。

エージェントの対応可能状況を含む SMS を介したスマート転送の作成

ボットはエージェントが転送に対応可能かどうかを適切にチェックし、SMS とチャットで顧客に通知できるようになりました。Winter '20 リリースで導入されたエージェントの対応可能状況チェックは、ボットとエージェント間のシームレスなマルチチャネル環境を提供するために SMS にまで拡大されました。

チャットボット入力インジケータを使用した顧客エンゲージメントの改善

チャットボット入力インジケータを使用して、ボットが次のメッセージを配信する間に顧客のエンゲージメントを維持します。これらの3つのドットは、ユーザが入力していることを示すメッセージングアプリケーションと同様、ボットがまだ要求を処理していることを顧客に示します。

WhatsApp: Einstein ボットで使用可能

Einstein ボットが世界最大のメッセージングアプリケーション WhatsApp で 180 か国で使用できるようになったため、ボットをさらにトレーニングできます。SMS や Facebook Messenger の場合と同様に、WhatsApp を使用して顧客にメッセージを配信できます。ボットは自動化を使用して、WhatsApp 上で複雑なケースをエージェントに直接渡すこともできます。

Einstein ボット: その他のボットの更新

Einstein ボットへのその他の変更について説明します。

区分とサンプルデータを使用した Einstein 項目値予測の改善

さまざまな事業区分 (ビルディングサービスとコンサルティングサービスやエンタープライズディビジョンとコンシューマディビジョンなど) の予測モデルを設定および構築できます。また、事業のサブセットの項目値のみを予測する場合、1 つのモデルの範囲を絞り込むこともできます。以前は、ケース分類ですべてのデータが考慮されていました。各区分内で、ケース分類で使用する完了項目と項目値を最も適切に反映するクローズケースを指定します。このサンプルデータでは、ケースのベストプラクティスを表すデータを使用して各モデルをトレーニングします。

新しい設定ページ環境を使用した複数のモデルの管理

事業の編成方法や、特定の事業区分に焦点を絞る方法に合わせてモデルを作成できるようになりました。再設計された [ケース分類] 設定ページには、複数のモデル用の新しいセクションがあります。

Einstein ケース分類の無料トライアル

Einstein ケース分類のことは知っていても、使用しているデータで Einstein ケース分類が機能するかどうかが不明ですか? Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition のお客様はこれを無料で試すことができます。

Analytics

外部データを使用したライブ予測スコアリングの強化

外部データを含めて、結果の予測精度を高めることができるようになりました。一部の予測モデルでは、Salesforce にない情報 (外部データソースに保存されている説明変数や計算項目など) が必要になります。商談成立までの時間の予測モデルを作成するとします。商談チームメンバーとその商談レコードに関連付けられている評価済み ToDo の数を使用したいと考えています。これらの集計は、Einstein Analytics データ準備を使用して簡単に作成できます。予測モデルを Einstein Discovery ストーリーとしてすばやく作成します。Salesforce の個々のレコードをスコアリングする場合、商談に関連付けられている ToDo やチームメンバーの数を予測モデルに通知します。コードを記述またはデータモデルを変更する代わりに、この集計が実行され、定期的に更新されるデータセットを作成します。Salesforce にネイティブに存在しない予測モデル項目をデータセットに対応付けます。

[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用した将来の結果のシミュレーション

対話形式でライブ予測スコア (上位の要素やアクション可能なインサイトなど) を取得します。[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用して、データ行で「What If」シミュレーションを実行できるようになりました。[何が起きる可能性があるか] インサイトは、前の [予測と改善] インサイトに代わるもので、合理化されたインタラクティブインターフェースが備わっています。

ストーリーの変更の追跡

いつでも前のストーリーバージョンを再確認および操作できるようになりました。ユーザが更新された設定でストーリーを作成するたびに、Einstein によって前のバージョンのスナップショットが同じ名前で保存されます。前のバージョンのストーリーを開いて操作できます。

3 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)

Einstein Discovery に 3 番目のモデリングアプローチが追加されました。これは、*XGBoost* と呼ばれ、勾配ブースティング学習アルゴリズムを実装します。以前は、Einstein Discovery は 2 つのモデル種別 (回帰モデルと GBM モデル) を使用して結果を予測していました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery で 3 つのすべてのモデル種別を使用して予測が生成されるようになりました。その後、最もパフォーマンスの高かった 1 つのモデルの結果が Einstein に表示されます。すべてのアプローチから最も優れた結果を取得します。

ロジスティックモデルのスマート機能選択

バイナリ結果を使用してストーリーを作成する場合、Einstein Discovery によってモデルの構築に必要な機能変数のみが自動的に選択されるようになり、短時間でストーリーを生成できるようになりました。ストーリー作成プロセスが合理化および高速化されています。

ストーリーを作成する前の主要な要因の識別

ストーリーを初めて作成する前に、含める項目を事前にすばやく決定できるようになりました。手動でストーリーを設定する場合、Einstein でデータセット列と結果変数の相関関係が表示されるようになりました。以前は、ストーリーの初回作成後にしか相関関係が表示されませんでした。

Einstein Discovery で処理可能なデータの増加 (パイロット)

Einstein Discovery の制限が緩和され、最大 1 億行のデータが含まれる Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できるようになりました。以前は、最大 2,000 万行でした。

Salesforce オブジェクトを使用しないモデルのリリース

特定のケースで、モデルをリリースするときに Salesforce オブジェクトを選択する必要がなくなりました。この例外は、Einstein 予測サービスを介したプログラムによる予測、または Einstein Analytics データフローの予測コンポーネントを介したデータセットスコアリングでモデルを使用する場合にのみ適用されます。その他のすべてのケースでは、リリース時に Salesforce オブジェクトを選択する必要があります。

インサイトへのすばやいドリルダウン

テキスト項目に関連付けられているインサイトの場合、[探索] ボタンをクリックしてその詳細に簡単にドリルダウンできます。Einstein には、このインサイトのデータを対話形式で探索できるようにレンズビューが表示されます。

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止されます。Spring 20 以降、Einstein Discovery Classic はすべての組織で新しい環境に置き換えられます。

Industries

Einstein 紹介スコアリングを使用したパイプラインの微調整 (正式リリース)

マネージャが従来よりも簡単に紹介を評価できるようになりました。Einstein 紹介スコアリングにより、Salesforce 組織で紹介をスコアリングする予測を構築できます。ユーザは、Einstein の上位の紹介コンポーネントで紹介スコアを表示できます。

Einstein Object Detection データのローカルへの保存

EU の Salesforce 組織の場合、Einstein Object Detection データがローカルに保存されるようになりました。

Einstein Object Detection へのアクセスの制御

Salesforce 組織のどのユーザが Einstein Object Detection にアクセスできるかを選択できるようになりました。

Einstein Object Detection モデルの無効化

構築中の Object Detection モデルを無効にできます。また、パフォーマンスの低いモデルや使用していないモデルを無効にすることもできます。モデルは後からいつでも有効化できます。

カスタマイズ

Einstein 予測ビルダーの検索条件を使用した将来の予測

予測の問題への答えを持つ項目がなくても予測を構築できるようになりました。予測の基礎となるオブジェクトのレコードにデータがあれば、項目の代わりに検索条件を使用できます。

Einstein 予測ビルダーを使用したレコードの上位予測因子の表示

システム管理者とユーザは、モデル全体のみでなく、レコードレベルでどの予測因子が最も影響力があるかについてのインサイトを得ることができます。レコードの上位予測因子を表示して、特定のレコードのスコアへの影響が最も大きい項目値を確認できます。

追加費用なしで Einstein 予測ビルダーを試す

出費することなく Einstein 予測ビルダーを有効にし、ビジネスがカスタム予測からどのように利益を得ることができるかを確認します。アップグレードするかどうかは後で決定できます。

Einstein 予測ビルダーでの信頼済み AI ヘルプよる十分な情報に基づいた予測

[信頼済み AI] サイドバーヘルプを使用して、作成しながら学習します。信頼済み AI は、データの潜在的なバイアスを特定して軽減し、予測の誤りを少なくするために役立ちます。

おすすめ戦略総計値を使用した Next Best Action の利用状況の分析

Salesforce 組織での Next Best Action の利用状況集計を追跡できるようになりました。戦略とおすすめレベルで総計値を分析します。2 つの戦略の相対的なパフォーマンスを比較します。特定の月に組織の戦略により提供されたおすすめの合計数を表示します。提供したおすすめのうち、エージェントが受け入れた数と却下した数を確認します。

任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成

任意の Salesforce オブジェクト (標準またはカスタム) のレコードからおすすめを宣言的に作成します。取引先、取引先責任者、商談、および商品からおすすめを提供します。任意の Salesforce オブジェクトのレコードを読み込み、絞り込んで、戦略の最後でおすすめに変換します。以前は、おすすめを宣言的に作成する場合、使用するオブジェクトはおすすめオブジェクトのみに限られていました。他のオブジェクトのレコードをおすすめにプログラムで変換できましたが、[生成] 要素で Apex コードを使用していました。

おすすめが却下されたときのフローの起動

おすすめがユーザから却下されたときにフローを起動できるようになったため、柔軟性が高まります。たとえば、おすすめが却下されたときにフローで自動化プロセスを実行したり、別のシステムに書き込んだり、アラームメールを作成したりできます。以前は、Next Best Action では、おすすめが受け入れられた場合にのみフローを起動していました。

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化

HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに [おすすめの説明] などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

セキュリティ、プライバシー、ID

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化

HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに [おすすめの説明] などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

開発

Einstein Vision: より詳細なエラーメッセージ

Einstein Object Detection トレーニング API へのコールで、よりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。

Einstein Language: 新しいモデル評価指標

モデル評価指標情報を返す Einstein Language API へのコールに `macroF1` 項目、`precision` 配列、`recall` 配列が含まれるようになりました。

Sandbox 組織での Einstein 予測の実行

Sandbox 組織で予測を作成および実行し、さまざまな設定で試します。

Sales: High Velocity Sales メールの分岐およびメールのスケジュール、ToDo のキューへの割り当て、Salesforce Billing の収益認識レポート

High Velocity Sales マネージャはメールエンゲージメントに基づいてセールスケイデンスを分岐でき、営業担当はメールが送信されるタイミングをスケジュールできます。ToDo をキューに割り当てて、営業担当がワークロードを共有できるようにします。Salesforce Billing の収益認識 API を使用して、セールスプロセスや財務プロセスのどのフェーズでも収益認識を報告できます。Einstein 商談スコアリングは Sales Cloud Einstein ライセンスなしで使用できます。コラボレーション売上予測は商談リストでのインライン編集をサポートするようになりました。営業担当は、メールの到着時間を指定することで、メールが開封される可能性を高めることができます。さらに、Pardot には Einstein 行動スコアリングのダッシュボードや Account-Based Marketing 分析アプリケーションテンプレートなど、新しい分析ツールが追加されています。

このセクションの内容:

High Velocity Sales: セールスケイデンスメールの分岐、メールのスケジュール、拡張レポート

営業マネージャはメールエンゲージメントに基づいてセールスケイデンスを分岐できます。営業担当はメールの送信日時をスケジュールできます。マネージャと営業担当は High Velocity Sales レポートおよびダッシュボードで詳細を確認できます。

Sales Cloud Einstein: データ要件の簡素化

Sales Cloud Einstein のいくつかの機能のデータ要件が簡素化され、Salesforce 内で有益なセールスインテリジェンスを取得しやすくなりました。

中核的なセールス機能: すべてのユーザ向けの Einstein 商談スコアリング、売上予測編集の容易化、テリトリー売上予測種別の増加

対象のすべての Sales Cloud ユーザが Einstein 商談スコアリングを使用できます。売上予測ユーザは商談リストをインライン編集できます。Salesforce でさらに 6 個の売上予測種別がサポートされるようになりました。プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して商談取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化できます。LinkedIn の同意項目と非表示項目を Salesforce のカスタムリード項目に対応付けることができます。さらに、履行注文オブジェクトのパスを作成して、顧客のショッピング体験を改善できます。

生産性機能: 後で送信、リストメールのドラフト、メールスレッド、ToDo キュー

営業担当は、いくつかの新機能を使用して生産性を向上させることができます。最適な日時に到着するようにメールをスケジュールすることができるようになりました。また、リストメールは、営業担当がドラフトを保存して作業に戻ることができるため、簡単に作成できるようになりました。メールスレッドでは、営業担当が返信や雑談で迷うことなく、会話全体を 1 か所で確認できます。さらに、営業担当は ToDo をキューに割り当てて作業項目を効率的に共有できます。

Gmail™ インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、記録される行動の分類、テンプレートの更新

営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。営業担当は行動を Salesforce に記録するときに、行動の種別を識別できるようになりました。また、テンプレートフローが更新され、テンプレートを作成してメールに追加するのが簡単になりました。

Microsoft® とのインテグレーション: メールのプライバシー通知、Lightning Sync の設定の変更、Salesforce for Outlook の問題の解決

営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。Lightning Sync には、Microsoft Exchange のバージョンに応じて影響を受ける可能性がある設定の変更がいくつかあります。さらに、Lightning Experience 向けの Microsoft® Internet Explorer® 11 の終了の影響を受ける Salesforce for Outlook のお客様向けに、アクセスを復元するための手順を紹介します。

Salesforce CPQ および Billing: エバーグリーンサブスクリプションを使用した使用量商品の注文、スマートな設定ルール、柔軟な収益スケジュールの作成

エバーグリーンサブスクリプションに関連した使用量商品を注文できます。コンフィグレータでアクセスできる項目が増えました。見積品目エディタで見積品目の消費スケジュールを直接編集できます。任意の Salesforce オブジェクトでいつでもトリガ、プロセスビルダー、API を使用して収益スケジュールを作成できます。また、ユーザが過去にさかのぼって有効になる修正を作成できないようにします。

Pardot: Einstein および Account-Based Marketing 分析、ビジネススニペット、その他の機能

Spring '20 には、Einstein 行動スコアリングダッシュボードや Account-Based Marketing 分析アプリケーションなどの多数の画期的な分析ツールが用意されています。さらに、スニペットの新しい用途、2つのエンゲージメント履歴ダッシュボード、いくつかの関連リスト、および B2B Marketing Analytics データセットとダッシュボードの更新を確認してください。

Sales Cloud のその他の変更

Data.com Prospector と Data.com Clean が廃止されました。

Data.com: Prospector と Clean の廃止

Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。これらの商品は 2020 年 7 月 31 日に廃止される予定です。既存の契約は有効です。

High Velocity Sales: セールスケイデンスメールの分岐、メールのスケジュール、拡張レポート

営業マネージャはメールエンゲージメントに基づいてセールスケイデンスを分岐できます。営業担当はメールの送信日時をスケジュールできます。マネージャと営業担当は High Velocity Sales レポートおよびダッシュボードで詳細を確認できます。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Lightning Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

セールスケイデンス: メールエンゲージメントの分岐とメールの自動送信

営業マネージャは、セールスケイデンスビルダーでさらに多くの作業を実行できます。見込み客のメールへのエンゲージメントに基づいたセールスケイデンスの分岐、テンプレートベースのメールの自動送信、リンクされたセールスケイデンスのプレビューなどを行うことができます。

High Velocity Sales でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理

営業担当は、メールの到着時間を調整し、受信者がメールを読む可能性を高めることができます。たとえば、営業担当は昼食から戻ってきたときに、取引先責任者が常にメールを読んでいることを把握しています。そのため、午後 1 時に到着するようにメールをスケジュールすると、取引先責任者はそれを読む可能性が高くなります。新しいスケジュール済みメールコンポーネントにより、営業担当はスケジュール済みメールの内容を更新し、スケジュール日時を変更できます。

High Velocity Sales レポート: リードパフォーマンスダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善

営業マネージャは、詳細なリードアウトリーチおよびコンバージョン統計を参照できます。また、リード、取引先責任者、個人取引先、セールスケイデンスデータを使用してカスタムレポートを作成できます。含まれるレポートを使用してより多くの情報にアクセスすることもできます。

営業担当のセールスケイデンスから週末を除外

営業マネージャは、チームに週末を楽しませることができます。[週末をスキップ] 設定を有効にすると、セールスケイデンスは平日にのみ営業担当に ToDo を割り当てます。通話、メール、およびカスタムステップは、土曜日と日曜日をスキップして次の月曜日に割り当てられます。

API を使用したセールスケイデンスの調査

API を使用して、セールスケイデンスに関連した情報を表示できます。開発者は、セールスケイデンスに関連する 6 個の新しい標準オブジェクトである ActionCadence、ActionCadenceRule、ActionCadenceRuleCondition、ActionCadenceStep、ActionCadenceStepTracker、ActionCadenceTracker にアクセスできるようになりました。

作業キューでの詳細の表示

営業担当は、作業キューのアクションがいつ期限切れになるかを確認できます。さらに、使い勝手を向上させるため、検索条件ボタンと更新ボタンが移動されました。

新しい場所での High Velocity Sales の Inbox 機能の有効化

Salesforce Inbox に [設定] の Inbox 設定アシスタントの有効化のための一元的な場所が用意されました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

営業ユーザによる活動タイムラインのセールスケイデンスステップの絞り込み

営業マネージャは、完了したセールスケイデンス ToDo を絞り込み、営業担当の進行状況を追跡できます。

組み込みの通話ソリューションなしでセールスケイデンスを進行

Lighting Dialer またはサードパーティの通話ソリューションを使用しない営業担当は、簡単にセールスケイデンスを進めることができるようになりました。組み込みの通話ソリューションがない場合、営業担当が電話アクションをクリックすると、[活動の記録] パネルが自動的に開きます。通話が記録されると、セールスケイデンスが進みます。

セールスケイデンス: メールエンゲージメントの分岐とメールの自動送信

営業マネージャは、セールスケイデンスビルダーでさらに多くの作業を実行できます。見込み客のメールへのエンゲージメントに基づいたセールスケイデンスの分岐、テンプレートベースのメールの自動送信、リンクされたセールスケイデンスのプレビューなどを行うことができます。

このセクションの内容:

メールエンゲージメントに基づくアウトリーチのカスタマイズ
営業マネージャは、見込み客がメールにエンゲージしているかどうかに応じて、異なるアウトリーチステップで営業担当をリードするセールスケイデンスを作成できます。新しいリスナー分岐ステップは、見込み客のメールへのエンゲージメントを待機し、そのエンゲージメントに基づいて次の適切なステップに進みます。たとえば、営業担当は見込み客がメール内のリンクをクリックしたときとしなかったときでパスを分けることができます。

セールスケイデンスからの自動的なメールの送信
自動化されたテンプレートベースのメールで営業担当の時間を節約します。営業マネージャは、メールステップの期日になったときに自動的に送信するステップを追加できるようになりました。

リンクされたセールスケイデンスのプレビュー
営業マネージャは、セールスケイデンスビルダーを離れることなく、リンクされたセールスケイデンスの詳細とセールスステップを表示できます。

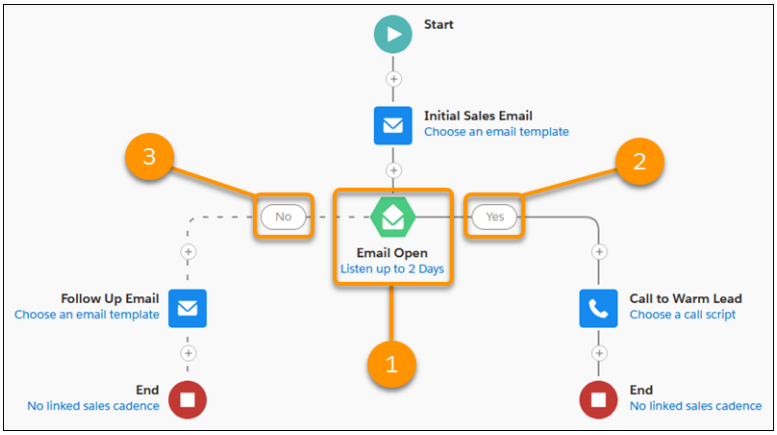
セールスケイデンス作成時の通話結果グルーピングの表示
セールスケイデンスビルダーで、関連する通話結果グルーピングの営業マネージャに通話結果の値が表示されるようになりました。このグルーピングはセールスケイデンスの分岐とレポートに使用されるため、関連する値を確認すると役立ちます。

メールエンゲージメントに基づくアウトリーチのカスタマイズ

営業マネージャは、見込み客がメールにエンゲージしているかどうかに応じて、異なるアウトリーチステップで営業担当をリードするセールスケイデンスを作成できます。新しいリスナー分岐ステップは、見込み客のメールへのエンゲージメントを待機し、そのエンゲージメントに基づいて次の適切なステップに進みます。たとえば、営業担当は見込み客がメール内のリンクをクリックしたときとしなかったときでパスを分けることができます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: リスナー分岐ステップにより、営業マネージャは、メール開封またはリンククリックをリスンするかどうか、および見込み客がエンゲージするのを待機する時間を選択できます (1)。次に、見込み客がエンゲージメントした場合 (2) またはしなかった場合 (3) に、アウトリーチ担当者が実行すべきことを選択できます。

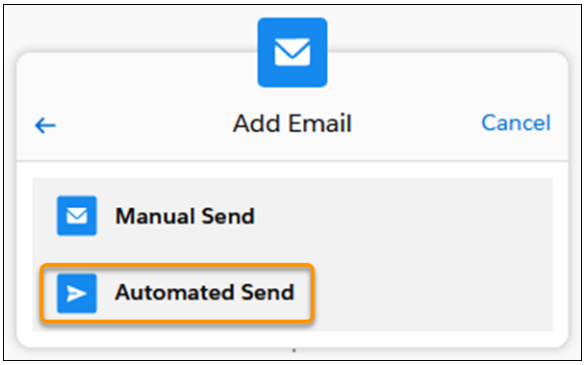


セールスケイデンスからの自動的なメールの送信

自動化されたテンプレートベースのメールで営業担当の時間を節約します。営業マネージャは、メールステップの期日になったときに自動的に送信するステップを追加できるようになりました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: セールスケイデンスビルダーで、メールステップを追加し、テンプレートを使用してメールを自動的に送信することを選択します。

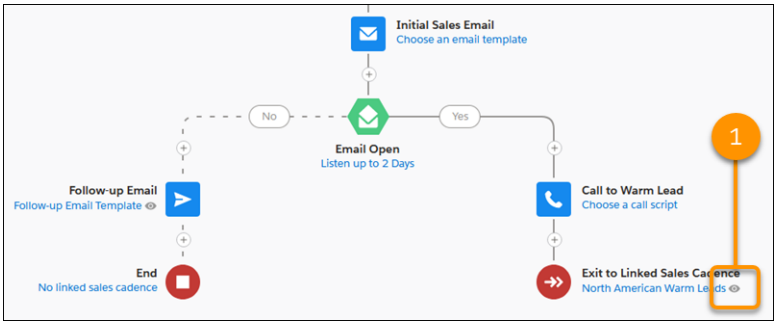


リンクされたセールスケイデンスのプレビュー

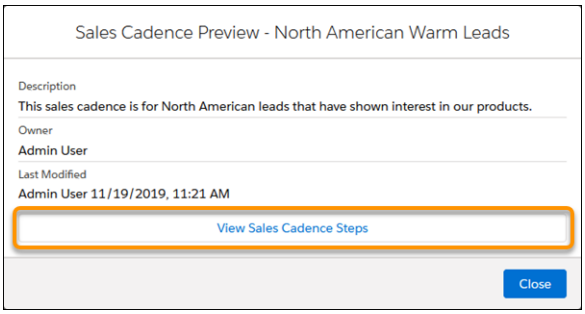
営業マネージャは、セールスケイデンスビルダーを離れることなく、リンクされたセールスケイデンスの詳細とセールスステップを表示できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

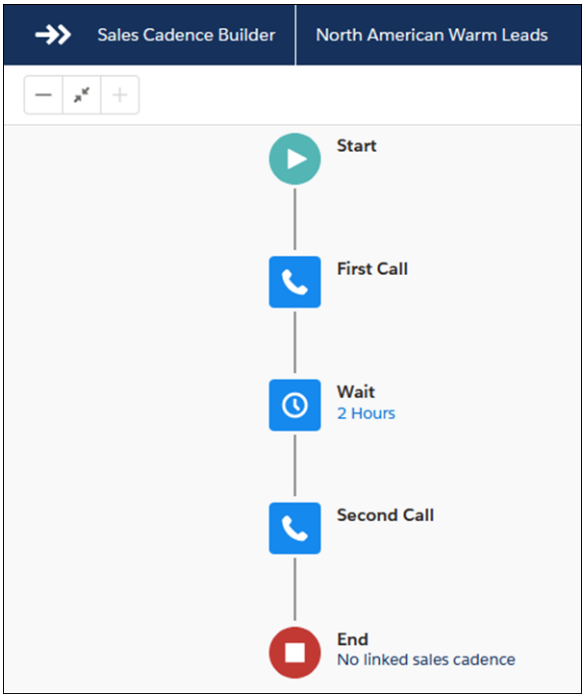
方法: セールスケイデンスビルダーで、リンクされた終了ステップの横にある眼のアイコン (1) をクリックします。



セールスケイデンスの詳細が表示されます。セールスステップを表示するには、[セールスケイデンスステップを表示] をクリックします。



リンクされたセールスケイデンスがセールスケイデンスビルダーに表示されます。

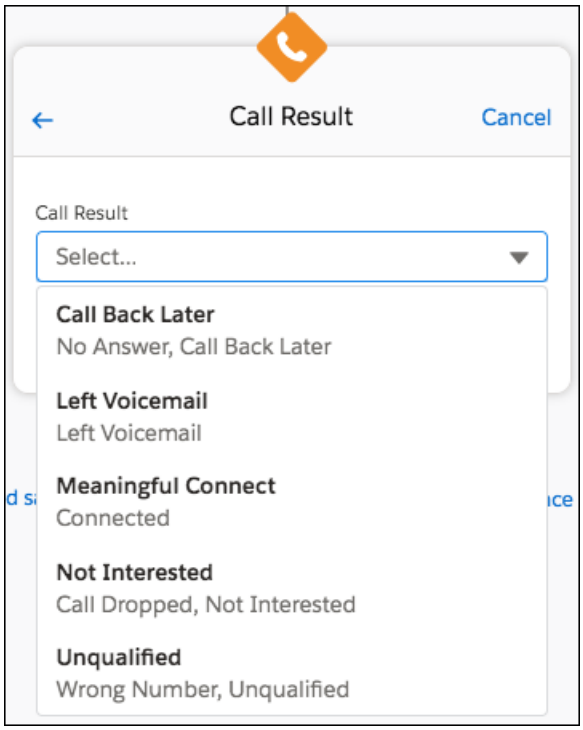


セールスケイデンス作成時の通話結果グルーピングの表示

セールスケイデンスビルダーで、関連する通話結果グルーピングの営業マネージャに通話結果の値が表示されるようになりました。このグルーピングはセールスケイデンスの分岐とレポートに使用されるため、関連する値を確認すると役立ちます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 通話の終了時に、営業担当はその通話の結果を説明する値を選択します。マネージャはこれらの値をセールスケイデンスビルダーで確認できるようになり、セールスケイデンスの作成時により多くの情報を使用できます。



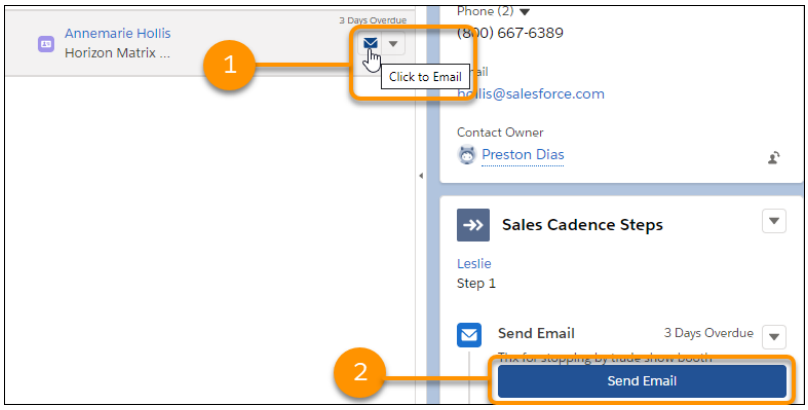
High Velocity Sales でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理

営業担当は、メールの到着時間を調整し、受信者がメールを読む可能性を高めることができます。たとえば、営業担当は昼食から戻ってきたときに、取引先責任者が常にメールを読んでいることを把握しています。そのため、午後1時に到着するようにメールをスケジュールすると、取引先責任者はそれを読む可能性が高くなります。新しいスケジュール済みメールコンポーネントにより、営業担当はスケジュール済みメールの内容を更新し、スケジュール日時を変更できます。

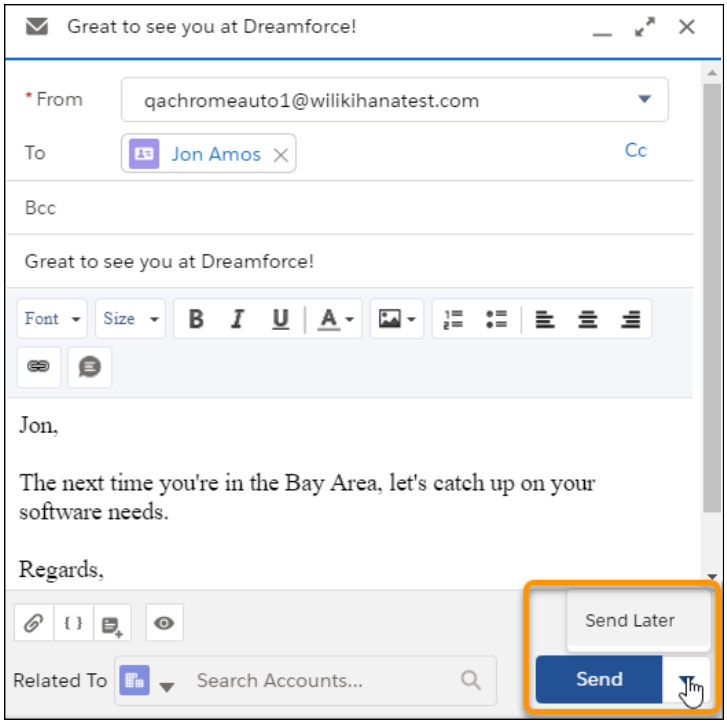
対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: High Velocity Sales または Inbox ライセンスで使用可能な「Inbox を使用」ユーザ権限を持つユーザ。

方法: 営業担当がメールをスケジュールするには、ケイデンスステップカードを開き、封筒 (1) または [メールを送信] (2) をクリックします。

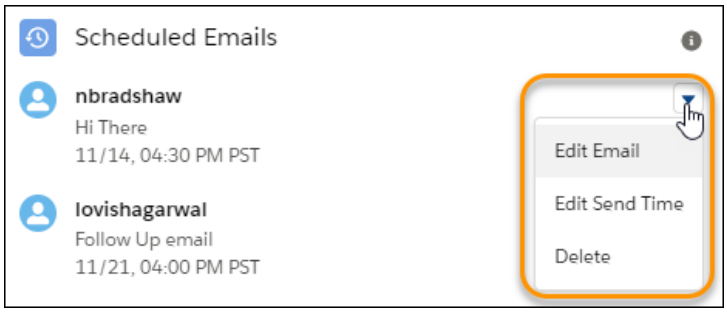


次に、メールコンポーザの [後で送信] を選択します。



次に、日時を選択して [スケジュール] をクリックします。

営業担当がスケジュール済みメールを管理できるようにするには、[編集ページ] を使用して [後でメールを送信 - 保留中リスト] コンポーネントをオブジェクトのホームページ (Salesforce ホームページを含む) に追加します。



そのコンポーネントを使用して、営業担当はすでにスケジュール済みのメールを再スケジュール、編集、または削除できます。

関連トピック:

IdeaExchange: Log an email set for Send Later in SalesforceIQ Inbox (SalesforceIQ Inbox で [後で送信] に設定されたメールの記録)

Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理

Salesforce ヘルプ: スケジュール済みメール管理の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: スケジュール済みメールについて把握すべき事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

High Velocity Sales レポート: リードパフォーマンスダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善

営業マネージャは、詳細なリードアウトリーチおよびコンバージョン統計を参照できます。また、リード、取引先責任者、個人取引先、セールスケイデンスデータを使用してカスタムレポートを作成できます。含まれるレポートを使用してより多くの情報にアクセスすることもできます。

このセクションの内容:

チームによるリードの作業のペースの確認 (ベータ)

Winter '20 では、High Velocity Sales エンゲージメントパフォーマンスダッシュボードとセールスケイデンスパフォーマンスダッシュボードが導入されました。Spring '20 では、リードパフォーマンスダッシュボードでチームによるリードとの取引開始の成果が営業マネージャに表示されます。営業マネージャは営業担当が新規リードに連絡するまでの時間、セールスファネルの各フェーズのリード数、取引開始までの平均日数、その他の効果の測定を確認できます。営業マネージャはこのデータを使用して、コーチングが必要な営業担当や調整が必要なセールスケイデンスを確認できます。こうしたダッシュボードに「すべてのデータの参照」権限が不要になりました。

セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加

営業マネージャが見込み客のアウトリーチのタイミングに関する詳細および各セールスケイデンスでの見込み客の進捗状況を確認できるようにレポートの機能が強化されました。

チームによるリードの作業のペースの確認 (ベータ)

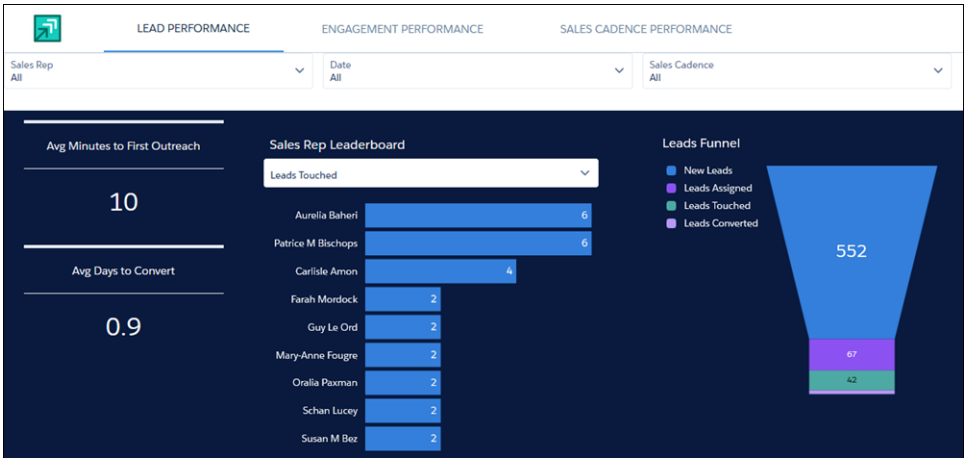
Winter '20 では、High Velocity Sales エンゲージメントパフォーマンスダッシュボードとセールスケイデンスパフォーマンスダッシュボードが導入されました。Spring '20 では、リードパフォーマンスダッシュボードでチームによるリードとの取引開始の成果が営業マネージャに表示されます。営業マネージャは営業担当が新規リードに連絡するまでの時間、セールスファネルの各フェーズのリード数、取引開始までの平均日数、その他の効果の測定を確認できます。営業マネージャはこのデータを使用して、コーチングが必要な営業担当や調整が必要なセールスケイデンスを確認できます。こうしたダッシュボードに「すべてのデータの参照」権限が不要になりました。

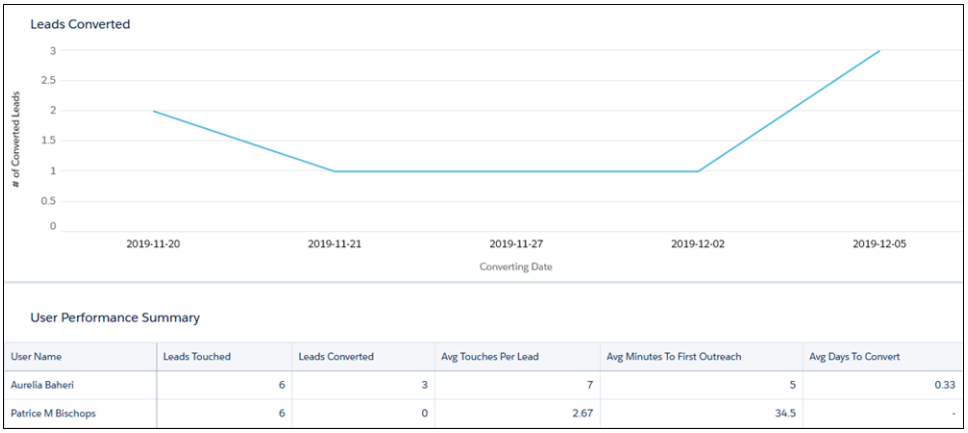
対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

メモ: High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードを表示するには、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限が必要です。

理由: このダッシュボードには Einstein Analytics High Velocity Sales パフォーマンスアプリケーションが含まれており、接触したリード数、最初の接触までの時間、リードごとの接触回数、コンバージョン数が営業マネージャに表示されます。営業マネージャは営業担当、セールスケイデンス、日付範囲でリード統計を絞り込むことができます。





方法: こうした Einstein Analytics ダッシュボードを表示するには、High Velocity Sales アプリケーションのナビゲーションメニューから [High Velocity Sales パフォーマンス] を選択します。

セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加

営業マネージャが見込み客のアウトリーチのタイミングに関する詳細および各セールスケイデンスでの見込み客の進捗状況を確認できるようにレポートの機能が強化されました。

対象: これらの変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: High Velocity Sales レポートに対する機能強化により、セールスチームの有効性に対するマネージャの理解が深まります。

- [初回メール日] 項目と [初回電話日] 項目では、各見込み客が最初にいつアウトリーチを受けたかがマネージャに表示されます。
- [現在のセールスケイデンスステップ] 項目では、各見込み客が割り当てられたセールスケイデンスのどのステップにいるかがマネージャに表示されます。

方法: [初回メール日] 項目と [初回電話日] 項目をリード、取引先責任者、個人取引先のカスタムレポートタイプ、リストビュー、ページレイアウトに追加します。[現在のセールスケイデンスステップ]項目をリード、取引先責任者、個人取引先のカスタムレポートタイプに追加します。

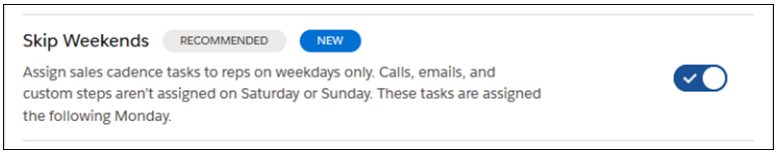
営業担当のセールスケイデンスから週末を除外

営業マネージャは、チームに週末を楽しませることができます。[週末をスキップ]設定を有効にすると、セールスケイデンスは平日にのみ営業担当に ToDo を割り当てます。通話、メール、およびカスタムステップは、土曜日と日曜日をスキップして次の月曜日に割り当てられます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 週末に営業 ToDo が山積みになったり期限切れになったりすることを営業担当が心配しないようにします。ToDo は営業担当のタイムゾーンの月曜日に作業キューに表示されます。

方法: High Velocity Sales の [設定] で、[週末をスキップ] を有効にします。



API を使用したセールスケイデンスの調査

API を使用して、セールスケイデンスに関連した情報を表示できます。開発者は、セールスケイデンスに関連する 6 個の新しい標準オブジェクトである ActionCadence、ActionCadenceRule、ActionCadenceRuleCondition、ActionCadenceStep、ActionCadenceStepTracker、ActionCadenceTracker にアクセスできるようになりました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

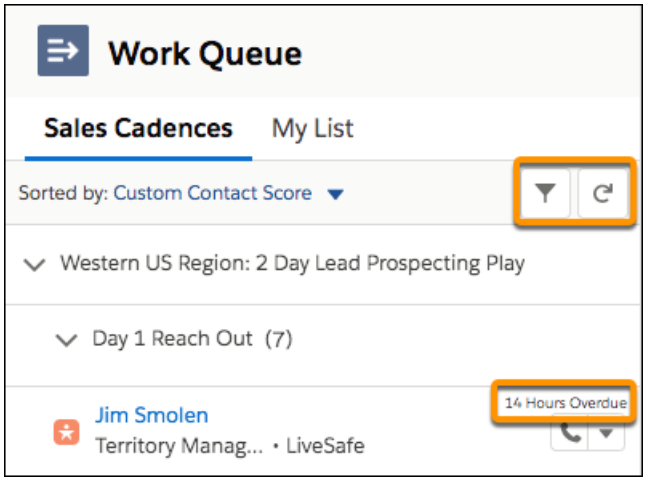
理由: これら 6 個の新しいオブジェクトは、SOAP API で使用できます。詳細は、「新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト」を参照してください。

作業キューでの詳細の表示

営業担当は、作業キューのアクションがいつ期限切れになるかを確認できます。さらに、使い勝手を向上させるため、検索条件ボタンと更新ボタンが移動されました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 検索条件ボタンと更新ボタンは、[作業キュー] タブの下にあります。また、期限切れの ToDo には、どれくらい期日を過ぎているかが表示されます。



新しい場所での High Velocity Sales の Inbox 機能の有効化

Salesforce Inbox に [設定] の Inbox 設定アシスタントの有効化のための一元的な場所が用意されました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

関連トピック:

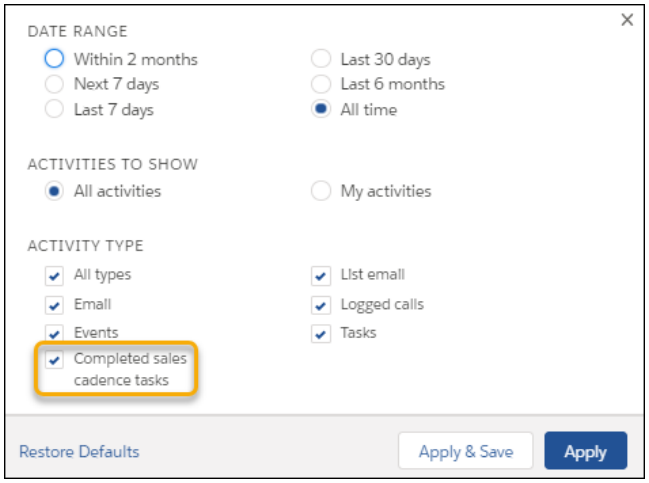
新しい場所での Salesforce Inbox 機能の有効化

営業ユーザによる活動タイムラインのセールスケイデンスステップの絞り込み

営業マネージャは、完了したセールスケイデンス ToDo を絞り込み、営業担当の進行状況を追跡できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: 活動タイムラインで検索条件アイコンをクリックします。[完了したセールスケイデンス **ToDo**] を選択してこれらの ToDo で進捗状況を強調表示します。



組み込みの通話ソリューションなしでセールスケイデンスを進行

Lighting Dialer またはサードパーティの通話ソリューションを使用しない営業担当は、簡単にセールスケイデンスを進めることができるようになりました。組み込みの通話ソリューションがない場合、営業担当が電話アクションをクリックすると、[活動の記録] パネルが自動的に開きます。通話が記録されると、セールスケイデンスが進みます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

Sales Cloud Einstein: データ要件の簡素化

Sales Cloud Einstein のいくつかの機能のデータ要件が簡素化され、Salesforce 内で有益なセールスインテリジェンスを取得しやすくなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

理由: データ要件が更新された機能は、Einstein 売上予測、商談インサイト、商談スコアリング、自動取引先責任者です。たとえば、Einstein 商談スコアリングは、会社が過去 2 年間に 1,000 件以上の商談を完了している必要がありました。今後は、その期間中に 400 件の商談を完了し、その半分が成立であればよくなりました。

方法: これらの変更は自動的に適用されます。Sales Cloud Einstein のどの機能を会社で使用できるかを確認するには、Sales Cloud Einstein の準備状況評価を実行します。

関連トピック:

- Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測
- *Salesforce* ヘルプ: Sales Cloud Einstein のデータ要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Sales Cloud Einstein の準備状況評価の実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

中核的なセールス機能: すべてのユーザ向けの Einstein 商談スコアリング、売上予測編集の容易化、テリトリー売上予測種別の増加

対象のすべての Sales Cloud ユーザが Einstein 商談スコアリングを使用できます。売上予測ユーザは商談リストをインライン編集できます。Salesforce でさらに 6 個の売上予測種別がサポートされるようになりました。プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して商談取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化できます。LinkedIn の同意項目と非表示項目 を Salesforce のカスタムリード項目に対応付けることができます。さらに、履行注文オブジェクトのパスを作成して、顧客のショッピング体験を改善できます。

このセクションの内容:

商談: すべてのユーザ向けの Einstein 商談スコアリング、商品検索条件

Einstein 商談スコアリングは対象のすべての Sales Cloud ユーザが使用でき、商談商品の新しい検索条件によって商談の作成プロセスが高速化されます。

コラボレーション売上予測: インライン編集および新しいテリトリー売上予測種別

売上予測ユーザは商談リストをインライン編集できます。また、Salesforce でさらに 6 個のテリトリー売上予測種別がサポートされるようになりました。

エンタープライズテリトリー管理: レポートおよび売上予測のオプションの追加

取引先レポートにテリトリー情報を表示できます。また、さらに 6 個のテリトリー売上予測種別から選択できます。

取引先責任者: 商談取引先責任者の役割とリストメール取引先責任者の機能強化

プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して商談取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化できます。リストメールに追加する取引先責任者の取引先項目で検索できます。

リード: LinkedIn リードジェネレーションフォームからより多くのリードデータを取り込む

営業担当がLinkedInから生成されたリードに関するより多くのデータにアクセスできるようにします。LinkedIn プロフィールの URL、同意項目、非表示項目を Salesforce のカスタムリード項目に対応付けることができるようになりました。これにより、営業担当が重要なデータにアクセスできます。たとえば、[LinkedIn同意項目] のデータを追加して、コミュニケーションとプライバシーに関するリードの設定を追跡します。

価格表エントリ: Lightning Experience での価格表エントリ関連リストのより有効な活用

価格表エントリ関連リストのクイックアクションに [表示] が追加されました。営業担当は Salesforce Classic に切り替えなくても価格表エントリの詳細を簡単に確認できるようになりました。

パス: 注文履行の合理化

履行注文オブジェクトのパスを作成して、顧客のショッピング体験を改善します。注文履行パスにより、コールセンターのエージェントが注文状況を確認したり、倉庫の作業員が品目の状況を簡単に更新したりできます。

中核的なセールス機能のその他の変更

サブスクリプションまたはキャンペーンを更新するため、営業担当は商談またはキャンペーンをその関連レコードと共にコピーできるようになりました。取引先および商談チームの関連リストをカスタマイズし、営業担当がより効果的にコラボレーションできるようにします。エンタープライズテリトリー管理の重要な更新が適用されるようになりました。カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。また、コラボレーション売上予測、会計年度の設定、および元のテリトリー管理機能に関する権限が変更されました。

商談: すべてのユーザ向けの Einstein 商談スコアリング、商品検索条件

Einstein 商談スコアリングは対象のすべての Sales Cloud ユーザが使用でき、商談商品の新しい検索条件によって商談の作成プロセスが高速化されます。

このセクションの内容:

商談スコアで適切な商談に集中

AI が追加費用なしで Sales Cloud に含まれます。つまり、対象のすべての Sales Cloud ユーザが Einstein 商談スコアリングを利用できます。スコアは営業担当およびマネージャが商談に優先度を付けて、商談成立数を増やせるようにリスクの高い商談にフラグを付けます。

Lightning Experience での検索条件を使用した商談商品検索の絞り込み

営業担当は、Lightning Experience で検索条件を使用して、商談に追加する商品を絞り込めるようになりました。商談に品目を追加するために商談の長いリストをスクロールする必要はもうありません。

商談スコアで適切な商談に集中

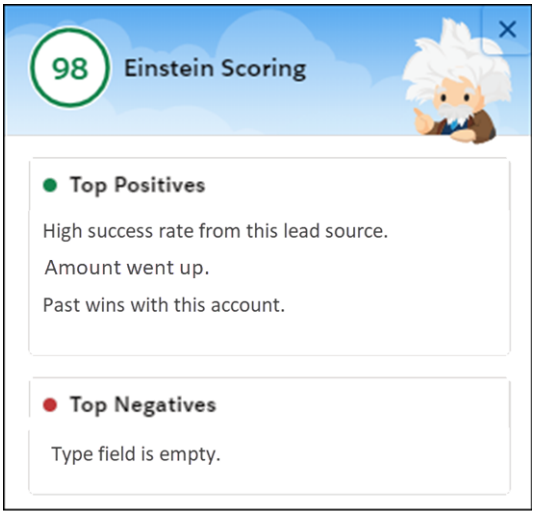
AI が追加費用なしで Sales Cloud に含まれます。つまり、対象のすべての Sales Cloud ユーザが Einstein 商談スコアリングを利用できます。スコアは営業担当およびマネージャが商談に優先度を付けて、商談成立数を増やせるようにリスクの高い商談にフラグを付けます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、Spring '20 リリースで後からリリースされます。

対象ユーザ: 組織に資格がある場合、Salesforce ユーザライセンスを持つすべてのユーザが商談スコアを表示できます。ただし、「すべてのユーザの Sales Cloud Einstein」権限セットを使用してユーザアクセスを管理できます。

理由: 人工知能は、現在の市場で競っている営業チームにとって必須です。Einstein 商談スコアリングは、各商談に 1 ～ 99 のスコアを付けます。このスコアは、商談レコード、リストビュー、売上予測ページ、レポートで使用できます。



方法: アプリケーション内応答画面に従って Einstein の使用を開始します。または、Lightning Experience の [設定] の [支援付き設定] ページから、[有効にする] をクリックします。残りのスコアリングモデルの作成、ページレイアウトへのスコア項目の追加、ユーザへの権限セットの割り当ては自動的に行われます。

関連トピック:

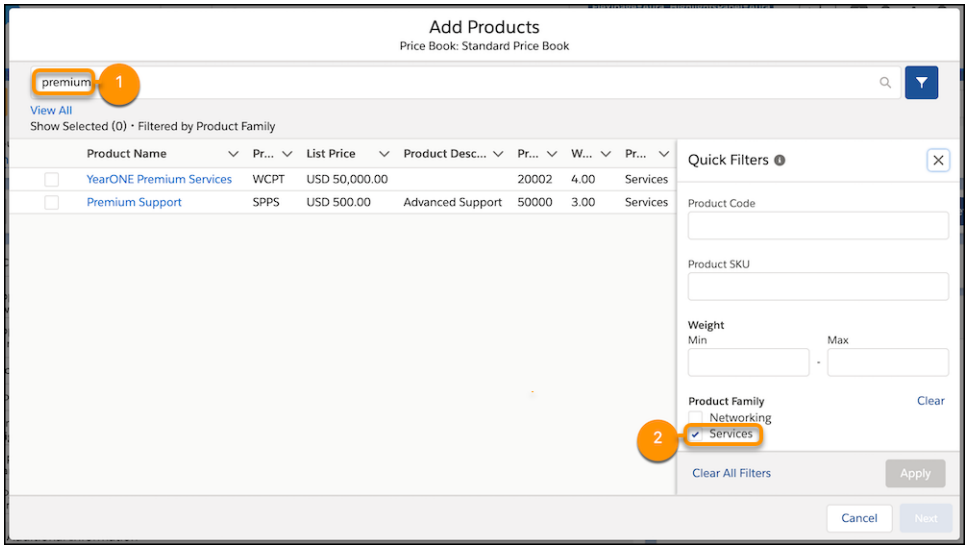
実装ガイド: すべてのユーザ向けの Einstein 商談スコアリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience での検索条件を使用した商談商品検索の絞り込み

営業担当は、Lightning Experience で検索条件を使用して、商談に追加する商品を絞り込めるようになりました。商談に品目を追加するために商談の長いリストをスクロールする必要はもうありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 商品カタログに多数の品目が掲載されている場合、営業担当は商品項目で検索する項目を絞り込み、検索結果を絞り込むことができるようになりました。たとえば、次の商談では、「premium (プレミアム)」 (1) の検索結果が絞り込まれ、1 つの商品ファミリ (2) のみの結果が表示されています。



メモ: クイック検索条件には、価格表エントリ検索レイアウトに含まれる商品オブジェクト項目のみが表示されます。

関連トピック:

IdeaExchange: Product Filter in Lightning Experience - When Adding to Opportunity or Quote (Lightning Experience の商品条件 - 商談または見積に追加する場合) *(部分的に実現)*

コラボレーション売上予測: インライン編集および新しいテリトリー売上予測種別

売上予測ユーザは商談リストをインライン編集できます。また、Salesforce でさらに 6 個のテリトリー売上予測種別がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

Lightning Experience で売上予測ページから複数の商談を更新
売上予測ユーザは、売上予測ページを離れずに商談を更新する別のオプションを使用できるようになりました。インライン編集を使用して、ユーザは複数の商談を同時に編集できます。

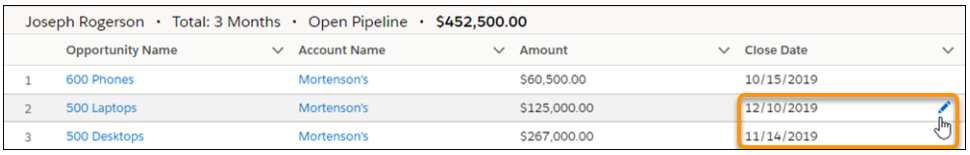
テリトリー売上予測のオプションの追加
テリトリー数量の売上予測とスケジュール日別のテリトリー売上予測のサポートが追加されました。この変更により、会社でこれらの方法による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。また、これらの売上予測種別では、インライン編集、クイックアクション、商談リストでのテキストの折り返しなど、Salesforce Classic にはなかった機能を使用できます。

Lightning Experience で売上予測ページから複数の商談を更新

売上予測ユーザは、売上予測ページを離れずに商談を更新する別のオプションを使用できるようになりました。インライン編集を使用して、ユーザは複数の商談を同時に編集できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 鉛筆アイコンにより、商談リストから商談を簡単に更新できます。



関連トピック:

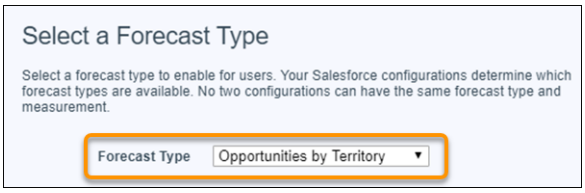
IdeaExchange: Inline Edit of Opportunities from the Forecast Tab ([販売予測] タブからの商談のインライン編集)

テリトリー売上予測のオプションの追加

テリトリー数量の売上予測とスケジュール日別のテリトリー売上予測のサポートが追加されました。この変更により、会社でこれらの方法による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。また、これらの売上予測種別では、インライン編集、クイックアクション、商談リストでのテキストの折り返しなど、Salesforce Classic にはなかった機能を使用できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [売上予測の設定] ページで 1 つ以上のテリトリー売上予測種別を追加します。



売上予測種別として [商談をテリトリーで絞り込み] または [商品ファミリをテリトリーで絞り込み] を選択します。次に、単位種別と日付種別を選択します。

次の新しいテリトリーベースの種別を使用できます。

- テリトリー別商談数量
- テリトリーおよびスケジュール日別商談数量
- テリトリーおよびスケジュール日別商談収益
- テリトリー別商品ファミリ数量
- テリトリーおよびスケジュール日別商品ファミリ数量

- テリトリーおよびスケジュール日別商品ファミリ収益

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の売上予測種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Territory Forecasts (テリトリー売上予測) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Enable and Set Up Territory Forecasts (テリトリー売上予測の有効化および設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンタープライズテリトリー管理: レポートおよび売上予測のオプションの追加

取引先レポートにテリトリー情報を表示できます。また、さらに6個のテリトリー売上予測種別から選択できます。

このセクションの内容:

テリトリー詳細による取引先レポートの拡張
営業チームは、有効なテリトリーモデルの情報を 5 個の標準取引先レポートに含めることができるようになりました。これにより、たとえば、取引先責任者と、関連付けられている取引先および割り当てられている有効なテリトリーのリストを作成できます。取引先とテリトリーの情報を関連付けることは、チームが営業活動を計画するのに役立ちます。

テリトリー売上予測種別の追加
テリトリー数量の売上予測とスケジュール日別のテリトリー売上予測のサポートが追加されました。この変更により、会社でこれらの方法による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。

関連トピック:

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新、適用済み)

テリトリー詳細による取引先レポートの拡張

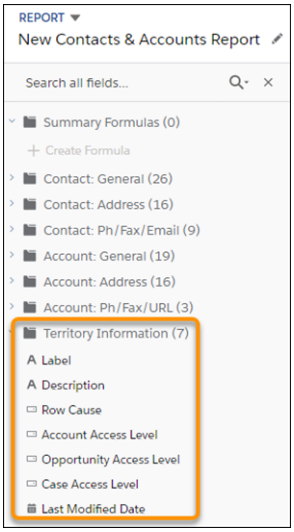
営業チームは、有効なテリトリーモデルの情報を5個の標準取引先レポートに含めることができるようになりました。これにより、たとえば、取引先責任者と、関連付けられている取引先および割り当てられている有効なテリトリーのリストを作成できます。取引先とテリトリーの情報を関連付けることは、チームが営業活動を計画するのに役立ちます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: これらの標準レポートを作成または編集するときに、テリトリー項目を追加します。

- 取引先履歴
- 納入商品が関連する取引先

- 取引先責任者の役割が関連する取引先
- パートナーが関連する取引先
- 取引先責任者と取引先



レポートビルダーとレポート出力は次のようになっています。

- [表示ラベル] はテリトリー名です。
- [説明] はテリトリーの説明です。

標準取引先レポートの場合、テリトリー項目は使用できません。取引先とテリトリー情報を関連付けるカスタムレポートタイプを作成することをお勧めします。

メモ:

- 元のテリトリー管理機能から移行した場合は、エンタープライズテリトリー管理を使用して取引先レポートを作り直してください。元の機能で取引先レポートに追加されたテリトリー項目は、エンタープライズテリトリー管理のレポートには表示されません。
- 元の機能で取引先をテリトリーに割り当てていた場合は、エンタープライズテリトリー管理の取引先レポートに、それらのレコードの行が含まれますが、それ以外の情報は含まれません。レポートを絞り込んで、[ラベル] セルが空で [テリトリー割り当て方法] セルが定義されている行を除外します。

テリトリー売上予測種別の追加

テリトリー数量の売上予測とスケジュール日別のテリトリー売上予測のサポートが追加されました。この変更により、会社でこれらの方法による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

テリトリー売上予測のオプションの追加

取引先責任者: 商談取引先責任者の役割とリストメール取引先責任者の機能強化

プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して商談取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化できます。リストメールに追加する取引先責任者の取引先項目で検索できます。

このセクションの内容:

取引先責任者の役割のプロセスを自動化
プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化することで、効率を高め、収益属性を改善します。たとえば、必要な取引先責任者の役割をすべての新規商談に追加するプロセスを作成できます。取引先責任者の役割が作成または更新されたときに、商談所有者に通知を送信することもできます。

Lightning Experience での取引先条件を使用したリストメール用の取引先責任者の検索
営業担当がリストメールに取引先責任者を追加するときに、取引先項目に基づいて検索できるようになりました。検索オプションが増えたため、メールの適切な送信先を簡単かつ迅速に見つけられます。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

取引先責任者の役割のプロセスを自動化

プロセスビルダー、Flow Builder、およびワークフロールールを使用して取引先責任者の役割の主要なプロセスを自動化することで、効率を高め、収益属性を改善します。たとえば、必要な取引先責任者の役割をすべての新規商談に追加するプロセスを作成できます。取引先責任者の役割が作成または更新されたときに、商談所有者に通知を送信することもできます。

対象: この変更は、すべての Salesforce Edition (Sales Cloud または Service Cloud 付属) の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

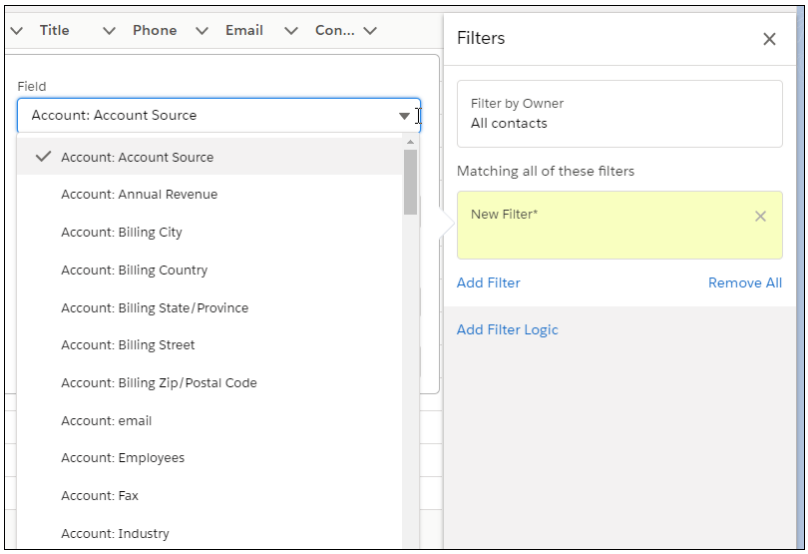
- Lightning フローを使用した取引先責任者の役割の作成および更新の自動化
- *Salesforce* ヘルプ: 商談取引先責任者の役割の設定とカスタマイズ
- *IdeaExchange*: Process Builder - Allow Action to create Opportunity Contact Role record (プロセスビルダー - アクションでの取引先責任者の役割レコードの作成)
- *IdeaExchange*: Make Opportunity Contact Role a First Class Object (取引先責任者の役割をファーストクラスオブジェクトにする)

Lightning Experience での取引先条件を使用したリストメール用の取引先責任者の検索

営業担当がリストメールに取引先責任者を追加するときに、取引先項目に基づいて検索できるようになりました。検索オプションが増えたため、メールの適切な送信先を簡単かつ迅速に見つけられます。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: [取引先責任者] リストビューで、検索条件を作成または編集します。営業担当が、アクセス可能なすべての取引先項目を表示できるようになりました。



関連トピック:

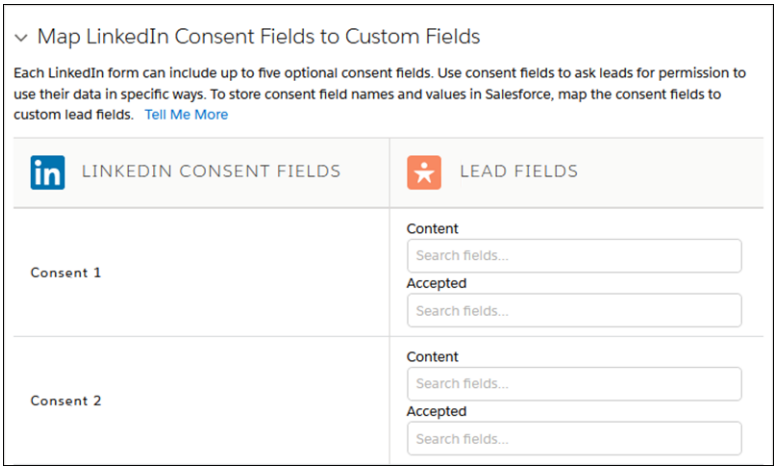
- Lightning Experience で取引先の条件によってリストメールの取引先責任者をすばやく特定
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience のリストビューの作成またはコピー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience でのリストメールの送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リード: LinkedIn リードジェネレーションフォームからより多くのリードデータを取り込む

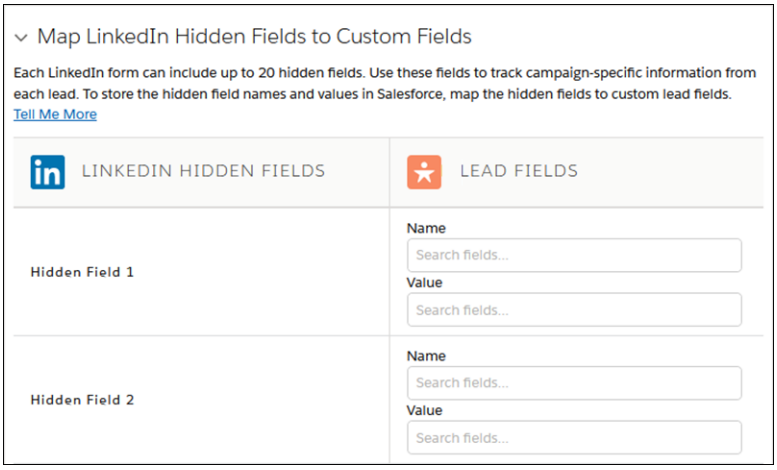
営業担当が LinkedIn から生成されたリードに関するより多くのデータにアクセスできるようにします。LinkedIn プロフィールの URL、同意項目、非表示項目を Salesforce のカスタムリード項目に対応付けることができるようになりました。これにより、営業担当が重要なデータにアクセスできます。たとえば、[LinkedIn 同意項目] のデータを追加して、コミュニケーションとプライバシーに関するリードの設定を追跡します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [LinkedIn リードジェネレーション] の [設定] で、[LinkedIn プロフィールの URL]、[LinkedIn 非表示項目]、および [LinkedIn 同意項目] を Salesforce リード項目に対応付けます。



各リードのキャンペーン固有のデータを取り込むには、[LinkedIn 非表示項目] を使用します。



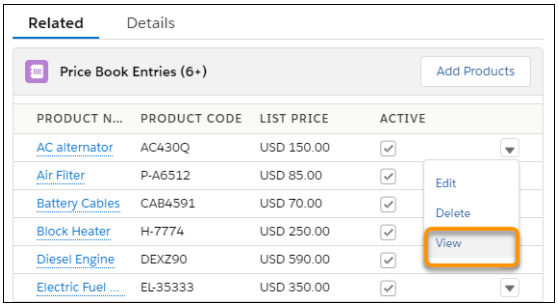
リードの LinkedIn プロフィールアドレスを取り込むには、[LinkedIn プロフィールの URL] 項目を使用します。

価格表エントリ: Lightning Experience での価格表エントリ関連リストのより有効な活用

価格表エントリ関連リストのクイックアクションに [表示] が追加されました。営業担当は Salesforce Classic に切り替えなくても価格表エントリの詳細を簡単に確認できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ユーザは [表示] をクリックして価格表エントリのレコードホームにアクセスします。



パス: 注文履行の合理化

履行注文オブジェクトのパスを作成して、顧客のショッピング体験を改善します。注文履行パスにより、コールセンターのエージェントが注文状況を確認したり、倉庫の作業員が品目の状況を簡単に更新したりできます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: 履行注文オブジェクトは、Salesforce **注文管理ライセンスを持つユーザが使用できます。**

関連トピック:

- フローを使用した履行および支払収集の自動化

中核的なセールス機能のその他の変更

サブスクリプションまたはキャンペーンを更新するため、営業担当は商談またはキャンペーンをその関連レコードと共にコピーできるようになりました。取引先および商談チームの関連リストをカスタマイズし、営業担当がより効果的にコラボレーションできるようにします。エンタープライズテリトリー管理の重要な更新が適用されるようになりました。カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。また、コラボレーション売上予測、会計年度の設定、および元のテリトリー管理機能に関する権限が変更されました。

このセクションの内容:

- 商談またはキャンペーンの関連レコードを含めたコピー

  [関連情報と共にコピー] アクションを使用すれば、繰り返される商談およびキャンペーンを簡単に作成できます。取引先担当者がこうしたレコードを作成し直すときに関連項目を 1 つずつ見つけて追加する必要はなくなりました。

- 取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ

  取引先および商談チームの関連リストをカスタマイズし、営業担当がより効果的にコラボレーションできるようにできます。以前は、これらの関連リストはカスタマイズできましたが、カスタマイズの内容はエンドユーザに表示されませんでした。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新、適用済み)

「エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化」は、Spring '19 の重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

コラボレーション売上予測と会計年度の設定に関する権限の変更

売上予測オブジェクトおよび種別に Salesforce API でアクセスできるのは、「すべての売上予測の参照」または「売上予測を許可」権限を持つ標準ユーザ、あるいは代理売上予測マネージャの地位の標準ユーザです。また、会計年度の設定に関連する API オブジェクトにアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザです。

元のテリトリー管理に関する権限の変更

テリトリーにアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザです。また、テリトリーに割り当てられたユーザおよび取引先割り当てルールにアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。このいずれかのオブジェクトを編集するには、ユーザに「テリトリーの管理」権限が必要です。

商談またはキャンペーンの関連レコードを含めたコピー

[関連情報と共にコピー]アクションを使用すれば、繰り返される商談およびキャンペーンを簡単に作成できます。取引先担当者がこうしたレコードを作成し直すときに関連項目を1つずつ見つけて追加する必要はなくなりました。

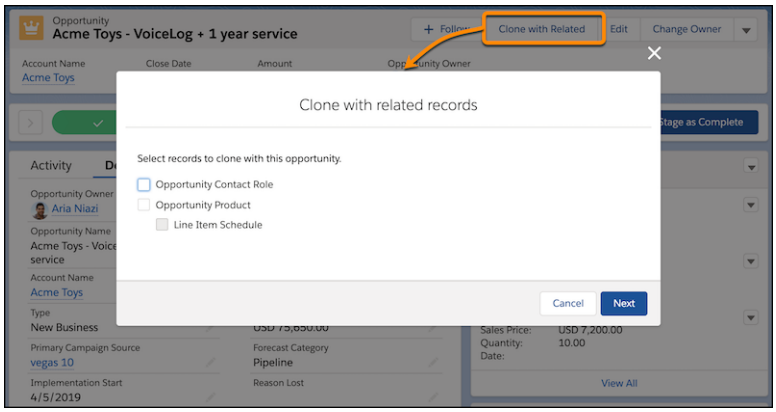
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: [関連情報と共にコピー] アクションを使用するには、ユーザに商談またはキャンペーンに対する「作成」権限とコピーするレコードに対する「参照」アクセス権が必要です。

理由: 営業担当およびマーケターは商談またはキャンペーンをコピーするときに関連レコードを簡単に含めることができます。

商談

営業担当は、取引先責任者の役割、商品、または商品 (品目) スケジュールを商談と共にコピーして、サブスクリプションを更新できます。



キャンペーン
キャンペーンで[関連情報と共にコピー]アクションを使用した場合、そのすべてのメンバー状況と共にキャンペーンレコードが複製されます。

方法:オブジェクトマネージャで、商品オブジェクトまたはキャンペーンオブジェクトを見つけて[ページレイアウト]を選択します。レイアウトに[関連情報と共にコピー]アクションを追加して保存します。ダイアログで、オプションの順序を変更することはできません。

関連トピック:

IdeaExchange: Opportunity Cloning Should Clone the Contact Roles Too (商談のコピーで取引先責任者の役割もコピーする)

IdeaExchange: Lightning - Include Clone with Products Action on Opportunities (Lightning - 商談の[商品と共にコピー]アクションを含める)

IdeaExchange: Cloning a Campaign Should Clone Campaign Member Status Options in Lightning (キャンペーンのコピーで Lightning のキャンペーンメンバーの状況オプションをコピーする)

取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ

取引先および商談チームの関連リストをカスタマイズし、営業担当がより効果的にコラボレーションできるようにできます。以前は、これらの関連リストはカスタマイズできましたが、カスタマイズの内容はエンドユーザに表示されませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 関連リストをページレイアウトに追加するオプションを選択して、取引先または商談チームを有効にします。次に、オブジェクトマネージャで、取引先または商談を見つけます。ページレイアウトエディタで、[取引先チーム]または[商談チーム]関連リストを見つけます。レイアウトをカスタマイズするには、⚙を選択し、必要に応じて項目、並び替え、およびボタンを変更します。

関連トピック:

IdeaExchange: Configure Opportunity Team Related List in Lightning Experience (Lightning Experience での商談チームの関連リストの設定)

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新、適用済み)

「エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化」は、Spring '19 の重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、Spring '20 リリースで適用されます。

方法: AccountShare オブジェクトを直接操作する Apex コードまたはインテグレーションがある場合、`TerritoryManual` 理由コードのすべてのインスタンスを `Territory2AssociationManual` に更新してください。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: コラボレーション売上予測の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。元のテリトリー管理機能を使用している場合も、エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

関連トピック:

- ナレッジ記事: カスタマイズ可能な売上予測を Summer '20 リリースで廃止
- 元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。カスタマイザブル売上予測を使用している場合も、コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

関連トピック:

ナレッジ記事: 元のテリトリー管理モジュールを Summer '21 リリースで廃止

カスタマイザブル売上予測の廃止

コラボレーション売上予測と会計年度の設定に関する権限の変更

売上予測オブジェクトおよび種別に Salesforce API でアクセスできるのは、「すべての売上予測の参照」または「売上予測を許可」権限を持つ標準ユーザ、あるいは代理売上予測マネージャの地位の標準ユーザです。また、会計年度の設定に関連する API オブジェクトにアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザです。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

元のテリトリー管理に関する権限の変更

テリトリーにアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザです。また、テリトリーに割り当てられたユーザおよび取引先割り当てルールにアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。このいずれかのオブジェクトを編集するには、ユーザに「テリトリーの管理」権限が必要です。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

関連トピック:

ナレッジ記事: 元のテリトリー管理モジュールを Summer '21 リリースで廃止

生産性機能: 後で送信、リストメールのドラフト、メールスレッド、ToDo キュー

営業担当は、いくつかの新機能を使用して生産性を向上させることができます。最適な日時に到着するようにメールをスケジュールすることができるようになりました。また、リストメールは、営業担当がドラフトを保存して作業に戻ることができるため、簡単に作成できるようになりました。メールスレッドでは、営業担当が返信や雑談で迷うことなく、会話全体を 1 か所で確認できます。さらに、営業担当は ToDo をキューに割り当てて作業項目を効率的に共有できます。

このセクションの内容:

Email Experience: スケジュール済みメール、リストメールのドラフト、拡張メールリレー

営業担当は、受信者が最もメールを開封しそうなタイミングに合わせて、最長 6 週間後までメールの送信をスケジュールすることができます。また、リストメールの使い方も簡単になり、担当者はメールのドラフトを保存しておき、完成させてから送信できます。そして、2つの新しい[設定]ページでメールリレーの設定を拡張しました。

メールテンプレート: 適切な形式のテンプレートとホームページの改善

メールテンプレートの問題に関するエラーメッセージがより詳しくなったため、エラーなしでテンプレートを作成しやすくなりました。また、担当者はメールテンプレートホームページで行レベルのアクションを使用して、メールテンプレートを管理できます。

活動: ToDo をキューに割り当てて作業を効率的に共有

ToDo のキューを設定して、営業担当がワークロードを共有できるようにします。営業担当は ToDo を共有キューに割り当てることができ、個人がキューのリストビューからそれらの ToDo の所有権を取得できます。

Einstein 活動キャプチャ: Microsoft Exchange の簡単なナビゲーションと手動接続

Einstein 活動キャプチャおよび Inbox ユーザの設定ナビゲーションが簡略化されました。さらに、Exchange Web サービス (EWS) が外部に公開されていない場合、Microsoft Exchange と Salesforce 間の接続を手動で設定できます。

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

従来の Inbox: 取引先責任者補足情報の廃止予定

概要ページおよび取引先責任者詳細ページでサードパーティリソースから情報を参照する機能を含めて、取引先責任者補足情報は 2020 年 1 月 31 日の時点で使用できなくなりました。

メモ: メモを表示するための権限要件の変更

ユーザ権限の要件を厳しくすることで、メモのセキュリティを強化しました。関連する子レコードのメモを表示するためには、親レコードに対する権限が必要です。以前は、親レコードへの権限がなくても、取引先以外のすべてのレコードのメモを表示できました。

カレンダー: 行動の詳細のフロート表示、API で使用可能なオブジェクトカレンダー

営業担当は、クリックしてプレビューカードを開くことなく、行動の詳細を確認できます。開発者は API で CalendarView オブジェクトを使用して、オブジェクトカレンダーを作成および配布できます。

Lightning ニュース: より多くの国からニュースをお届け

Salesforce では英語のニュースの提供を続けていますが、これからはブラジル、フランス、ドイツ、インド、日本、そしてオランダからのニュース記事 (英語) もお届けします。Einstein 取引先インサイトでは、ニュース関連のインサイトにこれらのニュースソースも含まれます。

Email Experience: スケジュール済みメール、リストメールのドラフト、拡張メールリレー

営業担当は、受信者が最もメールを開封しそうなタイミングに合わせて、最長6週間後までメールの送信をスケジュールすることができます。また、リストメールの使い方も簡単になり、担当者はメールのドラフトを保存しておき、完成させてから送信できます。そして、2 つの新しい [設定] ページでメールリレーの設定を拡張しました。

このセクションの内容:

Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理
ドラフトを使用したリストメールの仕上げ
Lightning Experience で取引先の条件によってリストメールの取引先責任者をすばやく特定
Professional Edition でのコンプライアンス BCC メールの有効化
拡張メールリレーの設定
Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備
送信メールアクセスレベルの変更の追跡

Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理

営業担当は、メールの到着時間を指定することで、メールが開封される可能性を高めることができます。たとえば、取引先責任者の業務開始時間にメールが到着するようにスケジュールできます。新しいスケジュール済みメールコンポーネントにより、営業担当はスケジュール済みメールの内容を更新し、スケジュール日時を変更できます。

ドラフトを使用したリストメールの仕上げ

営業担当は、リストメールの作成に時間を取られることがあります。これからは、作業途中のメールをドラフトとして保存し、後で時間があるときに仕上げることで時間を節約できます。

Lightning Experience で取引先の条件によってリストメールの取引先責任者をすばやく特定

営業担当は、取引先項目に基づいた検索条件を使用して、メールの送信先として適格な人を特定できます。検索条件で使用する項目を増やすことで、営業担当は取引先責任者リストをより高精度で絞り込むことができます。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

Professional Edition でのコンプライアンス BCC メールの有効化

コンプライアンス BCC メール機能は、ユーザの指定したメールアドレスに、各送信メールメッセージのコピーを非表示で自動的に送信します。Spring '20 リリースでは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に加えて Professional Edition でもこの機能を使用できます。

拡張メールリレーの設定

を新しい [メールリレー] ページでは、Salesforce 経由で送信するメールの受信者と送信者のドメインに対して複数のメールリレーと検索条件を設定できます。新しい [メールドメイン検索条件設定] ページでは、Salesforce のメールサーバーと設定されているリレーホストとの間での認証も設定できます。こうした新しいオプションを有効にするために、[設定]の[メールリレーの有効化]ページが削除され、すべてのメールリレー設定が新しい [設定] ページに移動され、[メールドメイン検索条件] ページが追加されました。

Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備

Summer '20 以降、Salesforce はメールアドレスに非ラテンベースの言語文字を使用できるように、UTF-8 文字コードを介してメールアドレスの国際化 (EAI) をサポートします。Salesforce は、すべての標準メール項目でこの切り替えの準備を進めており、カスタムメール項目を準備するために実行できる手順も伝えています。切り替え後に国際メールアドレスを使用する必要はありませんが、使用する場合は、Salesforce 組織の準備によってスムーズに移行できます。

送信メールアクセスレベルの変更の追跡

カスタマーサポートの手を借りずに、Salesforce で送信メールへのアクセスの変更を監視できます。[設定変更履歴] の [配信到達性の設定] ページに [アクセスレベル] 項目を追加しました。

メール認証機関リストの標準化

期待通りの信頼性と安全性を備えたメール配信をサポートするため、Salesforce 経由で送信するメール用の Salesforce 認証機関 (CA) リストを更新しました。メール CA リストには、現在の Salesforce アウトバウンドメッセージ SSL CA リストエントリも含まれています。

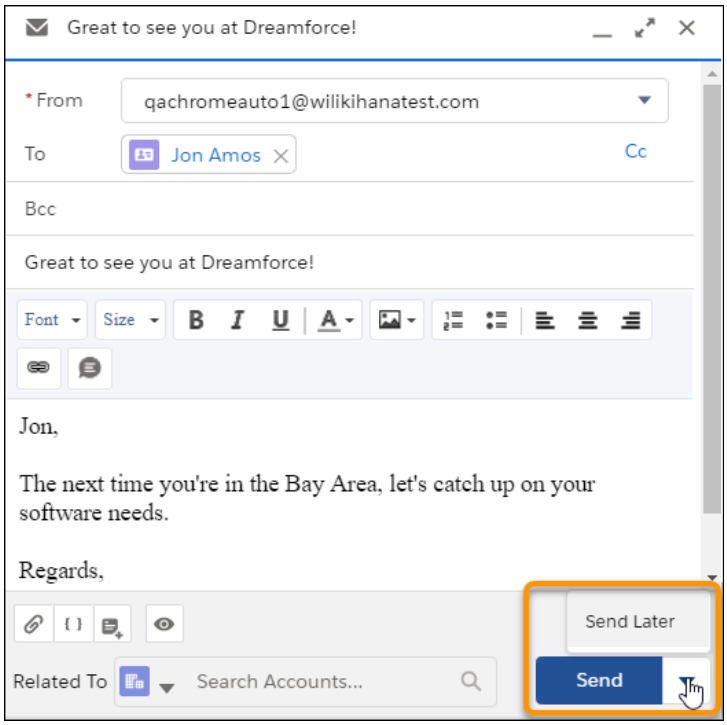
Lightning Experience でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理

営業担当は、メールの到着時間を指定することで、メールが開封される可能性を高めることができます。たとえば、取引先責任者の業務開始時間にメールが到着するようにスケジュールできます。新しいスケジュール済みメールコンポーネントにより、営業担当はスケジュール済みメールの内容を更新し、スケジュール日時を変更できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

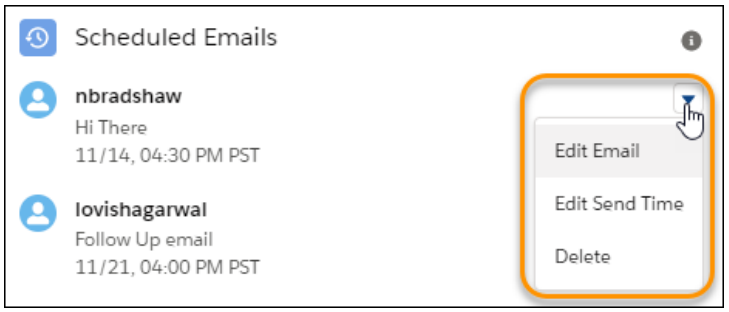
対象ユーザ: High Velocity Sales または Inbox ライセンスで使用可能な「Inbox を使用」ユーザ権限を持つユーザ。

方法: メールをスケジュールするには、メールコンポーザで [後で送信] を選択します。



次に、日時を選択して [スケジュール] をクリックします。

営業担当がスケジュール済みメールを管理できるようにするには、[編集ページ] を使用して [後でメールを送信 - 保留中リスト] コンポーネントをオブジェクトのホームページ (Salesforce ホームページを含む) に追加します。



そのコンポーネントを使用して、営業担当はすでにスケジュール済みのメールを再スケジュール、編集、または削除できます。

関連トピック:

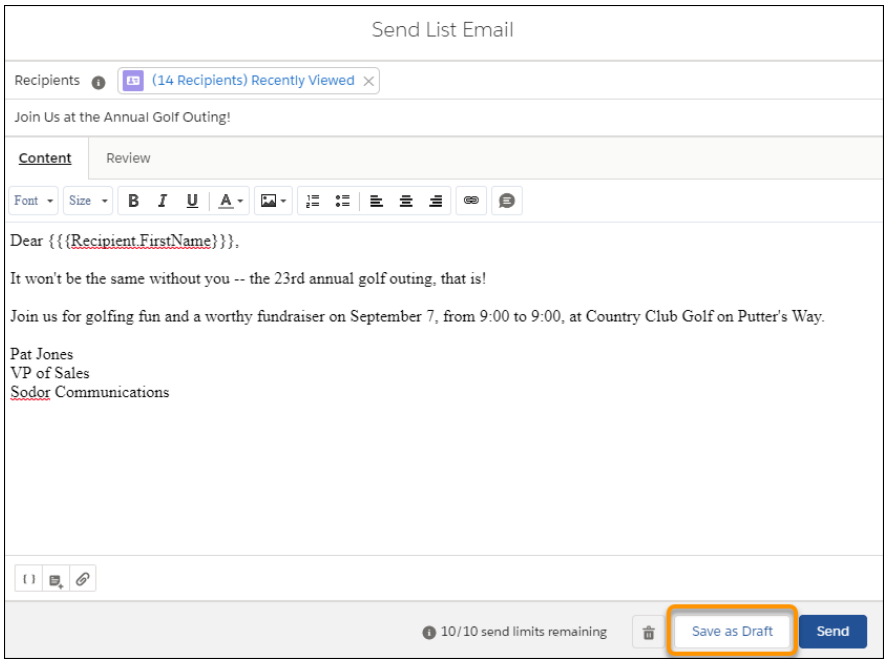
- *IdeaExchange*: Log an email set for Send Later in SalesforceIQ Inbox (SalesforceIQ Inbox で [後で送信] に設定されたメールの記録)
- High Velocity Sales でのスケジュール済みメールのスケジュールと管理
- *Salesforce* ヘルプ: スケジュール済みメール管理の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: スケジュール済みメールについて把握すべき事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドラフトを使用したリストメールの仕上げ

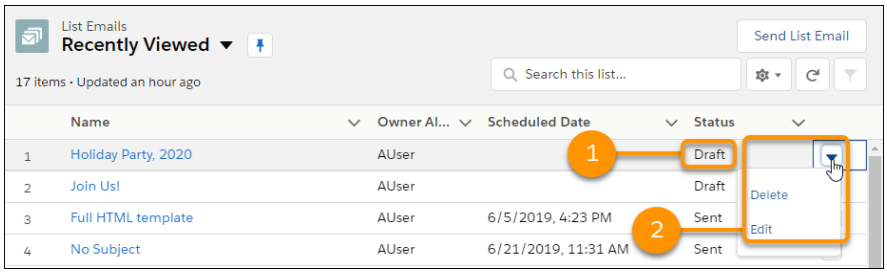
営業担当は、リストメールの作成に時間を取られることがあります。これからは、作業途中のメールをドラフトとして保存し、後で時間があるときに仕上げることで時間を節約できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 取引先責任者またはリードホームページから [リストメールの送信] をクリックしてメールの作成を開始します。変更内容を保存するには、[ドラフトとして保存] をクリックします。



リストメールの編集を再開するには、[リストメール] ホームページに移動します。



ドラフトリストメールを探して (1) 編集します (2)。編集が完了したらリストメールを再びドラフトとして保存するか、または送信します。

関連トピック:

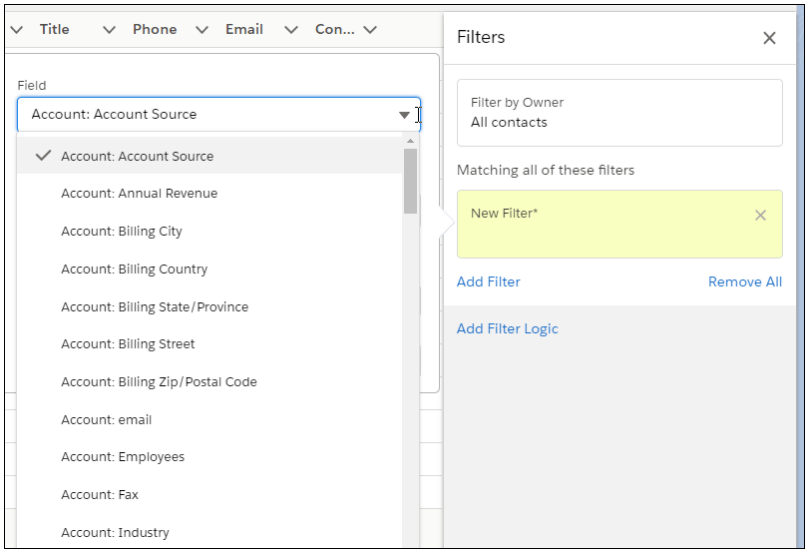
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのリストメールの送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience で取引先の条件によってリストメールの取引先責任者をすばやく特定

営業担当は、取引先項目に基づいた検索条件を使用して、メールの送信先として適格な人を特定できます。検索条件で使用する項目を増やすことで、営業担当は取引先責任者リストをより高精度で絞り込むことができます。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: [取引先責任者] リストビューで、検索条件を作成または編集します。営業担当が、アクセス可能なすべての取引先項目を表示できるようになりました。



絞り込まれたリストで、1 人以上の取引先責任者を選択して [リストメールの送信] をクリックします。

関連トピック:

- Lightning Experience での取引先条件を使用したリストメール用の取引先責任者の検索
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience のリストビューの作成またはコピー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience でのリストメールの送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Professional Edition でのコンプライアンス BCC メールの有効化

コンプライアンス BCC メール機能は、ユーザの指定したメールアドレスに、各送信メールメッセージのコピーを非表示で自動的に送信します。Spring '20 リリースでは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に加えて Professional Edition でもこの機能を使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: コンプライアンス BCC メールの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

拡張メールリレーの設定

を新しい[メールリレー]ページでは、Salesforce経由で送信するメールの受信者と送信者のドメインに対して複数のメールリレーと検索条件を設定できます。新しい[メールドメイン検索条件設定]ページでは、Salesforceのメールサーバーと設定されているリレーホストとの間での認証も設定できます。こうした新しいオプションを有効にするために、[設定]の[メールリレーの有効化]ページが削除され、すべてのメールリレー設定が新しい[設定]ページに移動され、[メールドメイン検索条件]ページが追加されました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning ExperienceおよびSalesforce Classicに適用されます。

メモ: 前に見たことがあるような機能だとお思いですか? この変更はSpring '19で発表しています。Spring '20では、すべてのお客様に対してこの機能を有効化します。

対象ユーザ: こうした[設定]の変更は、Spring '20までに拡張メールリレーページを手動で有効にしていないユーザにのみ表示されます。

時期: [メールリレーの有効化]ページは、Salesforceが組織を拡張メールリレーの[設定]ページに移行した後の数日間表示されます。この期間は、データの整合性を保つためにリレーの変更が無効化されます。リレー設定の更新まで待てない場合は、新しい[メールリレー]ページと[メールドメイン検索条件設定]ページを手動で有効化できます。

方法: 拡張ページを手動で有効化するには、[設定]の[クイック検索]ボックスに「*メールリレーの有効化*」と入力し、[メールリレーの有効化]を選択します。[拡張メールリレーを有効化]を選択します。

メモ: [設定]ページに[メールリレーの有効化]が表示されていない場合は、すでに組織は新しい[メールリレー]ページと[メールドメイン検索条件設定]ページに移行済みです。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールリレーの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: メールドメイン検索条件の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備

Summer '20以降、Salesforceはメールアドレスに非ラテンベースの言語文字を使用できるように、UTF-8文字コードを介してメールアドレスの国際化(EAI)をサポートします。Salesforceは、すべての標準メール項目でこの切り替えの準備を進めており、カスタムメール項目を準備するために実行できる手順も伝えています。切り替え後に国際メールアドレスを使用する必要はありませんが、使用する場合は、Salesforce組織の準備によってスムーズに移行できます。

対象: この変更は、すべてのエディションのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのSalesforceアプリケーションに適用されます。

メモ: EAIは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法: 国際化メールを使用する場合、4つのパートでメールアドレスの国際化(EAI)のサポートを準備します。

- UTF-8 のサポートがメールのパス全体に存在していることを確認する。
- Unicode 文字をサポートするようにインテグレーションを更新する。
- 最新の Apex および API バージョンを採用する。
- メールアドレスを保存するすべての項目でそのメールデータ型を使用していることを確認する。

詳細は、ナレッジ記事「Prepare for Salesforce Email Address Internationalization (EAI) support (Salesforce メールアドレス国際化 (EAI) サポートの準備)」を参照してください。

送信メールアクセスレベルの変更の追跡

カスタマーサポートの手を借りずに、Salesforce で送信メールへのアクセスの変更を監視できます。[設定変更履歴] の [配信到達性の設定] ページに [アクセスレベル] 項目を追加しました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

設定変更履歴でのより多くの変更の監視

IdeaExchange: Email Deliverability Changes Not Tracked in Audit Log (監査ログでメール送信の変更が追跡されない)

メール認証機関リストの標準化

期待通りの信頼性と安全性を備えたメール配信をサポートするため、Salesforce 経由で送信するメール用の Salesforce 認証機関 (CA) リストを更新しました。メール CA リストには、現在の Salesforce アウトバウンドメッセージ SSL CA リストエントリも含まれています。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce SOAP API 開発者ガイド: アウトバウンドメッセージについて

ナレッジ記事: Salesforce がサポートする SSL 証明書

Salesforce.com: Outbound Messaging SSL CA リスト

メールテンプレート: 適切な形式のテンプレートとホームページの改善

メールテンプレートの問題に関するエラーメッセージがより詳しくなったため、エラーなしでテンプレートを作成しやすくなりました。また、担当者はメールテンプレートホームページで行レベルのアクションを使用して、メールテンプレートを管理できます。

このセクションの内容:

問題のないマージ項目をより簡単に作成

Lightning SML や Classic のメールテンプレートのエラーが減ります。営業担当は、メールテンプレートを保存するときに (使用前に) ミスを見つけることができます。

テンプレートホームページからのメールテンプレートの管理
担当者は、メールテンプレートホームページで行レベルのアクションを使用してメールテンプレートを管理できます。

問題のないマージ項目をより簡単に作成

Lightning SML や Classic のメールテンプレートのエラーが減ります。営業担当は、メールテンプレートを保存するときに (使用前に) ミスを見つけることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 営業担当は、メールテンプレートのマージ項目で入力ミスをしてしまうことがあります。

以前は、マージ項目にミスがあるメールテンプレートを使用すると、そのマージ項目は省略されていました。マージ項目に閉じ中括弧がない場合は、メールテンプレート全体が完全に省略されていました。

このようなマージ項目のミスは、テンプレートを保存するときに見つかるようになりました。エラーメッセージが表示され、問題のあるマージ項目とエラーの内容が示されます。

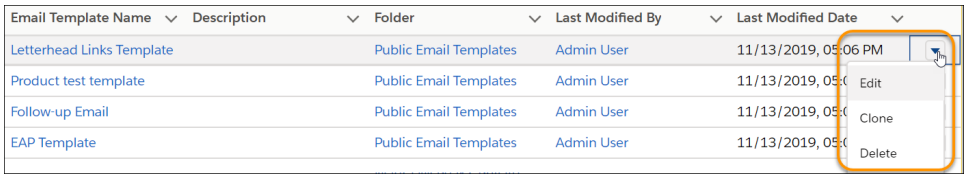
メモ: この変更は、Lightning SML と Classic のメールテンプレートにのみ適用されます。Handlebars Merge Language を使用している Lightning メールテンプレートは影響を受けません。

テンプレートホームページからのメールテンプレートの管理

担当者は、メールテンプレートホームページで行レベルのアクションを使用してメールテンプレートを管理できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 行レベルのアクションにより、リスト内で項目を表示しながら管理できます。



使用できるオプションは、メールテンプレートに対するユーザの編集権によって異なります。

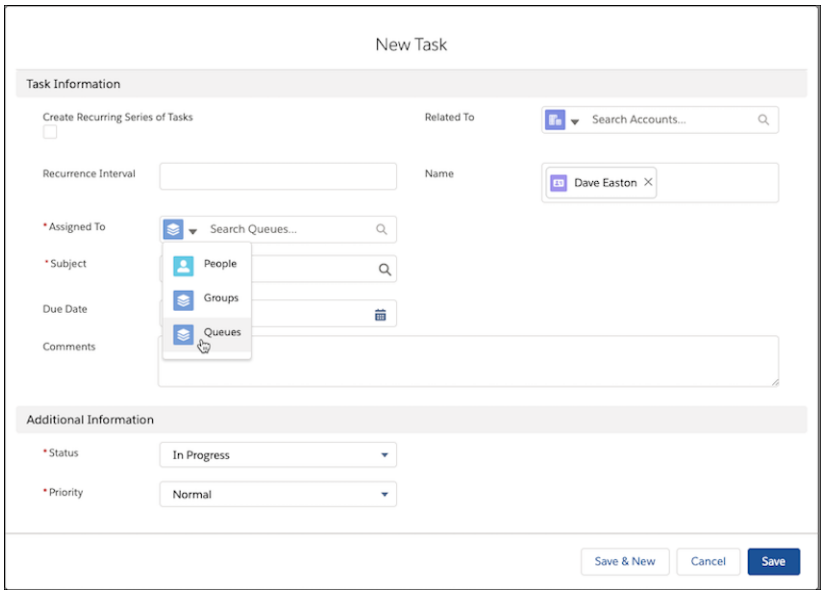
使用できるオプションは、メールテンプレートを表示したときに使用できるボタンにも反映されます。

活動: ToDo をキューに割り当てて作業を効率的に共有

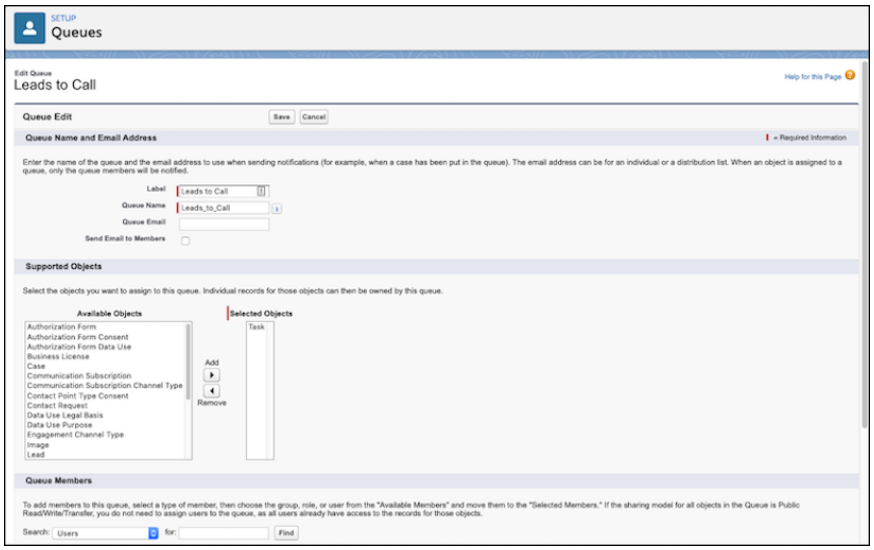
ToDo のキューを設定して、営業担当がワークロードを共有できるようにします。営業担当は ToDo を共有キューに割り当てることができ、個人がキューのリストビューからそれらの ToDo の所有権を取得できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当が ToDo をキューに割り当てると、こうした ToDo をキューのメンバーが使用できるようになります。つまり、全員が協力できるようになります。1 人の営業担当がすべての作業を実行する必要はもうありません。作業が委任または再割り当てされるのを待つことなく、チームの他のメンバーが手助けできるようになりました。



方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「キュー」と入力し、[キュー] を選択します。[キュー] 設定ページから、[新規] を選択します。次に、キューを作成し、サポートされるオブジェクトとして ToDo を割り当てます。



関連トピック:

IdeaExchange: Allow Task(s) to be assigned to a Queue (タスクをキューに割り当てられるようにする)

Salesforce ヘルプ: Set Up Queues (キューの設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Einstein 活動キャプチャ: Microsoft Exchange の簡単なナビゲーションと手動接続

Einstein 活動キャプチャおよび Inbox ユーザの設定ナビゲーションが簡略化されました。さらに、Exchange Web サービス (EWS) が外部に公開されていない場合、Microsoft Exchange と Salesforce 間の接続を手動で設定できます。

このセクションの内容:

メールスレッドでのすべての会話の確認
営業担当は、活動タイムラインに基づいて関連するメールを確認します。Einstein 活動キャプチャユーザに活動タイムラインの関連するメールが 1 つのスレッドにグループ化されて表示されるようになりました。会話としてメールがまとめて表示されることで、担当者はすべての会話を簡単に確認できます。

Einstein 活動キャプチャユーザの設定の新しい場所
Einstein 活動キャプチャユーザは、個人設定の [接続済みのアカウント] ページからアカウントを接続できるようになりました。また、共有設定は [共有設定] ページから設定します。以前は、アカウント接続と共有設定は [設定] ページにありました。

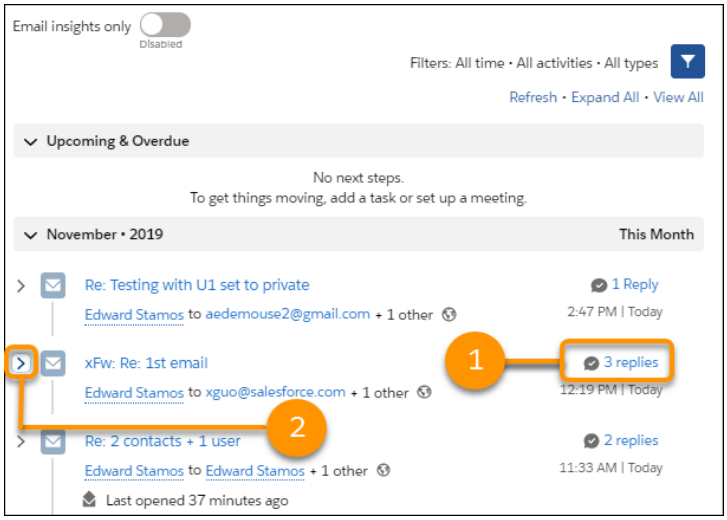
Microsoft Exchange エンドポイントへの Salesforce の接続
Einstein 活動キャプチャの同期を設定するときに、Microsoft Exchange エンドポイントを手動で設定できるようになりました。この機能強化は、Microsoft Exchange で自動検出設定を無効にした場合に特に役立ちます。

メールスレッドでのすべての会話の確認

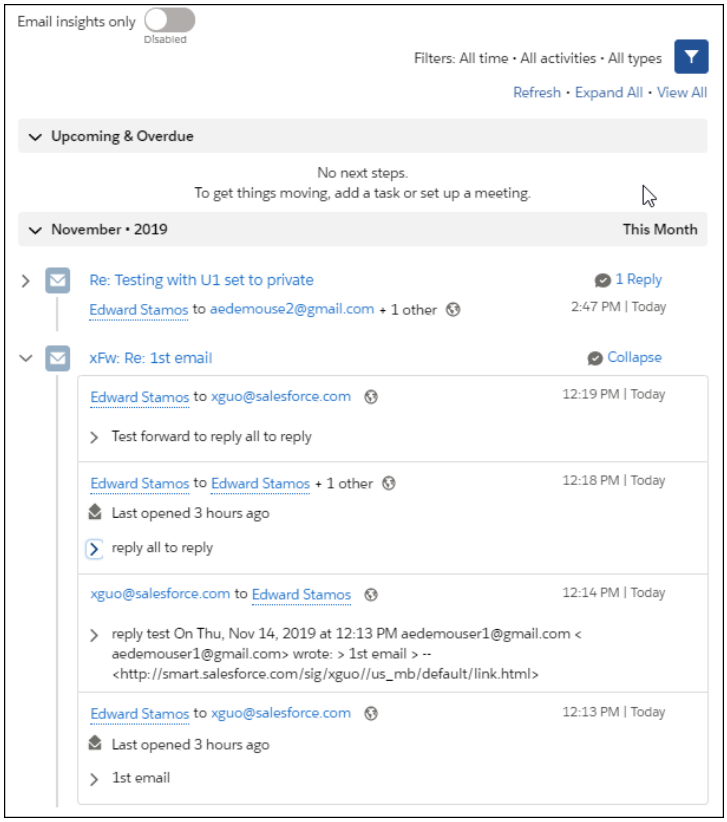
営業担当は、活動タイムラインに基づいて関連するメールを確認します。Einstein 活動キャプチャユーザに活動タイムラインの関連するメールが 1 つのスレッドにグループ化されて表示されるようになりました。会話としてメールがまとめて表示されることで、担当者はすべての会話を簡単に確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 担当者は、メールスレッドでメールを見ることができます。



活動タイムラインには、メールスレッドの返信数 (1、2、または 3+) が表示されます (1)。シェブロン (2) をクリックするとスレッドが開いてすべてのメールを見ることができます。



スレッドが開いたら、担当者は個別のメールを展開して、エンゲージメント情報や他のメールインサイトを見ることができます。

メモ: スレッドのメールで [返信]、[全員に返信]、または [転送] を使用するときには、メールをスケジュールすることはできません。

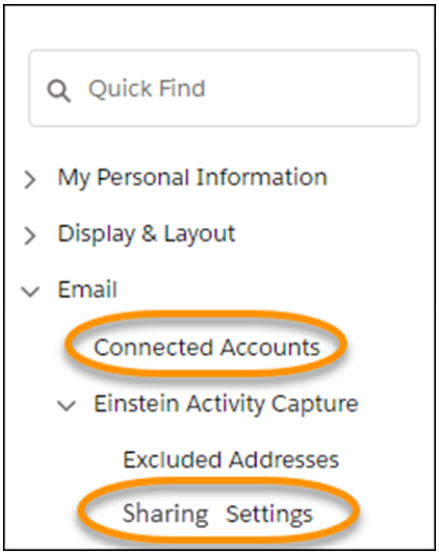
方法: Spring '20 リリースを有効化した後に送信されるすべてのメールはスレッド化されます。既存ユーザに対する以前のメールはスレッド化されません。Spring '20 以降のリリースで新しい Einstein 活動キャプチャユーザを有効化すると、そのユーザの既存のメールが検索されてスレッド化されます。

Einstein 活動キャプチャユーザの設定の新しい場所

Einstein 活動キャプチャユーザは、個人設定の [接続済みのアカウント] ページからアカウントを接続できるようになりました。また、共有設定は [共有設定] ページから設定します。以前は、アカウント接続と共有設定は [設定] ページにありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: アカウントの接続は、一緒に使用できる 2 つの機能、Einstein 活動キャプチャと Salesforce Inbox に適用されます。これらのナビゲーションの変更により、両方を使用するユーザの設定操作が簡略化されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャによる Salesforce へのメールとカレンダーの接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャによって追加された活動の共有方法の制御 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Microsoft Exchange エンドポイントへの Salesforce の接続

Einstein 活動キャプチャの同期を設定するときに、Microsoft Exchange エンドポイントを手動で設定できるようになりました。この機能強化は、Microsoft Exchange で自動検出設定を無効にした場合に特に役立ちます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Exchange Web サービス (EWS) が外部に公開されていない場合、Einstein 活動キャプチャは Microsoft Exchange アカウントを検出できません。Microsoft Exchange エンドポイントを Einstein 活動キャプチャに手動で接続すると、Microsoft Exchange ユーザは Einstein 活動キャプチャを使用して取引先責任者と行動を同期できます。

方法: [設定] の [Microsoft Exchange 接続] ページから、[新規] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- Inbox Mobile for iOS
- Inbox Mobile for Android

Inbox デスクトップの最新の機能と機能強化については、Salesforce リリースノートの Outlook インテグレーションセクション、Gmail インテグレーションセクション、メール操作環境セクションを参照してください。

関連トピック:

Outlook® インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、イベントの記録の改善、テンプレートの更新

Gmail™ インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、記録される行動の分類、テンプレートの更新

Email Experience: スケジュール済みメール、リストメールのドラフト、拡張メールリレー

従来の Inbox: 取引先責任者補足情報の廃止予定

概要ページおよび取引先責任者詳細ページでサードパーティリソースから情報を参照する機能を含めて、取引先責任者補足情報は 2020 年 1 月 31 日の時点で使用できなくなりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の有料オプションとして使用可能な従来の Inbox アプリケーションに適用されます。Essentials Edition では Inbox を無料で利用できます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Retirement of the Contact Enrichment feature in 'Legacy Inbox' Desktop and 'Inbox Mobile' application (「従来の Inbox」デスクトップおよび「Inbox モバイル」アプリケーションでの取引先責任者強化機能の廃止)

メモ: メモを表示するための権限要件の変更

ユーザ権限の要件を厳しくすることで、メモのセキュリティを強化しました。関連する子レコードのメモを表示するためには、親レコードに対する権限が必要です。以前は、親レコードへの権限がなくても、取引先以外のすべてのレコードのメモを表示できました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

カレンダー: 行動の詳細のフロート表示、API で使用可能なオブジェクトカレンダー

営業担当は、クリックしてプレビューカードを開くことなく、行動の詳細を確認できます。開発者は API で CalendarView オブジェクトを使用して、オブジェクトカレンダーを作成および配布できます。

このセクションの内容:

これまで以上にすばやく行動の詳細を表示
営業担当は、カレンダーの行動にマウスポインタを置いて行動の詳細をすばやく表示できます。行動の詳細から、行動を編集または削除できます。以前は、営業担当が行動を表示および更新したりプレビューカードを表示したりするには時間がかかっていました。

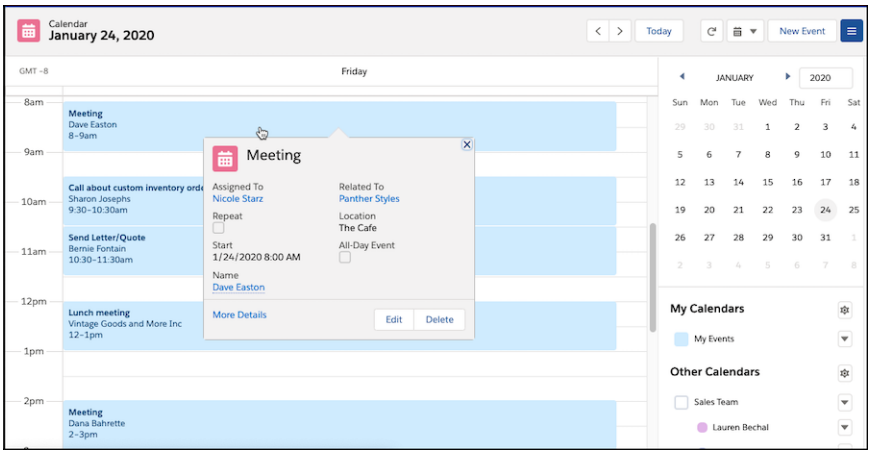
API からのオブジェクトカレンダーの作成
開発者は、標準オブジェクト CalendarView で表されるオブジェクトカレンダーを表示、作成、および配布できます。以前は、オブジェクトカレンダーはユーザインターフェースからのみ作成可能でした。

これまで以上にすばやく行動の詳細を表示

営業担当は、カレンダーの行動にマウスポインタを置いて行動の詳細をすばやく表示できます。行動の詳細から、行動を編集または削除できます。以前は、営業担当が行動を表示および更新したりプレビューカードを表示したりするには時間がかかっていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 行動にマウスポインタを置くと、行動のプレビューが表示され、その日の計画に必要な詳細が明らかになります。



方法: 営業担当の行動の詳細プレビューに表示される項目を更新するには、行動のコンパクトレイアウトをカスタマイズします。

API からのオブジェクトカレンダーの作成

開発者は、標準オブジェクト CalendarView で表されるオブジェクトカレンダーを表示、作成、および配布できます。以前は、オブジェクトカレンダーはユーザインターフェースからのみ作成可能でした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: CalendarView (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Lightning ニュース: より多くの国からニュースをお届け

Salesforce では英語のニュースの提供を続けていますが、これからはブラジル、フランス、ドイツ、インド、日本、そしてオランダからのニュース記事(英語)もお届けします。Einstein 取引先インサイトでは、ニュース関連のインサイトにこれらのニュースソースも含まれます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:ニュース (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail™ インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、記録される行動の分類、テンプレートの更新

営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。営業担当は行動を Salesforce に記録するときに、行動の種別を識別できるようになりました。また、テンプレートフローが更新され、テンプレートを作成してメールに追加するのが簡単になりました。

このセクションの内容:

Gmail インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握

Gmail からメールを送信し、Gmail インテグレーションを使用している場合、営業担当はインテグレーションで顧客のメールプライバシー設定を確認できるようになりました。以前は、営業担当は Salesforce の取引先責任者またはリードレコードを参照して、メールのプライバシー設定を確認していました。

Gmail インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類

営業担当の顧客および見込み客とのコミュニケーションの種別を特定することで、ビジネスのレポートとプロセスが改善されます。営業担当は、Gmail インテグレーションから Salesforce に行動を記録するときに、通話やミーティングなどのイベント種別を選択できるようになりました。

Gmail インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化

営業担当によるテンプレートの作成、既存のテンプレートのメールへの適用、差し込み項目への関連レコードの入力がより簡単になりました。さらに、見やすくなったレイアウトにより、生産性を高めてメッセージを標準化できます。

High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信

適切なタイミングでメールを送信することは、商談を成立させるために極めて重要です。Gmail インテグレーションの High Velocity Sales 作業キューから作業している営業担当は、すべてのメール、ケイデンスなどをスケジュールして後で送信できます。

新しい場所での Gmail インテグレーションの Inbox 機能の有効化

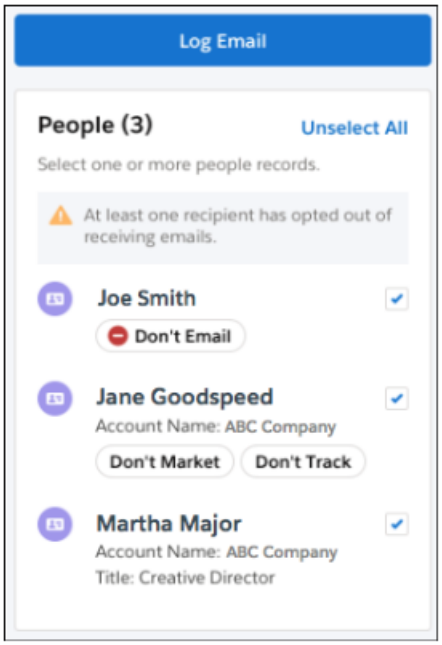
Salesforce Inbox に [設定] の Inbox 設定アシスタントの有効化のための一元的な場所が用意されました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

Gmail インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握

Gmail からメールを送信し、Gmail インテグレーションを使用している場合、営業担当はインテグレーションで顧客のメールプライバシー設定を確認できるようになりました。以前は、営業担当は Salesforce の取引先責任者またはリードレコードを参照して、メールのプライバシー設定を確認していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 信頼は重要であり、顧客のメール設定を尊重することはその信頼の一部です。Gmail の取引先責任者またはリードにメールのプライバシー設定が表示されるようになりました。



方法: Lightning Experience の取引先責任者またはリードのメールプライバシー設定がインテグレーションに表示されます。追加設定は必要ありません。

重要: Salesforce ユーザが Lightning Experience から取引関連メールを送信できるようにする「営業以外のメールを送信」権限は、Gmail インテグレーションでは適用されません。Gmail からメールを送信するときに、メール受信者のプライバシーを尊重することは営業担当の責任です。

関連トピック:

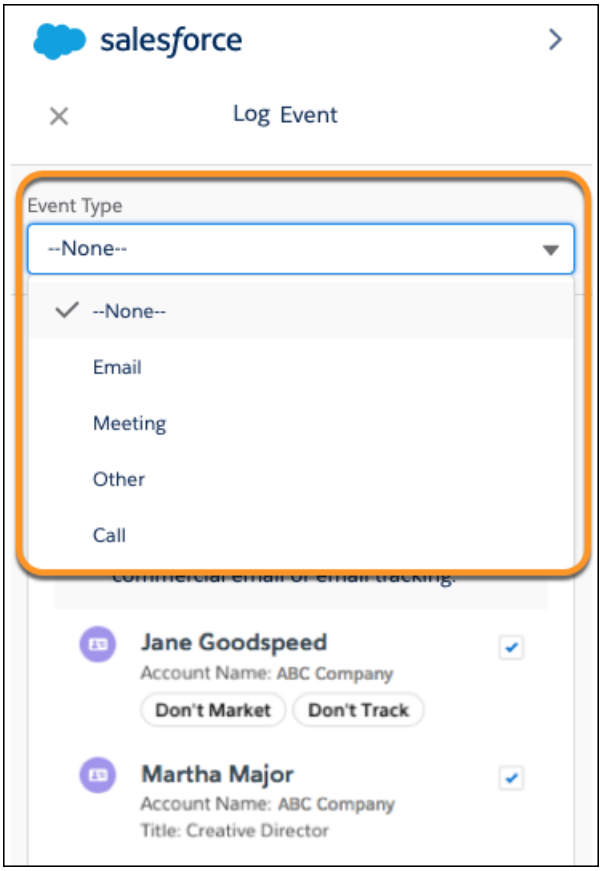
Salesforce ヘルプ: メールの開封追跡とメール送信除外 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類

営業担当の顧客および見込み客とのコミュニケーションの種別を特定することで、ビジネスのレポートとプロセスが改善されます。営業担当は、Gmail インテグレーションから Salesforce に行動を記録するときに、通話やミーティングなどのイベント種別を選択できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: オブジェクトマネージャで、[種別] 項目を行動オブジェクトに追加し、Gmail から行動を記録する営業担当に表示されるようにします。ビジネスに適した選択リスト値を含めます。[種別] 項目をすでに行動オブジェクトに含めている場合、変更は必要ありません。営業担当はインテグレーションから行動を記録するときに、[種別] 項目にアクセスできます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 項目へのユーザアクセスの制御 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

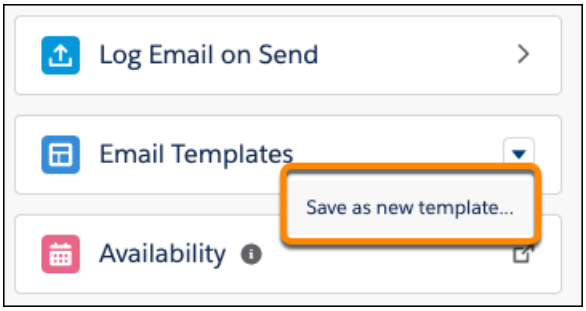
Salesforce ヘルプ: Gmail からのメールを記録する場合のイベント種別選択肢の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化

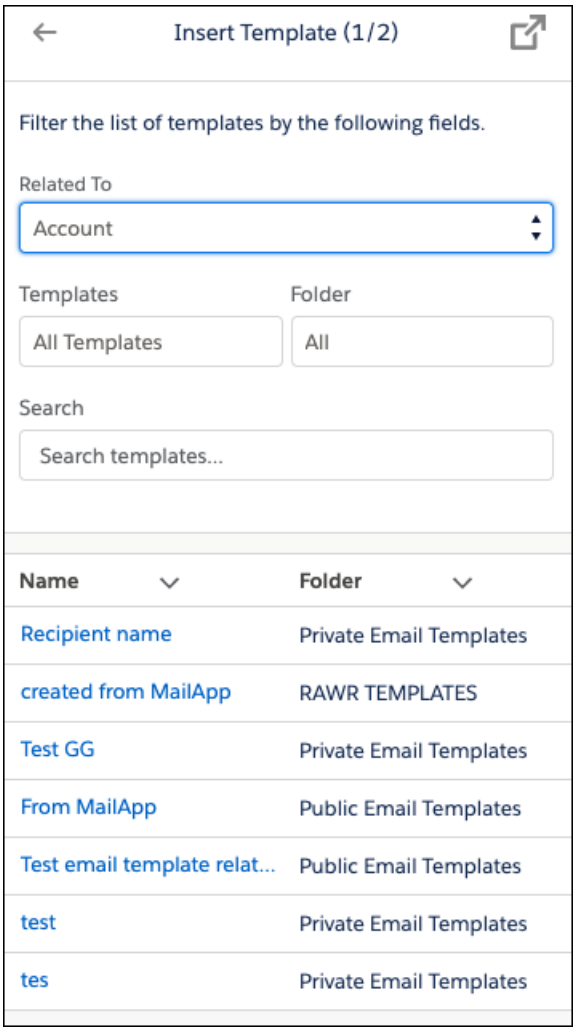
営業担当によるテンプレートの作成、既存のテンプレートのメールへの適用、差し込み項目への関連レコードの入力がより簡単になりました。さらに、見やすくなったレイアウトにより、生産性を高めてメッセージを標準化できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できるデスクトップの Salesforce Inbox に適用されます。

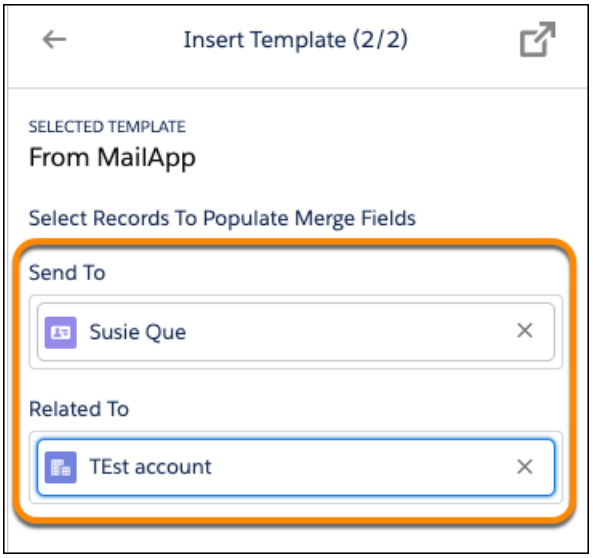
方法: Gmail インテグレーションからメールテンプレートを作成します。新規テンプレートを Gmail インテグレーションまたは Lightning Experience メールからの今後のメールに適用します。



既存のテンプレートをメールに適用し、名前、フォルダ、または関連する Salesforce オブジェクト (取引先や商談など) でテンプレートのリストを絞り込みます。



差し込み項目に入力するためのレコードを選択します。[送付先] および [関連先] 項目に選択したテンプレートの対応する詳細が入力されます。



関連トピック:

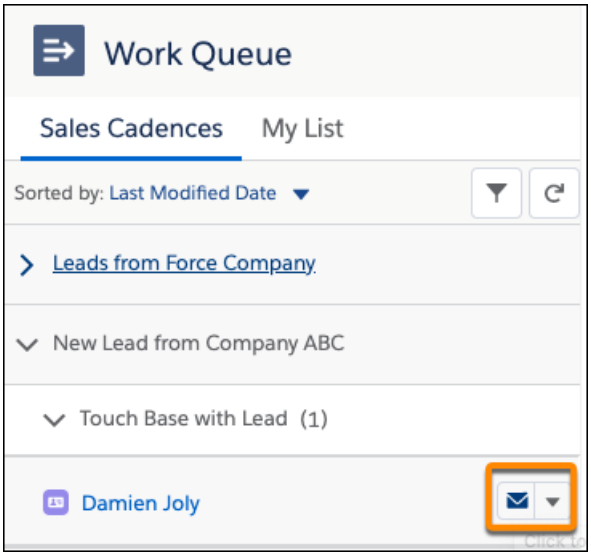
Salesforce ヘルプ: メールテンプレートによる迅速化と一貫性の向上 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信

適切なタイミングでメールを送信することは、商談を成立させるために極めて重要です。Gmail インテグレーションの High Velocity Sales 作業キューから作業している営業担当は、すべてのメール、ケイデンスなどをスケジュールして後で送信できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。

方法: Gmail インテグレーションの作業キューからメールを作成します。メール作成ウィンドウが表示されたら、インテグレーションで [後で送信] を有効にし、送信するメールをスケジュールします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: High Velocity Sales の設定に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい場所での Gmail インテグレーションの Inbox 機能の有効化

Salesforce Inbox に [設定] の Inbox 設定アシスタントの有効化のための一元的な場所が用意されました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

新しい場所での Salesforce Inbox 機能の有効化

Microsoft® とのインテグレーション: メールのプライバシー通知、Lightning Sync の設定の変更、Salesforce for Outlook の問題の解決

営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。Lightning Sync には、Microsoft Exchange のバージョンに応じて影響を受ける可能性がある設定の変更がいくつかあります。さらに、Lightning Experience 向けの Microsoft® Internet Explorer® 11 の終了の影響を受ける Salesforce for Outlook のお客様向けに、アクセスを復元するための手順を紹介します。

このセクションの内容:

Outlook® インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、イベントの記録の改善、テンプレートの更新
営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。Salesforce に記録するイベント種別を選択する機能が追加されました。また、テンプレートフローが更新され、テンプレートを作成してメールに追加するのが簡単になりました。

Lightning Sync for Microsoft Exchange: Microsoft Office 365 ユーザ向けの NTLM 認証 のサポートと変更
Microsoft® Exchange 2016® または Exchange 2013® サーバのユーザは、優先する Lightning Sync 認証方式 (NTLM または基本認証) を選択する柔軟性があります。さらに、Microsoft Office 365® ユーザは 2020 年 10 月の基本認証の廃止に備えて、Lightning Sync 設定を調整できます。

Salesforce for Outlook: サービスが中断された場合のアクセスの復元
Microsoft® Internet Explorer® 11 のサポートが変更されたため、Salesforce Classic へのアクセス権を持たない Salesforce for Outlook ユーザはサービスが中断される可能性があります。影響を受けるかどうかを調べる方法と、アクセスを復元する方法を説明しています。

Outlook® インテグレーション: メールのプライバシー設定を遵守するための透明性の向上、イベントの記録の改善、テンプレートの更新

営業担当が顧客とコミュニケーションを取る最適な方法がわかるように、インテグレーションに直接顧客のメールのプライバシー設定に関する情報が追加されました。Salesforce に記録するイベント種別を選択する機能が追加されました。また、テンプレートフローが更新され、テンプレートを作成してメールに追加するのが簡単になりました。

このセクションの内容:

Outlook インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握
Outlook からメールを送信し、Outlook インテグレーションを使用している場合、営業担当はインテグレーションで顧客のメールプライバシー設定を確認できるようになりました。以前は、営業担当は Salesforce の取引先責任者またはリードレコードを参照して、メールのプライバシー設定を確認していました。

Outlook インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類
営業担当の顧客および見込み客とのコミュニケーションの種別を特定することで、ビジネスのレポートとプロセスが改善されます。営業担当は、Outlook インテグレーションから Salesforce に行動を記録するときに、通話やミーティングなどのイベント種別を選択できるようになりました。

Outlook インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化
営業担当によるテンプレートの作成、既存のテンプレートのメールへの適用、差し込み項目への関連レコードの入力がより簡単になりました。さらに、見やすくなったレイアウトにより、生産性を高めてメッセージを標準化できます。

High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信
適切なタイミングでメールを送信することは、商談を成立させるために極めて重要です。Outlook インテグレーションの High Velocity Sales 作業キューから作業している営業担当は、すべてのメール、ケイデンスなどをスケジュールして後で送信できます。

新しい場所での Salesforce Inbox 機能の有効化

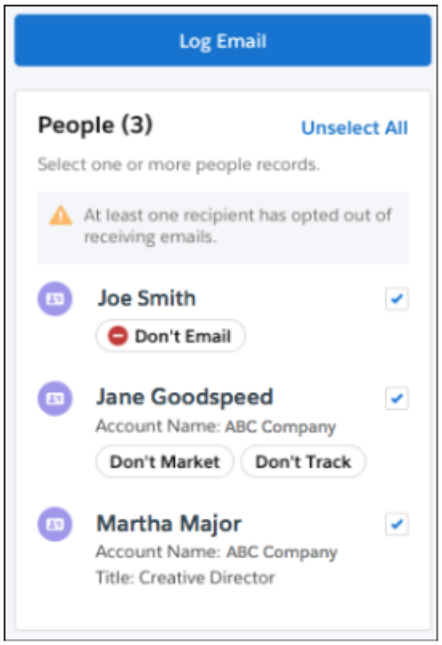
Salesforce Inbox を有効化する場所が一元管理されるようになりました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

Outlook インテグレーションでのメール制限がある受信者の把握

Outlook からメールを送信し、Outlook インテグレーションを使用している場合、営業担当はインテグレーションで顧客のメールプライバシー設定を確認できるようになりました。以前は、営業担当は Salesforce の取引先責任者またはリードレコードを参照して、メールのプライバシー設定を確認していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 信頼は重要であり、顧客のメール設定を尊重することはその信頼の一部です。Outlook の取引先責任者またはリードにメールのプライバシー設定が表示されるようになりました。



方法: Lightning Experience の取引先責任者またはリードのメールプライバシー設定がインテグレーションに表示されます。追加設定は必要ありません。

重要: Salesforce ユーザが Lightning Experience から取引関連メールを送信できるようにする「営業以外のメールを送信」権限は、Outlook インテグレーションでは適用されません。Outlook からメールを送信するときに、メール受信者のプライバシーを尊重することは営業担当の責任です。

関連トピック:

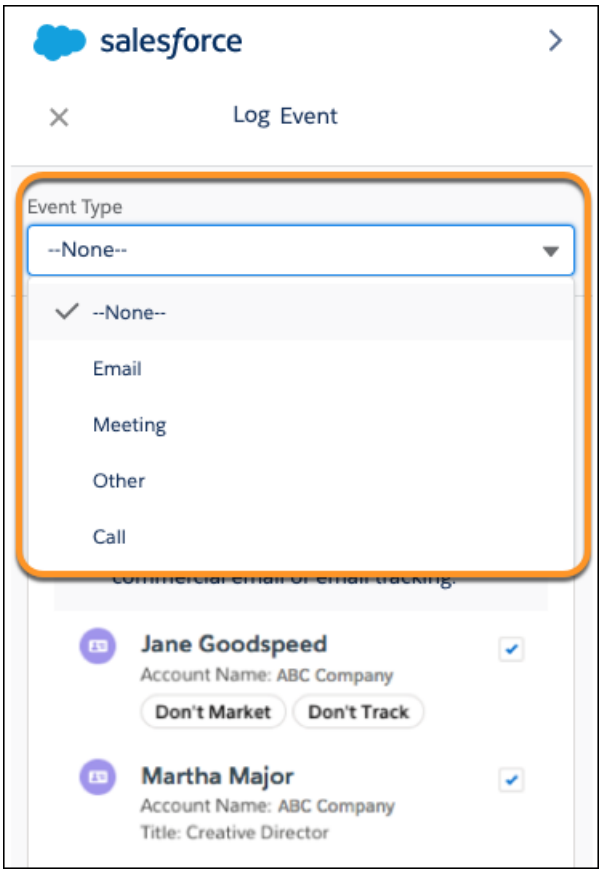
Salesforce ヘルプ: メールの開封追跡とメール送信除外 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook インテグレーションから Salesforce に記録された行動の分類

営業担当の顧客および見込み客とのコミュニケーションの種別を特定することで、ビジネスのレポートとプロセスが改善されます。営業担当は、Outlook インテグレーションから Salesforce に行動を記録するときに、通話やミーティングなどのイベント種別を選択できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: オブジェクトマネージャで、[種別] 項目を行動オブジェクトに追加し、Outlook から行動を記録する営業担当に表示されるようにします。ビジネスに適した選択リスト値を含めます。[種別] 項目をすでに行動オブジェクトに含めている場合、変更は必要ありません。営業担当はインテグレーションから行動を記録するときに、[種別] 項目にアクセスできます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:項目へのユーザアクセスの制御(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

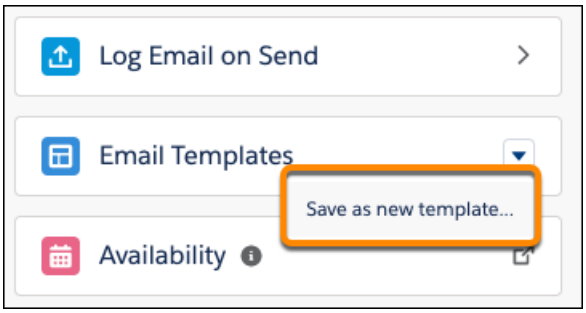
Salesforce ヘルプ:Outlook からのメールを記録する場合のイベント種別選択肢の有効化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook インテグレーションでのメールテンプレートを使用した作業の効率化

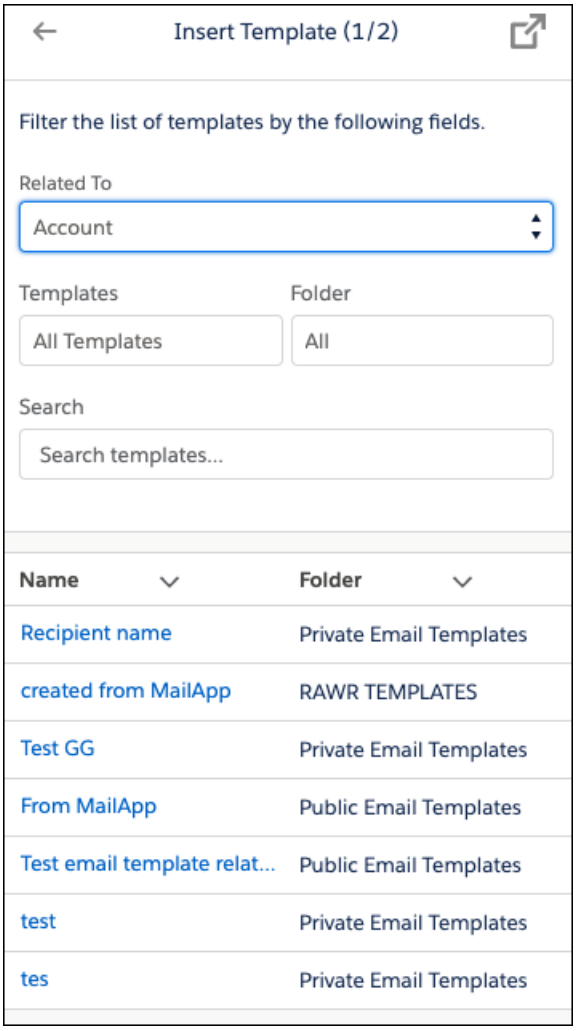
営業担当によるテンプレートの作成、既存のテンプレートのメールへの適用、差し込み項目への関連レコードの入力がより簡単になりました。さらに、見やすくなったレイアウトにより、生産性を高めてメッセージを標準化できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できるデスクトップの Salesforce Inbox に適用されます。

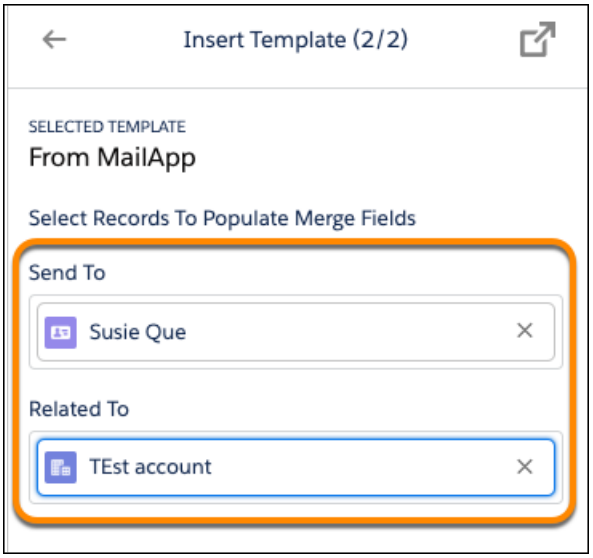
方法: Outlook インテグレーションからメールテンプレートを作成します。新規テンプレートを Outlook インテグレーションまたは Lightning Experience メールからの今後のメールに適用します。



既存のテンプレートをメールに適用し、名前、フォルダ、または関連する Salesforce オブジェクト (取引先や商談など) でテンプレートのリストを絞り込みます。



差し込み項目に入力するためのレコードを選択します。[送付先] および [関連先] 項目に選択したテンプレートの対応する詳細が入力されます。



関連トピック:

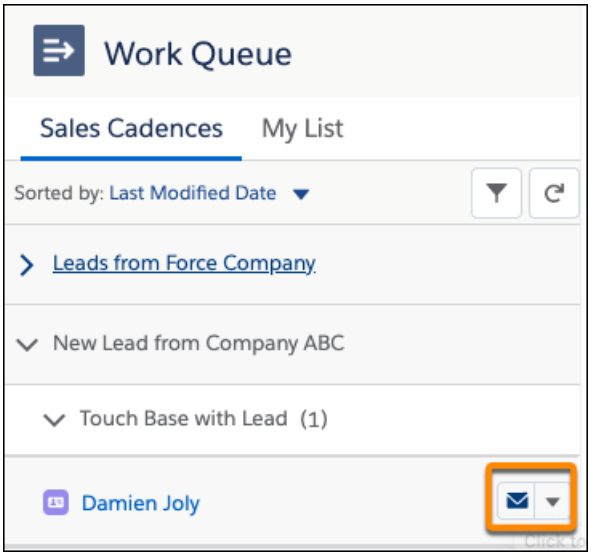
Salesforce ヘルプ: メールテンプレートによる迅速化と一貫性の向上 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

High Velocity Sales メールをスケジュールして後で送信

適切なタイミングでメールを送信することは、商談を成立させるために極めて重要です。Outlook インテグレーションの High Velocity Sales 作業キューから作業している営業担当は、すべてのメール、ケイデンスなどをスケジュールして後で送信できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。

方法: Outlook インテグレーションの作業キューからメールを作成します。メール作成ウィンドウが表示されたら、インテグレーションで [後で送信] を有効にし、送信するメールをスケジュールします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: High Velocity Sales の設定に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい場所での Salesforce Inbox 機能の有効化

Salesforce Inbox を有効化する場所が一元管理されるようになりました。以前は、High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスのいずれを所有するかに応じて、Inbox を有効化する複数の場所がありました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

理由: High Velocity Sales および Lightning Experience メールユーザと Outlook および Gmail インテグレーションユーザは、さまざまな Inbox 機能を使用できます。設定操作が簡略化されました。

方法: Spring '20 より前に Inbox を有効にしていた場合、準備は整っています。Inbox は引き続き有効であり、Inbox 機能にアクセスできる権限を持つユーザは引き続きそれらの機能を使用できます。

Spring '20 以降に Inbox 機能を有効にしている Salesforce 組織の場合、Inbox を有効にし、アクセスが必要なユーザに権限セットを割り当てます。Salesforce の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Inbox`」と入力し、[設定アシスタント] を選択します。[ユーザが **Inbox** を使用できるようにする] 設定を有効にします。この設定ページには、Salesforce の [設定] の [High Velocity Sales] ページ、[Outlook インテグレーションおよび同期] ページ、[Gmail インテグレーションおよび同期] ページ、および [Einstein 活動キャプチャ] 設定ページのリンクからもアクセスできます。

有効にしたら、Inbox 機能へのアクセスが必要なユーザに「Inbox (Einstein 活動キャプチャあり)」または「Inbox (Einstein 活動キャプチャなし)」権限を割り当てます。または、High Velocity Sales を実行している場合は、「High Velocity Sales ユーザ」権限セットで Inbox 機能を使用できます。

ユーザは、Lightning Experience または High Velocity Sales から最初のメールを送信するときに、Salesforce 内から Google または Microsoft アカウントに接続するように求められます。Outlook インテグレーションおよび Gmail インテグ

レーションユーザは、インテグレーションにアクセスするときに Outlook または Gmail から Salesforce に接続します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail インテグレーションと Salesforce Inbox の機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Microsoft Exchange: Microsoft Office 365 ユーザ向けの NTLM 認証 のサポートと変更

Microsoft® Exchange 2016® または Exchange 2013® サーバのユーザは、優先する Lightning Sync 認証方式 (NTLM または基本認証) を選択する柔軟性があります。さらに、Microsoft Office 365® ユーザは 2020 年 10 月の基本認証の廃止に備えて、Lightning Sync 設定を調整できます。

このセクションの内容:

NTLM 認証プロトコルを使用した Microsoft Exchange と Salesforce の接続

Microsoft® Exchange 2016® および Exchange 2013® サーバのユーザは、優先する Lightning Sync 認証プロトコル (基本認証または NTLM) を柔軟に選択できるようになりました。以前は、基本認証のみが使用可能でした。

Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定の変更

2020 年 10 月に、Microsoft® は Microsoft Office 365® と Exchange Online の基本認証を廃止します。サービスアカウント接続方法を使用する Office 365 ユーザが Lightning Sync 接続を維持するには、OAuth 2.0 接続方法に移行する必要があります。

NTLM 認証プロトコルを使用した Microsoft Exchange と Salesforce の接続

Microsoft® Exchange 2016® および Exchange 2013® サーバのユーザは、優先する Lightning Sync 認証プロトコル (基本認証または NTLM) を柔軟に選択できるようになりました。以前は、基本認証のみが使用可能でした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: NTLM 認証プロトコルは、Exchange 2016 または 2013 サーバから作業し、サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している Lightning Sync ユーザに対してのみサポートされます。

方法: NTLM が特定のサーバでサポートされるようになったことを IT プロフェッショナルに知らせます。会社が NTLM を使用して Salesforce に接続することを希望している場合は、IT プロフェッショナルに Exchange サーバで

NTLM を有効にして基本認証を無効にするように依頼します。管理者の仕事はそれだけです。基本認証と NTLM が有効な場合、Lightning Sync の接続では基本認証が優先されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Contact Salesforce Customer Support (Salesforce カスタマーサポートへの問い合わせ)

Salesforce ヘルプ: Exchange サービスアカウントを使用した Salesforce と Microsoft® Exchange の接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定の変更

2020 年 10 月に、Microsoft® は Microsoft Office 365® と Exchange Online の基本認証を廃止します。サービスアカウント接続方法を使用する Office 365 ユーザが Lightning Sync 接続を維持するには、OAuth 2.0 接続方法に移行する必要があります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: このサポートの終了は、サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している Office 365 ユーザにのみ影響します。Microsoft は、Exchange 2016® または Exchange 2013® の基本認証の廃止は発表していません。そのため、これらのサーバのユーザは、引き続きサービスアカウント接続方法と基本認証を使用して Salesforce に接続できます。Spring '20 以降、Lightning Sync ではそれらのサーバの NTLM 認証もサポートされます。Microsoft Exchange 2016 および 2013 でサポートされる NTLM 認証プロトコルを参照してください。

理由: サービスアカウント接続方法では、Exchange と Salesforce 間のユーザの接続を維持するために基本認証が必要です。Microsoft の廃止が有効になると、接続が中断され、取引先責任者と行動の同期が停止します。同期の中断を回避するには、2020 年 10 月までに会社の Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して OAuth 2.0 接続方法に移行してください。

方法: 廃止に備えて準備する方法の手順については、「Change Your Lightning Sync Connection Method before Basic Authentication Retirement for Microsoft Office 365 and Exchange Online (Microsoft Office 365 および Exchange Online の基本認証の廃止前に Lightning Sync 接続方法を変更)」を参照してください。

関連トピック:

外部リンク: End of support for Basic Authentication access to Exchange Online API for Office 365 customers (Office 365 ユーザの Exchange Online API への基本認証アクセスのサポートの終了)

Salesforce ヘルプ: Microsoft ユーザ用の OAuth 2.0 接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for Outlook: サービスが中断された場合のアクセスの復元

Microsoft® Internet Explorer® 11 のサポートが変更されたため、Salesforce Classic へのアクセス権を持たない Salesforce for Outlook ユーザはサービスが中断される可能性があります。影響を受けるかどうかを調べる方法と、アクセスを復元する方法を説明しています。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce for Outlook ユーザは、以下のいずれかの条件に合致するとサービスが中断する場合があります。

- Salesforce 組織またはユーザが Salesforce Classic へのアクセス権を持たない
- ユーザの会社が 2020 年 12 月 31 までの Microsoft Internet Explorer 11 のサポート延長をオプトインしなかった

理由: 2016 年に Salesforce は IE11 での Lightning Experience のサポートを中止しました。Salesforce for Outlook は IE11 を利用して Microsoft Outlook® からの Salesforce データを表示しているため、IE11 へのアクセスが遮断されると Salesforce for Outlook ユーザも影響を受けます。

方法: Salesforce for Outlook へのアクセスを復元するには、提案されている回避策のいずれかを実行します。

- IE11 のサポート延長をオプトインします。
- Salesforce サブスクリプション契約に Salesforce Classic へのアクセスも含まれている場合は、システム管理者が Salesforce Classic へのユーザアクセスを有効化することでアクセスを復元できます。

あるいは、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャまたは Lightning Sync への移行を検討してください。

アクセスを復元するための手順と次世代製品の詳細は、「Salesforce for Outlook No Longer Connects for Some Customers working from Lightning Experience (Salesforce for Outlook が一部の Lightning Experience ユーザと接続できなくなる)」を参照してください。

関連トピック:

サポートされるブラウザ

Trailhead: Outlook インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ および Billing: エバーグリーンサブスクリプションを使用した使用量商品の注文、スマートな設定ルール、柔軟な収益スケジュールの作成

エバーグリーンサブスクリプションに関連した使用量商品を注文できます。コンフィグレータでアクセスできる項目が増えました。見積品目エディタで見積品目の消費スケジュールを直接編集できます。任意の Salesforce オブジェクトでいつでもトリガ、プロセスビルダー、API を使用して収益スケジュールを作成できます。また、ユーザが過去にさかのぼって有効になる修正を作成できないようにします。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ: エバーグリーンサブスクリプションの使用量ベースの商品、スマートな設定ルール、見積品目エディタでの見積品目の消費スケジュールの編集
エバーグリーンサブスクリプションを使用して使用量ベースの商品を注文できます。コンフィグレータでアクセスできる項目が増えました。見積品目エディタで見積品目の消費スケジュールを編集できます。また、ユーザが過去にさかのぼって有効になる修正を作成できないようにします。

Salesforce Billing: 柔軟な収益スケジュールの作成、カスタマイズ可能な財務期間、マイナスの請求書品目の自動変換
任意の Salesforce オブジェクトでいつでもトリガ、プロセスビルダー、API を使用して収益スケジュールを作成できます。カスタム日付範囲の財務期間を作成できます。さらに、REST API を使用してマイナスの請求書品目を自動的に貸方票に変換できます。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions for Salesforce CPQ and Billing Spring '20 (Salesforce CPQ および Billing Spring '20 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ: エバーグリーンサブスクリプションの使用量ベースの商品、スマートな設定ルール、見積品目エディタでの見積品目の消費スケジュールの編集

エバーグリーンサブスクリプションを使用して使用量ベースの商品を注文できます。コンフィグレータでアクセスできる項目が増えました。見積品目エディタで見積品目の消費スケジュールを編集できます。また、ユーザが過去にさかのぼって有効になる修正を作成できないようにします。

メモ: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

エバーグリーンサブスクリプションによる使用量ベースの商品注文
営業担当がいちいち契約更新を管理しなくても、使用量商品を販売できます。Salesforce CPQ では、エバーグリーンサブスクリプションに関連付けられた使用量ベースの商品を注文できるようになりました。

コンフィギュレータの価格ルールの改善による機能強化
価格ルールが改善され、商品設定にビジネスルールを組み込む方法が増えました。価格ルールは設定属性からの入力に対して条件を評価してアクションをトリガするようになりました。

コンフィギュレータでのルールの編集の効率的な適用
ボタンをクリックするだけで、商品および価格ルールの編集をすべて同時に実行できるようになりました。コンフィグレータが個々の変更を自動的に処理する間、待機している必要がなくなります。

価格アクション数式でのパーセント値のロジックの更新

対象項目がパーセント型の場合に、パーセンテージを表すリテラル値が価格アクションの数式で評価される方法が変更されました。以前の Summer '19 では、価格アクション数式で参照されるパーセント項目が更新されました。その更新では、価格アクションの [数式] 項目の数式が参照される項目値を 100 で除算しないように変更されました。Spring '20 では、リテラル値を使用する場合の動作が、パーセント項目を評価する場合と同じになっています。今回の更新により、Salesforce の数式がカスタム項目の定義で評価される場合に全体で一貫性が保たれるようにもなりました。

デフォルトでのバンドルの展開または折りたたみ

システム管理者は見積品目エディタの商品バンドルをデフォルトで展開するか折りたたむかを選択できるようになり、詳細情報が読みやすくなりました。以前は、商品バンドルはデフォルトで展開されていて、貴重な画面領域を占めることがありました。これまでは、バンドルを折りたたむには Salesforce カスタマーサポートが操作を行うしかありませんでした。システム管理者が Salesforce 組織のビューをカスタマイズして、見積品目エディタ内の営業担当の環境を改善できるようになりました。

見積品目の消費レートの手動編集の有効化

営業担当は、使用量ベースの商品の既存の見積品目の消費レートを手動で編集できるようになりました。以前は、変更に見積計算プラグインが必要でした。上限、下限、価格をすべて見積品目エディタで編集し、各商談をより簡単にカスタマイズできるようになりました。

管理パッケージライセンスから権限セットライセンスへの移行

組織が今後のパッケージアップグレードに向けて準備を整えられるように新しいツールが追加されています。このアップグレードでは、Salesforce CPQ が管理パッケージライセンスから権限セットライセンスに移行します。組織が新しいパッケージアップグレードに向けて準備が整うのは、管理パッケージライセンス設定が正しく、すべての CPQ ユーザに Salesforce CPQ ライセンスが割り当てられている場合のみです。

過去の日付にさかのぼって有効になる修正の作成の回避

開始日が既存の修正の開始日よりも前の新しい修正をユーザが作成するのを防ぐ新しい制限が追加されました。この方法で過去の日付にさかのぼって有効になる修正を作成すると、見積品目の合計が不正確になる場合があります。最も早い有効な開始日を表示するように設定された見積品目エディタ項目に新しい項目を追加することもできるようになりました。

見積ドキュメントをプレビューするための新しい権限

ユーザが見積の [ドキュメントをプレビュー] ボタンを使用するには、見積ドキュメントオブジェクトに対する「作成」権限と「編集」権限が必要になりました。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions for Salesforce CPQ and Billing Spring '20 (Salesforce CPQ および Billing Spring '20 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エバーグリーンサブスクリプションによる使用量ベースの商品注文

営業担当がいちいち契約更新を管理しなくても、使用量商品を販売できます。Salesforce CPQ では、エバーグリーンサブスクリプションに関連付けられた使用量ベースの商品を注文できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: これまで、Salesforce CPQ では、使用量商品を 1 回限りの商品または標準サブスクリプション商品に関連付けることがサポートされていました。営業担当が使用量ベースのサブスクリプション商品の見積または販売を行う場合は、サブスクリプション期間が終了するたびに親サブスクリプションを更新しなければなりませんでした。

方法: 営業担当が消費スケジュールに関連したエバーグリーンサブスクリプション商品を注文すると、Salesforce CPQ によって 12 件の使用量サマリーが含まれる注文商品が作成されます。1 つのサマリーの長さが消費スケジュールの期間に相当します。営業担当は、その後もサブスクリプションが有効な間は、追加の使用量サマリーを手動で作成できます。営業担当が使用量サマリーおよび注文商品の消費スケジュールを作成すると、Salesforce Billing は標準サブスクリプションから作成された使用量サマリーを請求する場合と同じように請求できます。

価格スケジュールベースの使用量を使用する営業担当は、請求種別が[使用量]のエバーグリーンサブスクリプション商品を注文することもできます。この場合、営業担当が注文商品の使用量サマリーを手動または自動で作成することになります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Ordering Consumption Schedules with Evergreen Subscriptions (エバーグリーンサブスクリプションを使用した消費スケジュールの注文) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コンフィギュレータの価格ルールの改善による機能強化

価格ルールが改善され、商品設定にビジネスルールを組み込む方法が増えました。価格ルールは設定属性からの入力に対して条件を評価してアクションをトリガするようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: これまでは、営業担当がコンフィグレータで属性を変更したときに、見積品目エディタに移動して価格設定またはその他の項目値への影響を確認する必要がありました。設定属性に基づいて項目値を設定できるようになったため、変更がコンフィグレータに直接反映され、時間と労力を節約できます。

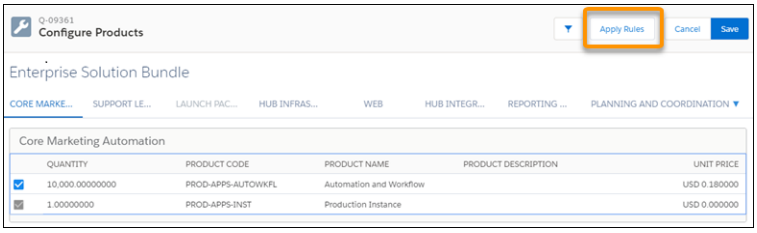
コンフィギュレータでのルールの編集の効率的な適用

ボタンをクリックするだけで、商品および価格ルールの編集をすべて同時に実行できるようになりました。コンフィグレータが個々の変更を自動的に処理する間、待機している必要がなくなります。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 多数の価格ルールを定期的に変更または検証する大規模な設定では、各変更を個々に実行するルールは時間がかかります。

方法: [ルールの適用] ボタンはコンフィグレータの新しいカスタムアクションです。



編集ルールの自動処理を置換するように「ルールの適用」カスタムアクションを設定するには、次の手順を実行します。

- 編集時にルールをトリガする設定属性または商品オプションで [すぐに適用] をオフにします。
- 営業担当が [ルールの適用] をクリックするのを忘れた場合、営業担当が変更を保存したときに必ずすべての編集ルールが評価されるようにします。
  - 編集時ではなく常に評価するには、すべてのコンフィグレータの商品ルールを更新します。
  - 保存時および編集時に評価するには、関連するすべてのコンフィグレータの価格ルールでコピーします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Custom Actions (カスタムアクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

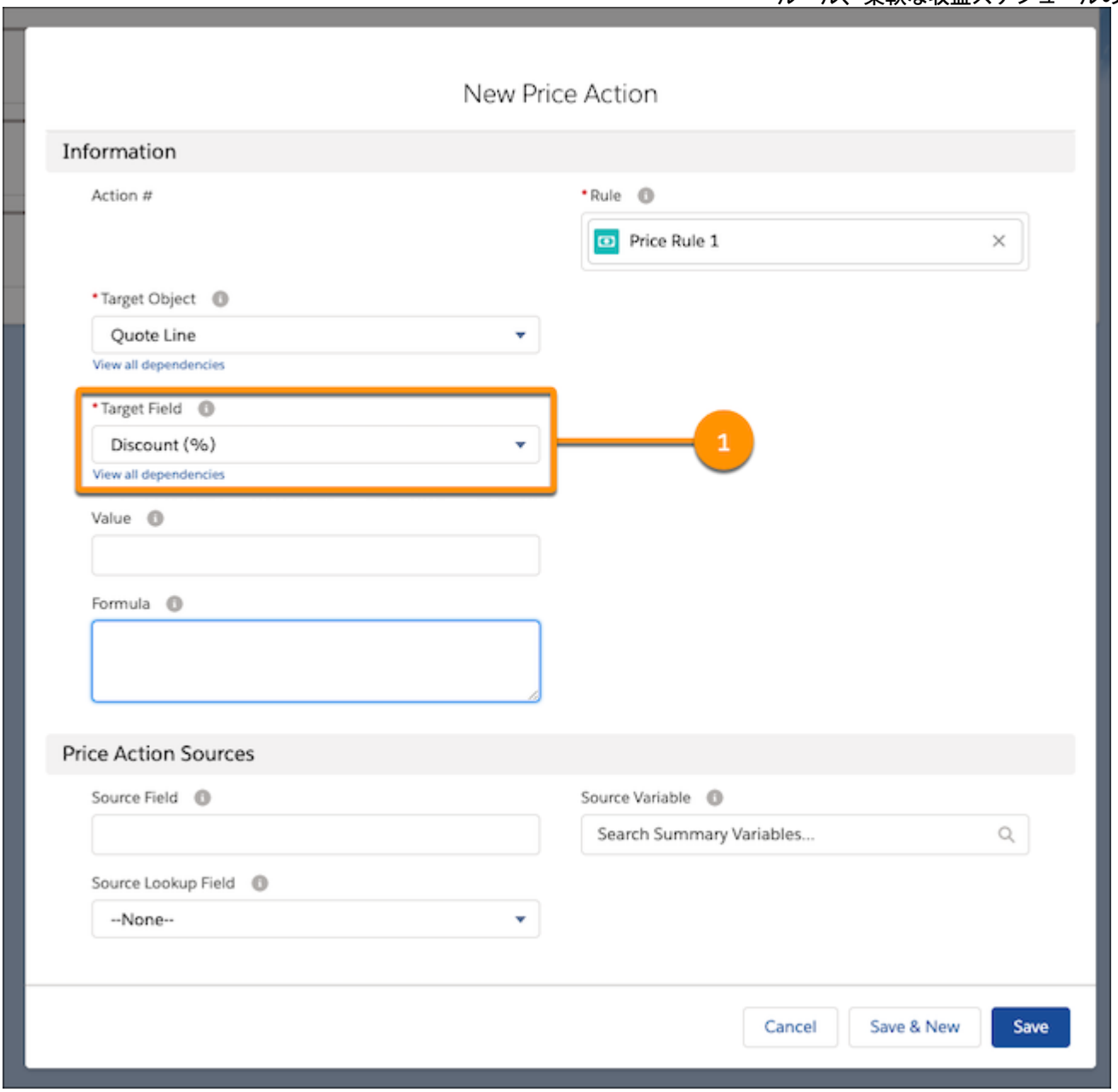
価格アクション数式でのパーセント値のロジックの更新

対象項目がパーセント型の場合に、パーセンテージを表すリテラル値が価格アクションの数式で評価される方法が変更されました。以前の Summer '19 では、価格アクション数式で参照されるパーセント項目が更新されました。その更新では、価格アクションの [数式] 項目の数式が参照される項目値を 100 で除算しないように変更されました。Spring '20 では、リテラル値を使用する場合の動作が、パーセント項目を評価する場合と同じになっています。今回の更新により、Salesforce の数式がカスタム項目の定義で評価される場合に全体で一貫性が保たれるようにもなりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: 更新する価格アクションがあるかどうかを確認するには、価格アクションオブジェクトにカスタムレポートタイプを作成します。[名前] 項目、[数式] 項目、[有効] 項目、[作成日] 項目などの関連情報を含めます。すべての価格アクションに関するレポートを実行して、リテラルパーセント値を数式の一部として使用した場所を確認します。

更新を行うには、価格ルールに移動し、パーセント型の項目を対象項目 (1) として指定する価格アクションを含む価格ルールを選択します。



価格アクションを選択して、パーセント値を表す値を小数表現に変更します。たとえば、100% には 1、50% には 0.5 を使用します。

次に、見積を作成して、価格ルールの条件を満たす見積品目を追加します。価格アクションの数式の結果が正しいことを確認します。

関連トピック:

Salesforce Summer '19 リリースノート: 価格アクション数式でのパーセント項目のロジックの更新

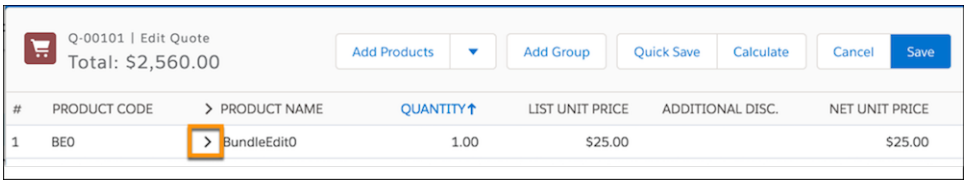
ナレッジ記事: Salesforce CPQ Spring '20 Price Action Formula Field Change in Behavior (Salesforce CPQ Spring '20 の価格アクションの数式項目の動作の変更) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デフォルトでのバンドルの展開または折りたたみ

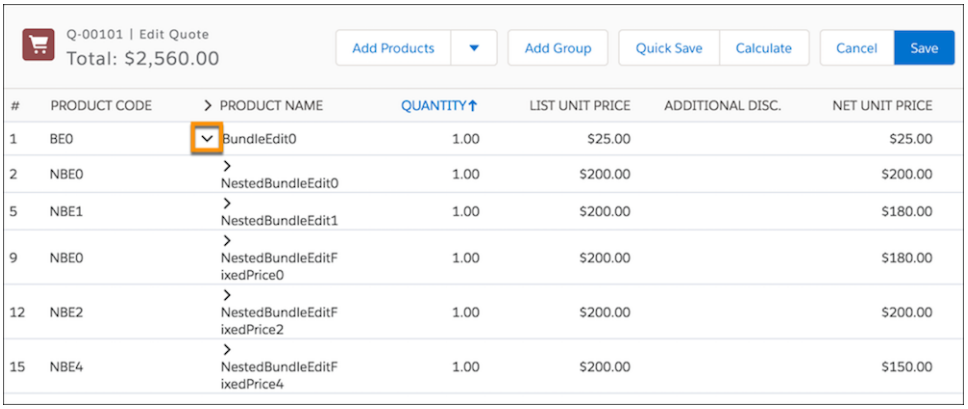
システム管理者は見積品目エディタの商品バンドルをデフォルトで展開するか折りたたむかを選択できるようになり、詳細情報が読みやすくなりました。以前は、商品バンドルはデフォルトで展開されていて、貴重な画面領域を占めることがありました。これまでは、バンドルを折りたたむには Salesforce カスタマーサポートが操作を行うしかありませんでした。システム管理者が Salesforce 組織のビューをカスタマイズして、見積品目エディタ内の営業担当の環境を改善できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: バンドルを折りたためば、貴重な画面領域を節約できます。



バンドルを展開すると、使用される領域が増えます。



方法: インストール済みのパッケージ設定の [品目エディタ] タブで、[バンドルの展開/折りたたみを有効化] をオンにします。この設定が使用できない場合、[品目数の多い見積用の環境を有効にする]、[商品階層を視覚化]、[バンドルをまとめる] もオンにしてください。この機能を有効にしたら、[デフォルトのバンドル設定] を選択できます。

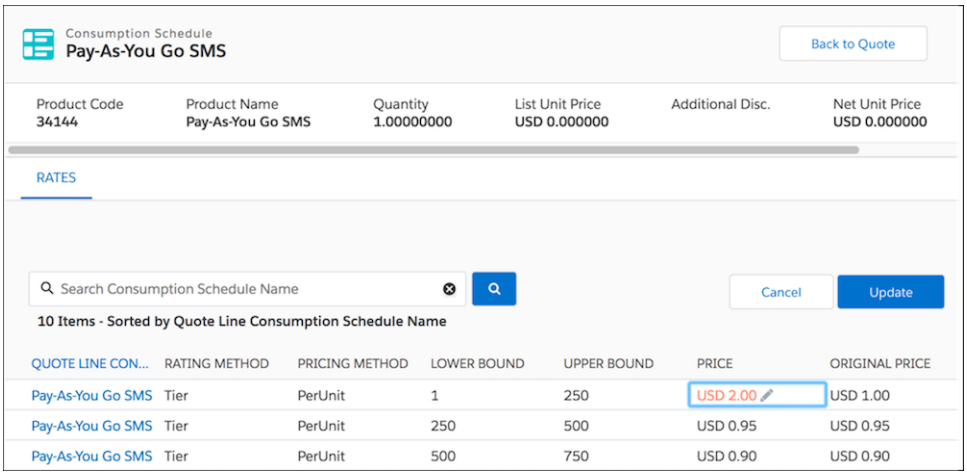
見積品目の消費レートの手動編集の有効化

営業担当は、使用量ベースの商品の既存の見積品目の消費レートを手動で編集できるようになりました。以前は、変更に見積計算プラグインが必要でした。上限、下限、価格をすべて見積品目エディタで編集し、各商談をより簡単にカスタマイズできるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ Plus、Salesforce CPQ & Billing Growth、Salesforce CPQ & Billing Plus の Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: インストール済みパッケージ設定の [価格設定と計算] タブで、[使用量価格設定の手動編集を有効化] をオンにします。また、[使用量ベースの価格設定を有効化] も必ずオンにします。

有効にすると、営業担当に上限、下限、価格の編集アイコンが表示されます。編集を行ったら、項目が強調表示され、[更新] ボタンと [キャンセル] ボタンが使用できるようになります。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Enable Manual Edits for Quote Line Consumption Schedules (見積品目の消費スケジュールの手動編集の有効化) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

管理パッケージライセンスから権限セットライセンスへの移行

組織が今後のパッケージアップグレードに向けて準備を整えられるように新しいツールが追加されています。このアップグレードでは、Salesforce CPQ が管理パッケージライセンスから権限セットライセンスに移行します。組織が新しいパッケージアップグレードに向けて準備が整うのは、管理パッケージライセンス設定が正しく、すべての CPQ ユーザに Salesforce CPQ ライセンスが割り当てられている場合のみです。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 提供されたツールを使用して、アップグレードの準備ができているかどうかを確認します。

このツールでは次に関する詳細が得られます。

- プロビジョニングされた管理パッケージライセンスの数
- 割り当てられた管理パッケージライセンスの数
- 権限セットが割り当てられたユーザの数
- プロビジョニングされた権限セットライセンスの数

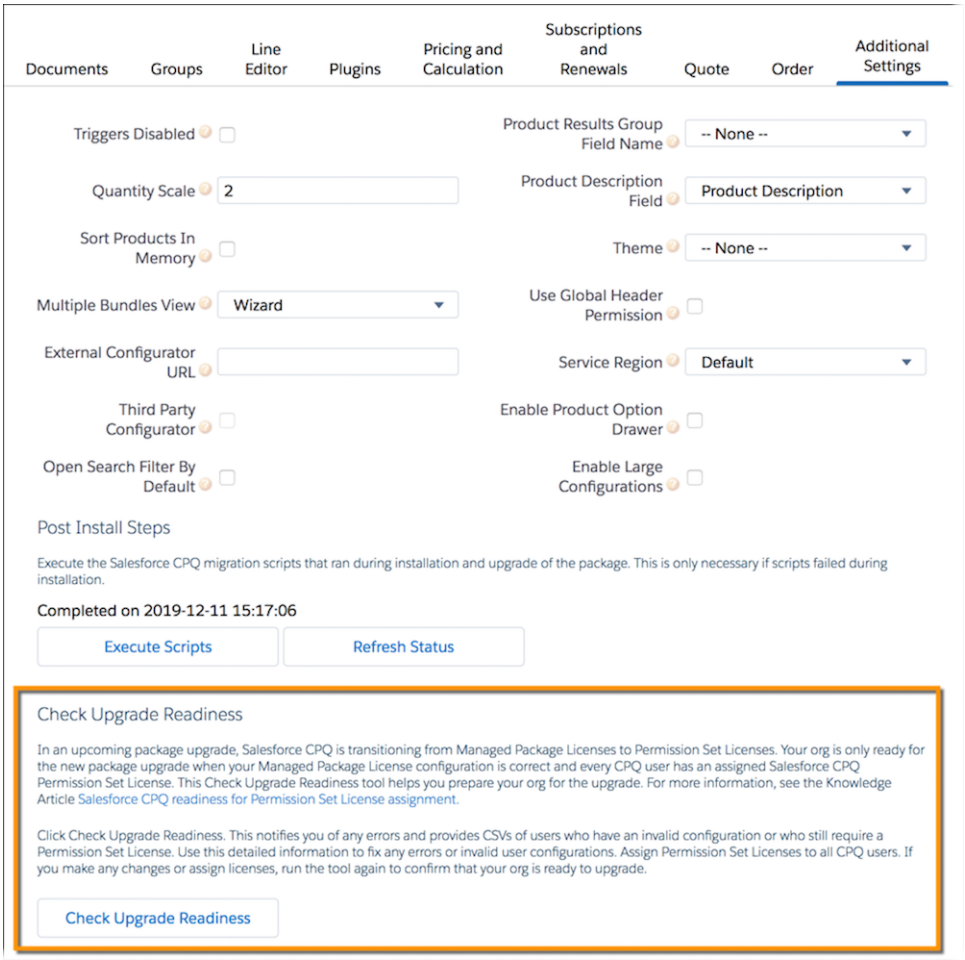
- 割り当てられた権限セットライセンスの数

次の 1 つ以上の条件を満たす場合、アクションを実行できるように CSV ファイルをダウンロードできます。

- 権限セットは持つが管理パッケージライセンスは持たないユーザがいる
- 権限セットを持つ無効ユーザがいる
- 権限セットライセンスが必要なユーザがいる

ライセンスの割り当てを含めて何らかの変更を行った場合、このツールをもう一度実行して組織がアップグレードの準備ができていることを確認してください。

方法: このツールは [追加の設定] の CPQ パッケージ設定で使用できます。



関連トピック:

ナレッジ記事: Salesforce CPQ readiness for Permission Set License assignment (権限背とライセンスの割り当ての Salesforce CPQ の準備状況) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: Salesforce CPQ readiness for Permission Set License assignment (権限背とライセンスの割り当ての Salesforce CPQ の準備状況) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

過去の日付にさかのぼって有効になる修正の作成の回避

開始日が既存の修正の開始日よりも前の新しい修正をユーザが作成するのを防ぐ新しい制限が追加されました。この方法で過去の日付にさかのぼって有効になる修正を作成すると、見積品目の合計が不正確になる場合があります。最も早い有効な開始日を表示するように設定された見積品目エディタ項目に新しい項目を追加することもできるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この変更は、2020 年 1 月 7 日以降に使用可能になるようスケジュールされています。

理由: 以前は、過去の日付にさかのぼって有効になる修正を作成することが可能であり、見積品目の合計が不正確になる原因となっていました。今回の制限により、過去の日付にさかのぼって有効になる修正を作成するには、作成する修正よりも後に有効になる修正を、新しいものから順に元に戻すしかなくなりました。これらの修正を元に戻すか消去した後で、新しい修正を作成します。必要に応じて、消去した修正を再作成します。

方法: この機能を利用するには、Spring '20 リリースを使用していることを確認してください。この機能を無効にするには、Salesforce カスタマーサポートでチケットを登録してください。

見積ドキュメントをプレビューするための新しい権限

ユーザが見積の[ドキュメントをプレビュー]ボタンを使用するには、見積ドキュメントオブジェクトに対する「作成」権限と「編集」権限が必要になりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Salesforce Billing: 柔軟な収益スケジュールの作成、カスタマイズ可能な財務期間、マイナスの請求書品目の自動変換

任意の Salesforce オブジェクトでいつでもトリガ、プロセスビルダー、API を使用して収益スケジュールを作成できます。カスタム日付範囲の財務期間を作成できます。さらに、REST API を使用してマイナスの請求書品目を自動的に貸方票に変換できます。

このセクションの内容:

あらゆる時点の収益の認識

セールスプロセスや財務プロセスのどのフェーズでも収益認識を自由に報告できます。Salesforce Billing の収益認識 API を使用すれば、トリガやプロセスに応じて、任意の Salesforce オブジェクトの収益スケジュールおよびトランザクションを作成できます。

カスタム日付範囲の財務期間の作成

財務期間がカレンダー月に制限されなくなりました。請求管理者が 4-4-5 または 5-4-4 週の請求期間など、カスタム日付範囲の財務期間を作成できるようになりました。

マイナスの請求書品目の変換の自動化

大量のマイナスの請求書品目を貸方票に変換しやすくなりました。Salesforce Billing で、マイナスの請求書品目を貸方票に変換するバッチプロセス、トリガ、プロセスビルダーがサポートされるようになりました。これまでは、営業担当が Salesforce Billing UI の [マイナス品目の変換] オプションを使用して、マイナスの請求書品目を一度に 1 つずつ手動で変換する必要がありました。

ユーザが Billing Visualforce ページにアクセスできなくなるバグの修正

今後の Salesforce セキュリティ修正で Salesforce Billing の管理者以外のユーザが Salesforce Billing Spring '20 の特定の Visualforce ページにアクセスできない問題が修正されました。新規ユーザおよび Salesforce Billing Spring '20 にアップグレードしたユーザは、この修正をすぐに利用できます。ただし、この修正は 2020 年 1 月 3 日以降、以前のバージョンの Salesforce にも適用されます。まだ Salesforce Billing Spring '20 へのアップグレードを予定していないユーザは影響を受けるユーザの権限セットに「*すべてのカスタム設定の表示*」権限を追加できます。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions for Salesforce CPQ and Billing Spring '20 (Salesforce CPQ および Billing Spring '20 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

あらゆる時点の収益の認識

セールスプロセスや財務プロセスのどのフェーズでも収益認識を自由に報告できます。Salesforce Billing の収益認識 API を使用すれば、トリガやプロセスに応じて、任意の Salesforce オブジェクトの収益スケジュールおよびトランザクションを作成できます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: これまでは、Salesforce Billing で注文商品、請求書品目、貸方票品目、借方票品目からのみ収益スケジュールを作成することができました。収益認識処理は、注文の有効化、請求書、貸方票、または借方票の記帳があった場合にのみ収益スケジュールを作成することに限られていました。プロセス、トリガ、REST API コールに応じて、開発者が `blng__RecognizeRevenue` Apex クラスをコールして、任意の財務オブジェクトを評価の対象にすることができるようになりました。たとえば、見積の承認後に見積品目収益を予測したり、契約の有効化後に契約収益を予測したりすることが考えられます。

方法: RecognizeRevenue サービスは、収益認識のために分配された金額、収益認識ルール、収益認識に関連付けられたソースオブジェクトなど、主要な収益認識値を受信します。続いて、Salesforce Billing によって収益スケジュールおよびトランザクションが作成されます。財務オブジェクトの金額項目を特定し、その項目を収益計算に使用する値として RecognizeRevenue サービスに渡すことをお勧めします。たとえば、見積品目の [リスト合計] 項目を渡すことが考えられます。

関連トピック:

Salesforce Billing 開発者ガイド: Revenue Recognition Service Developer Guide (収益認識サービス開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタム日付範囲の財務期間の作成

財務期間がカレンダー月に制限されなくなりました。請求管理者が 4-4-5 または 5-4-4 週の請求期間など、カスタム日付範囲の財務期間を作成できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 帳簿を作成するときに、[財務期間] 項目を [カスタム] に設定し、[新しい請求期間] をクリックします。帳簿で財務期間を作成するときに、必要に応じて期首と期末を定義します。財務期間の日付を、同じ財務期間の同じ法人および通貨の他の財務期間と重複させることはできません。

メモ: 財務期間が [カスタム] になっているときに、代わりに [財務期間を作成する] をクリックした場合、Salesforce Billing で代わりに [財務期間を作成する] Visualforce ページが開きます。このページでは、カスタム期間の帳簿で作業をしている場合でも、月次の財務期間しか作成できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: カスタム日付範囲の財務期間の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マイナスの請求書品目の変換の自動化

大量のマイナスの請求書品目を貸方票に変換しやすくなりました。Salesforce Billing で、マイナスの請求書品目を貸方票に変換するバッチプロセス、トリガ、プロセスビルダーがサポートされるようになりました。これまでは、営業担当が Salesforce Billing UI の [マイナス品目の変換] オプションを使用して、マイナスの請求書品目を一度に 1 つずつ手動で変換する必要がありました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: `blng__NegativeInvoiceToCreditNoteAction` Apex クラスが請求書 ID を含むサービスコールを受信すると、各請求書を評価してマイナスの残高のある請求書品目を見つけます。各請求書で、マイナスの請求書品目ごとに1件の貸方票が含まれる貸方票を作成します。各貸方票品目には対応する請求書品目の正の等価である残高が記載されます。貸方票品目は未割り当てであるため、ユーザは必要に応じて手動で割り当てる必要があります。

関連トピック:

Salesforce Billing 開発者ガイド: REST API for Converting Invoice Lines with Negative Balances (マイナスの残高のある請求書品目を変換するための REST API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザが Billing Visualforce ページにアクセスできなくなるバグの修正

今後の Salesforce セキュリティ修正で Salesforce Billing の管理者以外のユーザが Salesforce Billing Spring '20 の特定の Visualforce ページにアクセスできない問題が修正されました。新規ユーザおよび Salesforce Billing Spring '20 にアップグレードしたユーザは、この修正をすぐに利用できます。ただし、この修正は 2020 年 1 月 3 日以降、以前のバージョンの Salesforce にも適用されます。まだ Salesforce Billing Spring '20 へのアップグレードを予定していないユーザは影響を受けるユーザの権限セットに「*すべてのカスタム設定の表示*」権限を追加できます。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Salesforce Billing Visualforce Security Workaround for Pre-Spring '20 Users (Spring '20 以前のユーザ向けの Salesforce Billing Visualforce のセキュリティ回避策) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Pardot: Einstein および Account-Based Marketing 分析、ビジネススニペット、その他の機能

Spring '20 には、Einstein 行動スコアリングダッシュボードや Account-Based Marketing 分析アプリケーションなどの多数の画期的な分析ツールが用意されています。さらに、スニペットの新しい用途、2 つのエンゲージメント履歴ダッシュボード、いくつかの関連リスト、および B2B Marketing Analytics データセットとダッシュボードの更新を確認してください。

このセクションの内容:

行動スコアリングを決定する要素の探索

Einstein 行動スコアリングの構築方法に迷ったことはありますか? ここでそれを説明します。B2B Marketing Analytics の新しいダッシュボードには、カスタムモデルで各エンゲージメントアクティビティがどのように加重され、今後のコンバージョンに最も強く関係するアセットはどれかが示されます。

Einstein Discovery 予測を使用した取引先ベースのマーケティング戦略の強化 (パイロット)

営業ユーザとマーケティングユーザが進行中の取引先ベースのマーケティング活動およびパフォーマンスを分析できるようにします。新しい取引先ベースのマーケティング (ABM) アプリケーションテンプレートには 3 つのダッシュボードがあり、確実な合意事項および改善点を識別する Einstein Discovery ストーリーが含まれています。取引先ベースのマーケティングアプリケーションテンプレートが含まれる Einstein Analytics for B2B Marketing は B2B マーケター向けに調整されたツールのコレクションであり、このコレクションは拡大し続けています。

リードや取引先責任者でエンゲージメント履歴データを探索

担当者が外出先でもエンゲージメント履歴データを確認できるようになりました。組み込みエンゲージメント履歴ダッシュボード Lightning コンポーネントをリードレコードや取引先責任者レコードに追加すれば、顧客のエンゲージメントアクティビティを確認できます。Engagement History の他のダッシュボードと同様に、特定のアセットやアクティビティにドリルインします。

キャンペーンレコードでの最もエンゲージしている取引先の確認

キャンペーンレコードに組み込まれた Engagement History ダッシュボードに、マーケティングアセットにエンゲージしている取引先数が表示されるようになりました。組み込みダッシュボードに [最もエンゲージしている取引先] ウィジェットが追加されました。取引先に関連付けられているリードや取引先責任者のアクティビティ数が集計されるため、対象とする価値のある取引先を見極めることができます。

リストメールレコードでのエンゲージメントアクティビティの表示

営業担当には、必要な情報を詳しく調べる時間がありません。営業担当は、リストメールレコードの [エンゲージメント履歴] 関連リストを参照し、誰がメールを開封してクリックしたかを確認できます。

取引先とキャンペーンの間のリレーションの明示

キャンペーンレコードと取引先レコードで新しい関連リストが使用可能になり、営業担当が両レコードを結び付けられるようになります。これらのレコード間をすばやく移動することや、関連レコードに基づいて操作することができます。取引先関連リストをキャンペーンレコードに追加したり、キャンペーン関連リストを取引先レコードに追加したりします。

B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットの変更

B2B Marketing Analytics データセットからダッシュボードに最も正確なデータが提供されるようにする目的で、いくつかの点が再構築されました。以前は、ダッシュボードウィジェットでは 1 件の商談に関連付けられた 1 件のプロスペクトしか考慮しませんでした。けれどもリレーションの多くはこれよりも複雑です。また、ウィジェットの数式、ファセット、データの絞り込みも更新され、ダッシュボードをより効率的に活用できるようになりました。

従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止

Summer '20 リリースの時点で、従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットが更新されなくなります。従来のアプリケーションには、設定時に B2B Marketing Analytics アプリケーションテンプレートを選択せずに作成したカスタムアプリケーションが含まれます。

2020 年 1 月 31 日に廃止される予定の FullContact コネクタ

コネクタ経由で取得された情報を参照する機能を含めて、FullContact のソーシャルプロファイルルックアップコネクタは 2020 年 1 月 31 日の時点で使用できなくなります。

行動スコアリングを決定する要素の探索

Einstein 行動スコアリングの構築方法に迷ったことはありますか? ここでそれを説明します。B2B Marketing Analytics の新しいダッシュボードには、カスタムモデルで各エンゲージメントアクティビティがどのように加重され、今後のコンバージョンに最も強く関係するアセットはどれかが示されます。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Pardot Advanced の Lightning Experience に適用されます。

理由: 1 つの行動スコアからプロスペクトがセールス評価済みリード (SQL) になる可能性があるかどうかを知ることはできますが、数字の背後にある完全なストーリーまではわかりません。戦略を立てるうえでは、営業チームに最適な商談を生成する行動を促すようにマーケティング計画を調整したいと考えるでしょう。Einstein 行動スコアリングダッシュボードには、より効果的なマーケティング戦略をテストして実装していくために必要なデータが示されます。

方法: システム管理者が B2B Marketing Analytics および Einstein 行動スコアリングをインストールして設定する必要があります。インストール後はユーザが標準搭載の Einstein 行動スコアリングダッシュボードを作成できます。

このダッシュボードには、2 つのグラフと、プロスペクトテーブルが表示されます。[アクティビティ] グラフには、Web セミナーへの出席、動画の視聴、メールのクリックなど、スコアリングモデルに最大の影響を及ぼす行動が表示されます。行動の 1 つを選択すると、その行動に関連付けられているアセットで、パフォーマンスが上位のものを示す [アセット] グラフが表示されます。

[つながりのあるプロスペクト] テーブルが更新され、リード、取引先責任者で、選択したアクティビティを行った人のレコードが示されます。

Einstein Discovery 予測を使用した取引先ベースのマーケティング戦略の強化 (パイロット)

営業ユーザとマーケティングユーザが進行中の取引先ベースのマーケティング活動およびパフォーマンスを分析できるようにします。新しい取引先ベースのマーケティング (ABM) アプリケーションテンプレートには 3 つのダッシュボードがあり、確実な合意事項および改善点を識別する Einstein Discovery ストーリーが含まれています。取引先ベースのマーケティングアプリケーションテンプレートが含まれる Einstein Analytics for B2B Marketing は B2B マーケター向けに調整されたツールのコレクションであり、このコレクションは拡大し続けています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。この機能は、Einstein Analytics for B2B Marketing ライセンスが含まれる Salesforce Enterprise Edition、Unlimited Edition、Partner Developer Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ: Einstein Analytics for B2B Marketing は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein Analytics for B2B Marketing は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フィードバックや提案は、Trailblazer Community の Einstein Analytics for B2B Marketing グループに投稿してください。

理由: B2B Marketing Analytics アプリケーションにより、取引先ベースのマーケティング活動の概要を確認できます。ABM アプリケーションテンプレート一式により、表示される情報とその方法をよりきめ細かく制御できます。また、機会を最大限活かす方法を絞り込むのに役立つ強力な Einstein Discovery ストーリーにもアクセスできます。

Einstein Analytics for B2B Marketing ライセンスには 4 つの権限セットライセンスが含まれています: Einstein Analytics Plus システム管理者、Einstein Analytics Plus ユーザ、Einstein Analytics for B2B Marketing システム管理者、Einstein Analytics for B2B Marketing ユーザ。

方法: アクセス権を割り当てた後で、ユーザは独自の ABM アプリケーションを作成できます。開始するには、アプリケーションランチャーから **Analytics Studio** を見つけて開き、アプリケーションを作成します。操作を促されたら、取引先ベースのマーケティングアプリケーションテンプレートを選択し、設定ウィザードで質問に答えます。

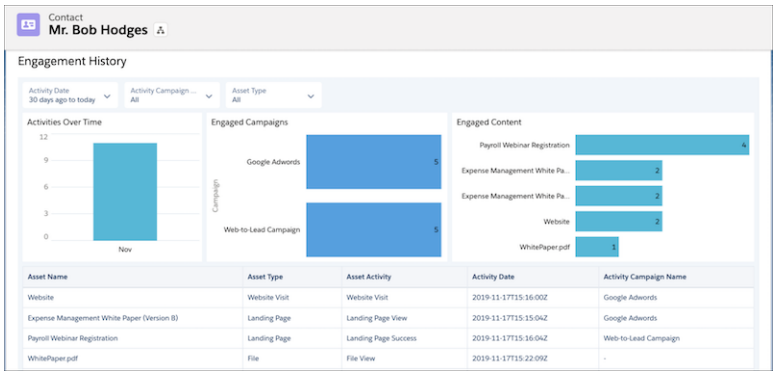
アプリケーションで Einstein Discovery を使用するには、予測を個別に設定します。

リードや取引先責任者でエンゲージメント履歴データを探索

担当者が外出先でもエンゲージメント履歴データを確認できるようになりました。組み込みエンゲージメント履歴ダッシュボード Lightning コンポーネントをリードレコードや取引先責任者レコードに追加すれば、顧客のエンゲージメントアクティビティを確認できます。Engagement History の他のダッシュボードと同様に、特定のアセットやアクティビティにドリルインします。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Engagement History のダッシュボードをすでに使用している場合は、ほとんど何もすることがありません。Engagement History の組み込みダッシュボードコンポーネントをリードレコードや取引先責任者レコードのタブに追加するだけです。



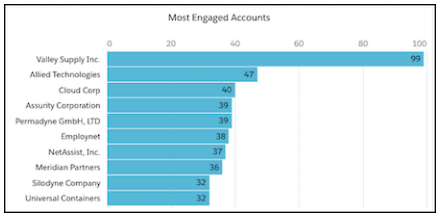
Engagement History ダッシュボードを初めて設定するときは、Salesforce ヘルプを参照してください。

キャンペーンレコードでの最もエンゲージしている取引先の確認

キャンペーンレコードに組み込まれた Engagement History ダッシュボードに、マーケティングアセットにエンゲージしている取引先数が表示されるようになりました。組み込みダッシュボードに [最もエンゲージしている取引先] ウィジェットが追加されました。取引先に関連付けられているリードや取引先責任者のアクティビティ数が集計されるため、対象とする価値のある取引先を見極めることができます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この新しいウィジェットはダッシュボードに自動的に追加されます。



リストメールレコードでのエンゲージメントアクティビティの表示

営業担当には、必要な情報を詳しく調べる時間がありません。営業担当は、リストメールレコードの [エンゲージメント履歴] 関連リストを参照し、誰がメールを開封してクリックしたかを確認できます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: リストメールのページレイアウトを編集し、[関連] タブに [エンゲージメント履歴] 関連リストを含めます。

取引先とキャンペーンの間のリレーションの明示

キャンペーンレコードと取引先レコードで新しい関連リストが使用可能になり、営業担当が両レコードを結び付けられるようになります。これらのレコード間をすばやく移動することや、関連レコードに基づいて操作することができます。取引先関連リストをキャンペーンレコードに追加したり、キャンペーン関連リストを取引先レコードに追加したりします。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

方法: 担当者にいずれかまたは両方の関連リストが必要かどうかを判断し、関連リストを適切なページレイアウトに追加します。

B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットの変更

B2B Marketing Analytics データセットからダッシュボードに最も正確なデータが提供されるようにする目的で、いくつかの点が再構築されました。以前は、ダッシュボードウィジェットでは 1 件の商談に関連付けられた 1 件のプロスペクトしか考慮しませんでした。けれどもリレーションの多くはこれよりも複雑です。また、ウィジェットの数式、ファセット、データの絞り込みも更新され、ダッシュボードをより効率的に活用できるようになりました。

対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition と Pardot Advanced Edition に含まれています。変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備える Pardot Pro Edition および Ultimate Edition にも影響します。

理由: 一部の列が移動され、一部の項目名が変更されました。これにより、こうした項目を使用するカスタマイズ済みのレンズやダッシュボードが破損します。カスタマイズをレンズで作成し直し、B2B Marketing Analytics アプリケーション外に保存することをお勧めします。

プロスペクトデータセットで日付検索条件が追加され、商談データセットで日付検索条件が更新されました。こうした変更は、各データセットに表示されるデータ量に影響します。

個別の検索条件の変更では、マーケティングマネージャ、パイプライン、取引先ベースのマーケティングのダッシュボードでグローバルデータ範囲検索条件が更新されました。新しい検索条件は各ウィジェットの値にも影響する場合があります。たとえば、商談関連のウィジェットでは、日付検索条件で関連付けられたプロスペクトが作成されたときの代わりに商談の作成日を考慮するようになりました。結果はより正確になりますが、以前に表示されていた内容と異なる場合があります。

表 1: マーケティングマネージャ - マーケティングパイプラインの健全性

値	メモ
パイプライン商談	ソース変更。Pardot のフェーズの代わりに Salesforce のフェーズを使用します。
# in Pipe (パイプ内の数)	データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。
パイプライン	データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。

値	メモ
収益	**データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。**
Avg Conversion to Close (**完了までの平均コンバージョン**)	**数式が変化します。データセットの商談の作成から完了予定日までの平均時間を示します。**
Revenue by Campaign (**キャンペーン別の収益**)	**数式が変化します。特定の商談に関連付けられたキャンペーンの収益を示します。**

表 2 : パイプライン - マーケティングライフサイクルファネル

値	メモ
プロスペクト	**プロスペクトデータセットから取り込まれるようになりました**
MQL	**プロスペクトデータセットから取り込まれるようになりました**
SQL	**データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。**
MQL **平均**	**プロスペクトデータセットから取り込まれるようになりました**
SQL **平均**	Removed
プロスペクト平均	**プロスペクトデータセットから取り込まれるようになりました**

表 3 : パイプライン - パイプラインの内訳

値	メモ
合計値	**データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。**
コスト	**データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。**
コンバージョン率	Removed
Visitor Conversion Rate (**訪問者コンバージョン率**)	**新しい値。商談データセットから取り込まれます。作成されたプロスペクトの合計数を訪問者数で割ったものを示します。**
Opportunity Win Rate (**商談成功率**)	**新しい値。商談データセットから取り込まれます。成立商談の合計数を完了した商談で割ったものを示します。**

値	メモ
# in Pipeline (パイプライン内の数)	データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。
収益	データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。
ROI	データセットの日付検索条件の変更によって影響を受ける。
Stage Revenue (フェーズの収益)	ソース変更。Pardot のフェーズの代わりに Salesforce のフェーズを使用します。
キャンペーン	数式が変化します。特定の商談に関連付けられたキャンペーンの収益を示します。
リードソース	数式が変化します。プロスペクトの数をリードソースでグループ化したものを示します
Marketing Sourced Pipeline (マーケティングで取得したパイプライン)	数式が変化します。商談の合計値を名前でグループ化したものを示します

表 4: 取引先ベースのマーケティング - 商談

値	メモ
Revenue Win Percentage (収益成功率)	ソース変更。Pardot の商談の代わりに Salesforce の商談を使用します。
Stage Value by Account (取引先別のフェーズ値)	ソース変更。Pardot の商談の代わりに Salesforce の商談を使用します。

方法: ユーザがダッシュボードおよびウィジェットで変更を確認するには、B2B Marketing Analytics アプリケーションをアップグレードする必要があります。

従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止

Summer '20 リリースの時点で、従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットが更新されなくなります。従来のアプリケーションには、設定時に B2B Marketing Analytics アプリケーションテンプレートを選択せずに作成したカスタムアプリケーションが含まれます。

対象: この変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備えた Pardot Pro Edition および Ultimate Edition に適用されます。

2020 年 1 月 31 日に廃止される予定の FullContact コネクタ

コネクタ経由で取得された情報を参照する機能を含めて、FullContact のソーシャルプロファイルルックアップコネクタは 2020 年 1 月 31 日の時点で使用できなくなります。

対象: この変更は Pardot のすべてのアカウントに適用されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: FullContact Social Profile Lookup Connector for Pardot Retirement (Pardot 用の FullContact ソーシャルプロファイルルックアップコネクタの廃止)

Sales Cloud のその他の変更

Data.com Prospector と Data.com Clean が廃止されました。

Data.com: Prospector と Clean の廃止

Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。これらの商品は 2020 年 7 月 31 日に廃止される予定です。既存の契約は有効です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Data.com Prospector ライセンスは Contact Manager Edition (リードオブジェクトなし)、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。Data.com Clean ライセンスは Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Data.com Clean および Prospector の廃止

サービス: チャネルメニュー、Einstein 記事のおすすめ、ケースマージ、WhatsApp メッセージングチャネル、フィールドサービスのシフト

組み込みサービスチャネルメニューを Web サイトに追加して、顧客の好みのチャネルで顧客とつながります。Einstein 記事のおすすめを使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。ケースマージを使用して重複するケースを結合します。海外の顧客には WhatsApp を使用してメッセージを送信します。フィールドサービスのシフトを設定することで、通常のスケジュール外(休日や営業時間外など)の作業をスケジュールします (ベータ)。

このセクションの内容:

Einstein for Service: 記事のおすすめ、ボットの多数の機能強化、ケース分類のセグメント化されたデータ

Einstein 記事のおすすめが正式リリースされました。Einstein ボットは、条件付きメッセージングと会話の修復を提供します。Einstein ケース分類は、各事業区分の予測モデルを提供します。この制限付きバージョンを無料で使用できるようになりました。

Field Service: 可変シフト、連続作業、生成された作業指示の投稿、モバイルアプリケーションの機能強化

シフトを設定して、日時に関係なく必要なときにサービスを提供したり、中断がないように予定を連続で割り当てたり、メンテナンス計画でチームの作業指示が作成された場合に常に最新の情報を入手したりできます。また、Field Service Mobile アプリケーションにセキュリティ機能と新しいオフラインプライミング UI が追加され、ユーザの安全性や環境が改善されています。

チャネル: メッセージングのショートコード、組み込みチャネルメニュー、WhatsApp メッセージチャネル、エージェントの待ち時間の予想

ショートコードを使用して、大量のプロモーションメッセージと 1 回限りのアラートを送信します。組み込みサービスチャネルメニューを Web サイトに追加して、顧客の好みのチャネルで顧客とつながります。WhatsApp を使用して顧客にメッセージを送信します。モバイルアプリケーション用組み込みサービス SDK (ベータ) を使用して、エージェントとチャットできるようになるまでの予想待ち時間を表示します。

ナレッジ: Chrome での比較、会話、サイズ変更可能な画像

著者が更新および進捗状況を追跡できるように記事のバージョン間の差を確認できるようにします (ベータ)。チャットおよびメッセージングの会話に記事リンクを挿入して、より多くのユーザと記事を共有できます。また、画像のサイズを変更してドラフト記事の関連ファイルをより簡単に管理できるようにしました。

ルーティング: 検索条件の固定表示、オムニチャネルウィジェット、セキュリティの強化

Omni-Channel Supervisor の絞り込みが改善され、エージェントがログアウト後も設定が保存されるようになったため、エージェントが再びログインしたときにすぐ作業できます。エージェントが作業を受け入れると、オムニチャネルウィジェットが自動的に最小化します。オムニチャネルオブジェクトのセキュリティが強化されました。

ケース管理: ケースマージの正式リリース、Lightning Experience での一括マクロ、その他の改善

Lightning Experience でエージェントがより効率的にケースを解決できるようにします。エージェントは、ケースマージを使用して重複するケースを結合できます。Lightning Experience で一括マクロが使用できるようになったため、エージェントは同じ問題に関するケースの増加にすばやく対応できます。マクロはバックグラウンドで高速実行されるため、エージェントはシームレスに作業できます。[ケース] リストビューで、エスカレーションアイコンはどのケースがエスカレーションされているかを示すため、エージェントはより簡単にケースに優先順位を付けることができます。また、リストビューのケースにマウスポインタを置いて、ケースの詳細を確認して編集することもできます。エージェントはケースフィードのメールにコードスニペットを挿入できるため、ユーザをより適切にサポートできます。

Einstein for Service: 記事のおすすめ、ボットの多数の機能強化、ケース分類のセグメント化されたデータ

Einstein 記事のおすすめが正式リリースされました。Einstein ボットは、条件付きメッセージングと会話の修復を提供します。Einstein ケース分類は、各事業区分の予測モデルを提供します。この制限付きバージョンを無料で使用できるようになりました。

このセクションの内容:

Einstein 記事のおすすめを使用したエージェントによるケースの迅速な解決 (正式リリース)
Einstein 記事のおすすめでは、過去のケースのデータを使用して、エージェントが顧客からの問い合わせに対応するのに最も役立ちそうなナレッジ記事を識別します。Einstein 記事のおすすめは、このリリースで正式リリースされました。

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (パイロット)
Einstein 返信のおすすめは、チャットトランスクリプトのデータを分析し、顧客からの問い合わせに対応するチャットの返信を作成します。エージェントは、顧客とやりとりするときに Lightning サービスコンソールでリストから最も関連性の高いチャットの返信を選択します。

Einstein ボット: スマートボットの機能強化による春の準備
このリリースで、ボットの花を咲かせる準備ができていることを確認します。条件付きメッセージングや会話の修正など、会話を調整するスマートな機能が追加されました。内部では、[モデル管理] 内でチャットボットの総計値と実行可能なフィードバックをより詳細に設定できるようになりました。さらに、SMS でのエージェントの対応可能状況、および新しいボットチャネルとしての WhatsApp の追加により、チャネルが拡張されました。

Einstein ケース分類: セグメント化されたデータ、サンプルデータ、複数のモデルなど
エージェントの予測項目の品質を改善します。各事業区分の予測モデルでデータセットを調整します。最適なデータを使用してモデルをトレーニングするサンプルデータを追加し、新しい設定ページとモデル管理ページを使用して最大 5 個のモデルを管理します。1 つの予測モデルを無料で作成して Einstein ケース分類を試します。

Einstein 記事のおすすめを使用したエージェントによるケースの迅速な解決 (正式リリース)

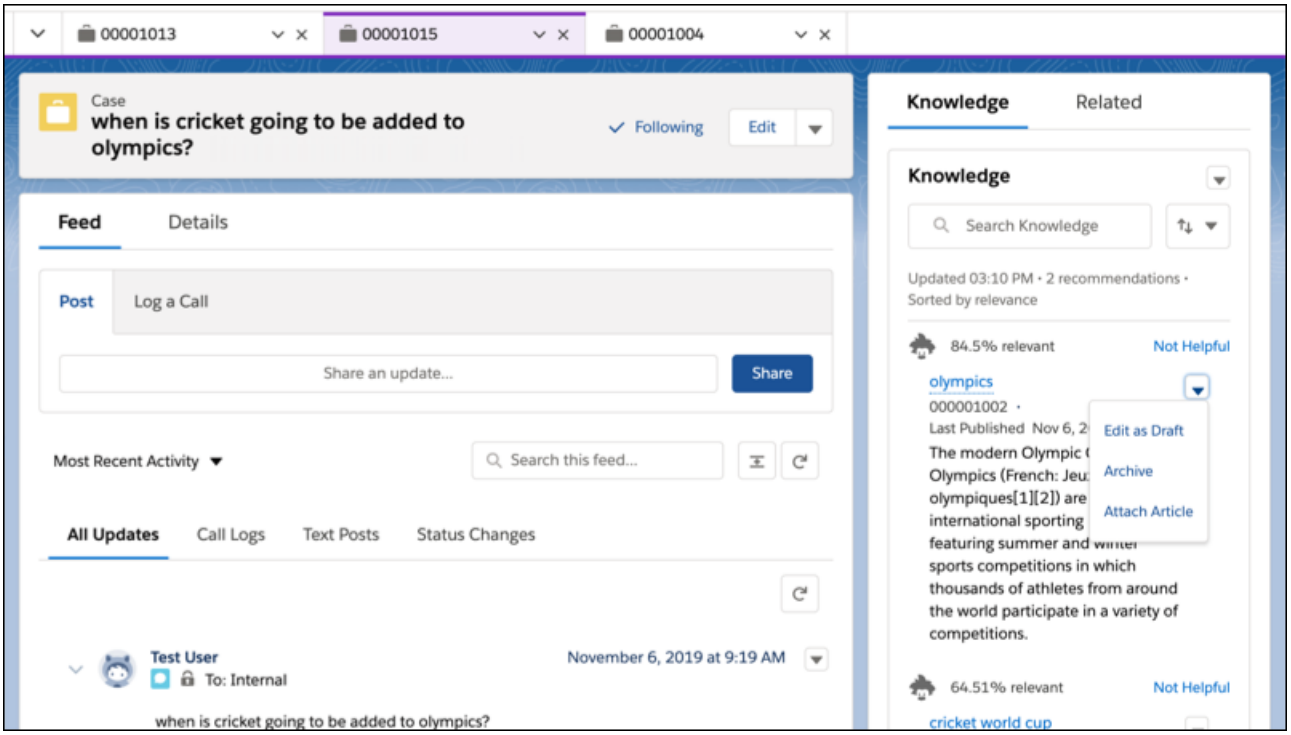
Einstein 記事のおすすめでは、過去のケースのデータを使用して、エージェントが顧客からの問い合わせに対応するのに最も役立ちそうなナレッジ記事を識別します。Einstein 記事のおすすめは、このリリースで正式リリースされました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Einstein 記事のおすすめを設定すると、顧客のケースの解決に最も関連するケースおよびナレッジオブジェクトの項目を識別できます。

顧客がケースを送信すると、Einstein はその情報を使用して次の作業を行います。

- ケースレコードの最も重要な情報を識別する
- その情報と知識ベースの最も関連性の高い記事を照合する
- Knowledge Lightning コンポーネントでそれらの記事をエージェントに提供する



方法: [Einstein 記事のおすすめ] 設定ページで、Einstein 記事のおすすめを有効にします。記事のおすすめモデルの [ケース] 項目と [ナレッジ] 項目を選択し、構築して有効化します。

Einstein 記事のおすすめへのアクセス権をエージェントに付与するには、ナレッジコンポーネントを Lightning サービスコンソールに追加します (まだそこにない場合)。Einstein 記事のおすすめを使用するための権限を付与するプロファイルまたは権限セットをエージェントに割り当てます。

メモ:

- Einstein 記事のおすすめは英語で記述された記事でのみ使用できます。
- Einstein 記事のおすすめを使用するには、知識ベースに 400 件以上の記事が必要です。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (パイロット)

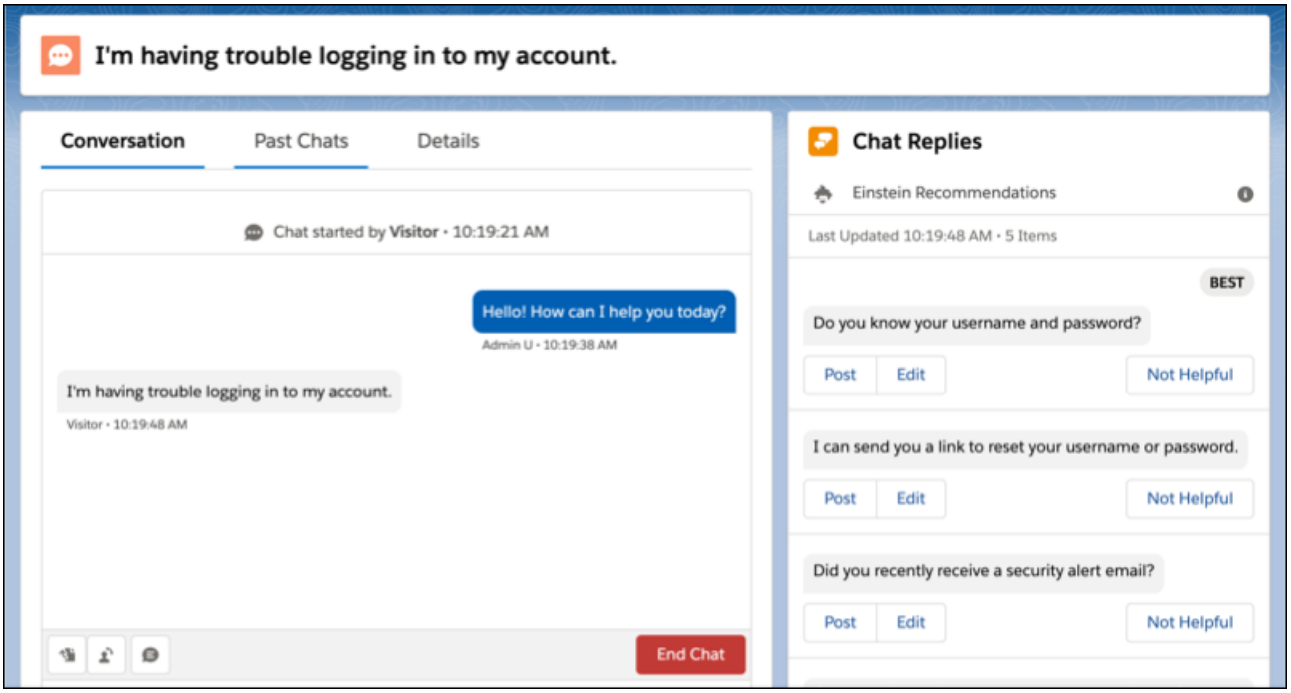
Einstein 返信のおすすめは、チャットトランスクリプトのデータを分析し、顧客からの問い合わせに対応するチャットの返信を作成します。エージェントは、顧客とやりとりするときに Lightning サービスコンソールでリストから最も関連性の高いチャットの返信を選択します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: Einstein返信のおすすめは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 返信のおすすめは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

理由: Einstein 返信のおすすめを設定すると、Einstein によって完了したチャットトランスクリプトが調べられ、エージェントが顧客とチャットしているときに使用できる推奨返信のリストが生成されます。

Einstein によって作成された推奨返信は、承認することも、ビジネスニーズに合わせて変更することもできます。システム管理者によって承認された返信は、Lightning サービスコンソールの [Einstein の提案カード] に表示されます。エージェントが顧客とチャットするときに、Einsteinによってチャットが分析され、最も関連性の高い返信が動的に表示されます。エージェントは、顧客の問題を最も適切に解決する推奨返信を選択して送信できます。



組織が次の要件を満たしている場合、Einstein 返信のおすすめが適している可能性があります。

- Lightning サービスコンソールでチャットを使用して顧客をサポートしている。
- 少なくとも 1000 個の英語の完了したチャットトランスクリプトがある。

メモ: Einstein 返信のおすすめは英語のみで使用できます。

方法: この機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

Einstein ボット: スマートボットの機能強化による春の準備

このリリースで、ボットの花を咲かせる準備ができていることを確認します。条件付きメッセージングや会話の修正など、会話を調整するスマートな機能が追加されました。内部では、[モデル管理]内でチャットボットの総計値と実行可能なフィードバックをより詳細に設定できるようになりました。さらに、SMS でのエージェントの対応可能状況、および新しいボットチャネルとしての WhatsApp の追加により、チャネルが拡張されました。

このセクションの内容:

条件付きメッセージングを使用したカスタマイズされたチャットボット環境の作成
ボットで組み込みのロジックを使用して顧客にパーソナライズされた環境を提供し、事前チャットフォーム、CRM 内のデータ、またはボットへの以前の返信のいずれかによる会話コンテキストに基づいて、カスタマイズされたメッセージを送信します。条件付きメッセージングを使用するボットは、よりインテリジェントに応答して微妙な議論を処理できるため、会話の質が向上されます。

会話の修正を使用したエラーの適切な処理
ボットは正確な情報がある場合はより効果的なヘルパーとなり、会話の修正により、親切かつ優雅に適切な形式のテキストをキャプチャできます。ボットはメールまたは電話番号の形式が正しくない場合に顧客に提案し、顧客がさらに支援が必要な場合はエージェントにその顧客を転送できるようになりました。

アップグレードされたモデル管理ダッシュボードを使用したボットの迅速なトレーニング
モデルの品質を改善するためのアクション可能なおすすめを提供する改善されたダッシュボードを使用して、ボットをトレーニングします。成果の高いインテントの特定などのおすすめにより、インテントトレーニングを改善するための提案が提供されます。インテントの質が高いほど、顧客に対するボットのパフォーマンスが向上します。

詳細な会話ログによるボットの改善
会話ログがより詳細になり、システム管理者はボットの改善が必要な場所をより深く理解できるようになりました。この追加機能ではダイアログで分類された顧客の入力とボットのアクションが示され、システム管理者はボットのすべての動きを確認できます。

エージェントの対応可能状況を含む SMS を介したスマート転送の作成
ボットはエージェントが転送に対応可能かどうかを適切にチェックし、SMS とチャットで顧客に通知できるようになりました。Winter '20 リリースで導入されたエージェントの対応可能状況チェックは、ボットとエージェント間のシームレスなマルチチャネル環境を提供するために SMS にまで拡大されました。

チャットボット入力インジケータを使用した顧客エンゲージメントの改善
チャットボット入力インジケータを使用して、ボットが次のメッセージを配信する間に顧客のエンゲージメントを維持します。これらの 3 つのドットは、ユーザが入力していることを示すメッセージングアプリケーションと同様、ボットがまだ要求を処理していることを顧客に示します。

WhatsApp: Einstein ボットで使用可能
Einstein ボットが世界最大のメッセージングアプリケーション WhatsApp で 180 か国で使用できるようになったため、ボットをさらにトレーニングできます。SMS や Facebook Messenger の場合と同様に、WhatsApp を使用して顧客にメッセージを配信できます。ボットは自動化を使用して、WhatsApp 上で複雑なケースをエージェントに直接渡すこともできます。

Einstein ボット: その他のボットの更新
Einstein ボットへのその他の変更について説明します。

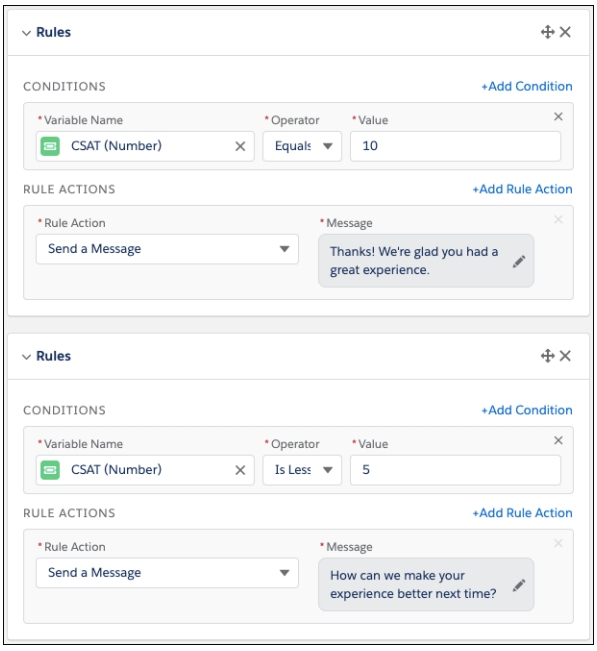
条件付きメッセージングを使用したカスタマイズされたチャットボット環境の作成

ボットで組み込みのロジックを使用して顧客にパーソナライズされた環境を提供し、事前チャットフォーム、CRM内のデータ、またはボットへの以前の返信のいずれかによる会話コンテキストに基づいて、カスタマイズされたメッセージを送信します。条件付きメッセージングを使用するボットは、よりインテリジェントに応答して微妙な議論を処理できるため、会話の質が向上されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: 条件付きメッセージを追加するには、[ダイアログ] に [ルール] ダイアログ要素を追加します。[ルールアクション] で、[メッセージを送信] を選択します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

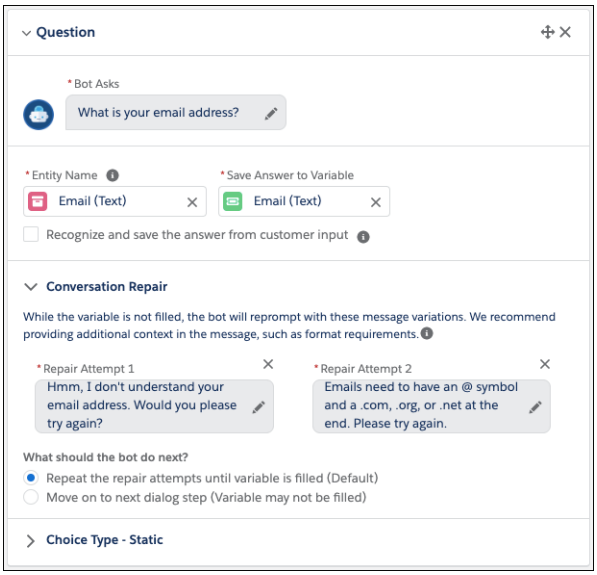
会話の修正を使用したエラーの適切な処理

ボットは正確な情報がある場合はより効果的なヘルパーとなり、会話の修正により、親切かつ優雅に適切な形式のテキストをキャプチャできます。ボットはメールまたは電話番号の形式が正しくない場合に顧客に提案し、顧客がさらに支援が必要な場合はエージェントにその顧客を転送できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: 会話の修正は、ダイアログの [質問] 要素に追加できます。質問ごとに 2 回の修正を試行できます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

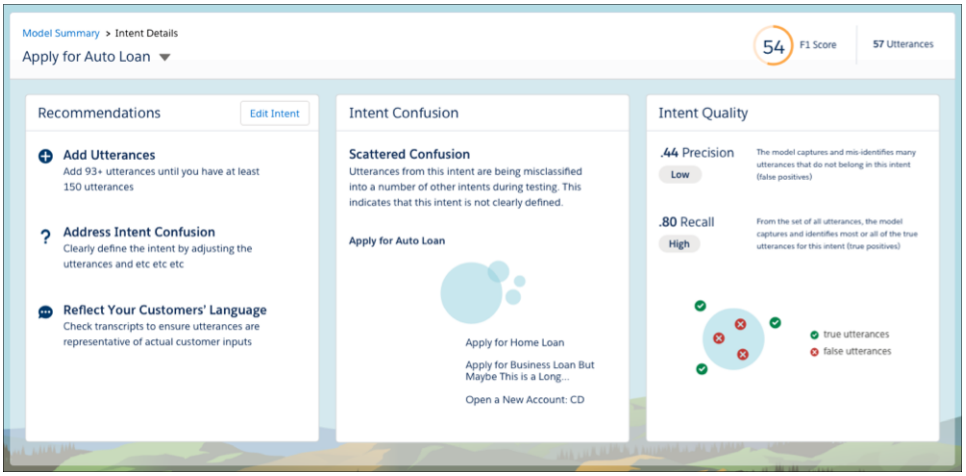
アップグレードされたモデル管理ダッシュボードを使用したボットの迅速なトレーニング

モデルの品質を改善するためのアクション可能なおすすめを提供する改善されたダッシュボードを使用して、ボットをトレーニングします。成果の高いインテントの特定などのおすすめにより、インテントトレーニングを改善するための提案が提供されます。インテントの質が高いほど、顧客に対するボットのパフォーマンスが向上します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: ボットビルダーで、[モデル管理] メニューに移動します。このページに初めてアクセスする場合、モデルを再作成してモデルへの新しい変更を統合する必要があります。[モデルを作成] をクリックして再作成を開始します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

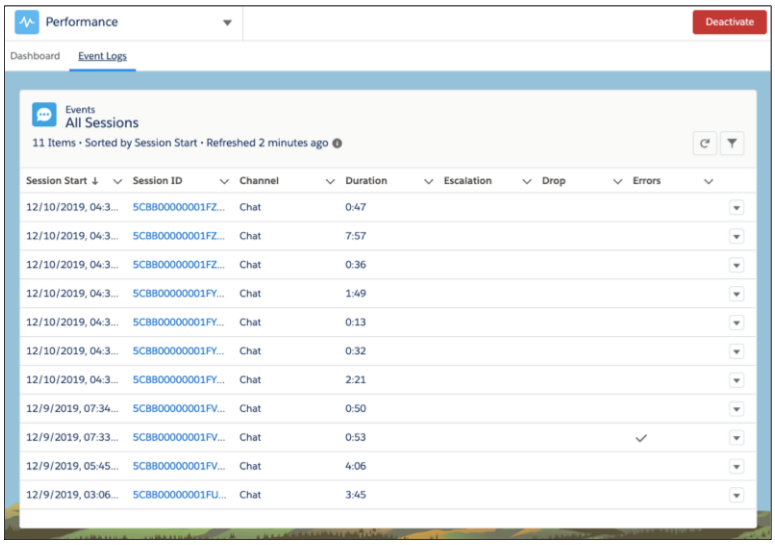
詳細な会話ログによるボットの改善

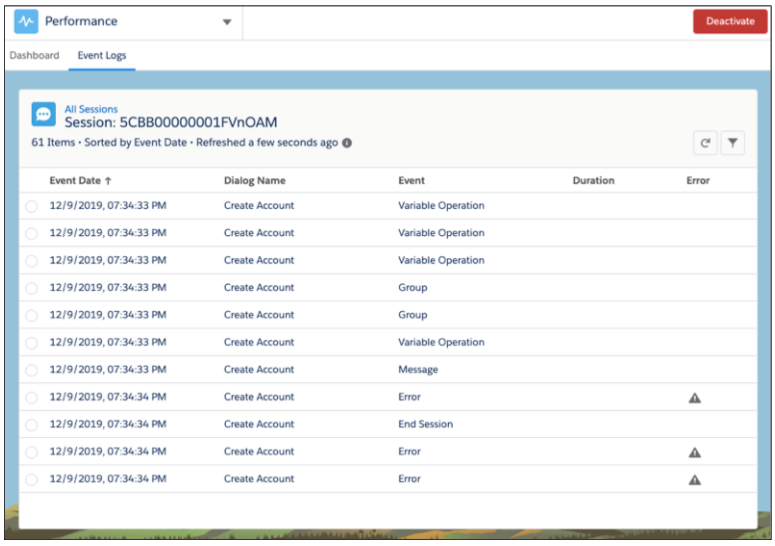
会話ログがより詳細になり、システム管理者はボットの改善が必要な場所をより深く理解できるようになりました。この追加機能ではダイアログで分類された顧客の入力とボットのアクションが示され、システム管理者はボットのすべての動きを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: これらのログは、[パフォーマンス] メニューの [イベントログ] にアクセスすることで、ボットビルダーのすべてのボットで使用できます。





関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

エージェントの対応可能状況を含む SMS を介したスマート転送の作成

ボットはエージェントが転送に対応可能かどうかを適切にチェックし、SMS とチャットで顧客に通知できるようになりました。Winter '20 リリースで導入されたエージェントの対応可能状況チェックは、ボットとエージェント間のシームレスなマルチチャネル環境を提供するために SMS にまで拡大されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。SMS の使用には Digital Engagement ライセンスが必要です。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

関連トピック:

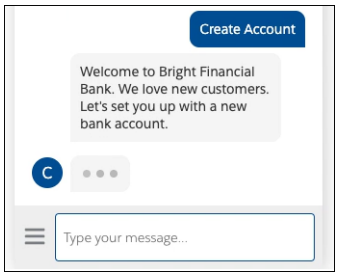
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

チャットボット入力インジケータを使用した顧客エンゲージメントの改善

チャットボット入力インジケータを使用して、ボットが次のメッセージを配信する間に顧客のエンゲージメントを維持します。これらの3つのドットは、ユーザが入力していることを示すメッセージングアプリケーションと同様、ボットがまだ要求を処理していることを顧客に示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。この機能は、チャットを使用するボットで使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

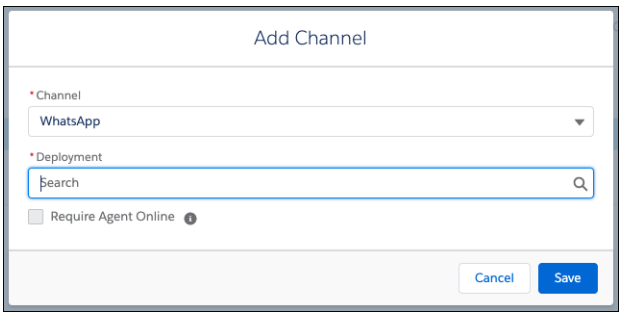
WhatsApp: Einstein ボットで使用可能

Einstein ボットが世界最大のメッセージングアプリケーション WhatsApp で 180 か国で使用できるようになったため、ボットをさらにトレーニングできます。SMS や Facebook Messenger の場合と同様に、WhatsApp を使用して顧客にメッセージを配信できます。ボットは自動化を使用して、WhatsApp 上で複雑なケースをエージェントに直接渡すこともできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。この機能は、チャットとオムニチャネルを使用するボットで使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と チャットの両方のユーザライセンスを有する組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。WhatsApp の使用には Digital Engagement ライセンスが必要です。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: WhatsApp番号は、ボットに追加する前にメッセージングで設定する必要があります。番号を追加したら、ボットビルダーの [概要] ページに移動します。[チャネル] メニューで [追加] をクリックしたら、[チャネル] と [リリース] 項目のチャネル名として [WhatsApp] を選択します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein ボット: その他のボットの更新

Einstein ボットへのその他の変更について説明します。

- 以前は、セッションは 24 時間アクティビティがなかった場合に終了していました。チャットおよびメッセージングセッションのアイドルタイムアウトが 24 時間から 2 時間に変更されました。
- ボットの [概要] ページの次のドロップダウン項目の動作が、デフォルトですべてを表示から先行入力に変更されました。
  - [ボットユーザ] セクションの [カスタムチャットボットユーザ] 項目
  - [チャネルを追加] 画面の [リリース] 項目

Einstein ケース分類: セグメント化されたデータ、サンプルデータ、複数のモデルなど

エージェントの予測項目の品質を改善します。各事業区分の予測モデルでデータセットを調整します。最適なデータを使用してモデルをトレーニングするサンプルデータを追加し、新しい設定ページとモデル管理ページを使用して最大 5 個のモデルを管理します。1 つの予測モデルを無料で作成して Einstein ケース分類を試します。

このセクションの内容:

区分とサンプルデータを使用した Einstein 項目値予測の改善
さまざまな事業区分(ビルディングサービスとコンサルティングサービスやエンタープライズディビジョンとコンシューマディビジョンなど)の予測モデルを設定および構築できます。また、事業のサブセットの項目値のみを予測する場合、1つのモデルの範囲を絞り込むこともできます。以前は、ケース分類ですべてのデータが考慮されていました。各区分内で、ケース分類で使用する完了項目と項目値を最も適切に反映するクローズケースを指定します。このサンプルデータでは、ケースのベストプラクティスを表すデータを使用して各モデルをトレーニングします。

新しい設定ページ環境を使用した複数のモデルの管理
事業の編成方法や、特定の事業区分に焦点を絞る方法に合わせてモデルを作成できるようになりました。再設計された [ケース分類] 設定ページには、複数のモデル用の新しいセクションがあります。

データの増加による予測の改善
便利なデータチェックツールは、データ数が少ない場合や不十分な場合に警告します。

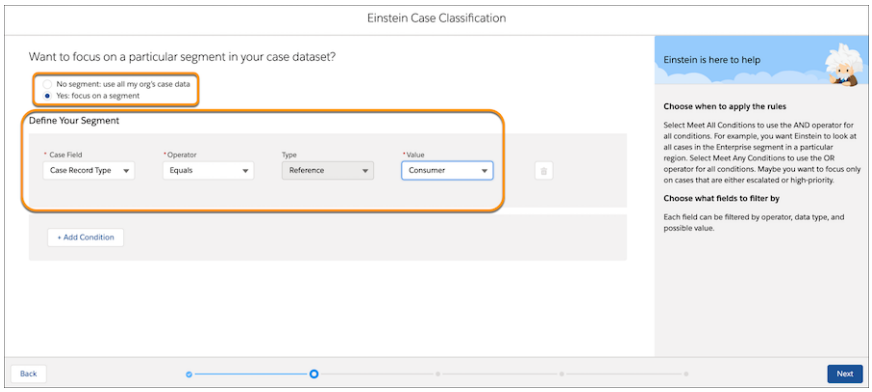
Einstein ケース分類の無料トライアル
Einstein ケース分類のことは知っていても、使用しているデータで Einstein ケース分類が機能するかどうかが不明ですか? Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition のお客様はこれを無料で試すことができます。

区分とサンプルデータを使用した Einstein 項目値予測の改善

さまざまな事業区分 (ビルディングサービスとコンサルティングサービスやエンタープライズディビジョンとコンシューマディビジョンなど) の予測モデルを設定および構築できます。また、事業のサブセットの項目値のみを予測する場合、1 つのモデルの範囲を絞り込むこともできます。以前は、ケース分類ですべてのデータが考慮されていました。各区分内で、ケース分類で使用する完了項目と項目値を最も適切に反映するクローズケースを指定します。このサンプルデータでは、ケースのベストプラクティスを表すデータを使用して各モデルをトレーニングします。

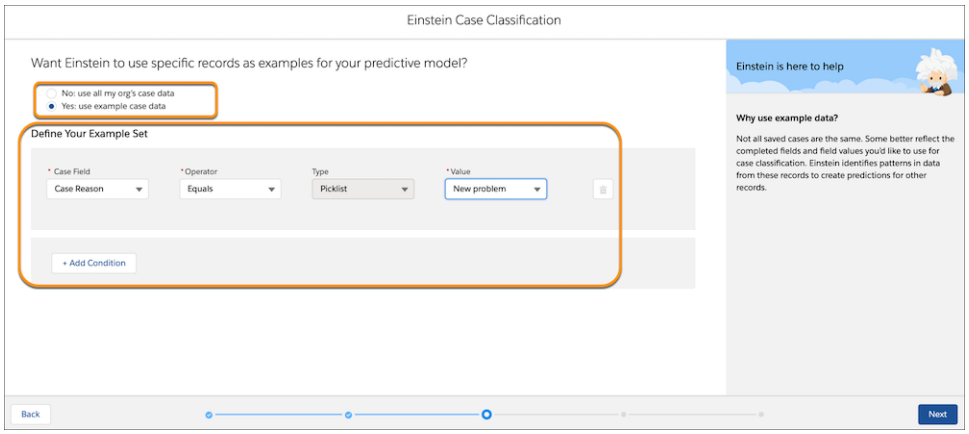
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: 新しいモデルフローで、[はい: 区分に焦点を絞ります] をクリックします。その後で、条件を使用して区分を定義します。



次に、予測モデルを構築するためのサンプルとして区分、または区分に焦点を絞らない場合はデータセット全体のどのレコードを使用するのかを指定します。これがサンプルセットです。Einstein では、これらのレコードからパターンを特定し、他のレコードの予測が作成されます。

区分内で、条件を使用してサンプルデータを定義します。



関連トピック:

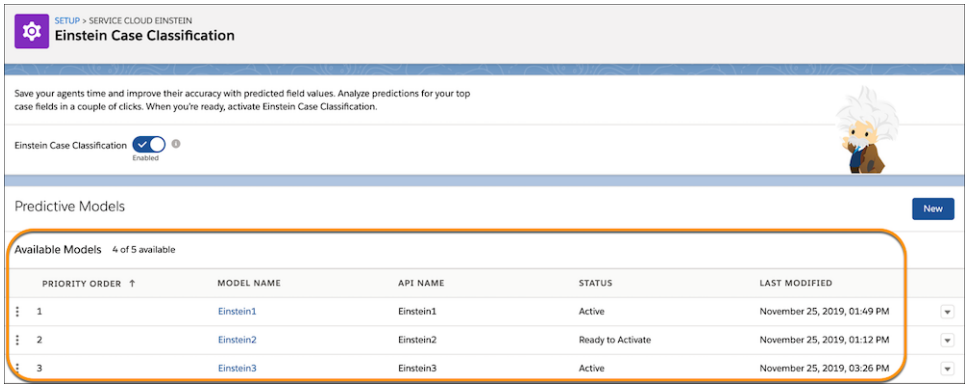
- 新しい設定ページ環境を使用した複数のモデルの管理
- Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

新しい設定ページ環境を使用した複数のモデルの管理

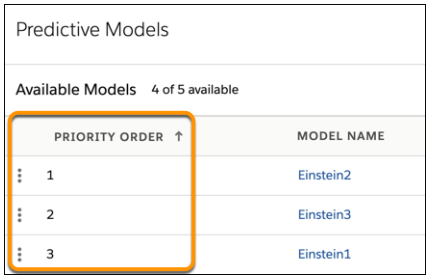
事業の編成方法や、特定の事業区分に焦点を絞る方法に合わせてモデルを作成できるようになりました。再設計された [ケース分類] 設定ページには、複数のモデル用の新しいセクションがあります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: モデルは、[予測モデル] セクションにリストされます。[状況] 列には、各モデルの状態 ([ビルド準備完了]、[構築中]、[有効化準備完了]、最後に [有効]) が表示され、おすすめがエージェントに提供さます。

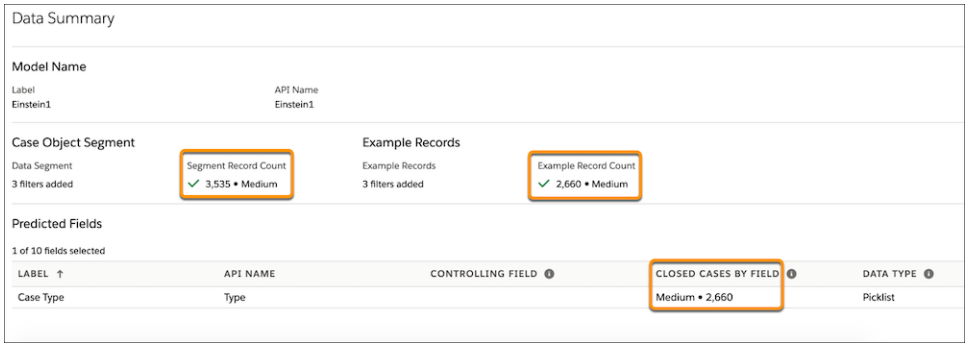


区分を定義すると、相互に排他的でないルールによって重複する区分が作成される可能性があります。受信ケースが複数に該当する可能性があります。完全に個別の区分を作成することをお勧めします。ただし、1 つのケースが複数に該当する場合、使用するモデルを Einstein に指示できます。モデルをドラッグして優先順序を調整します。

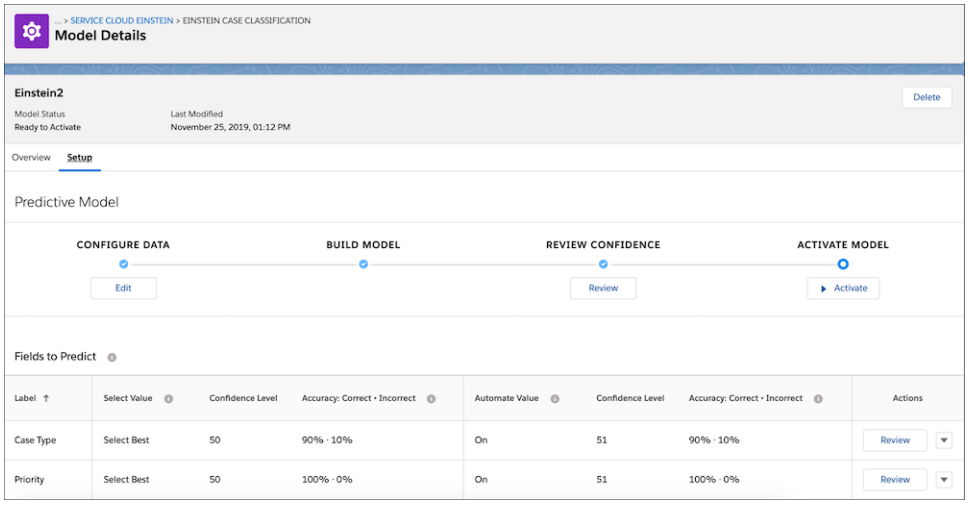


モデル名をクリックすると、モデルに関する情報と 2 つのタブ ([概要] と [設定]) が表示されます。

[概要] タブには、パフォーマンスダッシュボードと、区分とサンプルレコードに関する情報が表示される新しい [データ概要] セクションがあります。区分とサンプルデータのレコード数が表示されます。項目ごとのクローズケース数も表示されます。



[設定] タブでは、モデルを管理できます。モデルを無効化して、区分条件、サンプルデータ、項目を編集し、更新されたモデルを再構築して有効化できます。



関連トピック:

データの増加による予測の改善

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

データの増加による予測の改善

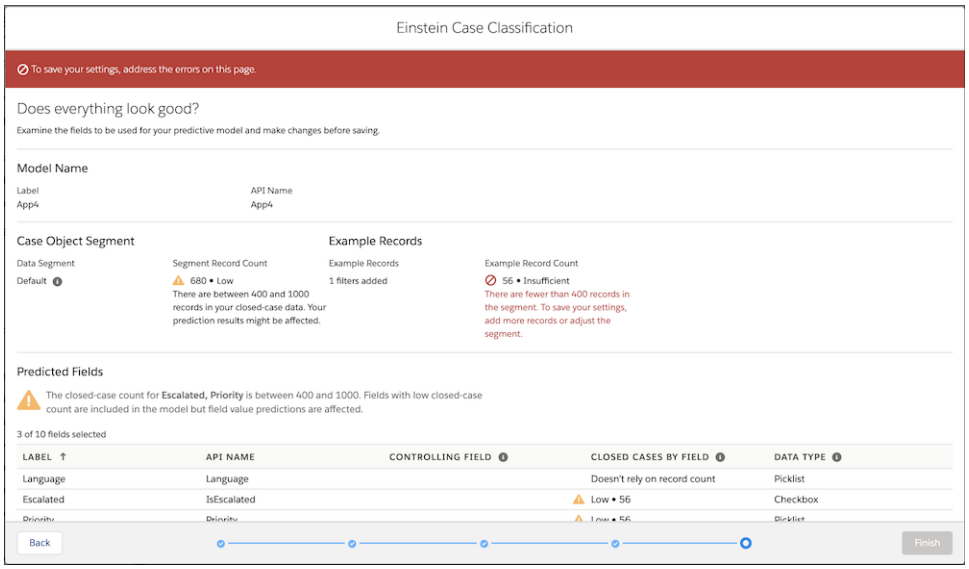
便利なデータチェックツールは、データ数が少ない場合や不十分な場合に警告します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

理由: ケース分類が正常に動作するには、十分な量のケースがクローズしている必要があります。十分なケースデータ、サンプルデータ、項目値データがあるかどうかが通知されます。概要ページには、区分、サンプルデータ、各項目のケースデータの量が表示されます。

クローズケースデータが少ない場合 (400 ～ 1,000 件)、設定を保存してモデルを構築できますが、予測が影響を受ける可能性があります。クローズケースデータが不十分な場合 (400 件未満)、より多くのデータを収集するまで設定を保存できません。同様に、エージェントのために予測する各項目と値を使用した最小 100 件のクローズケースをお勧めします。

方法: 新しいモデルフローの最後で、警告およびエラーメッセージを調べ、十分なデータがあることを確認します。モデルを設定したら、モデルの [概要] タブでデータ数を確認します。全体またはいずれかの項目に十分なケースがない場合は、一部の区分またはサンプルデータ検索条件を削除します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein ケース分類の無料トライアル

Einstein ケース分類のことは知っていても、使用しているデータで Einstein ケース分類が機能するかどうかが不明ですか? Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition のお客様はこれを無料で試すことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: 使用を開始するには、[設定] で Einstein ケース分類を有効にします。次に、モデルを構築し、いくつかの項目をエージェントに推奨します。予測スコアリングはオンデマンドではなく毎時間実行されるため、値を自動化することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein ケース分類の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Upgrade to the Paid Version of Einstein Case Classification (有料バージョンの Einstein ケース分類へのアップグレード) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Field Service: 可変シフト、連続作業、生成された作業指示の投稿、モバイルアプリケーションの機能強化

シフトを設定して、日時に関係なく必要なときにサービスを提供したり、中断がないように予定を連続で割り当てたり、メンテナンス計画でチームの作業指示が作成された場合に常に最新の情報を入手したりできます。また、Field Service Mobile アプリケーションにセキュリティ機能と新しいオフラインプライミング UI が追加され、ユーザの安全性や環境が改善されています。

このセクションの内容:

臨時シフトを使用した Field Service Scheduling の柔軟性の確保 (ベータ)

シフトを使用すると、柔軟性に欠ける作業時間から解放されます。通常のスケジュールとは異なるシフト (休日時間や臨時の残業など) を定義したり、作業時間が不規則な契約社員をスケジュールするために、対応可能な日時に合わせてシフトを作成したりできます。

別の予定の直後の予定のスケジュール (ベータ)

連続してサービス予定を設定する場合、それらのサービス予定の間に `[Immediately Follow (すぐ後に続く)]` 連動関係を作成します。

高度な最適化を使用したスマートなスケジュールの構築 (正式リリース)

重要業績評価目標に合ったフィールドサービススケジュールを構築できます。高度な最適化には、移動を最小限に抑えたり、応答時間を短縮したり、緊急の変更に対応したりできるようにチームを支援するツールが用意されています。

最低限の資格を持つリソースまたは最も高いスキルを持つリソースへの作業の割り当て

高度な最適化では、サービスリソースの専門知識に基づいてサービスリソースをスケジュールできます。最低限必要なスキルレベルを持つ作業員を派遣して、最高の能力を温存します。または、最も適格な候補者を主要な予定に割り当てます。以前は、高度な最適化は [Match Skills (スキルを照合)] 作業ルールを使用していましたが、[Skill Level (スキルレベル)] サービス内容は考慮されていませんでした。

状態チェックによる Field Service のウェルネスの改善 (正式リリース)

Field Service 設定をより適切に診断できるように状態チェックが拡張されました。1 回のクリックで、より多くの問題 (シフト時間のずれや無効な連動関係など) を特定できます。新しいテストでは、リソースの対応可能状況や最適化の結果を制限する可能性のある問題を検出しやすくなっています。

メンテナンス計画から生成された作業指示の把握

ユーザは、メンテナンス計画から作業指示が生成されたときに発生したエラーを検出して対処できます。手動および自動の作業指示生成の結果の詳細を説明する Chatter 投稿を受信します。

作業業務量データモデルの廃止

各作業種別でチームが費やす時間を定義できなくなりました。また、Field Service で作業種別によって、スケジュールする業務量の制限を設定できなくなりました。

Field Service Mobile アプリケーション: 新しいオフラインプライミング UI、セキュリティの強化、グローバルアクションやサービスレポートフローへのアクセス

FSL モバイルアプリケーションでは、より強力なオフラインプライミングインターフェースの提供、セキュリティ機能の改善、グローバルアクションやサービスレポートフローへのアクセスの追加が行われています。

臨時シフトを使用した Field Service Scheduling の柔軟性の確保 (ベータ)

シフトを使用すると、柔軟性に欠ける作業時間から解放されます。通常のスケジュールとは異なるシフト (休日時間や臨時の残業など) を定義したり、作業時間が不規則な契約社員をスケジュールするために、対応可能な日時に合わせてシフトを作成したりできます。

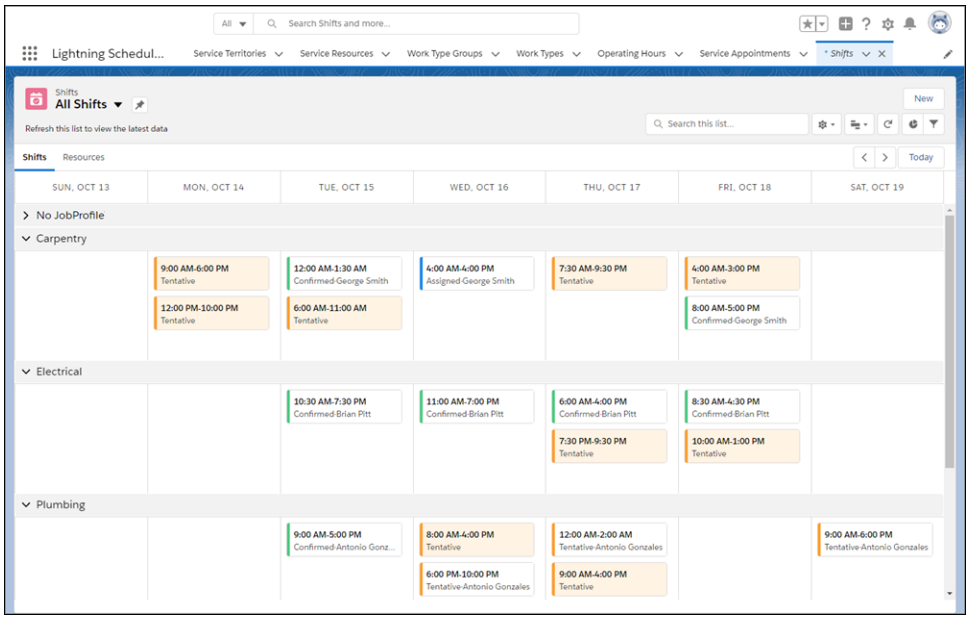
対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。スケジュールや高度な最適化でシフトの対応可能状況を使用するには、管理パッケージが必要です。シフト管理を有効にするには、Salesforce サポートにリクエストを登録してください。

メモ: シフト管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。シフト管理に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Field Service Lightning」グループに投稿してください。

理由: シフト、作業時間、またはその両方を使用して、必要なときに作業をスケジュールします。ジョブプロファイルを使用してシフトを分類できるため、適切なスキルを持つリソースをシフトに適合させることができます。

方法: [アプリケーションマネージャ] から [シフト] を選択し、期間、サービステリトリー (省略可能)、ジョブプロファイル (省略可能) を使用してシフトを作成します。

作業員の対応可能状況を確認したら、シフトの状況を [確認済み] に設定します。管理パッケージがインストールされている場合、確認済みのシフトの対応可能状況がガントチャートに表示され、スケジュールと高度な最適化で使用されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フィールドサービスのシフトの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

別の予定の直後の予定のスケジュール (ベータ)

連続してサービス予定を設定する場合、それらのサービス予定の間に `[Immediately Follow (すぐ後に続く)]` 連動関係を作成します。

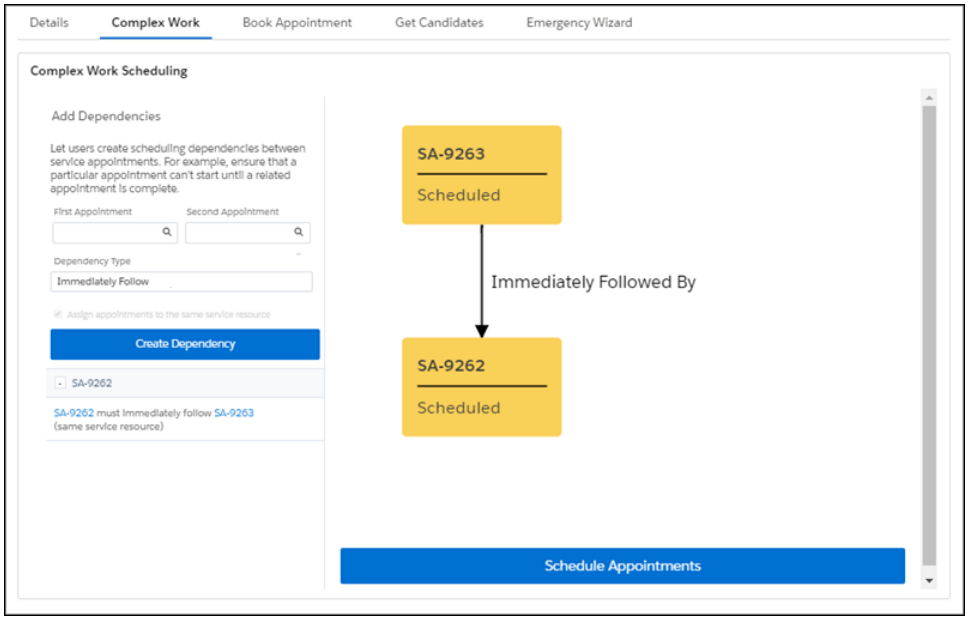
対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: `[Immediately Follow (すぐ後に続く)]` 連動関係はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この連動関係種別に関するフィードバックや提案は、IdeaExchange または Trailblazer Community に投稿してください。

理由: この連動関係種別を使用すると、2 つの予定の間にリソースがスケジュールされなくなります。たとえば、自動車修理工場がレッカー車リソースをスケジュールする場合、最初の予定は故障車のピックアップになります。次の予定は、ガレージでのドロップオフになっている必要があります。

方法: 複合作業設定を有効にし、サービス予定ページレイアウトをカスタマイズしてスケジュール連動関係を表示します。次に、予定ページで関連する予定を指定し、連動関係種別を選択します。`[Immediately Follow`

(すぐ後に続く)] 連動関係のスケジュールでは、同じリソースに対して同じ日に予定が連続して割り当てられます。高度な最適化には [Immediately Follow (すぐ後に続く)] 連動関係が適用されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: サービス予定間のスケジュール連動関係の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: スケジュール連動関係に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

高度な最適化を使用したスマートなスケジュールの構築 (正式リリース)

重要業績評価目標に合ったフィールドサービススケジュールを構築できます。高度な最適化には、移動を最小限に抑えたり、応答時間を短縮したり、緊急の変更に対応したりできるようにチームを支援するツールが用意されています。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 高度な最適化には次の機能が含まれています。

- 高速な全日最適化 (正式リリース): 直前の混乱を心配することはありません。予期しない不在やキャンセルに対応するために、全日最適化ではサービス当日にスケジュールをすばやく修正できます。
- スケジュールの一般的な問題に対する最適化レシピ (正式リリース): 再スケジュールになることの多いシナリオ (キャンセル、重複、早期完了など) に対処します。スケジュールを調整および再構築できるガイドラインを使用して、最適化「レシピ」を作成します。使用を開始するのに役立つ 4 つのサンプルが用意されています。

- **よりスマートな移動時間の推定 (ベータ):** 時間帯ルートデータを移動時間の推定に組み込むことで、Field Service Lightning の番地レベルのルーティングサービスに基づいて移動を予測できます。
- **シフトの対応可能状況 (ベータ):** 確認済みのシフトが高度な最適化で考慮されます。
- **連続作業 (ベータ):** 2 つのサービス予定間で `[Immediately Follow (すぐ後に続く)]` 連動関係を指定した場合、高度な最適化によりそれらの予定は同じリソースに同じ日に連続してスケジュールされます。
- **拡張一致作業ルール:** 高度な最適化にはこの種別の作業ルールが適用されます。

管理パッケージをインストールした最初のリリースが Spring '20 の場合、最適化を有効にすると、高度な最適化に自動的にアクセスできます。以前に管理パッケージをインストールしている場合は、高度な最適化を有効にしてこれらの機能を利用できます。

方法: アプリケーションランチャーから、**Field Service Admin** アプリケーションを見つけて開き、**[Field Service 設定]** タブをクリックします。**[最適化] > [有効化]** を選択します。最適化プロファイルとユーザを作成し、最適化を有効にします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 拡張最適化の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: フィールドサービススケジュールの最適化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

最低限の資格を持つリソースまたは最も高いスキルを持つリソースへの作業の割り当て

高度な最適化では、サービスリソースの専門知識に基づいてサービスリソースをスケジュールできます。最低限必要なスキルレベルを持つ作業員を派遣して、最高の能力を温存します。または、最も適格な候補者を主要な予定に割り当てます。以前は、高度な最適化は [Match Skills (スキルを照合)] 作業ルールを使用していましたが、[Skill Level (スキルレベル)] サービス内容は考慮されていませんでした。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 貴重なサービスリソースを最適化するには、[Match Skills (スキルを照合)] 作業ルールと [Skill Level (スキルレベル)] サービス内容が含まれるスケジュールポリシーを作成します。[Skill Level (スキルレベル)] サービス内容で、最適化で最も適格なリソースまたは最も不適格なリソースが選択されるように優先度を設定します。高度な最適化を使用すると、スケジュールで作業員のスキルレベルとこの設定が考慮されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 拡張最適化の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: サービス内容の作成および管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

状態チェックによる Field Service のウェルネスの改善 (正式リリース)

Field Service 設定をより適切に診断できるように状態チェックが拡張されました。1 回のクリックで、より多くの問題(シフト時間のずれや無効な連動関係など)を特定できます。新しいテストでは、リソースの対応可能状況や最適化の結果を制限する可能性のある問題を検出しやすくなっています。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

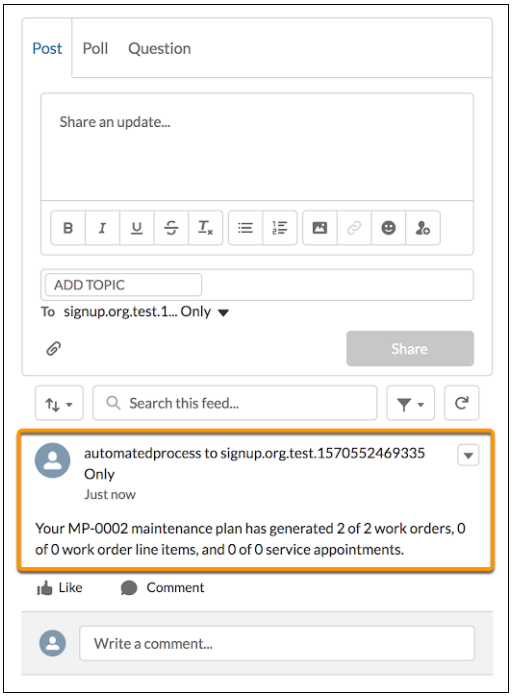
Salesforce ヘルプ: 状態チェックを使用した Field Service 設定のテスト (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メンテナンス計画から生成された作業指示の把握

ユーザは、メンテナンス計画から作業指示が生成されたときに発生したエラーを検出して対処できます。手動および自動の作業指示生成の結果の詳細を説明する Chatter 投稿を受信します。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Chatter およびフィード追跡オプションを有効にします。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: メンテナンス計画からの作業指示の生成に関するガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Chatter フィード追跡のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

作業業務量データモデルの廃止

各作業種別でチームが費やす時間を定義できなくなりました。また、Field Service で作業種別によって、スケジュールする業務量の制限を設定できなくなりました。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 業務量データモデルは最適化エンジンによって消費されませんでした。業務量制限データモデルに保存されたデータは情報提供のみを目的とするものでした。パフォーマンスを向上するため、このデータモデルは最適化エンジンで消費されるようにリファクタリングされます。このため、このデータモデルは元の設定では使用されなくなります。

Field Service Mobile アプリケーション: 新しいオフラインプライミング UI、セキュリティの強化、グローバルアクションやサービスレポートフローへのアクセス

FSL モバイルアプリケーションでは、より強力なオフラインプライミングインターフェースの提供、セキュリティ機能の改善、グローバルアクションやサービスレポートフローへのアクセスの追加が行われています。

このセクションの内容:

改善されたオフラインプライミング UI を使用した最新情報の入手
現地の作業員はオフラインプライミングの新しい UI を使用して、より確実に情報にアクセスできます。この UI にはプライミングの進行状況が表示され、明示的に完全同期を開始できます。

セキュリティ属性を使用した機密データの保護
2つの新しいセキュリティ属性を使用して、アプリケーション外で機密データを貼り付けられないようにしたり、アプリケーション外でファイルを開けないようにしたりできます。

モバイルアプリケーションのグローバルアクションの機能強化
グローバルアクションでは、使用中のレコードと直接関係のないレコードを作成できます。この機能により、作業員は直接アプリケーションからより強力な機能を使用できます。最上位の画面(個々のレコードが表示されていない画面)からこれらのアクションを使用できます。

Android でのサービスレポートフローの実行
Android ユーザは、サービスレポートをプレビューしたり、顧客の署名を取得したり、サービスレポートの生成を起動したりできるようになりました。これらのフローでは、フローの完了時にサービスレポート環境が自動的に起動します。これまで、この機能は iOS でしか使用できませんでした。

改善されたオフラインプライミング UI を使用した最新情報の入手

現地の作業員はオフラインプライミングの新しい UI を使用して、より確実に情報にアクセスできます。この UI にはプライミングの進行状況が表示され、明示的に完全同期を開始できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

セキュリティ属性を使用した機密データの保護

2 つの新しいセキュリティ属性を使用して、アプリケーション外で機密データを貼り付けられないようにしたり、アプリケーション外でファイルを開けないようにしたりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: デフォルトでは、Field Service Mobile アプリケーションのセキュリティ属性は制限されていません。デフォルト値から属性を変更するには、[設定] に移動します。[クイック検索] ボックスに「*接続アプリケーション*」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。次に、Field Service 接続アプリケーションの名前をクリックします。[接続アプリケーション] ページの [カスタム属性] セクションから属性値を更新します。`DISABLE_EXTERNAL_PASTE` を使用してクリップボードデータを保護します。`SHOW_OPEN_IN` を使用してアプリケーション外でファイルを開けないようにします。

関連トピック:

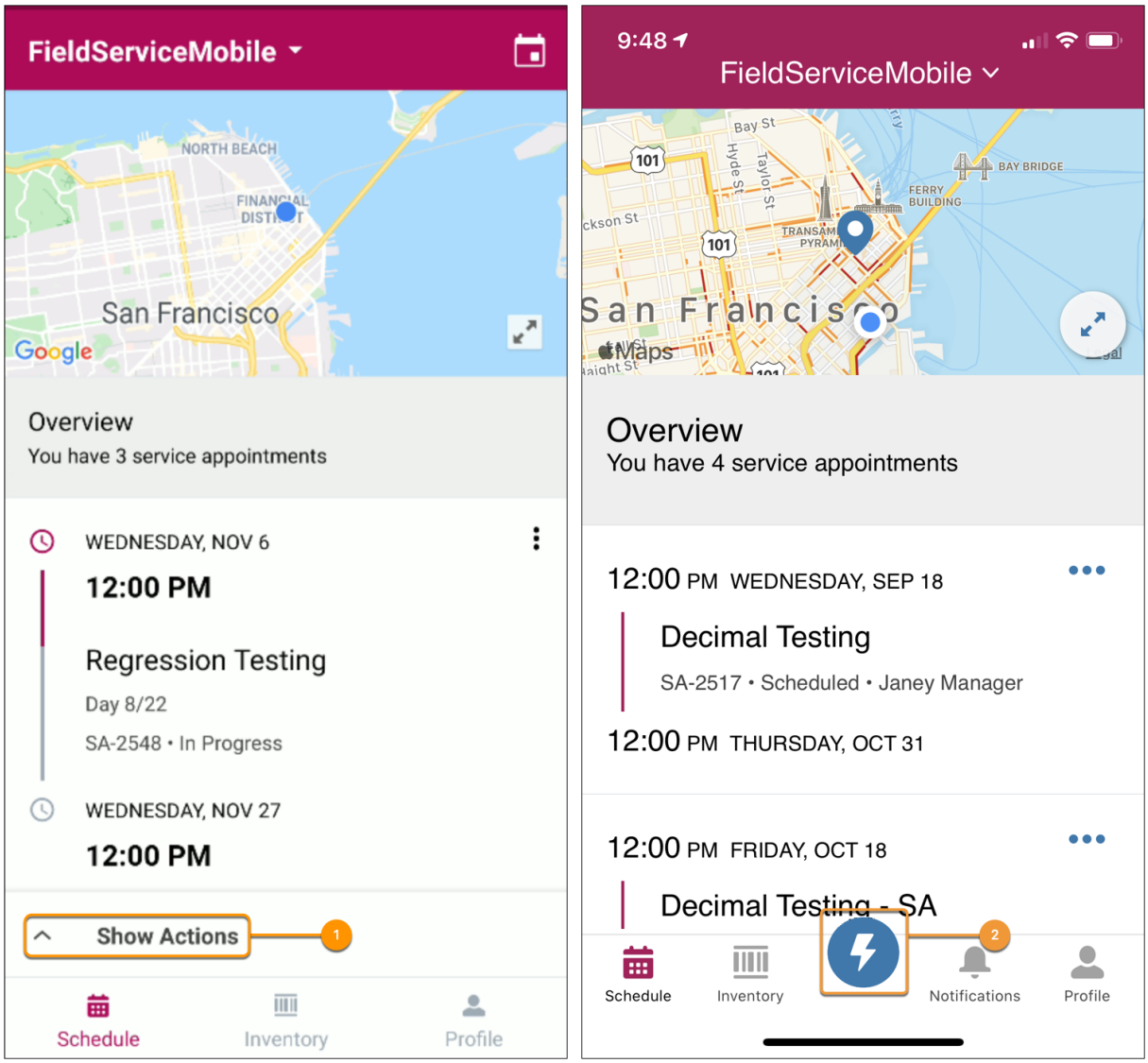
Salesforce ヘルプ: Field Service Lightning モバイルのセキュリティ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

モバイルアプリケーションのグローバルアクションの機能強化

グローバルアクションでは、使用中のレコードと直接関係のないレコードを作成できます。この機能により、作業員は直接アプリケーションからより強力な機能を使用できます。最上位の画面 (個々のレコードが表示されていない画面) からこれらのアクションを使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: グローバルアクションをグローバルパブリッシャーレイアウトの [Salesforce Classic パブリッシャーのクイックアクション] セクションに追加すると、Android (1) および iOS (2) の下部のナビゲーションバーからそのアクションにアクセスできます。



Android でのサービスレポートフローの実行

Android ユーザは、サービスレポートをプレビューしたり、顧客の署名を取得したり、サービスレポートの生成を起動したりできるようになりました。これらのフローでは、フローの完了時にサービスレポート環境が自動的に起動します。これまで、この機能は iOS でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローを作成したら、次の設定でアプリケーション拡張を作成します。これらの設定によって、フローの他の部分が変更されることはありませんが、アプリケーションで Service_Report_Flow 名が検出されると、フローの完了時にサービスレポートプレビューインターフェースが起動します。

- 表示ラベル — [アクション] タブに表示するテキストを入力します。たとえば、「My Service Report Flow」 (私のサービスレポートフロー) などにします。
- 種別 — [フロー] を選択します。
- 名前 — 「`Service_Report_Flow`」と入力します。
- 指定オブジェクト種別 — 「`ServiceAppointment`」と入力します。
- 起動値 — 署名キャプチャで完了するフローの API 参照名を入力します。

サービスレポートフローの API 参照名は一意であるため、一度に 1 つの Service_Report_Flow のみを設定できます。

チャネル: メッセージングのショートコード、組み込みチャネルメニュー、WhatsApp メッセージチャネル、エージェントの待ち時間の予想

ショートコードを使用して、大量のプロモーションメッセージと1回限りのアラートを送信します。組み込みサービスチャネルメニューをWebサイトに追加して、顧客の好みのチャネルで顧客とつながります。WhatsAppを使用して顧客にメッセージを送信します。モバイルアプリケーション用組み込みサービス SDK (ベータ) を使用して、エージェントとチャットできるようになるまでの予想待ち時間を表示します。

このセクションの内容:

メッセージング: ショートコード、同意管理、WhatsApp メッセージングチャネル
ショートコードを使用してリーチを拡大します。メッセージをオプトインする新しい方法を顧客に提供します。海外の顧客には WhatsApp を使用してメッセージを送信します。

モバイルアプリケーション用組み込みサービス: 予想待ち時間 (ベータ)、iOS のダークモード、バグ修正
顧客がエージェントを待っているときに、キューの位置の代わりに予想待ち時間を表示できます。このオプションは、キューの位置が顧客の待ち時間を効果的に表していない場合に役立ちます。Android 10 と iOS 13 をより適切にサポートするための改善が行われました。また、iOS 13 のダークモードがサポートされ、いくつかのバグも修正されました。

Web 用組み込みサービス: チャネルメニュー、表示ラベルの言語設定、チャットの読み込み時間、モバイル Web アクセシビリティ、Lightning Web コンポーネント

カスタマイズされたチャネルメニューを使用して顧客とエンゲージします。コードスニペットですべての表示ラベルの言語設定を制御します。組み込みチャットの読み込み時間を改善します。モバイル用 Web チャットのスクリーンリーダーアクセスを改善します。Lightning Web コンポーネントをリリースしてチャット環境を改善します。

メッセージング: ショートコード、同意管理、WhatsApp メッセージングチャネル

ショートコードを使用してリーチを拡大します。メッセージをオプトインする新しい方法を顧客に提供します。海外の顧客には WhatsApp を使用してメッセージを送信します。

このセクションの内容:

米国のショートコードを使用してより多くの顧客にすばやくリーチ

ショートコード電話番号を使用して、米国の顧客に定期的なメッセージや 1 回だけのアラートを送信します。顧客が応答すると、他のチャネルで行うのと同様に、サポートエージェントと二者間で会話をすることができます。ショートコードはスループットが高く、一対多のメッセージや、一対一メッセージを大量に送信することができます。

WhatsApp を使用した顧客のサポート (正式リリース)

国内でも海外でも、顧客は世界最大のメッセージングアプリケーションを使用してサポートセンターに問い合わせることができます。エージェントは、受信した SMS テキストメッセージや Facebook メッセージと同様に、WhatsApp を使用して顧客と会話することができます。ビジネスは、予定の更新や出荷通知など、テンプレート化された通知を顧客に送信することもできます。

同意管理による準拠

ビジネスからのメッセージ受信を顧客がオプトインする方法を決定します。同意オプションが拡張され、暗黙的なオプトイン、明示的なオプトイン、ダブルオプトインが含まれるようになりました。さらに、チャネルのキーワードに対する自動応答を作成することができます。

さらに多くのレコードタイプから会話を開始

エージェントが開始するアウトバウンドメッセージを送信して、積極的にケースの最新の状況を顧客に知らせます。[会話を開始] ボタンが、個人取引先、ケース、リード、および商談のレコード詳細ページで使用できるようになりました。

メッセージングの一意の機密データルールの作成

顧客がビジネスとメッセージのやりとりを行うときに、クレジットカードや社会保障番号といった顧客の個人情報を保護します。以前は、チャットとメッセージングでは機密データルールが共有されていました。

イタリアでの SMS のメッセージングサポートの終了

イタリアのロングコード番号の使用に関する規制および行政の変更により、ロングコードを介したビジネス向けの会話型 SMS のサポートを、イタリアでは提供できなくなりました。イタリアの顧客とつながるには、Facebook や WhatsApp などの他のチャネルの利用を検討してください。

米国のショートコードを使用してより多くの顧客にすばやくリーチ

ショートコード電話番号を使用して、米国の顧客に定期的なメッセージや1回だけのアラートを送信します。顧客が応答すると、他のチャネルで行うのと同様に、サポートエージェントと二者間で会話をすることができます。ショートコードはスループットが高く、一対多のメッセージや、一対一メッセージを大量に送信することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンおよびショートコードアドオンSKUを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

理由: ショートコードは通常、Transactional メッセージまたプロモーションコンテンツに使用されます。ショートコードの利点を得ると同時に顧客が望むパーソナライズされたサポートを即座に提供します。

方法: ショートコードアドオン SKU を要求するには、Salesforce アカウントエグゼクティブまたは営業担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メッセージングでのショートコードチャネルの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ショートコードに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

WhatsApp を使用した顧客のサポート (正式リリース)

国内でも海外でも、顧客は世界最大のメッセージングアプリケーションを使用してサポートセンターに問い合わせることができます。エージェントは、受信したSMSテキストメッセージやFacebookメッセージと同様に、WhatsAppを使用して顧客と会話することができます。ビジネスは、予定の更新や出荷通知など、テンプレート化された通知を顧客に送信することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる組織で使用可能です。

方法: Facebookビジネスマネージャアカウントを持っていることを確認してください。[クイック検索]ボックスに「メッセージング」と入力し、[メッセージング設定]を選択します。[新規チャネル]をクリックしてガイド付き設定フローを開き、WhatsAppチャネルを設定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Experience での WhatsApp の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

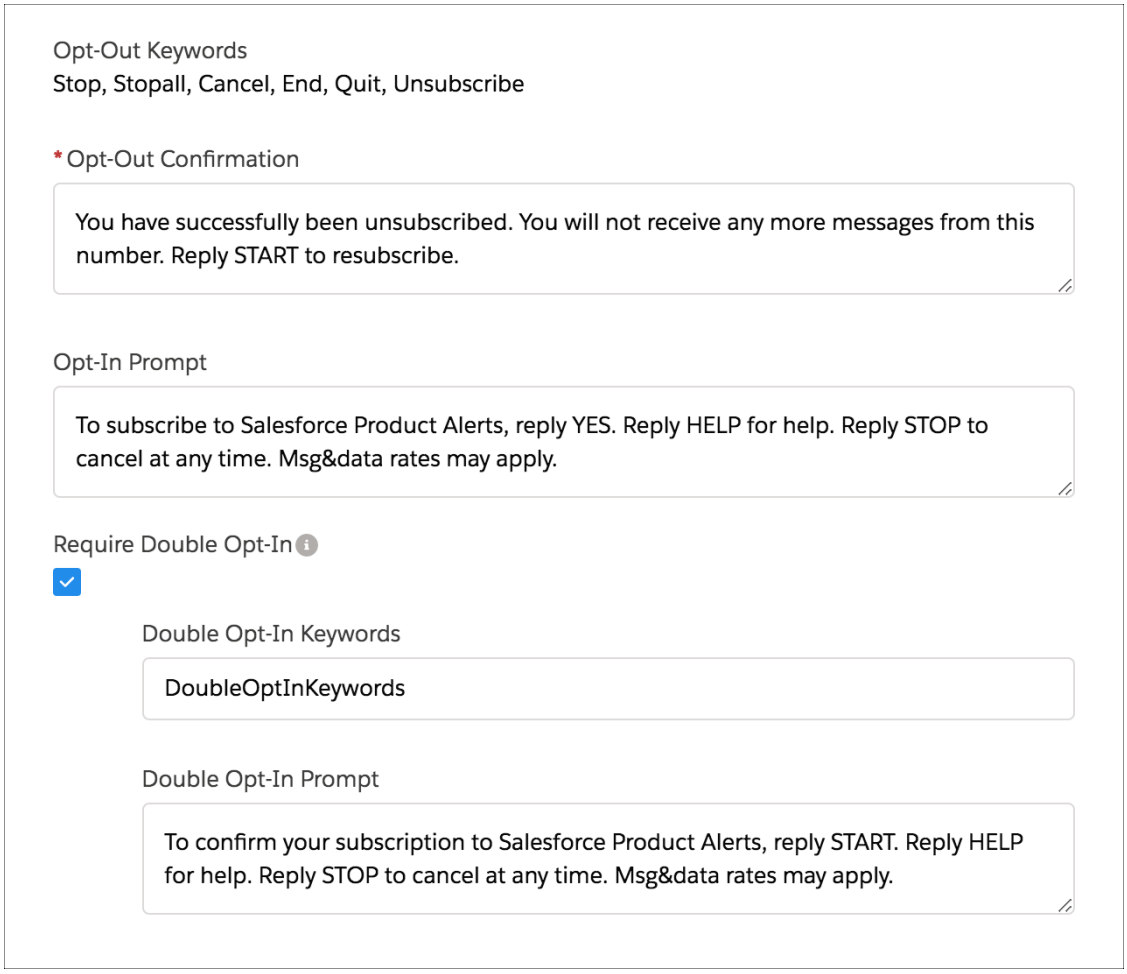
同意管理による準拠

ビジネスからのメッセージ受信を顧客がオプトインする方法を決定します。同意オプションが拡張され、暗黙的なオプトイン、明示的なオプトイン、ダブルオプトインが含まれるようになりました。さらに、チャネルのキーワードに対する自動応答を作成することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience **に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる** Salesforce **組織で使用可能です。**

理由: ショートコードを使用する場合、通信事業者のコンプライアンス要件、業界標準、および適用可能な法律に従う必要があります。同意管理では、コンプライアンスを維持し、規則を破らずにショートコードメッセージを送信できます。

方法: メッセージングチャネルを作成または編集するときに、チャネルが自動的に応答するキーワードを入力します。次に、それらのキーワードに対する応答をカスタマイズします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ショートコードに関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

さらに多くのレコードタイプから会話を開始

エージェントが開始するアウトバウンドメッセージを送信して、積極的にケースの最新の状況を顧客に知らせます。[会話を開始]ボタンが、個人取引先、ケース、リード、および商談のレコード詳細ページで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エージェントが開始するアウトバウンドメッセージの送信(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メッセージングの一意の機密データルールの作成

顧客がビジネスとメッセージのやりとりを行うときに、クレジットカードや社会保障番号といった顧客の個人情報を保護します。以前は、チャットとメッセージングでは機密データルールが共有されていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

理由: ビジネスでチャットとメッセージングの両方を使用している場合、Spring '20 以降、現在の機密データルールはチャットにのみ適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[メッセージング] の下にある [機密データルール] を選択します。[新規] をクリックして、ルールの詳細を入力します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:メッセージでの機密データのブロック(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

イタリアでの SMS のメッセージングサポートの終了

イタリアのロングコード番号の使用に関する規制および行政の変更により、ロングコードを介したビジネス向けの会話型 SMS のサポートを、イタリアでは提供できなくなりました。イタリアの顧客とつながるには、Facebook や WhatsApp などの他のチャネルの利用を検討してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

モバイルアプリケーション用組み込みサービス: 予想待ち時間 (ベータ)、iOS のダークモード、バグ修正

顧客がエージェントを待っているときに、キューの位置の代わりに予想待ち時間を表示できます。このオプションは、キューの位置が顧客の待ち時間を効果的に表していない場合に役立ちます。Android 10 と iOS 13 をより適切にサポートするための改善が行われました。また、iOS 13 のダークモードがサポートされ、いくつかのバグも修正されました。

対象: この変更は、Mobile Apps for iOS (バージョン 222.0.3) および Android (バージョン 222.1.0) 用 Service SDK に適用されます。

方法: 新機能についての詳細は、iOS および Android に関するリリースノートを参照してください。その他のリソースについては、「Embedded Service SDK (組み込みサービス SDK)」開発者センターにアクセスしてください。

メモ: ベータ機能である予想待ち時間はプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

Web 用組み込みサービス: チャネルメニュー、表示ラベルの言語設定、チャットの読み込み時間、モバイル Web アクセシビリティ、Lightning Web コンポーネント

カスタマイズされたチャネルメニューを使用して顧客とエンゲージします。コードスニペットですべての表示ラベルの言語設定を制御します。組み込みチャットの読み込み時間を改善します。モバイル用 Web チャットのスクリーンリーダーアクセスを改善します。Lightning Web コンポーネントをリリースしてチャット環境を改善します。

このセクションの内容:

チャネルメニューの導入 (正式リリース)
顧客の好みのチャネルで顧客と会話を開始したり、Web サイトまたは Salesforce コミュニティの組み込みチャネルメニューのエンゲージメントの選択肢をカスタマイズしたりできます。エージェントはサービスコンソールから直接応答でき、そこから Service Cloud の機能すべてにすぐアクセスできます。

コードスニペットでの表示ラベルの言語の設定
表示ラベルの言語設定は、組み込みサービスのコードスニペットでしか設定できなくなりました。言語にブラウザのデフォルト設定を使用している場合、既存また新規のすべての言語の表示ラベルのスニペットを変更します。以前にコードスニペットを使用して言語を追加している場合は、準備ができています。

組み込みチャットの読み込みの高速化

パフォーマンスを向上させるため、組み込みチャット設定の読み込み方法が変更されました。既存のチャット設定を変更する場合、新しい結果はキャッシュが原因で Web サイトに初めて表示されるまでに最大 10 分かかることがあります。

Web チャットのモバイルアクセシビリティの改善

スクリーンリーダーを使用している Web チャットモバイルユーザのために乱雑さが軽減されています。この機能により、組み込みチャットウィンドウが開いているときに元のページが非表示になり、よりスムーズなカスタマーエクスペリエンスを実現できます。チャットウィンドウが閉じると、Web ページの完全なコンテンツが返されます。

Lightning Web コンポーネントを使用したチャットのカスタマイズ

Lightning Web コンポーネントを使用して、独自の事前チャットや最小化された状態を作成します。これらのコンポーネントは、機能が豊富で、Aura コンポーネントよりも新しいバージョンの ECMAScript を使用します。これらは Aura と同じ方法でリリースされ、両方の種類を Web サイトで共存させることができます。

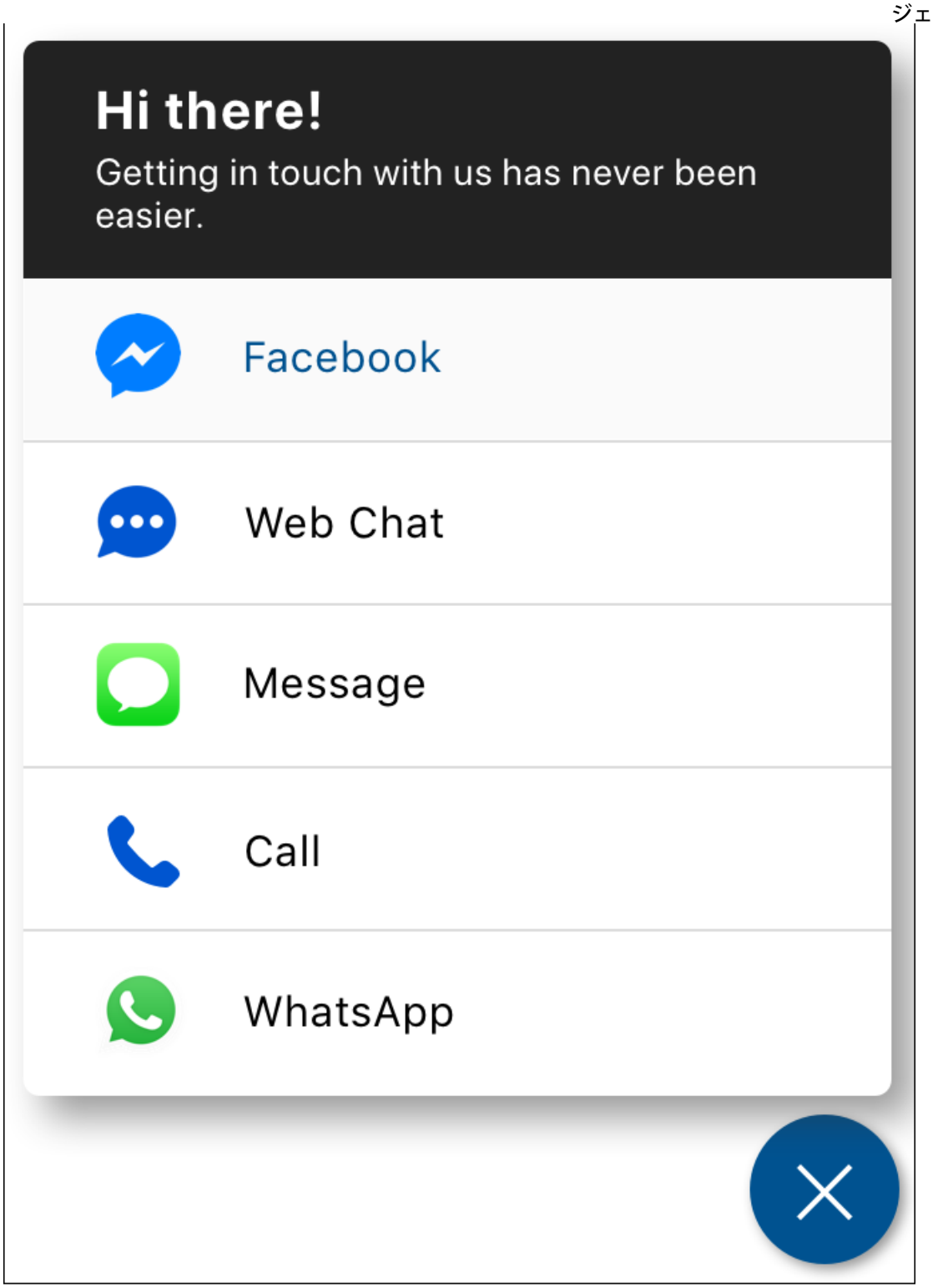
チャネルメニューの導入 (正式リリース)

顧客の好みのチャネルで顧客と会話を開始したり、Web サイトまたは Salesforce コミュニティの組み込みチャネルメニューのエンゲージメントの選択肢をカスタマイズしたりできます。エージェントはサービスコンソールから直接応答でき、そこから Service Cloud の機能すべてにすぐアクセスできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

理由: 最大6個のチャネルを選択します。ボタン、ヘッダー、フォント、アイコンをブランド設定します。Web サイトのトーンをカスタム表示ラベルに合わせ、翻訳を設定します。コードを変更せずに、チャネルを追加または削除します。Classic と Lightning でサポートされているチャネルは、チャット、電話、カスタム URL です。Lightning 専用のチャネルは、テキストメッセージ、Facebook Messenger、WhatsApp です。

方法: [サービスの設定] でチャネルメニューを構築し、リリースを作成します。


Hi there!
Getting in touch with us has never been easier.
Facebook
Web Chat
Message
Call
WhatsApp

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:チャネルメニューの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コードスニペットでの表示ラベルの言語の設定

表示ラベルの言語設定は、組み込みサービスのコードスニペットでしか設定できなくなりました。言語にブラウザのデフォルト設定を使用している場合、既存また新規のすべての言語の表示ラベルのスニペットを変更します。以前にコードスニペットを使用して言語を追加している場合は、準備ができています。

対象: この変更は、組み込みコードスニペットを使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: この変更により、表示ラベルのユーザ言語の設定に対するアプローチが合理化され、ブラウザ設定を使用する環境が Web サイト全体で統一されます。

方法: 言語パラメータは、生成されたコードスニペットに含まれ、バージョン 2.0 以上では英語に設定されます。リリースの言語をカスタマイズするには、このパラメータをサポート言語の 2 文字の値に設定します。

```
embedded_svc.settings.language = ".."
```

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:言語の設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:埋め込みチャットのローカライズと翻訳(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

組み込みチャットの読み込みの高速化

パフォーマンスを向上させるため、組み込みチャット設定の読み込み方法が変更されました。既存のチャット設定を変更する場合、新しい結果はキャッシュが原因で Web サイトに初めて表示されるまでに最大 10 分かかることがあります。

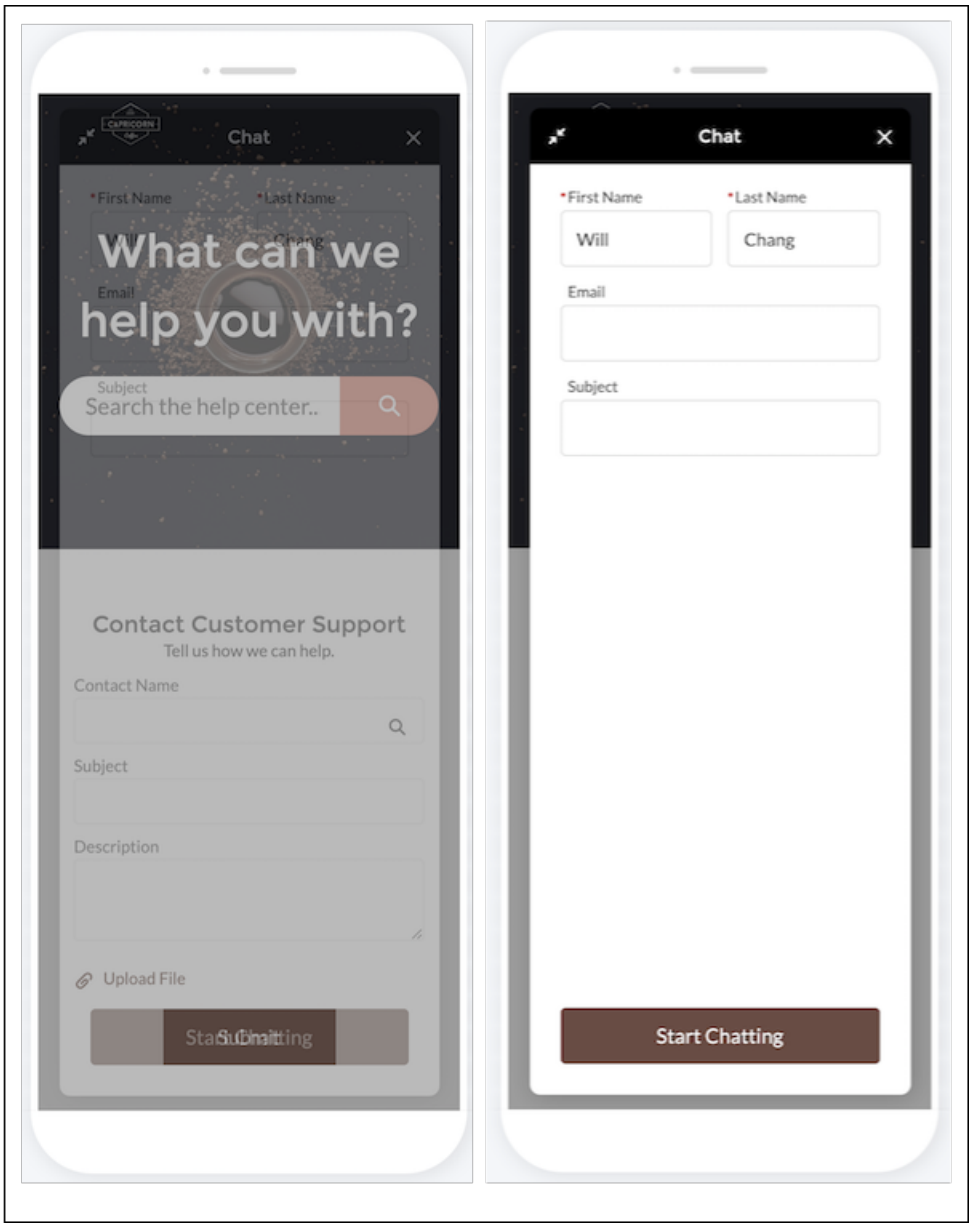
対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

Web チャットのモバイルアクセシビリティの改善

スクリーンリーダーを使用している Web チャットモバイルユーザのために乱雑さが軽減されています。この機能により、組み込みチャットウィンドウが開いているときに元のページが非表示になり、よりスムーズなカスタマーエクスペリエンスを実現できます。チャットウィンドウが閉じると、Webページの完全なコンテンツが返されます。

対象: この変更は、埋め込みコードスニペット 5.0 以降を使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: チャットウィンドウが開いている場合、視覚障害を持つ顧客がスクリーンリーダーを使用すると、すべてのテキストを聞くことになります。この機能により、チャットテキストが分離され、焦点を絞ったインタラクションが実現します。



方法: 本文が読み込まれたときにコードスニペットをホストするWebページのJavaScriptハンドラを記述します。モバイルデバイスのハンドラ関数で、チャットイベント状態 (`afterMaximize`、`afterMinimize`、`afterDestroy`) のリスナーを追加して、ページコンテンツの表示/非表示を行います。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/embedded_web_mobile_access.htm

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/snapins_web_chat_events.htm

Lightning Web コンポーネントを使用したチャットのカスタマイズ

Lightning Web コンポーネントを使用して、独自の事前チャットや最小化された状態を作成します。これらのコンポーネントは、機能が豊富で、Aura コンポーネントよりも新しいバージョンの ECMAScript を使用します。これらは Aura と同じ方法でリリースされ、両方の種類を Web サイトで共存させることができます。

対象: この変更は、埋め込みコードスニペット 5.0 以降を使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンポーネントを作成し、組織にリリースします。組み込みサービス設定で、リリースを選択してチャット設定を編集し、[Lightning コンポーネントでカスタマイズ] テーブルを使用して、事前チャットまたは最小化された状態コンポーネントを選択します。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/snapins_web_overview.htm

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/embedded_services_web_lightning_web_components.htm

ナレッジ: Chrome での比較、会話、サイズ変更可能な画像

著者が更新および進捗状況を追跡できるように記事のバージョン間の差を確認できるようにします (ベータ)。チャットおよびメッセージングの会話に記事リンクを挿入して、より多くのユーザと記事を共有できます。また、画像のサイズを変更してドラフト記事の関連ファイルをより簡単に管理できるようにしました。

このセクションの内容:

記事バージョンの比較による変更内容の確認 (ベータ)

ナレッジユーザは記事の 2 つのバージョンを比較して変更内容を確認できます。記事バージョン比較アプリケーションコンポーネントを使用すると、著者はバージョンを選択して相違点を確認できます。

チャットおよびメッセージングでの記事へのリンクにより知識を広める

チャットおよびメッセージングの会話で、エージェントが一般的な問題への迅速な回答を提供できるようにします。Salesforce 組織でこれらのチャネルを使用している場合、チームは会話フィード内でサイトやコミュニティからのリンクを共有することで、顧客を適切な記事に誘導できます。

挿入した記事での項目の表示ラベルの表示または非表示、および関連ファイルのスキップ

顧客との会話を適切に調整します。エージェントが [記事を会話に挿入]、[記事をソーシャル投稿に挿入]、[記事をメールに挿入] アクションを使用するときに、記事のコンテンツと共に項目の表示ラベルを表示するかどうかを選択します。また、記事の関連ファイルをメールに追加するかどうかのデフォルトを設定することもできます。

Google Chrome でのリッチテキスト項目内の画像のサイズ変更

リッチテキストを編集するときに画像の縁をドラッグしてサイズを変更します。ソースコードには、高さと幅をピクセル単位で設定するスタイルプロパティが追加されます。画像のサイズ変更は Chrome ブラウザでサポートされます。

ドラフトおよびドラフト翻訳の添付ファイルの制御

著者および翻訳パートナーはドラフトへのファイルの追加と削除をより容易に行うことができます。ドラフトをすでに編集できるユーザは、[レコードから削除] アクションを使用して古い添付ファイルを削除し、各バージョンを最新の状態に維持することができます。

記事に添付するファイルのデフォルトのアクセス権の設定

関連ファイルのデフォルトのユーザアクセス権として [レコードごとに設定] を使用し、記事を参照できるすべてのユーザが添付ファイルを参照できるようにします。以前は、デフォルトのアクセス権は [所有者] であり、アップロードしたコンテンツを参照できるユーザは、アップロードしたユーザに制限されていました。

より多くなったデータカテゴリを使用した記事の検索および整理

記事にリンクできるデータカテゴリの最大数が 25 から 50 に増加されました。これでユーザは記事をより正確に分類できます。ユーザはデフォルトの 8 個のデータカテゴリの制限から増やすように要求することができます。

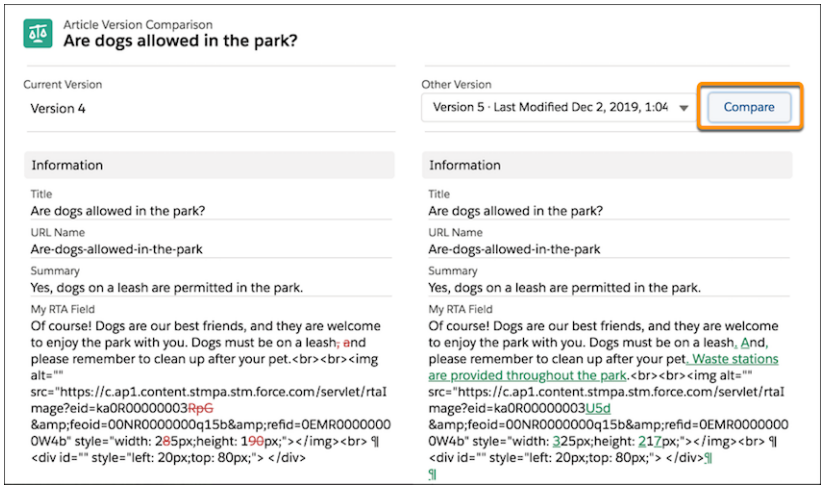
記事バージョンの比較による変更内容の確認 (ベータ)

ナレッジユーザは記事の 2 つのバージョンを比較して変更内容を確認できます。記事バージョン比較アプリケーションコンポーネントを使用すると、著者はバージョンを選択して相違点を確認できます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

メモ: ベータ機能である記事バージョン比較はプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。記事バージョン比較に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Knowledge」グループに投稿してください。

理由: 著者と編集者は記事バージョン比較コンポーネントを使用して、バージョン間の変更内容をより容易に確認し、進行状況を追跡できます。ユーザはバージョンを選択し、現在参照しているバージョンと比較します。



バージョンの比較に関するいくつかの留意事項を次に示します。

- 旧バージョンを表示してから、比較する新バージョンを選択することをお勧めします。現在のバージョンから削除されたコンテンツは赤の取り消し線付きテキストで表示されます。新しいコンテンツは緑で下線付きで表示されます。
- 比較でソースコードが使用されているため、HTML タグが表示されます。HTML ソースを比較することで、変更されたコンテンツを示す、書式や画像リンクまたは動画リンクの相違点を確認できます。
- 記事バージョン比較コンポーネントは、同じレコードタイプと言語を使用するバージョンでのみ使用できます。

方法: Lightning ページビルダーで、記事バージョン比較コンポーネントをナレッジレイアウトにドラッグします。レイアウト内にこのツール用のタブを作成することをお勧めします。これで、チームが必要なときにこのツールを使用することができます。記事比較は Microsoft IE11 または Microsoft Edge ブラウザではサポートされません。

チャットおよびメッセージングでの記事へのリンクにより知識を広める

チャットおよびメッセージングの会話で、エージェントが一般的な問題への迅速な回答を提供できるようにします。Salesforce 組織でこれらのチャネルを使用している場合、チームは会話フィード内でサイトやコミュニティからのリンクを共有することで、顧客を適切な記事に誘導できます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

対象ユーザ: [URL を使用して記事の共有をユーザに許可する] が有効になっている場合、チームはケースで [記事の URL を会話に挿入] アクションを使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: チャネルとケースパブリッシャーで記事 URL を共有するアクションの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

挿入した記事での項目の表示ラベルの表示または非表示、および関連ファイルのスキップ

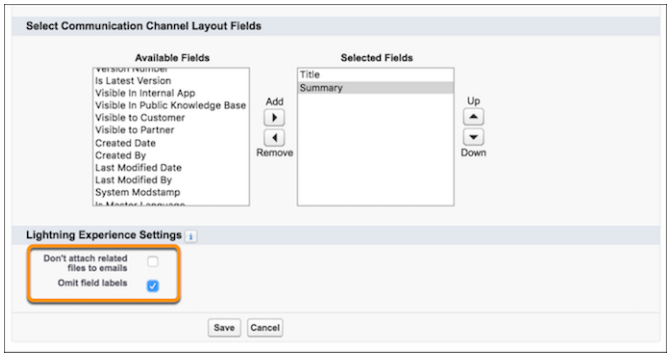
顧客との会話を適切に調整します。エージェントが [記事を会話に挿入]、[記事をソーシャル投稿に挿入]、[記事をメールに挿入] アクションを使用するときに、記事のコンテンツと共に項目の表示ラベルを表示するかどうかを選択します。また、記事の関連ファイルをメールに追加するかどうかのデフォルトを設定することもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジの Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

理由: 以前は、項目の表示ラベルはメールに自動的に挿入されましたが、ソーシャル、チャット、およびメッセージングチャネルには表示されませんでした。項目の表示ラベルはすべてのチャネルにデフォルトで含まれるようになりましたが、項目の表示ラベルを除外するように既存の設定を編集できます。

方法: オブジェクトマネージャでナレッジオブジェクトを編集し、[コミュニケーションチャネルの対応付け] を選択します。対応付けを作成または編集して [Lightning Experience 設定] セクションの新しいオプション ([関連

ファイルをメールに添付しないでください] および [項目表示ラベルを除外]) を更新します。これらのオプションはデフォルトで選択されないため、関連ファイルおよび項目の表示ラベルは含まれません。



関連トピック:

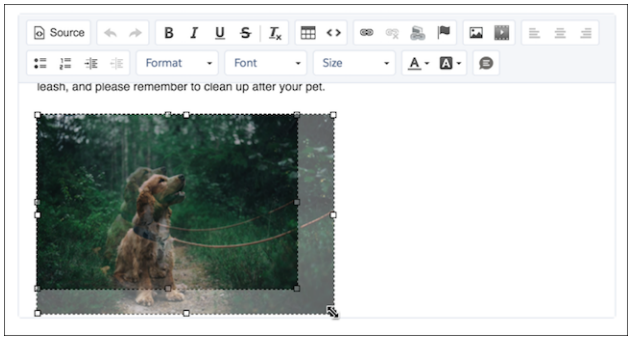
- *Salesforce ヘルプ*: チャネルとケースパブリッシャーで記事 URL を共有するアクションの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Google Chrome でのリッチテキスト項目内の画像のサイズ変更

リッチテキストを編集するときに画像の縁をドラッグしてサイズを変更します。ソースコードには、高さと幅をピクセル単位で設定するスタイルプロパティが追加されます。画像のサイズ変更は Chrome ブラウザでサポートされます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

方法: 画像を選択して、サイズ変更コントロールを使用します。



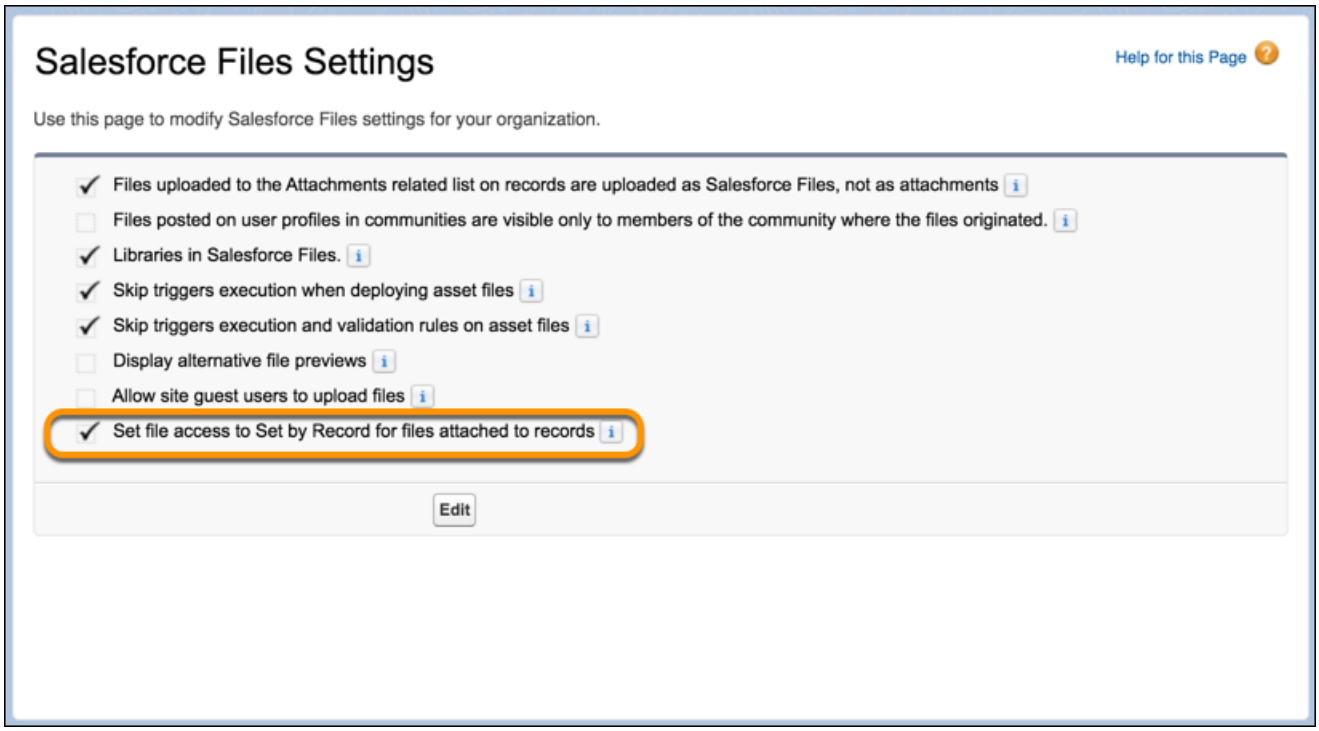
ドラフトおよびドラフト翻訳の添付ファイルの制御

著者および翻訳パートナーはドラフトへのファイルの追加と削除をより容易に行うことができます。ドラフトをすでに編集できるユーザは、[レコードから削除] アクションを使用して古い添付ファイルを削除し、各バージョンを最新の状態に維持することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

理由: ユーザはドラフト記事からのみファイルを添付解除でき、ドラフトの編集権限のあるユーザのみがファイルを添付解除できます。以前は、記事ではなくファイルへのアクセス権を持つユーザがファイルを削除でき、あらゆる公開状況の記事からファイルを添付解除できました。

方法: [設定] から [Salesforce Files] > [一般設定] に移動します。組織が [レコードごとに設定] を使用して関連ファイルの共有方法を決定していることを確認します。

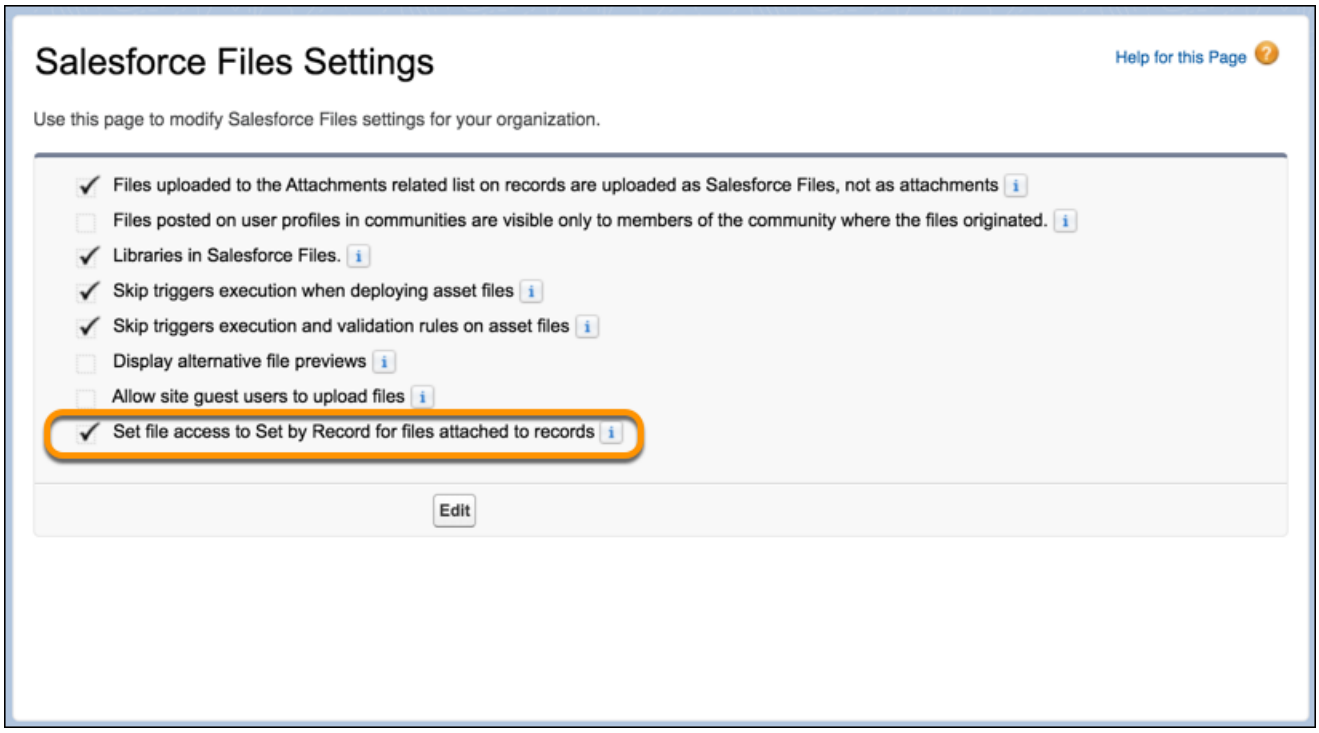


記事に添付するファイルのデフォルトのアクセス権の設定

関連ファイルのデフォルトのユーザアクセス権として [レコードごとに設定] を使用し、記事を参照できるすべてのユーザが添付ファイルを参照できるようにします。以前は、デフォルトのアクセス権は [所有者] であり、アップロードしたコンテンツを参照できるユーザは、アップロードしたユーザに制限されていました。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

方法: [設定] から [Salesforce Files] > [一般設定] に移動します。Salesforce 組織が [レコードごとに設定] を使用して、レコードに添付されたファイルの共有方法を決定していることを確認します。このデフォルトにより、アップロード時のファイルの共有が制御されます。



より多くなったデータカテゴリを使用した記事の検索および整理

記事にリンクできるデータカテゴリの最大数が 25 から 50 に増加されました。これでユーザは記事をより正確に分類できます。ユーザはデフォルトの8個のデータカテゴリの制限から増やすように要求することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic のナレッジのすべてのエディションに適用されます。データカテゴリの制限を増やす場合は、Salesforce サポートにお問い合わせください。

ルーティング:検索条件の固定表示、オムニチャネルウィジェット、セキュリティの強化

Omni-Channel Supervisor の絞り込みが改善され、エージェントがログアウト後も設定が保存されるようになったため、エージェントが再びログインしたときにすぐ作業できます。エージェントが作業を受け入れると、オムニチャネルウィジェットが自動的に最小化します。オムニチャネルオブジェクトのセキュリティが強化されました。

このセクションの内容:

Omni-Channel Supervisor の検索条件の保持
Omni-Channel Supervisor の検索条件が固定になったため、ログアウトしてもカスタマイズが保持されます。

作業スペースの確保 — 作業を受け入れるとオムニチャネルウィジェットが最小化
エージェントが作業を受け入れると、オムニチャネルウィジェットが自動的に最小化します。

キューに入っていないエージェントへのチャットの直接転送

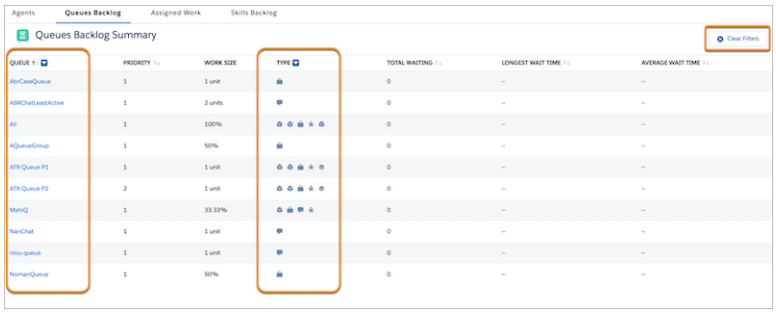
顧客は、エージェントがオムニチャネルキューに入っているかどうかにかかわらず、特定のエージェントとチャットできるようになりました。以前は、このキューに入っているエージェントのみが、エージェントへのチャットの直接転送を受信しました。

Omni-Channel Supervisor の検索条件の保持

Omni-Channel Supervisor の検索条件が固定になったため、ログアウトしてもカスタマイズが保持されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 検索条件を適用して画面をカスタマイズします。検索条件をクリアするには、[条件をクリア] をクリックします。

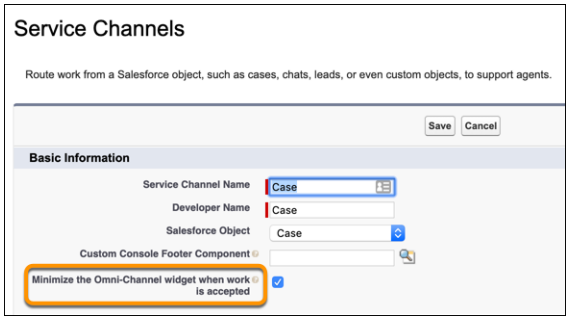


作業スペースの確保 — 作業を受け入れるとオムニチャネルウィジェットが最小化

エージェントが作業を受け入れると、オムニチャネルウィジェットが自動的に最小化します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サービスチャネルの設定で、[作業が引き受けられたら、オムニチャネルウィジェットを最小化します] を選択します。



キューに入っていないエージェントへのチャットの直接転送

顧客は、エージェントがオムニチャネルキューに入っているかどうかにかかわらず、特定のエージェントとチャットできるようになりました。以前は、このキューに入っているエージェントのみが、エージェントへのチャットの直接転送を受信しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: チャットの Live Agent ルーティングとオムニチャネルルーティングの比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース管理: ケースマージの正式リリース、Lightning Experience での一括マクロ、その他の改善

Lightning Experience でエージェントがより効率的にケースを解決できるようにします。エージェントは、ケースマージを使用して重複するケースを結合できます。Lightning Experience で一括マクロが使用できるようになったため、エージェントは同じ問題に関するケースの増加にすばやく対応できます。マクロはバックグラウンドで高速実行されるため、エージェントはシームレスに作業できます。[ケース] リストビューで、エスカレーションアイコンはどのケースがエスカレーションされているかを示すため、エージェントはより簡単にケースに優先順位を付けることができます。また、リストビューのケースにマウスポインタを置いて、ケースの詳細を確認して編集することもできます。エージェントはケースフィードのメールにコードスニペットを挿入できるため、ユーザをより適切にサポートできます。

このセクションの内容:

ケース: ケースマージの正式リリース、Lightning Experience での一括マクロ、その他の改善

エージェントは、ケースマージを使用して重複するケースを結合できます。ケースフィードのタイムスタンプの表示方法を制御して、一目でより多くの情報を確認します。新しい関連リストを使用すると、ケースのフォロワーに関する情報を表示できます。[ケース] リストビューに追加されたアイコンはどのケースがエスカレートされているかを示し、エージェントはより簡単にケースに優先順位を付けることができます。エージェントはリストビューでケースにマウスポインタを置き、ケースの詳細を表示して編集できます。エージェントは、ケースフィードのメールパブリッシャーにコードサンプルを挿入できます。

エージェントの生産性: Lightning の一括マクロ、アクション & おすすめコンポーネントの履歴の絞り込み

エージェントは複数のレコードで一括マクロを実行して、Lightning Experience での効率性を高めることができます。マクロはバックグラウンドで高速実行されるため、エージェントは自分の作業に集中できます。チームで [アクション & おすすめ] リストを使用している場合は、[履歴] タブを絞り込む方法によって過去のアクションを確認できます。

ケース: ケースマージの正式リリース、Lightning Experience での一括マクロ、その他の改善

エージェントは、ケースマージを使用して重複するケースを結合できます。ケースフィードのタイムスタンプの表示方法を制御して、一目でより多くの情報を確認します。新しい関連リストを使用すると、ケースのフォロワーに関する情報を表示できます。[ケース]リストビューに追加されたアイコンはどのケースがエスカレートされているかを示し、エージェントはより簡単にケースに優先順位を付けることができます。エージェントはリストビューでケースにマウスポインタを置き、ケースの詳細を表示して編集できます。エージェントは、ケースフィードのメールパブリッシャーにコードサンプルを挿入できます。

このセクションの内容:

ケースマージを使用した重複するケースの結合 (正式リリース)
エージェントはケースマージを使用して、重複する取引先と取引先責任者をマージするように、重複するケースをマージできます。サポートエージェントは最大 3 つの重複するケースを統合できるようになったため、混乱することなく重要な顧客に集中できます。

ケースフィードのタイムスタンプの表示方法のカスタマイズ
ケースフィードのタイムスタンプを「数分前」などの相対時間で表示するか、「2020 年 1 月 1 日午前 9 時 34 分 午前 12 時 1 分」などの絶対時間で表示するかを制御します。以前は、表示できるタイムスタンプは相対時間のみでしたが、より正確なタイムスタンプの表示を選択できるようになりました。デフォルト設定は相対時間です。

Lightning Experience でケースのフロート表示を使用してリストビューからケースの詳細を表示および編集
エージェントは、ケースの件名にマウスポインタを置くと表示されるコンパクトプレビューを使用して、リストビューから直接ケースをプレビュー、編集、削除することで時間を節約できます。

クローズケースの状況項目を表示するか非表示にするかを選択
エージェントが [状況] 選択リストでクローズ状況 (*[クローズ]*、*[解決済み]* など) を表示できるかどうかを指定します。システム管理者が[サポート設定]で[クローズケースの状況項目を表示]設定を無効にすると、選択リストコンポーネントですべてのクローズ種別の選択リスト値が除外されます。

ケースのエスカレーションマーカーを使用した時間の節約
余分なキーストロークなしでエージェントがケースのエスカレーション状況を一目で確認できる合理化されたワークフローにより、ケースを迅速に解決します。ケースの詳細で[エスカレーション済フラグ]チェックボックスがオンになっている場合、ケースの件名の横に矢印アイコンが表示されます。

Lightning Experience でのケースレコードホームページからのフォロワーの表示
エージェントがケースに優先順位を付けるのに役立つ [フォローされている人] 関連リストを追加することで、エージェントはケースをフォローしている人をケースホームページから直接確認できます。

ケースフィードメールへのコードサンプルの挿入
エージェントは、顧客のサポートを強化するためにケースフィードメールにコードスニペットを挿入できます。コード書式設定は、メール作成者とメールメッセージの両方に表示されます。

ケース関連レコードコンポーネントでのインライン編集によるケース所有者の変更
ケース関連レコードコンポーネントから直接 [ケース所有者] 項目を編集してケースを再割り当てします。以前は、[ケース所有者] 項目をクリックすると、モーダルウィンドウが表示されていました。

ケースマージを使用した重複するケースの結合 (正式リリース)

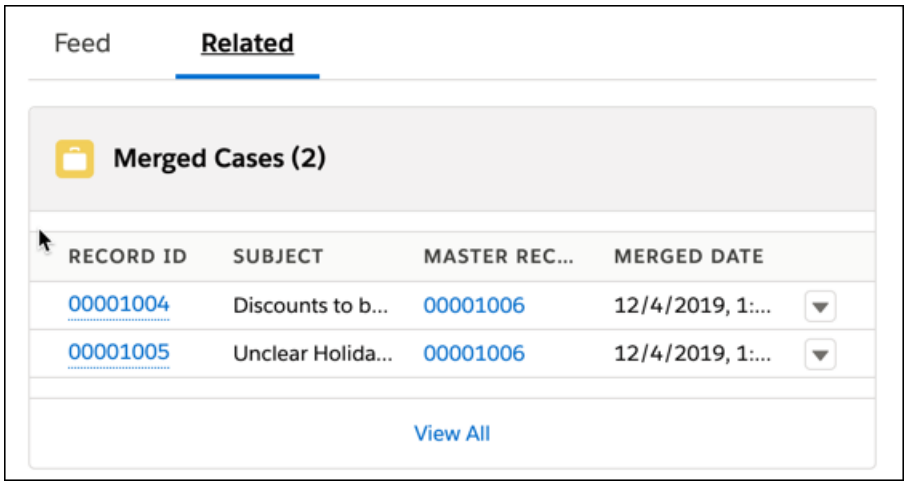
エージェントはケースマージを使用して、重複する取引先と取引先責任者をマージするように、重複するケースをマージできます。サポートエージェントは最大3つの重複するケースを統合できるようになったため、混乱することなく重要な顧客に集中できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 設定に応じて、重複するケースは[マージされたケース]関連リストに追加されるか、論理削除されます。以前は、ケースをマージすると重複するケースも削除されていたため、エージェントはケースオブジェクトに対する「削除」権限を持っている場合にのみケースをマージできました。ケースがマージされた後に、重複するケースを保持するか削除するかを選択できるようになりました。

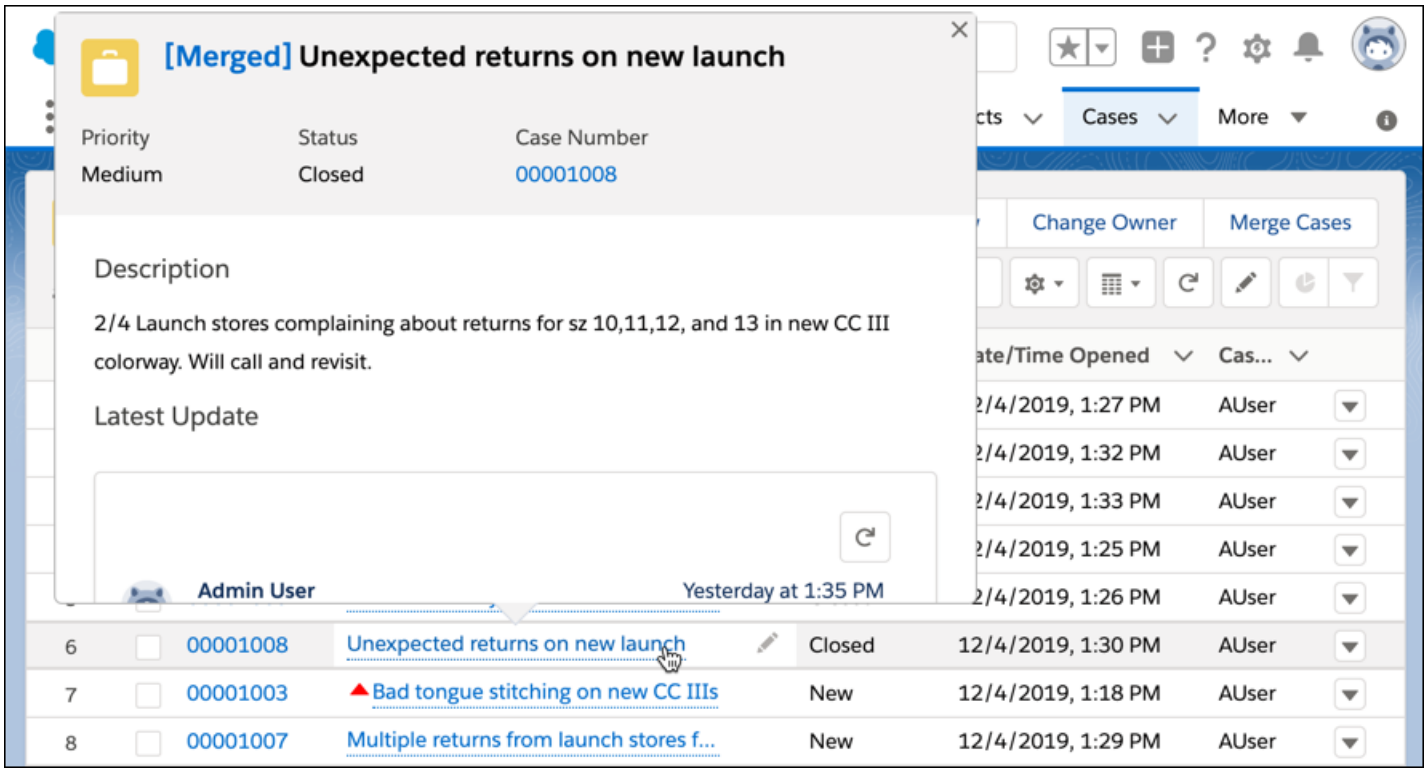
組織で重複するケースを保持することを選択した場合、重複するケースはマスタケースレコードの [マージされたケース]関連リストに追加され、どのケースがマスタケースを形成するために結合されたかが示されます。レコードホームの強調表示パネルの件名に「マージ済み」が追加されるため、エージェントはこれらのケースがマージされたことをすぐに把握できます。エージェントは、マスタケースへのショートカットとして件名行の [マージ済み] をクリックできます。

組織でマージされたケースを削除することを選択した場合、マスタケースのみが保存されます。マージされたケースは論理削除され、ごみ箱に 15 日間置かれます。

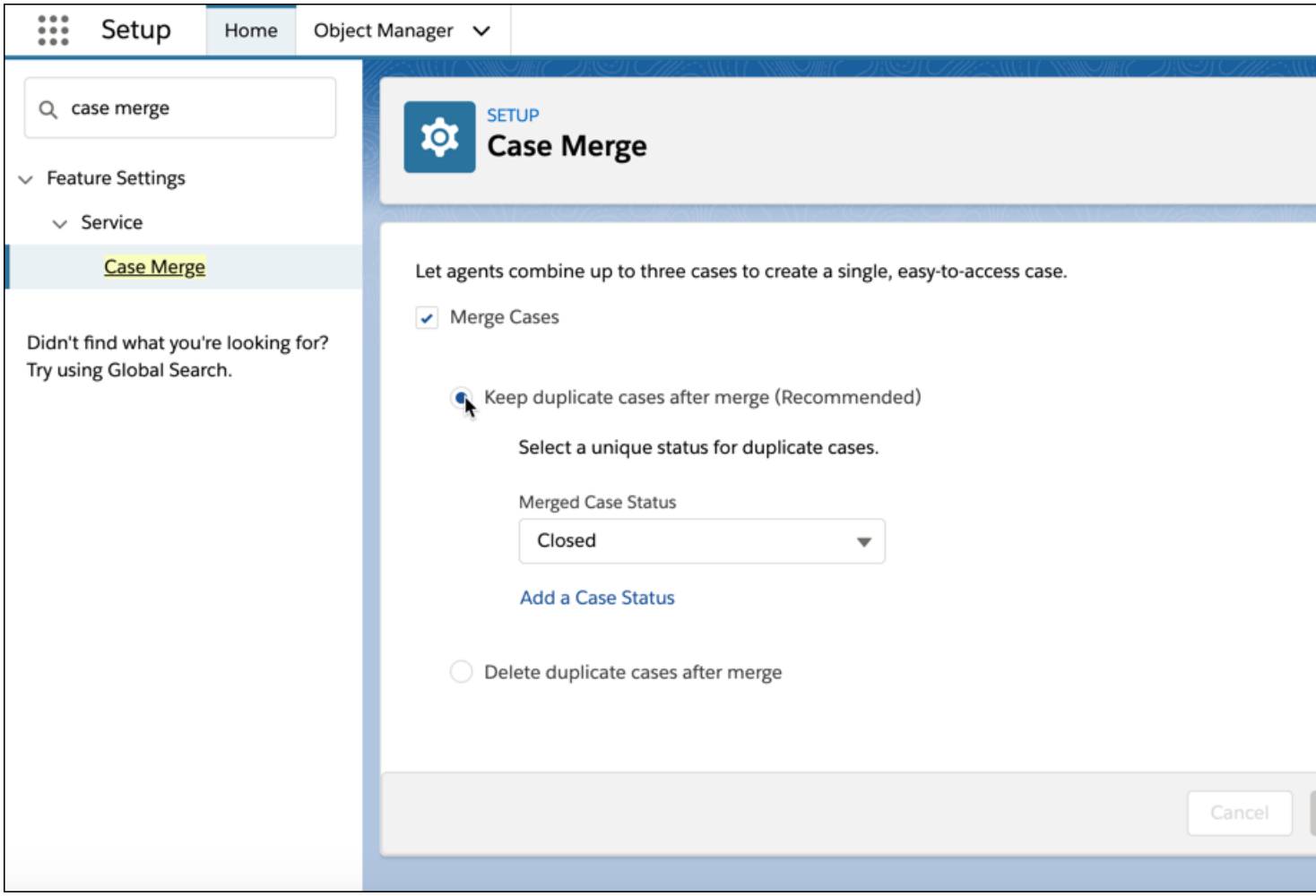


エージェントは、[マージされたケース]関連リストのケースレコードページから重複するケースを確認できます。このページには、マスタケースを形成するためにマージされたすべてのケースのリストが表示されます。

マージされたケースを保持することにした場合、それらは[マージされたケース]関連リストに表示されます。マージされたケースを削除することにした場合、マスタケースのみが保存されます。他のマージされたケースは、その後 15 日間ごみ箱に置かれます。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ケースマージ」と入力し、[ケースマージ] を選択します。[ケースマージ] を有効にし、エージェントがケースをマージした後に重複するケースをどうするかを指定します。



マージ後に重複するケースを削除するには、必須のCRUD権限が引き続き必要です。権限がない場合、エージェントはケースをマージできません。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience でのケースのマージの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ケースレコードホームからの重複するケースのマージ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: [ケース] リストビューからの重複するケースのマージ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケースフィードのタイムスタンプの表示方法のカスタマイズ

ケースフィードのタイムスタンプを「数分前」などの相対時間で表示するか、「2020 年 1 月 1 日午前 9 時 34 分午前 12 時 1 分」などの絶対時間で表示するかを制御します。以前は、表示できるタイムスタンプは相対時間のみでしたが、より正確なタイムスタンプの表示を選択できるようになりました。デフォルト設定は相対時間です。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Chatter 設定*」と入力し、[Chatter 設定] を選択します。目的の設定に合わせて [相対的なタイムスタンプを表示] を切り替え、[保存] をクリックして設定を保存します。

関連トピック:

Salesforce **ヘルプ**: Chatter **の設定** (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

ケースフィード項目の日時スタンプの形式の設定

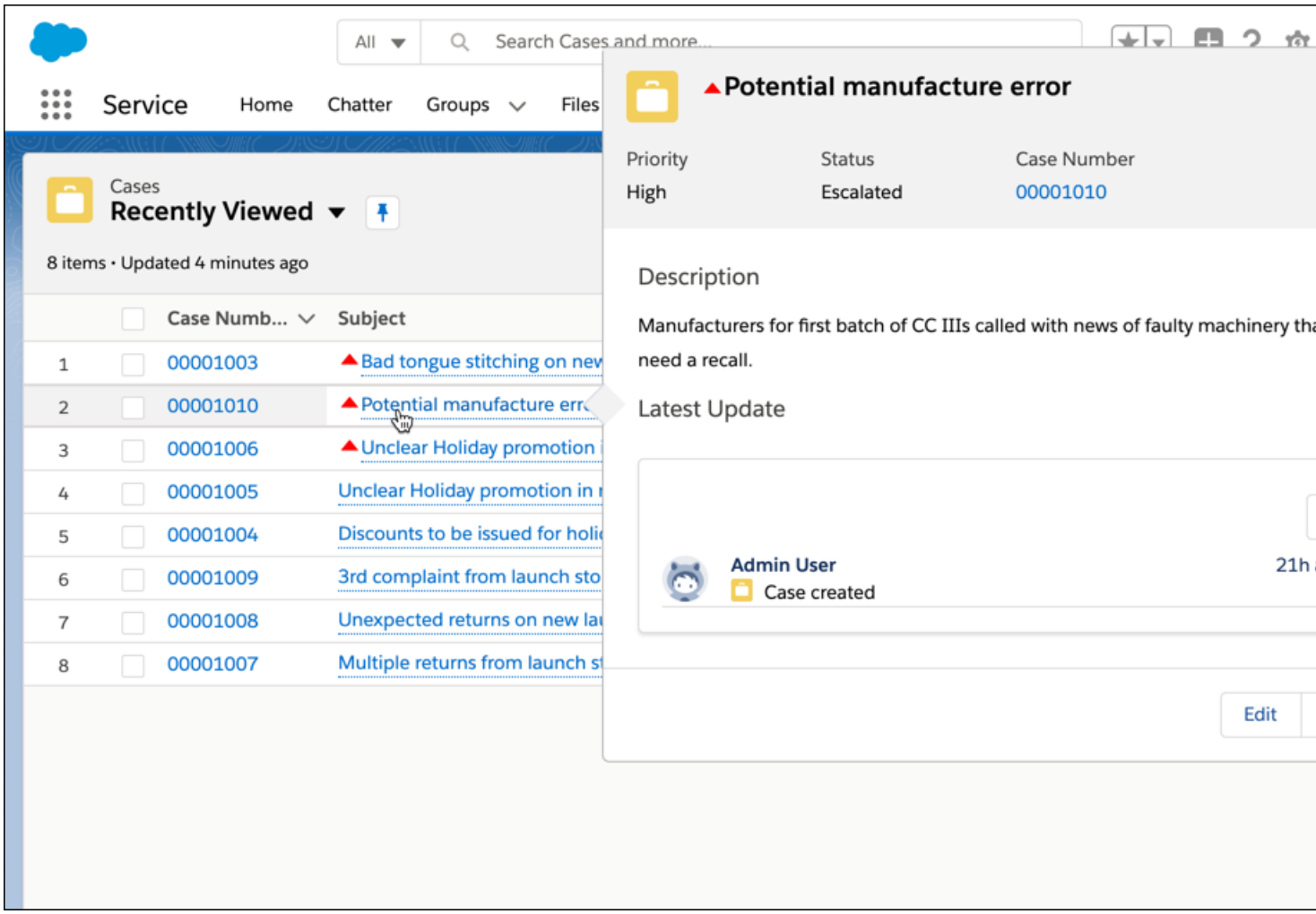
Salesforce **ヘルプ**: Lightning Experience **のリストビューからのケースのフロート表示を使用したケースの詳細の表示および編集** (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Lightning Experience でケースのフロート表示を使用してリストビューからケースの詳細を表示および編集

エージェントは、ケースの件名にマウスポインタを置くと表示されるコンパクトプレビューを使用して、リストビューから直接ケースをプレビュー、編集、削除することで時間を節約できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: 件名行にマウスポインタを置くとケースのプレビューが表示され、ケースをすばやく編集または削除できます。



[サービス設定]でコンパクトレイアウトを変更することで、モーダルに表示される項目をカスタマイズできます。

クローズケースの状況項目を表示するか非表示にするかを選択

エージェントが[状況]選択リストでクローズ状況(*[クローズ]*、*[解決済み]* など)を表示できるかどうかを指定します。システム管理者が[サポート設定]で[クローズケースの状況項目を表示]設定を無効にすると、選択リストコンポーネントですべてのクローズ種別の選択リスト値が除外されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、状況項目にすべての状況が表示されていました。サポート設定で状況項目のクローズ状況を非表示にするように設定できるようになったため、エージェントはケースオブジェクトの[ケースのクローズ]クイックアクションを使用するときに、正確なサンプルケースレコードを取得できます。

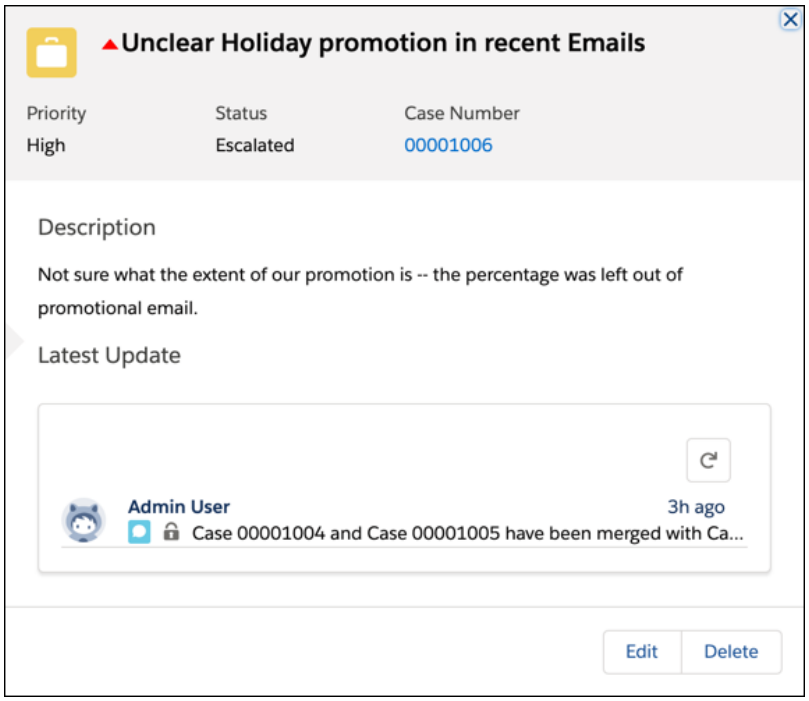
方法: ケース状況項目の選択リストにクローズ状況を表示するには、[サポート設定]に移動して[クローズケースの状況項目を表示]をオンします。クローズ状況を非表示にするには、[クローズケースの状況項目を表示]をオフにします。デフォルトでは、この設定は無効になっているため、クローズ状況は非表示になります。

ケースのエスカレーションマーカーを使用した時間の節約

余分なキーストロークなしでエージェントがケースのエスカレーション状況を一目で確認できる合理化されたワークフローにより、ケースを迅速に解決します。ケースの詳細で[エスカレーション済フラグ]チェックボックスがオンになっている場合、ケースの件名の横に矢印アイコンが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Developer Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 強調表示パネル、リストビュー、およびコンパクトプレビューモーダルでケースの件名の前に矢印アイコンが表示され、ケースがエスカレーション済みであることを示します。以前は、ケースの詳細ペインを展開することでのみ、ケースのエスカレーション状況の表示が可能でした。

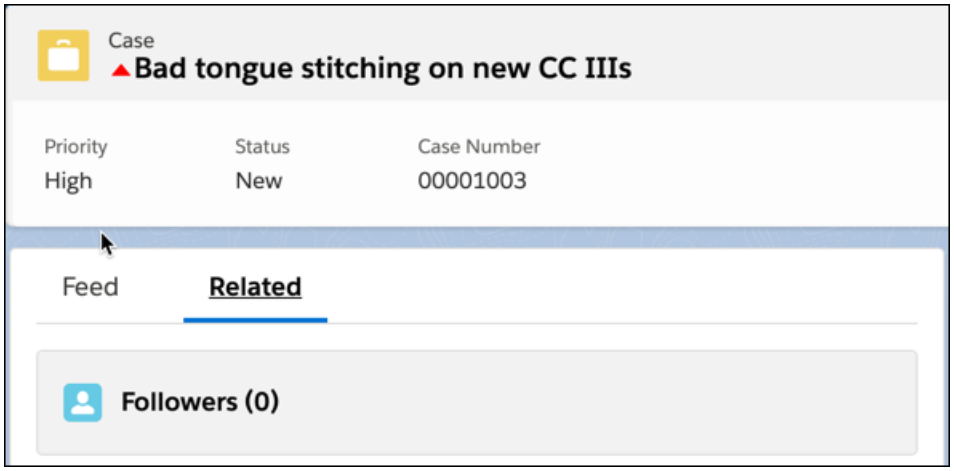


Lightning Experience でのケースレコードホームページからのフォロワーの表示

エージェントがケースに優先順位を付けるのに役立つ[フォローされている人]関連リストを追加することで、エージェントはケースをフォローしている人をケースホームページから直接確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Developer Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 以前は、ユーザは Lightning Experience でケースのフォロワーに関する情報を確認できませんでした。ユーザはケースフィードの関連リストを介して、ケースのフォロワー数と誰がケースをフォローしているかを確認できるようになりました。



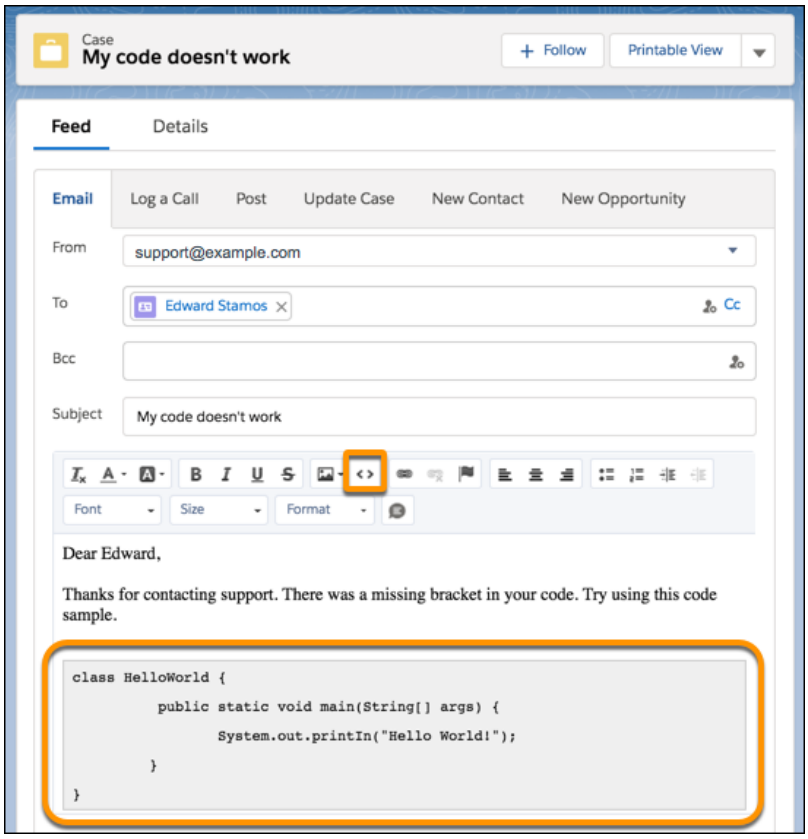
方法:[フォローされている人]関連リストをケースページレイアウトに追加します。アプリケーションビルダーを使用して、[関連リスト - 1 つ] をドラッグし、[関連リスト種別] として [フォローされている人] を選択することもできます。

ケースフィードメールへのコードサンプルの挿入

エージェントは、顧客のサポートを強化するためにケースフィードメールにコードスニペットを挿入できます。コード書式設定は、メール作成者とメールメッセージの両方に表示されます。

対象: Lightning Experience の Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

方法: ケースを開き、[メール] をクリックするか、メールパブリッシャーを開きます。コードサンプルアイコンをクリックします。コードサンプルウィンドウで、コードを入力するかコピーして貼り付け、[コードを挿入] をクリックします。



関連トピック:

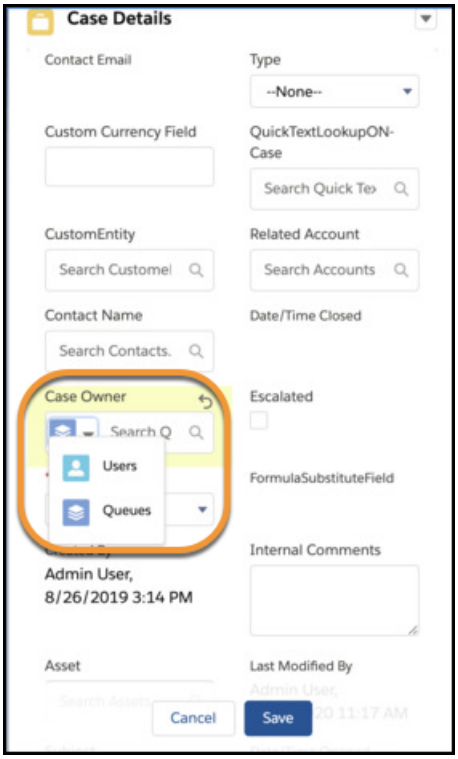
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース関連レコードコンポーネントでのインライン編集によるケース所有者の変更

ケース関連レコードコンポーネントから直接[ケース所有者]項目を編集してケースを再割り当てします。以前は、[ケース所有者] 項目をクリックすると、モーダルウィンドウが表示されていました。

対象: Lightning Experience の Essentials Edition、 Professional Edition、 Enterprise Edition、 Performance Edition、 Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

方法: ケース関連レコードコンポーネントで、[ケース所有者] 項目に移動し、メニューから [ユーザ] または [キュー] を選択します。ケースを再割り当てするユーザまたはキューを探して選択します。[保存] をクリックします。



エージェントの生産性: Lightning の一括マクロ、アクション & おすすめコンポーネントの履歴の絞り込み

エージェントは複数のレコードで一括マクロを実行して、Lightning Experience での効率性を高めることができます。マクロはバックグラウンドで高速実行されるため、エージェントは自分の作業に集中できます。チームで [アクション & おすすめ] リストを使用している場合は、[履歴] タブを絞り込む方法によって過去のアクションを確認できます。

このセクションの内容:

Lightning Experience での一括マクロを使用した繰り返しタスクの自動化

複数のレコードに対して一括マクロを実行すると、類似する顧客ケースに迅速に対応したり根本的な問題の解決に集中したりできるため、エージェントの効率性を高めることができます。エージェントは一括マクロを使用して、Lightning Experience でのメールの送信、別のエージェントへのケースの転送、ケース項目の更新などのタスクを自動化できるようになりました。複数のケースに対してマクロを実行できるかどうかが稲妻で示されます。以前は、Salesforce Classic でしか一括マクロは使用できませんでした。

レコードのホームページでのマクロの高速実行

エージェントがケースなどのレコードのホームページからマクロを実行すると、マクロはバックグラウンドで実行されるようになり、ユーザインターフェースは変化しなくなりました。マクロが終了するとトーストが表示されるため、エージェントはマクロが正常に実行されたかどうかを知ることができます。

アクション & おすすめの [履歴] タブでの状況によるアクションの絞り込み

エージェントは、アクション & おすすめコンポーネントの [履歴] タブで、開始および完了したアクションを時間を絞り込んで並び替えることができます。エージェントは、アクションに検索条件を適用して、状況でアクションのリストを絞り込むことができます。

アクション & おすすめリリースを必須にする (重要な更新、適用済み)

この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスの Lightning フローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントの ToDo リストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。「アクション & おすすめリリースを必須にする」は、Winter '20 では重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。

Lightning Experience での一括マクロを使用した繰り返しタスクの自動化

複数のレコードに対して一括マクロを実行すると、類似する顧客ケースに迅速に対応したり根本的な問題の解決に集中したりできるため、エージェントの効率性を高めることができます。エージェントは一括マクロを使用して、Lightning Experience でのメールの送信、別のエージェントへのケースの転送、ケース項目の更新などのタスクを自動化できるようになりました。複数のケースに対してマクロを実行できるかどうかが稲妻で示されます。以前は、Salesforce Classic でしか一括マクロは使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: エージェントが一括マクロを作成して実行するには、マクロに対する「参照」、「作成」、および「編集」権限、および「複数のレコードに対してマクロを実行」権限が必要です。エージェントが元に戻せないアクション(メール送信など)を実行するマクロを使用できるようにするには、エージェントに「ユーザが元に戻せないマクロを管理」権限を付与します。

方法: エージェントが一括マクロを作成および実行できるようにするには、マクロブラウザをサービスコンソールに追加して、エージェントに必要な権限を付与します。

一括マクロを作成するには、サービスコンソールでマクロブラウザを開き、[+] または [マクロを作成] をクリックし、マクロに命令を追加します。

複数のケースに対する一括マクロを実行するには、[ケース] リストビューに移動し、いくつかのケースを選択してマクロを選択し、マクロを実行します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 一括マクロ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 元に戻せないマクロ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: マクロの設定と使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レコードのホームページでのマクロの高速実行

エージェントがケースなどのレコードのホームページからマクロを実行すると、マクロはバックグラウンドで実行されるようになり、ユーザインターフェースは変化しなくなりました。マクロが終了するとトーストが表示されるため、エージェントはマクロが正常に実行されたかどうかを知ることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: マクロのパフォーマンスを改善するため、レコードのホームページで実行されるマクロを Salesforce サーバのバックグラウンドで実行します。

以前は、マクロはクライアント側で実行され、エージェントは画面上で実行されている更新を確認できました。たとえば、マクロで項目が変更された場合、エージェントは項目の更新を実行中に確認できました。この変更がバックグラウンドで実行されるようになりました。

方法: ケースなどのレコードページを開きます。次に、マクロブラウザを開いてマクロを選択します。稲妻アイコンがマクロの横に表示された場合、マクロはバックグラウンドで実行されています。稲妻アイコンが表示されない場合、マクロはクライアント側で実行されており、エージェントはマクロの実行に応じてユーザインターフェースの変化を確認できます。マクロで複数の送信アクションが実行されると、すべてのアクションの完了時に通知トーストが表示されます。

関連トピック:

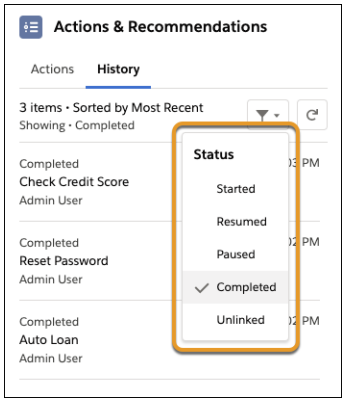
Salesforce ヘルプ: マクロの実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アクション & おすすめの [履歴] タブでの状況によるアクションの絞り込み

エージェントは、アクション & おすすめコンポーネントの [履歴] タブで、開始および完了したアクションを時間を絞り込んで並び替えることができます。エージェントは、アクションに検索条件を適用して、状況でアクションのリストを絞り込むことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 履歴コンポーネントは最新の 200 件のアクションを絞り込みます。一度に表示されるアクションは 20 件のみです。他のアクションを表示するには、[さらに表示] をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: サービスの Lightning フローおよびアクションと推奨コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: アクションの履歴の表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アクション & おすすめリリースを必須にする (重要な更新、適用済み)

この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスの Lightning フローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントの ToDo リストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。「アクション & おすすめリリースを必須にする」は、Winter '20 では重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 「アクション & おすすめリリースを必須にする」は、Winter '20 では重要な更新であり、組織が Spring '20 に更新されると必須になります。

理由: エージェントがコンポーネントから起動できるアクションと、Next Best Action 戦略からのおすすめを表示するかどうかを、リリースで指定します。以前は、コンポーネントのプロパティでのリリースの選択は省略可能でした。リリースを選択しないと、チャネルのデフォルトが未定義となり、ユーザが [追加] をクリックすると、利用可能なアクションがすべて表示されました。リリースを必須にすることで、システム管理者は、別の手順が必要になった場合にエージェントにどのアクションを表示するか制御できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力します。更新についての詳細は、[アクション & おすすめリリースを必須にする] の横にある [確認] をクリックしてください。[有効化] をクリックすると、リリースの使用が必須になります。

メモ: この更新を有効化するか、またはこの更新が適用された時点で、リリースが選択されていない場合、ユーザが [追加] をクリックしても何もアクションは表示されません。また、レコードに対して他の RecordAction が存在しない場合は、アクション & おすすめコンポーネントは空のリストを表示します。

有効化した後の動作を確認するため、レコードページにコンポーネントを追加します。プロパティではアクション & おすすめリリースを選択します。コンポーネントが表示されるレコードページを表示します。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

Winter '20 リリースノート: リリースの必須化と適切なアクションの表示 (重要な更新)

Commerce: Salesforce 注文管理の概要

Salesforce 注文管理により、Salesforce Platform の機能を e コマースの世界で利用でき、さまざまなツールを使用して注文ライフサイクルのすべてのステップを管理できます。

このセクションの内容:

Salesforce 注文管理: 注文の大規模な管理、履行、サービス (正式リリース)
現在、買い物客は、注文を送信した時点から購入した商品が自宅に届けられる瞬間までシームレスな体験を期待します。Salesforce 注文管理では、注文ライフサイクル全体を管理して顧客に素晴らしいサービスを提供するためのプロセスを構築し、自動化できます。

Salesforce 注文管理: 注文の大規模な管理、履行、サービス (正式リリース)

現在、買い物客は、注文を送信した時点から購入した商品が自宅に届けられる瞬間までシームレスな体験を期待します。Salesforce注文管理では、注文ライフサイクル全体を管理して顧客に素晴らしいサービスを提供するためのプロセスを構築し、自動化できます。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Salesforce 注文管理では次のことができます。

- 消費者は任意の E コマースチャネルから注文を送信し、注文ライフサイクル全体にわたって注文を追跡および管理できます。
- マーチャントは、統合されたカスタマイズ可能なビジネスプロセスと注文ワークフローを使用して、注文の履行、配送、支払収集、請求書、およびサービスを管理できます。
- サービスエージェントは、すべての注文関連情報のマスタリポジトリにアクセスして、注文ライフサイクル全体のグローバルスナップショットを確認し、キャンセルと返品を処理できます。

Salesforce注文管理はSalesforce Platformに基づいて構築されています。注文管理ソリューションを設定した場合、すべての標準 Salesforce Platform テクノロジの信頼できる性能、セキュリティ、拡張性を利用できます。

- Salesforce データモデルが採用されており、エンドツーエンドの注文管理ソリューションを構築するための基盤がユーザに提供されます。注文は、標準の注文オブジェクトと同じ注文詳細を含む新しい注文概要オブジェクト種別で表されます。履行、支払、配送情報を含め、注文処理の詳細をキャプチャするオブジェクトが追加されました。これらすべてのオブジェクトは注文概要オブジェクトに関連付けられ、注文ライフサイクルの統一ビューが提供されます。
- ユーザインターフェースのデザインをパーソナライズするための柔軟で使いやすいオプションを提供するLightning Experience機能が含まれています。また、Lightning フレームワークツールを使用すると、注文管理コンソールでページとコンポーネントをカスタマイズし、独自の履行ワークフローを設定できます。

Salesforce注文管理はB2C Commerceと完全に統合され、Service Cloudでネイティブに使用できるため、注文の管理とサービスがこれまで以上に容易になります。また、Salesforce API と AppExchange にアクセスして、サードパーティアプリケーションと統合し、パートナーソリューションプロバイダとつながることで、アプリケーションを拡張できます。

このセクションの内容:

注文管理コンソールを使用した効率の改善
注文管理コンソールには、顧客の注文情報がすべて一目でわかるように表示されます。注文ライフサイクルを通じて注文を管理してサービスを行うことができるツールが含まれています。

単一のビューの注文履歴による注文管理の簡素化

Salesforce の注文管理では、各顧客の注文に関するすべての情報を注文概要オブジェクトにまとめます。単一のビューの注文履歴により、注文履行前、注文履行中、注文履行後に注文を簡単に管理してサービスを行うことができます。

フローを使用した履行および支払収集の自動化

Salesforce 注文管理は、注文の送信から履行、支払収集、請求書、配送、サービスに至るまで、注文ライフサイクルの自動化と管理に役立つツールを提供します。Lightning フローツールを使用して一貫した反復可能なワークフローとプロセスを構築することで、シームレスなエンドツーエンドのショッピング体験を顧客に提供できます。

コマースとサービスの接続

Salesforce 注文管理は Service Cloud と連携し、注文およびサービス履歴の単一の顧客ビューをサービスエージェントに提供します。エージェントは顧客の要求を処理するときに必要な情報にすばやくアクセスできるようになりました、

エンドツーエンドの自動化のためのサプライチェーンパートナーとの統合

Salesforce 注文管理は B2C Commerce と完全に統合され、Service Cloud をネイティブにサポートします。また、AppExchange を使用すると、ソリューションパートナーとつながり、サードパーティアプリケーションと統合して真のエンドツーエンド注文管理システムを設定できます。

関連トピック:

Salesforce Order Management Overview (Salesforce 注文管理の概要)

Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

注文管理コンソールを使用した効率の改善

注文管理コンソールには、顧客の注文情報がすべて一目でわかるように表示されます。注文ライフサイクルを通じて注文を管理してサービスを行うことができるツールが含まれています。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

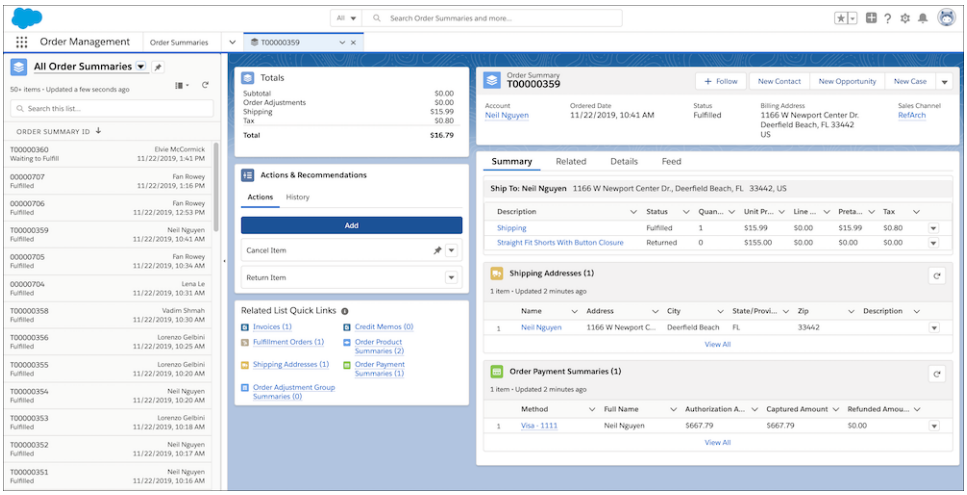
理由: コンソールの直観的なタブとサブタブのレイアウトにより、主要な注文の詳細が同じページに配置され、クリックとスクロールを最小にしています。

ナビゲーションバーからリストビューにアクセスして、次のオブジェクトの注文レコードを検索して開くことができます。

- 注文概要
- 注文支払概要
- 履行注文
- 取引先
- 請求書
- クレジットメモ
- 場所

各オブジェクトレコードタイプでクイックリンクと関連リストを使用して顧客の注文の詳細にアクセスできます。

標準的な注文管理コンソールを次に示します。



標準的なコンソールをカスタマイズして独自の内容にすることができます。

- [設定] のアプリケーションマネージャを使用して、ブランド設定やナビゲーションなどのコンソール設定を行います。
- [設定] の Lightning アプリケーションビルダーを使用して、コンソールページでコンポーネントの場所を追加、削除、または変更し、コンポーネントのコンテンツを変更します。
- [設定] のオブジェクトマネージャを使用して、カスタムタブおよび項目を追加し、ページレイアウトを変更します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:注文管理コンソール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

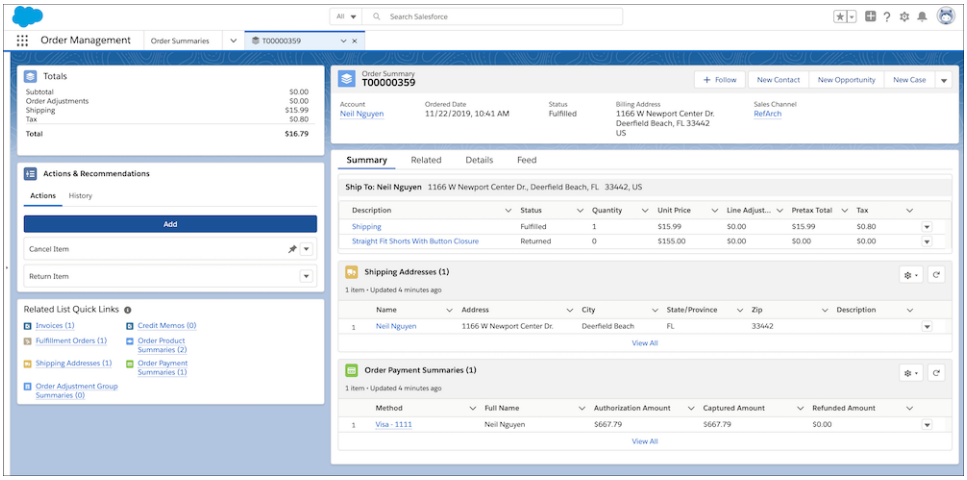
単一のビューの注文履歴による注文管理の簡素化

Salesforceの注文管理では、各顧客の注文に関するすべての情報を注文概要オブジェクトにまとめます。単一のビューの注文履歴により、注文履行前、注文履行中、注文履行後に注文を簡単に管理してサービスを行うことができます。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 注文概要オブジェクトは顧客が注文を送信したときに作成されます。注文がワークフローを進むと (登録から納入へ)、注文概要オブジェクトは注文に関連付けられたすべての活動をキャプチャするために動的に更新されます。注文概要オブジェクトには常に注文の現在の状況が表示されます。元の注文の詳細は変更されません。

履行注文や注文支払概要などの関連する注文オブジェクトは注文概要オブジェクトにリンクされています。クイックリンクおよび関連リストにより、単一ページビューからすべての注文情報にアクセスできます。



関連トピック:

*Salesforce*ヘルプ:注文概要(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フローを使用した履行および支払収集の自動化

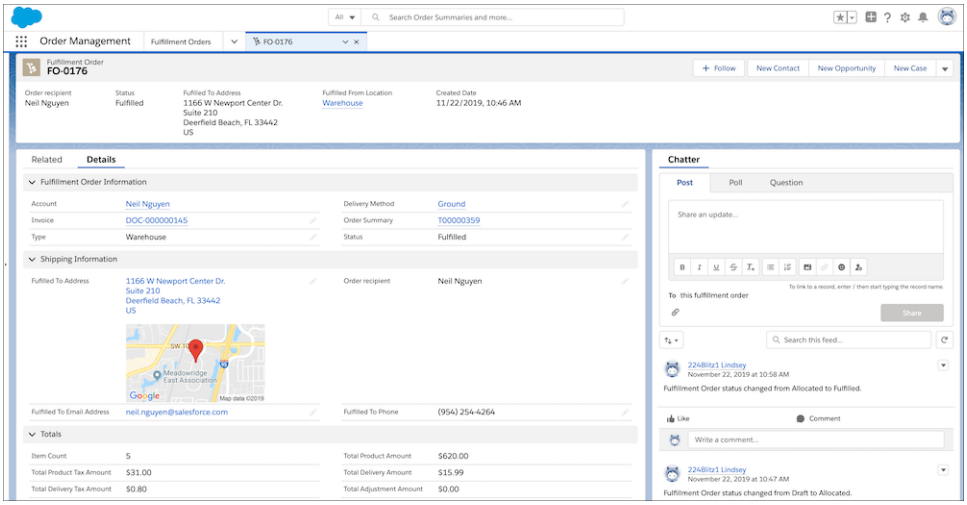
Salesforce注文管理は、注文の送信から履行、支払収集、請求書、配送、サービスに至るまで、注文ライフサイクルの自動化と管理に役立つツールを提供します。Lightningフローツールを使用して一貫した反復可能なワークフローとプロセスを構築することで、シームレスなエンドツーエンドのショッピング体験を顧客に提供できます。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 各会社に独自の方法があります。そのため、注文ライフサイクルを管理するためのカスタマイズされたワークフローを容易に作成できるようにしました。履行ワークフローに組み込まれたビジネスプロセスが顧客の注文ごとに履行注文オブジェクトにキャプチャされます。各履行注文オブジェクトは、対応する注文概要オブジェクトに関連付けられます。

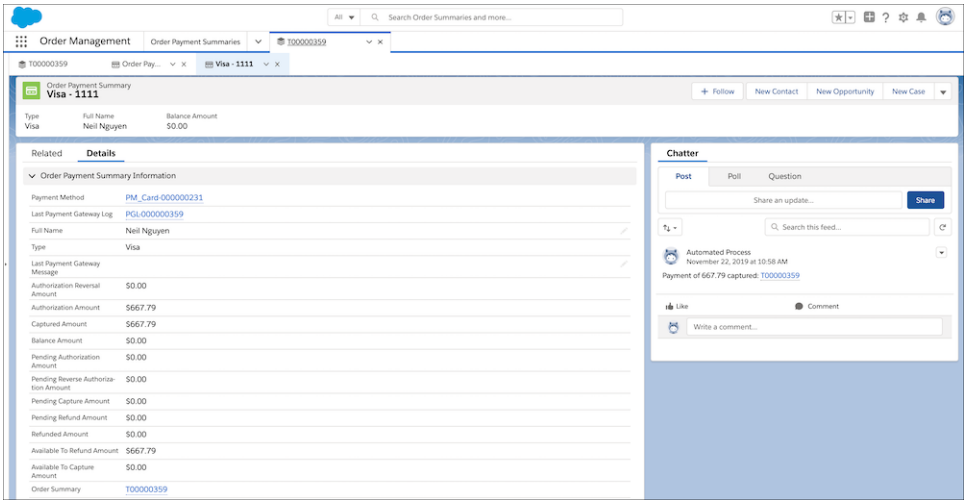
履行注文オブジェクトには、注文の履行場所、配送情報、および注文品目の詳細が表示されます。履行注文の状況を追跡するには、履行注文オブジェクトを開くか、関連付けられた注文概要オブジェクトで状況を表示することができます。

履行ワークフローのフェーズに合わせて履行注文と注文概要の状況をカスタマイズできます。

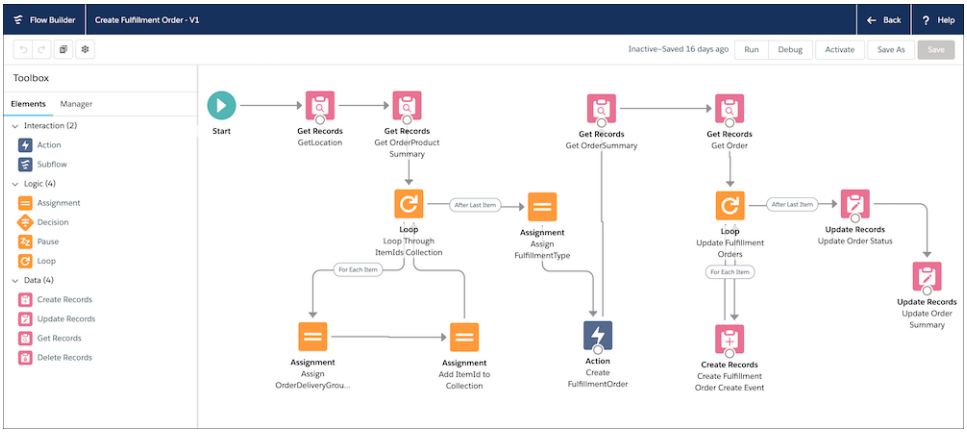


顧客の支払の承認、キャプチャ、および調整を自動化し、それらを履行ワークフローの特定のフェーズで実行することができます。たとえば、顧客が注文を送信した時点で資金を承認し、注文が履行された時点で資金をキャプチャして請求書を生成することができます。

請求書とクレジットメモの詳細を含め、注文に対するすべての支払トランザクションは注文支払概要オブジェクトで集計されます。支払プロバイダとの事前構築済みインテグレーションを AppExchange で入手できます。



方法: 使用を開始できるように、サンプルフローとプロセスを含む未管理パッケージが提供されています。これらは、基本的な注文ワークフローを最初から最後まで示しています。Salesforceシステム管理者は、Flow Builderを使用して、会社の要件に合わせてサンプルフローとプロセスを変更および拡張できます。



3 つの管理フローと 1 つのプロセスも提供されます。

- [品目のキャンセル] フローは、ユーザのキャンセルワークフローに合わせてコピーおよびカスタマイズする画面フローテンプレートです。
- [返品] フローは、ユーザの返品ワークフローに合わせてコピーおよびカスタマイズする画面フローテンプレートです。
- [注文概要を作成] フローは、ユーザの注文キャプチャ要件に合わせてコピーおよびカスタマイズする自動起動フローテンプレートです。
- [注文概要を作成] は、ユーザの注文キャプチャ要件に合わせてコピーおよびカスタマイズするプロセステンプレートです。プロセスは、送信された各注文で実行され、[注文概要を作成] フローを起動します。

Flow Builder を使用する代わりに Salesforce API と Apex カスタムコードを使用して履行プロセスを設定できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Order Fulfillment (注文履行) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Payments and Invoices (支払と請求書) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

パス: 注文履行の合理化

コマースとサービスの接続

Salesforce 注文管理は Service Cloud と連携し、注文およびサービス履歴の単一の顧客ビューをサービスエージェントに提供します。エージェントは顧客の要求を処理するときに必要な情報にすばやくアクセスできるようになりました、

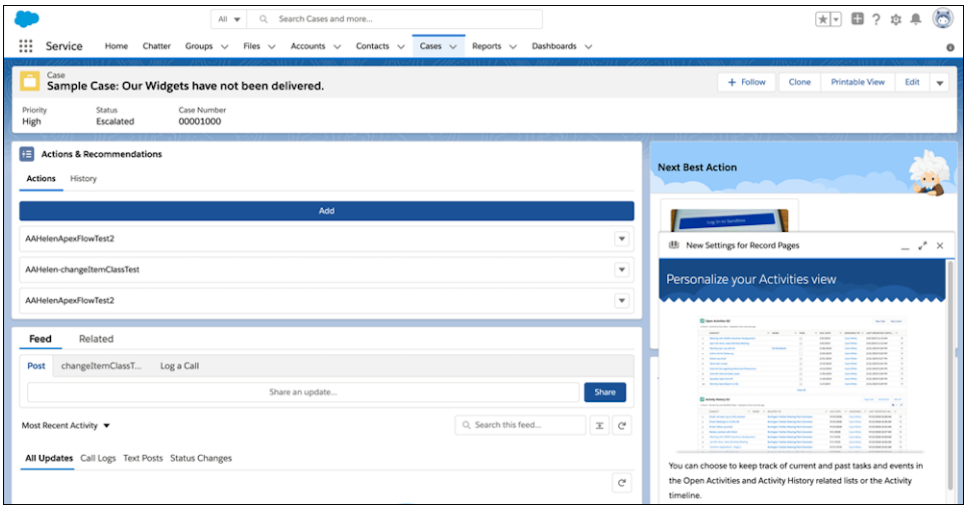
対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Salesforce 注文管理は B2C Commerce と Service Cloud 間のギャップを埋めるのに役立ちます。Salesforce 注文管理を使用すると、サービスエージェントは顧客の要求に対応するために外部システムから注文情報にアクセスする必要はなくなります。

- サービスエージェントは、注文管理コンソールに切り替えることなく、サービスコンソールでカスタマー取引先を特定し、顧客の注文履歴を参照できます。

- サービスエージェントは、カスタマイズされたワークフローを使用して、ケースを顧客の注文概要に自動的に関連付けることができます。
- サービスエージェントはすべての注文情報を 1 か所で参照できるため、顧客の問い合わせや、キャンセルおよび返金を容易に処理することができます。

すべてのサービス活動がケース履歴と注文履歴でキャプチャされます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サービス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

エンドツーエンドの自動化のためのサプライチェーンパートナーとの統合

Salesforce 注文管理は B2C Commerce と完全に統合され、Service Cloud をネイティブにサポートします。また、AppExchange を使用すると、ソリューションパートナーとつながり、サードパーティアプリケーションと統合して真のエンドツーエンド注文管理システムを設定できます。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理が導入された Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Heroku を使用すると、Salesforce 注文管理で B2C Commerce ストアフロントからの注文を受信し、Salesforce オブジェクトを自動的に作成して注文データを入力することができます。Salesforce オブジェクトを操作して履行ワークフローに従って注文を移動するためのパーソナライズされたビジネスプロセスを作成および管理します。

注文キャプチャは B2C Commerce でネイティブにサポートされます。他の E コマースチャネルからの注文キャプチャをサポートするインテグレーションを Salesforce 注文管理で構築できます。

サプライチェーンパートナーをユーザのワークフローに統合するために使用できるいくつかの事前構築済みのコネクタアプリケーションが AppExchange で提供されています。Salesforce 注文管理と AppExchange を使用して、履行プロセスを完全に自動化してください。

AppExchange に移動して、適切なインテグレーションソリューションを見つけてください。

- 割り当て
- ERP

- 支払
- 配送
- ストア
- Warehouse

関連トピック:

AppExchange

Analytics: 迅速なレポート編集、ダッシュボードビルダーの機能強化、直接データクエリ、Einstein Discovery の What-If 分析

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。Spring '20 Analytics の改善では、操作の簡略化と共に接続の増加および生産性の向上に焦点を当てています。レポートプレビューへのライブ更新のオン/オフを切り替え可能な新機能を使用して、レポートを迅速に作成します。ダッシュボードビルダーのコラボレーションバージョン管理、対象を絞ったファセット、インタラクションの構築は、すべてコードではなくクリックで完了できます。Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Einstein Discovery で予測モデルを構築し、what-if 分析を使用して考えられる将来の結果を調べます。

このセクションの内容:

レポートおよびダッシュボード: レポートプレビュー (省略可能) を使用した迅速なレポート編集、項目間の絞り込み (正式リリース)、レコードのユニーク数 (正式リリース)
レポートプレビューへのライブ更新のオン/オフを切り替え可能な新機能を使用して、レポートを迅速に作成します。項目間の検索条件は、1つの項目の値と別の項目の値との比較に基づいてレポートデータを返します。では、レポートに一意の値は何個あるでしょうか。ユニーク数集計を適用すればわかります。

Einstein Analytics: ダッシュボードビルダーの機能強化、直接データクエリ、データリレーションの視覚化、Einstein Discovery の What-If 分析
ダッシュボードビルダーのコラボレーションバージョン管理、対象を絞ったファセット、インタラクションの構築は、すべてコードではなくクリックで完了できます。Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Analytics アセットのデータ系統を探索し、データカタログを使用してリレーションや連動関係を視覚化できます。Einstein Discovery で予測モデルを構築し、what-if 分析を使用して考えられる将来の結果を調べます。

レポートおよびダッシュボード: レポートプレビュー (省略可能) を使用した迅速なレポート編集、項目間の絞り込み (正式リリース)、レコードのユニーク数 (正式リリース)

レポートプレビューへのライブ更新のオン/オフを切り替え可能な新機能を使用して、レポートを迅速に作成します。項目間の検索条件は、1 つの項目の値と別の項目の値との比較に基づいてレポートデータを返します。では、レポートに一意の値は何個あるでしょうか。ユニーク数集計を適用すればわかります。

このセクションの内容:

レポートプレビューの自動更新をオフにしてレポートの編集を迅速化 (正式リリース)
自動プレビュー更新をオフにすればレポートの編集を迅速化できます。オフにすると、編集するごとにプレビューが更新されるのを待つことなく、複数の編集を行うことができます。データをプレビューする準備ができたら、手動でレポートのプレビューを更新します。または、自動プレビューをオンのままにすれば、編集するごとにサンプルレコードが返されます。

項目間の検索条件を使用した項目の比較によるレポートの絞り込み (正式リリース)
2つの異なるレポート項目の値を比較して、項目間の検索条件を使用した比較条件を満たすレコードを返します。たとえば、[金額] 項目と [Projected Amount (予想金額)] 項目を比較して [金額] のほうが低い商談のみを返すことで、予想より低い金額の商談を返します。

レポート結果での値のユニーク数 (正式リリース)
ユニーク数を使用して、レポートが返す個別の値の数を確認します。商談レポートでは同じ取引先の複数の商談をリストすることがよくあります。ユニーク数を [取引先名] 列に追加して、レポートに表示される個別の取引先値の数を確認します。ユニーク数は、レポート下部に総計として、また各グループの小計として表示されます。

フォーマット済みレポートのエクスポートからの社外秘情報免責事項の除外
デフォルトでは、フォーマット済みレポートのエクスポートには「社外秘情報-配布厳禁」という免責事項が含まれます。この免責事項は、注意してレポートを共有するようにユーザに喚起し、第三者にレポートデータが表示されないようにするものです。新しい組織全体の設定により、すべてのフォーマット済みレポートのエクスポートで免責事項を表示するか非表示にするかを選択できます。

右から左へ記述される言語でのレポートおよびダッシュボードの操作 (正式リリース)
レポートとダッシュボードでは、ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される (RTL) 言語とロケールがサポートされるようになりました。エンドユーザ言語としてヘブライ語とアラビア語、プラットフォーム言語としてウルドゥー語がサポートされます。RTL 言語のサポートを改善するために、レポートとダッシュボードのインターフェースが右から左に流れるように再配置されました。

ユーザごとに一度に最大 5 件のレポートのエクスポート
ユーザあたりの同時レポートエクスポートの制限が導入されます。各ユーザは最大 5 件のレポートをエクスポートできます。Lightning Experience のフォーマット済みレポートのエクスポートは、この制限にカウントされません。

Winter '21 での従来のフォルダ共有の廃止
Winter '21 リリース (以降のリリースに変更される可能性あり) では、従来のフォルダ共有が廃止され、拡張フォルダ共有がすべての組織で有効になります。拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。

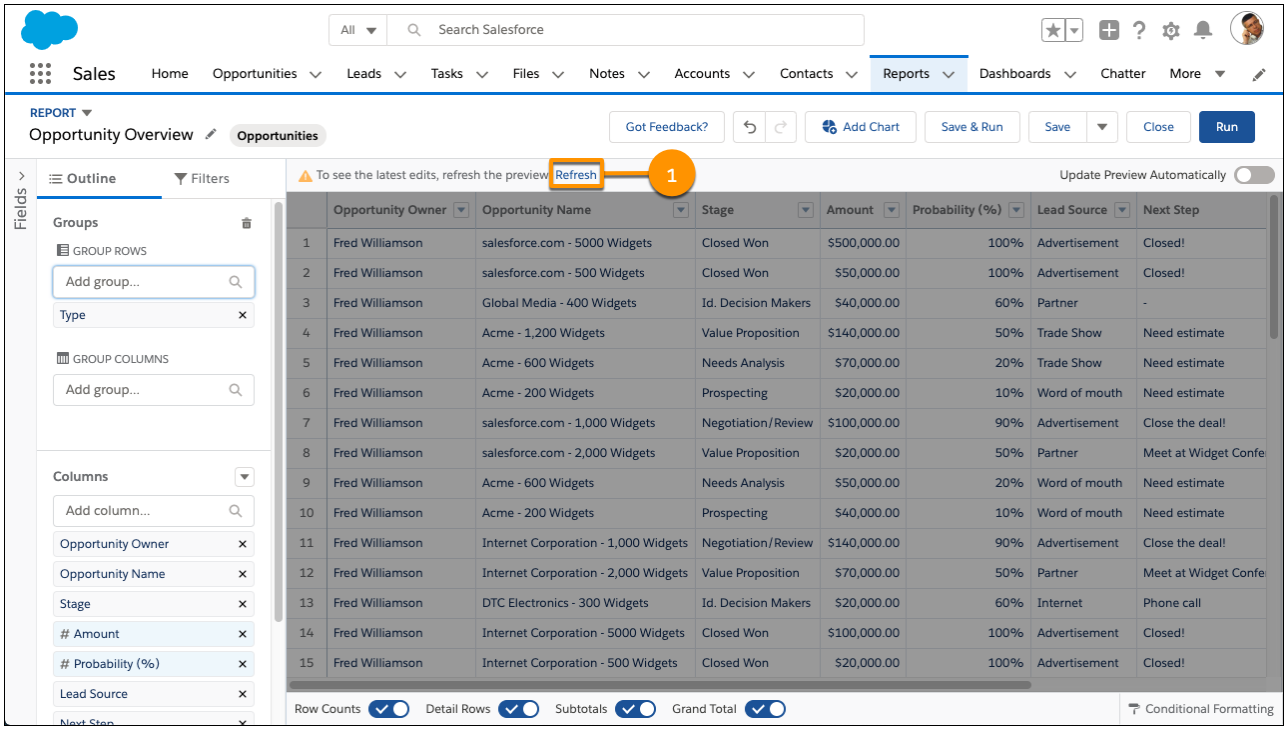
レポートプレビューの自動更新をオフにしてレポートの編集を迅速化 (正式リリース)

自動プレビュー更新をオフにすればレポートの編集を迅速化できます。オフにすると、編集するごとにプレビューが更新されるのを待つことなく、複数の編集を行うことができます。データをプレビューする準備ができたら、手動でレポートのプレビューを更新します。または、自動プレビューをオンのままにすれば、編集するごとにサンプルレコードが返されます。

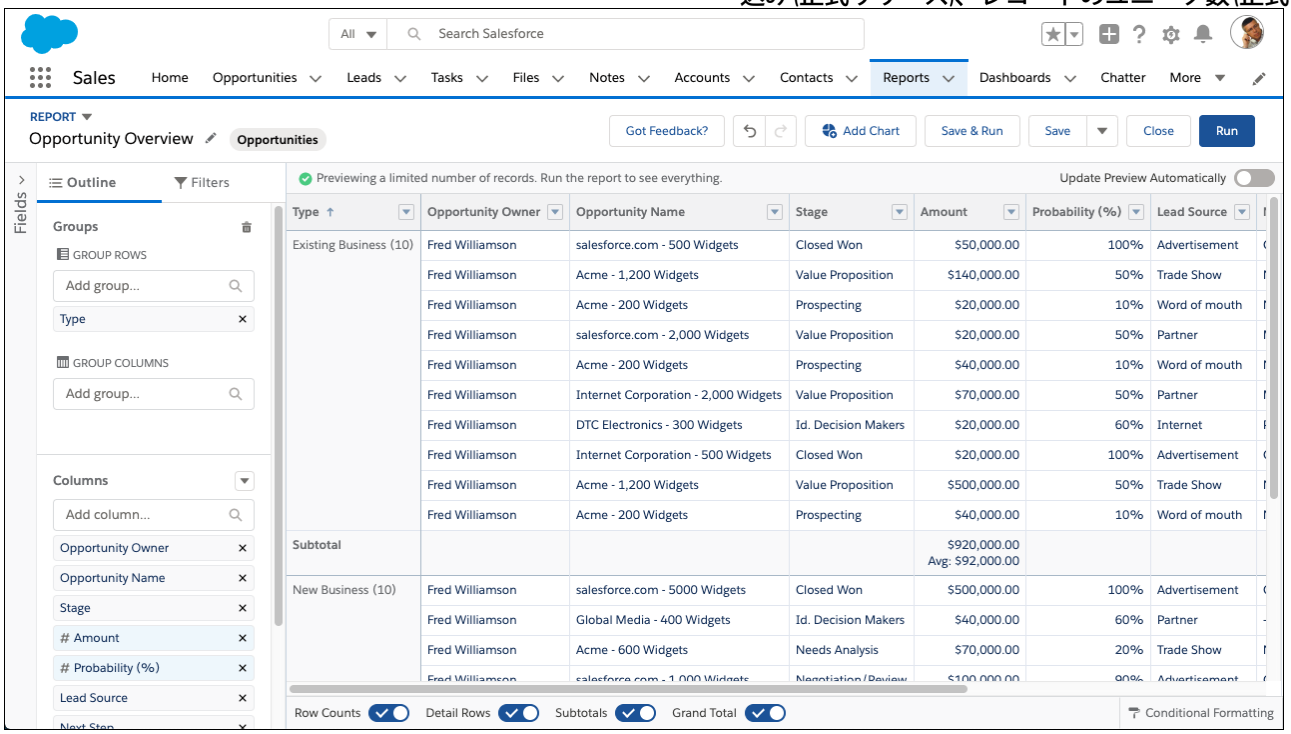
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 自動プレビュー更新のオン/オフを切り替えるには、[プレビューを自動的に更新] のオン/オフを切り替えます。オンの場合は、レポートに編集を行うたびに、レポートプレビューが自動的に更新されます。オフの場合は、最新の編集をプレビューに表示するかどうかと、プレビューを更新するオプションを示すメッセージが表示されます。最近の編集を非表示にした場合は、プレビューがグレー表示になります。

古くなったデータを更新するには、[更新] (1) をクリックします。



プレビューが再読み込みされ、編集内容が表示されます。



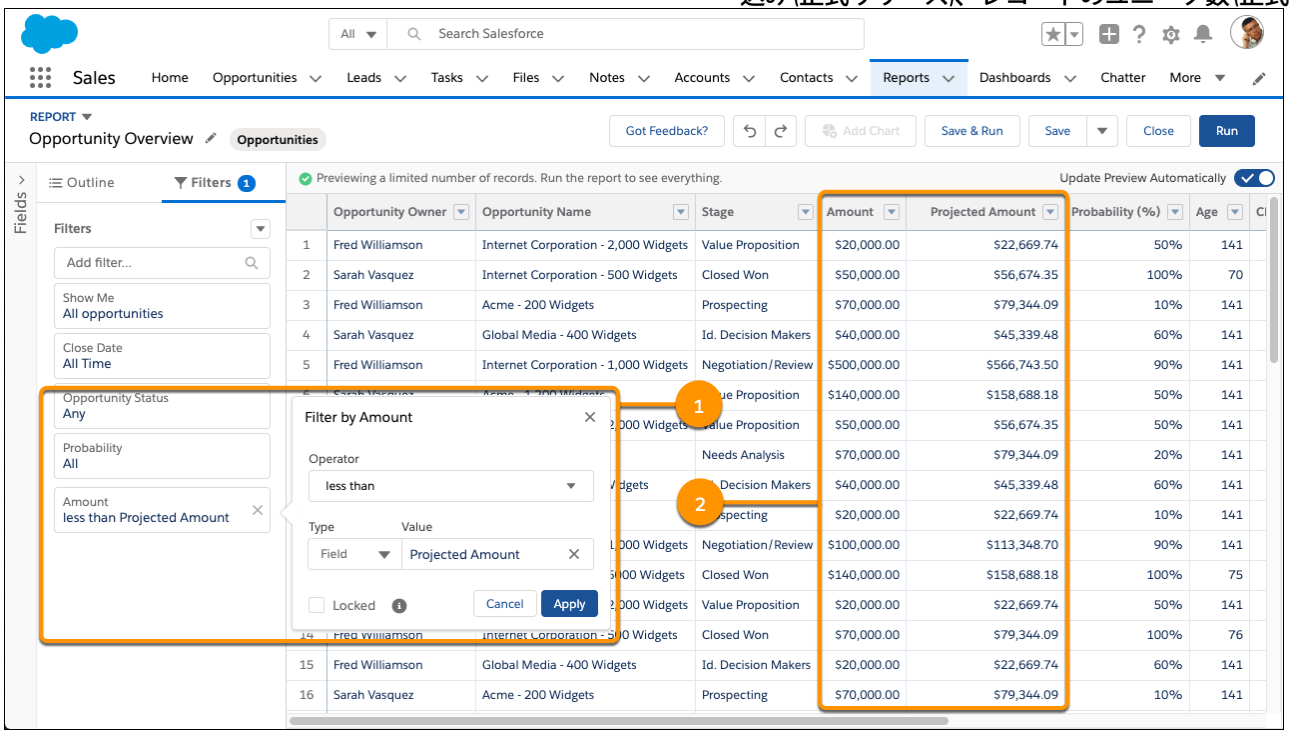
レポート実行ページに [プレビューを自動的に更新] の切り替えの影響はありません。

項目間の検索条件を使用した項目の比較によるレポートの絞り込み (正式リリース)

2 つの異なるレポート項目の値を比較して、項目間の検索条件を使用した比較条件を満たすレコードを返します。たとえば、[金額] 項目と [Projected Amount (予想金額)] 項目を比較して [金額] のほうが低い商談のみを返すことで、予想より低い金額の商談を返します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 項目間の絞り込みを追加し、絞り込みダイアログで [値] を [項目] に変更します。次の例では、項目間の絞り込み (1) は予想よりも金額が少なかった商談を返します (2)。



項目間の検索条件の正式リリースに伴い、管理パッケージまたは未管理パッケージの一部として、1 つの Salesforce 組織から別の Salesforce 組織にリリースできるようになりました。

メモ: 行レベルの数式は正式にリリースされましたので、システム管理者は [設定] でこの機能を有効化する必要はありません。[レポートでの項目間検索条件を有効化 (Lightning Experience のみ)] は、[設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] から削除されました。

関連トピック:

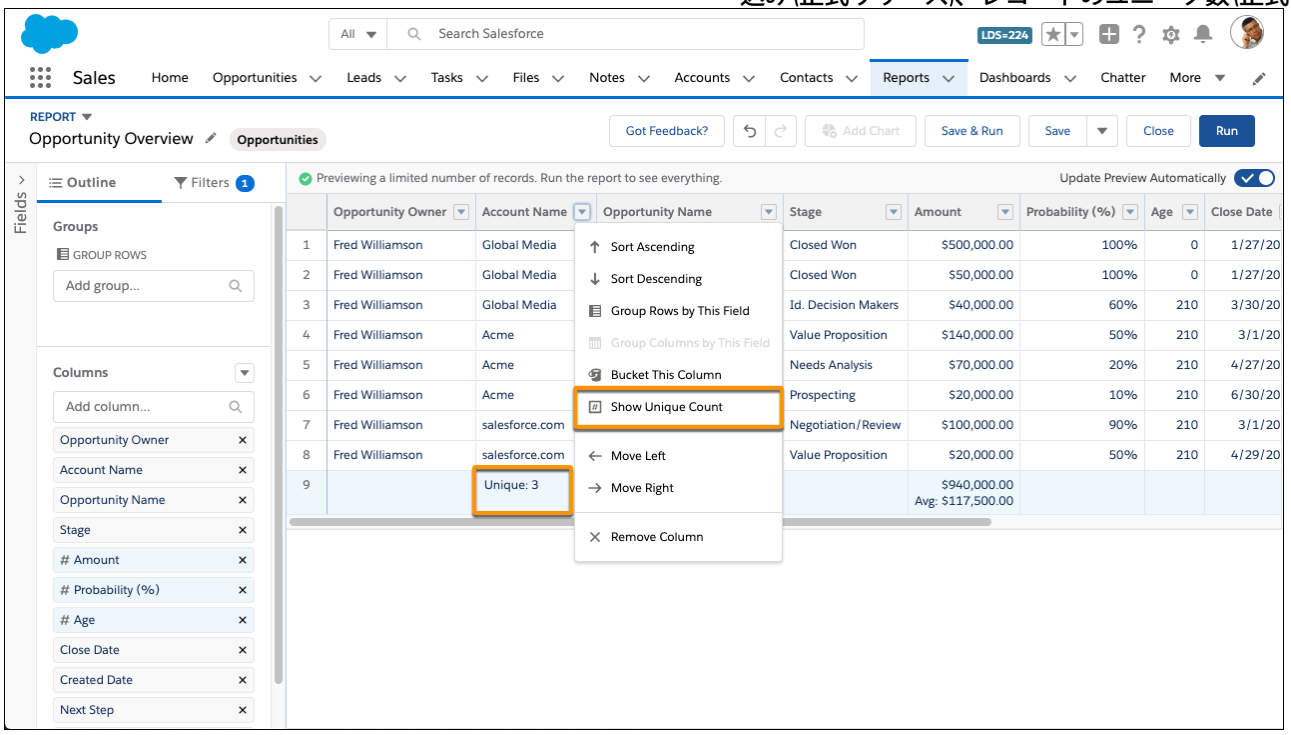
IdeaExchange: レポートの検索条件で項目どうしを比較できるはずです

レポート結果での値のユニーク数 (正式リリース)

ユニーク数を使用して、レポートが返す個別の値の数を確認します。商談レポートでは同じ取引先の複数の商談をリストすることがよくあります。ユニーク数を [取引先名] 列に追加して、レポートに表示される個別の取引先値の数を確認します。ユニーク数は、レポート下部に総計として、また各グループの小計として表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 項目の値のユニーク数を追加するには、列で ▼ > [ユニークカウントを表示] をクリックします。



ユニーク数が正式リリースされ、次のアクションがサポートされるようになりました。

- ユニーク数を、管理パッケージまたは未管理パッケージの一部として、1つのSalesforce組織から別のSalesforce組織にリリースする。
- 集計項目 (行レベルの数式ではない) でユニーク数を処理する。集計項目でユニーク数を処理するには、集計メニューから [リードソース] などの項目と [ユニーク] の両方を選択して、[挿入] をクリックします。または、項目の API 参照名に続けて「`:UNIQUE`」と入力します (例: 「`LEAD_SOURCE:UNIQUE`」)。

メモ: ユニーク数が正式リリースされたため、今後管理者が [設定] でこの機能を有効にする必要はありません。[レポートでのユニーク行数集計を有効化 (Lightning Experience のみ)] は、[設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] から削除されました。

関連トピック:

IdeaExchange: 異なる/一意のレコード用のレポートオプション

フォーマット済みレポートのエクスポートからの社外秘情報免責事項の除外

デフォルトでは、フォーマット済みレポートのエクスポートには「社外秘情報-配布厳禁」という免責事項が含まれます。この免責事項は、注意してレポートを共有するようにユーザに喚起し、第三者にレポートデータが表示されないようにするものです。新しい組織全体の設定により、すべてのフォーマット済みレポートのエクスポートで免責事項を表示するか非表示にするかを選択できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

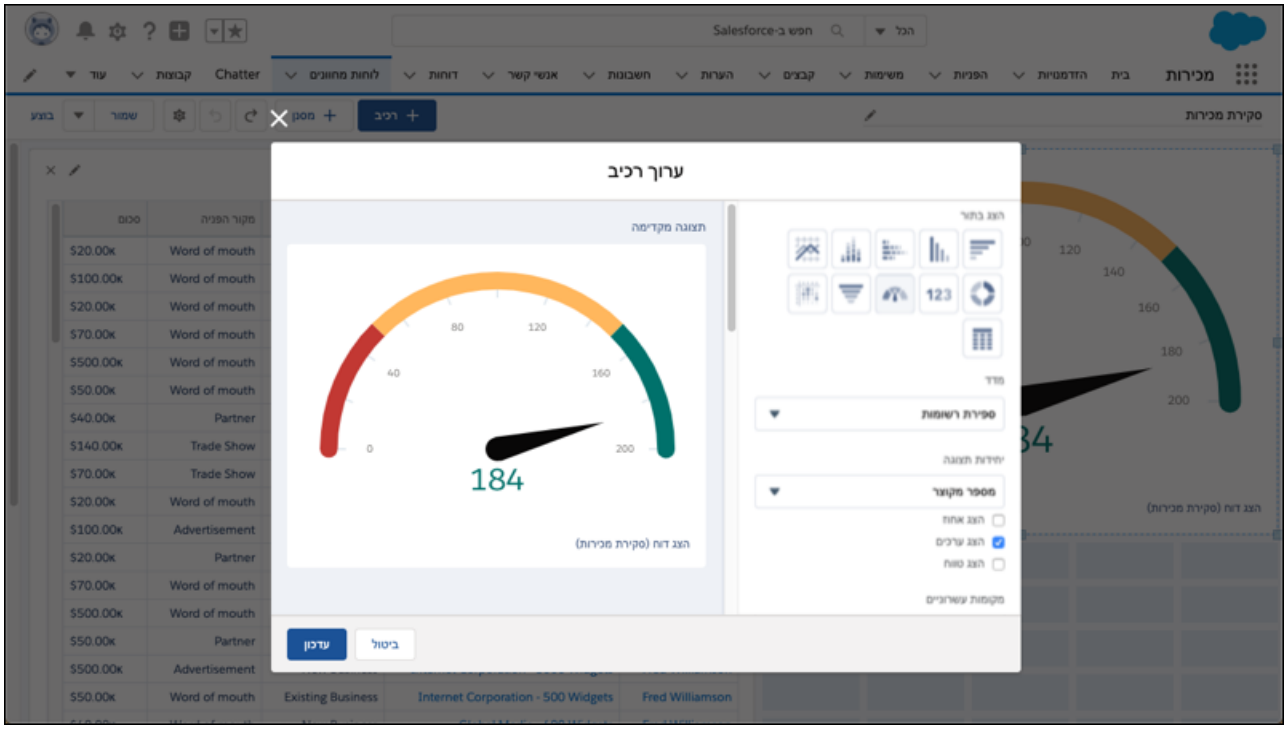
方法: [設定] で免責事項を非表示にします。[レポートおよびダッシュボードの設定] で、[Lightning Experience のフォーマット済みレポートのエクスポートから免責事項を除外] を選択して、[保存] をクリックします。

右から左へ記述される言語でのレポートおよびダッシュボードの操作 (正式リリース)

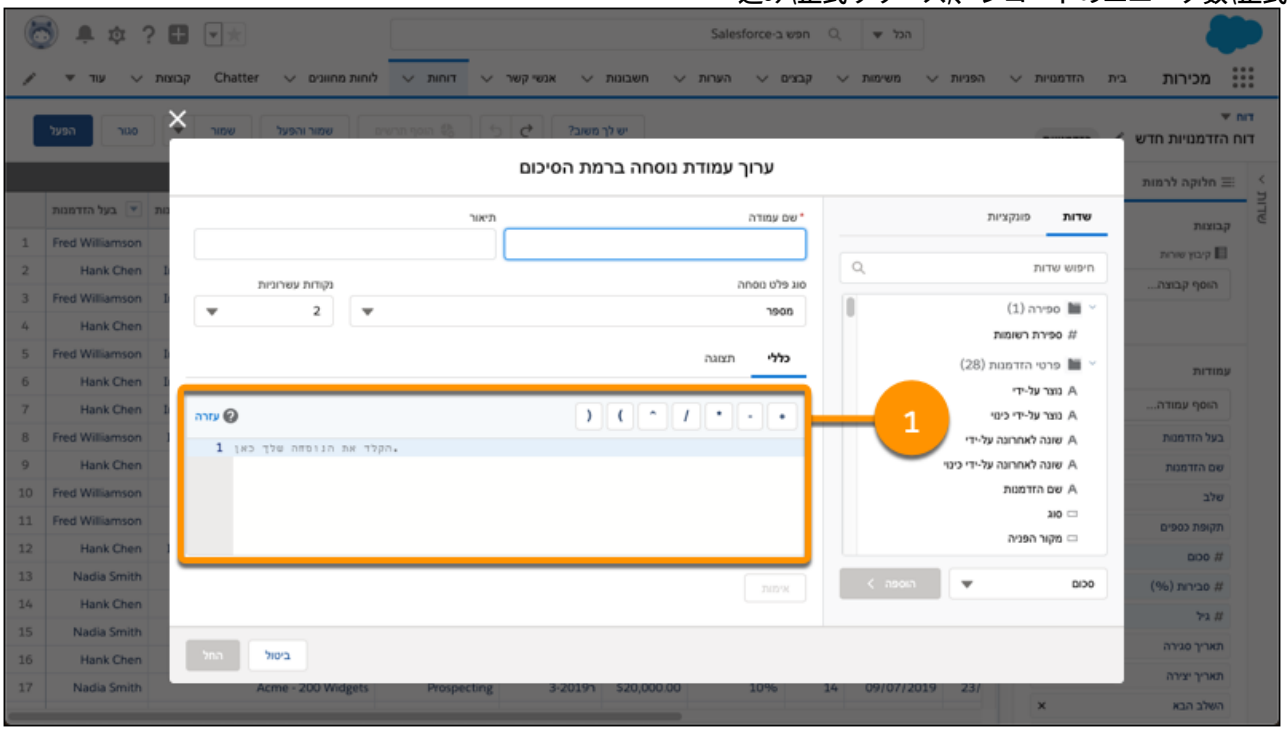
レポートとダッシュボードでは、ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される (RTL) 言語とロケールがサポートされるようになりました。エンドユーザ言語としてヘブライ語とアラビア語、プラットフォーム言語としてウルドゥー語がサポートされます。RTL 言語のサポートを改善するために、レポートとダッシュボードのインターフェースが右から左に流れるように再配置されました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Lightning ダッシュボードビルダーのすべての部分で RTL 言語がサポートされます。たとえば、ヘブライ語のダッシュボードコンポーネントは次のようになります。



Lightning ダッシュボードビルダーのすべての部分で RTL 言語がサポートされますが、1 つだけ例外があります。数式編集メニューは期待どおり右から左に記述されますが、数式編集項目は左から右に記述されます (1)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 右から左へ記述される (RTL) 言語のサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザごとに一度に最大 5 件のレポートのエクスポート

ユーザあたりの同時レポートエクスポートの制限が導入されます。各ユーザは最大 5 件のレポートをエクスポートできます。Lightning Experience のフォーマット済みレポートのエクスポートは、この制限にカウントされません。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Winter '21 での従来のフォルダ共有の廃止

Winter '21 リリース (以降のリリースに変更される可能性あり) では、従来のフォルダ共有が廃止され、拡張フォルダ共有がすべての組織で有効になります。拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

時期: Winter '21 での廃止を目標としていますが、変更される可能性があります。

理由: 拡張フォルダ共有では、レポートおよびダッシュボードフォルダに対する閲覧者、エディタ、マネージャという 3 レベルのアクセス権が導入されます。拡張フォルダ共有を有効にすると、Salesforce 組織のすべてのユーザは、以前に表示フォルダを除いて「エディタ」アクセス権を持っていたとしても、すべてのレポートお

よびダッシュボードフォルダへの「閲覧者」アクセス権を取得します。非表示フォルダは誰とも共有されませんが、ユーザ権限「公開フォルダのレポートを参照」、「公開フォルダのレポートを管理」、およびダッシュボードでの同等の権限を持つユーザは非表示フォルダを参照または管理できます。ユーザへのエディタアクセス権を復元するには、新しいユーザ権限を割り当ててフォルダレベルのアクセス権を付与する必要がある場合もあります。

たとえば、従来のフォルダ共有で、Sally と Tim は「参照・更新」アクセス権を使用して公開フォルダに保存されるダッシュボードを作成しています。Sallyはユーザ権限「ダッシュボードの管理」および「すべてのデータの参照」を持っていますが、Tim は「すべてのデータの参照」しか持っていません。拡張フォルダ共有を有効にすると、Sally には自動的にユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを管理」および「ダッシュボードフォルダを作成」が付与されますが、Tim にはユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを参照」しか付与されません。Sallyはダッシュボードを参照、編集、共有できますが、Timは参照しかできません。Timにフォルダに対する「エディタ」アクセス権を付与できるようにするには、Salesforce システム管理者が Tim にユーザ権限「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」を割り当てる必要があります。その後、Sally は Tim にダッシュボードフォルダへの「エディタ」アクセス権を付与できるため、ダッシュボードで引き続きコラボレーションを行うことができます。

方法:Summer'13 リリース以降に作成された組織には、拡張フォルダ共有がすでに存在するため、外観上の変化はありません。作業は不要です。

Summer '13 より前に作成された組織で拡張フォルダ共有をまだ有効にしていない場合は、今すぐ有効にできます。詳細は、「レポートとダッシュボードの拡張フォルダ共有への組織の移行」を参照してください。新しいユーザ権限およびフォルダアクセスレベルについて理解するには、まず Sandbox 組織または Developer Edition 組織で拡張フォルダ共有を有効にすることをお勧めします。有効にすると、従来のフォルダ共有に戻すことはできません。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:レポートとダッシュボードの拡張フォルダ共有への組織の移行(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:レポートおよびダッシュボードの共有に関するユーザ権限(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:レポートおよびダッシュボードフォルダのアクセス権の比較(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein Analytics: ダッシュボードビルダーの機能強化、直接データクエリ、データリレーションの視覚化、Einstein Discovery の What-If 分析

ダッシュボードビルダーのコラボレーションバージョン管理、対象を絞ったファセット、インタラクションの構築は、すべてコードではなくクリックで完了できます。Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Analytics アセットのデータ系統を探索し、データカタログを使用してリレーションや連動関係を視覚化できます。Einstein Discovery で予測モデルを構築し、what-if 分析を使用して考えられる将来の結果を調べます。

このセクションの内容:

Analytics 設定およびデータインテグレーション: データ系統グラフ、ローカルデータ同期のスケジュール、共有継承の対象範囲の増加
Analytics で使用されるデータの取得元を把握したり、より多くのローカル接続を作成よびスケジュールしたり、共有継承を使用して、より多くのユーザのデータセットの行レベルアクセス権を付与したりできます。

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Analytics Design、Analytics for Consumer Goods、Adoption Analytics アプリケーションの簡単な作成、Accuracy Analytics
Analytics Design アプリケーションで、独自の優れたアプリケーションを作成します。Consumer Goods アプリケーションを使用して、小売業の業績を改善します。また、数回クリックするだけで Adoption Analytics アプリケーションを作成し、Accuracy Analytics を使用して Einstein Discovery ストーリーの信頼性を高めることができます。

Analytics アプリケーションの構築: 直接データクエリ、ダッシュボード公開者によるコラボレーション、テンプレートのコネクタおよび複数のデータフロー
Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。公開者機能により、チームはビジネスユーザと共有する前にダッシュボードに関するコラボレーションを行うことができます。Analytics テンプレートフレームワークでコネクタおよび複数のデータフローのサポートが追加され、フレームワークの JSON 変換エンジンによって JSON が Lightning Experience から変換されます。

Einstein Discovery: 予測の外部データ、[何が起きる可能性があるか] インサイト、ストーリーのバージョン管理
外部データを含めて、結果の予測精度を高めます。対話形式でライブ予測スコア (上位の要素やアクション可能なインサイトなど) を取得します。いつでも前のストーリーバージョンを再確認および操作できます。

すべてのユーザのための Analytics: ウォッチリスト (ベータ)、複数の通知受信者、アプリケーション内 Trailhead バッジ
Einstein Analytics ウォッチリストを使用して Analytics ホームページで重要な総計値を追跡します。組織の複数の受信者を通知メールの配布リストに追加します。Analytics Studio で学習ジャーニーを完了して、Trailhead バッジを獲得します。

Analytics 設定およびデータインテグレーション: データ系統グラフ、ローカルデータ同期のスケジュール、共有継承の対象範囲の増加

Analytics で使用されるデータの取得元を把握したり、より多くのローカル接続を作成よびスケジュールしたり、共有継承を使用して、より多くのユーザのデータセットの行レベルアクセス権を付与したりできます。

このセクションの内容:

データセット、レンズ、ダッシュボード、ストーリーデータの取得元の視覚化
AppExchange の無料の Data Catalog アプリケーションは、どのようにデータが相互接続されているかを把握し、系統グラフを使用してそのソースへのデータの系統を視覚化するのに役立ちます。ダッシュボード、レンズ、ストーリーを使用してビジネス上の意思決定を行いますが、ソースオブジェクトまたはデータセットを見つけることが難しく、設定の調整や古いデータの更新ができない場合があります。今回のリリースでは、データの取得元や関連付けられている Analytics アセットをすばやく調べることができるようになりました。

Einstein Analytics Plus ライセンスを使用した 10 倍多いデータの分析

Einstein Analytics Plus ライセンスの行の上限がすべての登録済みデータセットを対象に 10 億から 100 億に増加しました。

Mulesoft で接続されたデータソースからの同期

Einstein Analytics 用の Analytics Mulesoft コネクタを使用してコードなしで CloudHub 経由でクラウドベースのデータソースを Analytics に取り込みます。Analytics Mulesoft コネクタを使用して、AWS RDS の Microsoft SQL Server、AWS RDS の MySQL、AWS RDS の Oracle に接続できます。

Mulesoft で接続された SAP SuccessFactors からのデータの同期

Einstein Analytics 用の Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタを使用してコードなしで CloudHub 経由でクラウドベースの SuccessFactors データを Analytics に取り込みます。

Analytics への Customer 360 グローバルプロファイルデータの取り込み (ベータ)

Customer 360 Data Manager を使用して、Salesforce 全体で顧客を識別するグローバルプロファイルを作成していましたが、Customer 360 グローバルプロファイルデータコネクタでは、このプロファイルを他の Salesforce およびリモートデータと共に使用して、Einstein Analytics で分析できます。

SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA のデータへの接続 [パイロット]

SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタを使用することで、より多くのリモートデータを Analytics に接続して分析および意思決定を行うことができます。

専用コネクタを使用した外部 Salesforce オブジェクトデータへの接続 (パイロット)

会社の部署で、ビジネス固有の目的(進行状況の追跡、営業サイクルの短縮、関係維持など)のために Salesforce 機能およびオブジェクトの個別のグループを使用している場合、個別の Salesforce オブジェクトおよび機能コネクタを使用して、外部 Salesforce 組織から Analytics へのデータ同期をビジネスケースごとに設計、スケジュール、管理できるようになりました。Salesforce Service Cloud コネクタ、Salesforce Sales Cloud コネクタ、Salesforce Community Cloud コネクタ、Salesforce CPQ コネクタ、Salesforce Force.com コネクタを使用して、それらの外部オブジェクトグループのデータを同期します。これらのリモートコネクタにより、将来のクラウド固有および機能固有のデータ同期機能を実現するフレームワークが設定されます。

Google BigQuery 標準 SQL データの同期

新しい Google BigQuery Standard SQL コネクタを使用して、標準 SQL をサポートする大量の Google BigQuery データを Analytics に取り込みます。このコネクタでは、標準 SQL (WITH 句、SQL 関数、相関サブクエリなどを使用することで構成可能性が向上した最新の BigQuery 標準) がサポートされています。従来の SQL を使用する場合は、Google BigQuery コネクタを使用します。

OAuth 2.0 認証を使用した Marketing Cloud データの同期

新しい Salesforce Marketing Cloud 連絡先 OAuth 2.0 コネクタを使用して、テナント固有のエンドポイントと OAuth 2.0 認証で Marketing Cloud の連絡先データを Analytics に同期します。従来のエンドポイントを使用するか、または OAuth 2.0 認証を使用せずに Marketing Cloud パッケージアプリケーションを作成してある場合は、このコネクタではなく Salesforce Marketing Cloud 連絡先コネクタを使用してください。

ローカルオブジェクトのデータ同期のより詳細なスケジュール

個別にスケジュールされる最大 10 個のローカル接続を使用して、Salesforce から Einstein Analytics へのデータ同期のタイミングを戦略的に管理します。

外部接続から同期されているデータの絞り込み

データ同期の時間を短縮し、必要なデータのみを取り込むために、選択したリモートコネクタから接続済みオブジェクトと共にデータ同期検索条件を使用できるようになりました。以前は、リモートオブジェクトのすべてのデータをインポートし、データフローまたはレシピ検索条件を使用して、データセットの外部データを制限していましたが、最初の段階で、不要なデータや機密データをAnalyticsへの同期から除外できるようになりました。

Microsoft Azure SQL データベースコネクタと Netsuite コネクタの新しい制限

Microsoft Azure SQL データベースと Netsuite データソースへのコネクタの制限が更新されました。Microsoft Azure SQL データベースでは、最大 1 億行またはオブジェクトあたり 50 GB のいずれかの制限に達するまで同期できるようになりました。NetSuite コネクタでは、最大 10 万行またはオブジェクトあたり 500 MB のいずれかの制限に達するまで同期できるようになりました。

FIPS 140-2 検証済み暗号化組織の新しいコネクタ同期制限

Einstein Analytics リモートコネクタを使用すると、転送中の Salesforce Government Cloud 組織のデータは FIPS 140-2 検証済み暗号化によって保護されます。暗号化の強化により、Salesforce Government Cloud 組織で使用されているコネクタは、各接続済みオブジェクトあたり最大 1000 万行または 5 GB (先に到達した方) まで同期できます。ただし、NetSuite コネクタは他と異なり、最大 10 万行またはオブジェクトあたり 500 MB のいずれかの制限に達するまで同期できます。

より多くのユーザのデータセットの行レベルアクセス権の自動付与

制限が緩和され、オブジェクトの対象範囲が増えたため、より多くの状況で共有継承を使用して Salesforce オブジェクトの行レベルセキュリティ設定を Analytics データセットに適用できるようになりました。制限の緩和と対象範囲の増加は、より多くのユーザが Salesforce 共有設定の継承のメリットを得られ、1 回限りのセキュリティ述語の作成および管理が減少することを意味します。レコードアクセス権を付与するグループまたはユーザの共有が 3,000 未満の場合、共有継承がユーザに適用されるようになりました。オブジェクトの共有定義が 400 個未満の場合、商談、取引先、ケース、リード、取引先責任者オブジェクトから共有継承を適用できるようになりました。

保存できるデータフローの増加

増加したデータフローを使用して、Analytics のデータセットの生成を戦略的に管理できます。保存できるデータフローは、最大 30 個から最大 100 個 (3.333 倍) に増えました。この増加により、大きなデータフローを分割して実行時間を短縮したり、データフローをビジネス要件ごとに分割し、データの消費時にデータフローをスケジュールしたりできます。

Sandbox 組織および Developer Edition 組織でのスケジュールの自動削除の準備

スケジュールの自動削除により、すべての Salesforce ユーザの残りのデータ同期、データフロー、レシピジョブが迅速化されます。Sandbox 組織および Developer Edition 組織のデータ同期、データフロー、レシピのスケジュールが最後に保存されてから 90 日後に削除されるようになりました。頻繁に開発している場合、スケジュールは削除されません。スケジュールはいつでも再設定して、追加のテスト、トレーニング、最適化を行うことができます。スケジュールが削除されると、データ同期、データフロー、レシピの通知に登録されているすべてのユーザに、そのことを知らせるメールが送信されます。

稼働前確認を使用して Einstein Analytics を有効化するときに最新情報を把握

新しい稼働前確認およびその他の情報が豊富なウィンドウで、最初の管理タスクである Einstein Analytics の有効化についての詳細が表示されるようになりました。稼働前確認には有効化プロセスが表示され、何が起きているかを理解するのに役立ちます。有効化に成功した場合は確認が通知され、失敗した場合は問題を修正して再試行するためのヘルプが画面に表示されます。いずれにしても、Einstein Analytics が組織内でどのように機能するかについてより多くの洞察を得ることができます。

接続された RDS および Aurora システムからの現在または新しい Amazon SSL/TLS 証明書の使用

いずれかの Einstein Analytics Amazon RDS コネクタを使用するリモート接続では、更新された Amazon SSL/TLS 証明書が自動的にサポートされます。Amazon データベース管理者がその SSL/TLS 証明書を更新した後も、Einstein Analytics の接続とデータ同期は Salesforce で通常どおり続行されます。

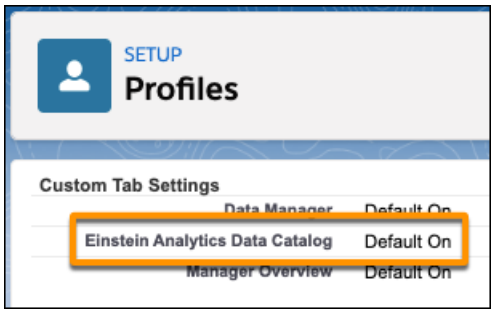
データセット、レンズ、ダッシュボード、ストーリーデータの取得元の視覚化

AppExchange の無料の Data Catalog アプリケーションは、どのようにデータが相互接続されているかを把握し、系統グラフを使用してそのソースへのデータの系統を視覚化するのに役立ちます。ダッシュボード、レンズ、ストーリーを使用してビジネス上の意思決定を行いますが、ソースオブジェクトまたはデータセットを見つけることが難しく、設定の調整や古いデータの更新ができない場合があります。今回のリリースでは、データの取得元や関連付けられている Analytics アセットをすばやく調べることができるようになりました。

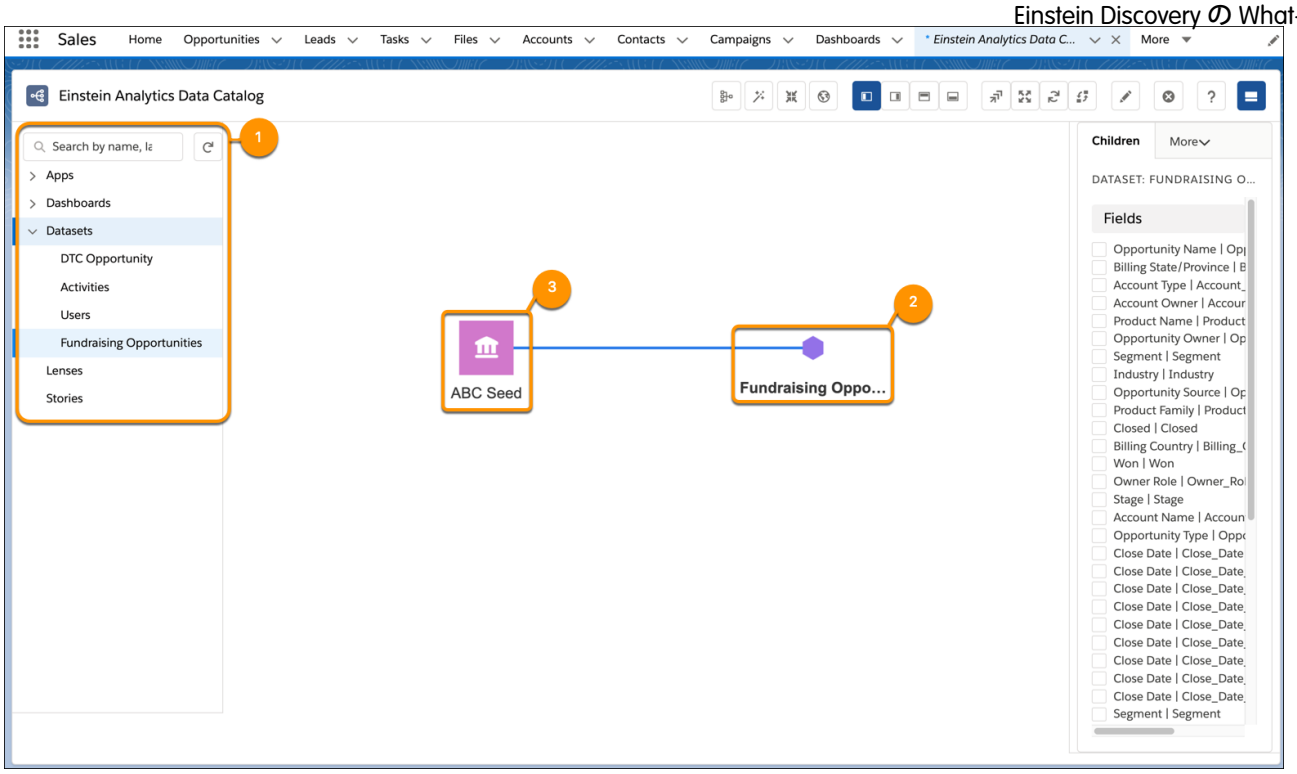
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Einstein Analytics Data Catalog アプリケーションは、Salesforce Labs によって構築されています。Salesforce Labs アプリケーションは無料で使用できますが、正式な Salesforce 製品ではありません。Salesforce Labs アプリケーションについてサポートが必要な場合は、Trailblazer Community にアクセスしてください。

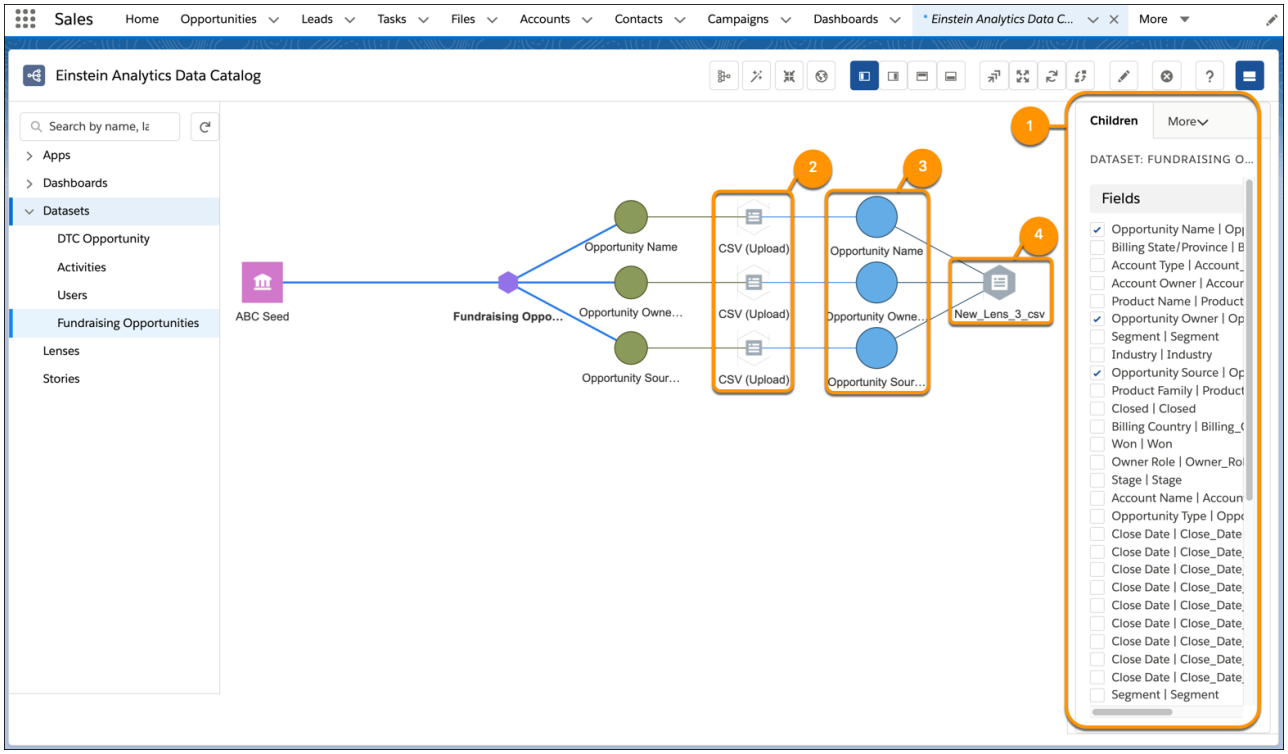
方法: AppExchange から Einstein Analytics Data Catalog アプリケーションをインストールします。[私のドメイン] を確認したら、組織の [私のドメイン] サブドメインを設定します。Data Catalog を使用するユーザグループの Einstein Analytics Data Catalog カスタムタブプロファイル設定を [デフォルトで表示] または [デフォルトで非表示] に設定します。



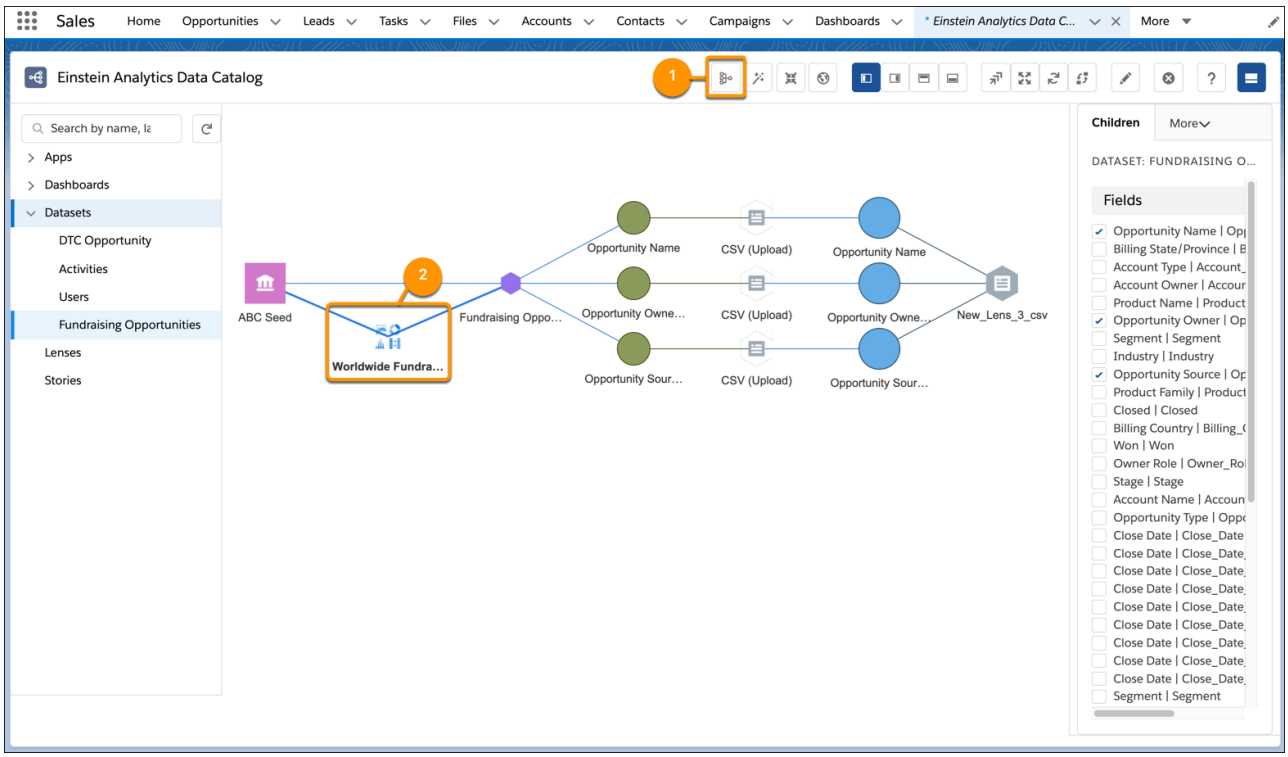
アプリケーションランチャーから **[Einstein Analytics Data Catalog]** アプリケーションを見つけて開きます。調べるアプリケーション、ダッシュボード、データセット、レンズ、ストーリーを選択または検索すると (1)、選択した内容がキャンバスに表示されます (2)。選択したアセットから関連する他のアセット (アプリケーションなど) に線が放射されます (3)。



データ系統を調べるには、調査する子項目を選択します (1)。コネクタまたは読み込み方法 (2)、ローカルまたはリモート項目名 (3)、ローカルデータソース、リモートデータソース、読み込まれたデータソース (4) が視覚化されます。



アセットが使用されている場所を調べるには、[連動関係の表示] をクリックします (1)。ダッシュボード (2) またはその他のアセットは、それらのアセットのアプリケーションと連動してグラフ化されます (まだ表示されていない場合)。



関連トピック:

AppExchange: Einstein Analytics Data Catalog (Einstein Analytics データカタログ)

Einstein Analytics Plus ライセンスを使用した 10 倍多いデータの分析

Einstein Analytics Plus ライセンスの行の上限がすべての登録済みデータセットを対象に 10 億から 100 億に増加しました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Einstein Analytics Plus ユーザに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 何もしなくても、すべての登録済みデータセットで拡張された 100 億行のデータ容量を利用できます。既存の Einstein Analytics Plus ライセンス保有者には新しい容量が再プロビジョニングされ、新規ユーザは自動的に使用できるようになります。

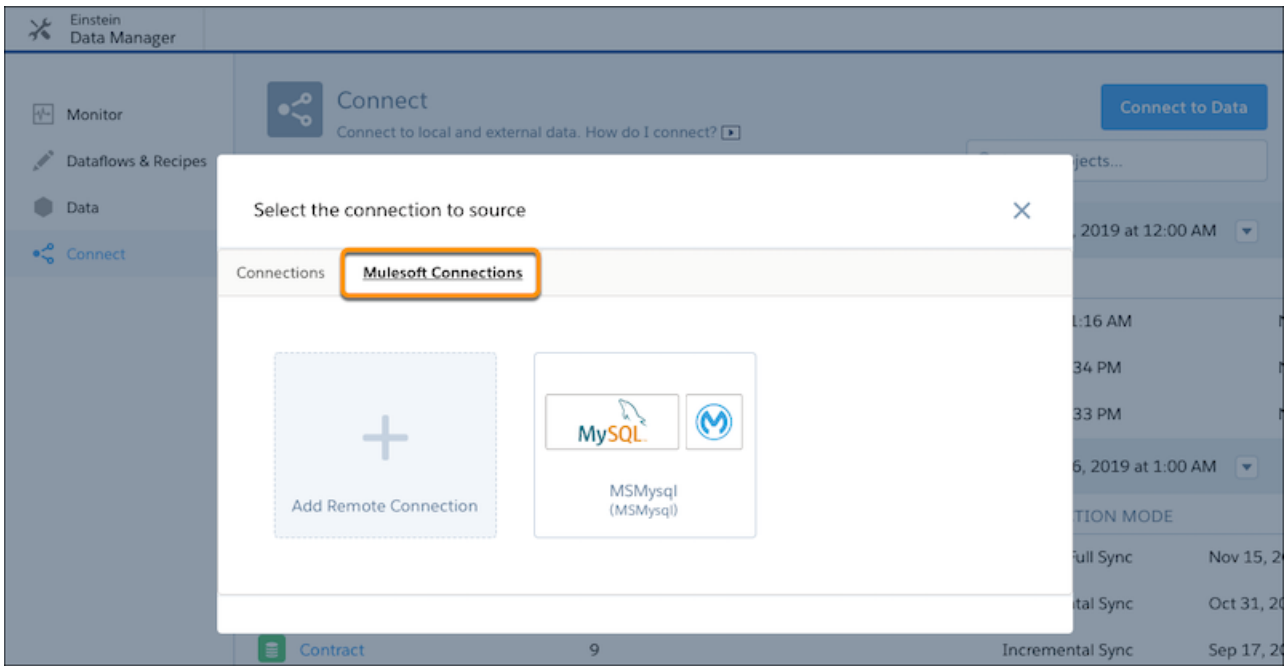
Mulesoft で接続されたデータソースからの同期

Einstein Analytics 用の Analytics Mulesoft コネクタを使用してコードなしで CloudHub 経由でクラウドベースのデータソースを Analytics に取り込みます。Analytics Mulesoft コネクタを使用して、AWS RDS の Microsoft SQL Server、AWS RDS の MySQL、AWS RDS の Oracle に接続できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

この機能を設定するには、個別に購入または取得した Mulesoft ライセンスが必要です。30 日間の Mulesoft トライアルライセンスがサポートされています。

方法: リリースするアクセス権のある CloudHub ログイン情報を Mulesoft システム管理者に問い合わせます。Einstein Analytics データマネージャの [接続] タブの [Mulesoft 接続] タブで、Mulesoft Analytics コネクタとの接続を作成します。



Analytics により、Mule を実行する CloudHub にテンプレートが自動的にリリースされ、ソースシステムと安全に接続されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Mulesoft Analytics コネクタ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Mulesoft で接続された SAP SuccessFactors からのデータの同期

Einstein Analytics 用の Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタを使用してコードなしで CloudHub 経由でクラウドベースの SuccessFactors データを Analytics に取り込みます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Einstein Analytics Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

この機能を設定するには、個別に購入または取得した Mulesoft ライセンスが必要です。30 日間の Mulesoft トライアルライセンスがサポートされています。

方法: リリースするアクセス権のある CloudHub ログイン情報を Mulesoft システム管理者に問い合わせます。Einstein Analytics データマネージャの [接続] タブの [Mulesoft 接続] タブで、Analytics Mulesoft SAP SuccessFactor コネクタとの接続を作成します。Analytics により、Mule を実行する CloudHub にテンプレートが自動的にリリースされ、ソースシステムと安全に接続されます。

Analytics への Customer 360 グローバルプロファイルデータの取り込み (ベータ)

Customer 360 Data Manager を使用して、Salesforce 全体で顧客を識別するグローバルプロファイルを作成していましたが、Customer 360 グローバルプロファイルデータコネクタでは、このプロファイルを他の Salesforce およびリモートデータと共に使用して、Einstein Analytics で分析できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Customer 360 Data Manager で Service Cloud または Commerce Cloud に接続するには、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition が必要です。

メモ: Customer 360 グローバルプロファイルデータコネクタはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 Data Manager アドオンサブスクリプションの対象となるユーザが使用できます。このコネクタを使用するには、システム管理者に「Analytics リモート接続を追加」、「Analytics データフローの編集」、および「Analytics の使用」権限が必要です。

方法: このコネクタを使用する前に、Customer 360 Data Manager のデータソースとして Salesforce 組織を Einstein Analytics に接続します。接続済みデータソースからデータを作成して Customer 360 Data Manager に読み込んで処

理し、グローバルプロファイルに送ります。次に、グローバルプロファイルデータを Einstein Analytics に転送します。

Customer 360 Data Manager の設定が完了したら、[Analytics 設定] 設定ページで **[Customer 360 Data Manager のグローバルプロファイルデータからダッシュボードを作成]** チェックボックスをオンにして、このコネクタを有効にできます。この設定により、Customer 360 データにアクセスできるようになり、データアーキテクトやクロスクラウドシステム管理者などが追加の分析を行うことができます。Einstein Analytics データマネージャの [接続] タブで、Customer 360 グローバルプロファイルデータコネクタとの接続を作成します。

関連トピック:

- Analyze Your Global Profile Data with Einstein Analytics (Einstein Analytics を使用したグローバルプロファイルデータの分析) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Customer 360 グローバルプロファイルデータ接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA のデータへの接続 [パイロット]

SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタを使用することで、より多くのリモートデータを Analytics に接続して分析および意思決定を行うことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Einstein Analytics Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

時期: これらの新しいコネクタは、Spring '20 リリースでローリング方式で追加されます。

方法: データマネージャの [接続] タブで、新しい SugarCRM、Zendesk、Teradata、Google Cloud Storage、SAP SuccessFactors、Zuora AQuA コネクタとの接続を作成します。

専用コネクタを使用した外部 Salesforce オブジェクトデータへの接続 (パイロット)

会社の部署で、ビジネス固有の目的 (進行状況の追跡、営業サイクルの短縮、関係維持など) のために Salesforce 機能およびオブジェクトの個別のグループを使用している場合、個別の Salesforce オブジェクトおよび機能コネクタを使用して、外部 Salesforce 組織から Analytics へのデータ同期をビジネスケースごとに設計、スケジュール、管理できるようになりました。Salesforce Service Cloud コネクタ、Salesforce Sales Cloud コネクタ、Salesforce Community Cloud コネクタ、Salesforce CPQ コネクタ、Salesforce Force.com コネクタを使用して、それらの外部オブジェクトグループのデータを同期します。これらのリモートコネクタにより、将来のクラウド固有および機能固有のデータ同期機能を実現するフレームワークが設定されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Salesforce Service Cloud、Salesforce Sales Cloud、Salesforce Community Cloud、Salesforce CPQ、Salesforce Force.com コネクタは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Salesforce Service Cloud、Salesforce Sales Cloud、Salesforce Community Cloud、Salesforce Force.com、Salesforce CPQ コネクタは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Salesforce Service Cloud、Salesforce Sales Cloud、Salesforce Community Cloud、Salesforce Force.com、Salesforce CPQ コネクタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Einstein Analytics Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

方法: データマネージャの [接続] タブで、新しい Salesforce Service Cloud コネクタ、Salesforce Sales Cloud コネクタ、Salesforce Community Cloud コネクタ、Salesforce CPQ コネクタ、Salesforce Force.com コネクタとの接続を作成します。

Google BigQuery 標準 SQL データの同期

新しい Google BigQuery Standard SQL コネクタを使用して、標準 SQL をサポートする大量の Google BigQuery データを Analytics に取り込みます。このコネクタでは、標準 SQL (WITH 句、SQL 関数、相関サブクエリなどを使用することで構成可能性が向上した最新の BigQuery 標準) がサポートされています。従来の SQL を使用する場合は、Google BigQuery コネクタを使用します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データマネージャの [接続] タブで、新しい Google BigQuery Standard SQL コネクタとの接続を作成します。

OAuth 2.0 認証を使用した Marketing Cloud データの同期

新しい Salesforce Marketing Cloud 連絡先 OAuth 2.0 コネクタを使用して、テナント固有のエンドポイントと OAuth 2.0 認証で Marketing Cloud の連絡先データを Analytics に同期します。従来のエンドポイントを使用するか、または OAuth 2.0 認証を使用せずに Marketing Cloud パッケージアプリケーションを作成してある場合は、このコネクタではなく Salesforce Marketing Cloud 連絡先コネクタを使用してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データマネージャの [接続] タブで、Salesforce Marketing Cloud 連絡先 OAuth 2.0 コネクタとの接続を作成します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:Salesforce Marketing Cloud 連絡先 OAuth2.0 接続

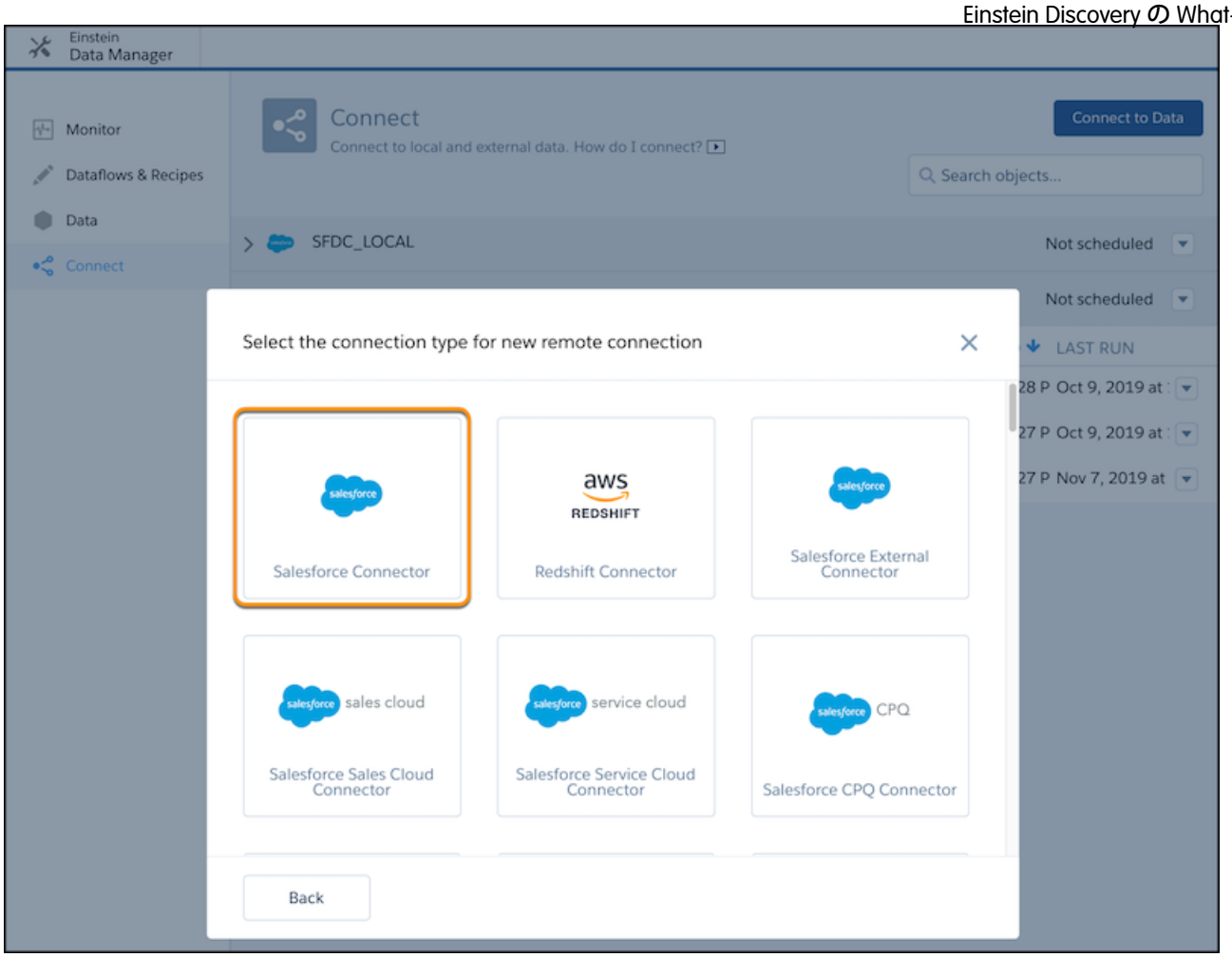
ローカルオブジェクトのデータ同期のより詳細なスケジュール

個別にスケジュールされる最大 10 個のローカル接続を使用して、Salesforce から Einstein Analytics へのデータ同期のタイミングを戦略的に管理します。

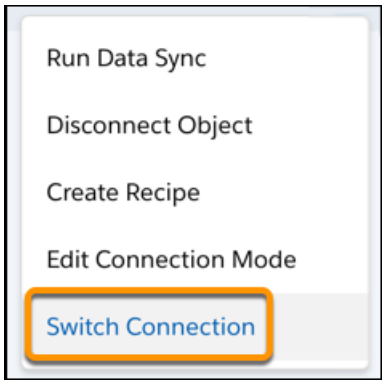
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: データ同期は最大15分ごとにスケジュールできますが、大きなオブジェクトが大量にあると、SFDC_Local 接続が時間内に終了しない可能性があります。以前は、頻度の低い同期しか選択できませんでしたが、複数のローカル接続および同期スケジュールを使用してデータ同期のスケジュール戦略を制御し、分析目標を達成できるようになりました。定期的に更新される戦略データがあるオブジェクトを、頻度の高いデータ同期を迅速に実行する独自の接続に移動できます。また、週に 1 回しか更新されないオブジェクトを、データ同期が週次でスケジュールされている独自の接続に移動し、他のすべてのローカルオブジェクトの同期を迅速化することもできます。

方法: データマネージャの [接続] タブで、Salesforce コネクタオプションを使用して SFDC_Local 接続を作成します。



コネクタの設定時に、接続にまだ割り当てられていないオブジェクトを追加します。ローカル接続間でオブジェクトを移動するには、オブジェクトの横にある下矢印をクリックして [接続を切り替え] を選択します。



各ローカル接続のデータ同期スケジュールを設定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce ローカルコネクタ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部接続から同期されているデータの絞り込み

データ同期の時間を短縮し、必要なデータのみを取り込むために、選択したリモートコネクタから接続済みオブジェクトと共にデータ同期検索条件を使用できるようになりました。以前は、リモートオブジェクトのすべてのデータをインポートし、データフローまたはレシピ検索条件を使用して、データセットの外部データを制限していましたが、最初の段階で、不要なデータや機密データを Analytics への同期から除外できるようになりました。

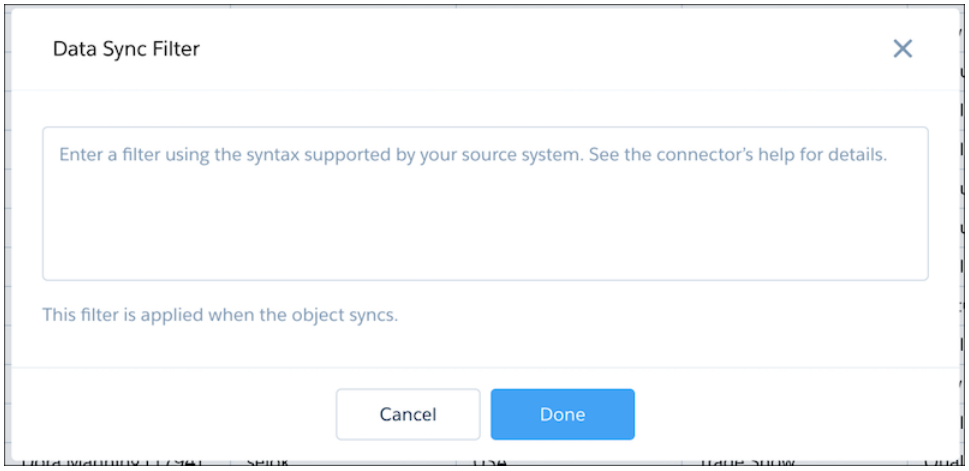
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 絞り込みのサポートは、Spring '20 リリースでローリング方式で追加されます。

方法: 次のコネクタでデータ同期検索条件を使用します。

- Salesforce 外部
- Amazon RDS
- Amazon Redshift
- Google BigQuery
- Heroku Postgres
- Microsoft Azure SQL データウェアハウス
- Microsoft Azure SQL データベース
- Snowflake Computing

接続済みリモートオブジェクトを追加または変更するときに [ソースデータをプレビュー] ページの をクリックします。リモートコネクタのヘルプに記載されている接続済みデータソースの構文を使用して検索条件を入力します。



Microsoft Azure SQL データベースコネクタと Netsuite コネクタの新しい制限

Microsoft Azure SQL データベースと Netsuite データソースへのコネクタの制限が更新されました。Microsoft Azure SQL データベースでは、最大 1 億行またはオブジェクトあたり 50 GB のいずれかの制限に達するまで同期できるようになりました。NetSuite コネクタでは、最大 10 万行またはオブジェクトあたり 500 MB のいずれかの制限に達するまで同期できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

FIPS 140-2 検証済み暗号化組織の新しいコネクタ同期制限

Einstein Analytics リモートコネクタを使用すると、転送中の Salesforce Government Cloud 組織のデータは FIPS 140-2 検証済み暗号化によって保護されます。暗号化の強化により、Salesforce Government Cloud 組織で使用されているコネクタは、各接続済みオブジェクトあたり最大 1000 万行または 5 GB (先に到達した方) まで同期できます。ただし、NetSuite コネクタは他と異なり、最大 10 万行またはオブジェクトあたり 500 MB のいずれかの制限に達するまで同期できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

より多くのユーザのデータセットの行レベルアクセス権の自動付与

制限が緩和され、オブジェクトの対象範囲が増えたため、より多くの状況で共有継承を使用して Salesforce オブジェクトの行レベルセキュリティ設定を Analytics データセットに適用できるようになりました。制限の緩和と対象範囲の増加は、より多くのユーザが Salesforce 共有設定の継承のメリットを得られ、1 回限りのセキュリティ述語の作成および管理が減少することを意味します。レコードアクセス権を付与するグループまたはユーザの共有が 3,000 未満の場合、共有継承がユーザに適用されるようになりました。オブジェクトの共有定義が 400 個未満の場合、商談、取引先、ケース、リード、取引先責任者オブジェクトから共有継承を適用できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [設定] の [共有継承の対象範囲の評価] ツールを使用して、新しい制限でオブジェクトとユーザの対象範囲を評価します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: データセットの Salesforce 共有継承

保存できるデータフローの増加

増加したデータフローを使用して、Analytics のデータセットの生成を戦略的に管理できます。保存できるデータフローは、最大 30 個から最大 100 個 (3.333 倍) に増えました。この増加により、大きなデータフローを分割して実行時間を短縮したり、データフローをビジネス要件ごとに分割し、データの消費時にデータフローをスケジュールしたりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Sandbox 組織および Developer Edition 組織でのスケジュールの自動削除の準備

スケジュールの自動削除により、すべての Salesforce ユーザの残りのデータ同期、データフロー、レシピジョブが迅速化されます。Sandbox 組織および Developer Edition 組織のデータ同期、データフロー、レシピのスケジュールが最後に保存されてから 90 日後に削除されるようになりました。頻繁に開発している場合、スケジュールは削除されません。スケジュールはいつでも再設定して、追加のテスト、トレーニング、最適化を行うことができます。スケジュールが削除されると、データ同期、データフロー、レシピの通知に登録されているすべてのユーザに、そのことを知らせるメールが送信されます。

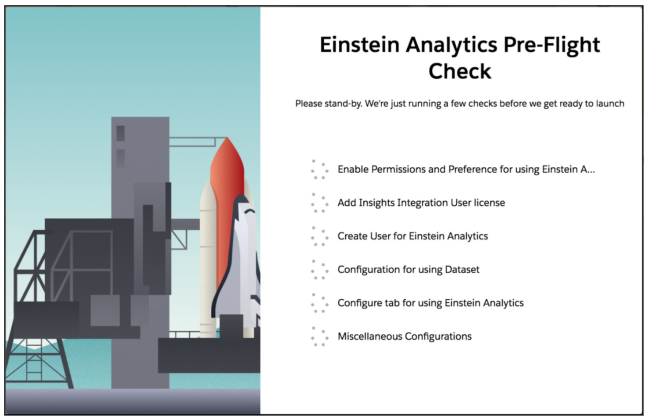
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

稼働前確認を使用して Einstein Analytics を有効化するときに最新情報を把握

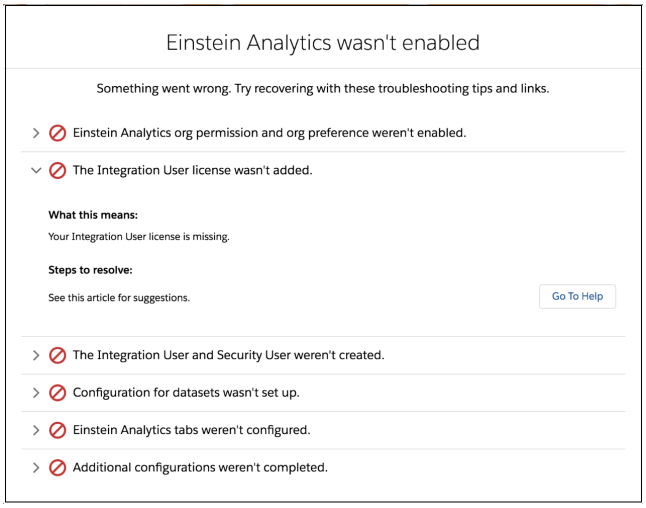
新しい稼働前確認およびその他の情報が豊富なウィンドウで、最初の管理タスクである Einstein Analytics の有効化についての詳細が表示されるようになりました。稼働前確認には有効化プロセスが表示され、何が起きているかを理解するのに役立ちます。有効化に成功した場合は確認が通知され、失敗した場合は問題を修正して再試行するためのヘルプが画面に表示されます。いずれにしても、Einstein Analytics が組織内でどのように機能するかについてより多くの洞察を得ることができます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [設定] > [Analytics] > [始めましょう] ページで、**[Einstein Analytics を有効化]** をクリックします。稼働前確認が表示され、バックグラウンドプロセスと設定に関する情報が表示されます。ここでメモを取っておくと、将来その他の機能を設定するときに役立ちます。



数分以内に、ほとんどのシステム管理者は成功メッセージを受け取ります。問題が発生した場合は、詳細なエラーメッセージで復旧に役立つトラブルシューティングのヒントが示されます。



接続された RDS および Aurora システムからの現在または新しい Amazon SSL/TLS 証明書の使用

いずれかの Einstein Analytics Amazon RDS コネクタを使用するリモート接続では、更新された Amazon SSL/TLS 証明書が自動的にサポートされます。Amazon データベース管理者がその SSL/TLS 証明書を更新した後も、Einstein Analytics の接続とデータ同期は Salesforce で通常どおり続行されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein Analytics Amazon RDS Remote Connectors (Einstein Analytics Amazon RDS リモートコネクタ)

AWS Database Blog (AWS データベースブログ): Amazon RDS customers: Update your SSL/TLS certificates by February 5, 2020 (Amazon RDS のお客様各位: 2020 年 2 月 5 日までに SSL/TLS 証明書を更新してください)

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Analytics Design、Analytics for Consumer Goods、Adoption Analytics アプリケーションの簡単な作成、Accuracy Analytics

Analytics Design アプリケーションで、独自の優れたアプリケーションを作成します。Consumer Goods アプリケーションを使用して、小売業の業績を改善します。また、数回クリックするだけで Adoption Analytics アプリケーションを作成し、Accuracy Analytics を使用して Einstein Discovery ストーリーの信頼性を高めることができます。

このセクションの内容:

Einstein Analytics Design を使用した独自の優れたアプリケーションの迅速な作成

Einstein Analytics Design テンプレートは、独自の Analytics アプリケーションの設計および開発の出発点となります。内部の Salesforce 設計ガイドラインに準拠する既成のダッシュボード、グラフ、ウィジェットテンプレートと共にこのテンプレートを使用して、アプリケーションを作成します。独自の色でアプリケーションをブランド設定し、設計を各自のデータに適用して、迅速にそれぞれのアプリケーションの使用を開始します。

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した小売業の業績の促進

Analytics for Consumer Goods アプリケーションは、意志決定者に Salesforce Consumer Goods Cloud データに関するインサイトを提示します。このアプリケーションを使用して、売上の増大、店舗のコンプライアンスの向上、リスクの高い店舗の特定、営業担当の効率性の最大化に取り組みます。

Salesforce アンケート用の Einstein Analytics を使用したアンケートデータに関するインサイトの迅速な取得

Salesforce アンケートアプリケーションを使用して、Salesforce の任意の場所にアンケートへの回答の総計値を表示し、作業している場所から直接顧客に関するインサイトを取得します。

管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法

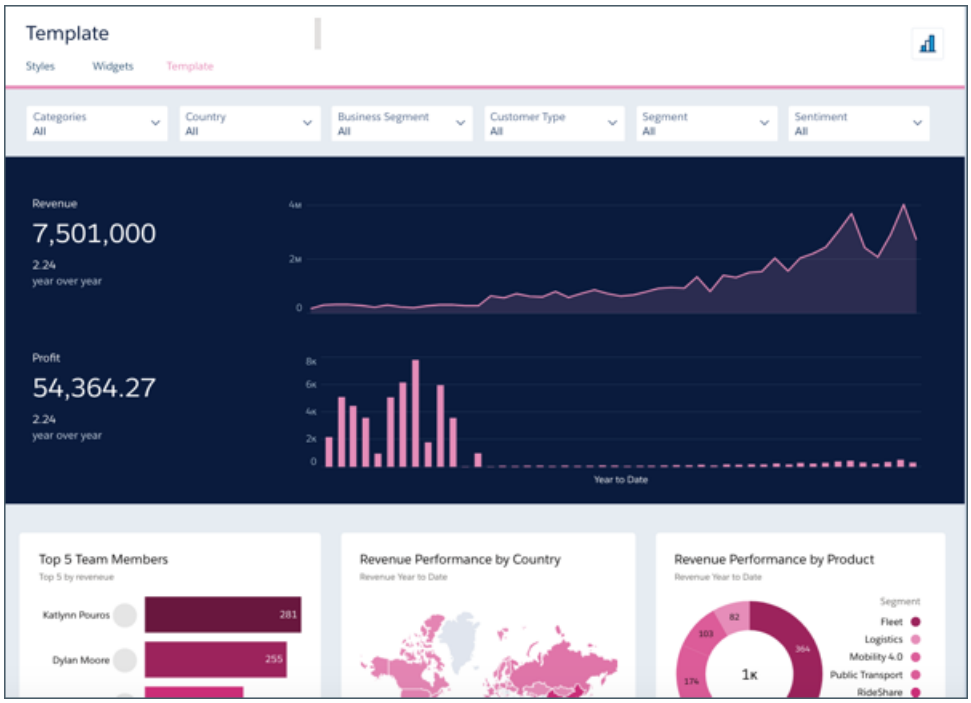
数回クリックするだけで、最新バージョンの Adoption Analytics でアプリケーションを作成できます。標準の Analytics アプリケーションプロセスに従って、チームが Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットをどのように使用しているかを測定するアプリケーションをチームに提供します。管理パッケージをダウンロードして設定しなくても、Analytics アセットのメタデータを抽出できます。

Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の信頼性向上

Einstein Discovery からのインサイトをすばやく調整する方法をお探しですか? Einstein Accuracy Analytics テンプレートを使用して、Einstein Discovery ストーリーからの予測の精度を分析し、向上してください。

Einstein Analytics Design を使用した独自の優れたアプリケーションの迅速な作成

Einstein Analytics Design テンプレートは、独自の Analytics アプリケーションの設計および開発の出発点となります。内部の Salesforce 設計ガイドラインに準拠する既成のダッシュボード、グラフ、ウィジェットテンプレートと共にこのテンプレートを使用して、アプリケーションを作成します。独自の色でアプリケーションをブランド設定し、設計を各自のデータに適用して、迅速にそれぞれのアプリケーションの使用を開始します。



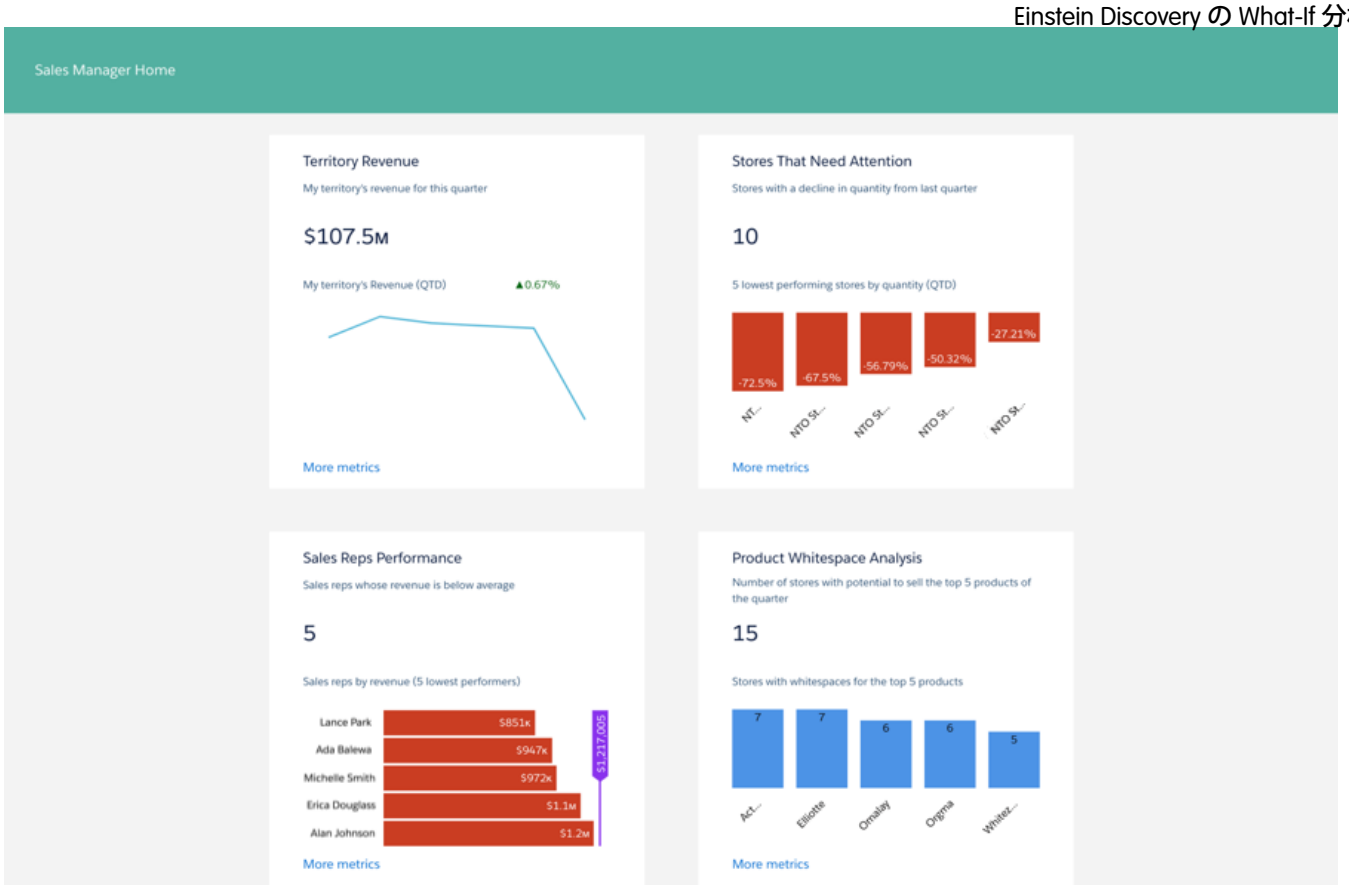
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Einstein Analytics Design テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンスがあり、Sales Analytics アプリケーションが作成されている必要があります。

方法: Analytics Studio で [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。Einstein Analytics Design テンプレートを選択します。ウィザードに従って残りの手順を進めます。

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した小売業の業績の促進

Analytics for Consumer Goods アプリケーションは、意志決定者に Salesforce Consumer Goods Cloud データに関するインサイトを提示します。このアプリケーションを使用して、売上の増大、店舗のコンプライアンスの向上、リスクの高い店舗の特定、営業担当の効率性の最大化に取り組みます。



対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した業績の促進

Salesforce アンケート用の Einstein Analytics を使用したアンケートデータに関するインサイトの迅速な取得

Salesforce アンケートアプリケーションを使用して、Salesforce の任意の場所にアンケートへの回答の総計値を表示し、作業している場所から直接顧客に関するインサイトを取得します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Customer Lifecycle Analytics を使用した顧客アンケートデータのアクション可能なインテリジェンスへの変換

管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法

数回クリックするだけで、最新バージョンの Adoption Analytics でアプリケーションを作成できます。標準の Analytics アプリケーションプロセスに従って、チームが Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットをどのように使用しているかを測定するアプリケーションをチームに提供します。管理パッケージをダウンロードして設定しなくても、Analytics アセットのメタデータを抽出できます。

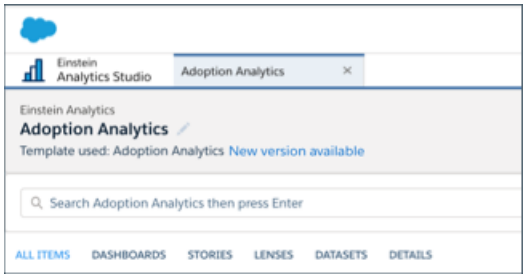
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Analytics Adoption テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Growth または Einstein Analytics Plus ライセンスが必要です。

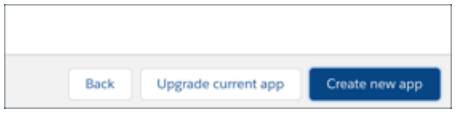
理由: Adoption Analytics アプリケーションは、チームが Analytics アセット (アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズ) をどのように使用しているかを示す既成のインサイトを提供します。さらに、アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズを、データを取得したデータセットに対応付けることで、Analytics アセットがどのようにデータセットを使用しているかを示します。

方法: Analytics Studio で [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。アプリケーションを初めて作成する場合は、Adoption Analytics テンプレートを選択します。ウィザードに従って残りの手順を進めます。

すでにアプリケーションを作成してある場合は、アプリケーションのホームページにある [新しいバージョンをご利用いただけます] のリンクをクリックして、ウィザードの指示に従います。



ウィザードの3ページ目で、現在のアプリケーションをアップグレードするか、新しいアプリケーションを作成するかを選択します。



[現在のアプリケーションをアップグレード] を選択すると、Analytics は Analytics Adoption の使用状況を追跡するための WaveChangeEA データセットに履歴ログデータを記録します。[新規アプリケーションを作成] を選択すると、Analytics は現在のアプリケーションをそのまま保持し、新しいバージョンに基づいて新しいアプリケーションを作成します。新しいアプリケーションは、作成時からのログデータを収集して、これからのアセットの使用状況に基づいてログを更新します。

Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の信頼性向上

Einstein Discovery からのインサイトをすばやく調整する方法をお探しですか? Einstein Accuracy Analytics テンプレートを使用して、Einstein Discovery ストーリーからの予測の精度を分析し、向上してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Einstein Accuracy Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンスが必要です。

方法: Analytics Studio で [モデルマネージャ] に移動し、分析するモデルを選択して [精度を分析] ボタンをクリックします。画面の説明に従って、モデルの以前の予測の精度を評価するダッシュボードを開きます。精度スコア (1) (正しい予測 (3) を予測総数で除算した数) が表示されます。トレンドグラフ (4) で経時的な精度を確認することもできます。

Analytics アプリケーションの構築: 直接データクエリ、ダッシュボード公開者によるコラボレーション、テンプレートのコネクタおよび複数のデータフロー

Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。公開者機能により、チームはビジネスユーザと共有する前にダッシュボードに関するコラボレーションを行うことができます。Analytics テンプレートフレームワークでコネクタおよび複数のデータフローのサポートが追加され、フレームワークの JSON 変換エンジンによって JSON が Lightning Experience から変換されます。

このセクションの内容:

Direct Data によるデータセットを使用しない Salesforce データの探索

Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Salesforce データを探索するために、データ同期を設定したり、データの準備を完了させたりする必要がなくなりました。Direct Data クエリは、データ変更の頻度が高い場合や、スケジュール済みデータフローの頻度が不十分な場合に特に役立ちます。Direct Data を使用すると、ダッシュボードデザイナのエクスプローラで Salesforce オブジェクトを照会し、クエリエディタで Salesforce Object Query Language (SOQL) クエリを編集できます。

1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (ベータ)

ビジネスに関する質問への回答では、現在のデータセット以外のコンテキストが必要になる場合があります。データセット構造とデータの探索方法が適合していないこともあります。または、探索中に現在のデータセットにないデータが必要であることに気づく場合もあります。心配いりません。データのブレンドを使用すると、もう一度データを準備して、結合されたデータセットを作成する必要がなくなります。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドし、ブレンドされたデータを 1 つのデータセットと同じように照会できるようになりました。

基準およびグループセレクタでの項目の簡単な識別

基準およびグループセレクタに項目の表示ラベルと名前の両方が表示されるようになったため、目的の項目を簡単に選択できるようになりました。両方の識別子があるため、エクスプローラで視覚化を作成するときに、適切な項目を選択しているのかどうかを推測する必要がなくなりました。

バインドからインタラクションへの名称変更

インタラクション (旧称バインド) により、ダッシュボードのさまざまなコンポーネントのやりとりが可能になります。クエリ間のインタラクションを作成して、ダッシュボードをカスタマイズできます。お客様のフィードバックに基づいて名前を変更しましたが、プロセスとワークフローは変更されていません。

高度なインタラクションエディタを使用した簡単なインスタンスの作成

インタラクション (旧称バインド) を使用すると、Einstein Analytics ダッシュボードの多くの部分を強化できます。新しい高度なインタラクションエディタでは、ダッシュボードデザイナから移動することなく、ウィジェットやクエリのインタラクションを作成できます。新しいエディタからコードではなくクリックを使用して、同じウィジェットやクエリの複数のインタラクションを作成したり、結果をプレビューしたり、インタラクションを挿入したりできます。

コードを使用しないグラフの動的基準線の作成

グラフウィジェットのプロパティパネルで、動的基準線を作成できるようになりました。これにより、作成者のクリックとコードに費やす時間を節約できます。基準線を使用すると、コンテキストが追加され、ユーザがグラフデータを理解しやすくなります。以前は、動的基準線および表示ラベルは、インタラクション (バインド) やコードを使用しないと作成できませんでした。

コードを使用しない対象を絞ったファセットの指定

対象を絞ったファセットを使用すると、ダッシュボード設計者はリストを含めたり、除外したりして特定のクエリのみをファセットできます。これらの作業は、すべてダッシュボードデザイナ内のクリック操作で行うことができます。ファセットは、ウィジェット間のインタラクションを指定する最も簡単かつ一般的な方法です。以前は、すべてファセットするか、ファセットしないかの 2 択でした。また、コードを使用せずに例外または他の重要なカスタマイズでファセットを設定することもできませんでした。

組み込みダッシュボードからレコードを開く方法の管理

ウィジェットのドロップダウンからレコードを開いた後にダッシュボードに簡単に移動するには、[設定] で [Salesforce レコードを新しいブラウザタブで開く] 設定を有効にします。こうすることで、レコードを開いても、現在のダッシュボードがそのブラウザタブで開いたままになります。

ウィジェットカスタムオンボーディングへの URL の追加

カスタマイズされたダッシュボードウィジェットオンボーディングで任意のWebサイトのコンテンツをユーザに提供できるようになりました。ダッシュボードの任意のグラフやテーブルに学習オプションを追加できます。ユーザがそれを選択すると、専用の教育リソースが含まれるオンボーディングフレームワークが表示されます。オンボーディングフレームワーク内で、ユーザは動画を再生したり、Web ページ内のリンクに移動したりできます。組み込みダッシュボードでは、ドラッグ可能でサイズ変更可能なフレームワークを任意の Salesforce ページでフロート表示できるようになり、ダッシュボードの領域に制限されることがなくなりました。

更新された Einstein Analytics レコードアクションの確認

Einstein Analytics アセットからのレコードアクションに Lightning Experience デザインが適用されるようになりました。Visualforce アクションを含む、以前にサポートされていたすべてのレコードアクションは引き続き機能します。新しくサポートされるレコードアクションには、フローアクションと Lightning アクションが含まれます。Lightning Experience のスタイルを使用することで、ユーザは Salesforce 全体で視覚的に魅力的かつ一貫した環境を使用できます。

テーブルへの総計および小計の表示

合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。以前は列をテーブルに追加して、この計算を自分で実行する必要がありました。数回クリックするだけで総計と小計を追加または削除できるようになりました。ウィンドウ関数では総計のみがサポートされ、小計はサポートされません。Spring '20 では、この機能が新規組織と既存の組織の両方で有効になります。

レンズおよびダッシュボードでの数値形式のカスタマイズ

すでに使用可能なプリセットの書式設定オプションに加えて、数値形式パネルで小数点と 3 桁ごとの区切り文字を選択してカスタム数値形式を作成できるようになりました。定義済みの数値形式を選択してそこから編集するか、独自のカスタム文字列を入力して開始します。

グラフおよびウィジェットでの合理化された数値の動作

以前は、グラフ、表、および数値ウィジェットで数値形式の動作が異なっていました。ユーザは、Einstein Analytics で数値を操作する場所に関係なく、一貫した数値の操作性を得られるようになりました。主な特長として、負および 0 のカスタム形式を指定できます。

パッケージおよび変更セットへのユーザ拡張メタデータ (XMD) の追加

拡張メタデータ (XMD) を使用すると、Analytics ダッシュボードおよびレンズのデータセット項目とその値の形式、デフォルトの動作、アクション可能性をカスタマイズできます。組織間でマスタユーザ XMD を移動するプロセスが簡略化されました。ユーザ XMD を編集するたびに、マスタユーザ XMD が一致するように自動的に更新されるようになりました。

コンパクトフォーム 2.0 への準拠 (ベータ)

新しいバージョンのコンパクトフォーム (任意のデータ型に対して複数のデータセットおよびクエリを処理するために構築された JSON 内のクエリの表現) に慣れてください。これは、今後のいくつかのリリースで段階的に導入されますが、データがブレンドされたクエリが含まれるダッシュボードの JSON が表示されている場合は現時点で確認できます。

公開者機能を使用したバックグラウンドでの新しいバージョンのダッシュボードに関するコラボレーション (正式リリース)

公開者機能を使用すると、現在のバージョンのダッシュボードを稼働させたまま、ドラフトバージョンの確認、テスト、編集を行うことができます。新しいバージョンを公開する準備が整うまで、Analytics Studio ユーザには引き続き現在のライブバージョンが表示されます。

Analytics テンプレートでの複数のデータフローとのデータインテグレーションのきめ細かな制御

テンプレートからアプリケーションを作成する場合、Einstein Analytics で複数のデータフローを処理できるようになりました。テンプレートユーザは、アプリケーションのデータセットおよびダッシュボードに入力されるデータを詳細に制御できます。

コネクタを Analytics テンプレートに追加することによる複数のソースからアプリケーションへのデータのインポート

Analytics コネクタを Analytics テンプレートに追加することで、アプリケーションを作成したときに外部ソースからアプリケーションにデータをインポートできるようになります。

Lightning Experience の任意の場所での JSON コンテンツの変換

Analytics テンプレートフレームワークの JSON 変換エンジンを任意の開発環境の Lightning Experience で直接使用できます。Lightning コンポーネントを使用して、エンジンは JSON ドキュメントから入力を取得して定義した値およびルールを適用し、JSON ドキュメントを変換します。

Analytics Web SDK を使用した読み込まれたアセットへの対応

新しい `wave:assetLoaded` Web SDK イベントを使用して、初回読み込み時と後続のリセット時の Analytics アセットの読み込みの終了をリスンして対応します。

ダッシュボードデザイナの JSON の変更

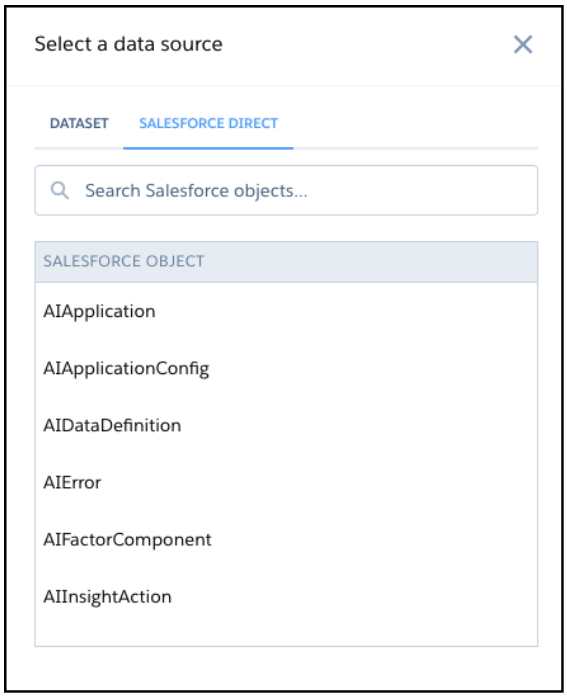
クエリがブロードキャストされたファセットをリスンするかどうかを制御できます。そして何よりも、「全」か「無」かの二者択一ではなくなりました。受信クエリでリストを含めたり、除外したりして特定のクエリのみをファセットできるようになりました。

Direct Data によるデータセットを使用しない Salesforce データの探索

Einstein Analytics with Direct Data で直接 Salesforce のライブデータを照会できます。Salesforce データを探索するために、データ同期を設定したり、データの準備を完了させたりする必要がなくなりました。Direct Data クエリは、データ変更の頻度が高い場合や、スケジュール済みデータフローの頻度が不十分な場合に特に役立ちます。Direct Data を使用すると、ダッシュボードデザイナのエクスプローラで Salesforce オブジェクトを照会し、クエリエディタで Salesforce Object Query Language (SOQL) クエリを編集できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードデザイナで [クエリを作成] をクリックし、[Salesforce Direct] タブを選択します。オブジェクトを選択すると、ダッシュボードデザイナのエクスプローラが開き、オブジェクトのデータが表示され、調査および視覚化が可能になります。



最適なパフォーマンスを得るには、検索条件を使用して、クエリ対象となるデータを制限してください。たとえば、すべてのオープンケースではなく、特定の期間にオープンになったケースに対してのみクエリを実行します。多くのレコードが入った Salesforce オブジェクトに対してクエリを実行すると、長い時間がかかることがあります。

メモ: Direct Data ウィジェットは自動的には更新されませんが、ダッシュボードを更新すると更新されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:直接データクエリを使用するためのヒント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (ベータ)

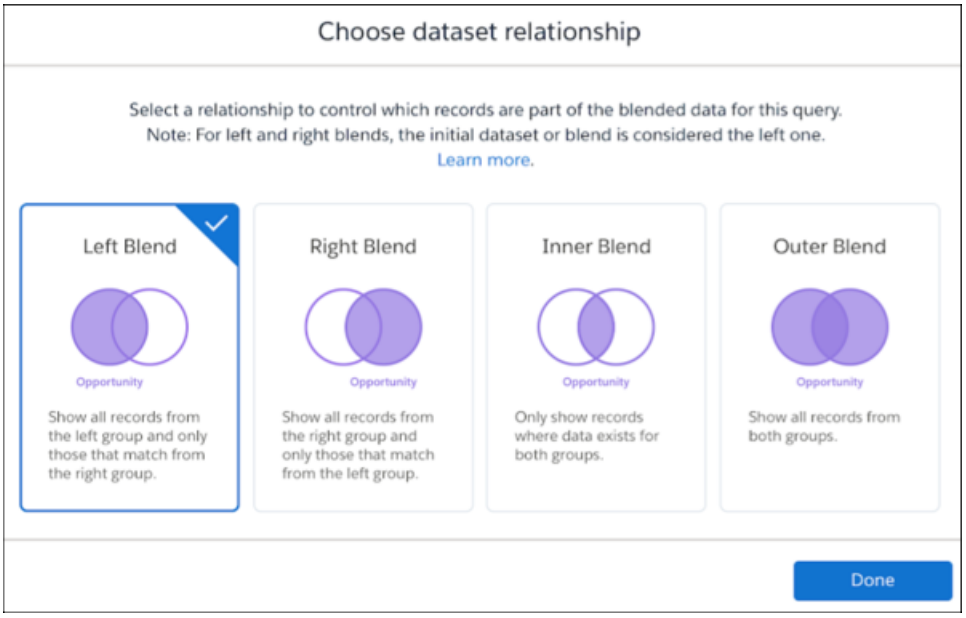
ビジネスに関する質問への回答では、現在のデータセット以外のコンテキストが必要になる場合があります。データセット構造とデータの探索方法が適合していないこともあります。または、探索中に現在のデータセットにないデータが必要であることに気づく場合もあります。心配いりません。データのブレンドを使用すると、もう一度データを準備して、結合されたデータセットを作成する必要がなくなります。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドし、ブレンドされたデータを 1 つのデータセットと同じように照会できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

データのブレンドはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式

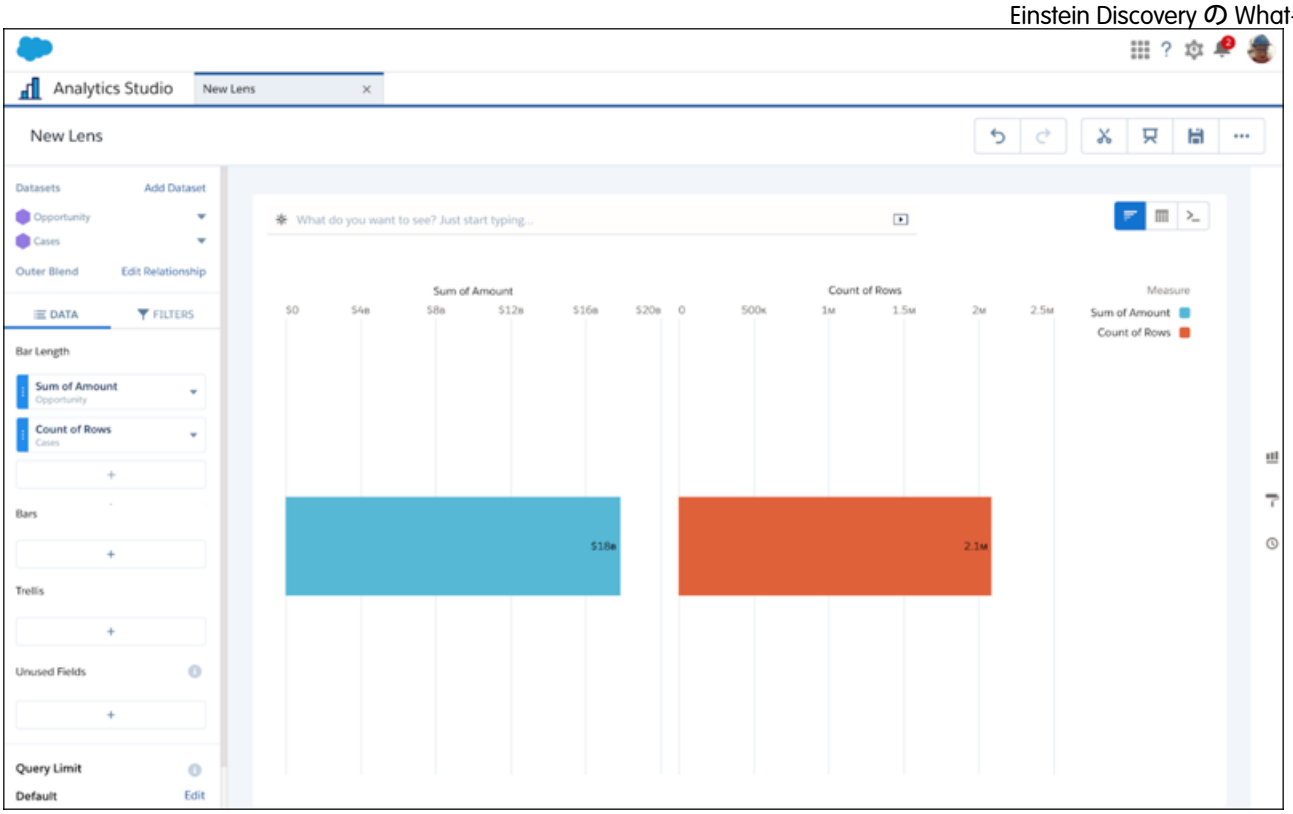
にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: [設定] の [Analytics] の [設定ページ] で、データのブレンドを有効にします。Einstein Analytics Explorer から、最大4つのデータセットを追加します。[左ブレンド]、[右ブレンド]、[内部ブレンド]、[外部ブレンド] を選択します。



横に並べて比較するには、各データセットからグループ化で使用する項目を選択します。グループ、基準、および検索条件を定義するときに、ブレンドされた任意のデータセットから項目を選択します。

この画像は、商談データセットとケースデータセットをブレンドして、各取引先の総売上とサポートチケットの総数のリレーションを図示できるようにする方法を示しています。

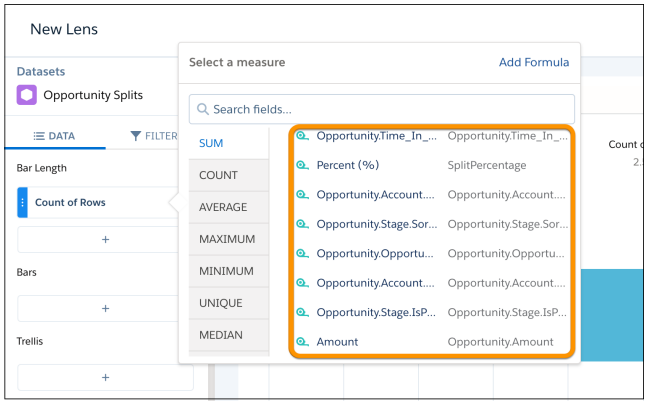


基準およびグループセレクタでの項目の簡単な識別

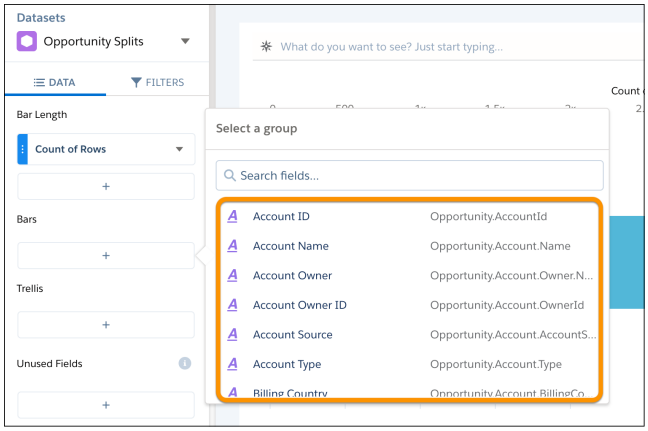
基準およびグループセレクタに項目の表示ラベルと名前の両方が表示されるようになったため、目的の項目を簡単に選択できるようになりました。両方の識別子があるため、エクスプローラで視覚化を作成するときに、適切な項目を選択しているのかどうかを推測する必要がなくなりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: クリックして基準やグループを追加または変更します。リストで、2 つの列を確認します。



左側には項目の表示ラベル、右側には項目名があるため、適切な基準またはグループを選択していることを確認できます。



バインドからインタラクションへの名称変更

インタラクション(旧称バインド)により、ダッシュボードのさまざまなコンポーネントのやりとりが可能になります。クエリ間のインタラクションを作成して、ダッシュボードをカスタマイズできます。お客様のフィードバックに基づいて名前を変更しましたが、プロセスとワークフローは変更されていません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: この変更を反映するために、ドキュメントと Einstein Analytics 製品を更新しています。

関連トピック:

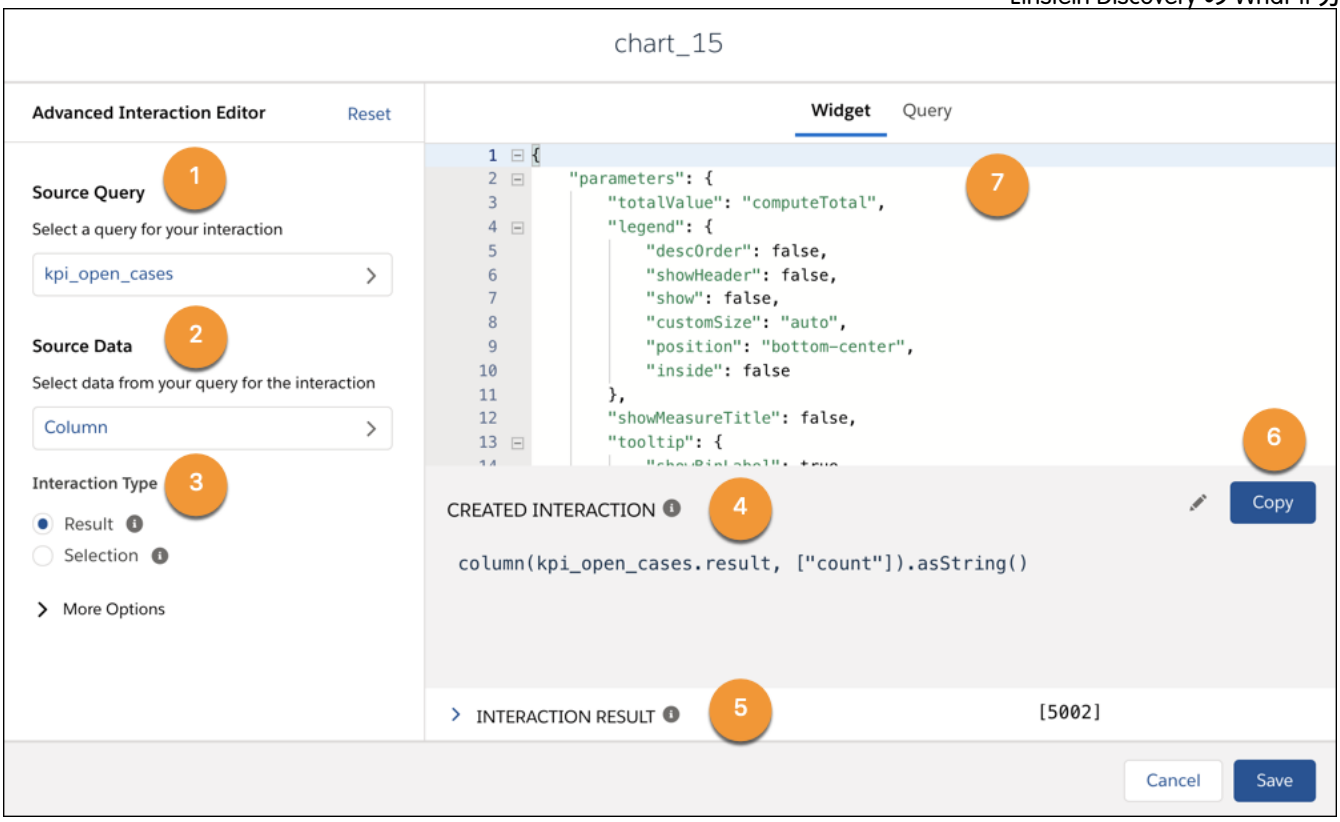
Analytics バインド開発者ガイド

高度なインタラクションエディタを使用した簡単なインスタンスの作成

インタラクション(旧称バインド)を使用すると、Einstein Analytics ダッシュボードの多くの部分を強化できます。新しい高度なインタラクションエディタでは、ダッシュボードデザイナから移動することなく、ウィジェットやクエリのインタラクションを作成できます。新しいエディタからコードではなくクリックを使用して、同じウィジェットやクエリの複数のインタラクションを作成したり、結果をプレビューしたり、インタラクションを挿入したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 使用を開始するには、[ウィジェット]または[クエリ]パネルの[高度なエディタ]をクリックします。クエリ (1)、ソースデータ (2)、インタラクション種別 (3) を選択します。高度なインタラクションエディタでは、インスタンス (4) と結果 (5) のプレビューが生成されます。SAQL または JSON にインタラクションを追加するには、コピー (6) して貼り付けます (7)。[保存] をクリックして、インタラクションをダッシュボードに追加します。



メモ: ボタンを使用して、手動でインタラクションを編集します。このようにインタラクションを編集した場合、高度なインタラクションエディタ全体をリセットしないと元のエディタに戻ることができません。リセットすると、すでに作成してあるインタラクションは削除されます。

関連トピック:

Analytics バインド開発者ガイド

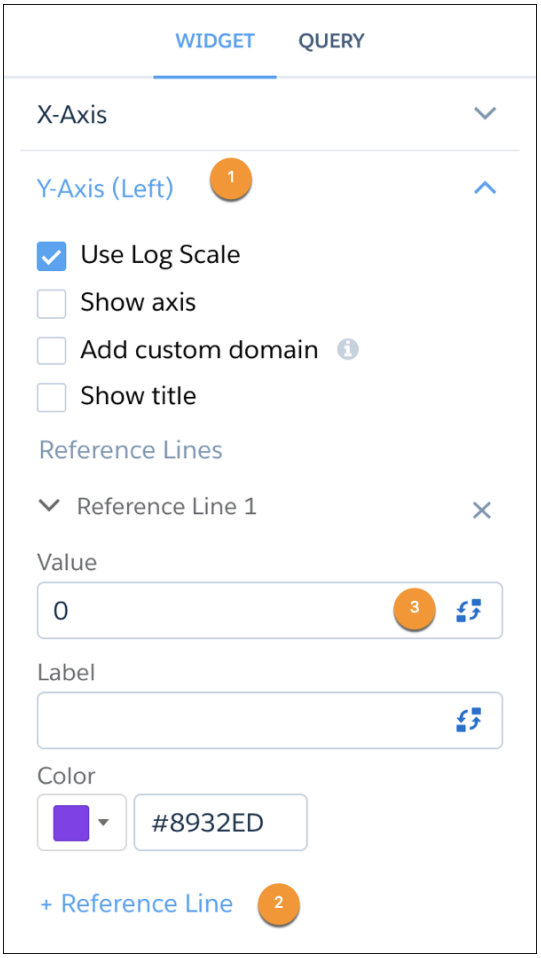
コードを使用しないグラフの動的基準線の作成

グラフウィジェットのプロパティパネルで、動的基準線を作成できるようになりました。これにより、作成者のクリックとコードに費やす時間を節約できます。基準線を使用すると、コンテキストが追加され、ユーザがグラフデータを理解しやすくなります。以前は、動的基準線および表示ラベルは、インタラクション (バインド) やコードを使用しないと作成できませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: グラフの [ウィジェット] パネル (1) で、[X 軸] および [Y 軸] セクションで、[+基準線] (2) をクリックします。静的基準線を作成するには、目的の値と表示ラベルを入力します。動的基準線の場合、 (3) をクリック

し、ソースクエリ、値、インタラクション種別を選択して、動的基準線を強化します。各グラフで複数の静的または動的基準線を作成できます。



メモ: Spring '20 より前にインタラクション (バインド) で作成された動的基準線は引き続きサポートされますが、コードでのみ編集できます。

メモ: 動的基準線はレンズに追加できますが、ダッシュボードでのみ表示できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グラフへの複数の基準線の追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics バインド開発者ガイド: 基準線と表示ラベルの動的な設定

Analytics バインド開発者ガイド: 選択バインド

Analytics バインド開発者ガイド: 結果バインド

コードを使用しない対象を絞ったファセットの指定

対象を絞ったファセットを使用すると、ダッシュボード設計者はリストを含めたり、除外したりして特定のクエリのみをファセットできます。これらの作業は、すべてダッシュボードデザイナ内のクリック操作で行うことができます。ファセットは、ウィジェット間のインタラクションを指定する最も簡単かつ一般的な方法です。以前は、すべてファセットするか、ファセットしないかの2択でした。また、コードを使用せずに例外または他の重要なカスタマイズでファセットを設定することもできませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: ダッシュボードは高度にカスタマイズされており、ダッシュボードの目標やその利用者によっては、ファセットをすべてのクエリに適用することが合理的でない場合もあります。

チームの営業パフォーマンスを追跡するダッシュボードの場合、個々の営業担当で絞り込むことができると、営業担当や営業マネージャにとって役立ちます。以前は、ファセットを使用すると、ダッシュボードのすべての部分が絞り込まれていましたが、対象を絞ったファセットを使用して、チームの進行中のパイプラインの総額はそのままに、特定の営業担当の他のすべての総計値を絞り込むことができるようになりました。

方法: [クエリ] パネルで、[すべて]、[含める]、[除外]、[なし] を選択します。[含める] の場合、選択したクエリにのみファセットが適用されます。[除外] の場合、選択したクエリ以外のすべてのクエリにファセットが適用されます。どちらのオプションのクエリも、[クエリ] パネルにリストされます。

メモ: [クエリ] パネルで [すべて] を選択すると、外部検索条件がクエリに適用されます。他の選択の場合、外部検索条件はクエリに適用されません。グローバル検索条件は外部検索条件ではありません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ファセットを使用したダッシュボード結果の絞り込み (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

組み込みダッシュボードからレコードを開く方法の管理

ウィジェットのドロップダウンからレコードを開いた後にダッシュボードに簡単に移動するには、[設定] で **[Salesforce レコードを新しいブラウザタブで開く]** 設定を有効にします。こうすることで、レコードを開いても、現在のダッシュボードがそのブラウザタブで開いたままになります。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: デフォルトでは、**[Salesforce レコードを新しいブラウザタブで開く]** 設定は無効になっており、レコードは Lightning タブで開きます。ダッシュボードが含まれるタブを再度クリックすると、ページが更新されます。そのため、ダッシュボードに適用された検索条件は削除されます。

デフォルトを上書きするには、[設定] の [Analytics] の [設定] ページで **[Salesforce レコードを新しいブラウザタブで開く]** を選択します。

メモ: この設定は、[分析] タブのダッシュボードと Salesforce ページに組み込まれたダッシュボードのレコードアクションに適用されます。この設定は、ダッシュボードコンポーネントを組み込むときに設定されるダッシュボードリンクやウィジェットの探索アクションには適用されません。

関連トピック:

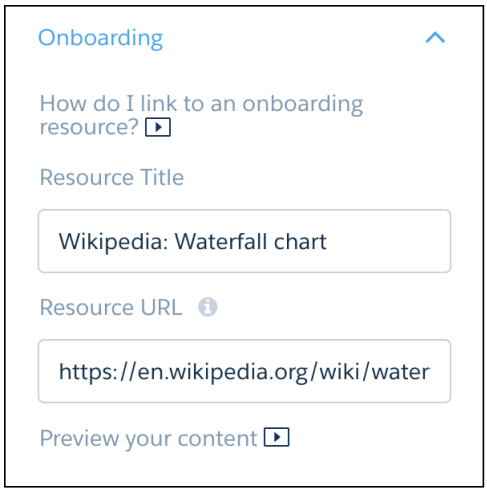
Salesforce ヘルプ: Analytics から Salesforce レコードへのアクションの実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ウィジェットカスタムオンボーディングへの URL の追加

カスタマイズされたダッシュボードウィジェットオンボーディングで任意の Web サイトのコンテンツをユーザに提供できるようになりました。ダッシュボードの任意のグラフやテーブルに学習オプションを追加できます。ユーザがそれを選択すると、専用の教育リソースが含まれるオンボーディングフレームワークが表示されます。オンボーディングフレームワーク内で、ユーザは動画を再生したり、Web ページ内のリンクに移動したりできます。組み込みダッシュボードでは、ドラッグ可能でサイズ変更可能なフレームワークを任意の Salesforce ページでフロート表示できるようになり、ダッシュボードの領域に制限されることがなくなりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードデザイナの更新された [オンボーディング] セクションで、オンボーディングフレームワークのタイトルと有効な URL を入力します。ユーザに表示される内容を確認するには、[コンテンツをプレビュー] をクリックします。



各自のタイトルのオンボーディングフレームワークに Web ページや動画が表示されるます。オンボーディングフレームワークがフロート表示されていると、コンテンツが現在のウィンドウの最上部に常に表示されるため、簡単に参照できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ダッシュボード内手順コンテンツを使用したオンボーディングのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

更新された Einstein Analytics レコードアクションの確認

Einstein Analytics アセットからのレコードアクションに Lightning Experience デザインが適用されるようになりました。Visualforce アクションを含む、以前にサポートされていたすべてのレコードアクションは引き続き機能します。新しくサポートされるレコードアクションには、フローアクションと Lightning アクションが含まれます。Lightning Experience のスタイルを使用することで、ユーザは Salesforce 全体で視覚的に魅力的かつ一貫した環境を使用できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Analytics から Salesforce レコードへのアクションの実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

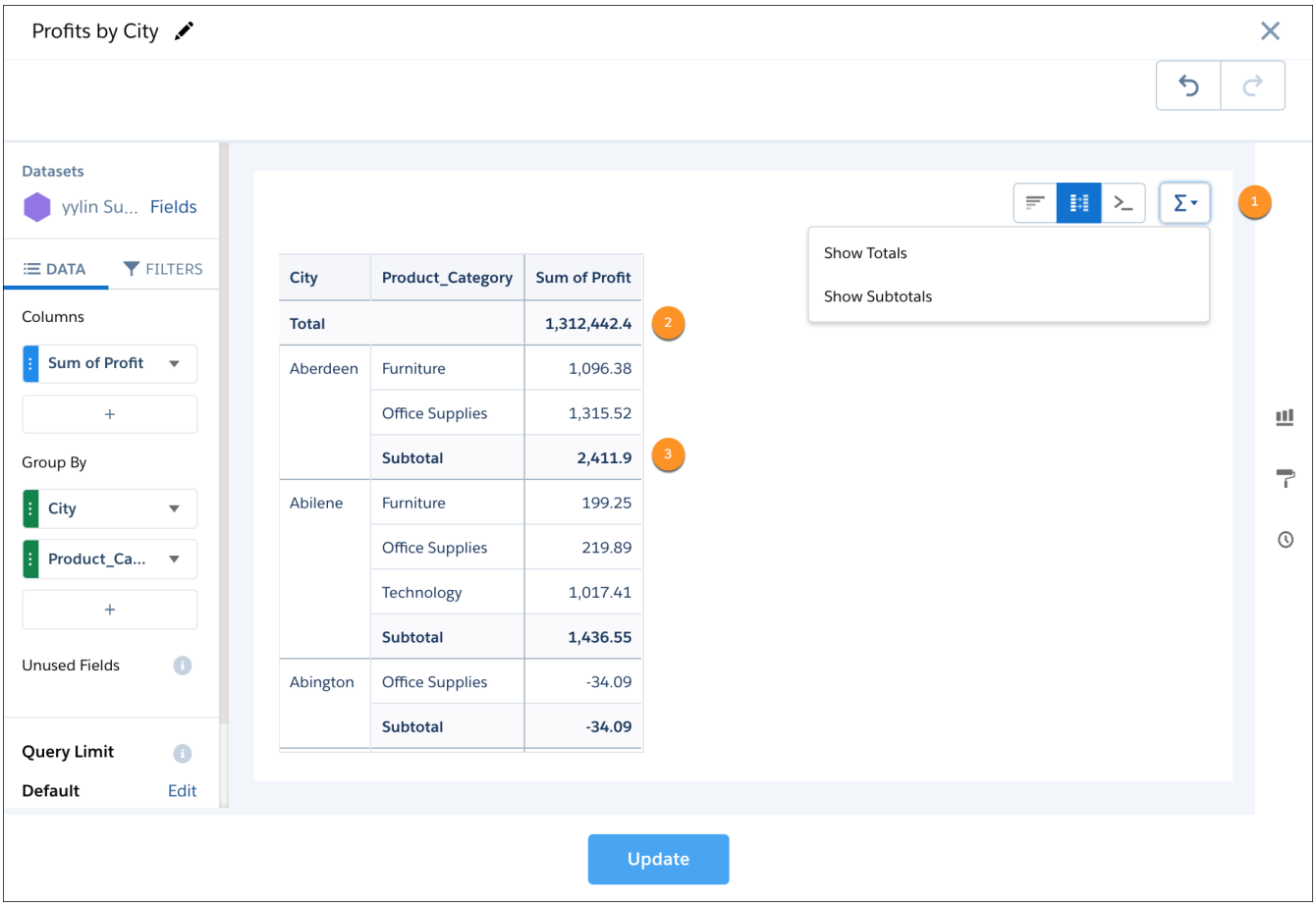
テーブルへの総計および小計の表示

合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。以前は列をテーブルに追加して、この計算を自分で実行する必要がありました。数回クリックするだけで総計と小計を追加または削除できるようになりました。ウィンドウ関数では総計のみがサポートされ、小計はサポートされません。Spring '20 では、この機能が新規組織と既存の組織の両方で有効になります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

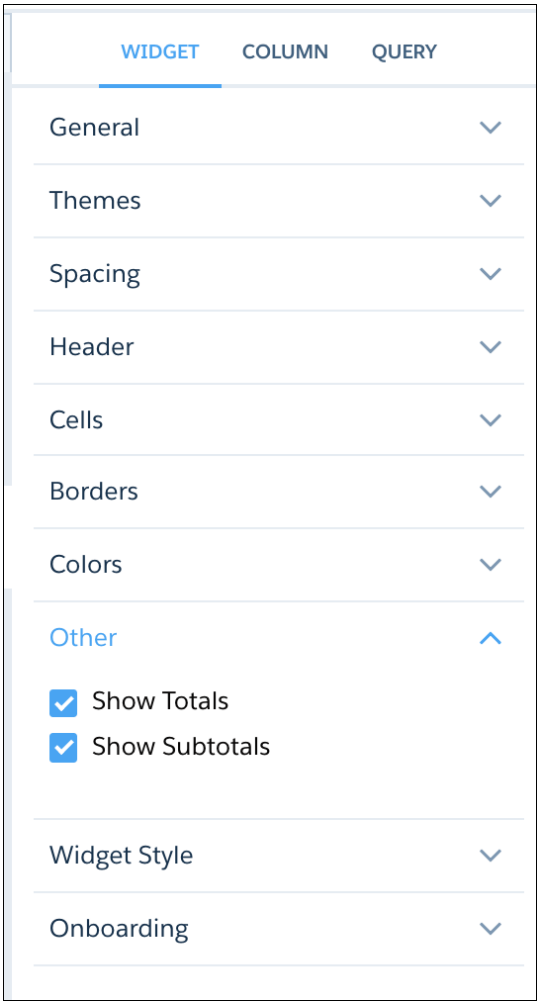
方法: をクリックすると、テーブルエディタの合計と小計が追加されるか非表示になります(1)。合計はテーブルの最上部(2)に行として追加され、小計は各グループのすぐ下(3)に行として追加されます。小計を表示するには、データセットに2つ以上のグループが必要です。合計と小計の行は、不透明度がヘッダーの色の半分であり、変更できません。

メモ: 小計が表示されている場合、基準とグループを並び替えることはできません。



メモ: 小計が表示されている場合、グループを並び替えることはできません。小計が表示されている場合、基準はグループ内でのみ並び替えることができます(内部並び替え)。

ウィジェットプロパティパネルでも合計と小計を表示または非表示にすることができます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:テーブルのプロパティ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レンズおよびダッシュボードでの数値形式のカスタマイズ

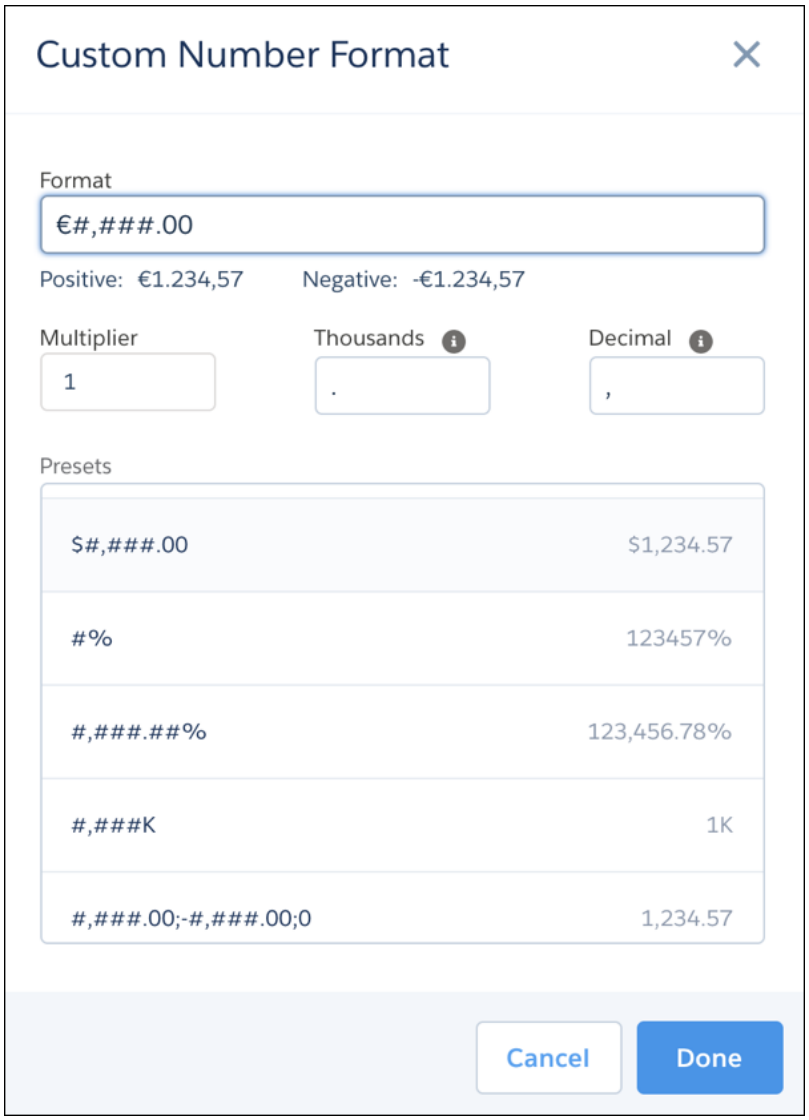
すでに使用可能なプリセットの書式設定オプションに加えて、数値形式パネルで小数点と3桁ごとの区切り文字を選択してカスタム数値形式を作成できるようになりました。定義済みの数値形式を選択してそこから編集するか、独自のカスタム文字列を入力して開始します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: プリセットの形式はほとんどの使用事例に対応していますが、この更新では、あらゆる使用事例に合わせて数値形式をカスタマイズし、エンドユーザ向けに高度にパーソナライズされた数値ビューを作成できます。

たとえば、一部の通貨は以前は使用できなかった€#.###,00形式を使用します。この形式の作成は、既存のプリセット通貨形式を若干編集するだけで実行できるようになりました。

方法:[形式]文字列では、3桁ごとの区切り文字にはカンマ(,)、小数点にはピリオド(.)を常に使用します。[千]または[小数]文字列の区切り文字を変更し、[形式]文字列の区切り文字を上書きします。CSVのダウンロードでは指定された区切り文字は無視され、常にデフォルト値(3桁ごとの区切り文字にはカンマ(,)、小数点の区切り文字にはピリオド(.))が使用されます。



関連トピック:

グラフおよびウィジェットでの合理化された数値の動作

*Salesforce*ヘルプ:数式の書式設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

グラフおよびウィジェットでの合理化された数値の動作

以前は、グラフ、表、および数値ウィジェットで数値形式の動作が異なっていました。ユーザは、Einstein Analytics で数値を操作する場所に関係なく、一貫した数値の操作性を得られるようになりました。主な特長として、負および 0 のカスタム形式を指定できます。

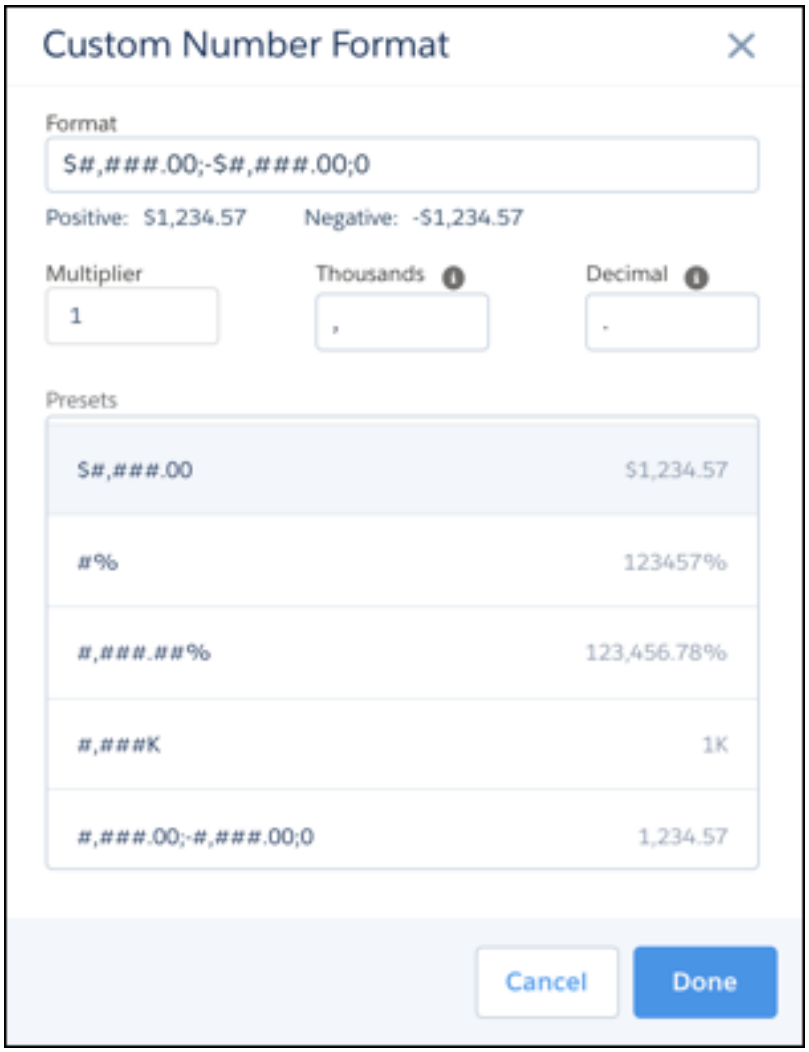
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 以前は、$#.00 などの形式文字列は一部の場所で 0 のみが返されていました。残りのグラフまたはウィジェットで使用される形式ロジックを無視することなく、$0.00 が返されるようになりました。

以前は、一部の非常に小さい数値で負の0が返されていました。デフォルトの動作で、結果をより簡単にするために 0 が返されるようになりました。

一部のグラフでは、1.0x などの短い数値は 1x を返し、0 が削除されていました。数値ウィジェットとの一貫性を保つため、すべての短い数値で 1.0x 形式が返されるようになりました。

方法: カスタム数値形式を指定するときに、構文 *<POSITIVE_FORMAT>;<NEGATIVE_FORMAT>;<ZERO_FORMAT>* を使用します。負および 0 形式は省略可能です。各形式をセミコロン (*;*) で区切ります。



関連トピック:

- レンズおよびダッシュボードでの数値形式のカスタマイズ
- *Salesforce* ヘルプ:数式の書式設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

パッケージおよび変更セットへのユーザ拡張メタデータ (XMD) の追加

拡張メタデータ (XMD) を使用すると、Analytics ダッシュボードおよびレンズのデータセット項目とその値の形式、デフォルトの動作、アクション可能性をカスタマイズできます。組織間でマスタユーザ XMD を移動するプロセスが簡略化されました。ユーザ XMD を編集するたびに、マスタユーザ XMD が一致するように自動的に更新されるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: これまで、マスタユーザ XMD ファイルの更新には追加の手動手順が必要でした。ユーザ XMD ファイルは常に同期され、Sandbox から本番によりすばやく移行できるようになりました。

方法: パッケージでは、Analytics データセットアセットを追加すると、更新されたマスタユーザ XMD ファイルが自動的に追加されます。変更セットでは、`Analytics Dataset Metadata` を手動で追加してマスタユーザ XMD ファイルを含めます。

メモ: Analytics データセットアセットを使用してユーザ XMD を移行しない場合は、REST エンドポイントの Patch コールを実行して削除します。

マスタユーザ XMD ファイルを移行先組織に移行した後は、移行元組織で XMD を編集し、移行先組織に再度移行する必要があります。移行先組織の UI で行われるユーザ XMD の変更は、2 つの情報源が競合しないようにブロックされます。

関連トピック:

Analytics REST API 開発者ガイド: Dataset リソース

Salesforce ヘルプ: Analytics アセットの管理パッケージへのパッケージ化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics 拡張メタデータ (XMD) リファレンス

コンパクトフォーム 2.0 への準拠 (ベータ)

新しいバージョンのコンパクトフォーム (任意のデータ型に対して複数のデータセットおよびクエリを処理するために構築された JSON 内のクエリの表現) に慣れてください。これは、今後のいくつかのリリースで段階的に導入されますが、データがブレンドされたクエリが含まれるダッシュボードの JSON が表示されている場合は現時点で確認できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: コンパクトフォーム 2.0 はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

理由: 探索でデータのブレンドをサポートするために、新しい構文には `"sources"` と `"name"` が含まれています (下記参照)。

```
"query": {
    "aggregateFilters": [],
    "orders": [],
    "sourceFilters": {},
    "sources": [
```

```
                {
                    "cogroupType": "left",
                    "columns": [
                        {
                            "field": [
                                "sum",
                                "Sales"
                            ],
                            "name": "A"
                        }
                    ],
                    "groups": [
                        "Product_Sub_Category"
                    ],
                    "name": "SuperStoreSales_2019_dataset"
                },
                {
                    "columns": [
                        {
                            "field": [
                                "sum",
                                "Target"
                            ],
                            "name": "B"
                        }
                    ],
                    "groups": [
                        "Product_Sub_Category"
                    ],
                    "name": "SuperStoreTargets_2019_dataset"
                }
            ]
        },
```

公開者機能を使用したバックグラウンドでの新しいバージョンのダッシュボードに関するコラボレーション (正式リリース)

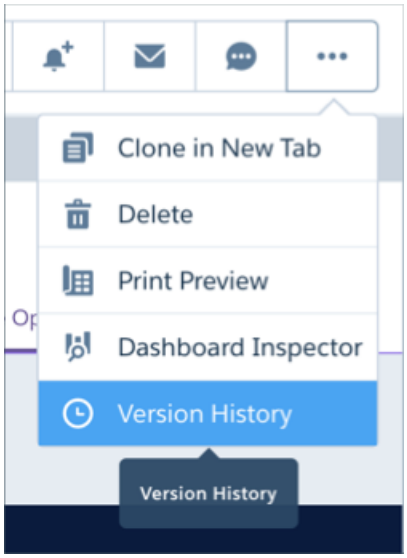
公開者機能を使用すると、現在のバージョンのダッシュボードを稼働させたまま、ドラフトバージョンの確認、テスト、編集を行うことができます。新しいバージョンを公開する準備が整うまで、Analytics Studio**ユーザには引き続き現在のライブバージョンが表示されます。**

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Einstein Analytics **に適用されます。**Einstein Analytics **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、** Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

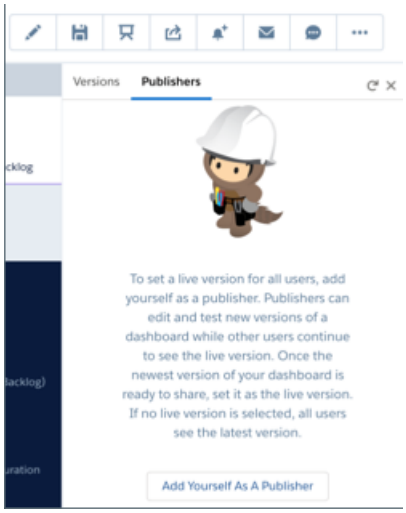
理由: 公開者機能により、探索しているユーザのためにダッシュボードの現在のバージョンを稼働させたまま、バックグラウンドで新しいバージョンを操作できます。自分自身をダッシュボード公開者として追加することで、ダッシュボードのバージョンを確認および公開できます。公開者リストに追加されたら、以前のバージョンをライブとして設定し、リリースの準備が整うまで編集できます。公開者には常にドラフトが表示されますが、公開者リストに含まれていないユーザにはライブバージョンが表示されます。

方法:

Analytics ダッシュボードを開き、右上の[さらに表示]アイコンをクリックし、[バージョン履歴]を選択します。



次に、[公開者] タブを開き、[公開者として自分自身を追加] をクリックします。



ダッシュボードが含まれるアプリケーションへのエディタアクセス権またはマネージャアクセス権を持つ他のチームメンバーも同じことができます。公開者は、ダッシュボードのドラフトバージョンを確認できます。ドラフトのリリースの準備が整ったら、他の Analytics ユーザが使用できるように稼働させることができます。

Analytics テンプレートでの複数のデータフローとのデータインテグレーションのきめ細かな制御

テンプレートからアプリケーションを作成する場合、Einstein Analytics で複数のデータフローを処理できるようになりました。テンプレートユーザは、アプリケーションのデータセットおよびダッシュボードに入力されるデータを詳細に制御できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: テンプレートにしたアプリケーションに複数のデータフローがある場合、データフローロジックを管理可能なセグメントに分割して整理できます。テンプレートから作成されたアプリケーションのユーザは、異なる回数および頻度でデータフローをスケジュールできます。アプリケーションには、日次データ更新を実行するプライマリデータフローと、実行頻度の低い (週次または月次) 1 つ以上のセカンダリデータフローを設定できます。セカンダリデータフローは、24 時間よりも長い期間の変化を表示する方が望ましい場合 (データのトレンド分析やスナップショットの取得) に便利です。

方法: 複数のデータフローを `template-info.json` ファイルの `eltDataflows` 配列に追加します。Analytics はそこにリストされている順序に従ってデータフローを作成して実行します。

コネクタを Analytics テンプレートに追加することによる複数のソースからアプリケーションへのデータのインポート

Analytics コネクタを Analytics テンプレートに追加することで、アプリケーションを作成したときに外部ソースからアプリケーションにデータをインポートできるようになります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: Analytics コネクタを含めて Analytics アプリケーションをテンプレートにすることで、複数のデータソースのデータを結合して、1 つのカスタマイズしたアプリケーションですべて表示できるようになります。テンプレートフレームワークはすべての Analytics コネクタタイプをサポートしています。外部ソースのデータを Salesforce データや複数の Salesforce 組織のデータと結合できます。たとえば、会社で各地域 (米国、EMEA、APAC) のリードを個別の Salesforce 組織に保存しているとします。アプリケーションテンプレートはコネクタを使用して、すべての組織から 1 つのマスタリードデータセットにデータを取り込むことができます。次に、すべてのリードデータを視覚化する 1 つのダッシュボードを作成します。

方法: コネクタをテンプレートに追加するには、`variables.json` ファイルで `ConnectorType` 変数を定義し、`ui.json` ファイルで参照します。ユーザによって指定された `ConnectorType` 変数値を使用して実行時にデータフローのダイジェストノードを更新する動的ルールを作成します。`ConnectorType` 属性に基づいて組織に登録されている限り、1 つまたは多数のコネクタタイプを含めるように `ConnectorType` 変数を定義できます。異なる組織のデータを接続する例を次に示します。

```
variables.json
{
 "Connector" : {
  "label": "External SFDC Connector",
  "description": "This is an external connector to another SFDC org.",
  "variableType": {
     "type": "ConnectorType",
     "connectorType" : "S"
   },
   "required": true
 }

}
```

```
ui.json
{
  "pages" : [
    {
      "title": "Select an External SFDC Connector",
  "variables": [ { "name" :"Connector" } ]
    }
  ],
  "displayMessages" : [ ]
}
```

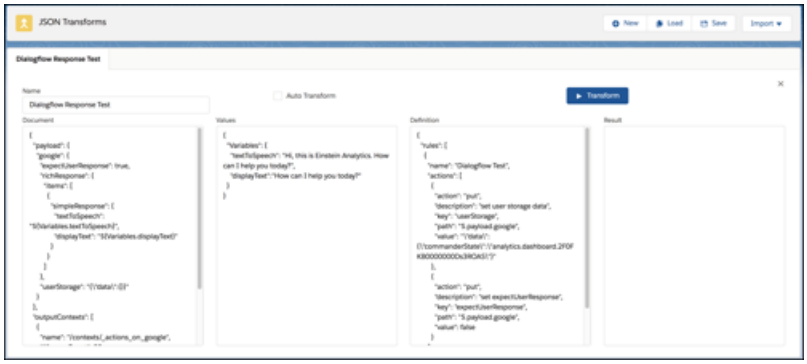
Lightning Experience の任意の場所での JSON コンテンツの変換

Analytics テンプレートフレームワークの JSON 変換エンジンを任意の開発環境の Lightning Experience で直接使用できます。Lightning コンポーネントを使用して、エンジンは JSON ドキュメントから入力を取得して定義した値およびルールを適用し、JSON ドキュメントを変換します。

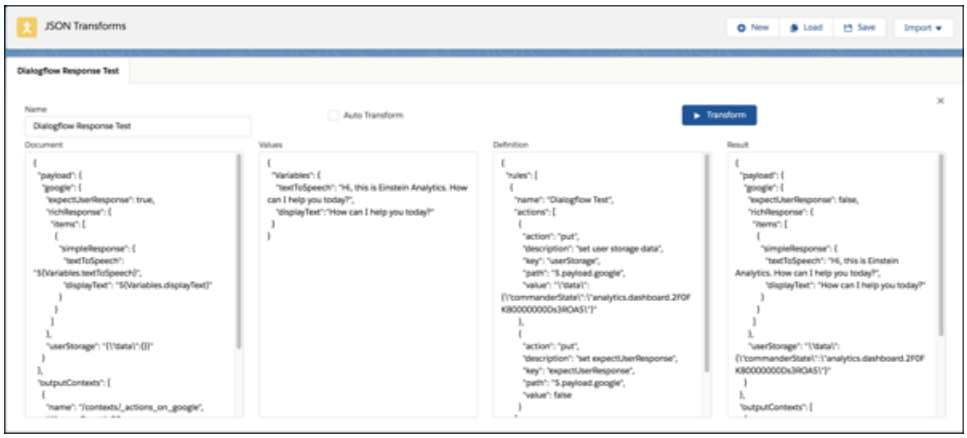
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 変換エンジンは Analytics テンプレートルールのテスト、音声テンプレートの作成をはじめとして、JSON を使用して実行できると考えられるほぼすべての操作を強力に実行できます。1 つの環境で特定の目的に合わせて作成した JSON を取得し、変換のルールを宣言します。次に、エンジンを使用して JSON をランタイム環境で機能する形式に変換します。

方法: ユーザが JSON ドキュメントを送信できる Aura コンポーネントを作成し、変換の値およびルールを定義します。エンジンは変換の結果を返し、この結果を他のアクションで使用できます。変換前の JSON の例を次に示します。



JSON を変換した結果を次に示します。



Analytics Web SDK を使用した読み込まれたアセットへの対応

新しい `wave:assetLoaded` Web SDK イベントを使用して、初回読み込み時と後続のリセット時の Analytics アセットの読み込みの終了をリスンして対応します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: Einstein Analytics アセット (特にダッシュボード) のすべてのウィジェット、ステップ、クエリの読み込みが完了するまでに時間がかかる可能性があります。組み込みダッシュボードの操作 (検索条件の適用や状態の更新など) を行うコードが作成されている場合、ダッシュボードが完了する前にこのコードが実行されると、ダッシュボードが不適切な状態になる可能性があります。`wave:assetLoaded` イベントを使用すると、ユーザは検索条件の適用や状態の更新を行うコードを安全に実行できるタイミングを判断できます。

方法: `wave:assetLoaded` イベントのリスナーと、イベントを受信してアクションを実行するハンドラを追加します。`wave:assetLoaded` イベントは、アセットビューに対するアセットの初回読み込み時と後続のリセット時に起動されます。

```
({
  handleAssetLoaded: function(component, event, helper){
    component.set("v.dashboardStatus", "Dashboard is loaded");
    component.set("v.assetType", event.getParam("type"));
    component.set("v.assetId", event.getParam("id"));
  }
})
```

ダッシュボードデザイナの JSON の変更

クエリがブロードキャストされたファセットをリスンするかどうかを制御できます。そして何よりも、「全」か「無」かの二者択一ではなくなりました。受信クエリでリストを含めたり、除外したりして特定のクエリのみをファセットできるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: Winter '20 の `aggregateflex` および `saql` ステップ種別では、次のように指定できました。

```
"receiveFacet": true (or false)
```

Spring '20 の `aggregateflex` および `saql` ステップでは、以下を使用できるようになりました。

```
"receiveFacetSource": {
    "mode": "all",
     "steps": []
  },
```

モードは、"all"、"none"、"include"、"exclude" のいずれかになります。ステップを使用して、含めるステップまたは除外するステップをリストします。

`receiveFacet` は、`receiveFacetSource` に置き換わります。既存の JSON は、ダッシュボードの編集時に自動的に更新されます。

関連トピック:

- コードを使用しない対象を絞ったファセットの指定

Einstein Discovery: 予測の外部データ、[何が起きる可能性があるか] インサイト、ストーリーのバージョン管理

外部データを含めて、結果の予測精度を高めます。対話形式でライブ予測スコア (上位の要素やアクション可能なインサイトなど) を取得します。いつでも前のストーリーバージョンを再確認および操作できます。

このセクションの内容:

外部データを使用したライブ予測スコアリングの強化

外部データを含めて、結果の予測精度を高めることができるようになりました。一部の予測モデルでは、Salesforce にない情報 (外部データソースに保存されている説明変数や計算項目など) が必要になります。商談成立までの時間の予測モデルを作成するとします。商談チームメンバーとその商談レコードに関連付けられている評価済み ToDo の数を使用したいと考えています。これらの集計は、Einstein Analytics データ準備を使用して簡単に作成できます。予測モデルを Einstein Discovery ストーリーとしてすばやく作成します。Salesforce の個々のレコードをスコアリングする場合、商談に関連付けられている ToDo やチームメンバーの数を予測モデルに通知します。コードを記述またはデータモデルを変更する代わりに、この集計が実行され、定期的に更新されるデータセットを作成します。Salesforce にネイティブに存在しない予測モデル項目をデータセットに対応付けます。

[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用した将来の結果のシミュレーション

対話形式でライブ予測スコア (上位の要素やアクション可能なインサイトなど) を取得します。[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用して、データ行で「What If」シミュレーションを実行できるようになりました。[何が起きる可能性があるか] インサイトは、前の [予測と改善] インサイトに代わるもので、合理化されたインタラクティブインターフェースが備わっています。

ストーリーの変更の追跡

いつでも前のストーリーバージョンを再確認および操作できるようになりました。ユーザが更新された設定でストーリーを作成するたびに、Einstein によって前のバージョンのスナップショットが同じ名前で保存されます。前のバージョンのストーリーを開いて操作できます。

3 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)

Einstein Discovery に 3 番目のモデリングアプローチが追加されました。これは、*XGBoost* と呼ばれ、勾配ブースティング学習アルゴリズムを実装します。以前は、Einstein Discovery は 2 つのモデル種別 (回帰モデルと GBM モデル) を使用して結果を予測していました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery で 3 つのすべてのモデル種別を使用して予測が生成されるようになりました。その後、最もパフォーマンスの高かった 1 つのモデルの結果が Einstein に表示されます。すべてのアプローチから最も優れた結果を取得します。

ロジスティックモデルのスマート機能選択

バイナリ結果を使用してストーリーを作成する場合、Einstein Discovery によってモデルの構築に必要な機能変数のみが自動的に選択されるようになり、短時間でストーリーを生成できるようになりました。ストーリー作成プロセスが合理化および高速化されています。

ストーリーを作成する前の主要な要因の識別

ストーリーを初めて作成する前に、含める項目を事前にすばやく決定できるようになりました。手動でストーリーを設定する場合、Einstein でデータセット列と結果変数の相関関係が表示されるようになりました。以前は、ストーリーの初回作成後にしか相関関係が表示されませんでした。

Einstein Discovery で処理可能なデータの増加 (パイロット)

Einstein Discovery の制限が緩和され、最大 1 億行のデータが含まれる Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できるようになりました。以前は、最大 2,000 万行でした。

Salesforce オブジェクトを使用しないモデルのリリース

特定のケースで、モデルをリリースするときに Salesforce オブジェクトを選択する必要がなくなりました。この例外は、Einstein 予測サービスを介したプログラムによる予測、または Einstein Analytics データフローの予測コンポーネントを介したデータセットスコアリングでモデルを使用する場合にのみ適用されます。その他のすべてのケースでは、リリース時に Salesforce オブジェクトを選択する必要があります。

インサイトへのすばやいドリルダウン

テキスト項目に関連付けられているインサイトの場合、[探索] ボタンをクリックしてその詳細に簡単にドリルダウンできます。Einstein には、このインサイトのデータを対話形式で探索できるようにレンズビューが表示されます。

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止されます。Spring 20 以降、Einstein Discovery Classic はすべての組織で新しい環境に置き換えられます。

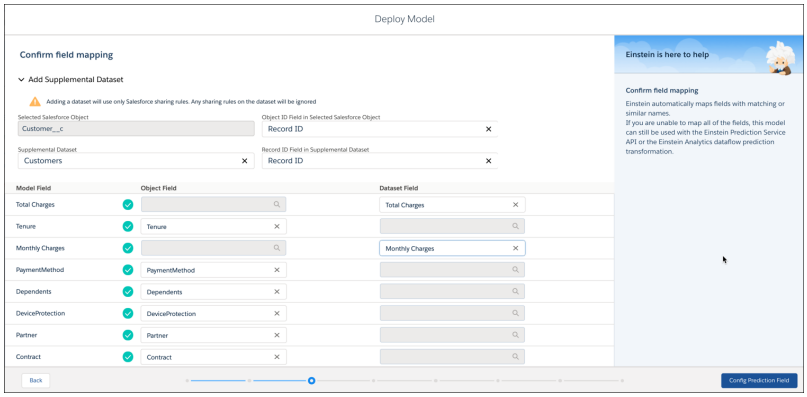
外部データを使用したライブ予測スコアリングの強化

外部データを含めて、結果の予測精度を高めることができるようになりました。一部の予測モデルでは、Salesforce にない情報 (外部データソースに保存されている説明変数や計算項目など) が必要になります。商談成立までの時間の予測モデルを作成するとします。商談チームメンバーとその商談レコードに関連付けられている評価済み ToDo の数を使用したいと考えています。これらの集計は、Einstein Analytics データ準備を使用して簡単に作成できます。予測モデルを Einstein Discovery ストーリーとしてすばやく作成します。Salesforce の個々のレコードをスコアリングする場合、商談に関連付けられている ToDo やチームメンバーの数を予測モデルに通知します。コードを記述またはデータモデルを変更する代わりに、この集計が実行され、定期的に更新されるデータセットを作成します。Salesforce にネイティブに存在しない予測モデル項目をデータセットに対応付けます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 取り込む外部データを Einstein Analytics データセットに入力します。Einstein Analytics の広範なデータインテグレーション機能を使用して、サポートされている任意の外部ソースのデータを取り込んで変換します。

モデルのリリース時に、補足データセットと、選択した Salesforce オブジェクトの [オブジェクト ID] 項目に対応付けられているデータセットの [レコード ID] 列を指定します。



リリースされたら、個々の Salesforce レコードのライブ予測スコアリングに対応するためにデータセットのデータを更新します。

メモ: データセットに接続される予測は、データセットの更新頻度によって異なります。

関連トピック:

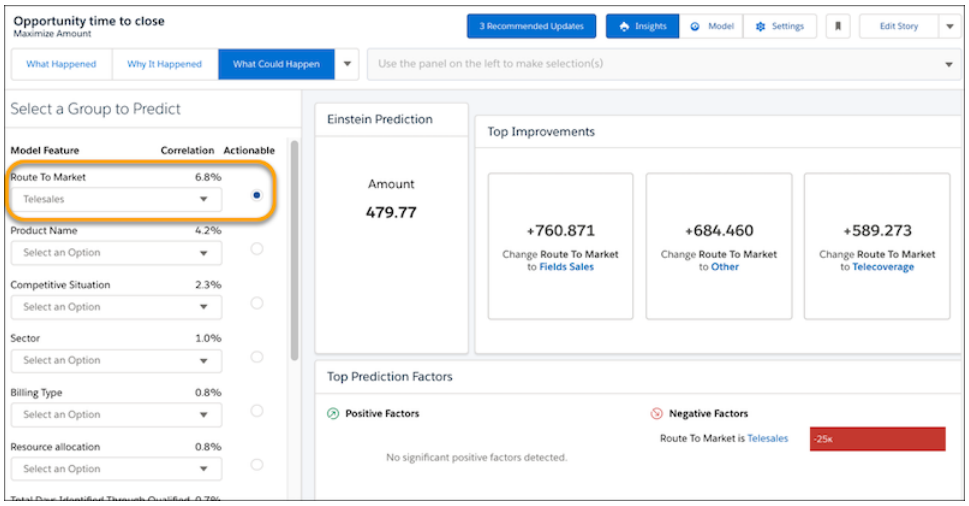
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用した将来の結果のシミュレーション

対話形式でライブ予測スコア (上位の要素やアクション可能なインサイトなど) を取得します。[何が起きる可能性があるか] インサイトを使用して、データ行で「What If」シミュレーションを実行できるようになりました。[何が起きる可能性があるか] インサイトは、前の [予測と改善] インサイトに代わるもので、合理化されたインタラクティブインターフェースが備わっています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [Route to Market (市場へのルート)] を変更すると商談金額にどのような影響があるのかを調査するとします。ストーリーを開き、インサイトナビゲーションバーで [何が起きる可能性があるか] をクリックします。[モデルの機能] リストで、**[Route to Market (市場へのルート)]** のオプションを選択します。選択内容に応じて、Einstein は予測スコアと上位の予測要素 (肯定的と否定的) を更新します。[アクション可能] ラジオボタンを選択し、選択内容の上位の改善を確認します。



関連トピック:

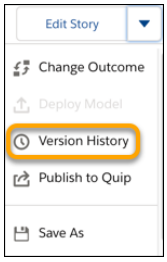
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

ストーリーの変更の追跡

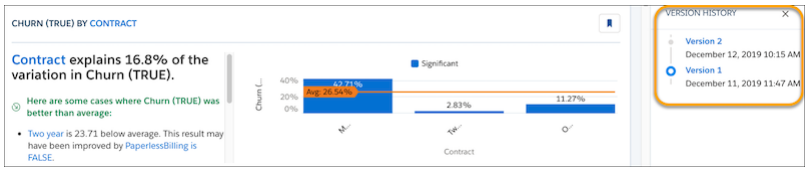
いつでも前のストーリーバージョンを再確認および操作できるようになりました。ユーザが更新された設定でストーリーを作成するたびに、Einstein によって前のバージョンのスナップショットが同じ名前で保存されます。前のバージョンのストーリーを開いて操作できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリーを開き、ドロップダウンから [バージョン履歴] を選択します。



[バージョン履歴] リストで、前のバージョンをクリックして開きます。



関連トピック:

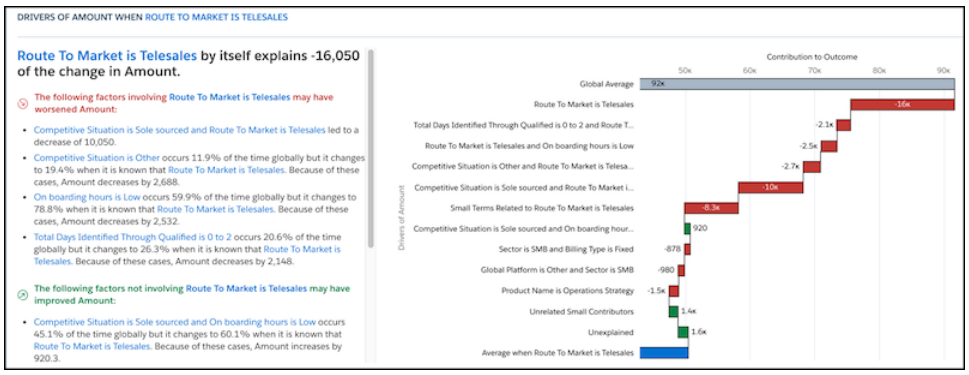
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

3 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)

Einstein Discovery に 3 番目のモデリングアプローチが追加されました。これは、*XGBoost* と呼ばれ、勾配ブースティング学習アルゴリズムを実装します。以前は、Einstein Discovery は 2 つのモデル種別 (回帰モデルと GBM モデル) を使用して結果を予測していました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery で 3 つのすべてのモデル種別を使用して予測が生成されるようになりました。その後、最もパフォーマンスの高かった 1 つのモデルの結果が Einstein に表示されます。すべてのアプローチから最も優れた結果を取得します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Einstein で使用されるモデルに関係なく、ストーリーインサイトは矛盾なく説明できます。たとえば、ストーリーを開き、インサイトナビゲーションバーで [なぜそれが起きたか] を選択し、診断的インサイトをスクロールします。この滝グラフには、成功するためのアプローチが反映されています。



メモ: XGBoost 機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。XGBoost は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている

製品および機能に基づいて購入をご決定ください。XGBoost に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

ロジスティックモデルのスマート機能選択

バイナリ結果を使用してストーリーを作成する場合、Einstein Discovery によってモデルの構築に必要な機能変数のみが自動的に選択されるようになり、短時間でストーリーを生成できるようになりました。ストーリー作成プロセスが合理化および高速化されています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

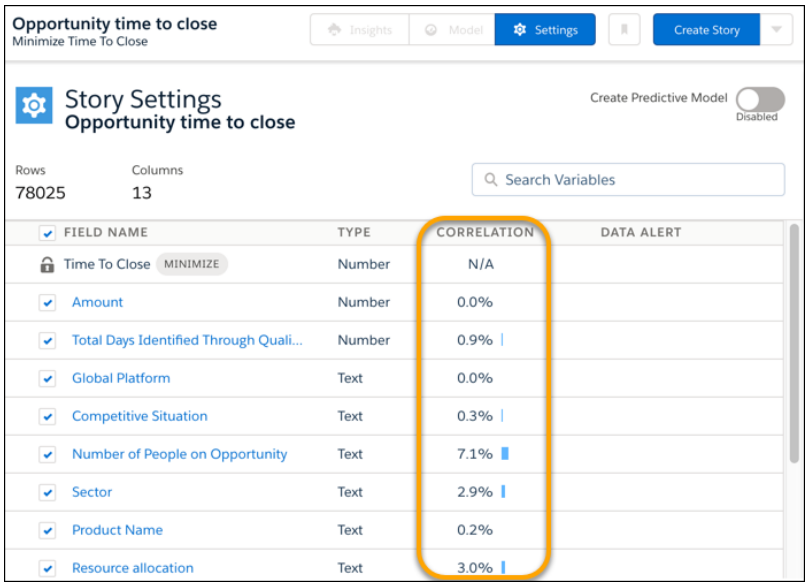
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

ストーリーを作成する前の主要な要因の識別

ストーリーを初めて作成する前に、含める項目を事前にすばやく決定できるようになりました。手動でストーリーを設定する場合、Einstein でデータセット列と結果変数の相関関係が表示されるようになりました。以前は、ストーリーの初回作成後にしか相関関係が表示されませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリーの設定時に、[手動] オプションを選択し、[相関関係] 列を表示します。



結果に最も相関している項目を選択し、ストーリーを作成します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein Discovery で処理可能なデータの増加 (パイロット)

Einstein Discovery の制限が緩和され、最大 1 億行のデータが含まれる Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できるようになりました。以前は、最大 2,000 万行でした。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: 行制限の緩和機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。行制限の緩和のサポートは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。行制限の緩和に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

関連トピック:

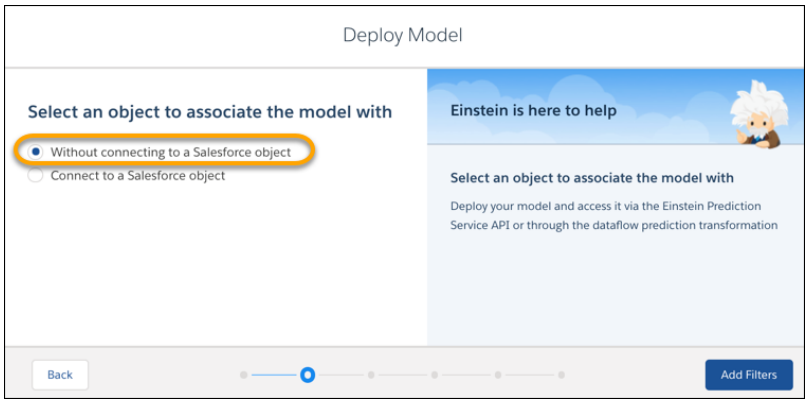
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Salesforce オブジェクトを使用しないモデルのリリース

特定のケースで、モデルをリリースするときに Salesforce オブジェクトを選択する必要がなくなりました。この例外は、Einstein 予測サービスを介したプログラムによる予測、または Einstein Analytics データフローの予測コンポーネントを介したデータセットスコアリングでモデルを使用する場合にのみ適用されます。その他のすべてのケースでは、リリース時に Salesforce オブジェクトを選択する必要があります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: モデルのリリース時に操作を促されたら、[Salesforce オブジェクトに接続しない] を選択し、次のタスク (検索条件の追加) に進みます。



関連トピック:

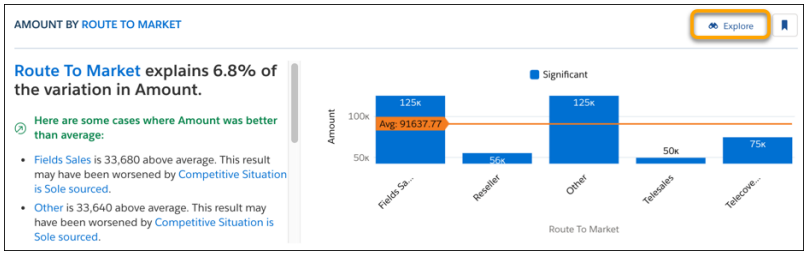
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

インサイトへのすばやいドリルダウン

テキスト項目に関連付けられているインサイトの場合、[探索] ボタンをクリックしてその詳細に簡単にドリルダウンできます。Einstein には、このインサイトのデータを対話形式で探索できるようにレンズビューが表示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリーのインサイトに移動します。特定のインサイトを使用できる場合、[探索] ボタンをクリックします。



Einstein でこのインサイトのレンズビューが起動します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止されます。Spring 20 以降、Einstein Discovery Classic はすべての組織で新しい環境に置き換えられます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 現在、Einstein Discovery Classic を使用しており、Einstein Analytics Plus ライセンスがすでにある場合、Salesforce サポートへのケースを登録し、新しい環境への切り替えを依頼してください。Discovery Analysts ライセンスがあって EA Growth ライセンスがない場合、アカウントエグゼクティブに連絡し、ライセンスを Einstein Analytics Plus に切り替えるように依頼してください。無料の Developer 組織にはすべての適切なライセンスがあり、新しい環境に自動的に切り替えられます。

Einstein Discovery データセットのデータを保持する場合、切り替えの前に「Einstein Analytics へのエクスポート」機能を使用します。組織で Analytic の Einstein Discovery を有効にしたら、Analytics Studio を使用して Einstein Analytics データセットを構築し、ストーリーを手動で作成します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

すべてのユーザのための Analytics: ウォッチリスト (ベータ)、複数の通知受信者、アプリケーション内 Trailhead バッジ

Einstein Analytics ウォッチリストを使用して Analytics ホームページで重要な総計値を追跡します。組織の複数の受信者を通知メールの配布リストに追加します。Analytics Studio で学習ジャーニーを完了して、Trailhead バッジを獲得します。

このセクションの内容:

Einstein Analytics ウォッチリストを使用した予定通りの進行 (ベータ)
Einstein Analytics ウォッチリストでは、重要な総計値と変更を追跡および表示する株価表示形式の環境が提供されます。

複数の受信者へのメール通知
通知の条件を満たすと、情報が自動的に共有されます。同僚と自分に同時にメールを送信するように通知を設定できるようになりました。同じアラートを全員同時に受信できるように、組織の受信者を通知メールの配布リストに追加します。

登録のプレビューとカスタマイズ (ベータ)
新しいプレビューウィンドウと編集可能な登録タイトルを使用して、メール登録を管理します。前回のリリースで、スケジュールされたメール更新を含むダッシュボードウィジェット登録が導入されました。今回のリリースで、すべてのウィジェット登録をまとめて表示し、メールの頻度を簡単に編集し、ウィジェット登録を削除できる、プレビューウィンドウが追加されました。その他の機能強化として、編集可能なタイトル、登録メールの数値ウィジェットでの数値形式のサポートがあります。

Analytics Studio での学習の Trailhead バッジの獲得
Studio で Analytics の基礎を学び、Einstein Analytics の最新の Trailhead バッジを獲得してください。この新しいアプリケーション内バッジは、学習センターの [Analytics 体験の開始] で学習ジャーニーを完了したときに獲得できます。

Analytics モバイルアプリケーション: Salesforce アプリケーションのその他の機能の探索
Salesforce モバイルアプリケーションの独自のタブから Einstein Analytics にアクセスし、外出先でアセットにすばやくアクセスできます。Salesforce アプリケーションと Einstein Analytics モバイルアプリケーションでユーザの作業環境に一貫性が確保されるようになりました。Einstein Analytics for iOS/Android バージョン 9.0 は、この春の後半に使用可能になります。

Einstein Analytics ウォッチリストを使用した予定通りの進行 (ベータ)

Einstein Analytics ウォッチリストでは、重要な総計値と変更を追跡および表示する株価表示形式の環境が提供されます。

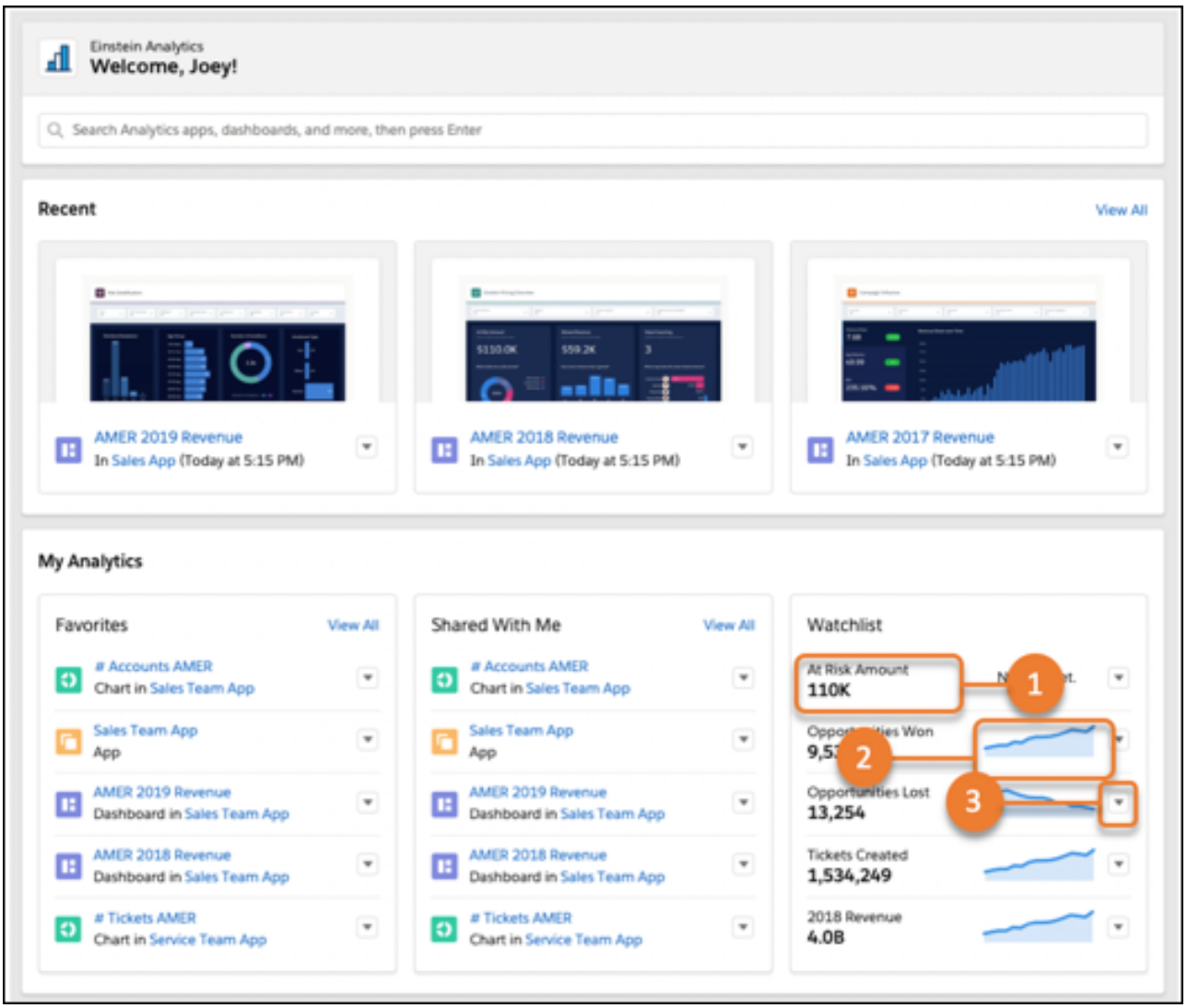
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Einstein Analytics ウォッチリストはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「Einstein Analytics」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できま

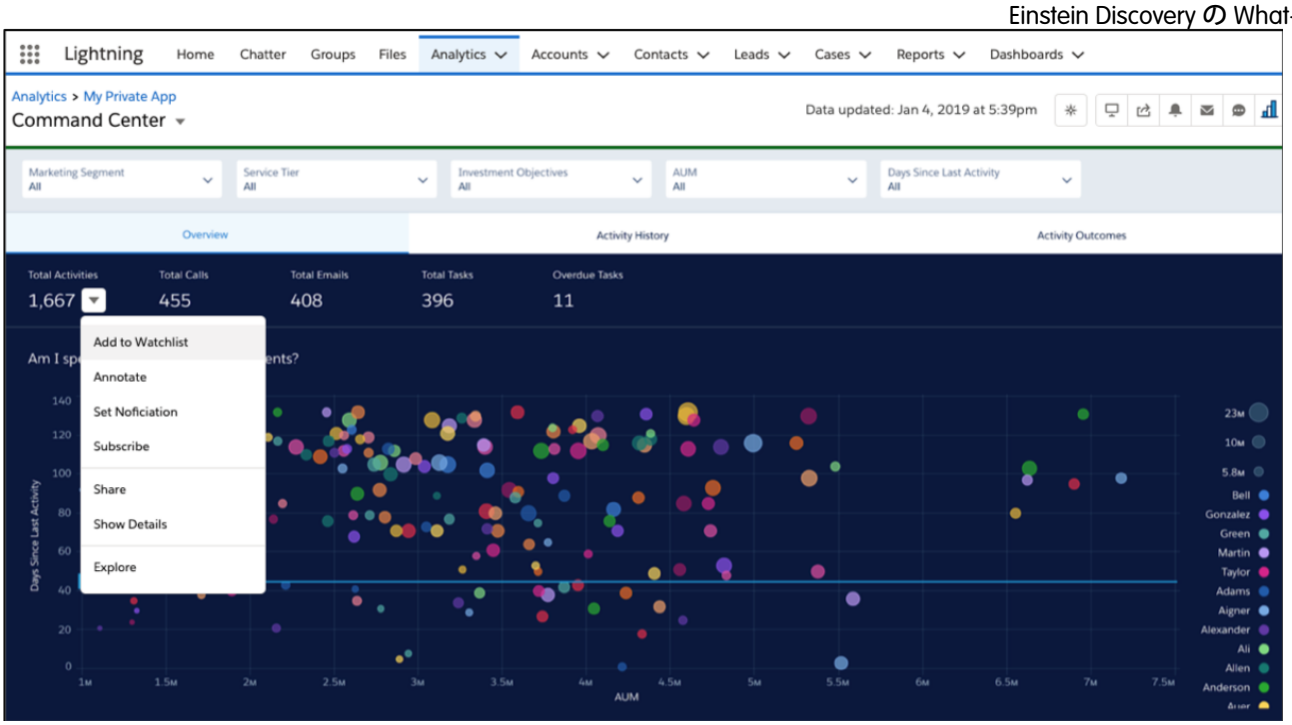
す。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、Einstein Analytics に関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein Analytics ウォッチリストに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: [設定] で、[Analytics] の [設定] から [ウォッチリストを有効化] を選択します。

ウォッチリストを使用すると、ユーザはダッシュボード項目のカスタマイズされたリストを作成して、総計値 (1) とトレンド (2) を監視できます。総計値のドロップダウンメニュー (3) を使用して総計値を編集し、そのソースダッシュボードを表示します。何が変更されたかを確認するためにアセットを切り替える必要がなくなり、ユーザはそれらをすべて 1 か所ですばやく簡単に追跡できます。



ユーザは、アクセス権のあるダッシュボードから、関心のある項目を使用してウォッチリストを作成できます。監視する項目を含むダッシュボードを開き、ウィジェットのドロップダウンメニューを使用して追加するだけです。



ウォッチリストに項目が追加されると、すぐにトレンド分析が開始されます。スナップショットは、あらゆる時点のダッシュボード項目のパフォーマンスを示すために定期的にキャプチャされるため、古いデータはありません。

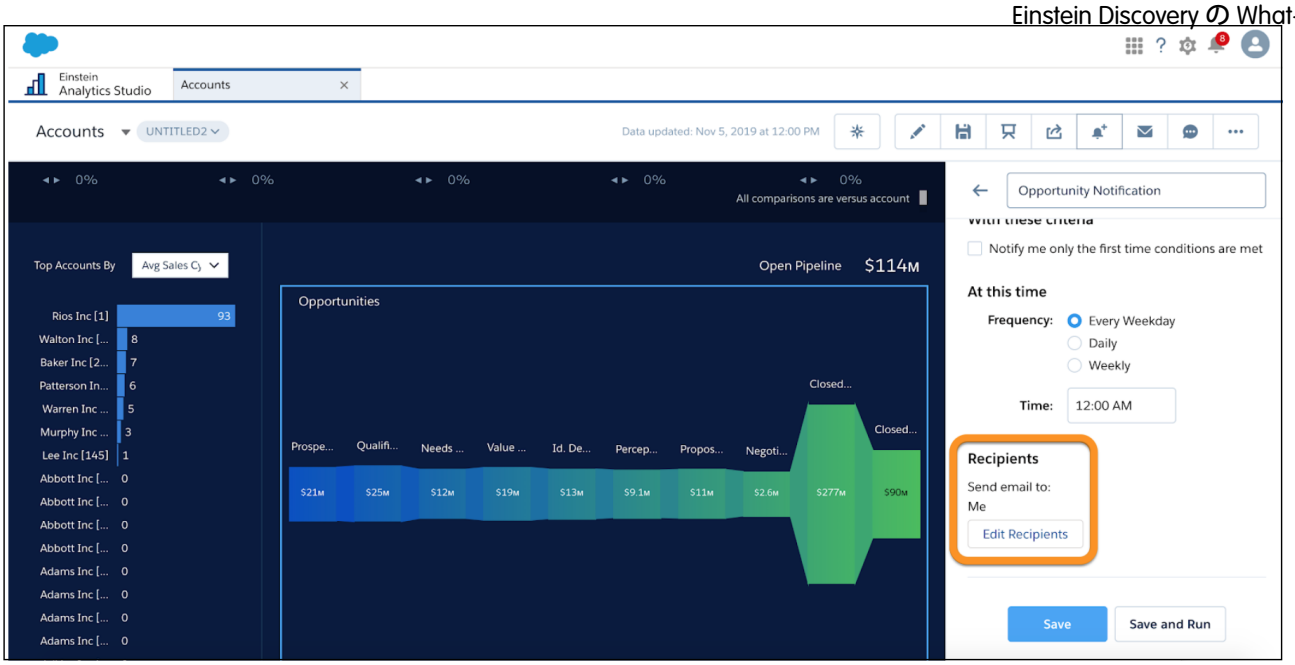
複数の受信者へのメール通知

通知の条件を満たすと、情報が自動的に共有されます。同僚と自分に同時にメールを送信するように通知を設定できるようになりました。同じアラートを全員同時に受信できるように、組織の受信者を通知メールの配布リストに追加します。

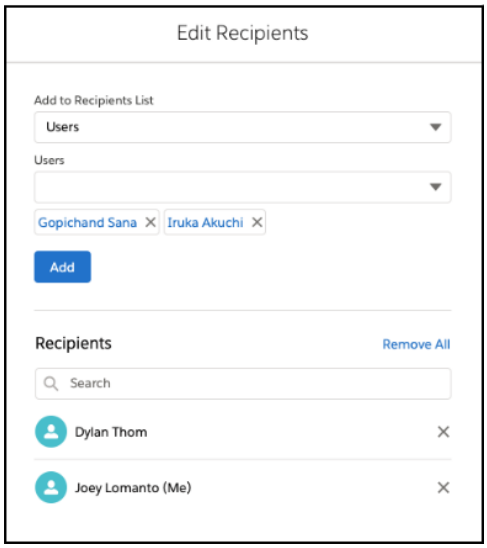
対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 「通知メール: 受信者を追加」権限を持つユーザは、通知メール受信者を追加できます。

方法: 受信者を追加するには、ダッシュボードの通知パネルで通知を開き、[メール受信者を編集] をクリックします。



[メール受信者を編集]ボックスで、ユーザを追加したり、現在の受信者を表示したり、受信者を削除したりできます。データセットおよびダッシュボードへのアクセス権を持つユーザのみを選択できます。このリリースではユーザしか選択できませんが、今後のリリースでグループとロールが予定されています。



受信者は、通知を設定したユーザのメールアドレスから送信された通知メールを受信します。受信者を追加しても、その個人用通知は作成されません。追加された受信者のアプリケーション内通知は、ベルアイコンで通知されず、ホームページにも表示されません。

メモ: 通知メールの配布リストに追加されると、受信者は自分自身を削除することができないため、メールの送信者に削除を依頼する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 重要なビジネス総計値に関するスマート通知の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

登録のプレビューとカスタマイズ (ベータ)

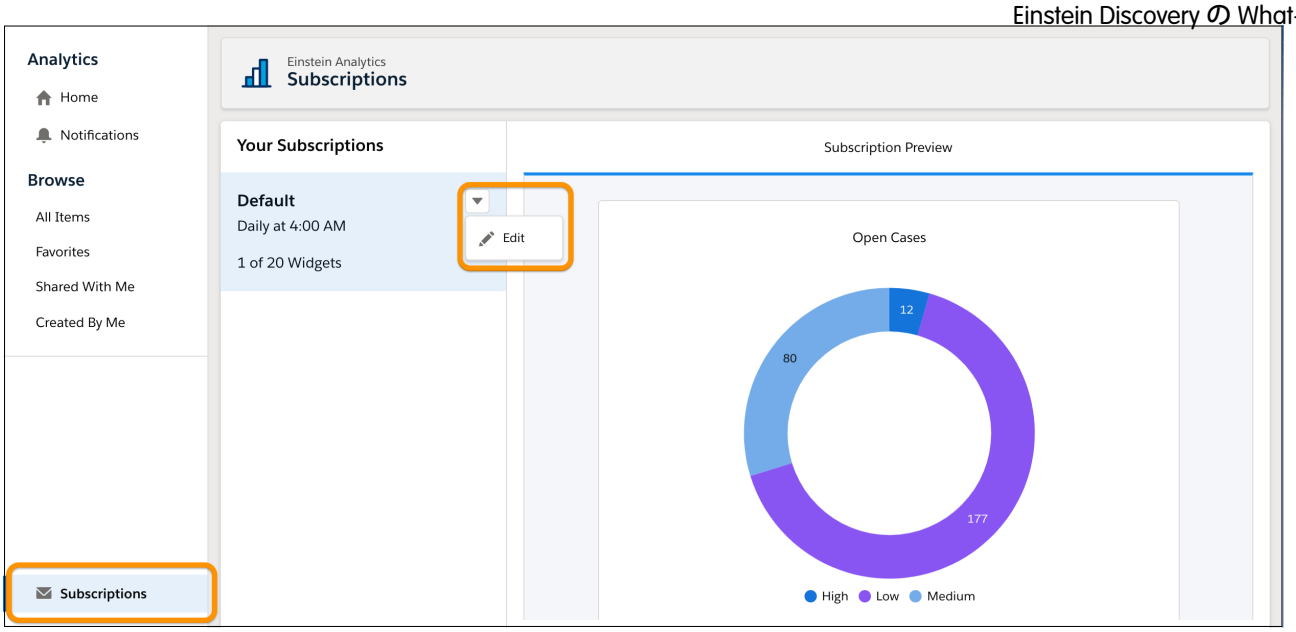
新しいプレビューウィンドウと編集可能な登録タイトルを使用して、メール登録を管理します。前回のリリースで、スケジュールされたメール更新を含むダッシュボードウィジェット登録が導入されました。今回のリリースで、すべてのウィジェット登録をまとめて表示し、メールの頻度を簡単に編集し、ウィジェット登録を削除できる、プレビューウィンドウが追加されました。その他の機能強化として、編集可能なタイトル、登録メールの数値ウィジェットでの数値形式のサポートがあります。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

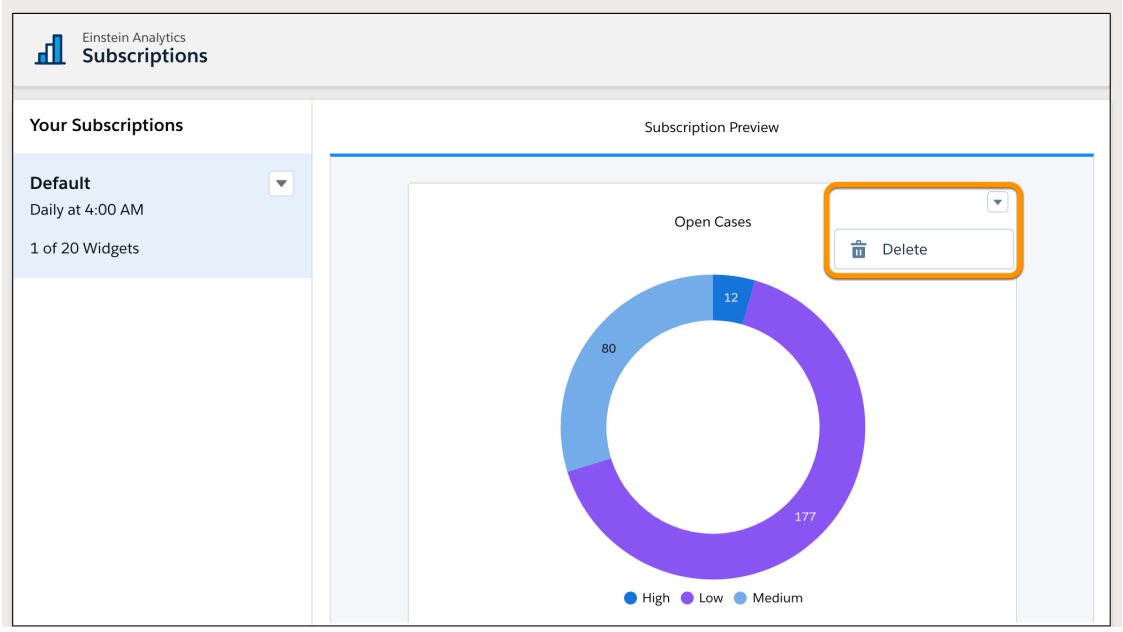
メモ: Einstein Analytics サブスクリプションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: [設定] の [Analytics] の [設定] ページで、**[Einstein Analytics ダッシュボードウィジェットへのメールサブスクリプションを有効化 (ベータ)]** を選択します。そうすると、すべてのウィジェットメニューに [登録] オプションが表示されます (テーブル、マップ、カスタムグラフを除く)。

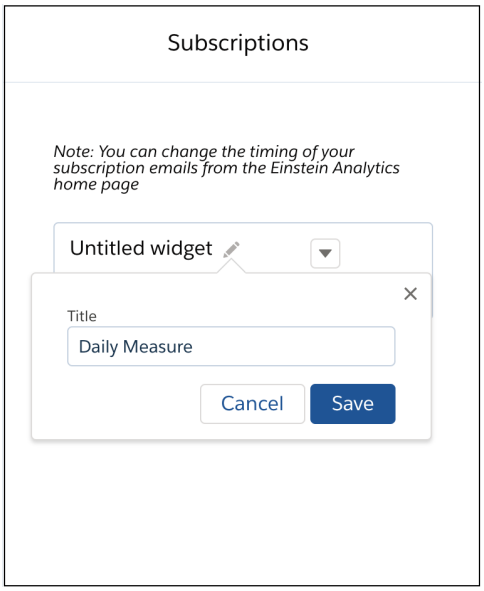
プレビューを開くには、ホームページの左のナビゲーションパネルで [登録] をクリックします。プレビューにはウィジェット登録のスケジュールされた頻度と数が表示され、登録のタイミングと頻度を編集できます。



ウィジェットのプレビューで [削除] を選択して、登録からウィジェットを削除することもできます。



プレビューで、ウィジェットのタイトルをクリックしてダッシュボード登録パネルに移動します。登録パネルで、鉛筆をクリックしてウィジェットの登録のタイトルを変更します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールサブスクリプションを使用した主要な総計値に関する定期更新の取得 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics Studio での学習の Trailhead バッジの獲得

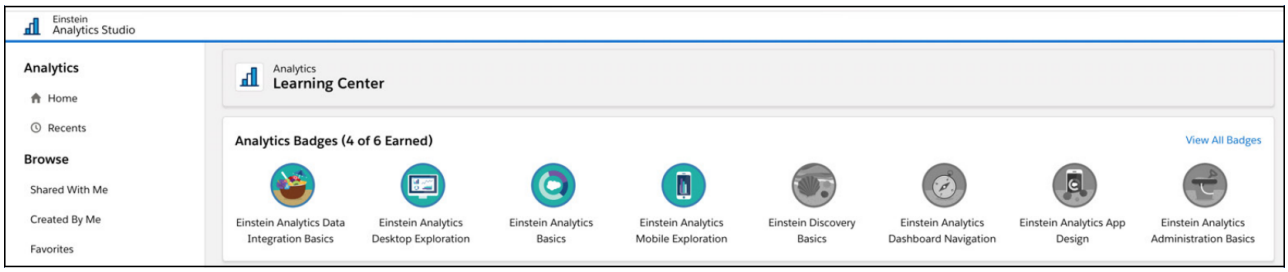
Studio で Analytics の基礎を学び、Einstein Analytics の最新の Trailhead バッジを獲得してください。この新しいアプリケーション内バッジは、学習センターの [Analytics 体験の開始] で学習ジャーニーを完了したときに獲得できます。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: アカウントに応じて、4 つの新しいバッジがあります。

Einstein Analytics でのデータインテグレーション	Einstein Analytics でのデータ探索	Einstein Analytics でのアプリケーション作成	Einstein Discovery のインテリジェンス

バッジは、Trailhead プロファイル、および学習センターの上部セクションに表示されます。完了したバッジは色付きで、グレー表示のバッジは獲得可能なバッジです。



Analytics モバイルアプリケーション: Salesforce アプリケーションのその他の機能の探索

Salesforce モバイルアプリケーションの独自のタブから Einstein Analytics にアクセスし、外出先でアセットにすばやくアクセスできます。Salesforce アプリケーションと Einstein Analytics モバイルアプリケーションでユーザの作業環境に一貫性が確保されるようになりました。Einstein Analytics for iOS/Android バージョン 9.0 は、この春の後半に使用可能になります。

このセクションの内容:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用
新しい Salesforce モバイルアプリケーションの最新の更新では、ユーザは新しい Analytics ナビゲーション項目から Einstein Analytics アセットにアクセスできます。新しい項目により、デスクトップとモバイル間で使い慣れたユーザエクスペリエンスを実現できます。また、アプリケーションやダッシュボードにアクセスするためのホームページが Salesforce モバイルアプリケーションユーザに提供されます。

Einstein Analytics for iOS/Android の Spring '20 バージョンの準備
数週間以内にこのページでモバイルの新機能が紹介されます。Analytics モバイルアプリケーションの早期プレビューにアクセスするには、https://mobileanalyticsbeta.salesforce.com でベータチャネルにサインアップしてください。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用

新しい Salesforce モバイルアプリケーションの最新の更新では、ユーザは新しい Analytics ナビゲーション項目から Einstein Analytics アセットにアクセスできます。新しい項目により、デスクトップとモバイル間で使い慣れたユーザエクスペリエンスを実現できます。また、アプリケーションやダッシュボードにアクセスするためのホームページが Salesforce モバイルアプリケーションユーザに提供されます。

対象: この変更は、iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しいナビゲーション項目は、2020 年 2 月 17 日の週に使用可能になります。

関連トピック:

新しいモバイルナビゲーション項目を使用した外出中での Einstein Analytics へのアクセス

Einstein Analytics for iOS/Android の Spring '20 バージョンの準備

数週間以内にこのページでモバイルの新機能が紹介されます。Analytics モバイルアプリケーションの早期プレビューにアクセスするには、https://mobileanalyticsbeta.salesforce.com でベータチャネルにサインアップしてください。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for iOS/Android に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

コミュニティ: コミュニティのレポートビルダー、ExperienceBundle、強化されたセキュリティ、チャネルメニュー

パートナーと顧客はコミュニティおよびポータルでレポートの作成と実行ができるようになりました。ExperienceBundle メタデータ型を使用すると、お気に入りの開発ツールを使用して、Lightning コミュニティの更新とリリースをプログラムですばやく実行できます。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安全に維持できます。Service Cloud のチャネルメニューを使用して、サービスエージェントがさまざまなチャネルで顧客に連絡できるようにします。Lightning コミュニティの利用者をプログラムで作成および変更します。

ヒント: 今日の Salesforce には多数の Lightning (Lightning Experience、Lightning フレームワーク、Lightning Web コンポーネント) が存在しており、各々のコミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。概要は次のとおりです。

Lightning コミュニティは、Lightning Experience と同様、Lightning プラットフォームと Lightning コンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために Lightning Experience を有効にする必要はありません。

また、コミュニティユーザに影響する変更については、リリースノートの「Lightning コンポーネント」セクションを参照してください。

このセクションの内容:

- Lightning コミュニティ: レポートビルダー、レポート実行ページ、柔軟なレイアウト
- 開発者の生産性: ExperienceBundle、パーソナライズ、独自の (LWC) テンプレートの作成
- ゲストユーザ: 新しいゲストユーザアクセス設定、削除された廃止済み権限

セキュリティと共有: Apple ID ログイン、テキストメッセージの ID 検証、Lightning Locker の切り替え

コミュニティユーザとポータルユーザは Apple ID を使用してログインできるようになりました。コミュニティメンバーとポータルメンバーはテキストメッセージを使用して ID 検証できるようになりました。切り替えボタンを使用してコミュニティの Lightning Locker の有効/無効を切り替えることができます。

コミュニティのその他の変更

コミュニティの環境を改善する他の変更について説明します。

Lightning コミュニティ: レポートビルダー、レポート実行ページ、柔軟なレイアウト

Lightning コミュニティでレポートビルダーを使用して、コミュニティまたはポータルから顧客とパートナーがレポートを作成および実行できるようにします。Lightning コミュニティページレイアウトを作成するときの設計者の柔軟性を向上します。

このセクションの内容:

Lightning コミュニティのレポートビルダー (正式リリース)

コミュニティから直接、レポートを作成、削除、編集します。

Lightning コミュニティでのレポートの表示 (正式リリース)

コミュニティから直接、レポートレコードのレビュー、分析、コラボレーションを行います。

柔軟なレイアウトをさらに拡張

セクションを目的の場所にドラッグすることで、柔軟なレイアウトページ内のセクションを並び替えることができるようになりました。

コミュニティナビゲーションの新しいページ名属性の使用

Lightning コミュニティページを作成するときに一意の API 参照名を追加します。この値を `comm__namedPage` ページ参照で lightning-navigation API の `name` 属性として使用できます。

コミュニティでの取引先チームと商談チームの関連リストのカスタマイズのサポート

取引先チームと商談チームの関連リストをカスタマイズすることで、営業担当が顧客やパートナーと効果的にコラボレーションできるようにします。以前は、これらの関連リストはカスタマイズできましたが、カスタマイズの内容はエンドユーザに表示されませんでした。

コミュニティ検索ページの検索ルートパラメータの更新

Koa と Kokua を除くすべての Lightning コミュニティテンプレートで、コミュニティ検索ルートの URL パラメータが `:term` に更新されました。カスタマーサービステンプレートの URL パラメータは `/search-topic/:term` になりました (`/search-topic/:searchString` から更新)。その他のすべての Lightning テンプレート (Koa と Kokua を除く) の URL パラメータは `/global-search/:term` になりました (`/global-search/:searchString` から更新)。

通常のフィードとフィード項目詳細の間の往復移動の向上

コミュニティの通常のトピックフィードとグループフィードの往復ナビゲーションが向上し、より便利になりました。トピックページまたはグループで、通常のフィードから詳細ビューの間を往復すると、移動前に表示されていた場所に戻ります。以前は、フィードの先頭に戻っていました。

より多くの利用者の作成、ワイルドカードを使用した検索、並び替え

作成できる利用者数の制限が緩和され、1,500 になりました。利用者の数が増えると、検索の回数が増える可能性があるため、検索を容易にしました。% ワイルドカードと新しい並び替えを使用すると、必要な利用者をすばやく見つけることができます。

ヘルプセンターへの関連レコードリストコンポーネントの追加

[関連レコードリスト] ページと関連レコードリストコンポーネントをヘルプセンターテンプレートで使用できるようになりました。これらを併せて使用すると、ナレッジ記事に関連するファイルのリストを追加できます。ユーザが記事から必要な情報を得られなかった場合は、ソリューションが見つかるように関連ファイルのリストを表示できます。

Salesforce CMS を使用したチャネル全体の魅力的な環境の作成

Salesforce CMS は、コンテンツの作成および任意のチャネルへのコンテンツの配信に役立つように設計されたハイブリッド CMS です。この柔軟なツールを使用して、複数の顧客タッチポイントで一貫した環境を作成します。CMS ワークスペースを Commerce Cloud や Heroku などのチャネルと共有したり、エクスペリエンスビルダーで豊富なコンテンツを備えたカスタマイズされたサイトを作成したりします。同じ CMS ワークスペースコンテンツを使用して、これらのチャネルを強化します。

トピックコンポーネントから削除された ID 項目

コミュニティの入力規則を改善して [トピック] コンポーネントを合理化するために、[関連トピックリスト] コンポーネント、[トピックの説明] コンポーネント、[トピック総計値] コンポーネントから [トピック ID] 項目が削除されました。また、[トピック] コンポーネントから [レコード ID] 項目も削除されました。これらの ID 項目は動的に生成されていたため、削除してもコンポーネントの動作は変更されません。

Lightning コミュニティのレポートビルダー (正式リリース)

コミュニティから直接、レポートを作成、削除、編集します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: [レポートビルダー] ページは、Partner Community または Customer Community Plus ライセンスを持つコミュニティユーザが使用できます。

方法: Lightning レポートビルダーは、次のコミュニティテンプレートで使用できます。

- Build Your Own
- カスタマー取引先ポータル
- カスタマーサービス
- Partner Central

コミュニティでレポートをすでに有効化している場合、コミュニティの [レポート一覧] ページで [新規レポート] ボタンを使用できます。コミュニティに [レポート一覧] ページをまだ追加していない場合は追加します。レポートを有効にした後にボタンが使用できない場合は、コミュニティを再公開します。

すべての Salesforce レポートについて、レポートを表示、編集、または削除するには、そのレポートに対するアクセス権が必要です。

Lightning コミュニティでのレポートの表示 (正式リリース)

コミュニティから直接、レポートレコードのレビュー、分析、コラボレーションを行います。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: レポート実行ページは、Partner Community または Customer Community Plus ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: レポート実行ページを使用すると、ユーザは次のものを含むレポートを表示できます。

- ヘッダーの主要な総計値
- レポートのプロパティを表示または非表示にする切り替えスイッチ
- レポートヘッダーのレポート管理ツール
- レコードグループの並び替えおよびドリル機能

方法: レポート実行ページは、次のコミュニティテンプレートで使用できます。

- Build Your Own
- カスタマー取引先ポータル
- カスタマーサービス
- Partner Central

コミュニティですでにレポートを有効にしている場合、レポート実行ページは自動的に使用可能になります。レポートを有効にした後にレポート実行ページが使用できない場合は、コミュニティを再公開します。

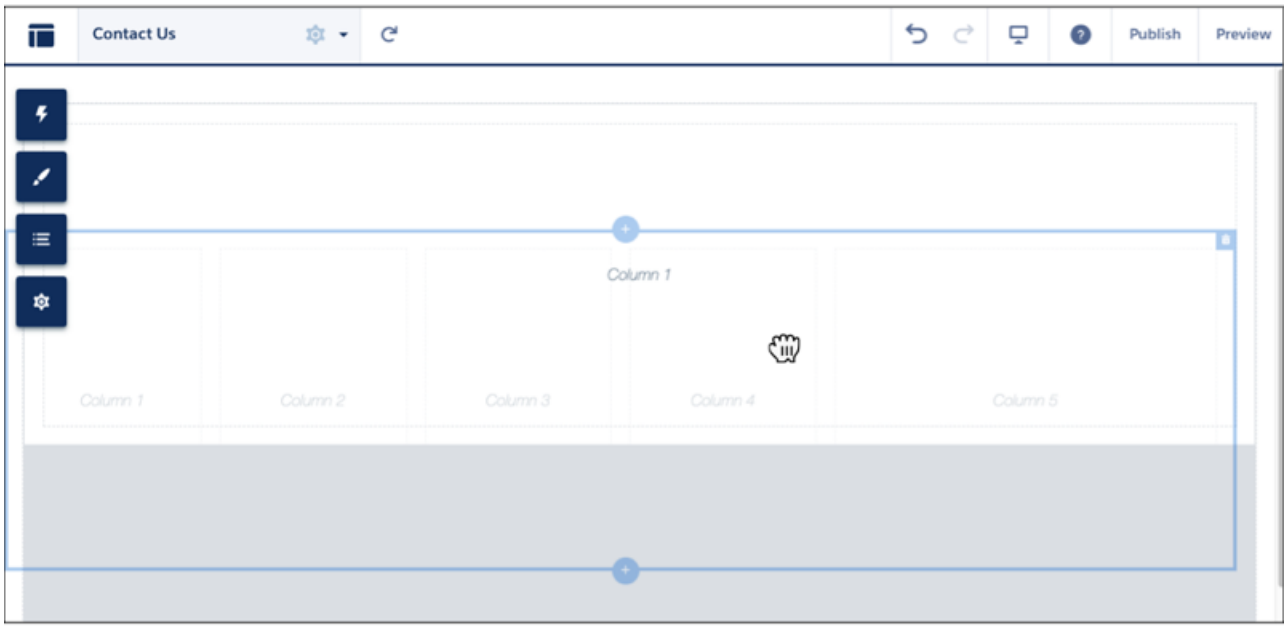
すべての Salesforce レポートについて、レポートを表示、編集、または削除するには、そのレポートに対するアクセス権が必要です。

柔軟なレイアウトをさらに拡張

セクションを目的の場所にドラッグすることで、柔軟なレイアウトページ内のセクションを並び替えることができるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーの上部のツールバーで [ページ] メニューを開きます。既存の柔軟なレイアウトページを開くか、[新規ページ] > [標準ページ] > [柔軟なレイアウト] を選択します。 アイコンを使用してセクションを追加した後、セクションを目的の場所にドラッグします。



関連トピック:

- 柔軟なレイアウトを使用した CMS コンテンツの強化

コミュニティナビゲーションの新しいページ名属性の使用

Lightning コミュニティページを作成するときに一意の API 参照名を追加します。この値を `comm__namedPage` ページ参照で lightning-navigation API の `name` 属性として使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 新しい標準コミュニティページを作成するときに、新しい [API 参照名] 項目が表示されるようになりました。

API 参照名を定義できるのは、ページを作成する場合のみです。既存のページでは、またはこの項目を空白のままにした場合、名前は自動的に生成されます。

次のコミュニティの名前付きページでは、`lightning-navigation` で API 参照名を使用できます。

- ホーム
- 取引先の管理
- カスタマーサポートへの連絡
- エラー
- ログイン
- My Account
- 上位の記事
- トピックカタログ
- カスタムページ

メモ: API 参照名のパッケージ化は現在サポートされていません。エクスポートされたテンプレートから作成されたコミュニティでは、API 参照名が元のコミュニティとは異なる場合があります。`pageName` 属性は廃止されました。

コミュニティでの取引先チームと商談チームの関連リストのカスタマイズのサポート

取引先チームと商談チームの関連リストをカスタマイズすることで、営業担当が顧客やパートナーと効果的にコラボレーションできるようにします。以前は、これらの関連リストはカスタマイズできましたが、カスタマイズの内容はエンドユーザに表示されませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ:取引先チームの変更は、コミュニティライセンスを持つすべてのユーザが使用できます。商談チームの変更は、Partner Community **ライセンスまたは** Lightning External Apps Plus **ライセンスを持つユーザのみが使用できます。**

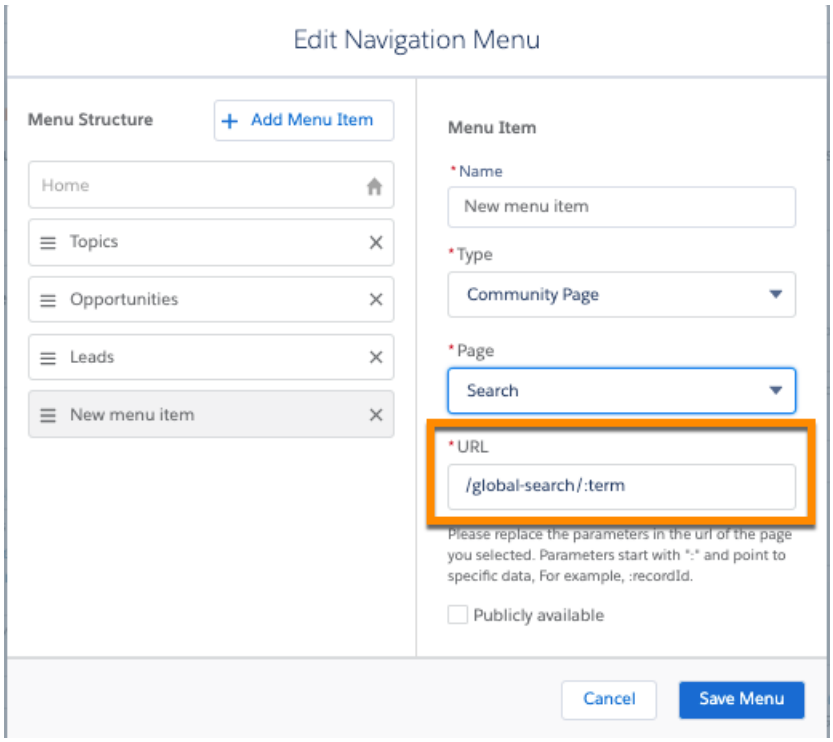
関連トピック:

- 取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ

コミュニティ検索ページの検索ルートパラメータの更新

Koa と Kokua **を除くすべての** Lightning **コミュニティテンプレートで、コミュニティ検索ルートの** URL **パラメータが** `:term` **に更新されました。カスタマーサービステンプレートの** URL **パラメータは** `/search-topic/:term` **になりました (**`/search-topic/:searchString` **から更新)。その他のすべての** Lightning **テンプレート (**Koa と Kokua **を除く) の** URL **パラメータは** `/global-search/:term` **になりました (**`/global-search/:searchString` **から更新)。**

対象: この変更は、Enterprise Edition**、**Essentials Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **でアクセスする** Lightning **コミュニティ (**Koa **および** Kokua **コミュニティを除く) に適用されます。**



メモ: **古い** URL **パラメータを使用しているすべてのコンポーネントは、この変更後も引き続き機能します。**

通常のフィードとフィード項目詳細の間の往復移動の向上

コミュニティの通常のトピックフィードとグループフィードの往復ナビゲーションが向上し、より便利になりました。トピックページまたはグループで、通常のフィードから詳細ビューの間を往復すると、移動前に表示されていた場所に戻ります。以前は、フィードの先頭に戻っていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: たとえば、トピックページまたはグループで、特定の情報を探しているとします。[さらに表示]をクリックしてフィード項目のリストをさらに表示し、適切な情報を探します。ただし、有望な投稿を見つけてクリックし、詳細ビューを表示すると、それは求めていた情報ではなかったことがわかります。ここでブラウザの[戻る]ボタンをクリックすると、詳細ビューに移動する前のページに戻ります。以前は、[戻る]ボタンをクリックすると、通常のフィードの最上部に移動していたため、元の場所までスクロールして戻る必要がありました。

より多くの利用者の作成、ワイルドカードを使用した検索、並び替え

作成できる利用者数の制限が緩和され、1,500 になりました。利用者の数が増えると、検索の回数が増える可能性があるため、検索を容易にしました。%ワイルドカードと新しい並び替えを使用すると、必要な利用者をすばやく見つけることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

ヘルプセンターへの関連レコードリストコンポーネントの追加

[関連レコードリスト]ページと関連レコードリストコンポーネントをヘルプセンターテンプレートで使用できるようになりました。これらを併せて使用すると、ナレッジ記事に関連するファイルのリストを追加できます。ユーザが記事から必要な情報を得られなかった場合は、ソリューションが見つかるように関連ファイルのリストを表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするヘルプセンター Lightning コミュニティテンプレートに適用されます。

方法: ヘルプセンターで、関連レコードリストコンポーネントを [記事の詳細] ページに追加します。変更を公開します。[記事の詳細] ページで、ユーザが関連レコードリストコンポーネントの [すべて表示] をクリックすると、[関連レコードリスト] ページに移動します。

メモ: ヘルプセンターでは、関連レコードリストコンポーネントでサポートされるオブジェクトはファイルのみです。

Salesforce CMS を使用したチャネル全体の魅力的な環境の作成

Salesforce CMS は、コンテンツの作成および任意のチャネルへのコンテンツの配信に役立つように設計されたハイブリッド CMS です。この柔軟なツールを使用して、複数の顧客タッチポイントで一貫した環境を作成します。CMS ワークスペースを Commerce Cloud や Heroku などのチャネルと共有したり、エクスペリエンスビルダーで豊富なコンテンツを備えたカスタマイズされたサイトを作成したりします。同じ CMS ワークスペースコンテンツを使用して、これらのチャネルを強化します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce CMS コンテンツは、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。

関連トピック:

Salesforce CMS: 複数の多様なチャネル、CMS ホーム、および柔軟なレイアウト
複数のチャネルおよびサイトへの魅力的なコンテンツの配信

トピックコンポーネントから削除された ID 項目

コミュニティの入力規則を改善して [トピック] コンポーネントを合理化するために、[関連トピックリスト] コンポーネント、[トピックの説明] コンポーネント、[トピック総計値] コンポーネントから [トピック ID] 項目が削除されました。また、[トピック] コンポーネントから [レコード ID] 項目も削除されました。これらの ID 項目は動的に生成されていたため、削除してもコンポーネントの動作は変更されません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

開発者の生産性: ExperienceBundle、パーソナライズ、独自の (LWC) テンプレートの作成

ExperienceBundle およびパーソナライズ API の機能強化、新しい Salesforce CLI コマンド、および Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルに基づく新しいテンプレートを使用して、コミュニティをより効率的に開発します。

このセクションの内容:

ExperienceBundle を使用した Lightning コミュニティの更新およびリリース (正式リリース)
以前はパイロットプログラムとして使用できた ExperienceBundle メタデータ型が正式リリースされました。ExperienceBundle は、さまざまなエクスペリエンスビルダー設定およびサイトコンポーネント (ページ、ブランドセット、テーマなど)の、人間が判読可能なテキストベースの表現を提供します。コミュニティが独自の組織用であるかどうかにかかわらず、またはあなたがコンサルティングパートナーまたは ISV であるかどうかにかかわらず、VS Code 向け Salesforce 拡張機能、Salesforce CLI、ワークベンチ、お気に入りの IDE またはテキストエディタなど、好みの開発ツールを使用して Lightning コミュニティをすばやく更新し、リリースします。

API を使用したコミュニティのパーソナライズ (正式リリース)

プログラムによって Lightning コミュニティの利用者を作成および変更し、コードで利用者の対象をページ、コンポーネント、ブランドセット、データに設定します。Chatter REST API、Apex、およびメタデータ API を使用して Lightning コミュニティの利用者を作成し、ページ、コンポーネント、カスタムオブジェクト、ブランドセットなどの対象に割り当てます。この新機能はユーザエクスペリエンスには影響せず、お客様の作業は不要です。ただし、Spring '20 の Sandbox および本番リリース後に既存のコミュニティのパーソナライズをテストすることをお勧めします。

コミュニティの Lightning コンポーネントでの緩和された CSP の使用

Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントに `lightningCommunity__RelaxedCSP` でタグ付けすると、Lightning Locker が無効になったコミュニティでコンポーネントを実行できます。

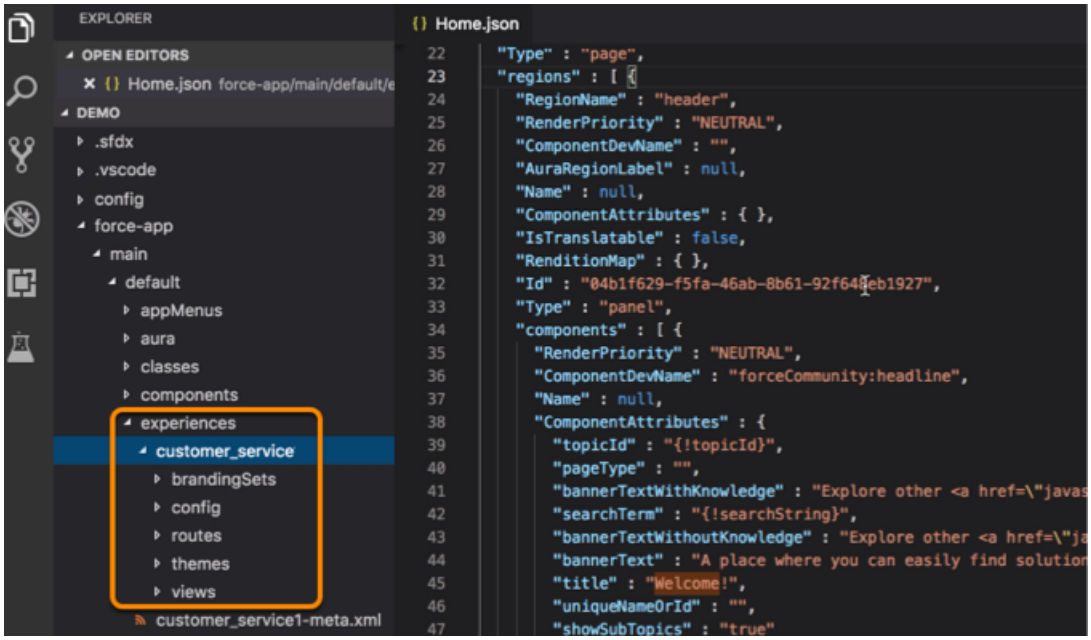
ExperienceBundle を使用した Lightning コミュニティの更新およびリリース (正式リリース)

以前はパイロットプログラムとして使用できた ExperienceBundle メタデータ型が正式リリースされました。ExperienceBundle は、さまざまなエクスペリエンスビルダー設定およびサイトコンポーネント (ページ、ブランドセット、テーマなど) の、人間が判読可能なテキストベースの表現を提供します。コミュニティが独自の組織用であるかどうかにかかわらず、またはあなたがコンサルティングパートナーまたは ISV であるかどうかにかかわらず、VS Code 向け Salesforce 拡張機能、Salesforce CLI、ワークベンチ、お気に入りの IDE またはテキストエディタなど、好みの開発ツールを使用して Lightning コミュニティをすばやく更新し、リリースします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 以前は、Network、CustomSite、SiteDotCom メタデータ型を組み合わせてコミュニティを定義していました。ただし、SiteDotCom 型を取得すると、人間が判読できないバイナリの `.site` ファイルが生成されました。SiteDotCom ではなく ExperienceBundle 型を取得すると、3 レベルのフォルダ構造に含まれる詳細なコミュニティメタデータを、人間が判読可能な形式で抽出できます。

`experiences` フォルダには、組織のすべての Lightning コミュニティが含まれます。各コミュニティフォルダには、エクスペリエンスビルダーでアクセスするさまざまなコンポーネントを表すサブフォルダが含まれます。ローカルマシンまたはスクラッチ組織で `.json` ファイルを編集した後、変更をすぐにリリースします。



方法: ExperienceBundle メタデータ型を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「コミュニティ設定」と入力し、**[コミュニティ設定]** を選択します。**[ExperienceBundle メタデータ API を有効化]** を選択して、変更を保存します。

または、スクラッチ組織定義ファイルを使用してスクラッチ組織を作成するときにこの機能を有効にできます。(「Metadata Coverage (対象メタデータ)」レポート」を参照)。

```
{
  "orgName": "Sample Org",
  "edition": "developer",
  "features": [
    "COMMUNITIES"
  ],
  "settings": {
    "experienceBundleSettings": {
      "enableExperienceBundleMetadata": true
    },
    "communitiesSettings": {
      "enableNetworksEnabled": true
    }
  }
}
```

ヒント: コミュニティの `.json` ファイルの編集を開始する前に、バックアップとしてファイルをコピーしてください。

このセクションの内容:

プログラムによるスクラッチ組織でのコミュニティの作成および公開
スクラッチ組織で ExperienceBundle を使用するときのコミュニティの作成および公開プロセスを加速します。いくつかの新しい Salesforce CLI コマンドを使用して、使用可能なテンプレートのリストをプログラムで取得したり、Lightning コミュニティまたは Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを作成したり、Lightning コミュニティを公開したりできます。

ExperienceBundle の機能強化
ExperienceBundle には、パイロットリリース以降の改善が含まれます。CMS コレクション、CMS Connect (JSON)、および CMS 単一項目コンポーネントと共にロック解除済みパッケージがサポートされるようになりました。コンポーネントを ExperienceBundle に追加するとコンポーネントの UUID が自動的に生成されます。

プログラムによるスクラッチ組織でのコミュニティの作成および公開

スクラッチ組織で ExperienceBundle を使用するときのコミュニティの作成および公開プロセスを加速します。いくつかの新しい Salesforce CLI コマンドを使用して、使用可能なテンプレートのリストをプログラムで取得したり、Lightning コミュニティまたは Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを作成したり、Lightning コミュニティを公開したりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

関連トピック:

新規または変更された CLI コマンド

ExperienceBundle の機能強化

ExperienceBundle には、パイロットリリース以降の改善が含まれます。CMS コレクション、CMS Connect (JSON)、および CMS 単一項目コンポーネントと共にロック解除済みパッケージがサポートされるようになりました。コンポーネントを ExperienceBundle に追加するとコンポーネントの UUID が自動的に生成されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

メタデータ API

API を使用したコミュニティのパーソナライズ (正式リリース)

プログラムによって Lightning コミュニティの利用者を作成および変更し、コードで利用者の対象をページ、コンポーネント、ブランドセット、データに設定します。Chatter REST API、Apex、およびメタデータ API を使用して Lightning コミュニティの利用者を作成し、ページ、コンポーネント、カスタムオブジェクト、ブランドセットなどの対象に割り当てます。この新機能はユーザエクスペリエンスには影響せず、お客様の作業は不要です。ただし、Spring '20 の Sandbox および本番リリース後に既存のコミュニティのパーソナライズをテストすることをお勧めします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

このリリースの変更についての詳細は、次のリリースノートを参照してください。

- Chatter REST API: パーソナライズ
- Chatter in Apex: パーソナライズ

その他の詳細は、次の開発者ガイドを参照してください。

- *Apex 開発者ガイド*: Personalization クラス
- *Chatter REST API 開発者ガイド*: Personalization リソース
- *メタデータ API 開発者ガイド*: 利用者

コミュニティの Lightning コンポーネントでの緩和された CSP の使用

Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントに `lightningCommunity__RelaxedCSP` でタグ付けすると、Lightning Locker が無効になったコミュニティでコンポーネントを実行できます。

対象: この変更は、Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

関連トピック:

Lightning Locker が無効になっている Lightning コミュニティでのコンポーネントの使用

ゲストユーザ: 新しいゲストユーザアクセス設定、削除された廃止済み権限

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を使用して、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定を適用し、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与するために使用できる共有メカニズムを制限します。ゲストユーザプロファイルからさまざまな無効なユーザ権限を削除してデータセキュリティを強化しました。

このセクションの内容:

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)

2020 年 3 月 1 日、Salesforce データの安全性を高めるために、このセキュリティアラートですべての組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が自動的に有効になります。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

ゲストユーザのオブジェクト権限の保護 (セキュリティアラート)

Summer '20 では、Salesforce によってゲストユーザをすべての標準オブジェクトとカスタムオブジェクトで最大の「参照」または「作成」アクセス権に制限する新しいセキュリティポリシーが適用されます。以前は、ゲストユーザに特定のオブジェクトでの「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限を付与できました。Salesforce では、新しい組織および準拠する既存の組織でのみこの新しいセキュリティポリシーを適用します(つまり、任意のオブジェクトでゲストユーザの「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限はありません)。この新しいセキュリティポリシーに準拠しない組織には、組織のセキュリティアラートが表示され、組織データを保護するためにゲストオブジェクトの権限を評価する必要があります。

Sandbox 環境のゲストユーザプロファイルからの「すべてのユーザの表示」などの権限の削除

データセキュリティを高めるために、Sandbox 組織のすべてのゲストユーザプロファイルから、「すべてのユーザの参照」、「UI 階層アーキテクチャの有効化」、「ダイレクトメッセージから人を削除」、「トピックを表示」、「営業以外のメールを送信」権限が削除されました。これらの権限が Sandbox 環境から削除されたため、実装をテストし、必要に応じて本番組織を変更できます。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI 階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

ゲストユーザプロファイルの一部のユーザ権限の廃止

新しい Salesforce 組織ではゲストユーザプロファイルからいくつかの無効な権限が削除され、Spring '20 以前に作成された組織では新しいゲストユーザプロファイルのそれらの権限がデフォルトで無効になりました。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)

2020 年 3 月 1 日、Salesforce データの安全性を高めるために、このセキュリティアラートですべての組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が自動的に有効になります。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティおよびサイトを持つ組織に適用されます。

時期: このセキュリティアラートは、2020 年 3 月 1 日に適用されます。

方法: このセキュリティアラートが適用される前に、必要なアクションを確認してください。[設定] から、[クイック検索]ボックスに「セキュリティアラート」と入力して、[セキュリティアラート]を選択します。[ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護] で、[使用開始] をクリックします。ステップバイステップガイドの手順に従って、ゲストユーザの共有設定の確認やゲストユーザの共有ルールの作成を行います。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート
- *Salesforce* ヘルプ: ゲストユーザの共有設定とレコードアクセスの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: コミュニティまたはポータルの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ゲストユーザのオブジェクト権限の保護 (セキュリティアラート)

Summer '20 では、Salesforce によってゲストユーザをすべての標準オブジェクトとカスタムオブジェクトで最大の「参照」または「作成」アクセス権に制限する新しいセキュリティポリシーが適用されます。以前は、ゲストユーザに特定のオブジェクトでの「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限を付与できました。Salesforce では、新しい組織および準拠する既存の組織でのみこの新しいセキュリティポリシーを適用します (つまり、任意のオブジェクトでゲストユーザの「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限はありません)。この新しいセキュリティポリシーに準拠しない組織には、組織のセキュリティアラートが表示され、組織データを保護するためにゲストオブジェクトの権限を評価する必要があります。

対象: この変更は、コミュニティ、Site.com サイト、Salesforce サイトのゲストユーザプロファイルが含まれるすべての組織に適用されます。

時期: このセキュリティポリシーは Summer '20 で適用されますが、組織でこの変更の影響を時間をかけて評価することをお勧めします。

方法: 組織でゲストユーザに「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限を付与するオブジェクトがある場合、セキュリティ標準を厳しくするよう要求するセキュリティアラートが表示されます。組織のセキュリティアラートは [設定]>[セキュリティアラート] で確認できます。どのオブジェクトに寛大すぎるオブジェクト権限があるかを確認するには、AppExchange から「Guest User Access Report」をダウンロードしてインストールします。インストール手順に従い、組織のすべてのオブジェクトのゲストアクセス権を示すレポートを確認してください。

Sandbox環境のゲストユーザプロファイルからの「すべてのユーザの表示」などの権限の削除

データセキュリティを高めるために、Sandbox組織のすべてのゲストユーザプロファイルから、「すべてのユーザの参照」、「UI階層アーキテクチャの有効化」、「ダイレクトメッセージから人を削除」、「トピックを表示」、「営業以外のメールを送信」権限が削除されました。これらの権限がSandbox環境から削除されたため、実装をテストし、必要に応じて本番組織を変更できます。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でゲストユーザプロファイルを含むすべての Sandbox 組織に適用されます。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

時期: このセキュリティアラートは 2020 年 3 月 1 日からローリング方式で適用されます。

方法: これらの変更は組織で自動的に有効になります。ただし、オプトアウトすることはできます。Summer'20 リリースでは、これらの変更は必須であり、オプトアウトするオプションはなくなります。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)

Salesforceデータのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

理由: 内部組織ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者にするのが、Salesforce のセキュリティのベストプラクティスです。デフォルトの所有者を割り当てることを強くお勧めしますが、レコードの所有権を変更すると、ゲストユーザによるレコードアクセスに影響することがあります。本番環境で変更を実装する前に Sandbox 環境ですべての変更をテストして、データ共有と表示に対する影響を確認してください。

方法: [設定]で、[クイック検索]ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定]を選択します。[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] を選択します。[保存] をクリックします。

新しく作成されたコミュニティでは、ゲストユーザが作成したすべてのレコードのデフォルトの所有者として、コミュニティを作成したユーザが自動的に割り当てられます。コミュニティの [管理] ワークスペースの [設定] で、デフォルトの所有者を変更できます。

ゲストユーザプロファイルの一部のユーザ権限の廃止

新しい Salesforce 組織ではゲストユーザプロファイルからいくつかの無効な権限が削除され、Spring '20 以前に作成された組織では新しいゲストユーザプロファイルのそれらの権限がデフォルトで無効になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic で有効なゲストユーザプロファイルを含むすべての組織に適用されます。

理由: ゲストユーザは認証済みユーザに比べて、コミュニティとポータルのオブジェクトデータに対するアクセスが制限され、必要なユーザ権限が少なくなります。

次の権限は、ゲストユーザプロファイルで使用できなくなりました。

- ShareInternalArticles (内部のナレッジ記事を外部と共有)
- HideReadByList ([表示先] リストを非表示)
- RecordVisibilityAPI (RecordVisibility API を有効化)
- AssignTopics (トピックを割り当てる)
- CanVerifyComment (Chatter の質問への回答の確認)
- CloseConversations (会話スレッドを閉じる)
- EditTopics (トピックを編集)
- CreateTopics (トピックを作成)
- DeleteTopics (トピックを削除)
- MergeTopics (トピックのマージ)
- PrivacyDataAccess (プライバシーデータへのユーザのアクセスを許可)
- ModifyDataClassification (データ分類を変更)
- UseAnyApiClient (任意の API クライアントを使用)
- CanApproveFeedPost (フィード投稿とコメントを承認可能)

メモ: これらの権限は、Spring '20 以前に組織で作成されたゲストユーザプロファイルでは引き続き使用できますが、デフォルトでは無効になっています。

セキュリティと共有: Apple ID ログイン、テキストメッセージの ID 検証、Lightning Locker の切り替え

コミュニティユーザとポータルユーザは Apple ID を使用してログインできるようになりました。コミュニティメンバーとポータルメンバーはテキストメッセージを使用して ID 検証できるようになりました。切り替えボタンを使用してコミュニティの Lightning Locker の有効/無効を切り替えることができます。

このセクションの内容:

Apple ID を使用したコミュニティユーザのログイン
新しい Apple 認証プロバイダを使用する場合、ユーザは Apple ID でコミュニティにログインできるようになりました。

外部サービス向けのコミュニティドメインの確認
一部の外部サービスでは、コミュニティドメイン名の制御を証明する必要があります。その場合、サービスは、所有者がそのドメインを実際に所有していることを確認する必要があります。たとえば、Apple でサインインサービスでは、ユーザが Apple ID を使用してログインできるようにするにはドメインの確認が必要です。ドメイン設定ページでコミュニティドメインを確認できるようになりました。

メールではなくテキストメッセージによる ID 検証
より厳格な ID 検証ポリシーを適用するため、コミュニティユーザがすでに電話番号を検証済みの場合に、テキストメッセージによって ID を検証することができるようにします。ユーザの電話番号が検証済みでない場合は、Salesforce はメールによって ID を検証します。

UI での Lightning Locker の有効/無効の切り替え
エクスペリエンスビルダーのシンプルなスイッチを使用して、API バージョンに関係なく、コミュニティのすべてのコンポーネントの Lightning Locker の有効/無効を切り替えます。このスイッチは、[スクリプトセキュリティレベル] の [インラインスクリプトと、ホワイトリストに登録されたサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] を使用する Lightning コミュニティで使用できます。

API アクセスをインストール済み接続アプリケーションのみに制限
新しい [API アクセスコントロール] 設定を使用して、Salesforce API へのコミュニティおよびポータル (外部) ユーザのアクセスを制限できます。この設定を使用すると、外部ユーザは組織内にインストールされた接続アプリケーションを使用する場合のみ API にアクセスできます。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)
コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)
リードとキャンペーンに外部アクセスレベルを設定できるようになりました。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、Salesforce 組織のライセンスや他の設定によって異なります。

セルフ登録およびユーザの作成での標準外部プロファイルの使用禁止 (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)
この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

Apple ID を使用したコミュニティユーザのログイン

新しい Apple 認証プロバイダを使用する場合、ユーザは Apple ID でコミュニティにログインできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

ユーザが Apple ID で Salesforce 組織にログインできるようにする

外部サービス向けのコミュニティドメインの確認

一部の外部サービスでは、コミュニティドメイン名の制御を証明する必要があります。その場合、サービスは、所有者がそのドメインを実際に所有していることを確認する必要があります。たとえば、Apple でサインインサービスでは、ユーザが Apple ID を使用してログインできるようにするにはドメインの確認が必要です。ドメイン設定ページでコミュニティドメインを確認できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

外部サービス用のドメイン名の確認

メールではなくテキストメッセージによる ID 検証

より厳格な ID 検証ポリシーを適用するため、コミュニティユーザがすでに電話番号を検証済みの場合に、テキストメッセージによって ID を検証することができるようにします。ユーザの電話番号が検証済みでない場合は、Salesforce はメールによって ID を検証します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。SMS 検証メッセージは、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで使用できます。ID 検証クレジットのアドオンライセンスは、すべてのエディションで購入できます。

対象ユーザ: ID 検証クレジットライセンスを持ち、テキストメッセージによるデバイスの有効化を使用するユーザは、テキストメッセージによる ID 検証を有効にできます。ID 検証用の SMS メッセージの組織の制限が不明な場合は、Salesforce 営業担当者にお問い合わせください。外部ユーザのプロファイルの [デバイスの有効化を有効化] オプションを使用すると、外部ユーザはテキストメッセージによる ID 検証ができます。

方法: [設定] から [クイック検索] ボックスに *「ID 検証」* と入力し、[他の方法が登録されている場合、メールによる ID 検証を防止する] を選択します。

関連トピック:

メールによる ID 検証の防止

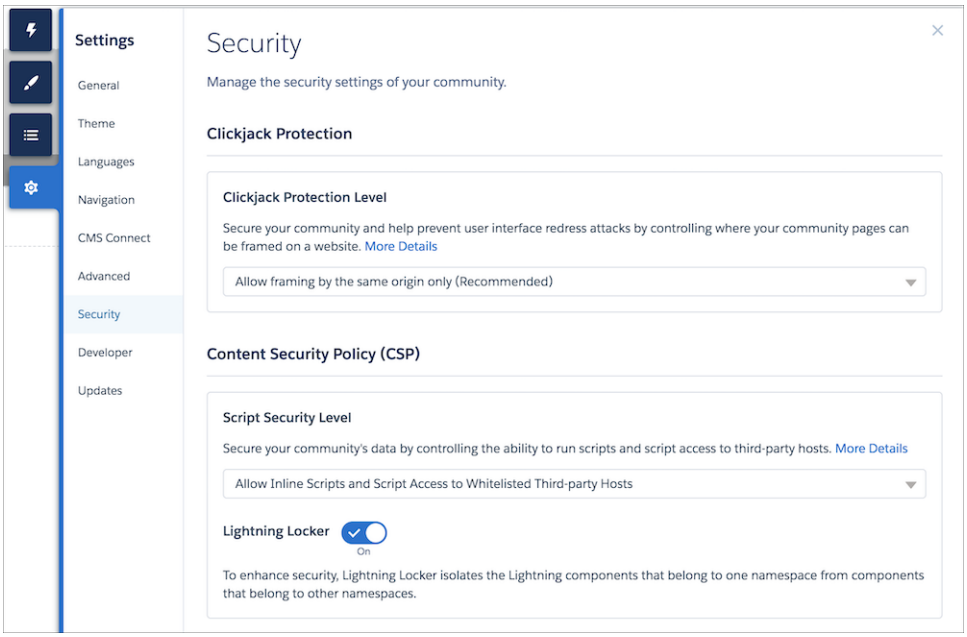
UI での Lightning Locker の有効/無効の切り替え

エクスペリエンスビルダーのシンプルなスイッチを使用して、API バージョンに関係なく、コミュニティのすべてのコンポーネントの Lightning Locker の有効/無効を切り替えます。このスイッチは、[スクリプトセキュリティレベル]の[インラインスクリプトと、ホワイトリストに登録されたサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] を使用する Lightning コミュニティで使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: Lightning Locker を使用すると、コンポーネントが他のコンポーネントから隔離され、コミュニティでのセキュリティが向上します。たとえば、パスワード情報を取得するコンポーネントを隔離し、他のコンポーネントがそのデータを読み取れないようにすることができます。ただし、場合によってはこのレベルのセキュリティが不要であることがあります。以前は、API バージョン 39.0 以前に基づくコンポーネントを使用することで、コミュニティで Lightning Locker セキュリティ機能をスキップすることができました。新しいスイッチを使用すれば、それよりも新しい API バージョンに基づくコンポーネントを使用する場合でもコミュニティで Lightning Locker を無効にすることができます。

方法: エクスペリエンスビルダーで [設定] > [セキュリティ] > [コンテンツセキュリティポリシー (CSP)] に移動します。



API アクセスをインストール済み接続アプリケーションのみに制限

新しい [API アクセスコントロール] 設定を使用して、Salesforce API へのコミュニティおよびポータル (外部) ユーザのアクセスを制限できます。この設定を使用すると、外部ユーザは組織内にインストールされた接続アプリケーションを使用する場合のみ API にアクセスできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

方法: 組織で API アクセスコントロールを有効にするには、Salesforce のカスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

外部ユーザによる API アクセスの制限

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

対象: この変更はコミュニティまたはポータルを使用するすべての組織に適用されます。

方法: Salesforce では、外部ユーザプロファイルにユーザレコードを表示するページや、外部ユーザとして実行される SOSL および SOQL クエリにおいて他のユーザの個人情報を非表示にできる組織設定を導入しようとしています。

次の項目が影響を受けます。

- Alias
- EmployeeNumber
- FederationIdentifier
- SenderEmail
- Signature
- Username
- Division
- Title
- Department
- Extension

システム管理者は、[ユーザ管理設定] で組織に対して [個人情報を非表示] を有効にできます。この設定を有効にすると、ユーザレコードをサーチしても、他のユーザの影響を受ける項目は外部ユーザには表示されなくなります。

重要:

[個人情報を非表示] 設定を有効にすることが Salesforce のセキュリティベストプラクティスです。

変更内容を本番環境に導入する前に、Sandbox 環境でテストしてください。

ヒント: この更新は重要な更新であり、セキュリティアラートでもあるため、[設定] の [重要な更新] コンソールと [セキュリティアラート] ページの両方に表示されます。円滑に移行するには、[セキュリティアラート] ページの推奨手順に従ってください。

外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)

リードとキャンペーンに外部アクセスレベルを設定できるようになりました。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、Salesforce 組織のライセンスや他の設定によって異なります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

関連トピック:

- リードとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)
- *Salesforce* ヘルプ:外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セルフ登録およびユーザの作成での標準外部プロファイルの使用禁止 (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)

この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、次のライセンスに関連付けられている標準外部プロファイルを使用しているすべての組織に適用されます。

- BronzePartner ExternalAppsPlusLogin
- CSPLitePortal
- CustomerCommunity
- CustomerCommunityLogin
- CustomerCommunityPlus
- CustomerCommunityPlusLogin
- CustomerPortalManager
- CustomerPortalManagerCustom
- CustomerPortalManagerStandard
- ExternalAppsLogin
- ExternalAppsMember
- ExternalAppsPlusMember GoldPartner
- HighVolumeCustomerPortal
- HighVolumePortal
- IdeasOnlyPortal
- LimitedCustomerPortalMgrCustom
- LimitedCustomerPortalMgrStandard
- OverageAuthenticatedWebsite
- OverageCustomerPortalMgrCustom
- OverageCustomerPortalMgrStandard

- OverageHighVolumeCustomerPortal
- Partner
- PartnerCommunity
- PartnerCommunityLogin
- PlatformPortal
- SilverPartner AuthenticatedWebsite

理由: この更新では、セルフ登録とユーザ作成で、標準外部プロファイルの使用が禁止されます。セルフ登録では、標準コミュニティプロファイルではなく、コピーしたコミュニティプロファイルにユーザを割り当てることをお勧めします。また、新規ユーザにもコピーしたコミュニティプロファイルを使用することをお勧めします。

方法: 標準外部プロファイルを使用してセルフ登録とユーザ作成を行えるようにするには、[設定] > [コミュニティ設定]に移動して、新しい[セルフ登録およびユーザへの割り当てで標準外部プロファイルプロファイルを許可] 設定を有効にします。Force.com および従来のポータルユーザは、Metadata API を使用してこの設定を有効にできます。

メモ: 標準外部プロファイルを使用したセルフ登録とコミュニティユーザ作成の許可は、Salesforce のベストプラクティスではありません。この設定を有効にする前に、すべての標準外部プロファイルでオブジェクト権限と項目レベルのセキュリティ設定を確認してください。

ヒント: この更新は重要な更新であり、セキュリティアラートでもあるため、[設定] の [重要な更新] コンソールと [セキュリティアラート] ページの両方に表示されます。円滑に移行するには、[セキュリティアラート] ページの推奨手順に従ってください。

コミュニティのその他の変更

コミュニティの環境を改善する他の変更について説明します。

このセクションの内容:

チャネルメニューを使用して顧客の好みの場所で顧客と会話

顧客の好みのチャネルで顧客との会話を開始します。コミュニティまたはポータルの組み込みチャネルメニューのエンゲージメントの選択肢をカスタマイズします。エージェントはサービスコンソールから直接応答でき、そこから Service Cloud の機能すべてにすぐアクセスできます。

サポートされていないブラウザでコミュニティにアクセスした場合の警告の表示

新しい組織全体の設定では、サポートされていないブラウザでコミュニティにアクセスしたコミュニティユーザに警告を表示できます。警告により、ユーザは、ブラウザを最新バージョンに更新するか、別のブラウザを使用するように求められます。

外部取引先階層 (ベータ)

Partner Community ライセンスおよび Customer Community Plus ライセンスを持つユーザは、自分の取引先階層内の他の外部ユーザのレコードを参照できるようになりました。外部取引先階層を使用することで、外部ユーザとのデータ共有の複雑さが軽減されます。

権限セットを使用した「外部ユーザの代理管理者」権限の割り当て

外部の代理管理者専用のユーザプロファイルを作成するのではなく、通常のプロファイルを使用し、権限セットを使用して「外部ユーザの代理管理者 (DEUA)」権限を割り当てます。DEUA 権限を持つ外部ユーザがその外部ユーザプロファイルで管理できるプロファイルと権限セットのリストを設定します。

コミュニティワークスペースとコミュニティビルダーの名前変更

ユーザはすでにビルダーとワークスペースを使用して、素晴らしいカスタマーエクスペリエンスを作成しています。このため、コミュニティビルダーとコミュニティワークスペースの名前をエクスペリエンスビルダーとエクスペリエンスワークスペースに変更しました。

Microsoft Internet Explorer 11 でのエクスペリエンスワークスペースのサポートの終了

Microsoft Internet Explorer バージョン 11 (IE11) 以降でのエクスペリエンスワークスペースの使用のサポートは Spring '20 で終了します。引き続きコミュニティを作成するには、より安全なサポート対象ブラウザに切り替えてください。引き続き IE11 で Lightning コミュニティを表示することはできます。

チャネルメニューを使用して顧客の好みの場所で顧客と会話

顧客の好みのチャネルで顧客との会話を開始します。コミュニティまたはポータルの組み込みチャネルメニューのエンゲージメントの選択肢をカスタマイズします。エージェントはサービスコンソールから直接応答でき、そこから Service Cloud の機能すべてにすぐアクセスできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience でアクセスするコミュニティに適用されます。

関連トピック:

- チャネルメニューの導入 (正式リリース)

サポートされていないブラウザでコミュニティにアクセスした場合の警告の表示

新しい組織全体の設定では、サポートされていないブラウザでコミュニティにアクセスしたコミュニティユーザに警告を表示できます。警告により、ユーザは、ブラウザを最新バージョンに更新するか、別のブラウザを使用するように求められます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

方法: 警告メッセージを無効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「コミュニティ設定」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。[コミュニティでサポートされていないブラウザの警告を表示] チェックボックスをオフにして、[保存] をクリックします。

外部取引先階層 (ベータ)

Partner Community ライセンスおよび Customer Community Plus ライセンスを持つユーザは、自分の取引先階層内の他の外部ユーザのレコードを参照できるようになりました。外部取引先階層を使用することで、外部ユーザとのデータ共有の複雑さが軽減されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

メモ: ベータ機能の外部取引先階層は、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

理由: Salesforce ロール階層と同様、外部取引先階層内の取引先に属するデータは、階層内の親取引先が使用できます。こうすることで、外部ユーザは共有ルールを使用せずに子取引先のデータにアクセスできます。

方法: このベータプログラムへの登録が完了したら、コミュニティ設定で外部取引先階層を有効にします。設定を有効にすると、組織で外部取引先階層オブジェクトを使用できるようになります。

権限セットを使用した「外部ユーザの代理管理者」権限の割り当て

外部の代理管理者専用のユーザプロファイルを作成するのではなく、通常のプロファイルを使用し、権限セットを使用して「外部ユーザの代理管理者 (DEUA)」権限を割り当てます。DEUA 権限を持つ外部ユーザがその外部ユーザプロファイルで管理できるプロファイルと権限セットのリストを設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

コミュニティワークスペースとコミュニティビルダーの名前変更

ユーザはすでにビルダーとワークスペースを使用して、素晴らしいカスタマーエクスペリエンスを作成しています。このため、コミュニティビルダーとコミュニティワークスペースの名前をエクスペリエンスビルダーとエクスペリエンスワークスペースに変更しました。

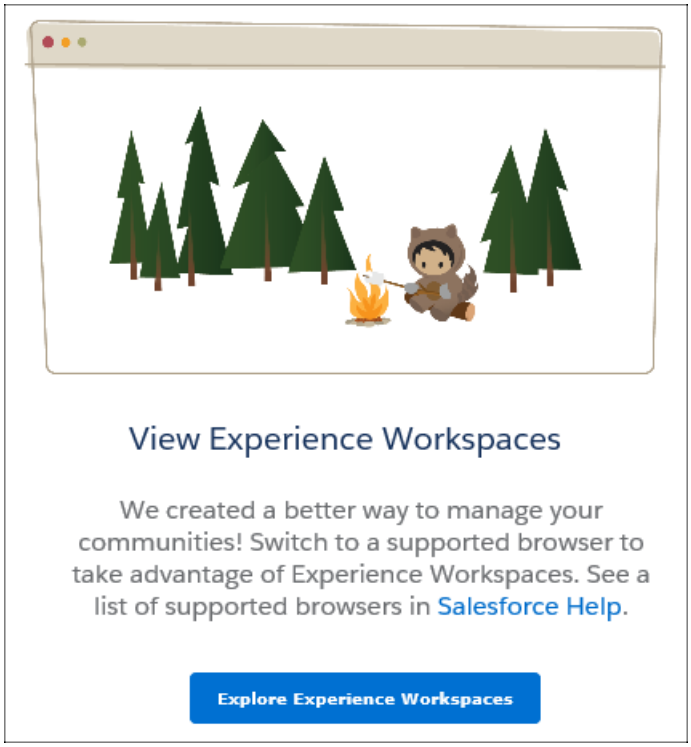
対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

Microsoft Internet Explorer 11 でのエクスペリエンスワークスペースのサポートの終了

Microsoft Internet Explorer バージョン 11 (IE11) 以降でのエクスペリエンスワークスペースの使用のサポートは Spring '20 で終了します。引き続きコミュニティを作成するには、より安全なサポート対象ブラウザに切り替えてください。引き続き IE11 で Lightning コミュニティを表示することはできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

方法: 次回 IE11 でエクスペリエンスワークスペースにアクセスするときに、Salesforce がサポートしているブラウザのリストへのリンクを含むメッセージが表示されます。



Chatter フィード: ケースフィードの絶対または相対タイムスタンプ

ケースフィードの投稿とコメントのタイムスタンプを表示する方法を選択します。

ケースフィード項目の日時スタンプの形式の設定

ケースフィードで、フィード項目の絶対または相対日時スタンプをユーザに表示できるようになりました。絶対日時スタンプ (「2020 年 1 月 7 日午後 12 時 15 分」など) または相対期間 (「10 分前」など) をユーザに表示します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: [設定] には新しい Chatter 設定 [相対的なタイムスタンプを表示] があります。デフォルトは、相対タイムスタンプです。絶対タイムスタンプを使用するには、チェックボックスをオフにします。この設定は、ケースフィードの投稿とコメントの日時スタンプに影響します。フィード項目の詳細ビューに移動すると、常に相対

タイムスタンプになります。フィードで相対時間が有効になっている場合、ユーザはスタンプにマウスポインタを置いて絶対日時を表示できます。

関連トピック:

IdeaExchange: Show exact date time of Chatter post or activity in Lightning Case Console feed (Lightning ケースコンソールフィードに Chatter 投稿または活動の正確な日時を表示)

ファイル: Adobe Flash 表示のサポート終了

Chatter REST API のファイル変換を Adobe Flash から SVG に切り替えるための準備を行います。

このセクションの内容:

Chatter REST API での File Rendition リソースの切り替え
Winter '21 リリース以降、Chatter REST API File Rendition リソースでは、Adobe Flash 変換が返されなくなります。代わりに、Chatter REST API File Preview リソースの SVG 変換リソースを使用できます。

Chatter REST API での File Rendition リソースの切り替え

Winter '21 リリース以降、Chatter REST API File Rendition リソースでは、Adobe Flash 変換が返されなくなります。代わりに、Chatter REST API File Preview リソースの SVG 変換リソースを使用できます。

Summer '20 リリース以降、Chatter REST API File Rendition リソースでは、Adobe Flash 変換がデフォルトで作成されなくなります。Summer '20 リリースで Adobe Flash 変換を作成するには、カスタマーサポートにお問い合わせください。ただし、Adobe Flash 変換は Winter '21 リリースの時点で使用できなくなります。

モバイル: すべてのユーザのためのアップグレードされた環境

Spring '20 では、すべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。システム管理者とユーザは、拡張されたカスタマイズオプション、強力な Lightning 機能、改善されたパフォーマンスを利用できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は、Apple Wallet アクセスとテスト専用の新しいアプリケーションによってさらに向上しています。

このセクションの内容:

新しい Salesforce モバイルアプリケーション: メジャーアップグレード、ナビゲーションと検索の改善
Spring '20 では、Salesforce Classic ユーザと Lightning Experience ユーザを含むすべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。カスタマイズ可能なナビゲーションバーと新しい Einstein Analytics ナビゲーション項目を使用して、最も多く使用する項目にすばやくアクセスします。検索の機能強化と Einstein Voice アシスタント (ベータ) により、必要なものを容易に見つけることができます。また、リンク共有により、リンクを容易に共有できます。

コミュニティ向け Mobile Publisher: Sandbox テストアプリケーション、Apple Wallet アクセス
新しいコミュニティ向け Mobile Publisher の改善により、モバイルコミュニティがより堅牢になります。Playground アプリケーションで公開する前に、モバイルコミュニティアプリケーションが期待どおりに動作することを確認します。ブランド設定されたモバイルコミュニティアプリケーションから Apple Wallet へのパスを直接追加します。

モバイルのその他の機能強化: オブジェクト、項目、設定変更履歴
新旧交代です。正常なモバイル実装を維持するため、いくつかの点を見直しました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーション: メジャーアップグレード、ナビゲーションと検索の改善

Spring '20 では、Salesforce Classic ユーザと Lightning Experience ユーザを含むすべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。カスタマイズ可能なナビゲーションバーと新しい Einstein Analytics ナビゲーション項目を使用して、最も多く使用する項目にすばやくアクセスします。検索の機能強化と Einstein Voice アシスタント (ベータ) により、必要なものを容易に見つけることができます。また、リンク共有により、リンクを容易に共有できます。

このセクションの内容:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ
新しい Salesforce モバイルアプリケーションが本番で使用可能になります。Winter '20 で新しいアプリケーションが導入されました。Spring '20 では、Salesforce Classic ユーザと Lightning Experience ユーザを含むすべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。システム管理者はさらに多くのカスタマイズオプション (ページ 475)にアクセスできます。エンドユーザには、直感的な UI、パフォーマンスの向上、デスクトップとモバイルの切り替えをこれまで以上に容易にする馴染みのある Lightning 機能が提供されます。

刷新された Salesforce アプリケーションのすべての新機能
Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションの有効化 (重要な更新)
この更新により、すべてのモバイルユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ

新しい Salesforce モバイルアプリケーションが本番で使用可能になります。Winter '20 で新しいアプリケーションが導入されました。Spring '20 では、Salesforce Classic ユーザと Lightning Experience ユーザを含むすべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。システム管理者はさらに多くのカスタマイズオプション (ページ 475)にアクセスできます。エンドユーザには、直感的な UI、パフォーマンスの向上、デスクトップとモバイルの切り替えをこれまで以上に容易にする馴染みのある Lightning 機能が提供されます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Lightning ベースのカスタマイズオプションは、Spring '20 が組織にロールアウトされると使用できるようになります。ユーザが App Store または Google Play で入手できる最新バージョンの Salesforce モバイルアプリケーションを実行している場合、改善されたナビゲーションと Lightning 機能が表示されます。Einstein Voice アシスタント (ベータ)、おすすめの結果の検索、Einstein Analytics ナビゲーション項目などの他のすべての変更は、2020 年 2 月 17 日の週のモバイルアプリケーションの更新で使用できるようになります。

理由: Spring '20 では、Winter '20 のすべての機能、およびフィードバックに基づく機能強化がいくつか導入されます。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションを自動的に導入 (ページ 382)
: 新しいアプリケーションのシステム管理者環境またはエンドユーザ環境にアクセスするために、Lightning Experience 組織設定を有効化したり、新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を割り当てたりする必要はありません。

Essentials のサポートが追加
: Essentials ユーザの皆さんに朗報です。新しい Salesforce モバイルアプリケーションの生産性を高める機能とスタイル設定を使用できるようになりました。

ナビゲーションバーはさらにカスタマイズ可能 (ページ 375)
: Lightning アプリケーションでは、モバイルナビゲーションバーの最初の 4 つの項目に、デスクトップナビゲーションバーの最初の 4 つのタブが反映されます。Mobile Only アプリケーションでは、モバイルナビゲーションバーの最初の4つの項目に、モバイルナビゲーションメニューの最初の4つのタブが反映されます。以前は、ナビゲーションバーの最初の項目以外はすべてが固定されていました。

通知、検索、お気に入りの新しいホーム
: モバイルアプリケーションの右上から通知を検索および表示できます。プロファイルメニューからお気に入りリストを表示できます。以前は、検索、通知、お気に入りの各アイコンは、ナビゲーションバーに表示されていました。

関連トピック:

Salesforce Winter '20 リリースノート: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションへの準備

ナレッジ記事: New Salesforce Mobile App Automatic Upgrade FAQ (新しい Salesforce モバイルアプリケーションの自動更新に関する FAQ)

刷新された Salesforce アプリケーションのすべての新機能

Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

Lightning ベースのカスタマイズオプションは、Spring '20 が組織にロールアウトされたときに使用できるようになります。ユーザが App Store または Google Play で入手できる最新バージョンの Salesforce モバイルアプリケーションを実行している場合、改善されたナビゲーションと Lightning 機能が表示されます。Einstein Voice アシスタント (ベータ)、おすすめの結果の検索、Einstein Analytics ナビゲーション項目などの他のすべての変更は、2020 年 2 月 17 日の週のモバイルアプリケーションの更新で使用できるようになります。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
ブラウザとオペレーティングシステム				
Salesforce モバイルアプリケーションの要件	✔	✔	✔	
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境のサポートの変更	✔	✔		✔
Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止の計画			✔	
Einstein Analytics				
新しいモバイルナビゲーション項目を使用した外出中での Einstein Analytics へのアクセス		✔		✔
データのアクセスおよび表示				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できないモバイルカード	✔	✔		✔
ナビゲーションおよびアクション				
ナビゲーションバーをさらにカスタマイズ	✔	✔		✔
検索				
検索するときに詳細を表示	✔	✔		
モバイルでのおすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)	✔	✔		✔
セールス機能				
モバイルデバイスでの取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ	✔	✔	✔	✔
モバイルデバイスでの連動選択リストによるパスの更新	✔	✔	✔	✔
生産性機能				
リンク共有で同僚と同じ情報を共有	✔	✔		✔
アクセスおよびセキュリティ				
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護	✔	✔		✔
設定				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションの有効化 (重要な更新)	✔	✔		✔

Salesforce モバイルアプリケーションの要件

Salesforce は、Android、iOS、およびモバイル Web 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

モバイルプラットフォーム要件

ユーザは、次のモバイルプラットフォーム要件を満たすモバイルデバイスでSalesforceモバイルアプリケーションを実行できます。

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Android 6.0 以降	Android の Google Chrome
iOS 12.0 以降	iOS の Apple Safari

* モバイルブラウザの最新バージョンが必要です。モバイルブラウザ要件は、Salesforce モバイル Web にのみ適用されます。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforceの自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで Android、iOS、およびモバイル Web 用の Salesforce モバイルアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。Spring'20 リリースのテストでは、以下のデバイスを使用しました。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	• Google Pixel 4 / Pixel 4 XL • Google Pixel 3 • Google Pixel 2 / Pixel 2 XL • Samsung Galaxy S10 / S10+ • Samsung Galaxy S9 / S9+ • Samsung Galaxy S8 • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy Note 9 • Samsung Galaxy Note 8	• Samsung Tab A 9.7 • Samsung Tab A 8.0
iOS	• iPhone 11 Pro Max • iPhone 11 Pro • iPhone 11	• iPad Pro 12.9″ (第 2 世代) • iPad Pro 10.5″ • iPad Pro 9.7″

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
	• iPhone XS Max • iPhone XR • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone 6/6 Plus	• iPad 2017 (第 5 世代) • iPad Air 2 • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce モバイルアプリケーションを使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce モバイルアプリケーションを使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイルアプリケーションの更新

お客様のデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしていれば、Salesforce モバイルアプリケーション機能の更新および修正を利用できます。

弊社の目標は、Salesforce の各メジャーリリースに合わせて Salesforce モバイル機能の更新をリリースすることです。この情報は、お客様のリリース計画を支援するために提供されていますが、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイル Web
拡張機能は、Salesforce の各メジャーリリースで自動的に使用できるようになります。

Android および iOS の Salesforce モバイルアプリケーション
拡張機能は、メジャーバージョンの更新で提供されます。すべての本番インスタンスに対する Salesforce の各メジャーリリースが完了してから Android および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの新しいメジャーバージョンがリリースされる予定です。新しいメジャーバージョンがリリースされる期間は変動し、Apple や Google の新しい要件または iOS や Android のオペレーティングシステムの変更など、Saleforce が制御できない要素の影響を受ける可能性があります。

お客様のモバイルデバイスが Salesforce の現在のモバイルオペレーティングシステムの最小要件を満たしていれば、App Store や Google Play から新しいメジャーバージョンとバグ修正バージョンをインストールできます。デバイスで古いオペレーティングシステムが実行されている場合、Salesforce モバイルアプリケーションの更新バージョンは Google Play または App Store に表示されません。

Salesforce モバイルアプリケーションのカスタマーサポートサービス

Salesforce カスタマーサポートは、次の場合に Salesforce モバイルアプリケーションの問題のトラブルシューティングを行うよう商業上合理的な努力を行うものとします。

- ユーザのデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしている
- Salesforce for Android/iOS ユーザが最新バージョンをインストールしている

お客様が Salesforce テスト対象デバイスで Salesforce モバイルアプリケーションを実行している場合、問題をより効率的にトラブルシューティングできます。お客様がテスト対象外デバイスを使用している場合、プラットフォームの最小要件を満たしていても、デバイスメーカー固有のカスタマイズのために一部の問題を再現できない可能性があります。

古いデバイスや計算およびメモリ機能が低いデバイスで Salesforce モバイルアプリケーションを実行すると、Salesforce テスト対象デバイスと比較して、パフォーマンスが低くなることがあります。

Salesforce ではリリースごとに機能を強化しているため、お客様は最新の Salesforce モバイルアプリケーションのアップデートを Google Play や App Store から入手してインストールする必要があります。また、サポート対象は最新バージョンのみとなります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境のサポートの変更

パイロットまたは Winter '20 で新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしたシステム管理者は、組織のすべてのタブレットユーザに新しいタブレット操作環境を表示するか、以前のタブレット操作環境を表示するかを選択できます。以前は、タブレットに Salesforce モバイルアプリケーションをインストールした Salesforce モバイルアプリケーションユーザは、新しいタブレット操作環境に限定されていました。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしなかった場合、組織のすべてのユーザに以前の Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境が引き続き表示されます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの、タブレットにインストールされた iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、新しい Salesforce モバイルアプリケーションに以前オプトインした組織のすべてのタブレットユーザに適用されます。

理由: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは、タブレットで以前のモバイルアプリケーションの全画面ビューではなくナロービューが使用されます。一部のシステム管理者は、新しいタブレット操作環境ではサポートされない全画面ビューを望んでいました。パイロットまたは Winter '20 で新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしたシステム管理者は、組織のすべてのユーザに対して新しいタブレット操作環境の有効化と無効化を切り替えることができるようになりました。

パイロットまたは Winter '20 で新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしなかった場合、ナロービューは使用できません。

iPad ユーザがいる場合は、「iPad ブラウザの Lightning Experience (ベータ)」機能を参照して、外出中に Salesforce を使用する別の方法を確認してください。

方法: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境を切り替えるには、[設定] に移動します。[クイック検索] ボックスに「クイックスタート」と入力し、[新しい **Salesforce** モバイルアプリケーションクイックスタート] を選択します。「タブレット用の新しい Salesforce モバイルアプリケーション」セクションを探します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: iPad ブラウザの Lightning Experience (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止の計画

Salesforce へのモバイル Web ブラウザアクセスは、Summer'20 リリースで廃止される予定です。詳細は、「Salesforce モバイル Web 環境の廃止」を参照してください。モバイルデバイスから Salesforce にアクセスするには、Google Play または App Store からダウンロード可能な Salesforce モバイルアプリケーションを使用するか、iPad ブラウザで Lightning Experience を使用します。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイル Web に適用されます。

新しいモバイルナビゲーション項目を使用した外出中での Einstein Analytics へのアクセス

Salesforce for iOS ユーザは、Lightning アプリケーションの新しい Analytics ナビゲーション項目を含む、Einstein Analytics レンズとダッシュボードの拠点を使用できるようになりました。新しい項目を使用すると、ユーザはアプリケーションの実行と参照や、お気に入りへのアセットの追加ができるほか、アセットへのリンクをメール、SMS などで共有することができます。Salesforce アプリケーションの機能の追加により、Einstein Analytics ユーザは重要なビジネスタスクを完了するのにアプリケーションを切り替える必要はなくなりました。

対象: この変更は、iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しいナビゲーション項目は、2020 年 2 月 17 日の週に使用可能になります。

方法: システム管理者は Lightning アプリケーションビルダーで Analytics ナビゲーション項目を Lightning アプリケーションに追加できます。Analytics はアプリケーションランチャーの [モバイルのみ] ナビゲーション項目リストには表示されません。

関連トピック:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用

新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できないモバイルカード

以前の Salesforce モバイルアプリケーションでは、モバイルカードはページレイアウトエディタで使用でき、レコードの関連情報ページに表示されていました。新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは表示されず、代わりにもっと強力な Lightning カスタマイズオプションを利用できます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: ニュース、Twitter、Visualforce のモバイルカードは、デスクトップおよびモバイルフォームファクタで使用できる Lightning コンポーネントに置き換えられました。多くの拡張ルックアップは関連レコードコンポーネントに置き換えることができます。関連レコードコンポーネントには、親レコードの詳細を含めて関連レコードの詳細が表示されるためでなく、ユーザが関連レコードを更新することもできます。

方法: ニュースおよび Twitter の Lightning コンポーネントは新しい Salesforce モバイルアプリケーションで自動的に機能します。

Visualforce モバイルカードを置き換えるには、Visualforce コンポーネントを Lightning ページに追加してから、目的のモバイル対応の Visualforce ページを参照するようにコンポーネントを設定します。Visualforce ページをモバ

イル対応にするには、ページの詳細で [Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびモバイルアプリケーションで利用可能] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

拡張ルックアップを置き換えるには、関連レコードコンポーネントを Lightning ページに追加してから、参照項目および更新アクションを指定します。ルックアップで使用できるアクションがない場合、Lightning アプリケーションビルダーのプロパティエディタのリンクにアクセスしてアクションを作成します。関連レコードコンポーネントで表示される項目を変更するには、[設定] で関連付けられたアクションをカスタマイズします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning ページの標準コンポーネント

ナビゲーションバーをさらにカスタマイズ

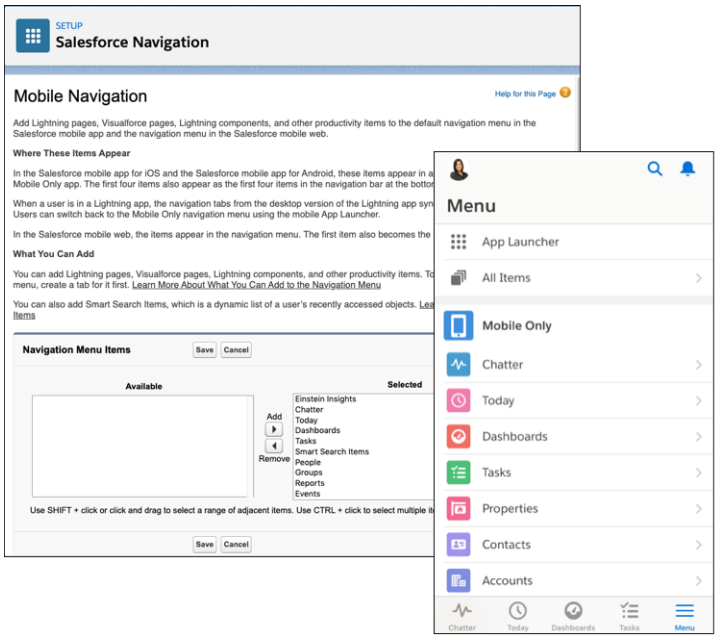
ユーザがよく使用する項目をアクセスしやすい場所に配置します。画面下部に表示されるナビゲーションバーの最初の4項目をカスタマイズできるようになりました。以前は、カスタマイズできるのは最初の項目のみでした。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

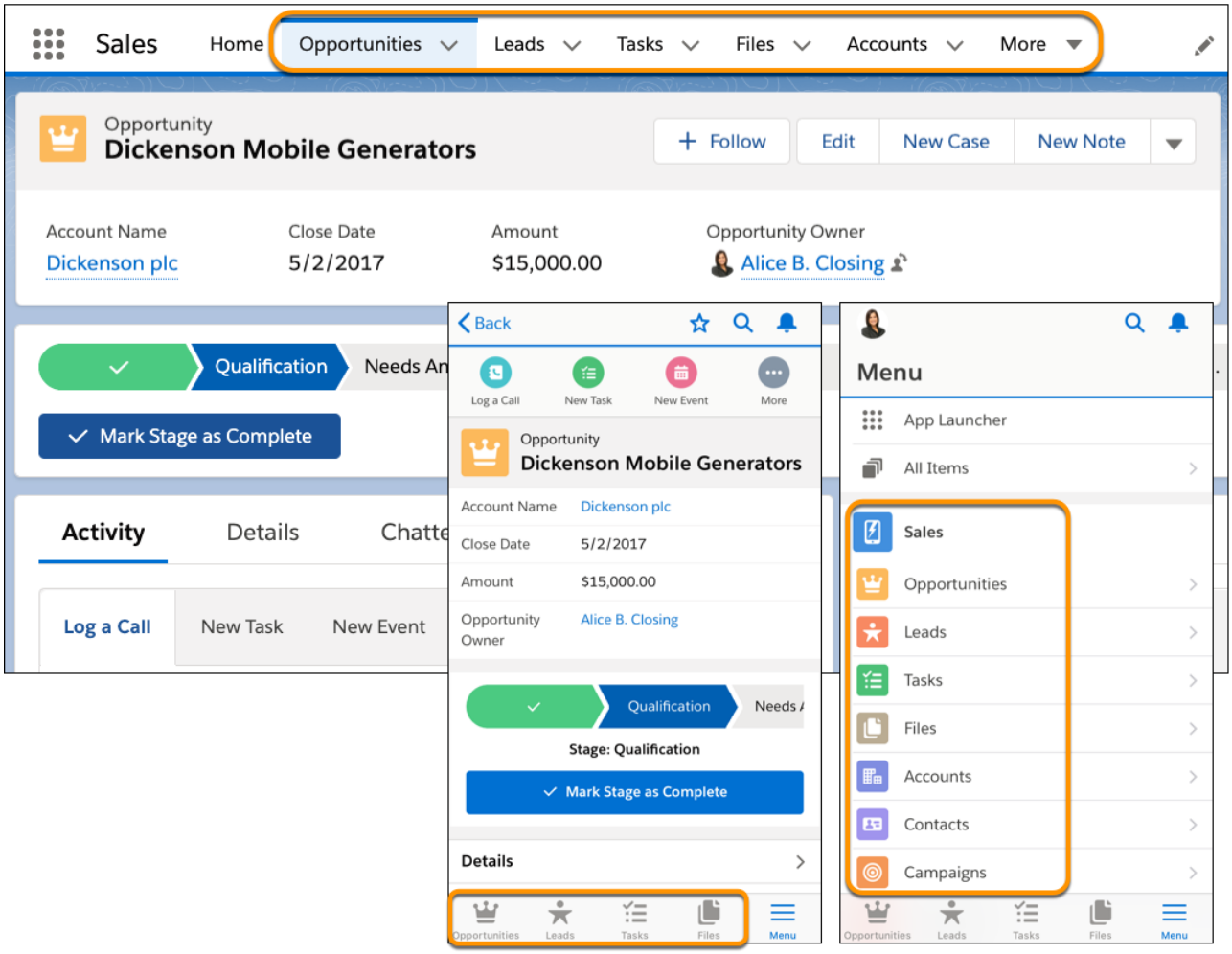
理由: 以前のナビゲーションバーでは、[お気に入り]、[検索]、[通知] の各項目は変更できませんでした。Lightning Experience のデスクトップバージョンと同様に、検索アイコンと通知アイコンは画面上部に表示されるようになりました。お気に入りリストはプロファイルメニューに含まれます。これらの変更により、ナビゲーションバーに生産性を向上させる項目を配置する場所を確保できます。

方法: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションの 2 つのナビゲーション環境は、異なってカスタマイズされます。

Mobile Only アプリケーションのユーザの場合、ナビゲーションバーの最初の4項目は、ナビゲーションメニューの最初の 4 項目です。[設定] で、ナビゲーションメニューに Lightning ページ、Visualforce ページ、Lightning コンポーネント、その他の生産性項目を追加します。[クイック検索] ボックスに「ナビゲーション」と入力し、[Salesforce ナビゲーション] を選択します。



Lightning アプリケーションのユーザの場合、ナビゲーションバーの最初の 4 項目は、アプリケーションのデスクトップバージョンのナビゲーションバーの最初の4項目です。デスクトップナビゲーションバーの項目すべてのリストは、モバイルナビゲーションメニューに含まれます。ユーザがデスクトップのナビゲーションバーをカスタマイズする権限を持っている場合は、モバイルのナビゲーションメニューとナビゲーションバーに変更が同期されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce モバイルアプリケーションのナビゲーションメニューのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

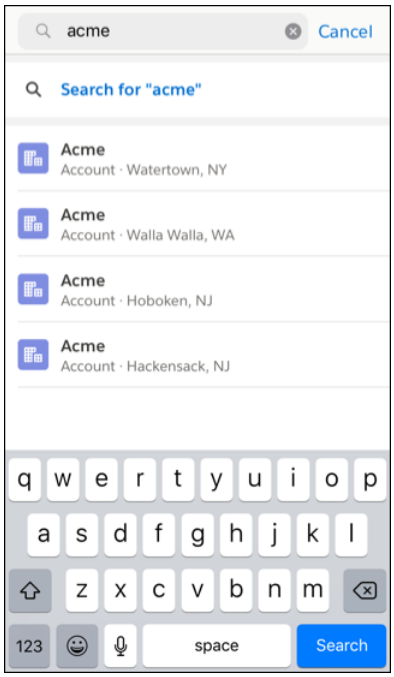
検索するときに詳細を表示

Lightning Experience デスクトップと同様に、検索するときの入力時に表示されるインスタント結果に詳細情報が表示されます。この追加情報は、必要な結果を見つけ出すのに役立つ可能性があります。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 2 月 17 日の週に使用可能になります。

理由: 一般的な名前でレコードを検索すると、よく似ていて紛らわしい検索結果が表示されることがあります。その Acme 取引先は Hoboken オフィスのものでしょうか、それとも Hackensack オフィスのものでしょうか? 入力時に表示される検索結果でこれがより明確になります。検索結果レイアウトのセカンダリ項目がオブジェクト名の横に表示され、レコードに関する追加コンテキストが提供されます。



方法:オブジェクトのセカンダリ項目を選択するには、[設定]の[オブジェクトマネージャ]に移動します。オブジェクトを選択して、[検索レイアウト]を選択します。検索結果レイアウトを編集します。レイアウト内で 2 番目にサポートされている項目がセカンダリ項目です。一部の項目はサポートされていません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での検索結果の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

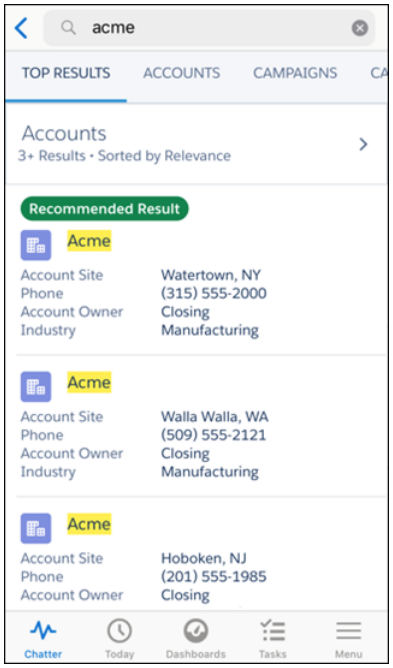
モバイルでのおすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)

あるレコードが、ユーザが探しているものである可能性が高い場合、そのレコードは上位の結果で強調表示されるようになりました。

対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Performance Edition の iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

メモ: Einstein Search はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein Search に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: おすすめの結果には、Einstein Search **権限セットライセンスが必要です。**



モバイルデバイスでの取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ

取引先および商談チームの関連リストをカスタマイズし、営業担当がより効果的にコラボレーションできるようにします。以前は、モバイルエンドユーザにカスタマイズは表示されませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および** Developer Edition **の** Lightning Experience **およびすべてのバージョンの新しい** Salesforce **モバイルアプリケーションに適用されます。**

関連トピック:

取引先および商談チームの関連リストのカスタマイズ

モバイルデバイスでの連動選択リストによるパスの更新

営業担当がスマートフォンを使用して商談の操作を行うときの生産性を向上させます。Salesforce**モバイルアプリケーションのパスで連動選択リストがサポートされるようになったため、営業チームはパスを移動するときに連動項目に入力できます。営業担当は、各レコードを別々に開いて編集しなくても項目に入力することができるようになりました。以前は、連動選択リスト項目は** Lightning Experience **のパスでしか使用できませんでした。**

対象: この変更は、Essentials Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および** Developer Edition **の新しい** Salesforce **モバイルアプリケーションに適用されます。**

方法: パスで連動選択リストを使用している場合、営業担当が子選択リストを含むフェーズを選択すると、営業担当は値の入力を促されます。

関連トピック:

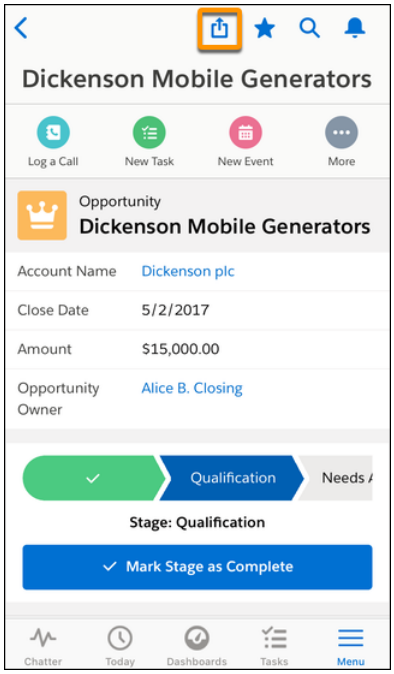
IdeaExchange: Path on Salesforce1 Not Showing Dependent Fields (Salesforce1 のパスで連動項目が表示されない)

リンク共有で同僚と同じ情報を共有

コラボレーションは重要ですが、外出中にはそれが難しい場合があります。新しい共有アイコンを使用すれば、Salesforce モバイルアプリケーションから直接レコードページを同僚と簡単に共有できます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: ユーザは、同僚とページを共有するために、スクリーンショット、詳細な検索手順、コピーして貼り付け、身振り手振りなど、独創的な方法を見つけていました。これからは、1~2回タップするだけで、ユーザはデバイスのネイティブ共有シートを使用して Salesforce ページへの Lightning URL を共有できます。



方法: 共有アイコンは、共有可能なレコードページに自動的に表示されます。ただし、接続アプリケーションのカスタム属性を追加して、組織でリンク共有を無効にできます。[設定] で「*接続アプリケーション*」を検索し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。変更する接続アプリケーションの名前をクリックしま

す。接続アプリケーションページの [カスタム属性] セクションで、[新規] をクリックし、属性キーに「`ENABLE_SHARE`」、属性値に「`false`」と入力します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:Salesforce アプリケーションのアクセスおよびセキュリティの制御 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護

Salesforce モバイルアプリケーションの拡張モバイルセキュリティに、より強力な保護が組み込まれました。マイクロフォンやカメラの使用の無効化など、新しいポリシーを適用して、Salesforce アプリケーションデータとユーザの個人データをさらに保護できるようになりました。

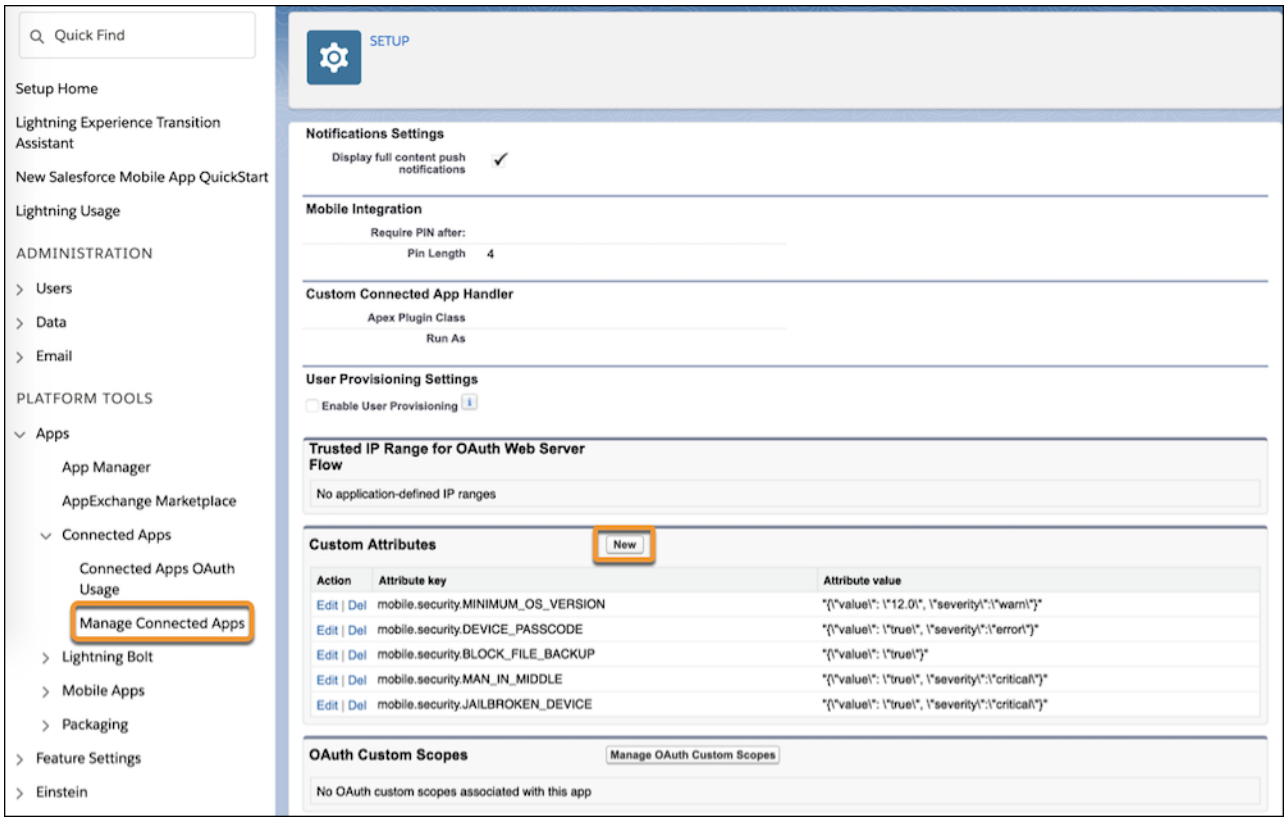
対象: Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションで有料で使用できます。

時期: この変更は、2020 年 2 月 17 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: 拡張モバイルセキュリティの更新には、マルウェア検出の有効化 (Android のみ) と、デバッガ、マイクロフォン、またはカメラの使用のブロック (iOS のみ) が含まれます。

方法: [設定] で「*接続アプリケーション*」を検索し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。変更するアプリケーションを選択し、ポリシーをカスタム属性として追加して設定します。



関連トピック:

Salesforce モバイルアプリケーションセキュリティガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい Salesforce モバイルアプリケーションの有効化 (重要な更新)

この更新により、すべてのモバイルユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: この更新では、Salesforce Classic ユーザと Lightning Experience ユーザを含むすべての有効な Salesforce モバイルアプリケーションユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。ユーザは新しい環境を得るために iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションまたは Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションの新しいバージョンをダウンロードする必要はありません。

方法: 移行の準備を整えるには、[設定] の [新しい Salesforce モバイルアプリケーションクイックスタート] ページでツールを使用することをお勧めします。モバイル Lightning ページ用の Salesforce Optimizer レポートを実行 (ベータ) して、移行がカスタム Lightning ページにどのように影響するかを確認し、モバイル環境を調整するためのおすすめを取得します。次に、ツールを使用して、モバイル用の Lightning アプリケーションとページを更新します。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

コミュニティ向け Mobile Publisher: Sandbox テストアプリケーション、Apple Wallet アクセス

新しいコミュニティ向け Mobile Publisher の改善により、モバイルコミュニティがより堅牢になります。Playground アプリケーションで公開する前に、モバイルコミュニティアプリケーションが期待どおりに動作することを確認します。ブランド設定されたモバイルコミュニティアプリケーションから Apple Wallet へのパスを直接追加します。

このセクションの内容:

Playground アプリケーションを使用したモバイルコミュニティのテスト (ベータ)

Playground アプリケーションでアプリケーションを公開する前にコミュニティのアプリケーション内環境をすばやくテストおよびプレビューできます。このアプリケーションは、コミュニティ向け Mobile Publisher アプリケーションの、ブランド設定されていないバージョンです。

Apple Wallet へのパスの追加 (iOS のみ)

ユーザはブランド設定されたモバイルコミュニティアプリケーションから Apple Wallet へのパスを追加できるようになりました。

Playground アプリケーションを使用したモバイルコミュニティのテスト (ベータ)

Playground アプリケーションでアプリケーションを公開する前にコミュニティのアプリケーション内環境をすばやくテストおよびプレビューできます。このアプリケーションは、コミュニティ向け Mobile Publisher アプリケーションの、ブランド設定されていないバージョンです。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

メモ: このアプリケーションは、Sandbox 組織用のアプリケーションを有効化するベータプログラムを介してユーザに提供されます。このアプリケーションを有効化するには、Salesforce の営業担当に連絡して優待ライセンスを取得するか、https://help.salesforce.com/home でケースを登録してください。ベータプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのベータアプリケーションは正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

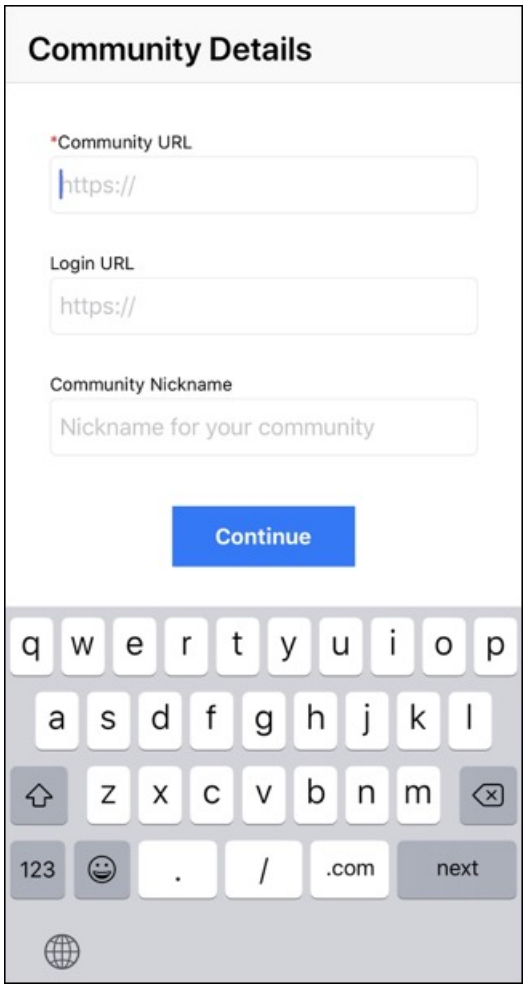
時期: このベータアプリケーションは、Spring '20 リリースで使用できます。

対象ユーザ: 優待ライセンスを要求して取得したユーザが使用できます。詳細は、Salesforce の営業担当にお問い合わせください。

理由: Salesforce は、会社のブランドアセットを適用する前にユーザがモバイルコミュニティの機能をテストできることを確認したいと考えています。

方法: Playground アプリケーションは、全面的にブランド設定されたコミュニティ向け Mobile Publisher アプリケーションのほとんどの機能をサポートします。

- 永続的ログイン
- Face ID / Touch ID
- プッシュ通知
- ファイルのアップロード
- ファイルのダウンロード
- ファイルの共有



Playground アプリケーションは iOS と Android で使用できます。

Apple Wallet へのパスの追加 (iOS のみ)

ユーザはブランド設定されたモバイルコミュニティアプリケーションから Apple Wallet へのパスを追加できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 2 月 17 日の週に使用可能になります。

モバイルのその他の機能強化: オブジェクト、項目、設定変更履歴

新旧交代です。正常なモバイル実装を維持するため、いくつかの点を見直しました。

このセクションの内容:

MobileSession オブジェクトの削除

MobileSession は Salesforce Classic Mobile アプリケーションで使用されていましたが、Winter '18 で Salesforce Classic Mobile が廃止されたため機能しなくなりました。モバイルセッションデータを取り込む既存のカスタムレポートやカスタムレコードタイプがある場合、結果が返されない、またはエラーが生成されることがあります。このようなレポートまたはレポートタイプを削除することをお勧めします。

Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部でのみ使用) 項目の削除

Salesforce Classic ユーザと以前呼ばれていた Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部での使用のみ) 項目は、Salesforce Classic Mobile アプリケーションのユーザを表していましたが、Winter '18 で Salesforce Classic Mobile が廃止されたため機能しなくなりました。この項目の API 参照名は UserPermissionsMobileUser でした。この項目を使用するリストビューとレポートでは、予期しない結果が返されたり、エラーが生成される場合があります。このようなリストビューとレポートの条件を確認し、必要に応じて編集して、結果が要件を満たすようにしてください。

接続アプリケーションと通知の配信設定の変更の追跡

Salesforce で重要なモバイルおよび通知の更新を追跡できるようにするために、[設定変更履歴] に項目が追加されました。接続アプリケーションの PIN の文字数と無操作状態のタイムアウトの長さの変更を追跡できるようになりました。また、モバイル、デスクトップ、および接続アプリケーションの配信設定の変更を含め、カスタムおよび標準通知種別の通知の配信設定の変更も追跡することができます。

MobileSession オブジェクトの削除

MobileSession は Salesforce Classic Mobile アプリケーションで使用されていましたが、Winter '18 で Salesforce Classic Mobile が廃止されたため機能しなくなりました。モバイルセッションデータを取り込む既存のカスタムレポートやカスタムレコードタイプがある場合、結果が返されない、またはエラーが生成されることがあります。このようなレポートまたはレポートタイプを削除することをお勧めします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Winter '18 リリースノート: Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月に廃止

Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部でのみ使用) 項目の削除

Salesforce Classic ユーザと以前呼ばれていた Apex モバイルユーザ (Salesforce の内部での使用のみ) 項目は、Salesforce Classic Mobile アプリケーションのユーザを表していましたが、Winter '18 で Salesforce Classic Mobile が廃止されたため機能しなくなりました。この項目の API 参照名は UserPermissionsMobileUser でした。この項目を使用するリストビューとレポートでは、予期しない結果が返されたり、エラーが生成される場合があります。このようなリストビューとレポートの条件を確認し、必要に応じて編集して、結果が要件を満たすようにしてください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Winter '18 リリースノート: Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月に廃止

接続アプリケーションと通知の配信設定の変更の追跡

Salesforce で重要なモバイルおよび通知の更新を追跡できるようにするために、[設定変更履歴] に項目が追加されました。接続アプリケーションの PIN の文字数と無操作状態のタイムアウトの長さの変更を追跡できるようになりました。また、モバイル、デスクトップ、および接続アプリケーションの配信設定の変更を含め、カスタムおよび標準通知種別の通知の配信設定の変更も追跡することができます。

対象: 接続アプリケーションの変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic の [設定変更履歴] で追跡できます。通知の配信設定の変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience の [設定変更履歴] で追跡できます。

関連トピック:

- 設定変更履歴でのより多くの変更の監視

Salesforce Sustainability Cloud: カーボンニュートラルを実現するための信頼できるプラットフォーム

二酸化炭素排出量に関する重要なインサイトを取得できます。Sustainability Cloud ではグローバルな排出係数を使用して温室効果ガス排出量を計算するため、組織のビジネス活動全体を通じたエネルギー使用量および温室効果ガス排出量データを収集、分類、分析することができます。また、Salesforce Lightning プラットフォームに基づいて構築されているため、コラボレーション、プロジェクト管理、報告を容易にするツールにアクセスできます。

このセクションの内容:

- 二酸化炭素排出量の削減および報告
  Sustainability Cloud により、二酸化炭素排出量データの取得および監査が合理化されます。従来の二酸化炭素排出量の計算にあった、不完全なレコードやレコードの欠落、複数のスプレッドシートでの手動でのデータ追跡、非構造化データといった多くの問題が解決されます。以前は 数か月かかっていたデータ収集や監査の作業を数週間に短縮できます。

二酸化炭素排出量の削減および報告

Sustainability Cloud により、二酸化炭素排出量データの取得および監査が合理化されます。従来の二酸化炭素排出量の計算にあった、不完全なレコードやレコードの欠落、複数のスプレッドシートでの手動でのデータ追跡、非構造化データといった多くの問題が解決されます。以前は 数か月かかっていたデータ収集や監査の作業を数週間に短縮できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Sustainability Cloud は 2019 年 12 月 17 日にリリースされます。

対象ユーザ: Sustainability Cloud は Sustainability Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。アプリケーションをインストールして設定するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」ユーザ権限を持っている必要があります。

理由: データが 1 か所に集められるため、環境への影響をすばやく測定してアクション可能なインサイトを取得できます。こうしたインサイトを使用して、内容を主要な関係者に報告し、気候変動対策を決定できます。Sustainability Cloud は一般に、世界資源研究所の温室効果ガスプロトコルなど、広く使用され、受け入れられている温室効果ガスレポートに従っています。さまざまな報告対象に二酸化炭素排出量を開示する主要なツールとして使用できます。

アプリケーションは参照データと一緒に次から事前に読み込まれます。

- 米国環境保護庁 (EPA)
- 米国エネルギー情報局 (EIA)
- 英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省 (BEIS)
- 温室効果ガス (GHG) プロトコル

炭素インベントリの計算は自動で行われ、正確です。スプレッドシートを使用したインベントリで計算の精度を確認する必要はもうありません。

Sustainability Cloud は二酸化炭素排出量の計算に最適化された論理的なワークフロープロセスを念頭に置いて設計されています。Sustainability Cloud をガイドとして使用して、炭素インベントリに含まれるアセットの識別から外部監査後のデータの報告まで、プロセスを最初から最後まで進めることができます。

方法: Sustainability Cloud を取得するには、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。システム管理者がアプリケーションをインストールおよび設定し、ログイン情報を提供したら、アプリケーションランチャーを使用して、**[Sustainability]** を見つけて開きます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 二酸化炭素排出量の削減および報告
Sustainability Cloud Trailblazer Community
Sustainability Cloud Partner Community

Industries: より容易な設定、柔軟性の向上、より大きな影響

Salesforce の専門ソリューションは、ビジネス固有の要件のサポートに関してさらに改善されました。Financial Services Cloud では、流通業者をより明確に把握でき、住宅ローンを作成するための新しい API が提供されます。Health Cloud では、ケアプランの設定が容易になり、適切なケア提供者を見つけるためのオプションが追加されました。Consumer Goods Cloud は、フィールド営業担当者が影響を最大化し、在庫レベルを追跡するのに役立ちます。Manufacturing Cloud では、取引先マネージャに詳細な制御が与えられ、販売計画と取引先販売予測の可視性が改善されます。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud: 住宅ローン API、流通業者パフォーマンス管理、アクションプランテンプレート
新しい住宅ローンビジネス API を使用して独自の住宅ローンプロセスを作成します。アクションプランテンプレートにドキュメントチェックリスト項目を追加します。新しいダッシュボード、レポート、パフォーマンス総計値を使用して流通業者パフォーマンスを監視します。アクションプランテンプレートをコピーおよび共有します。

Health Cloud: ケアプランとケアプログラムの容易な設定、より多くの提供者情報
世界をより良い (かつ健康的な) 場所にするため、ケアプランとケアプログラムの作成とカスタマイズを簡単にしました。また、提供者カードの設計方法を追加し、提供者の検索方法をより柔軟にカスタマイズできるようにしました。これにより、ユーザに情報を効率的に提供できます。また、患者とメンバーがどのような連絡方法を希望しているかについての情報を収集できるようになりました。

Consumer Goods Cloud: 訪問順序の最適化、在庫レベルの監視業績の向上
小売パートナーとのビジネスをより効率的に行うことができます。店舗により短時間で到着できるようにして、フィールド営業担当者の生産性を高めることができます。フィールド営業担当者は、店長や顧客との関係を築くことにより多くの時間を費やすことができるようになりました。商品が在庫切れにならないようにすることもできます。

Manufacturing Cloud: 販売計画と取引先販売予測の機能強化による環境の強化
追加機能を含めて、販売計画と取引先販売予測について詳しく見てみましょう。商品を取引先販売予測に追加します。独自の指標を追加して取引先販売予測をカスタマイズします。取引先販売予測の収益指標を取引先の通貨で表示します。販売計画および取引先販売予測を商品で絞り込みます。販売計画指標または取引先販売予測指標の複数の値を同時に更新します。提供されたダッシュボードを使用して、組織のデータの視覚的表現を取得します。

Industries の共有メタデータ API
メタデータ API に新しい種別が含まれます。このメタデータ API 種別は、2 つ以上の Salesforce Industries クラウドに適用されます。

Financial Services Cloud: 住宅ローン API、流通業者パフォーマンス管理、アクションプランテンプレート

新しい住宅ローンビジネス API を使用して独自の住宅ローンプロセスを作成します。アクションプランテンプレートにドキュメントチェックリスト項目を追加します。新しいダッシュボード、レポート、パフォーマンス総計値を使用して流通業者パフォーマンスを監視します。アクションプランテンプレートをコピーおよび共有します。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud の住宅ローン: 新しい住宅ローン貸付 API、取引先からのローン申込の作成
Salesforce のローン申込をサードパーティの住宅ローンシステム、POS システム、およびローン組成システムとシームレスに接続します。新しい住宅ローンビジネス API を使用すると、ローン申込データを作成、更新、クエリできます。関連する商談があるかどうかにかかわらず、取引先からローン申込を作成します。

ドキュメントの追跡および承認:アクションプランを使用したドキュメントの追跡、項目削除ルールの設定

アクションプランにドキュメントチェックリスト項目を追加して、ドキュメントの追跡を合理化します。項目削除ルールを設定して、ドキュメントチェックリストプロセスをカスタマイズします。

Financial Services Cloud の保険: 流通業者パフォーマンス管理、募集人のライフイベント管理、募集人リレーションカード、拡張された総計値とグラフ

新しいダッシュボード、調整されたレポート、およびパフォーマンス総計値を使用して、すべての流通業者のパフォーマンスの統合サマリーを表示したり、個々のパフォーマンスを監視したりします。拡張されたライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを取引先責任者レコードページに追加して、募集人のライフイベントを一目で確認できるようにします。募集人リレーションカードを使用すると、募集人に関する主要な情報に容易にアクセスできます。

アクションプラン: アクションプランテンプレートのコピーおよびパッケージ化

既存のアクションプランテンプレートに基づいて作成し、組織間でアクションプランテンプレートを共有します。

Financial Services Cloud の操作性の向上

グループメンバーコンポーネントとグループメンバー (設定可能) コンポーネントで活動積み上げ集計を非表示にできます。グループメンバーコンポーネントでフロート表示が有効になりました。Financial Services Cloud で右から左へ記述されるテキストがサポートされるようになりました。

Einstein 紹介スコアリングを使用したパイプラインの微調整 (正式リリース)

マネージャが従来よりも簡単に紹介を評価できるようになりました。Einstein 紹介スコアリングにより、Salesforce 組織で紹介をスコアリングする予測を構築できます。ユーザは、Einstein の上位の紹介コンポーネントで紹介スコアを表示できます。

Financial Services Cloud の新しいオブジェクトおよび変更されたオブジェクト

新しいおよび変更された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

REST API

Financial Services Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

Financial Services Cloud の住宅ローン: 新しい住宅ローン貸付 API、取引先からのローン申込の作成

Salesforce のローン申込をサードパーティの住宅ローンシステム、POS システム、およびローン組成システムとシームレスに接続します。新しい住宅ローンビジネス API を使用すると、ローン申込データを作成、更新、クエリできます。関連する商談があるかどうかにかかわらず、取引先からローン申込を作成します。

このセクションの内容:

API コールを使用した住宅ローン融資の拡張

新しい住宅ローンビジネス API を使用して、1003 住宅ローン申込プロセスを合理化します。この API を使用してローン申込の作成と更新や、借主、資産、および債務情報の管理ができます。また、ローン申込に関するクエリやレポート作成もできます。

取引先または商談からローン申込の作成

商談を先に作成せずに、新規または既存の取引先の住宅ローン申込を作成して、時間を節約します。一部のローン申込項目は、取引先のデータを使用して事前入力されます。ローン申込を引き続き商談から作成することも可能で、そのローン申込は商談の取引先に関連付けられます。取引先から取得されるデータは、ローン申込が作成された時点のスナップショットです。取引先データがそれ以降に更新されても、ローン申込項目は自動的に更新されません。

API コールを使用した住宅ローン融資の拡張

新しい住宅ローンビジネス API を使用して、1003 住宅ローン申込プロセスを合理化します。この API を使用してローン申込の作成と更新や、借主、資産、および債務情報の管理ができます。また、ローン申込に関するクエリやレポート作成もできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 外部システムとの統合にかかる時間を短縮し、申し込みからローン終了までの住宅ローンプロセスを自動化します。住宅ローン API では、1 回の REST API コールで住宅ローン申込を作成し、サードパーティシステムと統合します。1つのシステムだけで住宅ローンを管理できるように、POS や融資組成システムなどの外部ソースから借主およびローン申込のデータを収集します。

方法: `/services/data/vXX.X/connect/financialservices/mortgages` に対して `POST`、`PATCH`、または `GET` 要求を実行します。各要求には、ローン申込またはローン申込者に関連する資産、債務、借主、申告、収入、住所、雇用状況、物件、財務状況のリストを含めることができます。

関連トピック:

REST API

取引先または商談からローン申込の作成

商談を先に作成せずに、新規または既存の取引先の住宅ローン申込を作成して、時間を節約します。一部のローン申込項目は、取引先のデータを使用して事前入力されます。ローン申込を引き続き商談から作成することも可能で、そのローン申込は商談の取引先に関連付けられます。取引先から取得されるデータは、ローン申込が作成された時点のスナップショットです。取引先データがそれ以降に更新されても、ローン申込項目は自動的に更新されません。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 商談は、融資組成のライフサイクルを追跡する優れた方法です。ただし、ローンは既存の対象顧客から直接組成される場合もあります。このようなローンおよびその他のカスタムローンの管理プロセスをサポートするために、商談を作成せずに、既存の取引先から直接ローン申込を作成することができます。

ドキュメントの追跡および承認: アクションプランを使用したドキュメントの追跡、項目削除ルールの設定

アクションプランにドキュメントチェックリスト項目を追加して、ドキュメントの追跡を合理化します。項目削除ルールを設定して、ドキュメントチェックリストプロセスをカスタマイズします。

このセクションの内容:

アクションプランを使用したドキュメント追跡の合理化
ドキュメントチェックリスト項目をアクションプランに追加して、ステップバイステップガイダンスを顧客、融資担当者、およびその他のエージェントに提供します。アクションプランテンプレートをカスタマイズして、ビジネスプロセスに適したToDoおよびドキュメント追跡ステップを定義します。アクションプランテンプレートをToDo、ドキュメントチェックリスト項目、またはそれらの組み合わせに関連付けることができます。

添付ファイルを保持したままのドキュメントチェックリストのクリーンアップ
新しい[添付ファイル付きのチェックリスト項目]カスタム環境設定を定義して、ユーザが関連ドキュメントを削除することなくドキュメントチェックリスト項目を削除できるようにします。

アクションプランを使用したドキュメント追跡の合理化

ドキュメントチェックリスト項目をアクションプランに追加して、ステップバイステップガイダンスを顧客、融資担当者、およびその他のエージェントに提供します。アクションプランテンプレートをカスタマイズして、ビジネスプロセスに適したToDoおよびドキュメント追跡ステップを定義します。アクションプランテンプレートをToDo、ドキュメントチェックリスト項目、またはそれらの組み合わせに関連付けることができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloudが有効になっているEnterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

理由: アクションプランでは、反復可能なToDoと順序を定義し、ToDoの割り当てと追跡を自動化できます。通常、これらのToDoには、ローン組成や請求管理などのプロセスに必要なサポートドキュメントの収集と確認が伴います。アクションプランテンプレートにドキュメントチェックリスト項目を含めると、これらのプロセスのドキュメント追跡と承認ステップを標準化および自動化できます。

関連トピック:

アクションプランテンプレートへのドキュメントチェックリスト項目の関連付け

添付ファイルを保持したままのドキュメントチェックリストのクリーンアップ

新しい[添付ファイル付きのチェックリスト項目]カスタム環境設定を定義して、ユーザが関連ドキュメントを削除することなくドキュメントチェックリスト項目を削除できるようにします。

対象: この変更は、Financial Services Cloudが有効になっているProfessional Edition、Enterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

Financial Services Cloudの保険: 流通業者パフォーマンス管理、募集人のライフイベント管理、募集人リレーションカード、拡張された総計値とグラフ

新しいダッシュボード、調整されたレポート、およびパフォーマンス総計値を使用して、すべての流通業者のパフォーマンスの統合サマリーを表示したり、個々のパフォーマンスを監視したりします。拡張されたライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを取引先責任者レコードページに追加して、募集人のライフイベントを一目で確認できるようにします。募集人リレーションカードを使用すると、募集人に関する主要な情報に容易にアクセスできます。

このセクションの内容:

流通業者パフォーマンスダッシュボードと総計値を使用したディストリビュータパフォーマンスの監視
流通業者パフォーマンスダッシュボードおよび保険流通業者パフォーマンス総計値コンポーネントを使用して、営業マネージャ向けの情報豊富なホームページを作成します。すべての流通業者のパフォーマンスを一目で確認できる統合サマリーを使用して、営業マネージャはビジネスの全体的な健全性を監視できます。営業マネージャは、注意が必要な流通業者をすぐに特定し、会社の目標に一致するように流通業者をサポートすることができます。

ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを使用して募集人との強固な関係を築く
ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントが取引先責任者レコードページでサポートされるようになりました。募集人のライフイベントを一目で確認できるため、営業マネージャは募集人をより深く理解でき、相互にメリットのある長期間の関係を築くことができます。

募集人リレーションカードを使用して主要な募集人情報を手元に置く
募集人リレーションカードを使用すると、営業マネージャは、さまざまなオブジェクトから主要な募集人情報にすばやく容易にアクセスできます。複数の関連リストを確認する必要はありません。流通業者のレコードページでは、その流通業者と連携している募集人ごとに 1 つのカードが営業マネージャに表示されます。募集人のレコードページでは、その募集人の 1 つのカードが表示されます。

契約関連の総計値とグラフを計算するときに複数募集人契約を含める
複数の募集人を含む契約を計算に含めることで、総計値とグラフに正確な契約と保険料の数値が表示されるようにします。デフォルトでは、契約関連の総計値およびグラフには、1 人の募集人に割り当てられた契約のみが含まれます。

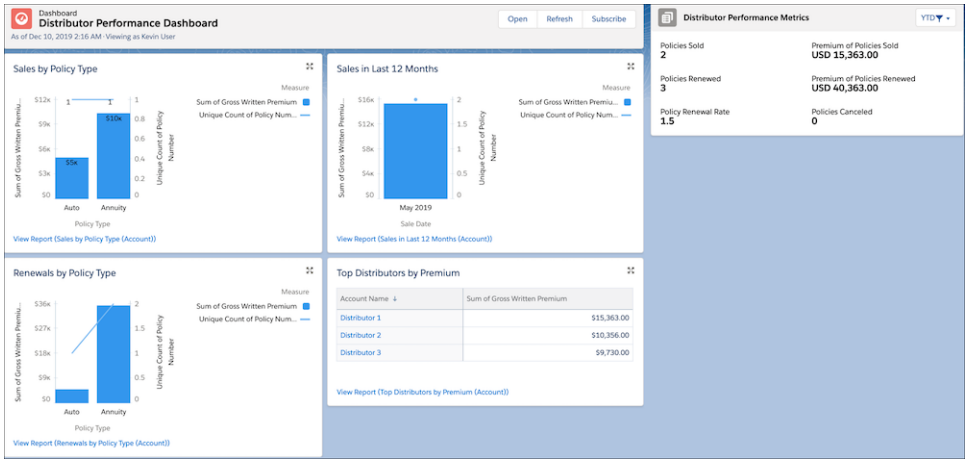
流通業者パフォーマンスダッシュボードと総計値を使用したディストリビュータパフォーマンスの監視

流通業者パフォーマンスダッシュボードおよび保険流通業者パフォーマンス総計値コンポーネントを使用して、営業マネージャ向けの情報豊富なホームページを作成します。すべての流通業者のパフォーマンスを一目で確認できる統合サマリーを使用して、営業マネージャはビジネスの全体的な健全性を監視できます。営業マネージャは、注意が必要な流通業者をすぐに特定し、会社の目標に一致するように流通業者をサポートすることができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 提供されているパフォーマンス総計値およびレポートから選択し、営業マネージャのニーズに適したカスタムホームページを作成します。総計値とレポートを取引先レコードページに追加して、営業マネージャが個々の流通業者のパフォーマンスをドリルダウンおよび参照できるようにします。レポートを取引先レコードページに追加して、営業マネージャが個々の募集人のパフォーマンスを参照できるようにします。営業マネージャは、月、四半期、または年のパフォーマンス総計値を参照できます。



[流通業者パフォーマンスレポートとダッシュボードをリリース]設定を有効にしたら、カスタムホームページを作成し、新しいコンポーネントをページに追加します。関連する総計値とレポートを取引先および取引先責任者レコードページに追加します。レコードページに応じて、取引先 ID または取引先責任者 ID でレポートを絞り込みます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:流通業者パフォーマンス管理の有効化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

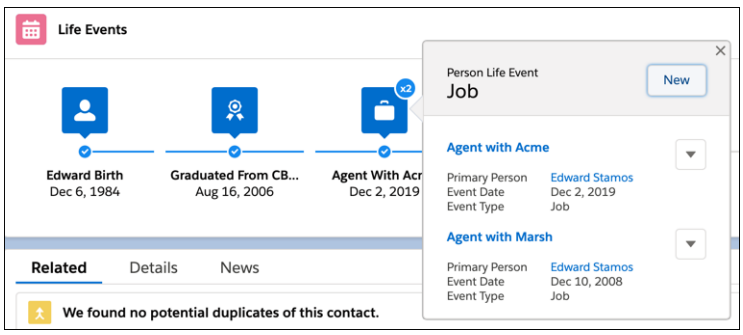
ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを使用して募集人との強固な関係を築く

ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントが取引先責任者レコードページでサポートされるようになりました。募集人のライフイベントを一目で確認できるため、営業マネージャは募集人をより深く理解でき、相互にメリットのある長期間の関係を築くことができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 取引先責任者レコードページを編集し、ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを追加します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:募集人のライフイベントの管理(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

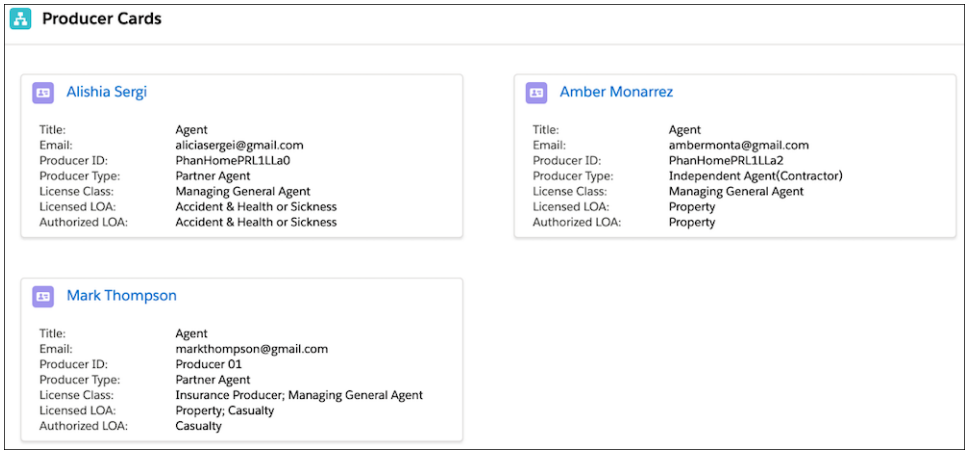
募集人リレーションカードを使用して主要な募集人情報を手元に置く

募集人リレーションカードを使用すると、営業マネージャは、さまざまなオブジェクトから主要な募集人情報にすばやく容易にアクセスできます。複数の関連リストを確認する必要はありません。流通業者のレコードページでは、その流通業者と連携している募集人ごとに1つのカードが営業マネージャに表示されます。募集人のレコードページでは、その募集人の 1 つのカードが表示されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 取引先および取引先責任者レコードページを編集した後、リレーションカードコンポーネントを追加します。プロパティペインの [カード種別] の下で、表示しているレコードページに応じて [募集人取引先の設定] または [募集人取引先責任者の設定] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:募集人情報への容易なアクセスの提供(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

契約関連の総計値とグラフを計算するときに複数募集人契約を含める

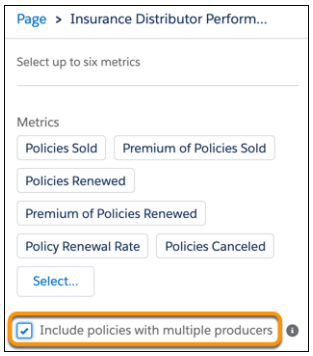
複数の募集人を含む契約を計算に含めることで、総計値とグラフに正確な契約と保険料の数値が表示されるようにします。デフォルトでは、契約関連の総計値およびグラフには、1 人の募集人に割り当てられた契約のみが含まれます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

この変更は、保険流通業者パフォーマンス総計値、保険エージェントパフォーマンス総計値、保険エージェントアクション項目、および保険エージェントレポートコンポーネントの契約関連の総計値およびグラフに影響します。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: レポートグラフまたは総計値を含むホームページまたはレコードページを編集します。プロパティペインで、[複数の募集人を含む契約を含める] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:総計値とグラフに複数募集人契約を含める (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アクションプラン: アクションプランテンプレートのコピーおよびパッケージ化

既存のアクションプランテンプレートに基づいて作成し、組織間でアクションプランテンプレートを共有します。

このセクションの内容:

ディープコピーを使用したアクションプランテンプレートのコピーの作成

既存のテンプレートからアクションプランテンプレートを作成できるようになりました。この機能により、テンプレートの作成を最初から開始する必要がなくなるため、ビジネスプロセスが変わったときのテンプレートの作成が簡素化されます。ユーザは既存のテンプレートを参照として使用して、独自の用途の別のバージョンを作成することもできます。

パッケージ化を使用したアクションプランテンプレートの共有
アクションプランテンプレートのパッケージ化を使用して、1つの組織でアクションプランテンプレートを作成して別の組織にリリースできます。Sandbox環境でアクションプランテンプレートを作成およびテストして、テンプレートの準備が整ったら本番にリリースします。パッケージ化されたアクションプランテンプレートを使用するには、パッケージ化されたテンプレートをコピーして、必要な変更を加えて公開します。

アクションプランテンプレートへのドキュメントチェックリスト項目の関連付け
アクションプランテンプレートにドキュメントチェックリスト項目を含めることができるようになりました。アクションプランテンプレートには、ToDo、ドキュメントチェックリスト項目、またはそれらの組み合わせを含めることができます。

ディープコピーを使用したアクションプランテンプレートのコピーの作成

既存のテンプレートからアクションプランテンプレートを作成できるようになりました。この機能により、テンプレートの作成を最初から開始する必要がなくなるため、ビジネスプロセスが変わったときのテンプレートの作成が簡素化されます。ユーザは既存のテンプレートを参照として使用して、独自の用途の別のバージョンを作成することもできます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler を備えた Salesforce Government Cloud または Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アクションプランテンプレートを開き、[テンプレートをコピー] をクリックして、必要な変更をテンプレートまたは基礎となる ToDo およびドキュメントチェックリスト項目に加えて保存します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: アクションプランテンプレートのコピー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Add Edit and Clone functions to Action Plan Templates (アクションプランテンプレートへの編集機能およびコピー機能の追加)

パッケージ化を使用したアクションプランテンプレートの共有

アクションプランテンプレートのパッケージ化を使用して、1つの組織でアクションプランテンプレートを作成して別の組織にリリースできます。Sandbox環境でアクションプランテンプレートを作成およびテストして、テンプレートの準備が整ったら本番にリリースします。パッケージ化されたアクションプランテンプレートを使用するには、パッケージ化されたテンプレートをコピーして、必要な変更を加えて公開します。

対象: この変更は、Lightning Scheduler を備えた Salesforce Government Cloud または Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

ディープコピーを使用したアクションプランテンプレートのコピーの作成

Salesforce ヘルプ: アクションプランテンプレートを使用したパッケージの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アクションプランテンプレートへのドキュメントチェックリスト項目の関連付け

アクションプランテンプレートにドキュメントチェックリスト項目を含めることができるようになりました。アクションプランテンプレートには、ToDo、ドキュメントチェックリスト項目、またはそれらの組み合わせを含めることができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

アクションプランを使用したドキュメント追跡の合理化

Financial Services Cloud の操作性の向上

グループメンバーコンポーネントとグループメンバー(設定可能)コンポーネントで活動積み上げ集計を非表示にできます。グループメンバーコンポーネントでフロート表示が有効になりました。Financial Services Cloud で右から左へ記述されるテキストがサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

Einstein 紹介スコアリングを使用したパイプラインの微調整 (正式リリース)

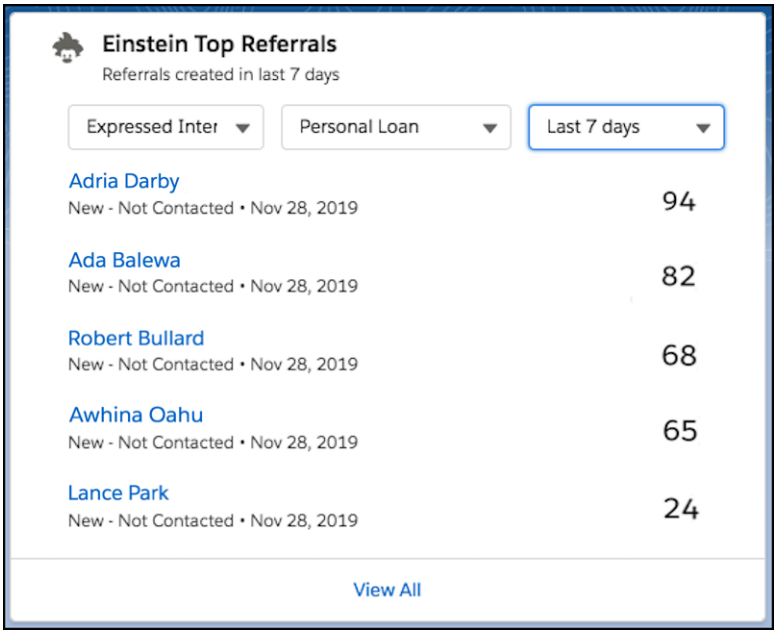
マネージャが従来よりも簡単に紹介を評価できるようになりました。Einstein 紹介スコアリングにより、Salesforce 組織で紹介をスコアリングする予測を構築できます。ユーザは、Einstein の上位の紹介コンポーネントで紹介スコアを表示できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 紹介スコアリングを使用するには、Einstein Analytics for Financial Services アドオンライセンスが必要です。Einstein の上位の紹介コンポーネントを Financial Services Cloud アプリケーションのホームページに追加するには、システム管理者に「Financial Services Cloud 紹介スコアリングユーザ」権限セットを割り当てる必要があります。このコンポーネントを参照するユーザに同じ権限セットを割り当てます。

方法: 紹介スコアリング予測を構築するには、[設定] から「Financial Services Cloud の Einstein 紹介スコアリング」と入力し、[Financial Services Cloud の Einstein 紹介スコアリング] を選択します。Financial Services Cloud の Einstein 紹介スコアリングを有効にします。[新しい予測] をクリックし、予測設定を定義します。

予測が構築されたら、Einstein の上位の紹介コンポーネントを Financial Services Cloud アプリケーションのホームページに追加できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 紹介スコアリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud の新しいオブジェクトおよび変更されたオブジェクト

新しいおよび変更された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

LoanApplication および LoanApplicant 関連オブジェクトの新規項目

LoanApplications および LoanApplicants に関連するオブジェクトの外部 ID を使用して、他のシステムと統合します。この外部識別子は住宅ローン API コールで使用され、デフォルトではユーザインターフェースに表示されません。

外部システムにある借主の住所へのリンク
LoanApplicantAddress オブジェクトで新しい `AddressExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある借主の申告へのリンク
LoanApplicantDeclaration オブジェクトで新しい `DeclarationExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある借主の雇用レコードへのリンク
LoanApplicantEmployment オブジェクトで新しい `EmploymentExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある借主の収入レコードへのリンク
LoanApplicantIncome オブジェクトで新しい `IncomeExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある資産レコードへのリンク
LoanApplicationAsset オブジェクトで新しい `AssetExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある財務状況レコードへのリンク
LoanApplicationFinancial オブジェクトで新しい `FinancialExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある債務レコードへのリンク
LoanApplicationLiability オブジェクトで新しい `LiabilityExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある不動産レコードへのリンク
LoanApplicationProperty オブジェクトで新しい `PropertyExtIdentifier` 項目を使用します。

外部システムにある所有者レコードへのリンク
LoanApplicationTitleHolder オブジェクトで新しい `TitleHolderExtIdentifier` 項目を使用します。

保険

流通業者と保険会社との認証に関する詳細を保存
新しい DistributorAuthorization オブジェクトを使用します。

保険会社が販売することを許可された保険品目を保存
新しい AuthorizedInsuranceLine オブジェクトを使用します。

流通業者に販売ライセンスを付与した権限系統を表示
BusinessLicense オブジェクトで新しい LineOfAuthority 項目を使用します。

流通業者が保持するライセンスの種別を表示
BusinessLicense オブジェクトで新しい LicenseClass 項目を使用します。

流通業者の居住地状況を表示
BusinessLicense オブジェクトで新しい ResidenceStatus 項目を使用します。

非推奨: Claim オブジェクトの RenewalChannel 項目は API バージョン 48 で廃止され、API バージョン 52 で削除されます。
Claim オブジェクトの RenewalChannel 項目を使用しないことを強くお勧めします。ただし、この項目をすでに使用している場合は、API バージョン 52 (Summer '21 リリース) で削除されるまで引き続き使用できます。

非推奨: InsurancePolicy オブジェクトの FnolChannel 項目は API バージョン 48 で廃止され、API バージョン 52 で削除されます。
InsurancePolicy オブジェクトの FnolChannel 項目を使用しないことを強くお勧めします。ただし、この項目をすでに使用している場合は、API バージョン 52 (Summer '21 リリース) で削除されるまで引き続き使用できます。

REST API

Financial Services Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

住宅ローン

住宅ローン申込の作成

`/services/data/vXX.X/connect/financialservices/mortgages` への POST 要求を実行して、住宅ローン申込を作成します。住宅ローン申込に関連する資産、債務、借主、申告、収入、住所、雇用、不動産、および財務状況のリストを各要求に含めることができます。

住宅ローン申込の取得

`/services/data/vXX.X/connect/financialservices/mortgages/{loanId}` への GET 要求を実行して、住宅ローン申込を取得します。申込を取得するには、`loanApplicationId` と `externalId` の両方を使用できます。

住宅ローン申込の更新

変更内容と共に `/services/data/vXX.X/connect/financialservices/mortgages/{loanId}` への PATCH 要求を実行して、住宅ローン申込を更新します。

Health Cloud: ケアプランとケアプログラムの容易な設定、より多くの提供者情報

世界をより良い(かつ健康的な)場所にするため、ケアプランとケアプログラムの作成とカスタマイズを簡単にしました。また、提供者カードの設計方法を追加し、提供者の検索方法をより柔軟にカスタマイズできるようにしました。これにより、ユーザに情報を効率的に提供できます。また、患者とメンバーがどのような連絡方法を希望しているかについての情報を収集できるようになりました。

このセクションの内容:

ケアプランのテンプレートおよび使いやすさの向上
ユーザがケアプランを使用できる方法が改善されました。この機能強化により、ユーザは使用事例に適したケアプランをより適切に作成できます。また、ケアプランの作成がより簡素化され、他の多くの機能強化が追加されています。

提供者リレーションカードのカスタマイズ
ユーザのニーズに合わせて提供者カードをより柔軟に設定できるようになりました。提供者リレーションカードを使用すると、提供者についてユーザが知りたがっている情報をすばやく効率的に 1 か所で示すことができます。データはさまざまなオブジェクトから取得されますが、ユーザは関連リストを介してそれらのオブジェクトに移動する必要はありません。

ケア提供者の検索に役立つオプションの追加
検索パネルおよび検索出力に含める項目を選択できるようになりました。カスタム項目を使用することもできます。場所、専門分野、対応可能状況などの条件に基づいてユーザがヘルスケア提供者を見つけることができるようにします。検索結果は詳細リストと簡便な地図に表示されます。

ケアプログラムのより効率的な作成およびカスタマイズ
ケアプログラムの作成とカスタマイズをより容易にしました。同意フォームを最初から作成するのではなく既存のフォームをコピーして使用することで、時間と労力を節約します。電子署名を取得するときに、カスタマイズした免責事項メッセージを使用します。プログラム登録フロー自体からケアプランを患者に関連付けることで、クリック数とナビゲーションを節約します。

アクセス制御の変更
Health Cloud パッケージで提供されたものではなく、コア Salesforce の一部として提供された Health Cloud オブジェクトへのアクセスを厳しくしました。

Einstein Analytics for Healthcare の機能強化により患者ケアの提供に関する専門知識を増幅

ケアコーディネータ、利用マネージャ、紹介マネーが Analytics for Healthcare アプリケーションを使用して患者母集団に関する重要なインサイトを容易に取得できるようにしました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

ケアプランのテンプレートおよび使いやすさの向上

ユーザがケアプランを使用できる方法が改善されました。この機能強化により、ユーザは使用事例に適したケアプランをより適切に作成できます。また、ケアプランの作成がより簡素化され、他の多くの機能強化が追加されています。

このセクションの内容:

1 つのフローを使用したケアプランの作成

ユーザはケアプランを作成するときにクリック数と時間を節約できます。以前は、ユーザはケースの作成、ケアチームの追加、およびケアプランテンプレートの追加を行う 3 つの別々のフローを使用してケアプランを作成していました。ケースを作成する同じフローで、ユーザはすべての操作を実行できるようになりました。

使用事例に適したケアプランテンプレートの作成

柔軟なケアプランテンプレートを使用して、ユーザは使用するコンポーネントを決定することができます。一部のケアプランでは問題と目標は不要です。

テンプレート、問題、および目標の分類

ケアプランテンプレート、テンプレートの問題、およびテンプレートの目標をカテゴリに分類しておくと、レポートの作成や、ケアプランの使用状況の把握に役立つ可能性があります。ケアプランテンプレート、テンプレートの問題、およびテンプレートの目標用のカスタマイズ可能なカテゴリ選択リストから選択できます。

新しいボタンを使用した既存のケアプランへのテンプレートの追加の迅速化

ケースページの強調表示パネルに[ケアプランテンプレートの適用]ボタンを配置できるようになりました。ユーザは、このボタンを使用してより多くのテンプレートを既存のケアプランに、そのケアプランのケースページから直接容易に追加できます。

ケアプランの作成時に ToDo 名と日付をカスタマイズ

ユーザは、ToDoをケアプランに適用する前に、選択したテンプレートでToDoをカスタマイズできるようになりました。インライン編集を使用して、ToDo 名と期日を容易に変更できます。

少ないクリックで ToDo の状況の変更

ユーザは大幅に少なくなったクリック数で各 ToDo の状況を変更できるようになりました。

少ないクリックでケアプランの作成を迅速化

ケアプランの機能強化により、増加したテンプレート容量と、頻繁に使用するテンプレートへの容易なアクセスがユーザに提供され、クリック数が減ります。

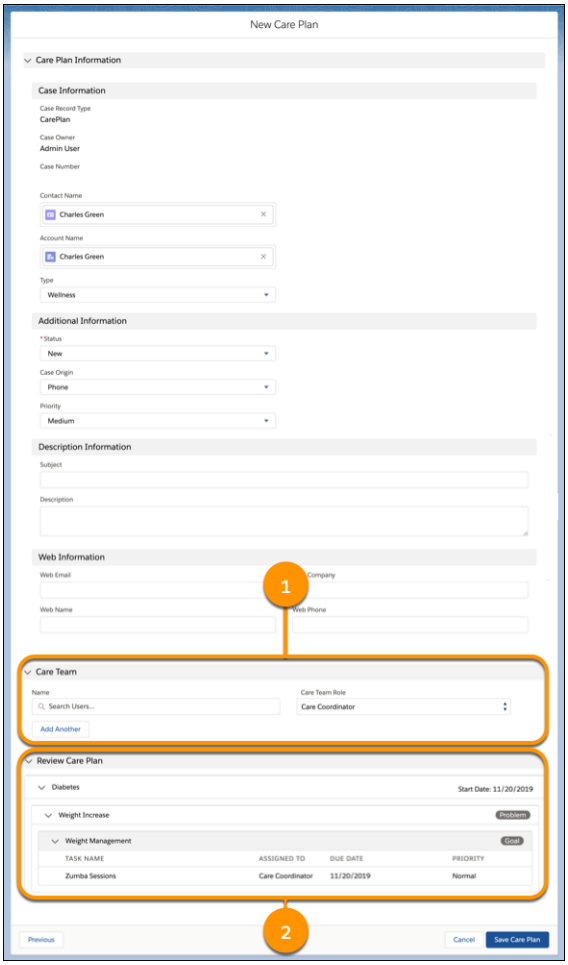
1 つのフローを使用したケアプランの作成

ユーザはケアプランを作成するときにクリック数と時間を節約できます。以前は、ユーザはケースの作成、ケアチームの追加、およびケアプランテンプレートの追加を行う 3 つの別々のフローを使用してケアプランを作成していました。ケースを作成する同じフローで、ユーザはすべての操作を実行できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: ユーザは完全なケアプランを 1 つのフローで作成できるようになりました。



ユーザはケアプランのケースを作成している間にケアチームを追加し (1)、テンプレートを適用できます (2)。

警告: 新しく作成したケースにケアチームを追加するカスタムトリガが組織にある場合、そのトリガはこの新しいフローと競合します。この競合を解決するには、カスタムトリガを無効化するか、ケアプランの作成時にケアチームを追加できるようにする Health Cloud 設定を無効化します。

関連トピック:

https://sforce.co/3bgNUfO

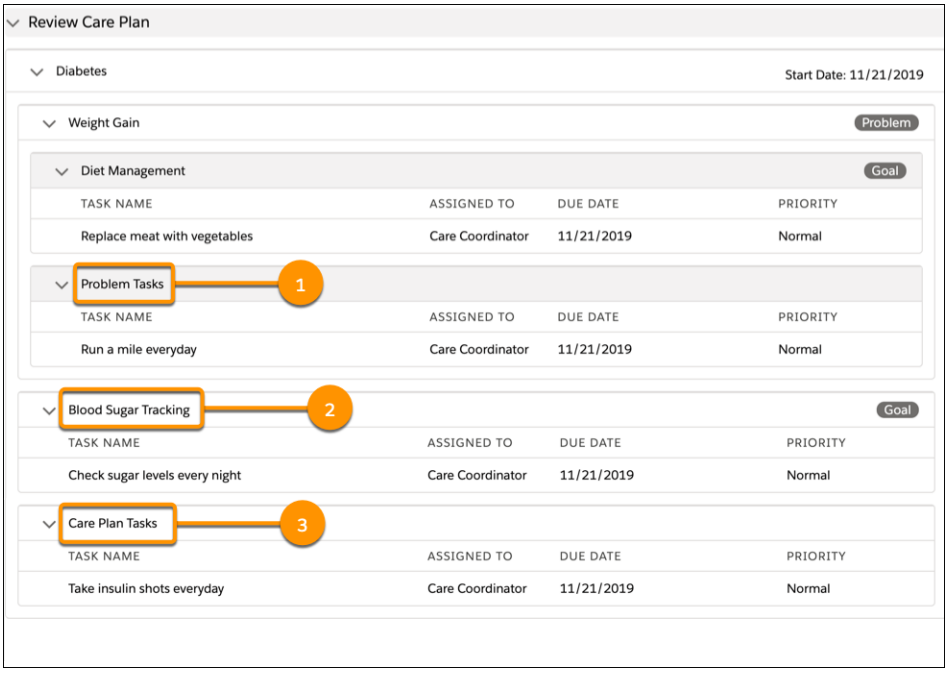
使用事例に適したケアプランテンプレートの作成

柔軟なケアプランテンプレートを使用して、ユーザは使用するコンポーネントを決定することができます。一部のケアプランでは問題と目標は不要です。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、組織で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法:問題と目標が省略可能になったので、使用事例に応じて機能するケアプランテンプレートを作成します。



次のコンポーネントの組み合せのいずれかまたはすべてを使用してケアプランテンプレートを作成できます。

- 問題と ToDo (目標なし) (1)
- 目標と ToDo (問題なし) (2)
- ToDo (問題と目標なし) (3)

問題、目標、および ToDo を含む従来のケアプランテンプレートを引き続き使用することもできます。

テンプレートの ToDo を作成したら、それをテンプレートの目標ではなくテンプレートまたはテンプレートの問題に関連付けることができます。テンプレートの目標を作成したら、それをテンプレートの問題ではなくテンプレートに関連付けるように選択できます。

テンプレート、問題、および目標の分類

ケアプランテンプレート、テンプレートの問題、およびテンプレートの目標をカテゴリに分類しておくと、レポートの作成や、ケアプランの使用状況の把握に役立つ可能性があります。ケアプランテンプレート、テンプレートの問題、およびテンプレートの目標用のカスタマイズ可能なカテゴリ選択リストから選択できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: 新しいカテゴリ選択リスト項目は、ケアプランテンプレート、ケアプランテンプレートの問題、およびケアプランテンプレートの目標の各オブジェクトでデフォルトで有効になっています。オブジェクトマネージャを使用して、これらの選択リストで使用可能なカテゴリを設定できます。

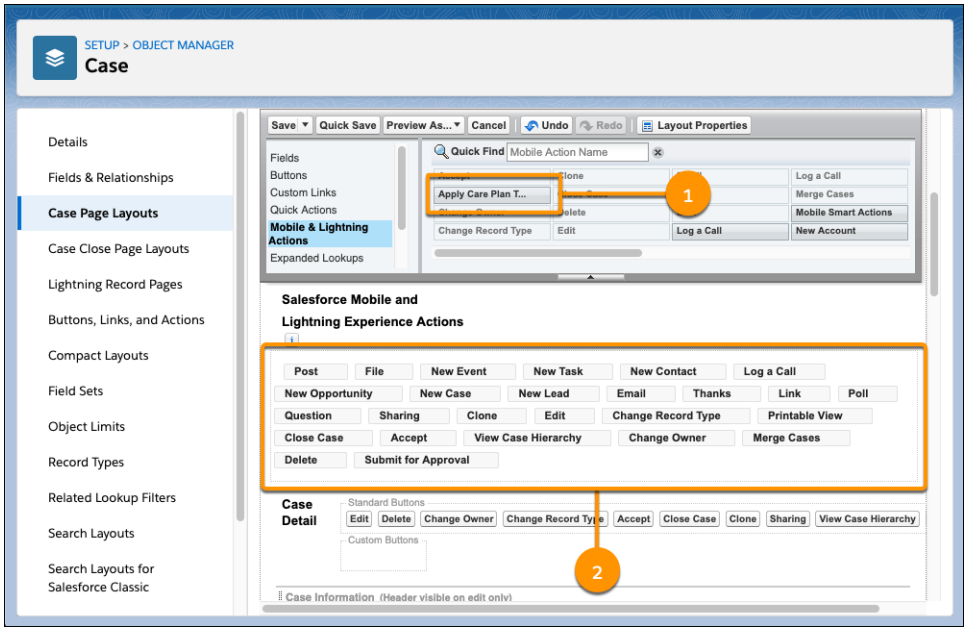
新しいボタンを使用した既存のケアプランへのテンプレートの追加の迅速化

ケースページの強調表示パネルに [ケアプランテンプレートの適用] ボタンを配置できるようになりました。ユーザは、このボタンを使用してより多くのテンプレートを既存のケアプランに、そのケアプランのケースページから直接容易に追加できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: このボタンをケアプランのケースページに追加するには、`Case` オブジェクトの `CarePlan Layout` を設定します。



このレイアウトで、[ケアプランテンプレートの適用] ボタン (1) を [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience アクション] 領域 (2) に追加します。ただし、この新しいボタンをページヘッダーに直接表示する場合は、ボタンを左上隅に配置する必要があります。

ケアプランの作成時に ToDo 名と日付をカスタマイズ

ユーザは、ToDo をケアプランに適用する前に、選択したテンプレートで ToDo をカスタマイズできるようになりました。インライン編集を使用して、ToDo 名と期日を容易に変更できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: ユーザは、ToDo 名またはその期日の横にある編集アイコンをクリックできます。

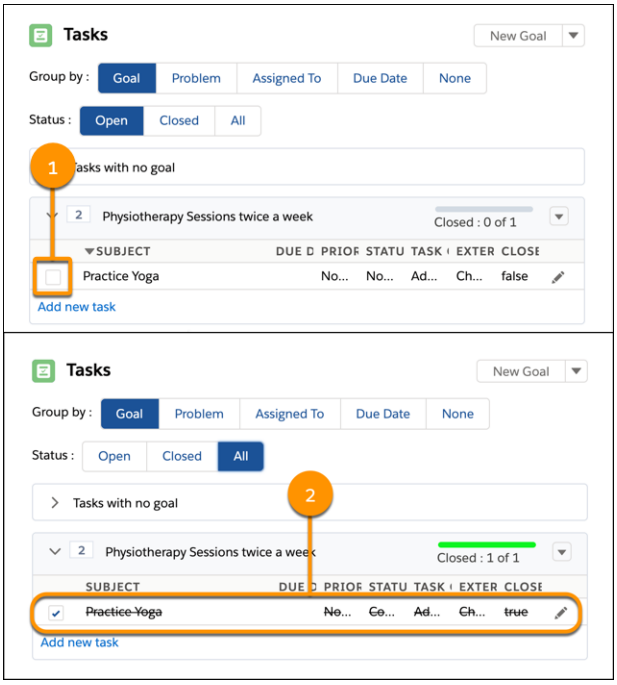
少ないクリックで ToDo の状況の変更

ユーザは大幅に少なくなったクリック数で各 ToDo の状況を変更できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: ToDo の横のチェックボックスを使用して ToDo の状況を変更します。



チェックボックス (1) をオンにして、1 回のクリックで ToDo を完了としてマークします。完了した ToDo は、完了したことを示す取り消し線フォーマット (2) で表示されます。状況を再度変更するには、チェックボックスをオフにします。このときに、状況を延期、処理中、他の人を待機中、または未開始に設定できます。

少ないクリックでケアプランの作成を迅速化

ケアプランの機能強化により、増加したテンプレート容量と、頻繁に使用するテンプレートへの容易なアクセスがユーザに提供され、クリック数が減ります。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法:

- 検索前にテンプレートの選択画面には、最大 200 個の並び替えられたテンプレートのリストが表示されます。デフォルトの並び替えの基準は、ケアプランを作成するために最近使用されたテンプレートです。ただし、リストは名前で並び替えることもできます。
- ユーザがケアプランに適用できるテンプレートの数が 5 から 15 個に増加しました。この増加により、ユーザはより複雑なケアプランを容易に作成することができます。
- 次の場合、ユーザはテンプレートの選択画面をスキップし、空白のケアプランから自動的に開始します。
  - 組織に定義されたテンプレートがない。
  - ユーザにテンプレートへのアクセス権がない。

- デフォルトでは、ケアチームの最初の行はケアコーディネータの役割に設定されます。この行は、ユーザがクリック数を節約するのに役立つほか、ケアコーディネータをチームに追加するようにユーザに知らせます。

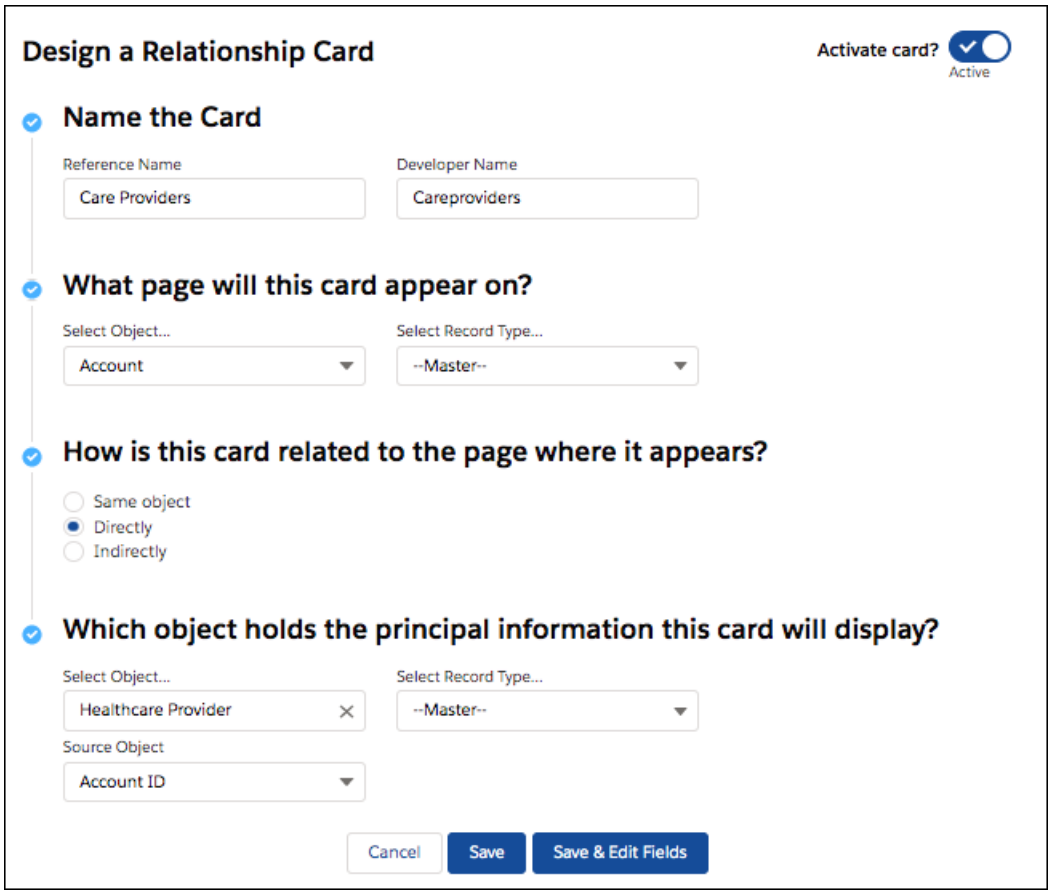
提供者リレーションカードのカスタマイズ

ユーザのニーズに合わせて提供者カードをより柔軟に設定できるようになりました。提供者リレーションカードを使用すると、提供者についてユーザが知りたがっている情報をすばやく効率的に1か所で示すことができます。データはさまざまなオブジェクトから取得されますが、ユーザは関連リストを介してそれらのオブジェクトに移動する必要はありません。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 提供者カードを使用するには、Health Cloud ライセンスをプロビジョニングする必要があります。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: 各提供者のカードでユーザがどの情報を探すかを考慮してから、カード設定ウィザードを使用して、その情報を含むさまざまなオブジェクトを接続します。



たとえば、特定のヘルスセンター (HealthCareFacility オブジェクトから) の各医師のカードを作成し、連絡先情報 (HealthCareProvider オブジェクト) と専門分野 (HealthcareFacilitySpecialty オブジェクト) を含めます。ユーザの保険プラン (PlanBenefit) の下でこの提供者が対応可能かどうかを追加できます。

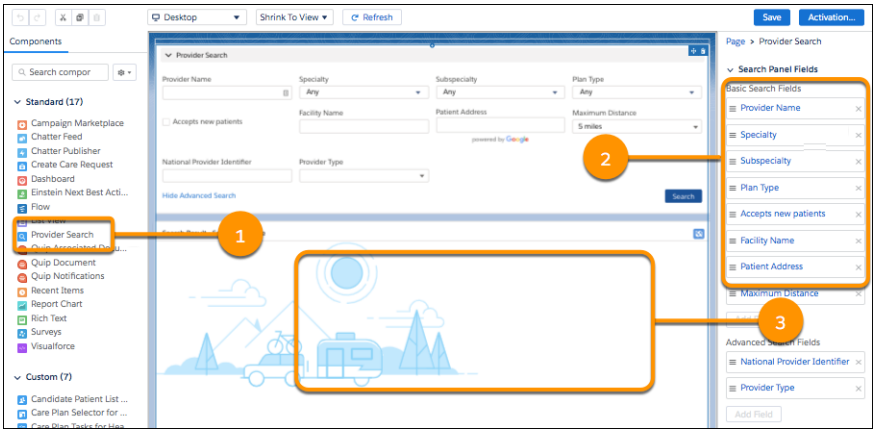
ケア提供者の検索に役立つオプションの追加

検索パネルおよび検索出力に含める項目を選択できるようになりました。カスタム項目を使用することもできます。場所、専門分野、対応可能状況などの条件に基づいてユーザがヘルスケア提供者を見つけることができるようにします。検索結果は詳細リストと簡便な地図に表示されます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 提供者検索を使用するには、Salesforce 組織に Health Cloud ライセンスが必要です。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

方法: スタンドアロンの提供者検索アプリケーションを作成するか、提供者検索アプリケーションをアカウントレコードページにタブとして追加できます。どちらの場合も、[検索可能な項目] という名前の事前設定済みオブジェクトから始めます。これには、ユーザが通常検索するほとんどの項目が含まれます。ユーザのニーズに合わせて項目を追加できます。



[提供者検索] コンポーネントをワークスペース (1) にドラッグし、ユーザに表示する項目を選択します (2)。検索結果は検索項目の下 (3) と簡便な Google マップに表示されます。

関連トピック:

- http://help.salesforce.com/articleView?id=admin_provider_search.htm
- http://help.salesforce.com/articleView?id=provider_search.htm
- https://help.salesforce.com/articleView?id=admin_setup_provider_card.htm

ケアプログラムのより効率的な作成およびカスタマイズ

ケアプログラムの作成とカスタマイズをより容易にしました。同意フォームを最初から作成するのではなく既存のフォームをコピーして使用することで、時間と労力を節約します。電子署名を取得するときに、カスタマイズした免責事項メッセージを使用します。プログラム登録フロー自体からケアプランを患者に関連付けることで、クリック数とナビゲーションを節約します。

このセクションの内容:

新しいケアプログラムのための既存の同意フォームのコピー
ケアプログラムを作成するときに、同意フォームを最初から作成するのではなく、既存の同意フォームを再利用できるようになりました。

電子署名の取得に関する免責事項メッセージのカスタマイズ
電子署名の取得時のシナリオに合わせてカスタマイズした免責事項メッセージを使用できるようになりました。電子署名の取得時のシナリオに合わせてカスタマイズした免責事項メッセージを使用できるようになりました。

プログラム登録フローにケアプランを含める
余分なクリックとナビゲーションが不要になります。プログラム登録フローにケアプランコンポーネントを含めて、フロー自体からケアプランを患者に関連付けることができるようになりました。

患者のコミュニケーション設定の追跡
ユーザは患者に送信するコミュニケーション(スケジュールのリマインダー、予定のリマインダー、予定前の ToDo など) をより詳細に制御できます。ユーザはコミュニケーション登録オブジェクトを使用して、患者の連絡先情報、連絡に対する同意、メッセージのタイミングに関する希望を追跡できます。

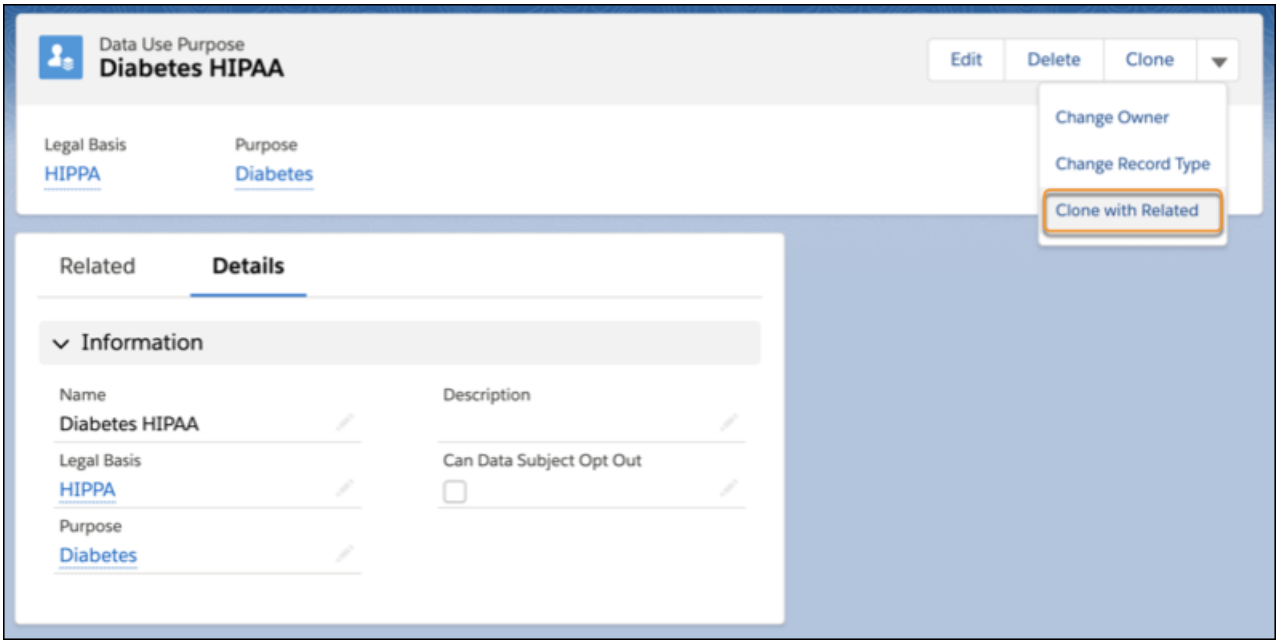
新しいケアプログラムのための既存の同意フォームのコピー

ケアプログラムを作成するときに、同意フォームを最初から作成するのではなく、既存の同意フォームを再利用できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: コピーする [データ使用目的] レコードのレコードページで [コピー] を選択し、[関連情報と共にコピー] を選択します。クローンするオブジェクトを選択し、[次へ] をクリックします。このデータ使用目的にわかりやすい名前を付けます (「Pre-Arthroscopy Program Consent Forms Clone (関節鏡検査前プログラムの同意フォームのコピー)」など)。[目的] 項目で、同意フォームのコピー先のケアプログラムを選択し、[保存] をクリックします。



関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=Associate_a_Consent_Form_with_a_Care_Program.htm

電子署名の取得に関する免責事項メッセージのカスタマイズ

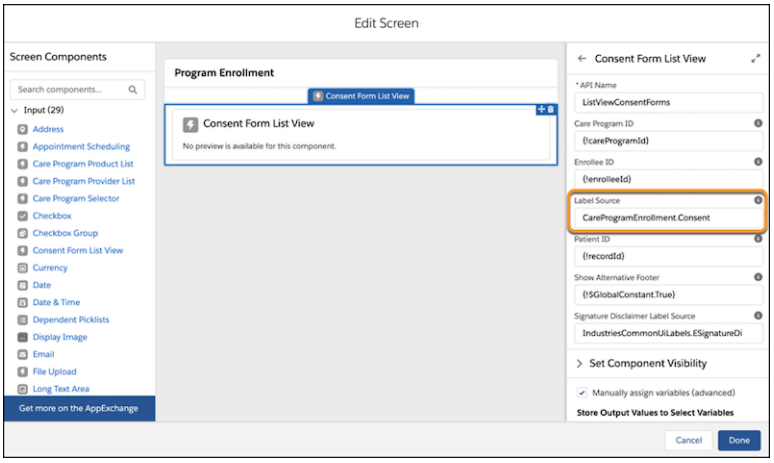
電子署名の取得時のシナリオに合わせてカスタマイズした免責事項メッセージを使用できるようになりました。電子署名の取得時のシナリオに合わせてカスタマイズした免責事項メッセージを使用できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

理由: Health Cloud に付属するデフォルトの免責事項メッセージではなく、独自のカスタマイズした免責事項メッセージを使用します。たとえば、「文書に記載された条件を読み、理解し、同意したことを以下の私の署名により証明します」のようなメッセージを使用します。

方法: Flow Builder で、[登録の同意フォーム画面]、または同意フォームリストビューコンポーネントを含むその他の画面を編集します。[画面を編集] ページで [同意フォームリストビュー] コンポーネントをクリックします。署名免責事項の [表示ラベルソース] 項目に、署名免責事項の既存のカスタム表示ラベルの API 参照名を入力します。



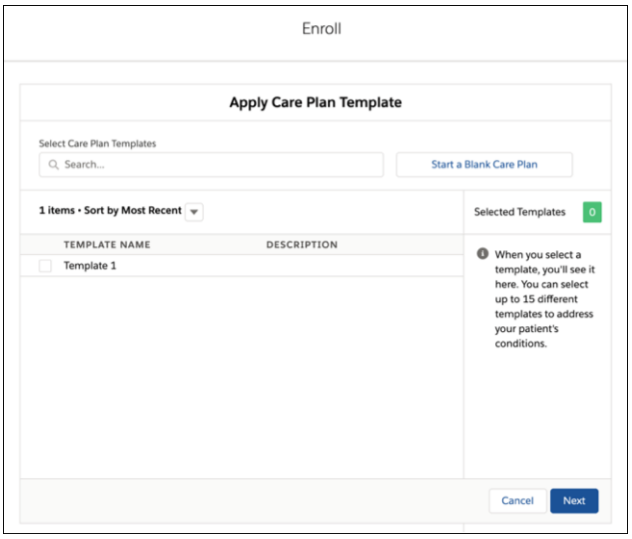
プログラム登録フローにケアプランを含める

余分なクリックとナビゲーションが不要になります。プログラム登録フローにケアプランコンポーネントを含めて、フロー自体からケアプランを患者に関連付けることができるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: Flow Builder で、ケアプランの追加先のプログラム登録フローまたはその他のフローを編集します。画面を追加した後、画面にケアプランコンポーネントを追加します。これで、[ケアプログラムセレクタ]画面以降の任意の場所に新しい [ケアプラン] 画面を追加できます。



関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=health1.htm

患者のコミュニケーション設定の追跡

ユーザは患者に送信するコミュニケーション (スケジュールのリマインダー、予定のリマインダー、予定前の ToDo など) をより詳細に制御できます。ユーザはコミュニケーション登録オブジェクトを使用して、患者の連絡先情報、連絡に対する同意、メッセージのタイミングに関する希望を追跡できます。

対象: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

理由: 患者の希望する時間に希望するチャネルを介して、患者が登録した情報についてのみ、患者に連絡します。たとえば、連絡可能として患者が示した時間中にのみ患者に電話して、タイミングの悪い、応答のない電話を回避することができます。

関連トピック:

- 顧客のコミュニケーション登録の管理
- *Salesforce* ヘルプ: コミュニケーション登録オブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アクセス制御の変更

Health Cloud パッケージで提供されたものではなく、コア Salesforce の一部として提供された Health Cloud オブジェクトへのアクセスを厳しくしました。

対象: Health Cloud を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

理由: Health Cloud では、標準オブジェクト (コア Salesforce Platform の一部として提供) とカスタムオブジェクト (Health Cloud パッケージで提供) の混合が使用されます。

方法:

- システム管理者ユーザには、すべての Health Cloud オブジェクトへの「参照」アクセス権が割り当てられるようになりました。以前は、このユーザには、Salesforce Platform の一部として提供された Health Cloud オブジェクトへのすべてのアクセス権 (作成/参照/更新/削除) がありました。
- 「設定を参照」権限を持つ標準ユーザには、パッケージで提供された Health Cloud オブジェクトへの「参照」アクセス権が割り当てられるようになりましたが、Salesforce Platform の一部として提供されたオブジェクトへのアクセス権はありません。以前は、このユーザには、Salesforce Platform の一部として提供された Health Cloud オブジェクトへのすべてのアクセス権 (作成/参照/更新/削除) がありました。

Einstein Analytics for Healthcare の機能強化により患者ケアの提供に関する専門知識を増幅

ケアコーディネータ、利用マネージャ、紹介マネーが Analytics for Healthcare アプリケーションを使用して患者母集団に関する重要なインサイトを容易に取得できるようにしました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Healthcare は Salesforce Health Cloud ユーザのみを対象とします。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Healthcare テンプレートからアプリケーションを作成するには、Healthcare Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

理由:新しい[患者セグメンテーション]ダッシュボードおよび[社会的決定要因]ダッシュボードを使用すると、母集団にドリルインして、リスクのある患者を特定し、その患者の適切なケアプランを設計できます。3 つの Einstein Discovery ストーリーを使用して、有望な患者紹介を分離し、事前承認ケア要請が却下されるリスクをレビューし、ケアプラン ToDo に従わないリスクのある患者を特定します。また、プランメンバーに関するすべての関連する総計値を、選定されたビューでケアコーディネータに提供するダッシュボードも追加されました。更新された利用分析ダッシュボードでは、ケア要請のトレンドに関するインサイトが利用マネージャに提供されるようになりました。

方法: Analytics Studio に移動して **[作成]** をクリックし、**[アプリケーション]** を選択して **[テンプレートから開始]** をクリックします。**[Analytics for Health]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

ケアプランテンプレート

ケアプランテンプレートが属する治療のカテゴリを指定
`CarePlanTemplate__c` オブジェクトで `Category__c` 選択リスト項目を使用します。

ケアプランテンプレートの問題が属する病気のカテゴリを指定
`CarePlanTemplateProblem__c` オブジェクトで `Category__c` 選択リスト項目を使用します。

ケアプランテンプレートの目標が属する目標のカテゴリを指定
`CarePlanTemplateGoal__c` オブジェクトで `Category__c` 選択リスト項目を使用します。

ケアプランテンプレートの目標をケアプランテンプレートに直接関連付ける
`CarePlanTemplateGoal__c` オブジェクトで `CarePlanTemplate__c` 参照項目を使用します。

ケアプランテンプレートの目標を親レコードに関連付ける
ケアプランテンプレートの目標がどの親レコードにも関連付けられていない場合、`CarePlanTemplateGoal__c` オブジェクトの `ValidateCarePlanGoalAssociation` 入力規則でエラーがスローされます。

ケアプランテンプレートの目標を 1 つの親レコードのみに関連付ける
ケアプランテンプレートの目標が複数の親レコードに関連付けられている場合、`CarePlanTemplateGoal__c` オブジェクトの `ValidateCarePlanGoalAssociationForSingle` 入力規則でエラーがスローされます。

ケアプランテンプレートの ToDo をケアプランテンプレートに直接関連付ける
`CarePlanTemplateTask__c` オブジェクトで `CarePlanTemplate__c` 参照項目を使用します。

ケアプランテンプレートの ToDo をケアプランテンプレートの問題に直接関連付ける
`CarePlanTemplateTask__c` オブジェクトで `CarePlanTemplateProblem__c` 参照項目を使用します。

ケアプランテンプレートの ToDo を親レコードに関連付ける
ケアプランテンプレートの ToDo がどの親レコードにも関連付けられていない場合、CarePlanTemplateTask__c オブジェクトの ValidateCarePlanTaskAssociation 入力規則でエラーがスローされます。

ケアプランテンプレートの ToDo を 1 つの親レコードのみに関連付ける
ケアプランテンプレートの ToDo が複数の親レコードに関連付けられている場合、CarePlanTemplateTask__c オブジェクトの ValidateCarePlanTaskAssociationForSingle 入力規則でエラーがスローされます。

ケアプラン

ケアプランの問題が属する病気のカテゴリを指定
CarePlanProblem__c オブジェクトで Category__c 選択リスト項目を使用します。

ケアプランの目標が属する目標のカテゴリを指定
CarePlanGoal__c オブジェクトで Category__c 選択リスト項目を使用します。

提供者データモデル

提供者の検索結果に表示できる項目を指定
新しい CareProviderSearchConfig オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録

予定のリマインダーなど、特定のコミュニケーションに関する患者の設定を管理
新しい CommSubscription オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録のために患者と連絡を取ることができるエンゲージメントチャネルを指定
新しい CommSubscriptionChannelType オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録チャネル種別レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeFeed オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録チャネル種別レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeHistory オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録チャネル種別オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録チャネル種別レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeShare オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録への患者の同意を保存
新しい CommSubscriptionConsent オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録の同意レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentFeed オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録の同意レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentHistory オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録の同意オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionConsentOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録の同意レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionConsentShare` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionFeed` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionHistory` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionShare` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録の受信タイミングに関する患者の設定を保存
新しい `CommSubscriptionTiming` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録タイミングレコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionTimingFeed` オブジェクトを使用します。

コミュニケーション登録タイミングレコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CommSubscriptionTimingHistory` オブジェクトを使用します。

コミュニケーションのために患者と連絡を取ることができるチャネルを示す
新しい `EngagementChannelType` オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `EngagementChannelTypeFeed` オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `EngagementChannelTypeHistory` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとエンゲージメントチャネル種別オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい `EngagementChannelTypeOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `EngagementChannelTypeShare` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/sforce_api_objects.htm

Consumer Goods Cloud: 訪問順序の最適化、在庫レベルの監視業績の向上

小売パートナーとのビジネスをより効率的に行うことができます。店舗により短時間で到着できるようにして、フィールド営業担当者の生産性を高めることができます。フィールド営業担当者は、店長や顧客との関係を築くことにより多くの時間を費やすことができるようになりました。商品が在庫切れにならないようにすることもできます。

このセクションの内容:

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した業績の促進
Analytics for Consumer Goods アプリケーションにより、テリトリー、店舗、営業担当のパフォーマンスに関するインサイトが得られます。営業マネージャはこのアプリケーションを使用して、売上の増大、店舗のコンプライアンスの向上、リスクの高い店舗の特定、営業担当の効率性の最大化に取り組むことができます。営業担当は、訪問のパフォーマンス、セールス、コンプライアンス、販売上位の商品に関する店舗レベルのインサイトが得られます。

Consumer Goods Cloud の販売計画を使用した小売実行の簡素化
営業マネージャは、販売計画を使用して各自のすべての商品の統合ビューを取得したり、業績評価指標を追跡したり、利益や収益を予測したり、長期的なビジネス関係を築いたりできるようになりました。営業マネージャが値を間違えないように、調査指標定義の目標を自動的に割り当てることができます。営業マネージャは、注文の数量および収益の更新を自動化することもできます。

Salesforce Maps による訪問順序の最適化
最適化された訪問順序により、フィールド営業担当者の生産性が向上します。Consumer Goods Cloud では、Salesforce Maps を使用し、距離、移動時間、店舗の営業時間に基づいて最適な店舗訪問の順序を決定します。フィールド営業担当者は、モバイルデバイスでその日の最適化された訪問リストを取得できます。

バーコードスキャナを使用したモバイルデバイスでの商品の詳細の検索
商品の詳細を取得するために、延々と項目のリストをスクロールする必要がなくなりました。フィールド営業担当者は、モバイルデバイスで商品のバーコードをスキャンし、商品の詳細を取得できます。

商品カテゴリの KPI の追跡
営業マネージャは、どの KPI (特定の商品または商品カテゴリ) を取得するのか選択できます。これにより、フィールド営業担当者は商品ごとに情報を記録する時間を節約できます。

再利用可能なタスクの保存とテンプレートでの使用
タスクと調査指標定義を再利用して、アクションプランテンプレートの作成を簡略化します。営業マネージャは、一度調査指標定義でタスクを作成し、訪問のアクションプランテンプレートを作成するたびに再利用できます。

Object Detection データの制御の向上
Einstein Object Detection データが EU でローカルに保存されるようになり、検出情報にアクセスする権限を持つユーザを決定できます。また、不要になったビジョンモデルを無効にすることもできます。

Consumer Goods Cloud の新規および変更されたオブジェクト
Consumer Goods Cloud の新規および変更されたオブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

Einstein Analytics for Consumer Goods を使用した業績の促進

Analytics for Consumer Goods アプリケーションにより、テリトリー、店舗、営業担当のパフォーマンスに関するインサイトが得られます。営業マネージャはこのアプリケーションを使用して、売上の増大、店舗のコンプライアンスの向上、リスクの高い店舗の特定、営業担当の効率性の最大化に取り組むことができます。営業担当は、訪問のパフォーマンス、セールス、コンプライアンス、販売上位の商品に関する店舗レベルのインサイトが得られます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この機能は、2020 年 2 月下旬までに Consumer Goods Cloud **で使用できるようになります。**

対象ユーザ: Analytics for Consumer Goods **は** Salesforce Consumer Goods Cloud **ユーザのみが対象です。** Einstein Analytics for Consumer Goods **テンプレートからアプリケーションを作成する場合は、**Einstein Analytics for Consumer Goods **アドオンライセンスも必要です。**

理由: 営業マネージャが売上を増やして営業担当をサポートするのを手助けします。

方法: Analytics Studio **に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。[Analytics for Consumer Goods] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。**

Consumer Goods Cloud の販売計画を使用した小売実行の簡素化

営業マネージャは、販売計画を使用して各自のすべての商品の統合ビューを取得したり、業績評価指標を追跡したり、利益や収益を予測したり、長期的なビジネス関係を築いたりできるようになりました。営業マネージャが値を間違えないように、調査指標定義の目標を自動的に割り当てることができます。営業マネージャは、注文の数量および収益の更新を自動化することもできます。

対象: **この変更は、小売実行が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

対象ユーザ: **この機能は、**Consumer Goods Sales Agreements **権限セットと** Lightning Retail Execution Plus **権限セットを持つユーザが使用できます。**

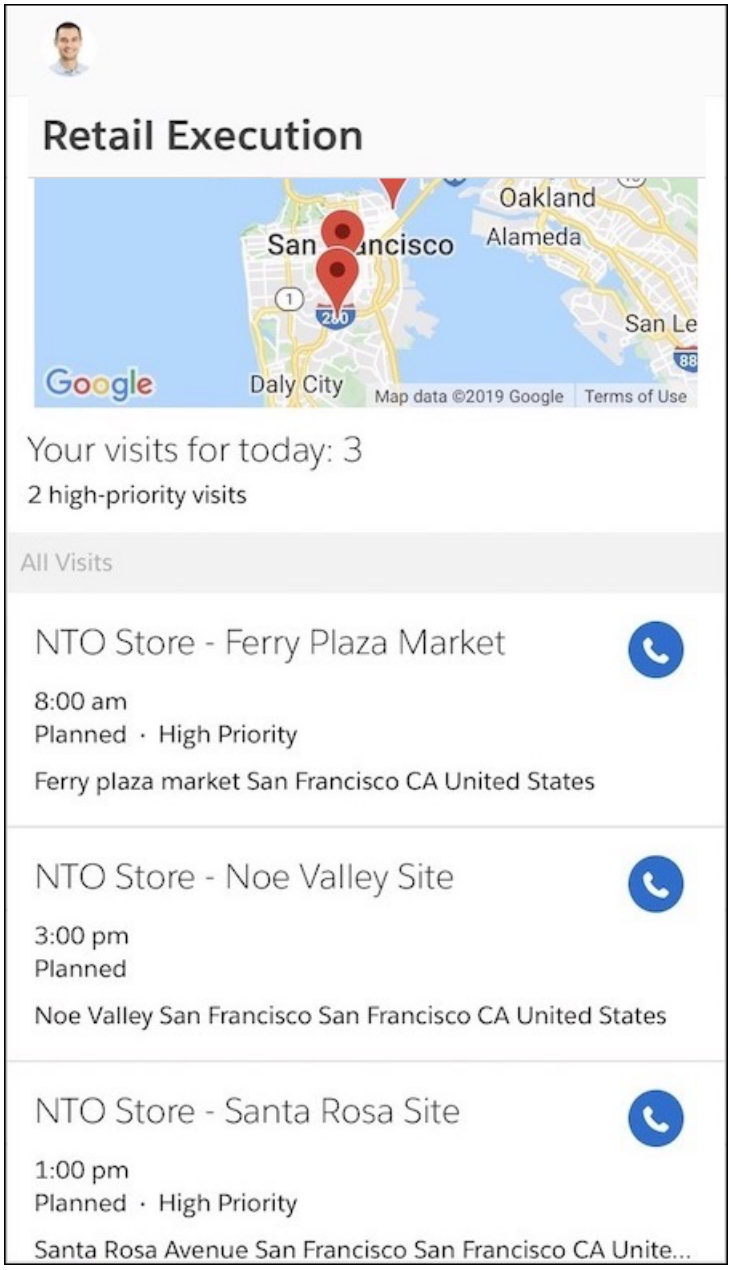
Salesforce Maps による訪問順序の最適化

最適化された訪問順序により、フィールド営業担当者の生産性が向上します。Consumer Goods Cloud **では、**Salesforce Maps **を使用し、距離、移動時間、店舗の営業時間に基づいて最適な店舗訪問の順序を決定します。フィールド営業担当者は、モバイルデバイスでその日の最適化された訪問リストを取得できます。**

対象: **この変更は、小売実行が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods **ライセンスを持つユーザが使用できます。**

方法: **小売店レコードを作成するときに、店舗の場所の緯度と経度を入力して推奨の訪問順序を取得します。**



関連トピック:

https://mapanything.force.com/support/s/article/Implementation-Guide-Professional-Enterprise-Unlimited-Edition

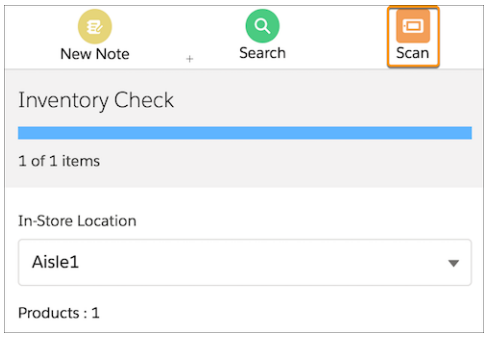
バーコードスキャナを使用したモバイルデバイスでの商品の詳細の検索

商品の詳細を取得するために、延々と項目のリストをスクロールする必要がなくなりました。フィールド営業担当者は、モバイルデバイスで商品のバーコードをスキャンし、商品の詳細を取得できます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: フィールド営業担当者は [スキャン] をタップしてモバイルカメラを使用して商品のバーコードをスキャンすることで、商品の詳細をモバイルデバイスで検索できます。



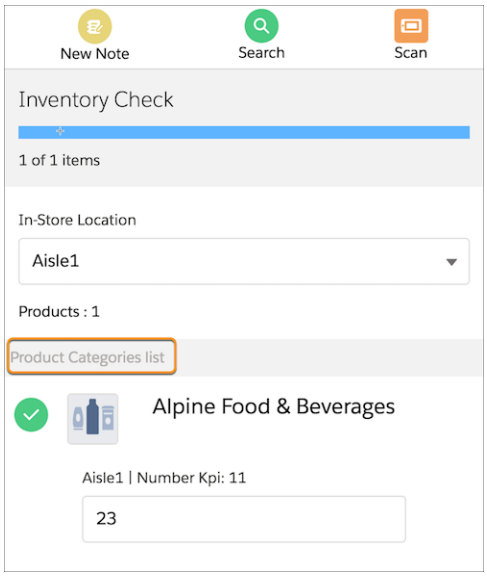
商品カテゴリの KPI の追跡

営業マネージャは、どの KPI (特定の商品または商品カテゴリ) を取得するのか選択できます。これにより、フィールド営業担当者は商品ごとに情報を記録する時間を節約できます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象: この機能は、Consumer Goods ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: 商品カテゴリの情報を取得するには、小売店 KPI の作成中に商品カテゴリを選択します。



再利用可能なタスクの保存とテンプレートでの使用

タスクと調査指標定義を再利用して、アクションプランテンプレートの作成を簡略化します。営業マネージャは、一度調査指標定義でタスクを作成し、訪問のアクションプランテンプレートを作成するたびに再利用できます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: 調査タスク定義を作成して調査指標定義に関連付けます。アクションプランテンプレートを作成するときに、この調査タスク定義を関連付けます。

Object Detection データの制御の向上

Einstein Object Detection データが EU でローカルに保存されるようになり、検出情報にアクセスする権限を持つユーザを決定できます。また、不要になったビジョンモデルを無効にすることもできます。

このセクションの内容:

Einstein Object Detection データのローカルへの保存
EU の Salesforce 組織の場合、Einstein Object Detection データがローカルに保存されるようになりました。

Einstein Object Detection へのアクセスの制御
Salesforce 組織のどのユーザが Einstein Object Detection にアクセスできるかを選択できるようになりました。

Einstein Object Detection モデルの無効化
構築中の Object Detection モデルを無効にできます。また、パフォーマンスの低いモデルや使用していないモデルを無効にすることもできます。モデルは後からいつでも有効化できます。

新しい KPI 種別による生産性の向上
営業マネージャは、新しい在庫切れ KPI を使用して自動的に在庫切れ商品を識別し、在庫が補充された状態を維持できます。フィールド営業担当者が棚の写真を撮ると、Salesforce によって在庫切れ商品が自動的に識別されて記録されます。

Einstein Object Detection データのローカルへの保存

EU の Salesforce 組織の場合、Einstein Object Detection データがローカルに保存されるようになりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

Einstein Object Detection へのアクセスの制御

Salesforce 組織のどのユーザが Einstein Object Detection にアクセスできるかを選択できるようになりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザに割り当てられる権限セットで Einstein Object Detection へのアクセス権をユーザに付与するには、システム権限を編集し、[ユーザが予測で **Object Detection** を使用することを許可します] を有効にします。

Einstein Object Detection モデルの無効化

構築中の Object Detection モデルを無効にできます。また、パフォーマンスの低いモデルや使用していないモデルを無効にすることもできます。モデルは後からいつでも有効化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ビジョンモデルページのクイックアクションから、[無効化] を選択します。

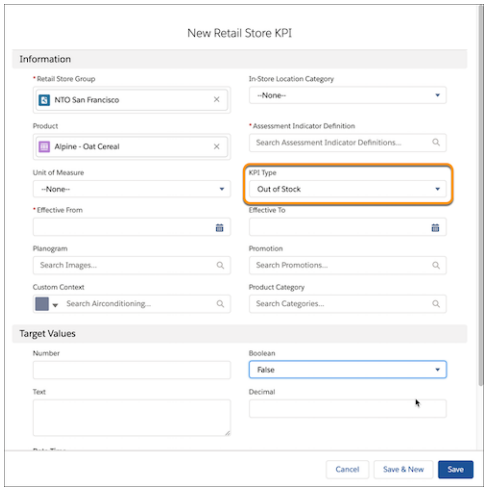
新しい KPI 種別による生産性の向上

営業マネージャは、新しい在庫切れ KPI を使用して自動的に在庫切れ商品を識別し、在庫が補充された状態を維持できます。フィールド営業担当者が棚の写真を撮ると、Salesforce によって在庫切れ商品が自動的に識別されて記録されます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: 小売店 KPI を定義するときに、[KPI 種別] リストから [在庫切れ] を選択します。KPI の Boolean 目標値を選択します。



Consumer Goods Cloud の新規および変更されたオブジェクト

Consumer Goods Cloud の新規および変更されたオブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

対象: この機能は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Professional Edition の小売実行アプリケーションに適用されます。

調査指標定義を調査タスク定義に関連付ける
新しい `AssessmentTaskIndDefinition` 連結オブジェクトを使用します。

アクションプランテンプレートを店舗に関連付ける
新しい `StoreActionPlanTemplate` オブジェクトを使用します。

調査タスクを調査指標定義に関連付ける
新しい `AssessmentTaskDefinition` オブジェクトを使用します。

削除: ActionPlanTmplItmAssessmentInd オブジェクトは削除されました。

Visit オブジェクトの新規項目

訪問の場所または小売店舗を特定する
`Visit` オブジェクトの新しい `Place` 項目を使用します。

訪問の目的 (請求、事業認可の申請など) または作業種別を特定する
`Visit` オブジェクトの新しい `ContextId` 項目を使用します。

訪問に関連付けられている取引先を特定する
`Visit` オブジェクトの新しい `AccountId` 項目を使用します。

AssessmentTask オブジェクトの新規項目

調査タスクに関連付けられている訪問を特定する
`AssessmentTask` オブジェクトの新しい `ParentId` 項目を使用します。

訪問を完了するためにはタスクを完了する必要があるかどうかを示す
`AssessmentTask` オブジェクトの新しい `IsRequired` 項目を使用します。

タスクを実行すべき順序を表示する
`AssessmentTask` オブジェクトの新しい `SequenceNumber` 項目を使用します。

タスクの状況を表示する
`AssessmentTask` オブジェクトの新しい `Status` 項目を使用します。

タスクで参照する調査タスク定義を表示する
`AssessmentTask` オブジェクトの新しい `AssessmentTaskDefinitionId` 項目を使用します。

選択リスト値が追加された項目

RetailStoreKpi
KpiType 項目に選択リスト値が追加されました。

RetailVisitKpi
KpiType 項目に選択リスト値が追加されました。

Einstein Object Detection オブジェクトの新規項目

組織で使用されていないモデルを無効にする
`AiVisionModel` オブジェクトの新しい `IsActive` 項目を使用します。

Manufacturing Cloud: 販売計画と取引先販売予測の機能強化による環境の強化

追加機能を含めて、販売計画と取引先販売予測について詳しく見てみましょう。商品を取引先販売予測に追加します。独自の指標を追加して取引先販売予測をカスタマイズします。取引先販売予測の収益指標を取引先の通貨で表示します。販売計画および取引先販売予測を商品で絞り込みます。販売計画指標または取引先販売予測指標の複数の値を同時に更新します。提供されたダッシュボードを使用して、組織のデータの視覚的表現を取得します。

このセクションの内容:

指標を使用した取引先販売予測のカスタマイズ

提供される一連の取引先販売予測指標が要件に合っていない場合、数量と収益の指標についてカスタム指標を取引先販売予測に追加できます。

取引先の通貨での販売予測収益指標の表示

取引先マネージャは、取引先販売予測の収益指標を取引先の通貨で表示できるようになりました。注文、商談、販売計画からの収益指標は取引先の通貨に変換されます。

ワンクリックでの新しい商品の取引先販売予測への追加

取引先マネージャは、商品が販売計画、注文、商談に関連付けられていない場合でも、いつでもボタンをクリックして新しい商品を取引先販売予測に追加できます。調整期間を待機する必要はありません。販売予測は新しい商品の販売予測指標を反映して自動的に再計算されます。

商品による契約期間および取引先販売予測の検索

取引先マネージャは、契約期間および取引先販売予測を商品で絞り込めるようになりました。探している商品を見つけるのに、複数のページを移動する必要はありません。

契約期間および取引先販売予測の複数の値の更新

取引先マネージャは、販売計画または取引先販売予測指標に影響する商品の季節的な変更にすばやく対応できます。取引先マネージャは、販売計画または取引先販売予測の 1 つの指標の複数の値を同時に更新できるようになりました。

Einstein Analytics for Manufacturing を使用した売上予測の強化と商品需要に関するより深いインサイトの取得

新しいダッシュボードでは、売上予測の精度を改善し、顧客の需要を予測するデータ分析ツールが取引先マネージャと需要プランナーに提供されます。ダッシュボードの視覚化により、情報に基づいた取引先の売上予測を作成したり、その予測に対するパフォーマンスを追跡したりできます。履歴トレンドに関するインサイトを使用して、売上予測の変化を分析し、精度を改善することもできます。また、組み込みインサイトにより、ビジネスを遂行するために毎日使用している Salesforce のメインページから直接ビジネスの全体像を把握できます。

新しいライセンスでのマニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートの使用

コミュニティユーザが製造コミュニティポータルにアクセスする場合、Manufacturing Sales Agreements For Community ライセンスが必要になりました。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Manufacturing Cloud のこれらの新規および変更されたメタデータ型で販売計画および取引先販売予測をより適切に使用できます。

Manufacturing Cloud の新しい Tooling API

Manufacturing Cloud のこれらの新しい Tooling API オブジェクトを使用して、販売計画を作成し、取引先販売予測を生成します。

指標を使用した取引先販売予測のカスタマイズ

提供される一連の取引先販売予測指標が要件に合っていない場合、数量と収益の指標についてカスタム指標を取引先販売予測に追加できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [オブジェクトマネージャ] の Account Product Forecast オブジェクトと Account Product Period Forecast オブジェクトでカスタム項目を作成します。[設定] で、[クイック検索] ボックスに *「取引先販売予測」* と入力し、[取引先販売予測] を選択します。[指標の対応付け] で、商品期間指標を商品指標に対応付けます。

取引先の通貨での販売予測収益指標の表示

取引先マネージャは、取引先販売予測の収益指標を取引先の通貨で表示できるようになりました。注文、商談、販売計画からの収益指標は取引先の通貨に変換されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

ワンクリックでの新しい商品の取引先販売予測への追加

取引先マネージャは、商品が販売計画、注文、商談に関連付けられていない場合でも、いつでもボタンをクリックして新しい商品を取引先販売予測に追加できます。調整期間を待機する必要はありません。販売予測は新しい商品の販売予測指標を反映して自動的に再計算されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [取引先販売予測] ページで、[商品を追加] をクリックします。

商品による契約期間および取引先販売予測の検索

取引先マネージャは、契約期間および取引先販売予測を商品で絞り込めるようになりました。探している商品を見つけるのに、複数のページを移動する必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [契約期間] タブまたは [販売予測] タブで、 をクリックして適切な商品を選択します。

契約期間および取引先販売予測の複数の値の更新

取引先マネージャは、販売計画または取引先販売予測指標に影響する商品の季節的な変更にすばやく対応できます。取引先マネージャは、販売計画または取引先販売予測の1つの指標の複数の値を同時に更新できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [販売計画] ページまたは [取引先販売予測] ページで、[一括更新] をクリックします。プロセスが完了すると、アプリケーション内通知が取引先マネージャに送信されます。更新された各セル値について、過去3回の編集の変更履歴を取得できます。

Einstein Analytics for Manufacturing を使用した売上予測の強化と商品需要に関するより深いインサイトの取得

新しいダッシュボードでは、売上予測の精度を改善し、顧客の需要を予測するデータ分析ツールが取引先マネージャと需要プランナーに提供されます。ダッシュボードの視覚化により、情報に基づいた取引先の売上予測を作成したり、その予測に対するパフォーマンスを追跡したりできます。履歴トレンドに関するインサイトを使用して、売上予測の変化を分析し、精度を改善することもできます。また、組み込みインサイトにより、ビジネスを遂行するために毎日使用している Salesforce のメインページから直接ビジネスの全体像を把握できます。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Manufacturing テンプレートからアプリケーションを作成するには、Manufacturing Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Manufacturing は Salesforce Manufacturing Cloud ユーザのみを対象とします。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。[**Analytics for Manufacturing**] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

新しいライセンスでのマニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートの使用

コミュニティユーザが製造コミュニティポータルにアクセスする場合、Manufacturing Sales Agreements For Community ライセンスが必要になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと Manufacturing Cloud For Community アドオンライセンスを持つユーザが使用できます。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Manufacturing Cloud のこれらの新規および変更されたメタデータ型で販売計画および取引先販売予測をより適切に使用できます。

販売計画の有効化および設定
新しい `SalesAgreementSettings` メタデータ型を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、『Manufacturing Cloud Developer Guide (Manufacturing Cloud 開発者ガイド)』に追加されました。

取引先販売予測の有効化および設定
新しい `AccountForecastSettings` メタデータ型を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、『Manufacturing Cloud Developer Guide (Manufacturing Cloud 開発者ガイド)』に追加されました。

取引先販売予測の有効化および設定
AccountForecastSettings 型で新しい `DisplayedRevenueMetrics` 項目を使用します。

Manufacturing Cloud の新しい Tooling API

Manufacturing Cloud のこれらの新しい Tooling API オブジェクトを使用して、販売計画を作成し、取引先販売予測を生成します。

販売計画の作成
新しい `SalesAgreementSettings` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 47.0 で導入され、『Manufacturing Cloud Developer Guide (Manufacturing Cloud 開発者ガイド)』に追加されました。

取引先販売予測の生成
新しい `AccountForecastSettings` メタデータ型を使用します。このオブジェクトは、API バージョン 47.0 で導入され、『Manufacturing Cloud Developer Guide (Manufacturing Cloud 開発者ガイド)』に追加されました。

Industries の共有メタデータ API

メタデータ API に新しい種別が含まれます。このメタデータ API 種別は、2 つ以上の Salesforce Industries クラウドに適用されます。

Industries

Industries 専門の機能の有効化
新しい `IndustriesSettings` メタデータ型を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、*『メタデータ API 開発者ガイド』*に追加されました。

Consumer Goods Cloud および Financial Services Cloud

アクションプランテンプレートの作成
新しい ActionPlanTemplate 型を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、*『メタデータ API 開発者ガイド』*に追加されました。

myTrailhead: Trailmaker Content のデザインの刷新およびお客様が作成するサブドメイン

Trailmaker Content が刷新されました。お客様は、独自の myTrailhead サブドメインを設定できます。

このセクションの内容:

再設計された Trailmaker Content を使用した効率的で簡単なコンテンツ作成
myTrailhead のコンテンツ作成者が使用するすべての機能はそのまま存在し、最適なモジュールおよびトレイル作成エクスペリエンスを実現するために再設計されています。

独自の myTrailhead サブドメインの迅速な作成
会社が myTrailhead にサインアップすると、新しい設定フローを使用して独自のサブドメインと名前空間をすばやく作成できます。

再設計された Trailmaker Content を使用した効率的で簡単なコンテンツ作成

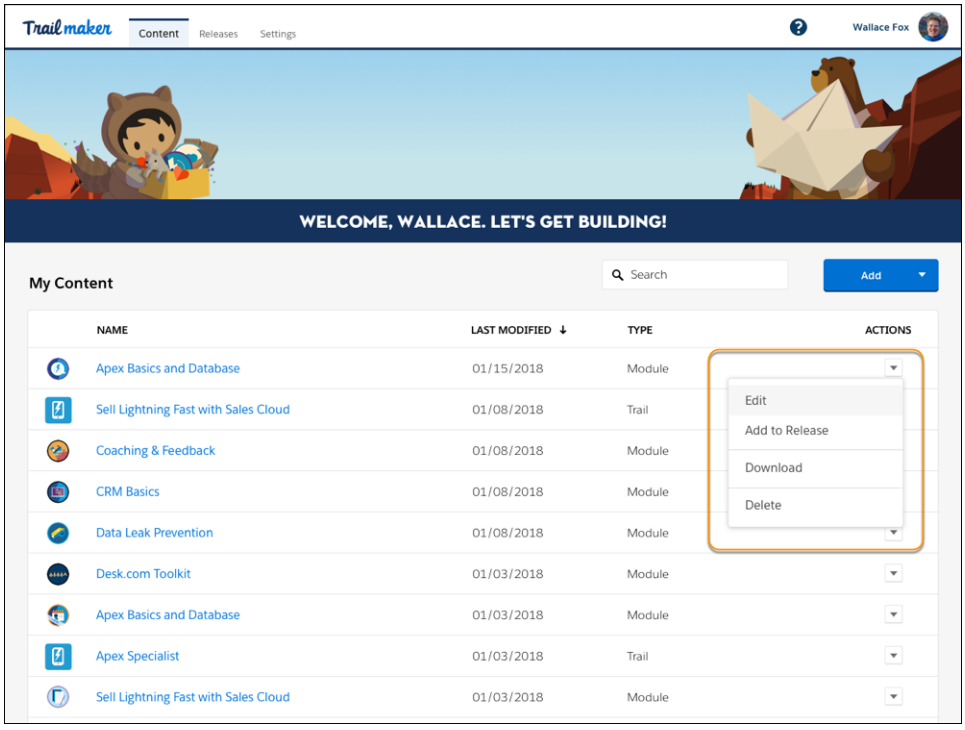
myTrailhead のコンテンツ作成者が使用するすべての機能はそのまま存在し、最適なモジュールおよびトレイル作成エクスペリエンスを実現するために再設計されています。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

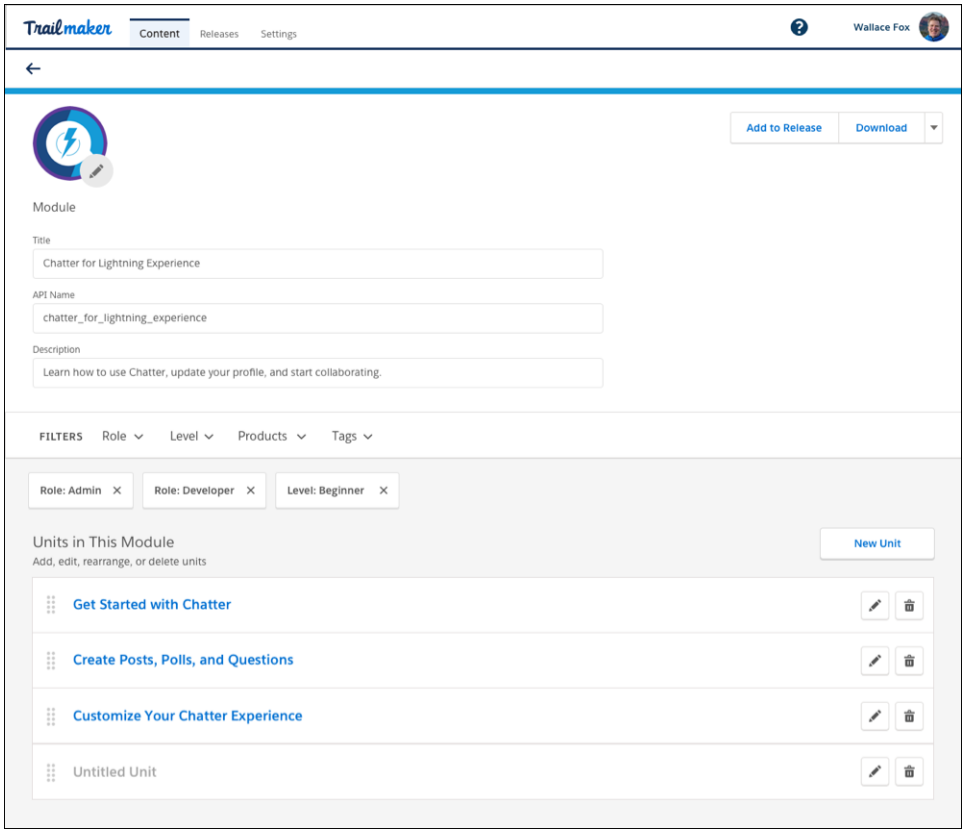
時期: この変更は、2020 年 1 月 に使用可能になります。

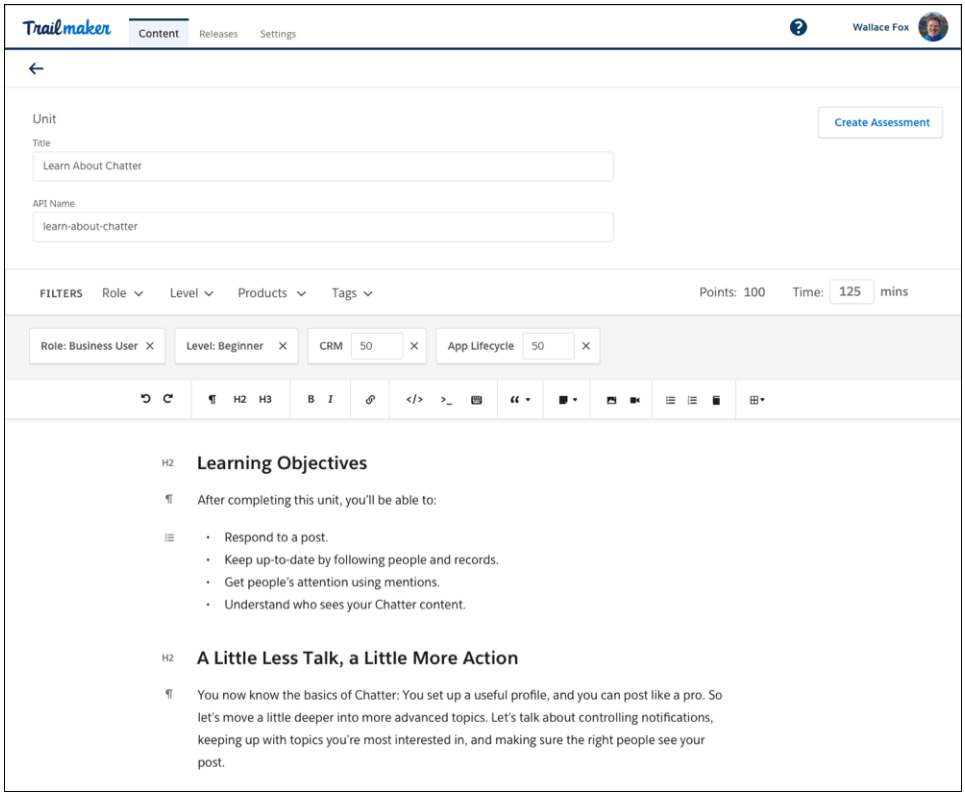
対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead コンテンツ作成」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker Content にアクセスできます。

理由: 新しいリストビューを使用すると、Trailmaker Content ワークスペースでトレイルやモジュールを簡単に管理できます。また、新しいアクションメニューを使用すると、効率的にコンテンツをリリースに追加したり、バックパックをダウンロードしたり、モジュールやトレイルを編集のために開いたりできます。

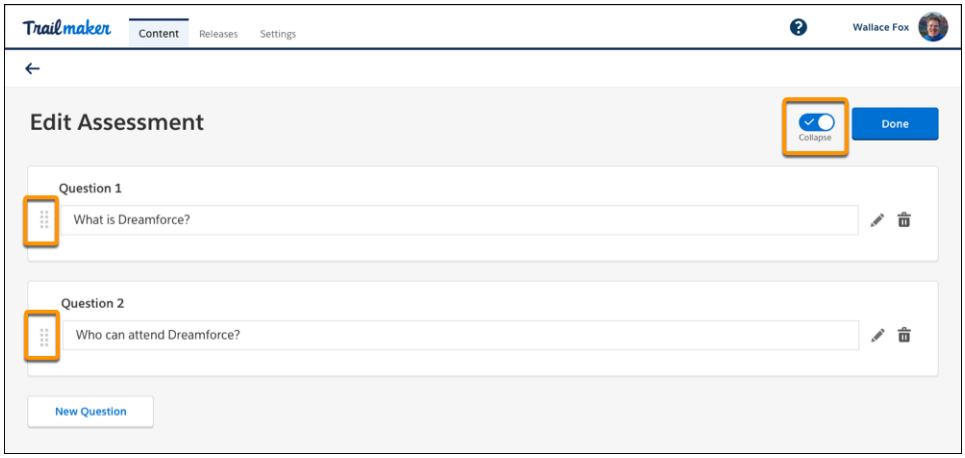


モジュール作成ページと単元作成ページが更新され、すっきりとした効率的なスタイルになりました。





そして、テストを作成するときには、質問をドラッグして順序を変更したり、順序変更を簡単にするために質問を折りたたむことができます。



独自の myTrailhead サブドメインの迅速な作成

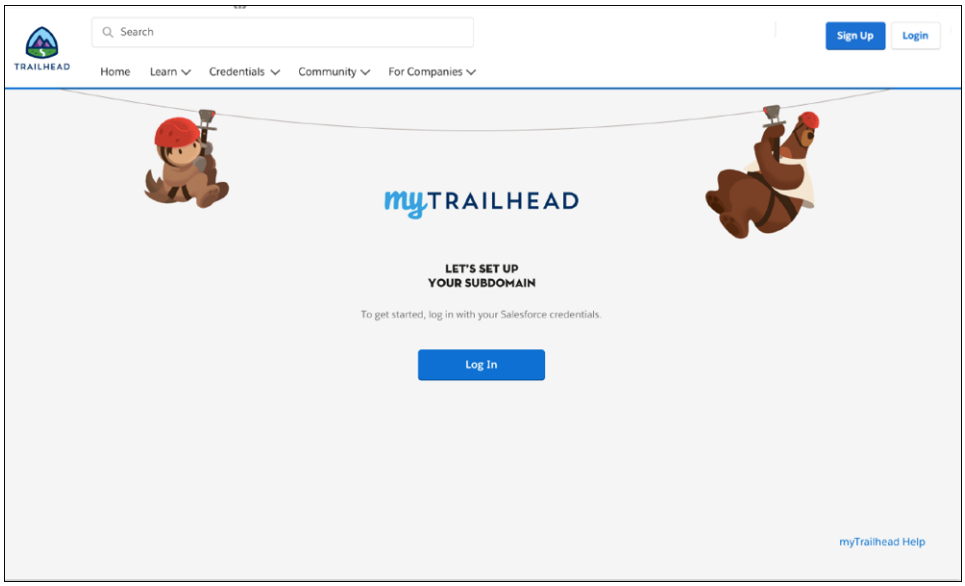
会社がmyTrailheadにサインアップすると、新しい設定フローを使用して独自のサブドメインと名前空間をすばやく作成できます。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

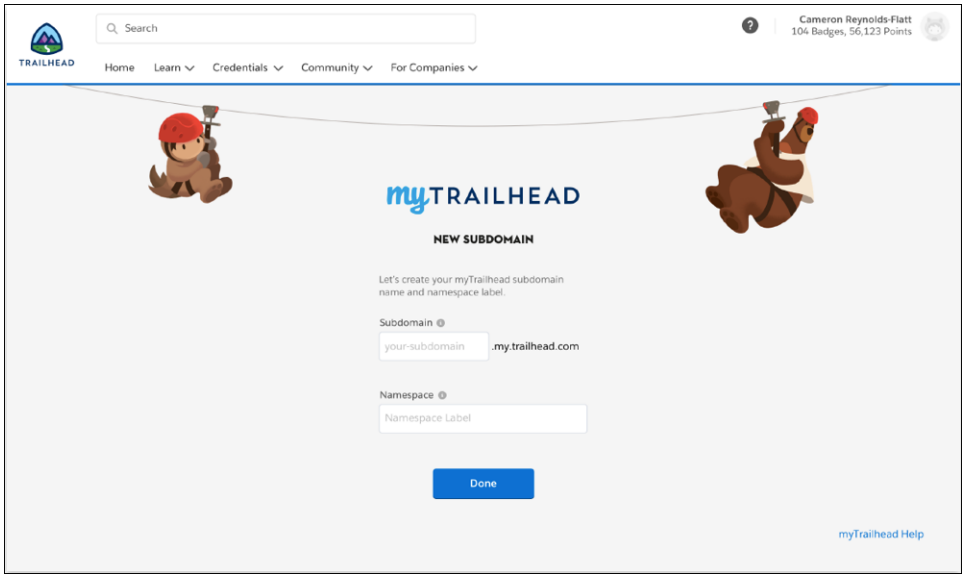
時期: この変更は、2020 年 1 月 に使用可能になります。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして myTrailhead サブドメインを設定できます。

方法: myTrailhead のお客様は、独自のサブドメイン (独自の myTrailhead Web サイト) を利用できます。サブドメイン内には名前空間があり、モジュールやトレイルをリリースにまとめることができます。新しいサブドメイン設定フローには、設定ページへのリンクが含まれていて、そこに Salesforce ユーザ名とパスワードでログインできます。



サブドメインと名前空間の名前を入力すれば完了です。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: myTrailhead で名前空間を使用する方法 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタマイズ: Lightning フローの機能強化、グローバリゼーションの改善、Einstein の更新

Flow Builder、フロー管理、およびプロセスビルダーの機能強化により、フローとプロセスをより効率的に作成します。翻訳、通貨、国際的な日時をより簡単に管理できます。Einstein 予測ビルダーと Einstein Next Best Action の更新を使用して、予測とおすすめを作成、設定、および管理します。

このセクションの内容:

Lightning フロー: 保存前更新、汎用 Apex アクション、システムコンテキスト、取引先責任者の役割、簡素化された設定

項目の更新を高速化するレコードトリガフローを作成します。開発者は任意のオブジェクトで Apex アクションを作成できます。システム権限を使用してフローを実行し、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権のみを適用します。取引先責任者の役割を使用してプロセスを自動化します。より効率的かつ容易にフローを作成します。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

グローバリゼーション: トランスレーションワークベンチの改善、右から左へ記述される言語のサポート、新規および更新されたロケール形式

更新されていない翻訳と未翻訳の値をエクスポートして、翻訳を常に最新の状態に維持します。右から左へ記述されるアラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語のフローがサポートされます。重要な更新で新しいおよび改善された国際日時形式を有効化し、このリリースでの International Components for Unicode (ICU) および Oracle の Java Development Kit (JDK) ロケール形式への変更に備えます。

Einstein 予測ビルダー:Einstein 予測ビルダーを試す、信頼済み AI ヘルプによる十分な情報に基づいた予測、検索条件に基づく予測の作成

最大 10 個の予測を作成し、追加費用なしでそのうちの 1 つを有効にできます。予測を作成するときに、バイアスの根源を特定するのに役立つ [信頼済み AI] サイドバータブを参照します。予測の質問が項目に適切に対応付けられていない場合は、代わりに検索条件に基づく予測を作成します。Einstein 予測コンポーネントをページレイアウトに追加して、個々のレコードの上位プレティクターを表示します。

Einstein Next Best Action: おすすめ戦略総計値の分析、任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成、おすすめが却下されたときのフローの起動

戦略とおすすめレベルの両方で総計値を分析します。組織に提供されたおすすめのうち、受け入れられた数と却下された数を確認します。任意の Salesforce オブジェクトのレコードからおすすめを宣言的に作成します。取引先、取引先責任者、商談、および商品からおすすめを提供します。ユーザからおすすめが却下されたときにフローを起動して、質問表を表示したり、自動化プロセスを実行したりします。

Lightning アプリケーションビルダー: モバイルのすべての機能強化、アプリケーションビルダーのガイダンス、ページ範囲内のコンポーネント収容量の増加

Lightning アプリケーションビルダー UI へのモバイル関連の機能強化と、アプリケーション内ガイダンスを介して提供されるヒントを使用して、デスクトップとモバイルでより適切かつ効率的な Lightning ページを設計します。1 つのページ範囲に最大 100 個のコンポーネントを含めます。

外部データ: 非公開接続パイロット、外部ログイン情報の暗号化の変更

非公開接続を使用して、公開インターネットにさらされることなくサードパーティサービスを Salesforce と統合できます。外部データログイン情報は、セキュリティを強化するために更新されたフレームワークで暗号化されるようになりました。

権限セットグループ: 権限付与の柔軟性の向上 (正式リリース)

権限セットグループは、ユーザグループに権限を一貫して確実に割り当てるための理想的な方法です。ユーザに複数の権限セットを割り当てるのではなく、単一の権限セットグループを割り当てることができます。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザの職務に必要なすべての権限を提供します。ミュート権限セット機能によってグループから個別の権限を削除することで、権限がユーザの職務を超えてしまわないように保証できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

共有: 外部組織の共有設定の機能強化

データのセキュリティを強化するため、外部共有モデルは、Spring '20 以降で作成されたすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になっており、無効にすることはできなくなりました。また、リードオブジェクトとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルを設定できるようになりました。

AppExchange: Trailblazer.me のサポート、拡張された Salesforce コンサルタントレビュー

Trailblazer.me アカウントを使用して、AppExchange でのインストール、サブスクリプション、設定を管理します。確認済みプロジェクトレビューと拡張コミュニティフィードバックを使用して、Salesforce コンサルタントの過去のパフォーマンスを確認します。

一般設定: カスタム設定の機能強化、拡張外部サービスとの接続の改善

カスタム設定にアクセスできるユーザの保護と制御を行います。拡張外部サービスを使用して外部サービスへのより適切な接続を作成します。

Lightning フロー: 保存前更新、汎用 Apex アクション、システムコンテキスト、取引先責任者の役割、簡素化された設定

項目の更新を高速化するレコードトリガフローを作成します。開発者は任意のオブジェクトでApexアクションを作成できます。システム権限を使用してフローを実行し、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権のみを適用します。取引先責任者の役割を使用してプロセスを自動化します。より効率的かつ容易にフローを作成します。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Essentials** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Flow Builder: 保存前更新のためのレコードトリガフロー、汎用 Apex アクション、フローを実行するためのシステムコンテキスト、簡素化された設定
自動起動フローを使用して、新規レコードまたは変更されたレコードの項目をすばやく更新します。開発者は、選択した任意のオブジェクトと連携する Apex アクションを作成できます。レコードレベルのアクセス権以外の実行ユーザの権限をスキップするように自動起動フローを設定します。より容易かつ効率的にフローを作成します。

Lightning フロー管理: クラウドフローデザイナの使用終了、重要な更新と改善、デスクトップ Flow Designer の終了
ランタイムが改善されました。クラウドフローデザイナとデスクトップ Flow Designer は廃止されます。

プロセスビルダー: 取引先責任者の役割、プラットフォームイベントの登録
取引先責任者の役割のビジネスプロセスを自動化します。また、プラットフォームイベントを登録しているプロセスを確認できます。

Flow Builder: 保存前更新のためのレコードトリガフロー、汎用 Apex アクション、フローを実行するためのシステムコンテキスト、簡素化された設定

自動起動フローを使用して、新規レコードまたは変更されたレコードの項目をすばやく更新します。開発者は、選択した任意のオブジェクトと連携する Apex アクションを作成できます。レコードレベルのアクセス権以外の実行ユーザの権限をスキップするように自動起動フローを設定します。より容易かつ効率的にフローを作成します。

このセクションの内容:

フロー内の保存前更新を使用した新規レコードと変更されたレコードの 10 倍速い更新
レコードの作成または更新により自動起動フローをトリガし、追加の更新をレコードに加えてからレコードをデータベースに保存することができるようになりました。フロー内の保存前更新は、他の使用可能なレコードトリガ更新よりもはるかに高速です。たとえば、フロー内の保存前更新は、プロセスビルダーで作成されたレコード変更プロセスでの更新よりも 10 倍高速です。レコード変更プロセスをフローに置き換えて、ユーザがレコードを保存するときにスピナーが表示される頻度を最小限にします。

変数を作成せずにアクションを設定し、レコード要素を作成

アクションまたは [レコードの作成] 要素をフローに追加すると、出力値が自動的に保存されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。Spring '20 より前に作成されたアクションおよび [レコードの作成] 要素には、この変更による影響はありません。

項目を選択せずに [レコードを取得] 要素を設定

フローに [レコードを取得] 要素を追加すると、必要な項目が自動的に保存されます。各項目を手動で選択する必要がなくなりましたが、手動で選択することもできます。Spring '20 より前に作成された [レコードを取得] 要素には、この変更による影響はありません。

Flow Builder からのフローの無効化

Flow Builder から離れずにフローを無効化できるようになりました。以前は、フローを無効化するにはフローの詳細ページを使用する必要がありました。

複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成

開発者は、汎用 sObject および List<sObject> データ型を使用する再利用可能な Apex アクションを作成できるようになりました。オブジェクトごとに 1 つのアクションを作成するのではなく、複数のオブジェクトで機能する 1 つのアクションを作成できます。取引先や取引先責任者からカスタムオブジェクトまで、レコードのコレクションで機能する検索条件または並び替えアクションを作成できます。以前は、汎用データ型がサポートされていなかったため、開発者は呼び出し可能なアクション内で多態的な Apex 構造を使用できませんでした。

システムモードを使用してユーザ権限に関係なくフローを実行

通常、フローの起動方法によって、フローがユーザまたはシステムのどちらのコンテキストで実行されるかが決まります。共有とシステムコンテキストでフローを実行するよう設定することで、実行ユーザの権限をスキップできるようになりました。フローには引き続き組織の共有設定、ロール階層、共有ルール、手動共有、チーム、およびテリトリーが適用されますが、オブジェクト権限、項目レベルのアクセス、または実行ユーザの他の権限は無視されます。

ワンクリックでレコード変数から関連レコード値を選択

矢印ナビゲーションを使用して、関連レコードから別の関連レコードに移動します。元のレコード変数のリレーションレベルの値を最大 10 個選択します。

画面エディタを離れずに新しく作成した画面項目を参照

画面項目を作成し、それらを参照してコンポーネントの表示を設定したり、入力を検証したり、同時に別の画面項目のヘルプを提供したりできるようになりました。以前は、新しく作成した画面項目を参照するには、画面エディタを終了して再度開く必要がありました。

キーボードショートカットを使用した Flow Builder での作業効率の向上

Flow Builder で使用可能なキーボードショートカットのリストを表示できるようになりました。また、新しいキーボードショートカットを使用すると、パネル間でフォーカスを切り替えることができます。

マネージャーツールボックスで API 参照名、表示ラベル、または説明を使用してリソースをすばやく検索

API 参照名、表示ラベル、または説明を使用してリソースを検索できるようになりました。以前は、マネージャーツールボックスの検索機能では、API 参照名のみがサポートされていました。

アクションを分類してシステム管理者がアクションを容易に見つけることができるようにする

開発者は、アクション用のカテゴリを作成して、呼び出し可能なカスタムアクションをシステム管理者がより容易に見つけられるようにすることができます。`category` パラメータをアクションに追加したら、システム管理者が Flow Builder でフローを作成するときに、新しいカテゴリと、関連付けられたアクションが表示されます。

フロー内の保存前更新を使用した新規レコードと変更されたレコードの 10 倍速い更新

レコードの作成または更新により自動起動フローをトリガし、追加の更新をレコードに加えてからレコードをデータベースに保存することができるようになりました。フロー内の保存前更新は、他の使用可能なレコードトリガ更新よりもはるかに高速です。たとえば、フロー内の保存前更新は、プロセスビルダーで作成されたレコード変更プロセスでの更新よりも 10 倍高速です。レコード変更プロセスをフローに置き換えて、ユーザがレコードを保存するときにスピナーが表示される頻度を最小限にします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 保存前更新を実行するフローを有効化するには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

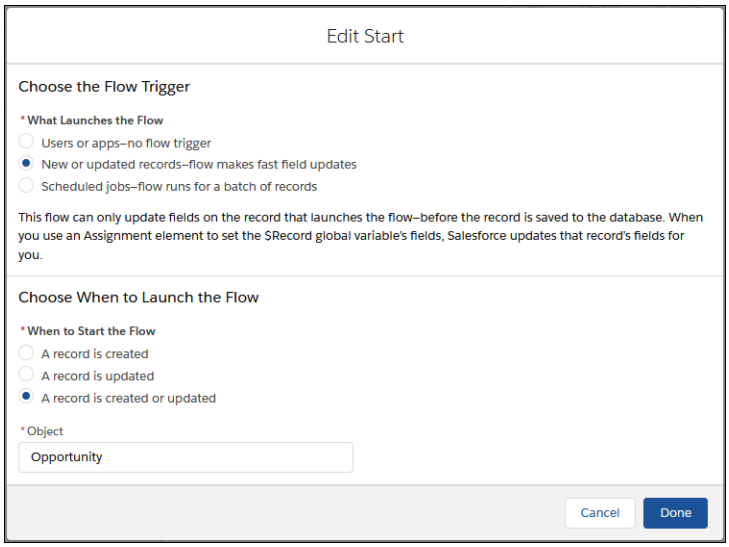
理由: おそらく、プロセスビルダーに精通したユーザは、レコード変更プロセスを使用して、プロセスをトリガする各レコードに追加の更新を加えます。このようなプロセスでは、新しいケースレコードごとに [範囲] カスタム項目が自動的に設定される可能性があります。フロー内の保存前更新では、同じ目的をより短時間で達成できます。各レコードがデータベースに再度保存されないためです。この追加の保存手順を回避することで、実行に時間のかかる割り当てルール、自動レスポンスルール、ワークフロールール、および他のカスタマイズの再実行もスキップされます。

おそらく Apex トリガには慣れているでしょう。保存前更新を実行するフローは `before` トリガに似ています。前述のレコード変更プロセスは `after` トリガに似ています。保存手順で、フロー内の保存前更新は Apex `before` トリガの直前に実行されます。

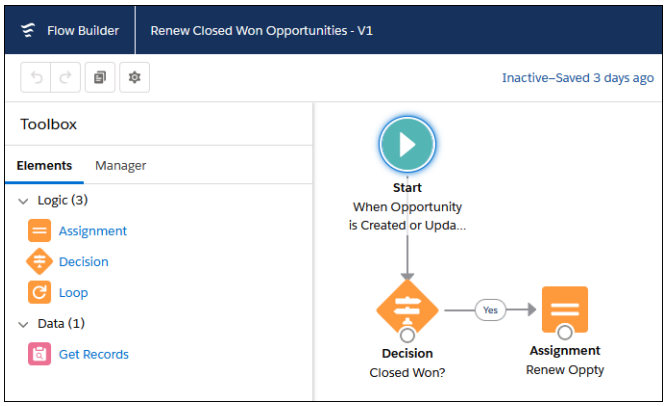
このスピードのため、フロー内で保存前更新を使用して、新規または変更されたレコードの項目を更新することをお勧めします。Apex コードとレコード変更プロセスをフロー内の保存前更新に置き換えることで、Salesforce サーバの最大 CPU 時間の制限を回避することもできます。ただし、次の目的では、レコード変更プロセスまたは Apex `after` トリガの使用が必要になる場合があります。

- 最終更新日項目や新規レコードの ID など、レコードの保存後にのみ設定される項目値にアクセスする。
- 関連レコードを作成または更新する。
- フローを起動するレコードの更新以外のアクションを実行する。

方法: 自動起動フローを作成して、[開始] 要素を開きます。[フローを起動するもの] で [新規または更新済みのレコード—フローによって項目の更新が高速になります] を選択します。



保存前更新を実行するフローの場合、Flow Builder ツールボックスでは、[割り当て]、[決定]、[レコードの取得]、および [ループ] の 4 つの要素のみが提供されます。



フロー内の `$Record` グローバル変数にはレコード値が含まれます。[割り当て] 要素を使用してこの値を更新し、Salesforce で残りを処理します。変数を作成したり、[レコードを更新] 要素をフローに追加したりする必要はありません。

関連トピック:

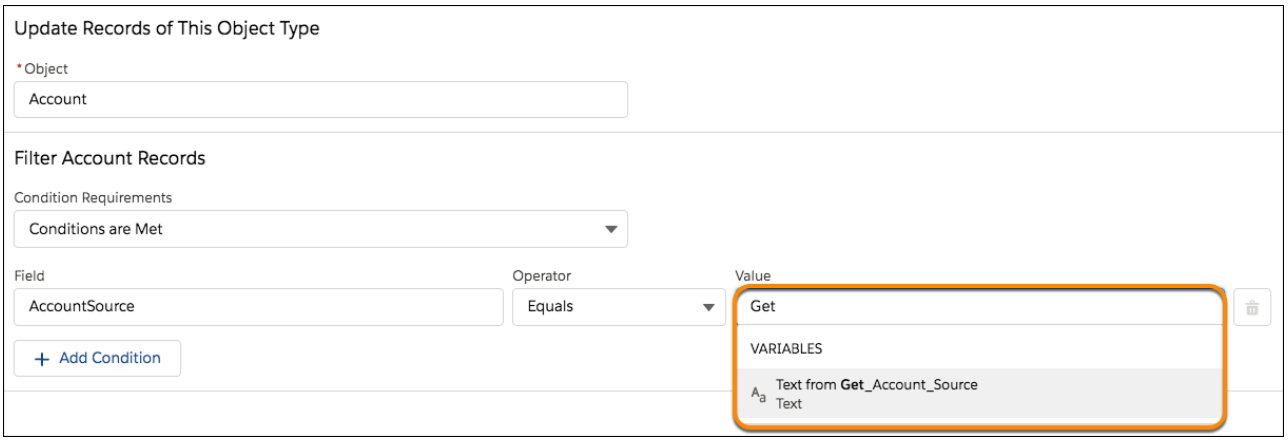
- *Salesforce ヘルプ*: フロー要素: 割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: フローのリソース: グローバル変数 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Apex 開発者ガイド*: トリガと実行順序

変数を作成せずにアクションを設定し、レコード要素を作成

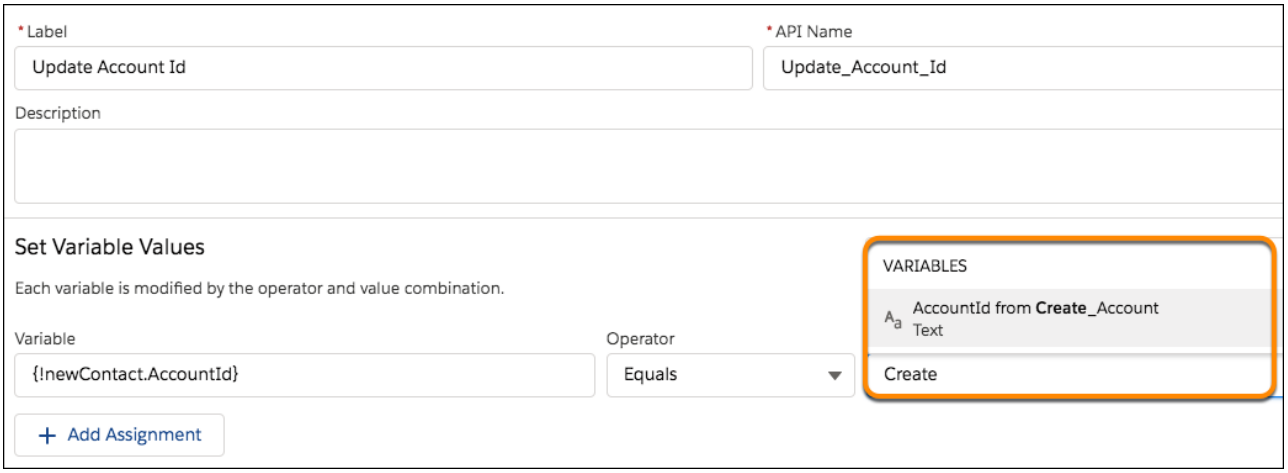
アクションまたは[レコードの作成]要素をフローに追加すると、出力値が自動的に保存されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。Spring '20 より前に作成されたアクションおよび [レコードの作成] 要素には、この変更による影響はありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 変数をサポートする項目を定義すると、自動的に保存された出力がフローの他の変数と同様に使用可能なオプションとして表示されます。フローの後半で、要素の API 参照名を入力することで、アクション要素で返される値にアクセスできます。



[レコードの作成] 要素からのレコード ID を後でフローで使用するには、要素の API 名を入力します。



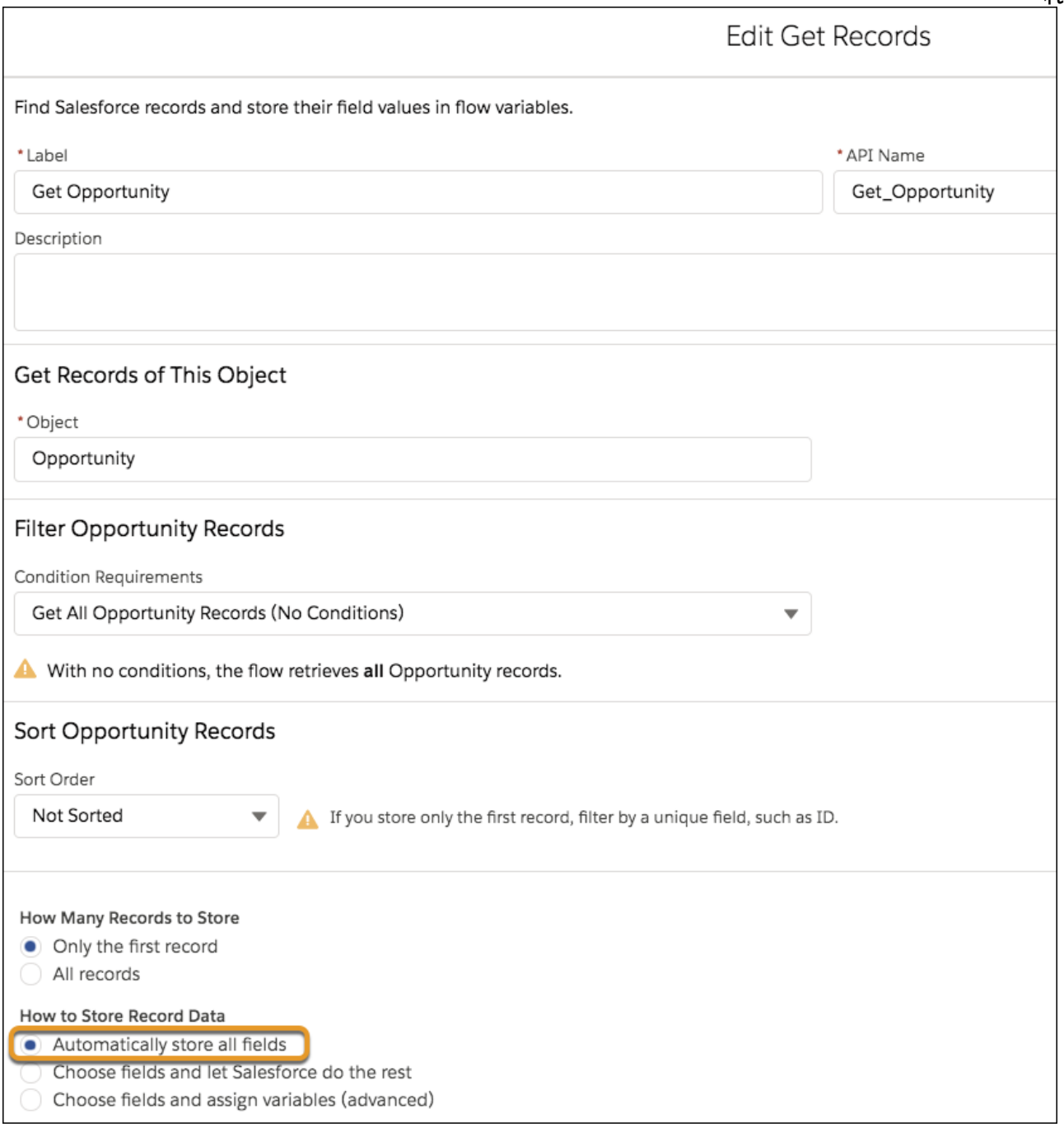
自動的に作成された変数を使用しない場合は、[手動割り当て変数 (詳細)] を選択してください。

項目を選択せずに [レコードを取得] 要素を設定

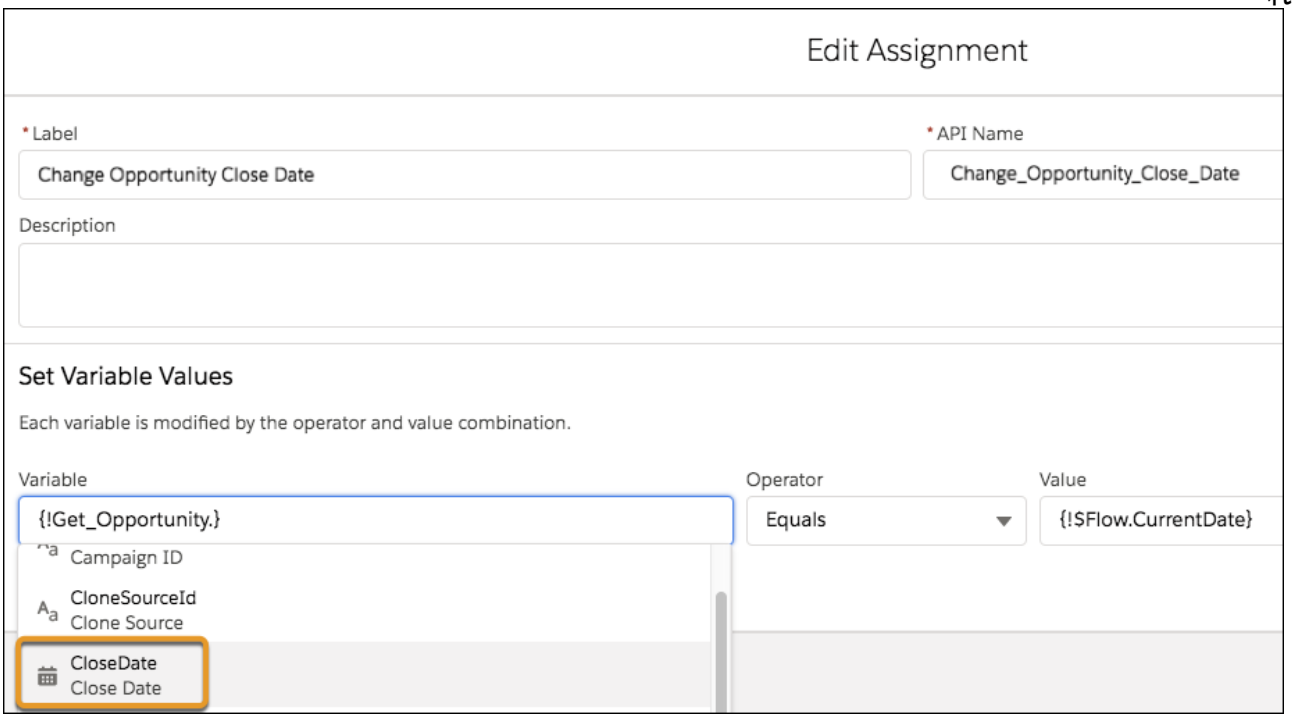
フローに [レコードを取得] 要素を追加すると、必要な項目が自動的に保存されます。各項目を手動で選択する必要がなくなりましたが、手動で選択することもできます。Spring '20 より前に作成された [レコードを取得] 要素には、この変更による影響はありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [レコードを取得] 要素を作成するときにすべての項目を自動的に保存して、フローに作業を任せます。



[レコードを取得] 要素からの項目を参照するには、要素の API 参照名を入力し、項目を選択します。



関連トピック:

IdeaExchange: Save-All-Fields Option in Fast Lookup in Flow (フローの高速検索でのすべての項目の保存オプション)

IdeaExchange: Read into sObject Variable Directly in the Flow (フローでの sObject 変数の直接参照)

IdeaExchange: Flow Editor—Limit Selection of Object Fields to Those Actually Available (フローエディタ — 実際に使用可能なものにオブジェクト項目の選択を制限)

IdeaExchange: Include a "Select All" Option for sObject Fields in Flow (sObject 項目の [すべて選択] オプションをフローに含める)

Flow Builder からのフローの無効化

Flow Builder から離れずにフローを無効化できるようになりました。以前は、フローを無効化するにはフローの詳細ページを使用する必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ボタンバーで新しい [無効化] ボタン (1) をクリックします。開いているフローの有効化状況はボタンの左側 (2) で確認できます。

複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成

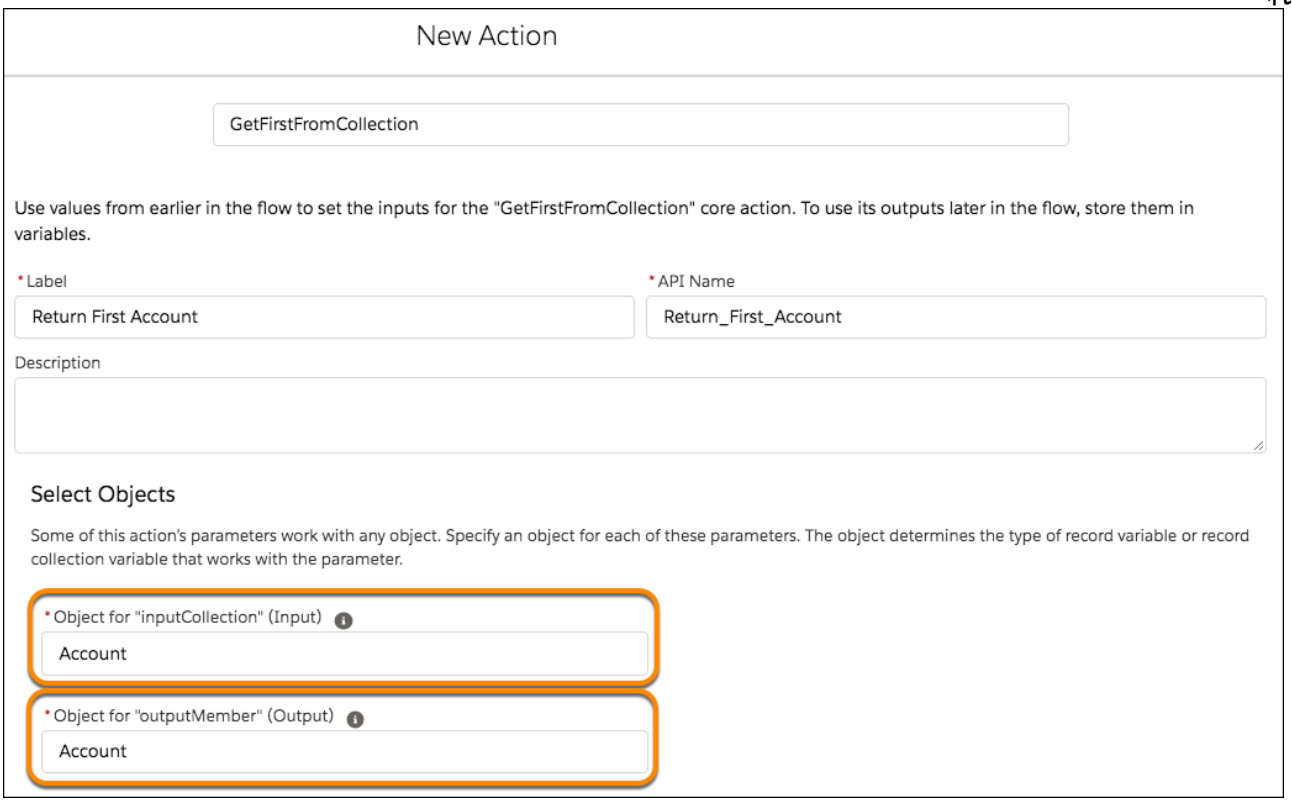
開発者は、汎用 sObject および List<sObject> データ型を使用する再利用可能な Apex アクションを作成できるようになりました。オブジェクトごとに1つのアクションを作成するのではなく、複数のオブジェクトで機能する1つのアクションを作成できます。取引先や取引先責任者からカスタムオブジェクトまで、レコードのコレクションで機能する検索条件または並び替えアクションを作成できます。以前は、汎用データ型がサポートされていなかったため、開発者は呼び出し可能なアクション内で多態的な Apex 構造を使用できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: カスタムアクションを作成するか、既存のアクションを編集します。呼び出し可能なメソッドおよび属性で `sObject` または `List<sObject>` データ型を使用します。

```
public with sharing class GetFirstFromCollection {

    @InvocableMethod
    public static List <Results> execute (List<Requests> requestList) {

        List<SObject> inputCollection = requestList[0].inputCollection;

        SObject outputMember = inputCollection[0];

        //Create a Results object to hold the return values
        Results response = new Results();

        //Add the return values to the Results object
        response.outputMember = outputMember;

        //Wrap the Results object in a List container
        //(an extra step added to allow this interface to also support bulkification)
        List<Results> responseWrapper= new List<Results>();
        responseWrapper.add(response);
        return responseWrapper;
    }

    public class Requests {

      @InvocableVariable(required=true)
      public List<SObject> inputCollection;
    }

    public class Results {

      @InvocableVariable
      public SObject outputMember;
    }
}
```

以前は、この例のクラスを取引先、取引先責任者、または myCustomObject__c オブジェクトに関連付けていました。今回のリリースでは、開発者が 1 つのアクションを作成し、Flow Builder 管理者はそのアクションを使用するたびにオブジェクトを選択します。



関連トピック:

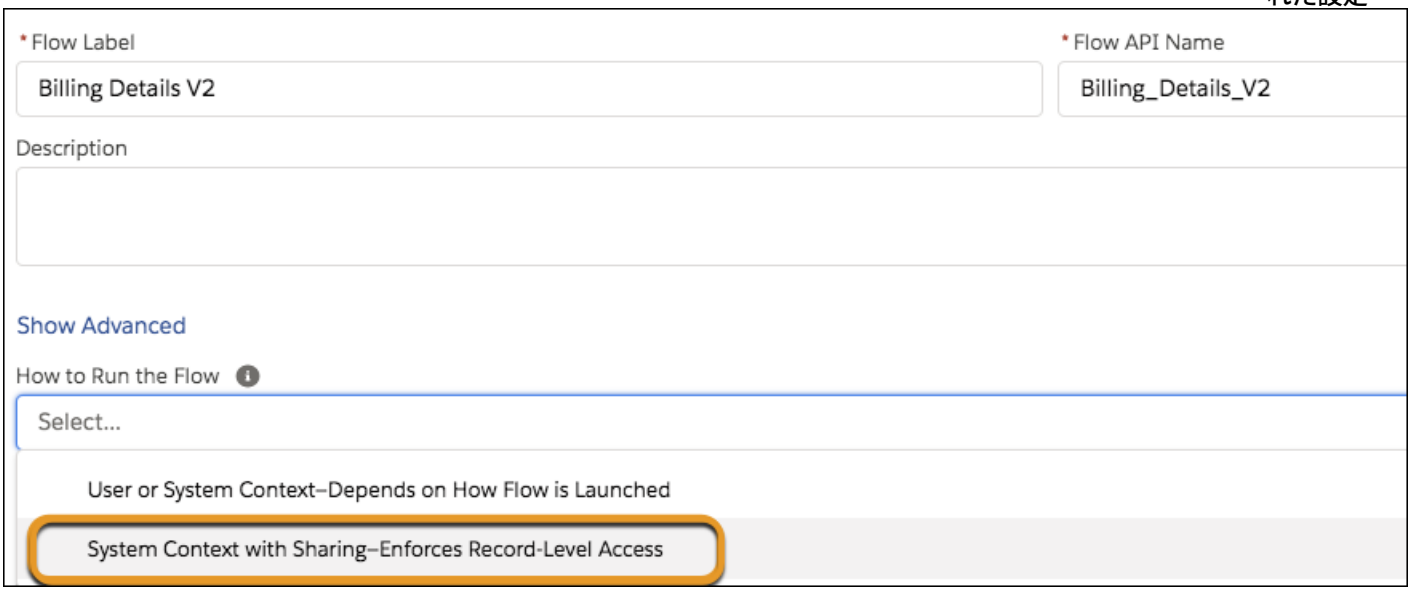
- 呼び出し可能なメソッドおよび呼び出し可能な変数での汎用 sObject データ型の使用
- *IdeaExchange*: Support for sObject Collection Variables in Invocable Methods for Flows (フローの呼び出し可能なメソッドでの sObject コレクション変数のサポート)

システムモードを使用してユーザ権限に関係なくフローを実行

通常、フローの起動方法によって、フローがユーザまたはシステムのどちらのコンテキストで実行されるかが決まります。共有とシステムコンテキストでフローを実行するよう設定することで、実行ユーザの権限をスキップできるようになりました。フローには引き続き組織の共有設定、ロール階層、共有ルール、手動共有、チーム、およびテリトリーが適用されますが、オブジェクト権限、項目レベルのアクセス、または実行ユーザの他の権限は無視されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローを保存するときに [詳細を表示] をクリックします。[フローの実行方法] で *[システムコンテキストと共有–レコードレベルのアクセス権を適用]* を選択します。



既存のフローバージョンで同じオプションを選択するには、 アイコンをクリックします。

関連トピック:

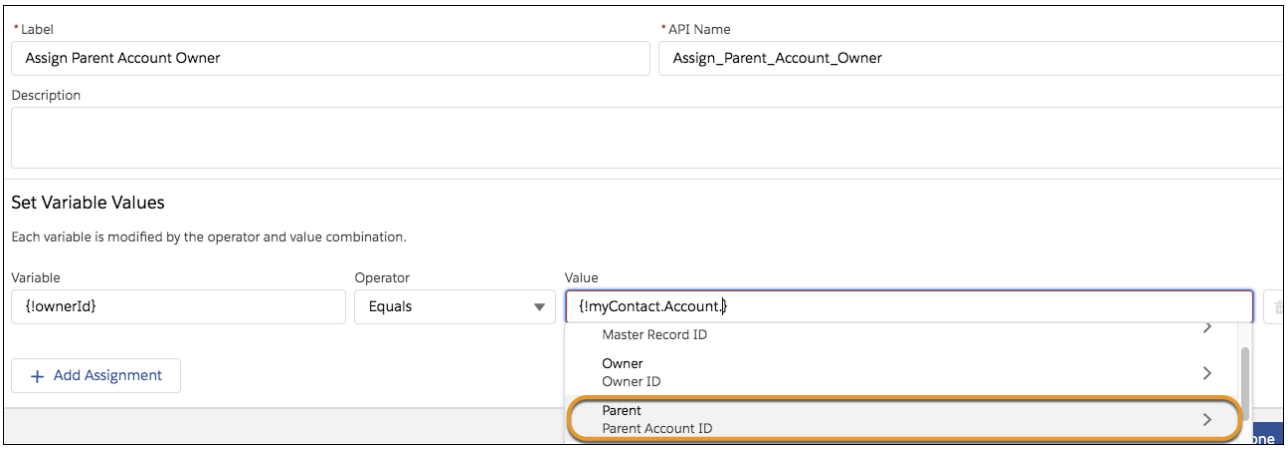
IdeaExchange: Flow: ability to choose if your Flow will run in System or As Running User (フロー: フローをシステムで実行するか実行ユーザとして実行するかの選択)

ワンクリックでレコード変数から関連レコード値を選択

矢印ナビゲーションを使用して、関連レコードから別の関連レコードに移動します。元のレコード変数のリレーションレベルの値を最大 10 個選択します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: をクリックすると関連レコードに移動するようになりました。以前は、レコード変数からの関連レコードの値の選択は手動プロセスでした。`myContact` という取引先責任者レコード変数から親取引先所有者を選択する場合、明示的に `{!myContact.Account.Parent.OwnerId}` と入力する必要がありました。

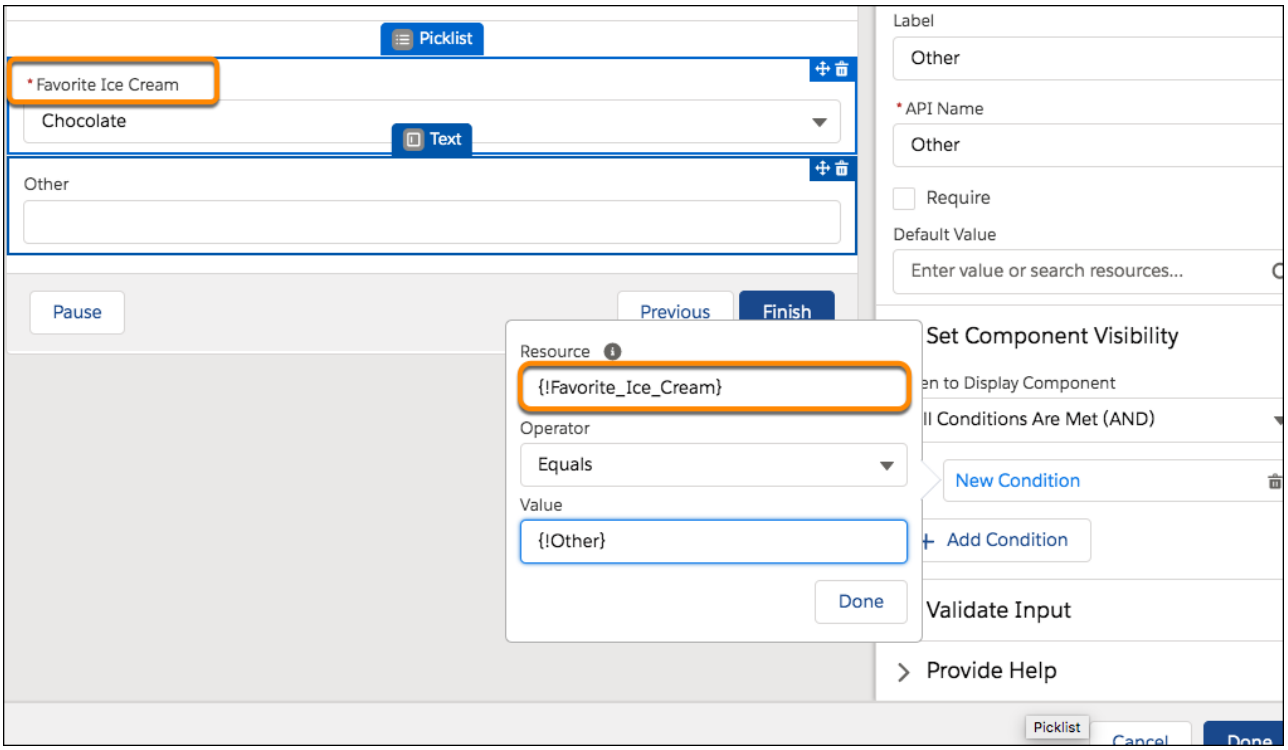


画面エディタを離れずに新しく作成した画面項目を参照

画面項目を作成し、それらを参照してコンポーネントの表示を設定したり、入力を検証したり、同時に別の画面項目のヘルプを提供したりできるようになりました。以前は、新しく作成した画面項目を参照するには、画面エディタを終了して再度開く必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 選択リスト画面項目を作成し、ユーザにお気に入りのアイスクリームフレーバーを選択するように要求するとします。ユーザが選択リストから `[Other (その他)]` を選択した場合は、テキスト画面項目を使用してユーザがフレーバーを手動で入力できるようにします。画面エディタを離れずに両方の画面項目をすばやく作成します。



関連トピック:

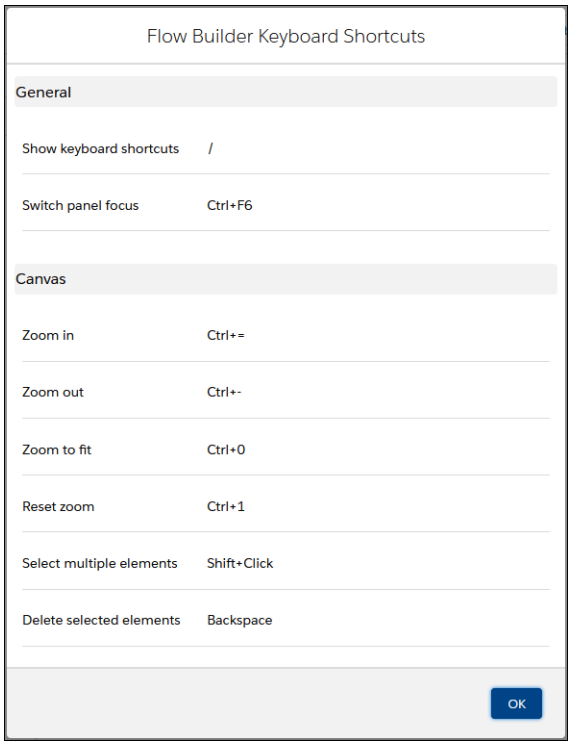
IdeaExchange: Save While Inside Screen Element of Flow Builder (フロービルダーの画面要素内での保存)

キーボードショートカットを使用した Flow Builder での作業効率の向上

Flow Builder で使用可能なキーボードショートカットのリストを表示できるようになりました。また、新しいキーボードショートカットを使用すると、パネル間でフォーカスを切り替えることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 使用可能なキーボードショートカットを表示するには、キャンバス上の任意の場所をクリックしてスラッシュキー (/) を押します。



パネルを行き過ぎてパネルのフォーカスを逆方向に切り替えるには、Shift+F6 キーを押します。

関連トピック:

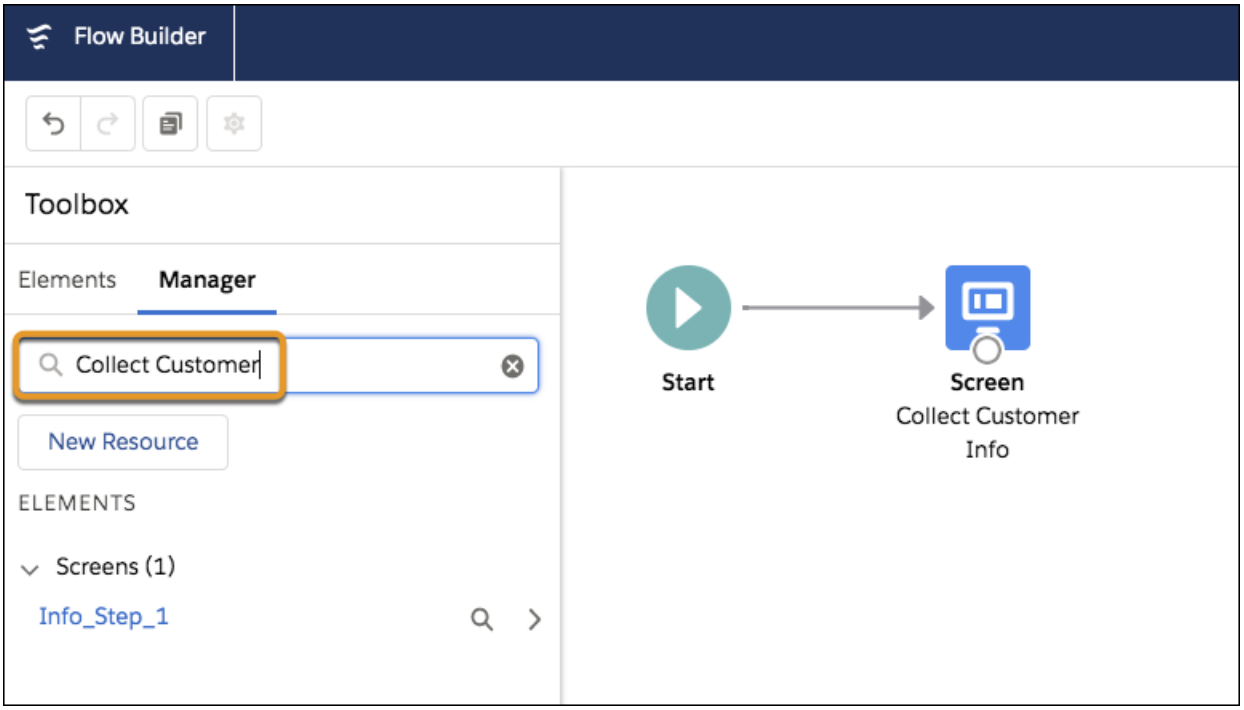
Salesforce ヘルプ: Flow Builder (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マネージャーツールボックスで API 参照名、表示ラベル、または説明を使用してリソースをすばやく検索

API 参照名、表示ラベル、または説明を使用してリソースを検索できるようになりました。以前は、マネージャーツールボックスの検索機能では、API 参照名のみがサポートされていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [クイック検索] に検索するテキストを入力します。リストは、API 参照名、表示ラベル、または説明が検索テキストに一致する要素とリソースに絞り込まれます。



関連トピック:

IdeaExchange: Flow Builder - Search by Labels (Flow Builder - 表示ラベルで検索)

アクションを分類してシステム管理者がアクションを容易に見つけることができるようにする

開発者は、アクション用のカテゴリを作成して、呼び出し可能なカスタムアクションをシステム管理者がより容易に見つけられるようにすることができます。`category` パラメータをアクションに追加したら、システム管理者が Flow Builder でフローを作成するときに、新しいカテゴリと、関連付けられたアクションが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

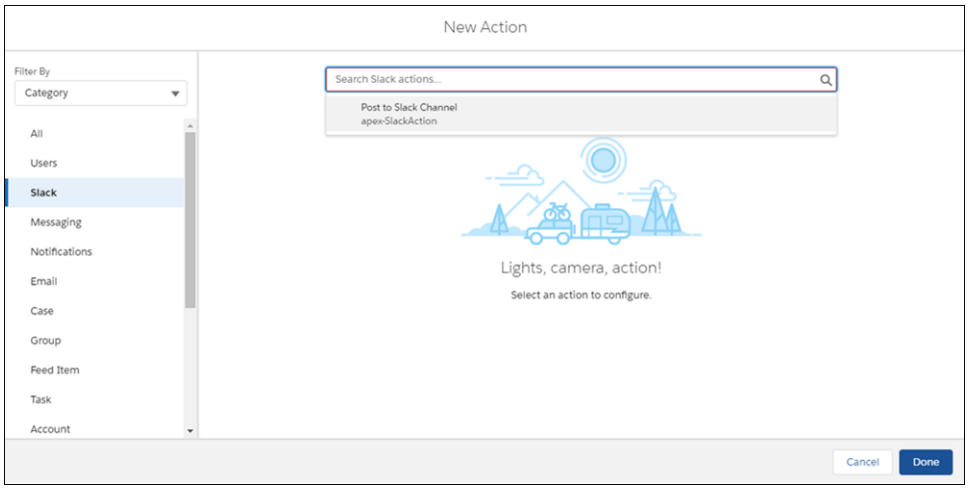
理由: カテゴリを作成し、任意の名前を付けられるようになりました。カスタムアクションを使用している場合、カテゴリによってすばやく簡単にアクションを参照し、適切なアクションを見つけることができます。ほとんどの標準アクション ([Chatter に投稿]、[承認申請] など) に対して Salesforce は基本カテゴリ ([承認]、[メッセージング]、[メール]、[商談] など) を提供します。カテゴリのないカスタムアクションは [未カテゴリ] カテゴリの下にあります。

方法: カスタムアクションを作成するか、既存のアクションを編集します。新しい `category` パラメータをアクションの `InvocableMethod` アノテーションに追加します。追加した場所で `label` パラメータと `description` パラメータも指定します。

```
public class SlackAction {
   @invocableMethod(
       label='Post to Slack Channel'
       description='Enter the name of the Slack channel you wish to post to.'
```

```
        category='Slack')
    public static void postToSlackChannel(List<String> channelName){
            // logic
    }
}
```

これで、システム管理者はアクションフロー要素を使用してフローを作成するときに[検索条件]の下で新しいカテゴリを選択し、関連付けられたアクションを容易に見つけることができます。



既存のカテゴリ ([ユーザ] など) を指定した場合、Salesforce はそのカテゴリにアクションを追加します。

関連トピック:

REST API

Lightning フロー管理: クラウドフローデザイナの使用終了、重要な更新と改善、デスクトップ Flow Designer の終了

ランタイムが改善されました。クラウドフローデザイナとデスクトップ Flow Designer は廃止されます。

このセクションの内容:

クラウドフローデザイナの使用終了

クラウドフローデザイナは、より効率的かつ高速な Flow Builder で置き換えられました。

より効率的なレコード更新処理を使用して制限に達する回数を減少

重複するレコード更新がエンジンにより自動的に削除されるようになりました。同じ要求によって重複レコード制限に達することを心配せずに、プロセスとフローを作成します。以前は、プロセスまたはフローで複数の子レコードから親レコードが更新された場合、重複する更新要求が実行されることがありました。この重複により、1つのバッチ内の重複するレコード更新数の最大数である12を超えることがありました。たとえば、13人の取引先責任者に対して `Account.Email` の更新が実行された場合、対応する13個の更新が生成され、重複レコードの制限を超えます。

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (重要な更新)

この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードにアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮重要な更新 (重要な更新)

この重要な更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新、適用済み)

「呼び出し可能なアクションの部分的保存の有効化」は、Winter '20 では重要な更新であり、2020 年 4 月 9 日の Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新、適用済み)

「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は、Spring '19 では重要な更新であり、2020 年 2 月 18 日の Spring '20 で適用されます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

プロセスおよびフローの数式からの有効な HTML 出力の生成 (重要な更新、廃止)

この重要な更新は Spring '20 でリリースされ、廃止されました。使用可能だった短期間内にこの重要な更新を有効化した場合にのみ、Salesforce 組織にこの変更が影響します。また、この重要な更新に備えて数式の HTML を変更した場合、この廃止が組織に影響します。

プロセスおよびフローで失敗したアクションから成功したレコードの変更をバッチで保存

プロセスおよびフローでは、部分的保存をサポートするアクションが失敗した場合に、成功したレコードの変更を保存できるようになりました。以前は、アクションでバッチ内の 1 つのレコードの保存に失敗すると、バッチ全体がロールバックされていました。保存に失敗したレコードのみがロールバックされるようになりました。

デスクトップ Flow Designer の廃止

廃止されたデスクトップ Flow Designer で作成されたフローが Salesforce 組織にまだ含まれる場合、そのフローを削除することをお勧めします。フローを削除する前に、フローバージョンの詳細ページから各フローバージョンをダウンロードできます。次に、Flow Builder でフローを再作成します。

クラウドフローデザイナの使用終了

クラウドフローデザイナは、より効率的かつ高速な Flow Builder で置き換えられました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Summer '19 リリースノート: クラウドフローデザイナが Flow Builder に置き換わる

Salesforce ヘルプ: Flow Builder

Trailhead: Flow Builder を使用したフローの作成

より効率的なレコード更新処理を使用して制限に達する回数を減少

重複するレコード更新がエンジンにより自動的に削除されるようになりました。同じ要求によって重複レコード制限に達することを心配せずに、プロセスとフローを作成します。以前は、プロセスまたはフローで複数の子レコードから親レコードが更新された場合、重複する更新要求が実行されることがありました。この重複により、1つのバッチ内の重複するレコード更新数の最大数である12を超えることがありました。たとえば、13人の取引先責任者に対して `Account.Email` の更新が実行された場合、対応する13個の更新が生成され、重複レコードの制限を超えます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: トランザクション単位のフローの制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (重要な更新)

この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードにアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、2020 年 8 月 31 日に自動的に有効になります。

理由: この更新を有効にすると、フロー数式は実行ユーザのオブジェクト権限、項目レベルのアクセス権、およびレコードレベルのアクセス権 (共有ルールなど) に従います。

たとえば、ケース所有者以外のすべてのユーザのケースを参照のみに設定している組織について考えてみます。

この更新が有効になっていない場合、ケース所有者でないユーザが、数式を介してケースを更新するフローを実行すると、フローインタビューはレコードレベルのセキュリティを無視してケースを更新します。

この更新を有効にすると、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権が適用されるため、フローインタビューはケースを更新できません。

方法: この更新は、事前に Sandbox 組織でテストしてから本番組織で有効化することをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [フロー数式でデータアクセス権を適用] の [有効化] をクリックします。
3. 数式を使用してオブジェクトレベルのセキュリティ、項目レベルのセキュリティ、またはレコードレベルのセキュリティを持つレコードにアクセスするすべてのフローパスをテストします。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮重要な更新 (重要な更新)

この重要な更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この更新では、従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子がフローで考慮されないという問題が解決されます。この問題は、管理パッケージからインストールされた Apex クラスを参照する従来の Apex アクションにのみ影響します。

従来の Apex アクションは Apex プラグインと呼ばれていました。組織に `Process.Plugin` インターフェースを実装する Apex クラスを定義すると、Flow Builder で従来の Apex アクションとして使用できます。

メモ: 新しい Apex インテグレーションでは、`Process.Plugin` インターフェースではなく `InvocableMethod` アノテーションを使用することをお勧めします。この更新は呼び出し可能な Apex メソッドには影響しません。

この更新を有効にした場合、次のようになります。

- フローは従来の Apex 公開アクションを実行したときに失敗します。
- 従来の Apex 公開アクションは Flow Builder では使用できません。
- `describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できません。

この更新が有効になっていない場合、従来の Apex 公開アクションは、サポートされていなくてもフローに追加できます。また、`describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できます。

時期: この重要な更新は、2020 年 8 月 15 日に自動的に有効になります。

方法: この更新を Sandbox または開発者組織でテストしてから、本番で有効にすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。従来の Apex アクション要素を含むすべてのパスをテストして、フローが適切に機能することを確認します。ビジネスプロセスにとって重要な従来の Apex アクションがこの更新でサポートされない場合は、パッケージ開発者にお問い合わせください。開春者は、従来の Apex アクションをグローバルにするか、新しい Apex クラスで機能を再作成することを考慮することができます。

この更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮] で [有効化] をクリックします。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価(以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、2020 年 6 月 30 日に自動的に有効になります。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。[プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価] で、[承認] をクリックします。

[レコードに指定の変更が行われた場合にのみアクションを実行しますか?] オプションが選択されているプロセスがある場合、または条件で `ISCHANGED()` 関数を使用している場合、この更新によってプロセスが異なって動作する可能性があります。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新、適用済み)

「呼び出し可能なアクションの部分的保存の有効化」は、Winter '20 では重要な更新であり、2020 年 4 月 9 日の Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この重要な更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能なアクションがエラーになると、同じトランザクションの他の呼び出し可能なアクションがロールバックされます。この重要な更新を適用すると、Salesforce は正常に実行された呼び出し可能なアクションの実行を3回試行し、実行に失敗した呼び出し可能なアクションのみをロールバックします。この機能は「部分的保存」と呼ばれます。

REST API で呼び出されるほとんどの呼び出し可能なアクション種別は、この部分的保存機能に対応しています。ただし、この重要な更新を適用しても、以下のアクション種別は部分的保存機能をサポートしません。

- 履行注文をキャンセル
- 解約注文

- 資金をキャプチャ
- コンテンツワークスペース
- 履行注文を作成
- 履行注文から請求書を作成
- サービスレポートを作成
- 外部サービス
- 作業指示を生成
- 呼び出し可能な Apex
- スキルベースのルーティング
- デジタルフォームの回答を登録

部分的保存により、外部コールアウトが複数回発生して、それらの外部コールアウトがロールバックできなくなる場合があります。外部コールアウトが繰り返されるのは、フローがプロセスから開始されるか、または REST API から呼び出され、そのフローが外部コールアウトを伴うアクションを複数回実行しようとしている場合のみです。

部分的保存により、アクションの実行が複数回試行されるため、トランザクションに予想より時間がかかることがあります。これにより、組織が予想より早く制限に達してしまう場合があります。

時期: この重要な更新は、2020 年 4 月 9 日に自動的に有効になります。その日の前、または本番組織でこの重要な更新を有効化する前に、Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストを実行し、お使いの呼び出し可能なアクションが正しく機能することを確認しておくことをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[呼び出し可能なアクションの部分的な保存の有効化] で [有効化] をクリックします。

呼び出し可能なアクションを使用する API インテグレーションが部分的な保存の動作に適切に対応していることを確認します。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新、適用済み)

「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は、Spring '19 では重要な更新であり、2020 年 2 月 18 日の Spring '20 で適用されます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由:プロセスおよびフローで、数式はレコード変数や参照関係項目を介してレコードの項目を参照できます。実行時に、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で null が返されることがあります。それ以外の場合は、未対応の例外が返されます。この更新により、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で常に null 値が返されるようになります。この更新は差し込み項目には影響しません。

たとえば、取引先を更新すると、プロセスが開始され、アクションを実行する前に条件がチェックされます。条件には、取引先の [親取引先] 項目を介して親取引先の名前を参照する数式が含まれています。[親取引先] 項目は参照関係項目です (`[Account].Parent.Name`)。

参照関係項目の値が null の場合、数式で null が返されます。この更新を行わないと、数式で null ではなく未対応の例外が返されることがあります。

時期: この重要な更新は、2020 年 2 月 18 日に自動的に有効になります。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。重要な更新「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」の詳細を確認し、[有効化] をクリックします。参照関係項目やレコード変数項目を参照するすべてのプロセスおよびフローの数式をテストします。プロセスの場合、条件やアクションに数式があります。フローの場合、リソースや入力コンポーネントの入力規則に数式があります。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート
- *Summer'19 リリースノート*: フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化 (重要な更新)

プロセスおよびフローの数式からの有効な HTML 出力の生成 (重要な更新、廃止)

この重要な更新は Spring '20 でリリースされ、廃止されました。使用可能だった短期間内にこの重要な更新を有効化した場合にのみ、Salesforce 組織にこの変更が影響します。また、この重要な更新に備えて数式の HTML を変更した場合、この廃止が組織に影響します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は廃止されたため、2020 年 2 月 5 日以降、Spring '20 では重要な更新コンソールに表示されなくなります。

理由: この更新の目的は、実行時にプロセスおよびフロー内のレコード変数の数式リソースと数式項目で適切な HTML 出力を生成することでした。ただし、この重要な更新を有効にすると、数式項目を値として使用した

場合に予期せぬ結果が発生しました。たとえば、メールアクションのメールアドレスなど、数式値をアクションに入力として渡すと、HTML 出力により問題が発生しました、

方法:重要な更新の有効化前の動作に戻すには、更新に応じて加えたすべての変更を元に戻します。たとえば、HTML 書式設定を削除した場合はその書式設定を元に戻します。

Salesforce は、プロセスとフロー内の数式から有効な HTML 出力を生成するための戦略を引き続き評価しています。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

プロセスおよびフローで失敗したアクションから成功したレコードの変更をバッチで保存

プロセスおよびフローでは、部分的保存をサポートするアクションが失敗した場合に、成功したレコードの変更を保存できるようになりました。以前は、アクションでバッチ内の 1 つのレコードの保存に失敗すると、バッチ全体がロールバックされていました。保存に失敗したレコードのみがロールバックされるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プロセスまたはフローからアクションを実行している間にエラーが発生した場合、Salesforce はバッチ内で成功したレコードの変更をすべて保存しようとします。

プロセスおよびフロー内のエラーは、関連付けられたアクションが「オールオアナッシング」ルールに従っているかどうかに応じて異なる方法で処理されます。

- 「オールオアナッシング」ルールに従うアクションが原因でレコードの保存に失敗した場合、トランザクション全体がロールバックされます。
- 部分的保存を使用するアクションが原因でレコードの保存に失敗した場合、一括操作の残りのアクションが最大 3 回試行されます。

プロセスおよびフローのアクションからバッチ内のレコードがどのように保存されるかについての概要を次に示します。

プロセスビルダーのアクション	レコードの保存方法
Apex	コードによって異なる
レコードを作成	部分的な保存
メールアラート	オールオアナッシング
フロー ([レコードの作成] 要素と [レコードを更新] 要素のみ)	部分的な保存
フロー (他の要素)	オールオアナッシング
Chatter に投稿	オールオアナッシング
プロセス	部分的な保存

プロセスビルダーのアクション	レコードの保存方法
クイックアクション	オールオアナッシング
Quip	オールオアナッシング
カスタム通知を送信	オールオアナッシング
承認申請	オールオアナッシング
レコードを更新	部分的な保存

Flow Builder のアクション	レコードの保存方法
Apex アクション	コードによって異なる
メールアラート	オールオアナッシング
Chatter に投稿	オールオアナッシング
クイックアクション	オールオアナッシング
カスタム通知を送信	オールオアナッシング
承認申請	オールオアナッシング
サブフロー	部分的な保存
レコードの作成	部分的な保存
レコードを更新	部分的な保存
フロー (他の要素)	オールオアナッシング

デスクトップ Flow Designer の廃止

廃止されたデスクトップ Flow Designer で作成されたフローが Salesforce 組織にまだ含まれる場合、そのフローを削除することをお勧めします。フローを削除する前に、フローバージョンの詳細ページから各フローバージョンをダウンロードできます。次に、Flow Builder でフローを再作成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Flow Builder

Trailhead: Flow Builder を使用したフローの作成

プロセスビルダー: 取引先責任者の役割、プラットフォームイベントの登録

取引先責任者の役割のビジネスプロセスを自動化します。また、プラットフォームイベントを登録しているプロセスを確認できます。

このセクションの内容:

Lightning フローを使用した取引先責任者の役割の作成および更新の自動化
プロセスビルダーと Flow Builder を使用して、取引先責任者の役割が関与するビジネスプロセスを自動化します。これにより、営業担当はこの作業を手動で実行する必要がなくなります。たとえば、関連する取引先責任者を含む新しい各商談に取引先責任者の役割を追加するプロセスを作成します。または、プロセスまたは自動起動フローを使用して、関連する取引先責任者の役割が更新されたときに商談所有者に通知します。

プラットフォームイベントを登録しているプロセスの参照
プラットフォームイベントの [登録] 関連リストから、プラットフォームイベントを登録しているプロセスを参照できるようになりました。以前は、メタデータ API を使用してのみこのプロセスを参照できました。

自動項目更新によるメール通知の抑制の防止 (重要な更新、適用済み)
「自動項目更新によるメール通知の抑制の停止」は、Summer '17 の重要な更新であり、2020 年 3 月 1 日の Spring '20 で適用されます。ユーザへの ToDo の割り当てなどのさまざまな操作で、影響されるユーザにメールで通知することを選択できます。この更新では、プロセス、ワークフロールール、Apex トリガによってメール通知が抑制されることが防止されます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

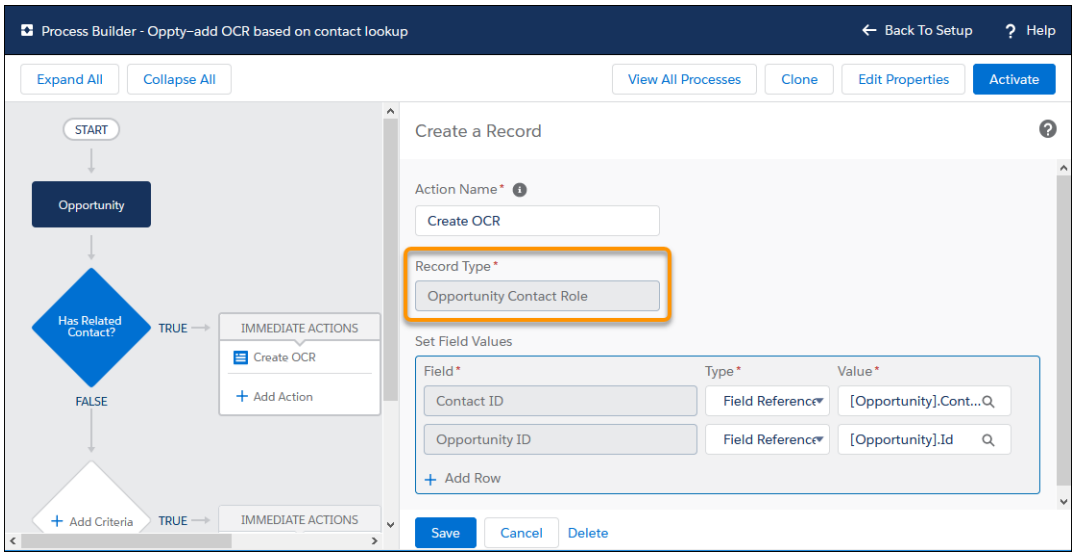
Lightning フローを使用した取引先責任者の役割の作成および更新の自動化

プロセスビルダーと Flow Builder を使用して、取引先責任者の役割が関与するビジネスプロセスを自動化します。これにより、営業担当はこの作業を手動で実行する必要がなくなります。たとえば、関連する取引先責任者を含む新しい各商談に取引先責任者の役割を追加するプロセスを作成します。または、プロセスまたは自動起動フローを使用して、関連する取引先責任者の役割が更新されたときに商談所有者に通知します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、取引先責任者の役割をカスタマイズできます。

方法: プロセスビルダーまたは Flow Builder で、他のオブジェクトと同様に取引先責任者の役割オブジェクトを参照します。



関連トピック:

IdeaExchange: Process Builder - Allow Action to Create Opportunity Contact Role Record (プロセスビルダー - アクションでの取引先責任者の役割レコードの作成)

プラットフォームイベントを登録しているプロセスの参照

プラットフォームイベントの[登録]関連リストから、プラットフォームイベントを登録しているプロセスを参照できるようになりました。以前は、メタデータ API を使用してのみこのプロセスを参照できました。

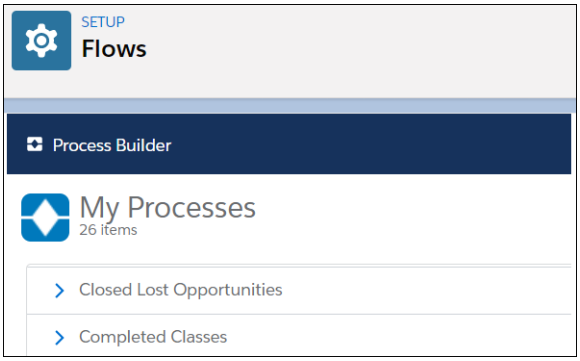
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームイベント」と入力し、[プラットフォームイベント] を選択します。

[登録] 関連リストからプロセスの表示ラベルをクリックすると、そのバージョン番号や API 参照名など、詳細を表示することができます。

なぜフローバージョンの詳細を確認するのでしょうか? フローと同様に、プロセスの実行中のインスタンスはフローインタビューです。[フローバージョン]ページに表示される情報はプロセスに関する情報です。プロセスのフローの API 参照名をクリックすると、組織のプロセスのリストを表示できます。

プロセスをクリックすると、プロセスビルダーでプロセスを開くことができます。



自動項目更新によるメール通知の抑制の防止 (重要な更新、適用済み)

「自動項目更新によるメール通知の抑制の停止」は、Summer '17 の重要な更新であり、2020 年 3 月 1 日の Spring '20 で適用されます。ユーザへの ToDo の割り当てなどのさまざまな操作で、影響されるユーザにメールで通知することを選択できます。この更新では、プロセス、ワークフロールール、Apex トリガによってメール通知が抑制されることが防止されます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

例:

- ケースの所有者を変更し、新しい所有者にメールで通知するように選択します。
- ユーザを作成し、そのユーザにお知らせメッセージをメールで送信するように選択します。
- ToDo を作成し、ToDo 所有者にメールで通知するように選択します。
- 割り当てルールを作成し、ユーザにケースが割り当てられたときにユーザに通知するように選択します。

Summer '17 より前では、これらのメールが常に送信されるとは限りませんでした。変更によって、同じレコードを更新したプロセス、ワークフロールール、または Apex トリガが起動した場合、Salesforce はこのメールを抑制しました。この重要な更新を有効化した場合、Salesforce はこの通知メールを抑制しなくなります。

これまでの回避策は、独自のメール通知を追加することでした。たとえば、プロセスまたはワークフロールールでメールアラートを使用していました。この回避策を使用して、失われたメールを補っていた場合、ユーザは重複メールを受信します。回避策を削除して、ユーザが 1 つの通知のみを受信するようにしてください。

時期: この重要な更新は、2020 年 3 月 1 日に自動的に有効になります。

重要な更新のテスト

この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

1. メール通知を送信しているカスタマイズを特定します。
2. 補足的なメール通知をカスタマイズコンポーネントから削除します。
3. 重要な更新「自動項目更新によるメール通知の抑制の防止」を有効にします。

4. カスタマイズをテストして、Salesforce が重複メールを送信しないことを確認します。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

グローバリゼーション: トランスレーションワークベンチの改善、右から左へ記述される言語のサポート、新規および更新されたロケール形式

更新されていない翻訳と未翻訳の値をエクスポートして、翻訳を常に最新の状態に維持します。右から左へ記述されるアラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語のフローがサポートされます。重要な更新で新しいおよび改善された国際日時形式を有効化し、このリリースでの International Components for Unicode (ICU) および Oracle の Java Development Kit (JDK) ロケール形式への変更に備えます。

このセクションの内容:

最新の翻訳の維持

トランスレーションワークベンチのエクスポート機能にある未翻訳ファイルの種類を更新しました。このエクスポートオプションには、未翻訳のテキストに加えて、前回の翻訳以降に変更されたテキストも含まれるようになりました。

右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)

右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが快適に作業できるように、列やサイドバーが右から左に記述され、テキストが適切に配置されます。この右から左へ記述されるレイアウトは、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語で使用できます。アラビア語とヘブライ語は Lightning Experience のエンドユーザ言語として使用でき、ウルドゥー語はプラットフォーム専用言語としてサポートされます。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

言語およびロケール形式の変更への準備

最新の形式と新しい言語を提供するために、言語およびロケール形式が更新されました。新しい International Components for Unicode (ICU) 形式を使用する場合でも Oracle の Java Development Kit (JDK) 形式を使用する場合でも、形式の変更が Salesforce 組織に与える影響を評価することをお勧めします。このリリースには、Common Locale Data Repository (CLDR) バージョン 35.1 を使用する ICU 64.2 が含まれます。JDK を引き続き使用するユーザのために、形式の更新を必要最小限に抑えたため、ユーザは ICU の採用に集中することができます。

Lightning Experience での高度な通貨管理の使用

Salesforce Classic に切り替えずに商談内で期間指定換算レートを管理できます。Lightning Experience で高度な通貨管理を使用できるようになりました。

ペルシア語を使用するユーザとつながる

プラットフォーム専用言語としてペルシア語が追加されました。

トランスレーションワークベンチのその他の変更点

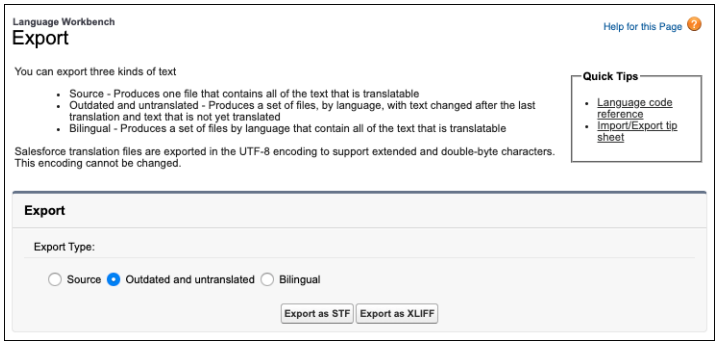
[設定] の [翻訳設定] が名前変更されました。新しいページ名は [翻訳言語設定] です。[翻訳設定] ページの翻訳項目では、翻訳オブジェクトの長さまで、32,000 文字または 96,000 バイトのデータを使用できるようになりました。

最新の翻訳の維持

トランスレーションワークベンチのエクスポート機能にある未翻訳ファイルの種類を更新しました。このエクスポートオプションには、未翻訳のテキストに加えて、前回の翻訳以降に変更されたテキストも含まれるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 翻訳可能なオブジェクトの表示ラベルが変更された場合、その表示ラベルの翻訳を確認および更新する必要があります。トランスレーションワークベンチのエクスポート機能の [旧翻訳および未翻訳] オプションを使用して、このような変更を未翻訳の値と共に特定できるようになりました。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「エクスポート」と入力します。[エクスポート] を選択して、トランスレーションワークベンチの [エクスポート] ページにアクセスします。[旧翻訳および未翻訳] を選択します。必要なファイルの種類に基づいて、[STF としてエクスポート] または [XLIFF としてエクスポート] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:翻訳ファイル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:翻訳ファイルのエクスポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

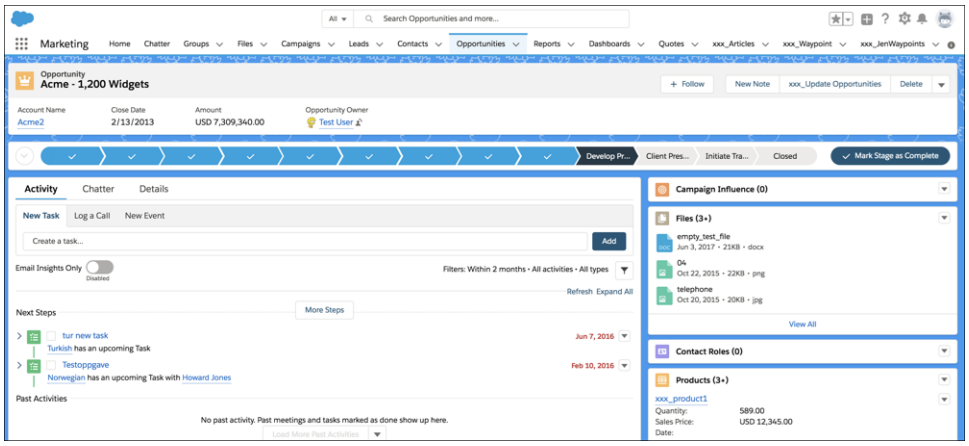
右から左へ記述されるレイアウトと言語による適切な表示 (正式リリース)

右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが快適に作業できるように、列やサイドバーが右から左に記述され、テキストが適切に配置されます。この右から左へ記述されるレイアウトは、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語で使用できます。アラビア語とヘブライ語は Lightning Experience のエンドユーザ言語として使用でき、ウルドゥー語はプラットフォーム専用言語としてサポートされます。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

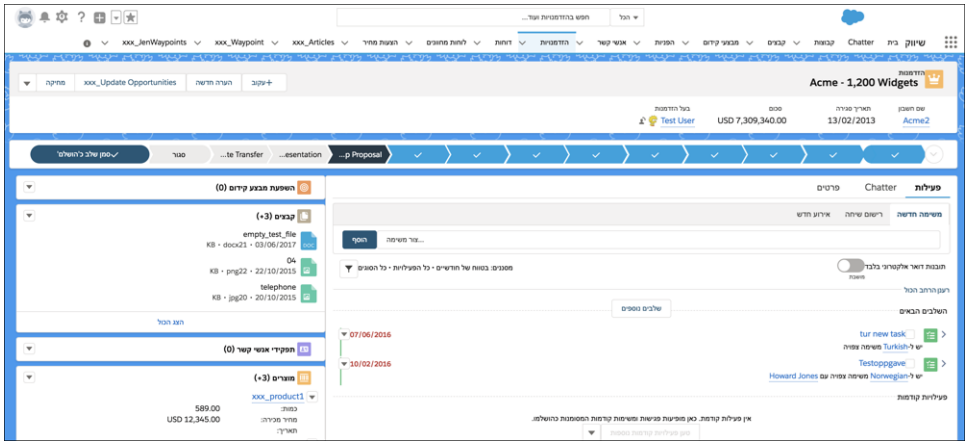
対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: より自然なデザインになるように RTL 言語のレイアウトが改善されました。

たとえば、Lightning Experience の左から右へ記述される英語のレイアウトは次のようになります。



右から左へ記述されるヘブライ語の同じビューは次のようになります。



ベータリリース以降の変更点を次に示します。

- RTL 言語のレイアウトは、右から左へ記述される言語のデフォルトのレイアウトになっています。
- Lightning レポートとダッシュボードでは、レポートビルダーでの次の制限を除き、右から左へ記述される言語のレイアウトが完全にサポートされます。数式編集メニューは右から左へ記述されますが、サマリーおよび行レベルの数式の編集項目は左から右へ記述されます。

Lightning の右から左への記述 (RTL) のサポートは、Marketing Cloud、Commerce Cloud、Pardot、Salesforce CPQ、Salesforce Billing、Communities Cloud、Health Cloud では使用できません。Financial Services Cloud では、ヘブライ語の Lightning RTL サポートは引き続きベータです。一部の機能は Lightning の右から左への記述のサポートに含まれません。また、検索には特定の制限があります。右から左への記述のサポートの制限に関する完全なリストは、Salesforce ヘルプを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 右から左へ記述される (RTL) 言語のサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 右から左へ記述される (RTL) 言語での検索の制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: サポート言語 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、2022 年 1 月 31 日に自動的に有効になります。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。

方法: 本番環境でこの更新を有効化する前に、すべてのインストール済みパッケージに ICU 形式との互換性があることをパッケージプロバイダに確認します。次に、Salesforce 組織に対する新しいロケールの影響を評価します。次の SOQL クエリを使用して、組織で使用されているロケールと各ロケールのユーザ数を検索します。

```
SELECT toLabel(LocaleSidKey) LocaleName, LocaleSidKey, Count(id) UserCount FROM User where
 IsActive=true GROUP BY LocaleSidKey
```

テストの推奨領域や、各ロケールの変更についての詳細は、ドキュメントを参照してください。

メモ: 組織のユーザ数が 100,000 人未満の場合、重要な更新の [更新の詳細] ページにクエリの結果が表示されます。

この更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[ICU ロケール形式を有効化] で [確認] をクリックします。[有効化] をクリックします。

英語 (カナダ) ロケール (en_CA) では、個別の有効化が必要です。[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。[en_CA ロケールの ICU 形式を有効化] を選択して [保存] をクリックします。

メモ: 重要な更新を有効化すると、UI に新しいロケール形式が表示されます。ICU 形式は API バージョン 45.0 以降で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバルに対応する新しい国際ロケール形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Winter '20 リリースノート: ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)

重要な更新とセキュリティアラート

言語およびロケール形式の変更への準備

最新の形式と新しい言語を提供するために、言語およびロケール形式が更新されました。新しい International Components for Unicode (ICU) 形式を使用する場合でも Oracle の Java Development Kit (JDK) 形式を使用する場合でも、形式の変更が Salesforce 組織に与える影響を評価することをお勧めします。このリリースには、Common Locale Data Repository (CLDR) バージョン 35.1 を使用する ICU 64.2 が含まれます。JDK を引き続き使用するユーザのために、形式の更新を必要最小限に抑えたため、ユーザは ICU の採用に集中することができます。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 組織内で使用している言語とロケールの形式変更をレビューします。変更が組織に与える影響を評価します。次に必要に応じて、検索条件、コード、およびコンポーネントをテストします。

フランス語 (モーリタニア) とスペイン語 (ベネズエラ) ロケールのデフォルト言語が変更されています。変更についてこれらのロケールのユーザに通知することをお勧めします。

関連トピック:

ナレッジ記事: JDK Language and Locale Format Changes in Spring '20 (Spring '20 での JDK 言語およびロケール形式の変更) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: ICU Language and Locale Format Changes in Spring '20 (Spring '20 での ICU 言語およびロケール形式の変更) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: Test Language and Locale Format Changes (言語およびロケール形式の変更のテスト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience での高度な通貨管理の使用

Salesforce Classic に切り替えずに商談内で期間指定換算レートを管理できます。Lightning Experience で高度な通貨管理を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 高度な通貨管理について (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ペルシア語を使用するユーザとつながる

プラットフォーム専用言語としてペルシア語が追加されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サポート言語(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

トランスレーションワークベンチのその他の変更点

[設定] の [翻訳設定] が名前変更されました。新しいページ名は [翻訳言語設定] です。[翻訳設定] ページの翻訳項目では、翻訳オブジェクトの長さまで、32,000 文字または 96,000 バイトのデータを使用できるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Einstein 予測ビルダー: Einstein 予測ビルダーを試す、信頼済み AI ヘルプによる十分な情報に基づいた予測、検索条件に基づく予測の作成

最大 10 個の予測を作成し、追加費用なしでそのうちの 1 つを有効にできます。予測を作成するときに、バイアスの根源を特定するのに役立つ [信頼済み AI] サイドバータブを参照します。予測の質問が項目に適切に対応付けられていない場合は、代わりに検索条件に基づく予測を作成します。Einstein 予測コンポーネントをページレイアウトに追加して、個々のレコードの上位プレディクターを表示します。

このセクションの内容:

Einstein 予測ビルダーの検索条件を使用した将来の予測

予測の問題への答えを持つ項目がなくても予測を構築できるようになりました。予測の基礎となるオブジェクトのレコードにデータがあれば、項目の代わりに検索条件を使用できます。

Einstein 予測ビルダーを使用したレコードの上位予測因子の表示

システム管理者とユーザは、モデル全体のみでなく、レコードレベルでどの予測因子が最も影響力があるかについてのインサイトを得ることができます。レコードの上位予測因子を表示して、特定のレコードのスコアへの影響が最も大きい項目値を確認できます。

追加費用なしで Einstein 予測ビルダーを試す

出費することなく Einstein 予測ビルダーを有効にし、ビジネスがカスタム予測からどのように利益を得ることができるかを確認します。アップグレードするかどうかは後で決定できます。

Einstein 予測ビルダーでの信頼済み AI ヘルプよる十分な情報に基づいた予測

[信頼済み AI] サイドバーヘルプを使用して、作成しながら学習します。信頼済み AI は、データの潜在的なバイアスを特定して軽減し、予測の誤りを少なくするために役立ちます。

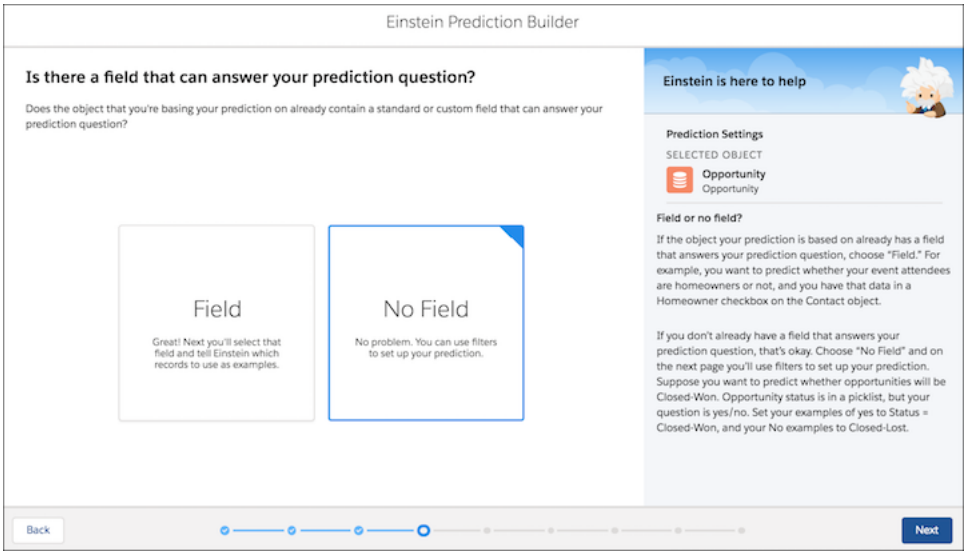
Einstein 予測ビルダーの検索条件を使用した将来の予測

予測の問題への答えを持つ項目がなくても予測を構築できるようになりました。予測の基礎となるオブジェクトのレコードにデータがあれば、項目の代わりに検索条件を使用できます。

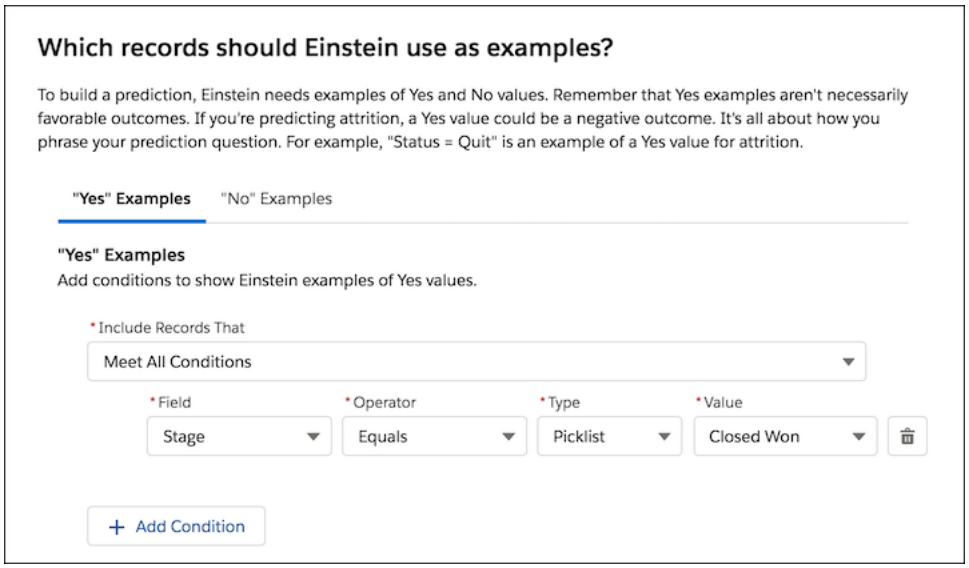
対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

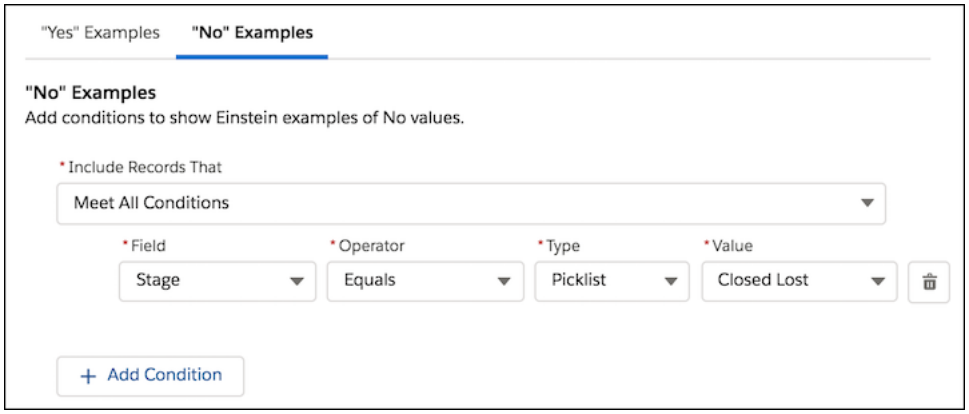
方法: Einstein 予測ビルダーのガイド付き設定に新しい質問が追加されています。たとえば、予測の問題に答えてくれる項目がすでに存在するかどうかを指定します。



カスタム項目を作成する代わりに、検索条件を使用して予測を設定します。たとえば、商談が成立するかどうかを予測するとします。これは答えが「はい」か「いいえ」の質問ですが、そのデータを含む項目は選択リストです。[項目なし]を選択し、検索条件を使用して「はい」と「いいえ」の値の例を指定します。たとえば、「はい」の例では [フェーズ] [次の文字列と一致する] [商談成立] を選択して絞り込みます。



「いいえ」の例では [フェーズ] [次の文字列と一致する] [不成立] を選択して絞り込みます。



サンプルセットに自分で含めていないレコードは、Einstein によって予測値が提供されたレコードです。

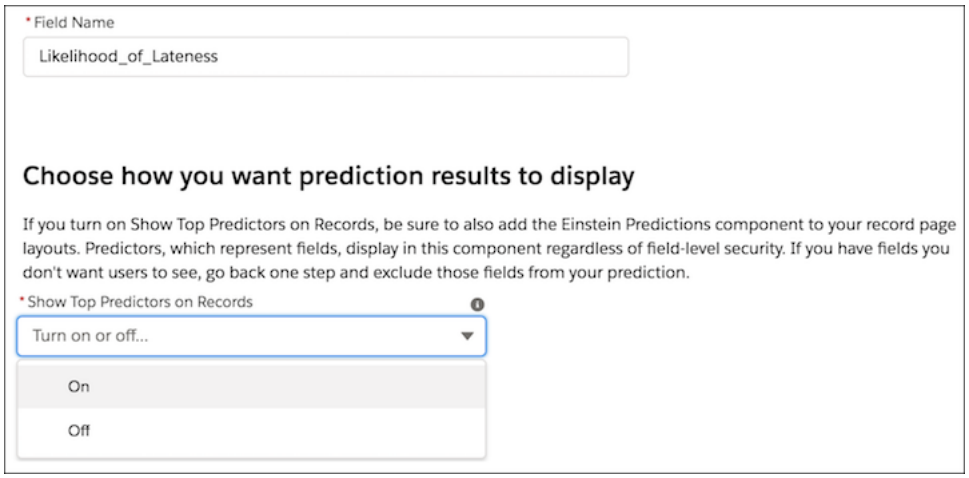
Einstein 予測ビルダーを使用したレコードの上位予測因子の表示

システム管理者とユーザは、モデル全体のみでなく、レコードレベルでどの予測因子が最も影響力があるかについてのインサイトを得ることができます。レコードの上位予測因子を表示して、特定のレコードのスコアへの影響が最も大きい項目値を確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein Predictions ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。さらに、システム管理者には ViewInsightObject および CreateInsightObject 権限を含む権限セットが必要です。ユーザがコンポーネントを表示するには、同じ権限に加えて、AIRecordInsight および AIInsightReason オブジェクトに対する CRUD アクセス権も必要です。

方法: 予測を作成するときに、予測結果を保存するカスタム項目に名前を付けるページで、[レコードの上位の予測因子を表示] を [オン] に設定します。



上位予測因子を表示するすべてのレコードのページレイアウトに Einstein 予測コンポーネントを追加します。予測スコアがあるレコードを表示すると、レコードページにはスコアに影響を与える上位予測因子と共に、Einstein 予測コンポーネントが表示されます。

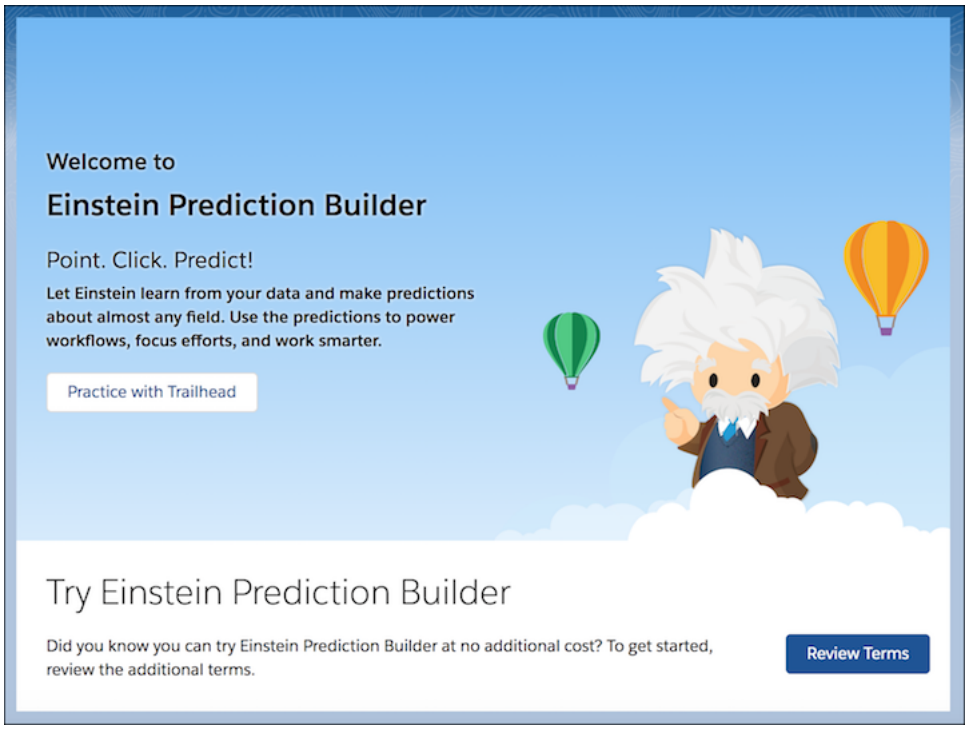
メモ: レコードの上位予測因子の表示は、バイナリ分類 (はい/いいえ) 予測でのみ機能します。数値予測では使用できません。

追加費用なしで Einstein 予測ビルダーを試す

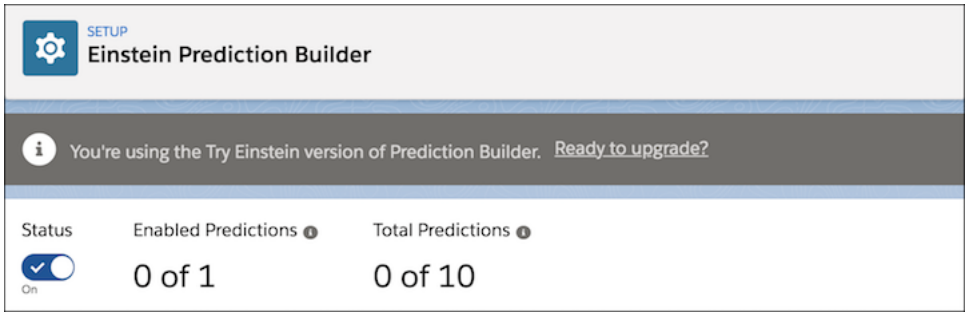
出費することなく Einstein 予測ビルダーを有効にし、ビジネスがカスタム予測からどのように利益を得ることができるかを確認します。アップグレードするかどうかは後で決定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Einstein 予測ビルダーが追加費用なしで含まれている Developer Edition 組織にサインアップすることもできます。

方法: [設定] から、「Einstein 予測ビルダー」を検索します。[使用を開始する] をクリックし、契約条件を確認するページに移動します。同意する場合は、別の [使用を開始する] ボタンをクリックして Einstein 予測ビルダーを設定します。



[Einstein を試す] では、合計 10 個までの予測を作成し、そのうちの 1 つを有効にできます。最初の予測を作成すると、[設定] の [予測] リストビューに合計予測数と有効な予測数、および残りの予測数が表示されます。



レコードの上位予測因子を表示するには、有料バージョンにアップグレードします。

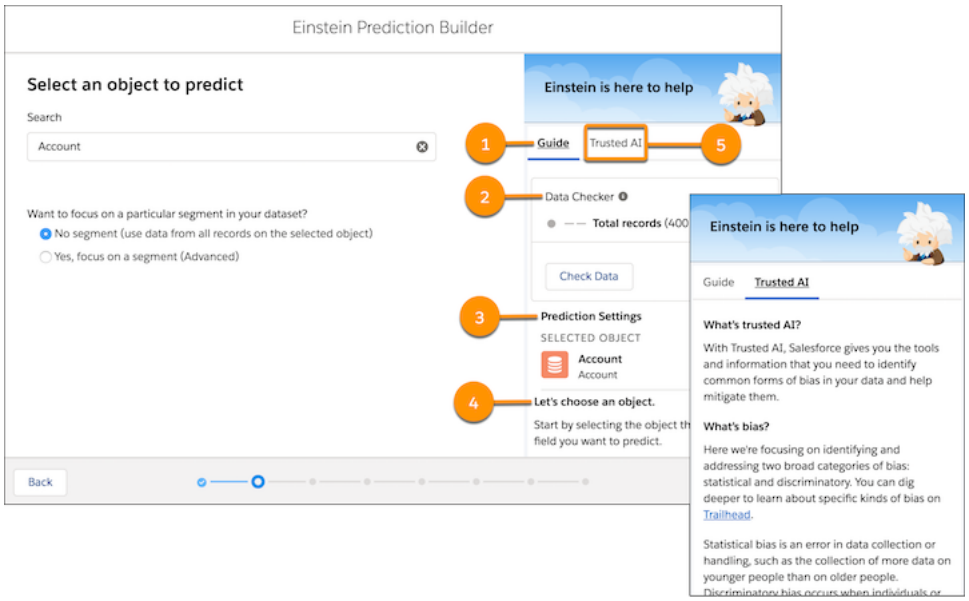
Einstein 予測ビルダーでの信頼済み AI ヘルプよる十分な情報に基づいた予測

[信頼済み AI] サイドバーヘルプを使用して、作成しながら学習します。信頼済み AI は、データの潜在的なバイアスを特定して軽減し、予測の誤りを少なくするために役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: お馴染みのサイドバーコンテンツ、[データチェッカー] (2)、[予測設定] (3)、および予測の作成に役立つヒント (4) には、[ガイド] タブ (1) を使用します。進行中にアドバイスを得るには、設定フローの主要ステップで表示される新しい [信頼済み AI] タブ (5) を参照します。



Einstein Next Best Action: おすすめ戦略総計値の分析、任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成、おすすめが却下されたときのフローの起動

戦略とおすすめレベルの両方で総計値を分析します。組織に提供されたおすすめのうち、受け入れられた数と却下された数を確認します。任意の Salesforce オブジェクトのレコードからおすすめを宣言的に作成します。取引先、取引先責任者、商談、および商品からおすすめを提供します。ユーザからおすすめが却下されたときにフローを起動して、質問表を表示したり、自動化プロセスを実行したりします。

このセクションの内容:

おすすめ戦略総計値を使用した Next Best Action の利用状況の分析

Salesforce 組織での Next Best Action の利用状況集計を追跡できるようになりました。戦略とおすすめレベルで総計値を分析します。2つの戦略の相対的なパフォーマンスを比較します。特定の月に組織の戦略により提供されたおすすめの合計数を表示します。提供したおすすめのうち、エージェントが受け入れた数と却下した数を確認します。

任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成

任意の Salesforce オブジェクト (標準またはカスタム) のレコードからおすすめを宣言的に作成します。取引先、取引先責任者、商談、および商品からおすすめを提供します。任意の Salesforce オブジェクトのレコードを読み込み、絞り込んで、戦略の最後でおすすめに変換します。以前は、おすすめを宣言的に作成する場合、使用するオブジェクトはおすすめオブジェクトのみに限られていました。他のオブジェクトのレコードをおすすめにプログラムで変換できましたが、[生成] 要素で Apex コードを使用していました。

おすすめが却下されたときのフローの起動

おすすめがユーザから却下されたときにフローを起動できるようになったため、柔軟性が高まります。たとえば、おすすめが却下されたときにフローで自動化プロセスを実行したり、別のシステムに書き込んだり、アラームメールを作成したりできます。以前は、Next Best Action では、おすすめが受け入れられた場合にのみフローを起動していました。

プラットフォーム状況アラートイベントの変更

プラットフォーム状況アラートイベントにアクセスできるのは、「すべてのデータの編集」、「Next Best Action 戦略を管理」、または「アプリケーションのカスタマイズ」権限のあるユーザです。

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化

HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに[おすすめの説明]などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

おすすめ戦略総計値を使用した Next Best Action の利用状況の分析

Salesforce 組織での Next Best Action の利用状況集計を追跡できるようになりました。戦略とおすすめレベルで総計値を分析します。2 つの戦略の相対的なパフォーマンスを比較します。特定の月に組織の戦略により提供されたおすすめの合計数を表示します。提供したおすすめのうち、エージェントが受け入れた数と却下した数を確認します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: おすすめの総計値データを表示するには、ユーザに「すべてのデータの編集」または「Next Best Action 戦略を管理」ユーザ権限が必要です。

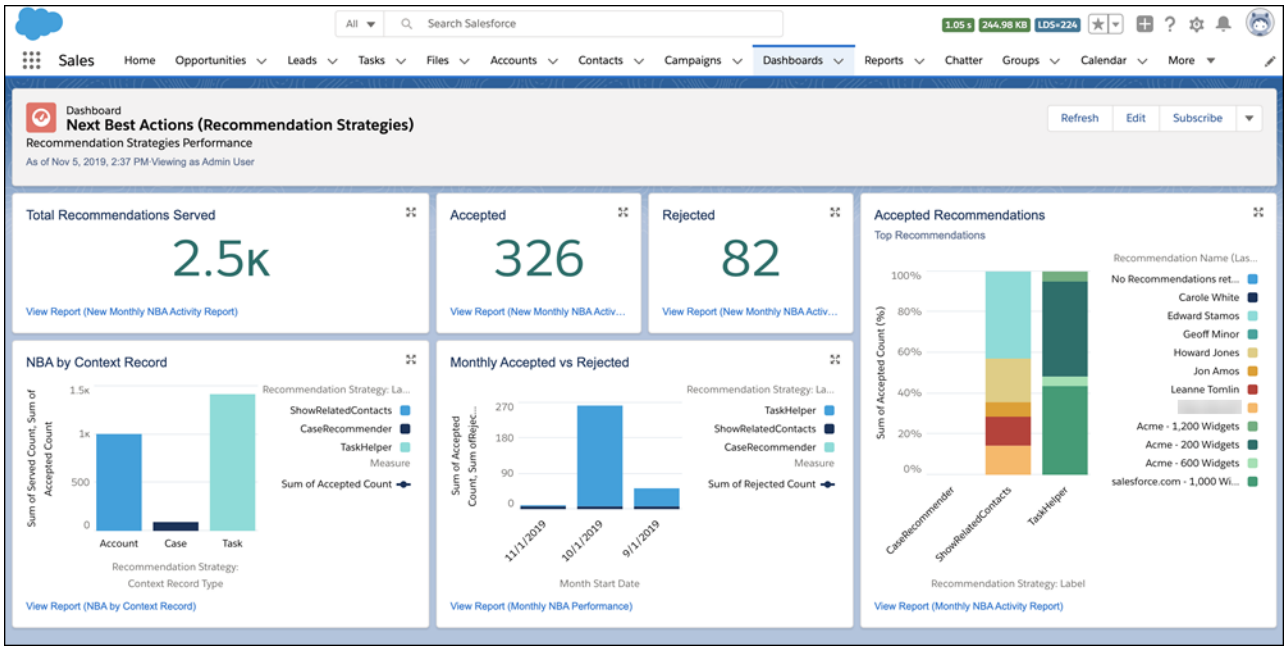
理由: Salesforce は、戦略が実行されるか、おすすめが受け入れられるか却下されるたびに、おすすめ戦略総計値を更新します。利用状況の総計値を分析して、戦略のパフォーマンスをより深く理解します。この知識を使用して、戦略のロジックを改善し、効果を高めます。

たとえば、2 つの異なる戦略で A/B テストを実行し、それらの相対的なパフォーマンスを比較します。サービスエージェントが戦略 B から提供されたおすすめをより多く受け入れている場合、総計値を使用して理由を見つけます。

方法: 新しい [おすすめ戦略総計値] 主オブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成します。主オブジェクトの項目 ([おすすめソース ID]、[受け入れ数] など) と、関連するおすすめ戦略の項目 ([コンテキストレコードタイプ]、[説明]など)を組み合わせます。ユーザはカスタムレポートタイプからレポートを実行し、ダッシュボードを作成できます。

メモ: 月ごとに集計された戦略レベルのデータでは、[おすすめ戦略総計値]主オブジェクトを使用します。おすすめレベルの詳細では、代わりに [おすすめの反応] 主オブジェクトを使用します。

戦略のパフォーマンスを分析するには、おすすめソース ID と、おすすめが提供された回数、受け入れられた回数、および却下された回数で戦略の実行をグループ化します。2 つの異なる戦略のパフォーマンスを比較するには、戦略の実行をおすすめソース ID でグループ化します。おすすめの説明や作成日など、役に立つメタデータをレポートに追加します。



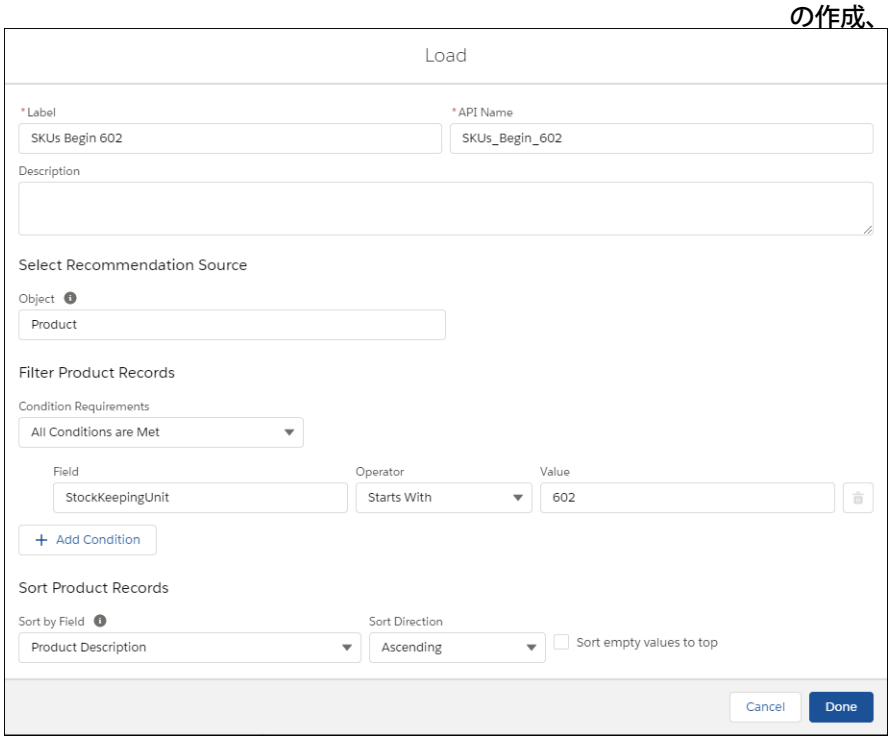
任意の Salesforce オブジェクトのレコードからのおすすめの作成

任意の Salesforce オブジェクト (標準またはカスタム) のレコードからおすすめを宣言的に作成します。取引先、取引先責任者、商談、および商品からおすすめを提供します。任意の Salesforce オブジェクトのレコードを読み込み、絞り込んで、戦略の最後でおすすめに変換します。以前は、おすすめを宣言的に作成する場合、使用するオブジェクトはおすすめオブジェクトのみに限られていました。他のオブジェクトのレコードをおすすめにプログラムで変換できましたが、[生成] 要素で Apex コードを使用していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: おすすめの戦略を作成するときに、取引先、商品、商談などのオブジェクトを使用できます。たとえば、商品データを戦略に直接読み込むことで、各商品をおすすめレコードとして再作成せずに、ユーザに一連の商品を表示します。次に、そのデータをおすすめに動的に対応付けます。以前は、商品ごとにおすすめを作成する必要がありました。

方法: Strategy Builder で [読み込み] 要素をキャンバスにドラッグします。



任意のオブジェクトのレコードからおすすめを読み込みます。おすすめを読み込むための条件を選択します。特定のレコードを戦略から除外します。並び替えの基準となるオブジェクトの値を選択して、レコードの順序を並び替えます。戦略では、オブジェクトをおすすめに変換する場合、別のオブジェクトをおすすめオブジェクトと同様に最後まで処理します。

戦略の最後で、絞り込まれたレコードをおすすめに変換します。このおすすめは、Next Best Action コンポーネントや独自のアプリケーションを介して表示されます。これを行うには、[対応付け] 要素を [出力] 要素の前に追加します。[対応付け] 要素を使用して、レコードの項目をおすすめオブジェクトの必須項目に対応付けます。たとえば、商品の [タイトル] 項目をおすすめの [名前] 項目に対応付けます。

おすすめが却下されたときのフローの起動

おすすめがユーザから却下されたときにフローを起動できるようになったため、柔軟性が高まります。たとえば、おすすめが却下されたときにフローで自動化プロセスを実行したり、別のシステムに書き込んだり、アラームメールを作成したりできます。以前は、Next Best Action では、おすすめが受け入れられた場合にのみフローを起動していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

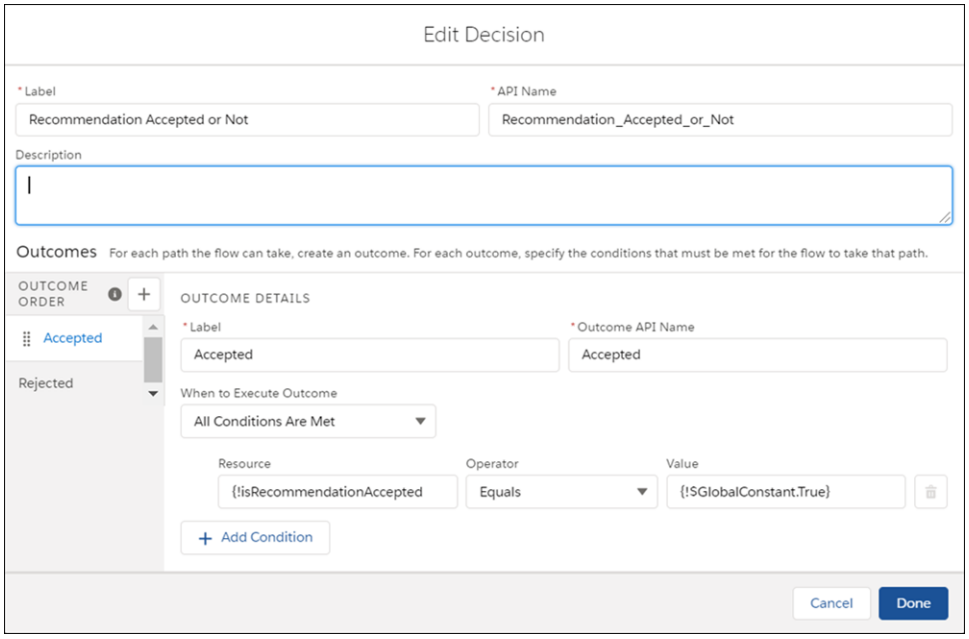
理由: サービスエージェントにおすすめを却下した理由やおすすめの意味がなかった理由を尋ねます。たとえば、電気通信会社のシステム管理者が、おすすめをカスタマーサービス担当者 (CSR) に表示するように Next Best Action コンポーネントを設定します。割引サービスの購入を希望する顧客向けのおすすめをエージェントが受け入れると、購入の割引を計算するフローが起動されます。システム管理者は、おすすめに対する反応を分析しましたが、CSR がおすすめを却下した理由がわかりません。答えを得るため、システム管理者は、おすすめが却下されるたびに Next Best Action で質問表フローを起動するようにします。

また、たとえば、会社は受け入れられたおすすめと却下されたおすすめの信号をサードパーティの機械学習ツールにストリーミングする必要があるとします。ツールはこのデータに基づいて最適なおすすめを学習し、システム管理者はその結果を使用して新しいおすすめと改善されたおすすめを作成します。

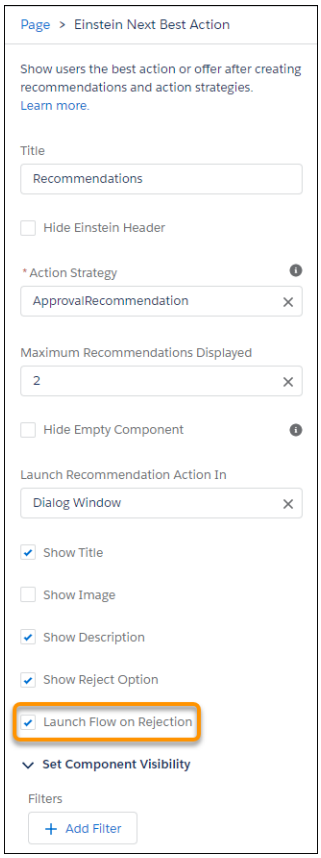
この機能は次のコンポーネントで使用できます。

- Lightning レコードページで使用する Einstein Next Best Action コンポーネント
- エクスペリエンスビルダーで使用する推奨アクションコンポーネント。
- Lightning コンソールアプリケーションで使用するアクションと推奨コンポーネント

方法: Flow Builder で、おすすめに関連付けるフローを設定します。Boolean 型の `isRecommendationAccepted` 入力変数を作成します。`isRecommendationAccepted` 変数を [決定] 要素に追加します。おすすめが受け入れられたときにフローで何を実行し、おすすめが却下されたときに何を実行するかを決定します。



フローアクションを追加します。Next Best Action コンポーネントを Lightning レコードページに追加するときに [却下時にフローを起動] を選択します。



プラットフォーム状況アラートイベントの変更

プラットフォーム状況アラートイベントにアクセスできるのは、「すべてのデータの編集」、「Next Best Action 戦略を管理」、または「アプリケーションのカスタマイズ」権限のあるユーザです。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化

HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに [おすすめの説明] などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [暗号化ポリシー] ページで、[項目を暗号化] をクリックし、[おすすめの説明] 項目を暗号化します。

Lightning アプリケーションビルダー: モバイルのすべての機能強化、アプリケーションビルダーのガイダンス、ページ範囲内のコンポーネント収容量の増加

Lightning アプリケーションビルダー UI へのモバイル関連の機能強化と、アプリケーション内ガイダンスを介して提供されるヒントを使用して、デスクトップとモバイルでより適切かつ効率的な Lightning ページを設計します。1 つのページ範囲に最大 100 個のコンポーネントを含めます。

このセクションの内容:

モバイルを考慮したレコードページの設計、テンプレートの選択、およびコンポーネントの設定
すべてのシステム管理者は、Winter '20 で導入された Lightning アプリケーションビルダーの機能を利用して新しい Salesforce モバイルアプリケーションに対応できるようになりました。電話で使用するレコードページ、ページテンプレート、およびコンポーネントの表示ルールを設定します。また、新しいフォーム要素のサポートアイコンがページテンプレートとパレット内のコンポーネントに表示されます。

アプリケーションビルダーのガイダンスを使用した Lightning ページの改善
Lightning ページを改善するための提案が、必要なときに表示されます。アプリケーションビルダーのガイダンスを使用すると、ページを設計するときにパフォーマンスと使いやすさを向上するためのフィードバックが、ドッキングプロンプトのヒントを介して提供されます。

Lightning ページ範囲へのより多くのコンポーネントの追加
Lightning ページ範囲に挿入できるコンポーネントの数を 25 から 100 に増加しました。この増加は、タブコンポーネントに追加できるタブ数とアコーディオンコンポーネント内のセクション数にも適用されます。

注文管理コンポーネントを使用した注文の詳細の表示
Salesforce 注文管理には、[注文概要] レコードページで使用するための受信者別の注文商品概要コンポーネントと注文概要の合計コンポーネントが用意されています。

モバイルを考慮したレコードページの設計、テンプレートの選択、およびコンポーネントの設定

すべてのシステム管理者は、Winter '20 で導入された Lightning アプリケーションビルダーの機能を利用して新しい Salesforce モバイルアプリケーションに対応できるようになりました。電話で使用するレコードページ、ページテンプレート、およびコンポーネントの表示ルールを設定します。また、新しいフォーム要素のサポートアイコンがページテンプレートとパレット内のコンポーネントに表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由:

- Lightning レコードページが、デスクトップの Lightning Experience に限定されなくなりました。デスクトップとモバイルアプリケーションの両方で同じレコードページを表示できます。また、1つのカスタムレコードページをデスクトップユーザに割り当てて、別のページをモバイルアプリケーションユーザに割り当てることで、異なるユーザのニーズに対応できます。どのページがどのフォーム要素に割り当てられているかがオブジェクトマネージャの [Lightning レコードページ] 画面に表示されます。

- Lightningページ作成ウィザードでは、テンプレートがデスクトップ、電話、またはその両方のどれをサポートするかを示すアイコンと説明テキストがページテンプレートに含まれます。
- パレット内の各コンポーネントには、サポートされるフォーム要素を表すアイコンが含まれます。これで、Lightning ページにコンポーネントを追加する前に、ページが表示されたときにそのコンポーネントが特定のフォーム要素で表示されるかどうかをすぐに確認できます。また、パレット設定メニューを使用してコンポーネントリストを更新したり、フォーム要素のアイコンの表示と非表示を切り替えたりできます。
- Lightning アプリケーションを編集するときに、どのレコードページが各フォーム要素のアプリケーションのデフォルトとして割り当てられているかが [ページ] メニューに表示されます。
- ページを表示するデバイスに応じて、レコードページ上の標準コンポーネントやカスタムコンポーネントの表示と非表示を切り替えられるようになりました。

方法: Winter '20 で新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしなかった組織は、Lightning アプリケーションビルダーでこれらのモバイル関連の機能強化を使用できるようになりました。組織が Winter '20 で新しいSalesforceモバイルアプリケーションにオプトインしている場合、これらはすでに有効になっています。

関連トピック:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへようこそ

Winter '20 リリースノート: 電話フォーム要素に合わせた Lightning レコードページのカスタマイズ

Winter '20 リリースノート: フォーム要素に応じた Lightning ページテンプレートの選択

Winter '20 リリースノート: コンポーネントパレットでのサポートされているフォーム要素の表示

Winter '20 リリースノート: [ページ] メニューからのアプリケーションのデフォルトフォーム要素の割り当ての表示

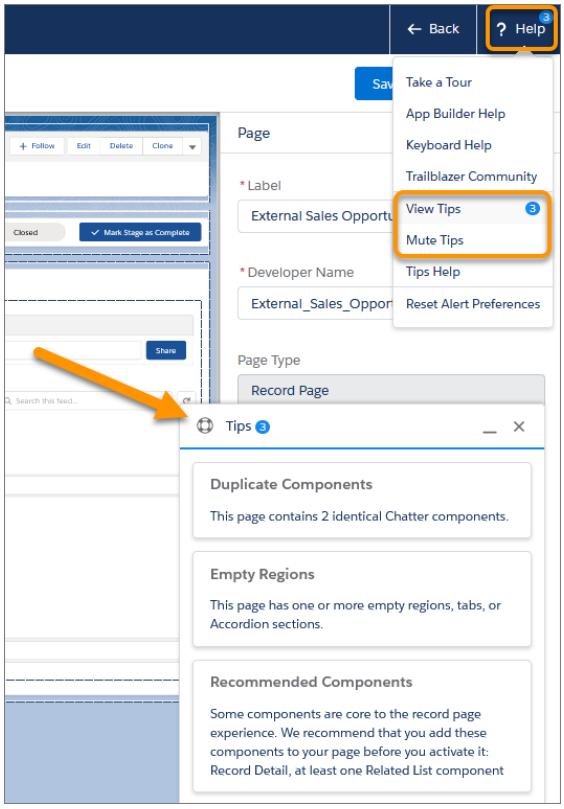
Winter '20 リリースノート: デバイスに応じたレコードページコンポーネント表示ルールの設定

アプリケーションビルダーのガイダンスを使用した Lightning ページの改善

Lightningページを改善するための提案が、必要なときに表示されます。アプリケーションビルダーのガイダンスを使用すると、ページを設計するときにパフォーマンスと使いやすさを向上するためのフィードバックが、ドッキングプロンプトのヒントを介して提供されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ヒントは、パフォーマンス、使いやすさ、構造の問題などのカテゴリで使用できます。ヒントの対象になっている一部の問題は Salesforce Optimizer レポートでもキャプチャされています。たとえば、ページ上の 2 つのコンポーネントが同じ場合、そのことを伝えるヒントが表示されます。問題を解決したら、ヒントは表示されなくなります。



ページで使用可能なヒントがある場合、ヘルプメニューにインジケータアイコンが表示されます。

ページを設計している間、ヒントのドッキングプロンプトを非表示にするには、ヘルプメニューに移動して [ヒントをミュート] を選択します。[ヒントを参照] を選択すると、ヒントのプロンプトを再度開くことができます。

Lightning ページ範囲へのより多くのコンポーネントの追加

Lightning ページ範囲に挿入できるコンポーネントの数を 25 から 100 に増加しました。この増加は、タブコンポーネントに追加できるタブ数とアコーディオンコンポーネント内のセクション数にも適用されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

注文管理コンポーネントを使用した注文の詳細の表示

Salesforce 注文管理には、[注文概要] レコードページで使用するための受信者別の注文商品概要コンポーネントと注文概要の合計コンポーネントが用意されています。

対象: この変更は、Salesforce 注文管理のすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

外部データ:非公開接続パイロット、外部ログイン情報の暗号化の変更

非公開接続を使用して、公開インターネットにさらされることなくサードパーティサービスをSalesforceと統合できます。外部データログイン情報は、セキュリティを強化するために更新されたフレームワークで暗号化されるようになりました。

使用可能なエディション: **Developer** Edition

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

公開インターネットにさらされることなくサードパーティサービスと統合 (パイロット)
サードパーティサービスを Salesforce と統合する場合、安全に通信できることが不可欠です。非公開接続では、Salesforce データセンターと Amazon Web Services (AWS) の間に完全に管理された安全な接続を設定することにより、HTTP/s トラフィックのセキュリティを強化できます。AWS PrivateLink を介して実行される API コールはインターネットを通過しないため、部外者のセキュリティ脅威にさらされるリスクが減少します。

外部データログイン情報の暗号化方法の変更
3 つの外部データエンティティ (NamedCredential、ExternalDataUserAuth、ExternalDataSource) 内に保存されているログイン情報は、プラットフォーム上の他の暗号化フレームワークと一貫性のあるフレームワークで暗号化されるようになりました。Salesforce は、ポッドまたはインスタンスレベルの鍵の代わりに組織ベースの鍵を使用してログイン情報を暗号化し、サードパーティのデータに追加のセキュリティレイヤを提供します。

公開インターネットにさらされることなくサードパーティサービスと統合 (パイロット)

サードパーティサービスをSalesforceと統合する場合、安全に通信できることが不可欠です。非公開接続では、Salesforce データセンターと Amazon Web Services (AWS) の間に完全に管理された安全な接続を設定することにより、HTTP/s トラフィックのセキュリティを強化できます。AWS PrivateLink を介して実行される API コールはインターネットを通過しないため、部外者のセキュリティ脅威にさらされるリスクが減少します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 非公開接続は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。非公開接続は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

方法: 非公開接続を使用するには、非公開接続パイロットに組織を登録する必要があります。このパイロットへの参加についての詳細は、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

Trailblazer Community: Salesforce Private Connect for AWS (AWS の Salesforce 非公開接続) (Trailblazer Community アカウントが必要)

外部データログイン情報の暗号化方法の変更

3 つの外部データエンティティ (NamedCredential、ExternalDataUserAuth、ExternalDataSource) 内に保存されているログイン情報は、プラットフォーム上の他の暗号化フレームワークと一貫性のあるフレームワークで暗号化されるようになりました。Salesforce は、ポッドまたはインスタンスレベルの鍵の代わりに組織ベースの鍵を使用してログイン情報を暗号化し、サードパーティのデータに追加のセキュリティレイヤを提供します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 秘密鍵は、新しい暗号化フレームワークによって自動的に作成されます。以前の暗号化スキームを使用して暗号化されたログイン情報は、新しいフレームワークに移行されています。すべての新しいログイン情報は、新しいフレームワークを使用します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:指定ログイン情報 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:外部システムの認証設定の保存 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

権限セットグループ: 権限付与の柔軟性の向上 (正式リリース)

権限セットグループは、ユーザグループに権限を一貫して確実に割り当てるための理想的な方法です。ユーザに複数の権限セットを割り当てるのではなく、単一の権限セットグループを割り当てることができます。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザの職務に必要なすべての権限を提供します。ミュート権限セット機能によってグループから個別の権限を削除することで、権限がユーザの職務を超えてしまわないように保証できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

このセクションの内容:

ユーザの職務に基づく権限セットのグループ化により容易な割り当てを実現 (正式リリース)

複数の権限セットの代わりに、ユーザに単一の権限セットグループを割り当てることができるようになりました。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザの職務に必要なすべての権限を提供します。同様に、権限ミュート機能を使用してグループから個別の権限を削除することで、職務に関連しない権限をユーザに与えないようにします。新しいユーザインターフェースは権限セットグループの作成と管理に役立ちます。

新しい確認画面を使用した権限セットの編集の追跡

権限の一括編集の追跡が容易になりました。わかりやすさとセキュリティを改善し、複数選択権限と権限の連動関係の概要を別のページに表示するようにしました。[権限変更確認] ページを使用すると、追加および削除されたすべての権限を容易に特定および確認することができ、その後、それらを権限エコシステムの一部とすることができます。権限の編集の概要をプレビューすることで、ユーザと組織のセキュリティコントロールをより適切に管理および維持することができます。

ミュート権限セットを使用した権限セットグループの権限の管理 (正式リリース)

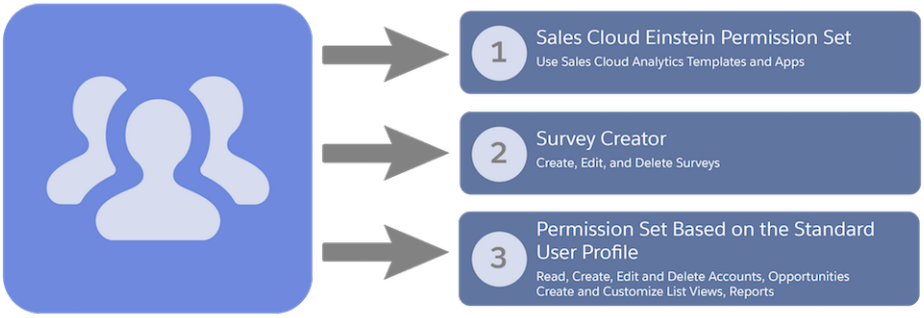
ミュート権限セットは、セキュリティを強化し、組織とユーザが必要とするコンポーネントのみにアクセスできるようにし、逆に、アクセスが許可されていないコンポーネントは使用できないようにするための便利な方法です。権限と共にミュート権限セットを使用すると、権限を詳細に制御し、最小権限の法則に確実に従うことができます。

ユーザの職務に基づく権限セットのグループ化により容易な割り当てを実現 (正式リリース)

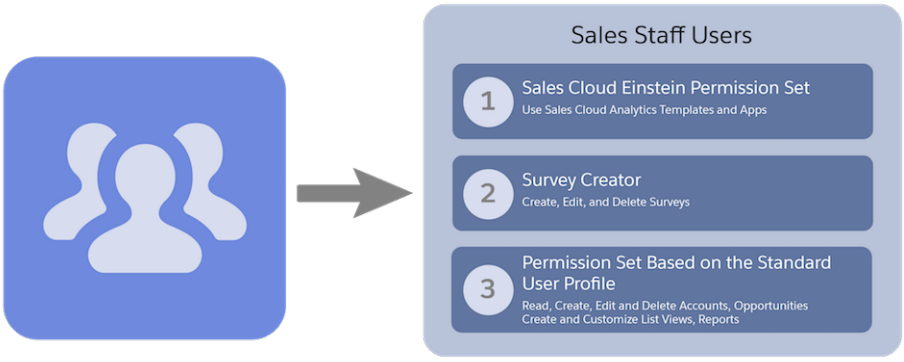
複数の権限セットの代わりに、ユーザに単一の権限セットグループを割り当てることができるようになりました。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザの職務に必要なすべての権限を提供します。同様に、権限ミュート機能を使用してグループから個別の権限を削除することで、職務に関連しない権限をユーザに与えないようにします。新しいユーザインターフェースは権限セットグループの作成と管理に役立ちます。

対象: この変更は、Salesforce Classic (使用できない組織もあります)、Lightning Experience に適用されます。Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition。

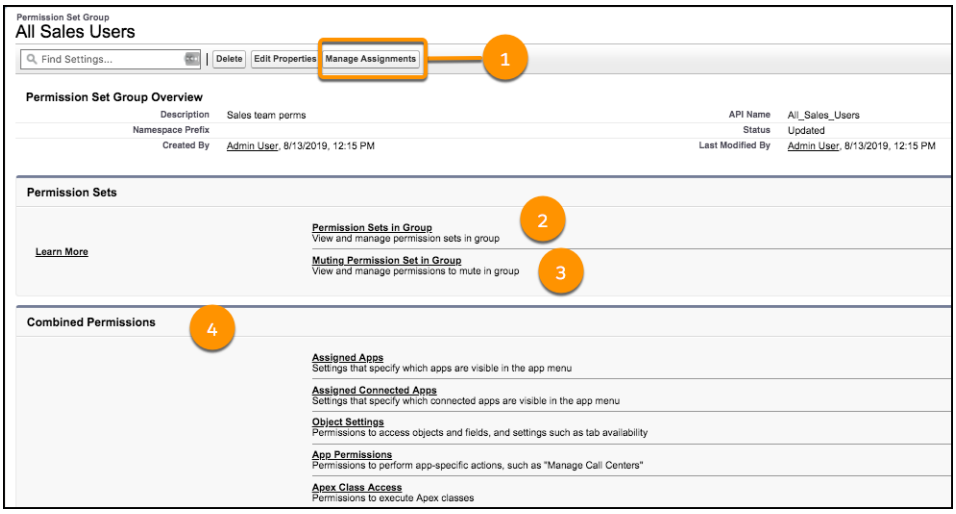
理由: 営業部門の従業員が Sales Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションで作業しているとします。これらの従業員は、アンケートの作成、編集、削除や取引先の参照、作成、編集、削除も行います。必要な権限が含まれる 3 つの権限セット (Sales Cloud Einstein、アンケート作成者、標準ユーザプロファイルに基づく権限セット) があります。これらのユーザに各権限セットを個別に割り当てます。



権限セットを1つの意味のある権限セットグループと結合し、その権限セットグループを営業担当者に割り当てることができます。この例の「Sales Staff Users (営業スタッフユーザ)」権限セットグループには、グループに追加されたすべての権限セットの結合された権限が含まれます。また、Salesforce は権限セットグループ内のすべての権限セットにわたる権限を集約し、解決することで、継承と連動関係を確実に維持します。



方法: [設定] から [権限セットグループ] を選択することで、権限セットグループを表示したり、新しいグループを作成したりできます。



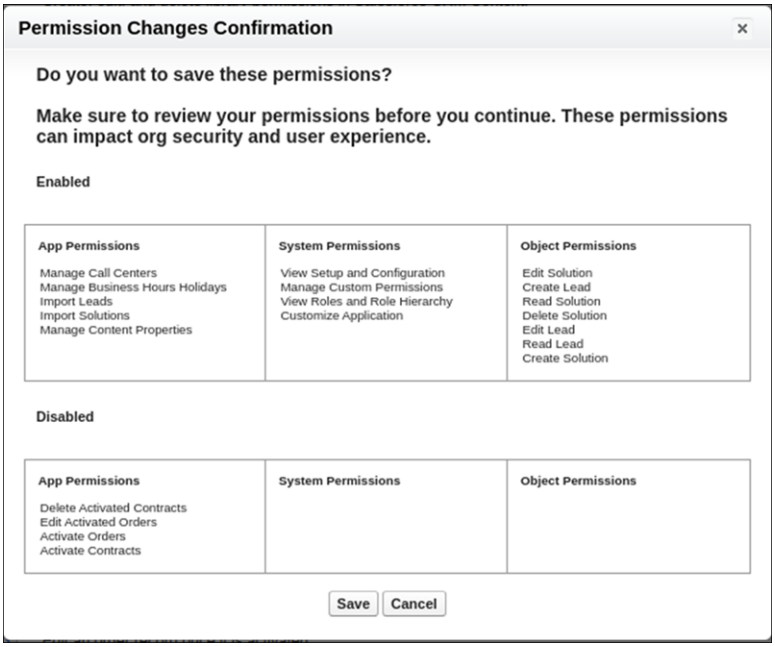
権限セットグループの詳細ページで、権限セットグループをユーザに割り当てます (1)。権限セットグループに含める権限セットを選択し (2)、必要に応じてミュートする権限を選択します (3)。グループで組み合わされた権限を表示します (4)。

新しい確認画面を使用した権限セットの編集の追跡

権限の一括編集の追跡が容易になりました。わかりやすさとセキュリティを改善し、複数選択権限と権限の連動関係の概要を別のページに表示するようにしました。[権限変更確認] ページを使用すると、追加および削除されたすべての権限を容易に特定および確認することができ、その後、それらを権限エコシステムの一部とすることができます。権限の編集の概要をプレビューすることで、ユーザと組織のセキュリティコントロールをより適切に管理および維持することができます。

対象: この変更は、Salesforce Classic (使用できない組織もあります)、Lightning Experience に適用されます。Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition。

方法: [設定] から [権限セット] を選択し、権限を変更して、[保存] をクリックすると、[権限変更確認] ページで選択肢を確認できます。



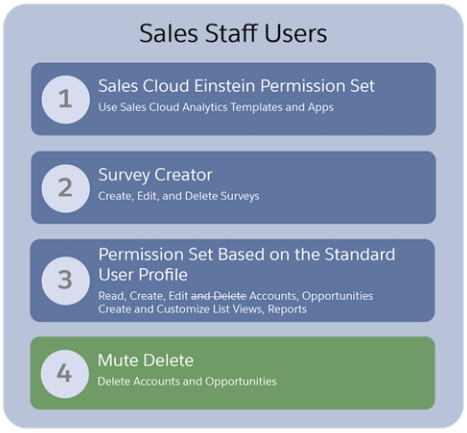
ミュート権限セットを使用した権限セットグループの権限の管理 (正式リリース)

ミュート権限セットは、セキュリティを強化し、組織とユーザが必要とするコンポーネントのみにアクセスできるようにし、逆に、アクセスが許可されていないコンポーネントは使用できないようにするための便利な方法です。権限と共にミュート権限セットを使用すると、権限を詳細に制御し、最小権限の法則に確実に従うことができます。

対象: この変更は、Salesforce Classic (使用できない組織もあります)、Lightning Experience に適用されます。Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition。

理由: 「Sales Staff Users (営業スタッフユーザ)」権限グループに 3 つの権限セットが含まれているとします。また、その 3 つの権限セットの 1 つに削除権限が含まれますが、すべてのグループメンバーがこの削除権限を持つ必要はなくなりました。さらに複雑なことに、「Sales Staff Users (営業スタッフユーザ)」権限セットを参照する「Manager(マネージャ)」権限セットグループもあります。この権限の制限を実装するにはどうすればよいでしょうか。別の権限セットを作成する代わりに、ミュート権限セットを使用して削除権限を制約できます。ミュート権限セットには、無効にする削除権限が含まれます。ミュート権限セットを [Sales Staff Users (営業スタッフユーザ)] グループに追加すると、そのメンバーの削除権限はなくなりますが、[Managers (マネージャ)] のメンバーにはあります。

メモ: 権限セットグループには 1 つのミュート権限セットのみを追加できます。



共有: 外部組織の共有設定の機能強化

データのセキュリティを強化するため、外部共有モデルは、Spring '20 以降で作成されたすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になっており、無効にすることはできなくなりました。また、リードオブジェクトとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルを設定できるようになりました。

このセクションの内容:

すべての組織で外部組織の共有設定をデフォルトで有効化

データのセキュリティを強化するため、外部共有モデルは、Spring '20 以降で作成されたすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になっています。外部組織の共有設定を使用すると、内部ユーザと外部ユーザに同じデフォルトのアクセス権を付与するのではなく、外部ユーザにより厳しいアクセスレベルを設定することができます。この新しく作成された組織では、すべてのオブジェクトで外部アクセスレベルが [非公開] に初期設定されます。

無効化できなくなった外部共有モデル

Salesforce 組織のデータをより適切に保護するため、組織で外部共有モデルを有効にした後、無効にできなくなりました。

リードとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)

リードオブジェクト (以前はベータ) とキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルを設定できるようになりました。デフォルトの内部アクセスレベルを変更せずに、外部ユーザのアクセスを厳しくします。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、Salesforce 組織のライセンスや他の設定によって異なります。

共有 API アクセスの変更

共有ルールと共有セットに Salesforce API を介してアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。共有ルールと共有セットを API を介して編集できるのは、「共有を管理」権限のあるユーザです。

キューに関する権限の変更

キューに Salesforce API を介してアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザですが、キューを編集できるのは、「ユーザの管理」権限のあるユーザです。

すべての組織で外部組織の共有設定をデフォルトで有効化

データのセキュリティを強化するため、外部共有モデルは、Spring '20 以降で作成されたすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になっています。外部組織の共有設定を使用すると、内部ユーザと外部ユーザに同じデフォルトのアクセス権を付与するのではなく、外部ユーザにより厳しいアクセスレベルを設定することができます。この新しく作成された組織では、すべてのオブジェクトで外部アクセスレベルが [非公開] に初期設定されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 外部ユーザについては厳しいアクセスレベルを維持することをお勧めしますが、外部組織の共有設定を編集することもできます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] で、デフォルトの外部アクセス権を編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

無効化できなくなった外部共有モデル

Salesforce 組織のデータをより適切に保護するため、組織で外部共有モデルを有効にした後、無効にできなくなりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 外部共有モデルを使用すると、内部および外部ユーザのアクセスレベルをカスタマイズできます。外部ユーザの場合、組織の共有設定を [非公開] に設定することをお勧めします。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] で、ビジネスのニーズに応じて、デフォルトの内部アクセス権と外部アクセス権を編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リードとキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)

リードオブジェクト (以前はベータ) とキャンペーンオブジェクトの外部アクセスレベルを設定できるようになりました。デフォルトの内部アクセスレベルを変更せずに、外部ユーザのアクセスを厳しくします。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、Salesforce 組織のライセンスや他の設定によって異なります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 外部組織のデフォルトを設定するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] で、デフォルトの外部アクセス権を編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

共有 API アクセスの変更

共有ルールと共有セットに Salesforce API **を介してアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。共有ルールと共有セットを** API **を介して編集できるのは、「共有を管理」権限のあるユーザです。**

対象: この変更は、 Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

キューに関する権限の変更

キューに Salesforce API **を介してアクセスできるのは、標準ユーザとパートナーユーザですが、キューを編集できるのは、「ユーザの管理」権限のあるユーザです。**

対象: この変更は、 Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

AppExchange: Trailblazer.me のサポート、拡張された Salesforce コンサルタントレビュー

Trailblazer.me **アカウントを使用して、** AppExchange **でのインストール、サブスクリプション、設定を管理します。確認済みプロジェクトレビューと拡張コミュニティフィードバックを使用して、** Salesforce **コンサルタントの過去のパフォーマンスを確認します。**

このセクションの内容:

Trailblazer.me を使用した AppExchange のインストールと設定の簡単な管理

AppExchange **では、** Salesforce **エコシステム全体で一新された履歴書および統合プロファイルである** Trailblazer.me **がサポートされるようになりました。** AppExchange **の** Trailblazer.me **では、接続済みのアカウントに関連付けられたインストールとサブスクリプションを** 1 **回のログインで確認できます。すべてのアカウント設定が** 1 **か所にある** Trailblazer.me **から、** AppExchange **通知を管理することもできます。**

AppExchange の Salesforce コンサルタントの詳細なレビューによる確実な採用

Salesforce **コンサルタントの** AppExchange **レビューでは、コンサルタントが遂行した作業の詳細 (業種など) が示されるようになりました。また、コンサルタントを採用する場合に新しい種別のフィードバック (確認済みプロジェクトレビュー) を考慮することもできます。確認済みレビューは、コンサルタントのプロジェクトパフォーマンスに関して** Salesforce **に直接提供された顧客フィードバックに基づきます。**

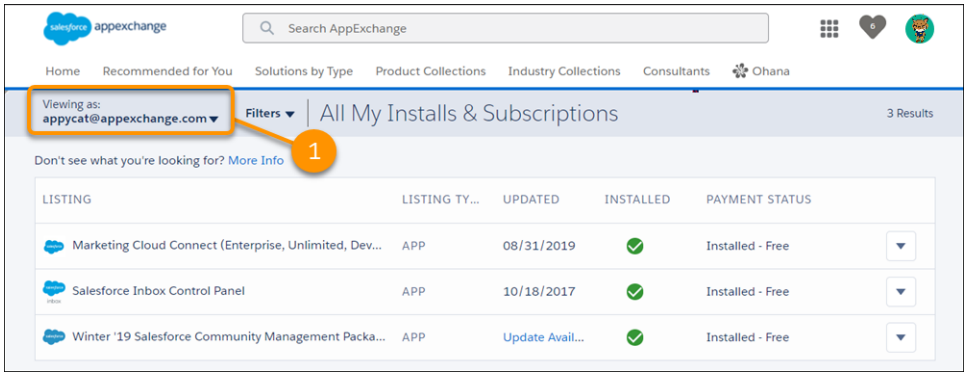
Trailblazer.me を使用した AppExchange のインストールと設定の簡単な管理

AppExchange では、Salesforce エコシステム全体で一新された履歴書および統合プロファイルである Trailblazer.me がサポートされるようになりました。AppExchange の Trailblazer.me では、接続済みのアカウントに関連付けられたインストールとサブスクリプションを 1 回のログインで確認できます。すべてのアカウント設定が 1 か所にある Trailblazer.me から、AppExchange 通知を管理することもできます。

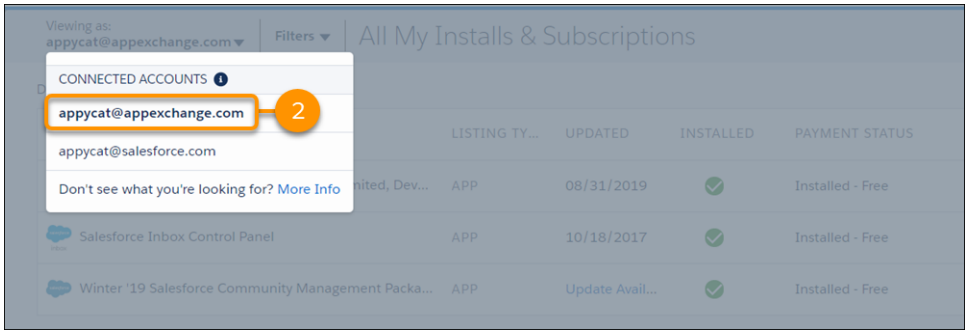
対象: Trailblazer.me は、AppExchange、イベント、IdeaExchange、Trailblazer Community、Trailhead ユーザが使用できます。パートナーコミュニティは Trailblazer.me 機能を使用しませんが、Trailblazer.me は一部のプロファイルデータをパートナーコミュニティプロファイルと共有しています。

時期: Trailblazer.me は、2020 年 1 月 に正式リリースされます。

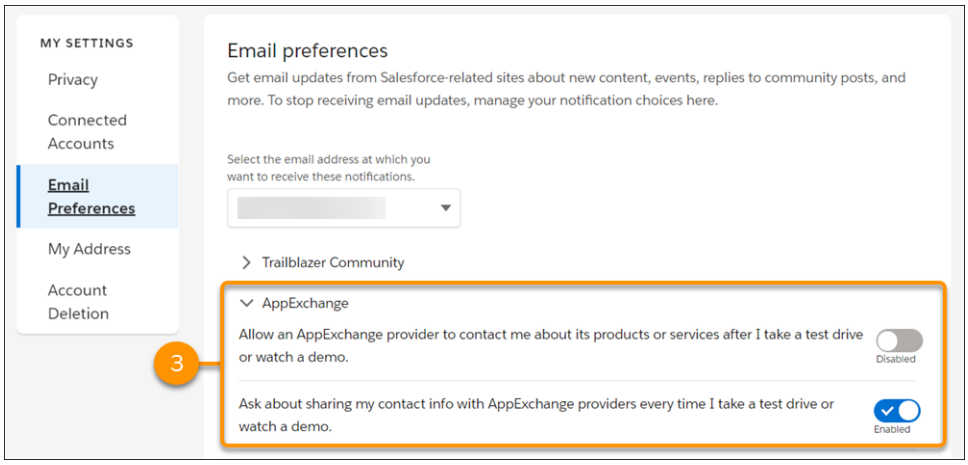
理由: Trailblazer.me の目的は Salesforce の ID を簡略化することであり、そのアイデアは AppExchange に拡大されています。



AppExchange アカウントスイッチャ (1) により、本番環境と Sandbox などの複数の組織からのインストールとサブスクリプションの管理方法が合理化されます。Salesforce アカウントを Trailblazer.me に接続すると、関連する組織がアカウントスイッチャに表示されます。



アカウントのインストールとサブスクリプションを表示するには、関連付けられたユーザ名 (2) をクリックします。アカウントが見つからない場合は、Trailblazer.me に接続されていることを確認します。次に、アカウントに関連組織の「請求情報の管理」権限が割り当てられていることを確認します。



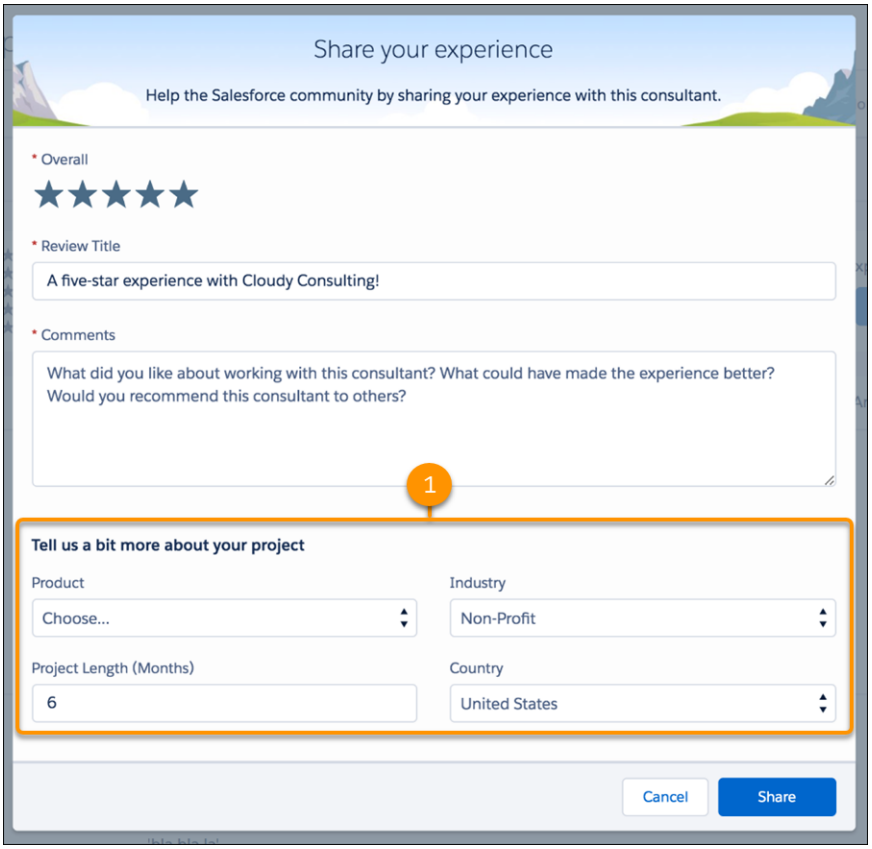
Trailblazer.me では、AppExchange から受信する通知 (3) を含む、すべてのアカウント設定を 1 か所で管理できるようになりました。通知設定を更新するには、Trailblazer.me プロファイルの [Email Preferences (メール設定)] ページに移動します。

AppExchange の Salesforce コンサルタントの詳細なレビューによる確実な採用

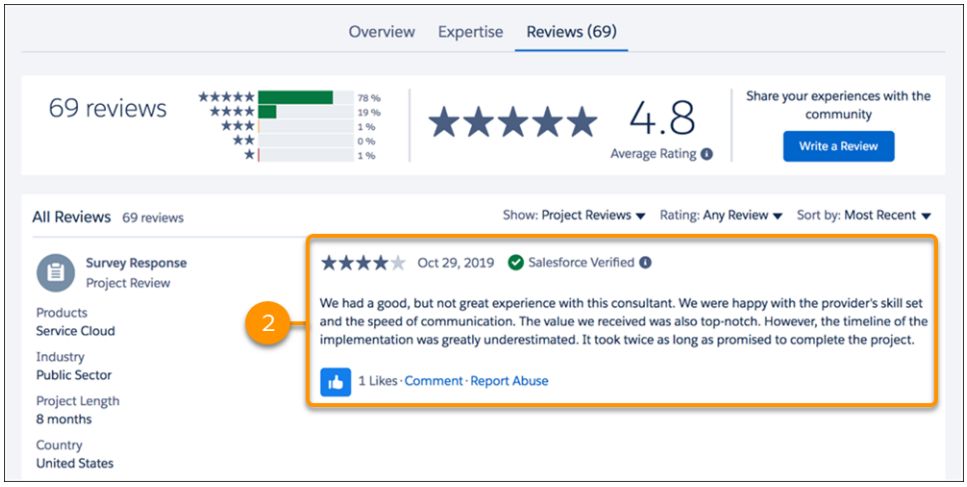
Salesforce コンサルタントの AppExchange レビューでは、コンサルタントが遂行した作業の詳細 (業種など) が示されるようになりました。また、コンサルタントを採用する場合に新しい種別のフィードバック (確認済みプロジェクトレビュー) を考慮することもできます。確認済みレビューは、コンサルタントのプロジェクトパフォーマンスに関して Salesforce に直接提供された顧客フィードバックに基づきます。

対象: この変更は AppExchange Web サイトに適用されます。

理由: 多くの場合、商品を購入するときは、購入する前に他の人の体験を確認します。そこでレビューが登場します。Salesforce コンサルタントを採用するときもレビューが同様に重要になります。AppExchange の新しいコンサルタントレビュー環境を使用すると、コミュニティフィードバックを採用プロセスに今までよりも容易に追加できます。



AppExchange コミュニティメンバーからのレビューにより、コンサルタントが実行した作業の詳細が提供されるようになりました。たとえば、コミュニティメンバーは、実装で使用した製品、プロジェクトの長さ、業種 (1) を指定できます。この詳細情報は、採用の対象のプロジェクトに最も関連するレビューを特定するのに役立つ可能性があります。



確認済みプロジェクトレビューは、AppExchange コミュニティの個々のメンバーからのフィードバック (2) を補完します。確認済みプロジェクトレビューは、Salesforce が直接管理する顧客満足度調査に基づきます。このプ

ロセスは次のように機能します。コンサルタントがプロジェクトを終了したことを Salesforce に通知します。Salesforce はコンサルタントの顧客に体験について尋ねます。次に、Salesforce はコンサルタントの AppExchange リストの [レビュー] タブで顧客のフィードバックを共有します。このレビューには *「Salesforce Verified (Salesforce 確認済み)」* の表示ラベルが指定されています。

一般設定: カスタム設定の機能強化、拡張外部サービスとの接続の改善

カスタム設定にアクセスできるユーザの保護と制御を行います。拡張外部サービスを使用して外部サービスへのより適切な接続を作成します。

このセクションの内容:

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要(重要な更新、適用済み)
この重要な更新の一部として、保護されていないカスタム設定を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタム設定を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

開発者およびスクラッチ組織のカスタム設定の保護
[表示] 項目は、管理パッケージを作成できる開発者組織またはスクラッチ組織でのみ使用可能になりました。カスタム設定を作成するときに、パッケージ種別と [表示] 項目によって、カスタム設定が公開か非公開かが決まります。保護されたカスタム設定は開発者組織またはスクラッチ組織でのみ作成可能で、その後管理パッケージでリリースされます。さらに、[表示] 項目を [保護] に設定する必要があります。

カスタム設定への参照アクセス権を取得するユーザの制御
プロファイルおよび権限セットを介して特定のカスタム設定への直接参照アクセスを許可することで、詳細なレベルでカスタム設定のアクセス権を制御できるようになりました。

拡張外部サービスの接続方法の追加 (正式リリース)
拡張外部サービスは正式リリースされており、デフォルトで有効になっています。使い方は簡単で、外部サービスを作成して接続するためのより多くの方法が提供されています。サービスを登録するときに、より複雑な OpenAPI 2.0 スキーマ、ネストされたオブジェクト種別がサポートされ、HTTP 要求内のヘッダーとしてパラメータを送信できます。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (重要な更新)
Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。Summer '20 以降、このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の参照」権限が必要になります。この重要な更新は、[作成者] や [最終更新者] などのシステム項目にも適用されます。

Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護
Salesforce Data Mask は Salesforce システム管理者および開発者向けの強力な新しいデータセキュリティリソースです。Sandbox 組織のデータおよびアクセスを手動で保護する代わりに、システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

システム管理者タスクに関する権限の変更

権限または権限セットグループにアクセスするには、ユーザに「設定・定義を参照する」権限か、権限セットまたはユーザを管理するための同等の権限 (「セッション権限セットの有効化を管理」、「ユーザの管理」、「権限セットの割り当て」など) が必要です。

ユーザ設定の管理に関する変更

他のユーザの UserPreference レコードに SOAP API でアクセスできるのは、「すべてのデータの参照」または「ユーザの管理」権限のあるユーザですが、自分の UserPreference レコードには各ユーザがアクセスできます。

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新の一部として、保護されていないカスタム設定を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタム設定を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、2020 年 1 月 2 日に Spring '20 リリースで Sandbox インスタンスに適用されるようにスケジュールされています。これは 2020 年 1 月 2 日にすべてのインスタンスにロールアウトされるわけではありません。Sandbox インスタンスは、本番環境にリリースされる 4 ～ 6 週間前にアップグレードされます。インスタンスの正確な有効化日を確認するには、https://status.salesforce.com を参照してください。

方法: この重要な更新がインスタンスに適用されると、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは、カスタム設定にアクセスできなくなります。ユーザへの影響を最小限に抑えるため、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、特定のカスタム設定またはすべてのカスタム設定への参照アクセス権を付与できます。

特定のプロファイルまたは権限セットにカスタム設定への参照アクセス権を付与する手順は、次のとおりです。

1. アクセス権の付与先のプロファイルまたは権限セットに移動します。
2. [カスタム設定の定義] 権限をクリックします。
3. [編集] をクリックし、カスタム設定を [有効にされたカスタム設定定義] リストに追加し、[保存] をクリックします

プロファイルまたは権限セットにすべてのカスタム設定への参照アクセス権を付与する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から「プロファイル」または「権限セット」を検索し、プロファイルまたは権限セットの名前をクリックして [編集] をクリックします。
2. [システム管理者権限] セクションで、「すべてのカスタム設定の表示」権限を有効化します。
3. [保存] をクリックします。

[カスタム設定へのアクセスを制限] 権限が有効になっていると、権限が次のように適用されます。

- 「アプリケーションのカスタマイズ」権限 — すべてのカスタム設定への参照および更新アクセス。

- カスタム設定の定義—システムコンテキスト以外の特定のカスタム設定への参照アクセス。プロファイルや権限セットを使用して、ユーザにアクセス権を付与する必要があります。
- 「すべてのカスタム設定を表示」権限—システムコンテキスト以外のすべてのカスタム設定への参照アクセス。
- 「設定・定義を参照する」権限 — [設定] のカスタム設定への参照アクセス。プロファイルや権限セットを使用して、特定のカスタム設定へのアクセス権をユーザに付与するか、「すべてのカスタム設定を表示」権限をユーザに付与する必要があります。

通常、Apex はシステムモードで実行されるため、コード実行中に現在のユーザの権限と項目レベルセキュリティは考慮されません。重要な更新は、システムモードのカスタム設定のアクセシビリティに影響しません。`isAccessible` などの Apex メソッドのコールは、実行ユーザがシステムモード以外でアクセスできるかどうかを示します。この重要な更新を有効にした後にユーザにオブジェクトへのアクセス権が付与されていない場合、`isAccessible` をコールすると `false` が返されます。たとえば、プロファイルを使用した取引先責任者へのアクセスがユーザに許可されていない場合、`isAccessible` は `false` を返します。

推奨される方法ではありませんが、[スキーマ設定] の [カスタム設定へのアクセスを制限] 権限をオフにすることでこの重要な更新を無効化できます。このスキーマ設定権限は、組織全体のセキュリティに関する重要な更新に該当します。

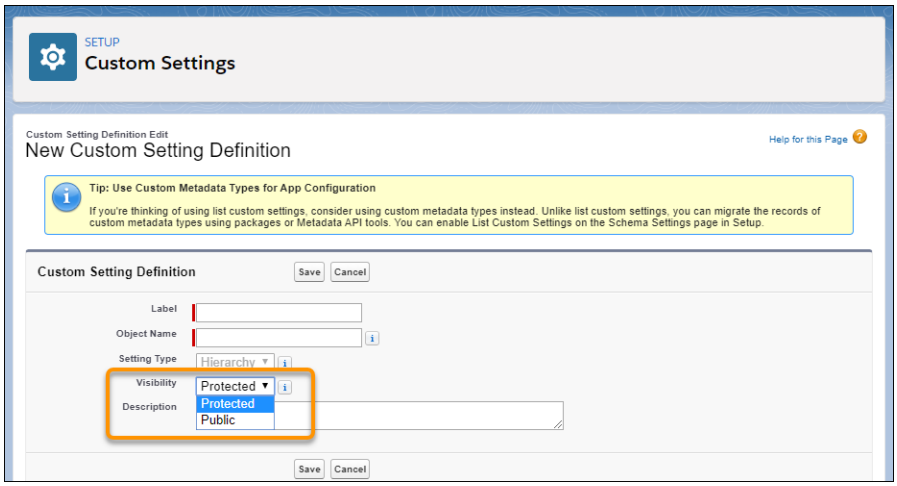
1. [設定] に移動し、[スキーマ設定] を検索します。
2. [カスタム設定へのアクセスを制限] をオフにします。

開発者およびスクラッチ組織のカスタム設定の保護

[表示] 項目は、管理パッケージを作成できる開発者組織またはスクラッチ組織でのみ使用可能になりました。カスタム設定を作成するときに、パッケージ種別と [表示] 項目によって、カスタム設定が公開か非公開かが決まります。保護されたカスタム設定は開発者組織またはスクラッチ組織でのみ作成可能で、その後管理パッケージでリリースされます。さらに、[表示] 項目を [保護] に設定する必要があります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 機密情報を保存する場合、開発者組織またはスクラッチ組織で保護されたカスタム設定を作成し、[表示] 項目を [保護] に設定してから、管理パッケージでリリースします。



- [保護] に設定され、管理パッケージとしてリリースされているカスタム設定は、登録側組織からアクセスできません。ただし、管理パッケージに含まれている Apex コードから情報にアクセスできます。
- [公開] に設定されているか、未管理パッケージに含まれているカスタム設定は、Enterprise WSDL ファイルを介して表示できます。登録側組織は、Apex および SOAP API を使用して値にアクセスしたり、値を編集したりできます。

カスタム設定への参照アクセス権を取得するユーザの制御

プロファイルおよび権限セットを介して特定のカスタム設定への直接参照アクセスを許可することで、詳細なレベルでカスタム設定のアクセス権を制御できるようになりました。

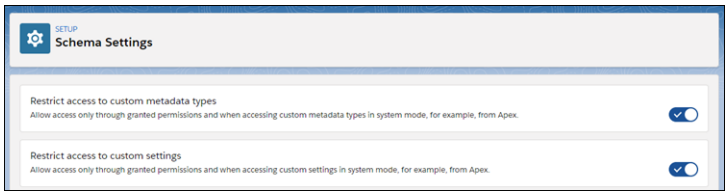
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: これは、Winter '20 リリースに追加された最新の機能です。

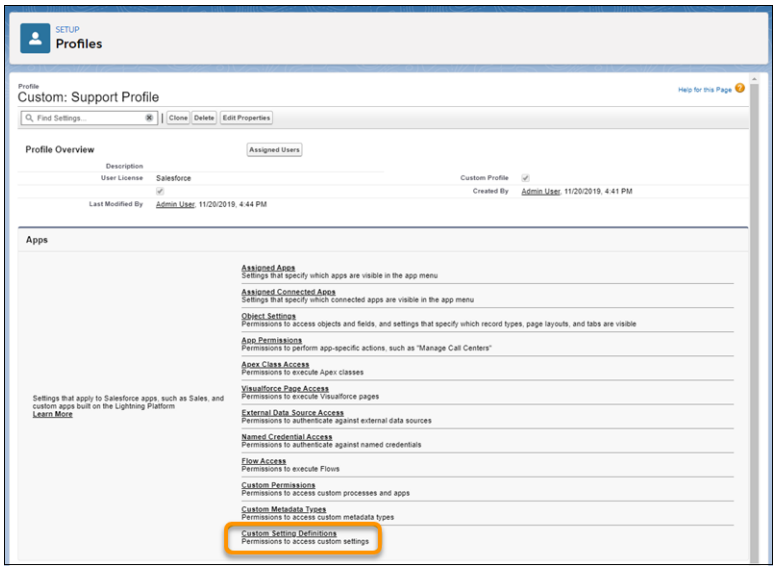
対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、プロファイルや権限セットを使用して特定のカスタム設定への参照アクセス権を付与できます。

方法: プロファイルまたは権限セットに特定のカスタム設定への参照アクセス権を付与するには、「カスタム設定へのアクセスを制限」組織権限を有効にします。次に、特定のカスタム設定へのアクセスを有効にします。

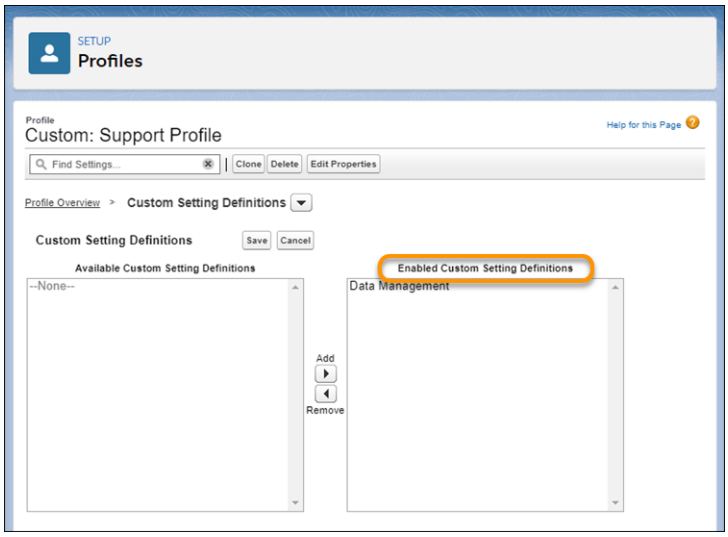
1. [設定] から、「スキーマ設定」を検索して「カスタム設定へのアクセスを制限」組織権限が有効になっていることを確認します。



2. [プロファイル] または [権限セット] の [設定] ページから、[カスタム設定の定義] をクリックします。



3. カスタム設定を [有効にされたカスタム設定定義] リストに追加します。



[カスタム設定へのアクセスを制限] が有効になっていると、権限が次のように適用されます。

- 「アプリケーションのカスタマイズ」権限 — すべてのカスタム設定への参照および更新アクセス。
- カスタム設定の定義 — システムコンテキスト以外の特定のカスタム設定への参照アクセス。プロファイルや権限セットを使用して、ユーザにアクセス権を付与する必要があります。
- 「すべてのカスタム設定を表示」権限 — システムコンテキスト以外のすべてのカスタム設定への参照アクセス。
- 「設定・定義を参照する」権限 — [設定] のカスタム設定への参照アクセス。プロファイルや権限セットを使用して、特定のカスタム設定へのアクセス権をユーザに付与するか、「すべてのカスタム設定を表示」権限をユーザに付与する必要があります。

拡張外部サービスの接続方法の追加 (正式リリース)

拡張外部サービスは正式リリースされており、デフォルトで有効になっています。使い方は簡単で、外部サービスを作成して接続するためのより多くの方法が提供されています。サービスを登録するときに、より複雑な OpenAPI 2.0 スキーマ、ネストされたオブジェクト種別がサポートされ、HTTP 要求内のヘッダーとしてパラメータを送信できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 拡張外部サービスを有効にしたら、以前と同じ方法で新しい外部サービスを登録します。スキーマによって生成されたアクションは、Flow Builder の外部サービスアクションとして作成されます。

既存の登録は、自動的には拡張外部サービスに移行されません。既存の登録で拡張外部サービスの新機能を使用するには、スキーマを再登録し、古い Apex アクションを使用するフローを新しい拡張外部サービスアクションに更新し、古い登録を削除する必要があります。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (重要な更新)

Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。Summer '20 以降、このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の参照」権限が必要になります。この重要な更新は、[作成者] や [最終更新者] などのシステム項目にも適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、Summer '20 リリースのロールアウトで適用されます。

方法: システム管理者はカスタムプロファイルまたは権限セットで「すべての参照レコード名の参照」権限を有効にすることができます。共有設定に関係なく、すべての参照項目およびシステム項目でレコード名を表示する必要があるユーザに対してのみ、この権限を有効にします。

この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストしてから本番組織で有効にすることをお勧めします。

Summer '20 より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力して、[重要な更新] を選択します。[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] で [有効化] をクリックします。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート

Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護

Salesforce Data Mask は Salesforce システム管理者および開発者向けの強力な新しいデータセキュリティリソースです。Sandbox 組織のデータおよびアクセスを手動で保護する代わりに、システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Data Mask では、プラットフォームのネイティブな難読化テクノロジを使用して、任意の Full Sandbox または Partial Copy Sandbox 内にある機密データをマスクします。マスクプロセスでは、データの機密性に応じて異なるマスクレベルで一部またはすべての機密データをマスクできます。データをマスクするとマスク解除できなくなります。この元に戻せないプロセスを使用すると、データを判読可能または認識可能な方法で別の環境に複製することはできなくなります。

方法: Data Mask は、本番組織にインストールする管理パッケージです。その後、本番組織から作成された任意の Sandbox からマスクプロセスを実行します。

システム管理者タスクに関する権限の変更

権限または権限セットグループにアクセスするには、ユーザに「設定・定義を参照する」権限か、権限セットまたはユーザを管理するための同等の権限 (「セッション権限セットの有効化を管理」、「ユーザの管理」、「権限セットの割り当て」など) が必要です。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

ユーザ設定の管理に関する変更

他のユーザの UserPreference レコードに SOAP API でアクセスできるのは、「すべてのデータの参照」または「ユーザの管理」権限のあるユーザですが、自分の UserPreference レコードには各ユーザがアクセスできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

セキュリティ、プライバシー、ID: ID 検証オプションの増加、[私のドメイン] の変更、プラットフォームイベントの暗号化

Apple ID、Face ID、または Touch ID を使用した認証を許可して、ユーザの認証オプションを増やすことができます。または、SMS による認証のみを許可してより厳格な要件を設定できます。接続アプリケーションを介した Salesforce API への外部ユーザアクセスを制限できます。[私のドメイン] の証明書と URL の形式が変更されます。また、Salesforce Event Monitoring ストリミングイベントを含むすべてのプラットフォームイベントを暗号化できます。

このセクションの内容:

認証と ID: Apple サインイン、ID 検証、API アクセスコントロール

組織とコミュニティで Apple サインインを有効にすると、ユーザは自分の Apple ID、Face ID、または Touch ID で認証できるようになります。ドメイン検証ファイルを外部サービスに置いて、メールよりも安全な検証方法を有効化することで、ID 検証のセキュリティを高めます。組織やコミュニティにインストールされている接続アプリケーション経由での Salesforce API へのユーザアクセスを制限します。そして、署名要求メソッドをシングルログアウトに適用し、OAuth 認証要求を承認するまでの時間を長くして、ブリッジされた OAuth セッションをトラブルシューティングします。

ドメイン: Salesforce Edge、インスタンスのない URL、[私のドメイン] の証明書の変更

[私のドメイン] を使用している顧客の場合、証明書が変更され、Salesforce Edge を使用したドメイン要求を迅速化できます。重要な更新または Sandbox の更新により、[私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。

Salesforce Shield: Event Monitoring Analytics アプリケーションの改善とプラットフォームイベントのプラットフォーム暗号化

Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンスが向上しました。従来のトランザクションセキュリティポリシーフレームワークは Summer '20 で廃止されます。Shield Platform Encryption は、変更データキャプチャイベントに加えてプラットフォームイベントもサポートするようになりました。

データ保護とプライバシー: 関係者の同意、コミュニケーション登録、連絡先オブジェクト

顧客の全般的な同意設定および登録したコミュニケーションに関連したデータを保存できます。また、個人または個人取引先に複数のメールアドレスまたは電話番号を関連付けて、希望する時間と連絡することに対する同意を管理することもできます。

その他のセキュリティの変更: ゲストユーザレコードの割り当て、外部 URL ホワイトリスト、設定の強化

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を設定します。ユーザが直接移動できる外部 URL をホワイトリストに登録します。また、セッションセキュリティレベルポリシーと設定変更履歴が改善されました。

認証と ID: Apple サインイン、ID 検証、API アクセスコントロール

組織とコミュニティで Apple サインインを有効にすると、ユーザは自分の Apple ID、Face ID、または Touch ID で認証できるようになります。ドメイン検証ファイルを外部サービスに置いて、メールよりも安全な検証方法を有効化することで、ID 検証のセキュリティを高めます。組織やコミュニティにインストールされている接続アプリケーション経由での Salesforce API へのユーザアクセスを制限します。そして、署名要求メソッドをシングルログアウトに適用し、OAuth 認証要求を承認するまでの時間を長くして、ブリッジされた OAuth セッションをトラブルシューティングします。

このセクションの内容:

ユーザが Apple ID で Salesforce 組織にログインできるようにする

新しい Apple 認証プロバイダを使用すると、ユーザは Apple ID を使用して Salesforce 組織またはコミュニティにログインできます。

外部サービス用のドメイン名の確認

一部の外部サービスでは、ドメイン名に対する制御を証明する必要があります。ドメイン設定ページからドメイン名を確認できるようになりました。

メールによる ID 検証の防止

すべての新しい Salesforce 組織は、ユーザが他の ID 検証方法を登録していない場合にのみメールでの ID 検証を行うように設定されます。使用できる ID 検証方法としては、Salesforce Authenticator、SMS、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP)、物理キー (U2F)、そしてメールがあります。[ID 検証] ページと [セッション設定] ページには、新しい設定の [他の方法が登録されている場合、メールによる ID 検証を防止する] が表示されます。既存の組織でセキュリティを高めるには、この設定を有効にすることをお勧めします。

外部ユーザによる API アクセスの制限

セキュリティを強化するために、組織にインストールされた接続アプリケーションを使用してコミュニティおよびポータル (外部) ユーザによる Salesforce API へのアクセスを制限できます。以前は、外部ユーザによる Salesforce API へのアクセスのみを制限することはできませんでした。

シングルログアウト設定への署名要求メソッドの適用

シングルサインオンでは、署名要求メソッド (RSM) が暗号化された要求のハッシュアルゴリズム (RSA-SHA1 または RSA-SHA256) に適用されます。選択したシングルサインオン RSM をシングルログアウト (SLO) 設定に適用できるようになりました。

OAuth 承認ページのタイムアウトの延長

OAuth 承認ページで接続アプリケーションへのアクセスを承認する猶予期間が 2 時間になりました。以前は、このページは 15 分後にタイムアウトになっていました。

コンテンツ、Visualforce、Lightning ページのセッション状況の確認

Salesforce コンテンツ、Visualforce、Lightning ページが読み込まれない場合、Salesforce OpenID Connect トークンイントロスペクションエンドポイントの新しい `child_session` パラメータを使用してそのセッション状況を確認できます。たとえば、状況が無効 (期限切れのセッション) または欠落 (存在しないセッション) のページでは認証済みのセッションがなくなるため、ユーザは Salesforce 組織にログインし直す必要があります。

組織をデータソースとしてクロスクラウドアプリケーションに接続することをユーザに許可

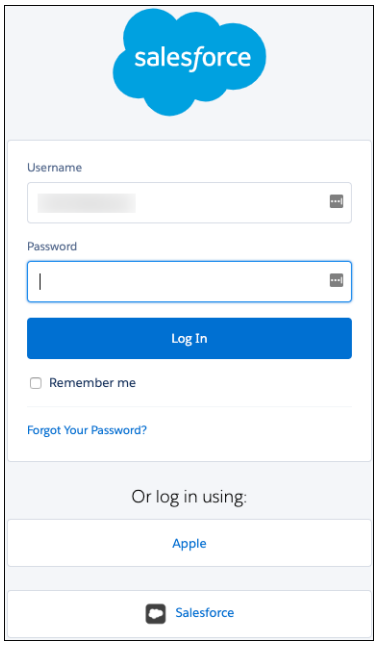
Salesforce システム管理者は、Salesforce 組織をデータソースとしてクロスクラウド Salesforce アプリケーション (Customer 360 Data Manager) に接続するための権限を、指定されたシステム管理者に付与できます。組織をデータソースとして接続すると、エンタープライズ全体にわたって顧客データを接続して顧客の単一ビューを作成できます。たとえば、サービスエージェントは、Commerce Cloud に移動しなくてもサービスコンソールで顧客の注文履歴を参照できます。

ユーザが Apple ID で Salesforce 組織にログインできるようにする

新しい Apple 認証プロバイダを使用すると、ユーザは Apple ID を使用して Salesforce 組織またはコミュニティにログインできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ユーザが Apple ID でログインできるようにするには、[Salesforce 認証プロバイダの設定] ページで Apple 認証プロバイダを作成します。認証プロバイダを設定して Salesforce とコミュニティのログインページに Apple サインインボタンが追加されると、ユーザは自分の Apple ログイン情報でログインできるようになります。



メモ: Apple認証プロバイダは[設定]ページからのみ作成でき、APIを使用して作成することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Apple 認証プロバイダの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:外部認証プロバイダ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部サービス用のドメイン名の確認

一部の外部サービスでは、ドメイン名に対する制御を証明する必要があります。ドメイン設定ページからドメイン名を確認できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 外部サービスは、さまざまな方法でドメインの所有権を確認します。Apple でサインインなど、一部の外部サービスは確認用のファイルを用意しており、ユーザはこのファイルを自分のコンピューターにダウンロードします。そのファイルを、外部サービスによって指定された自分のドメイン内の場所に保存します。サービスがファイルを見つけることができれば、ドメインの所有権は確認されたことになります。

方法:[私のドメイン]やコミュニティドメインの確認は、ドメインの[設定]ページで行います。ドメインの隣にある[検証]をクリックして、外部サービスからダウンロードした検証ファイルを選択します。Salesforce は、外部サービスによって指定された場所にファイルを保存します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部サービスを使用したドメインの検証 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールによる ID 検証の防止

すべての新しい Salesforce 組織は、ユーザが他の ID 検証方法を登録していない場合にのみメールでの ID 検証を行うように設定されます。使用できる ID 検証方法としては、Salesforce Authenticator、SMS、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP)、物理キー (U2F)、そしてメールがあります。[ID 検証] ページと [セッション設定] ページには、新しい設定の[他の方法が登録されている場合、メールによる ID 検証を防止する]が表示されます。既存の組織でセキュリティを高めるには、この設定を有効にすることをお勧めします。

対象: この機能は、Salesforce Classic と Lightning Experience のすべてのエディションに適用されます。また、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティにも適用されます。SMS 検証メッセージは、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで使用できます。ID 検証クレジットのアドオンライセンスは、すべてのエディションで購入できます。

対象ユーザ:ID検証クレジットライセンスを持ち、テキストメッセージによるデバイスの有効化を使用するユーザは、テキストメッセージによる ID 検証を有効にできます。ID 検証用の SMS メッセージの組織の制限が不明な場合は、Salesforce 営業担当者にお問い合わせください。外部ユーザのプロファイルの [デバイスの有効化を有効化] オプションを使用すると、外部ユーザはテキストメッセージによる ID 検証ができます。

方法: [設定] から [クイック検索] ボックスに *「ID 検証」* と入力し、[他の方法が登録されている場合、メールによる ID 検証を防止する] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ユーザに ID 検証を求めるタイミングの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部ユーザによる API アクセスの制限

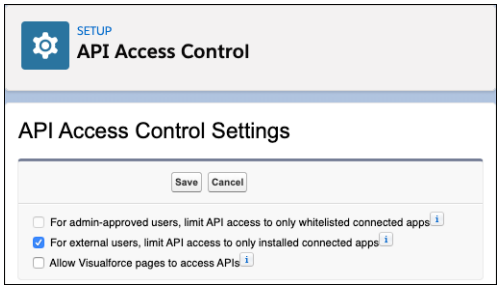
セキュリティを強化するために、組織にインストールされた接続アプリケーションを使用してコミュニティおよびポータル(外部)ユーザによる Salesforce API へのアクセスを制限できます。以前は、外部ユーザによる Salesforce API へのアクセスのみを制限することはできませんでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この機能は外部ユーザにのみ適用されます。

方法: 組織で API アクセスコントロールを有効にするには、Salesforce のカスタマーサポートまでご連絡ください。次に、[外部ユーザの場合、API アクセスをインストール済み接続アプリケーションのみに制限します] を有

効化します。[接続アプリケーションの OAuth 利用状況] ページで OAuth 接続アプリケーションをインストールします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: API アクセスの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

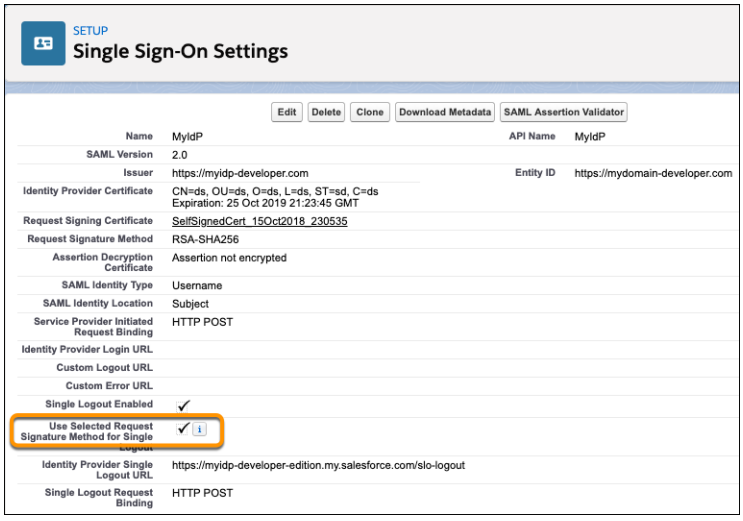
Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーションの OAuth アクセスポリシーの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

シングルログアウト設定への署名要求メソッドの適用

シングルサインオンでは、署名要求メソッド (RSM) が暗号化された要求のハッシュアルゴリズム (RSA-SHA1 または RSA-SHA256) に適用されます。選択したシングルサインオン RSM をシングルログアウト (SLO) 設定に適用できるようになりました。

対象: この変更は、統合認証についてはすべてのエディション、代理認証については Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: SLO 中に [シングルログアウトに選択された署名要求メソッドを使用] を選択して、選択した署名要求メソッドを適用します。このオプションを選択しない場合、デフォルトの RSM (RSA-SHA1) が適用されます。



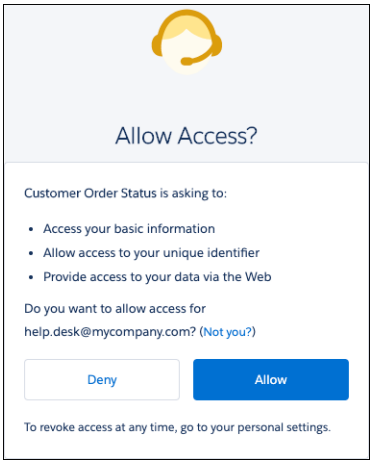
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: シングルログアウト用の SAML 設定 (Salesforce がサービスプロバイダの場合) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

OAuth 承認ページのタイムアウトの延長

OAuth 承認ページで接続アプリケーションへのアクセスを承認する猶予期間が 2 時間になりました。以前は、このページは 15 分後にタイムアウトになっていました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。



コンテンツ、Visualforce、Lightning ページのセッション状況の確認

Salesforce コンテンツ、Visualforce、Lightning ページが読み込まれない場合、Salesforce OpenID Connect トークンイントロスペクションエンドポイントの新しい `child_session` パラメータを使用してそのセッション状況を確認できます。たとえば、状況が無効 (期限切れのセッション) または欠落 (存在しないセッション) のページでは認証済みのセッションがなくなるため、ユーザは Salesforce 組織にログインし直す必要があります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: OAuth はアクセストークンの拡張機能を他の認証フレームワークに対するブリッジとしてサポートしています。Salesforce では、この拡張機能はユーザが Salesforce 組織に正常にログインした後で Salesforce コンテンツ、Visualforce、Lightning ページにアクセスしたときに実装されます。これらのページは、組織の認証済みセッションをブリッジとして使用して子セッションとして起動されます。ただし、子セッションの組織のセッションからの最新のアクセストークンがない場合、起動に失敗します。

方法: Salesforce OpenID Connect トークンイントロスペクションエンドポイントに対する POST 要求に新しい `child_sessions` パラメータを含めます。このパラメータは、有効な組織のセッションのイントロスペクションのためにしか含めることができません。更新トークンのイントロスペクションでは機能しません。

組織をデータソースとしてクロスクラウドアプリケーションに接続することをユーザに許可

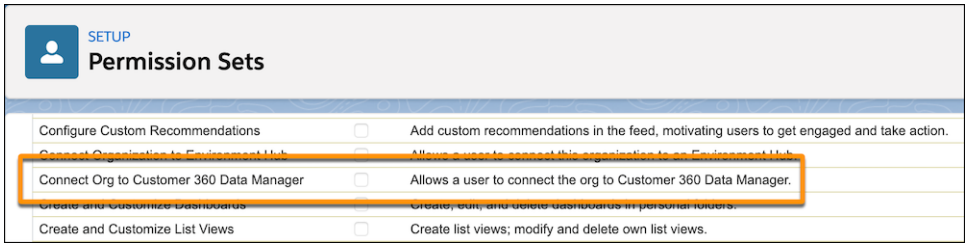
Salesforce システム管理者は、Salesforce 組織をデータソースとしてクロスクラウド Salesforce アプリケーション (Customer 360 Data Manager) に接続するための権限を、指定されたシステム管理者に付与できます。組織をデータソースとして接続すると、エンタープライズ全体にわたって顧客データを接続して顧客の単一ビューを作成できます。たとえば、サービスエージェントは、Commerce Cloud に移動しなくてもサービスコンソールで顧客の注文履歴を参照できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: このユーザ権限は、Winter '20 リリースで追加されました。

対象ユーザ: Salesforce システム管理者については、「Customer 360 Data Manager への組織の接続」権限が自動的に有効化されます。

方法: 組織で、「Customer 360 Data Manager への組織の接続」権限を付与する権限セットを作成します。接続を作成する、指定されたシステム管理者にこの権限セットを割り当てます。接続を作成するには、システム管理者は組織にログインする必要があります。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: データソースへの接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: データソースとしての組織の接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 権限セット (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドメイン: Salesforce Edge、インスタンスのない URL、[私のドメイン] の証明書の変更

[私のドメイン] を使用している顧客の場合、証明書が変更され、Salesforce Edge を使用したドメイン要求を迅速化できます。重要な更新または Sandbox の更新により、[私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。

このセクションの内容:

[私のドメイン] の証明書の変更に向けた準備
本番組織の [私のドメイン] で使用する証明書が変更されます。[私のドメイン] では、単一の *.my.salesforce.com 証明書ではなく、インスタンス特有の *.InstanceName.force.com 証明書を使用します。この更新に備えて、API インテグレーションのテストをお勧めします。また、現在の *.my.salesforce.com 証明書が固定されている場合は、この証明書を更新する必要があります。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (以前にリリース済みの重要な更新)
[私のドメイン]に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン]のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)
Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com が MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com に置き換えられます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

新規および更新後の Sandbox での [私のドメイン] URL の安定化
URL からインスタンス名を削除することによるドメインを安定化させる取り組みの一環として、Sandbox の [私のドメイン] URL の形式が変更されます。リリース済みの [私のドメイン] を持つ Sandbox を作成または更新すると、ホスト名に含まれる Sandbox 名が小文字になります。また、重要な更新の [Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)] と [Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除] が自動的に有効になります。これらの重要な更新により、Sandbox URL からインスタンス名が削除されます。

[私のドメイン] の証明書の変更に向けた準備

本番組織の [私のドメイン] で使用する証明書が変更されます。[私のドメイン] では、単一の *.my.salesforce.com 証明書ではなく、インスタンス特有の *.InstanceName.force.com 証明書を使用します。この更新に備えて、API インテグレーションのテストをお勧めします。また、現在の *.my.salesforce.com 証明書が固定されている場合は、この証明書を更新する必要があります。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: [私のドメイン] の証明書の変更は、2020 年 1 月から 3 月に掛けて行われます。

方法: Spring '20 リリースで本番組織が更新される前に、Sandbox でこの変更をテストすることをお勧めします。Sandbox で [Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)] を有効化して、新しい `*.InstanceName.force.com` 証明書形式を採用します。現在の `*.my.salesforce.com` 証明書を固定してある場合は、各インスタンスで `*.InstanceName.force.com` も固定してください。

> **メモ:** 一貫性を保証するため、すべての Sandbox 環境と本番組織で [Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)] を有効化することをお勧めします。

その後、Salesforce をコールアウトする API インテグレーションをテストします。Sandbox と本番組織で新しい証明書の互換性を検証します。これらの API インテグレーションが証明書を固定している場合は、各インスタンスで `*InstanceName.force.com` 証明書も固定する必要があります。

証明書の変更に関する通知を受け取るには、Trailblazer グループの「証明書の変更」に参加してください。

関連トピック:

- Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)
- *Salesforce* ドキュメント: 証明書の変更に向けた Salesforce サービスの準備方法
- *Trailblazer Community*: 証明書の変更

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (以前にリリース済みの重要な更新)

[私のドメイン] に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は Winter '20 で承認できます。承認しない場合、この更新は 2020 年 7 月 13 日に自動的に有効化されます。

対象ユーザ: [私のドメイン] またはカスタムドメインを持つ顧客のみを Salesforce Edge に移行できます。現在、Salesforce Government Cloud 組織は Salesforce Edge への移行から除外されています。

方法: この重要な更新を承認するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送] の横にある [承認] をクリックします。

関連トピック:

- *Winter '20* リリースノート: Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 重要な更新とセキュリティアラート

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、本番組織では 2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になります。Sandbox 組織では、作成時または更新時に自動的に有効になります。

方法: この更新を Sandbox でテストして、ユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで新しい URL が動作することを確認することをお勧めします。

この重要な更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の安定化] で [有効化] をクリックします。

サービスプロバイダ (SP) が開始する SAML を使用している場合は、ID プロバイダ (IdP) と連携して、Sandbox の安定した [私のドメイン] ホスト名を使用してください。

既存の Sandbox 組織がある場合、それらの Sandbox 組織で重要な更新を有効にします。この重要な更新を本番組織で有効にすると、新しい Sandbox 組織と更新された Sandbox 組織にその更新が適用されます。

関連トピック:

Summer '18 リリースノート: Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティアラート

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、本番組織では 2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になります。Sandbox 組織では、作成時または更新時に自動的に有効になります。

理由: URL からインスタンス名が削除されるときに、ホスト名が変更されます。次に例を示します。

- `mydomain--c.na1.visual.force.com` は `mydomain--c.visualforce.com` になります。

- mydomain--c.na1.content.force.com は mydomain--c.documentforce.com になります。

すべての *.content.force.com URL は、*.documentforce.com になります。

方法: この更新を Sandbox でテストして、ユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで新しい URL が動作することを確認することをお勧めします。ホスト名で絞り込まれているファイアウォールとプロキシサーバは、次のドメインも信頼する必要があります。

- *.visualforce.com
- *.documentforce.com
- *.salesforce-communities.com

この重要な更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除] で [有効化] をクリックします。

メモ: この更新により、Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL にアクセスしているユーザがログアウトされる可能性があります。中断を最小限に抑えるため、この重要な更新の有効化はピーク時間外に行うことをお勧めします。

関連トピック:

Salesforce Spring '18 リリースノート: Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除 (重要な更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティアラート

新規および更新後の Sandbox での [私のドメイン] URL の安定化

URL からインスタンス名を削除することによるドメインを安定化させる取り組みの一環として、Sandbox の [私のドメイン] URL の形式が変更されます。リリース済みの [私のドメイン] を持つ Sandbox を作成または更新すると、ホスト名に含まれる Sandbox 名が小文字になります。また、重要な更新の [Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)] と [Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除] が自動的に有効になります。これらの重要な更新により、Sandbox URL からインスタンス名が削除されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象: Sandbox のソース組織で [私のドメイン] をリリースしているお客様。

理由: インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。Sandbox を作成または更新すると、URL のホスト名形式が変更されます。次に例を示します。

- mydomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com は mydomain--sandboxname.my.salesforce.com になります。
- mydomain--c.cs5.visual.force.com は mydomain--c.visualforce.com になります。
- mydomain--c.cs5.content.force.com は mydomain--c.documentforce.com になります。

すべての *.content.force.com URL は、*.documentforce.com になります。

方法: Sandbox を作成または更新した後で、新しい URL をテストすることをおすすめします。これらがユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで動作することを確認してください。

サービスプロバイダ (SP) が開始する SAML を使用している場合は、ID プロバイダ (IdP) と連携して、Sandbox の安定した [私のドメイン] ホスト名を使用してください。

ホスト名で絞り込まれているファイアウォールとプロキシサーバは、次のドメインも信頼する必要があります。

- `*.visualforce.com`
- `*.documentforce.com`
- `*.salesforce-communities.com`

関連トピック:

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)

Salesforce Shield: Event Monitoring Analytics アプリケーションの改善とプラットフォームイベントのプラットフォーム暗号化

Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンスが向上しました。従来のトランザクションセキュリティポリシーフレームワークは Summer '20 で廃止されます。Shield Platform Encryption は、変更データキャプチャイベントに加えてプラットフォームイベントもサポートするようになりました。

このセクションの内容:

Shield Platform Encryption: プラットフォームイベントの暗号化
Shield Platform Encryption は、プラットフォームイベントもサポートするようになり、重要な情報が関与するイベントをさらに強力に保護できます。重要な更新でシステム管理者プロファイルから「暗号化鍵の管理」権限が削除されます。

イベントモニタリング: 従来のトランザクションセキュリティの廃止、Event Monitoring Analytics アプリケーションの改善
従来のトランザクションセキュリティフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されますので、現在のポリシーは強化されたフレームワークに移行してください。また、Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンスが向上しました。

Shield Platform Encryption: プラットフォームイベントの暗号化

Shield Platform Encryption は、プラットフォームイベントもサポートするようになり、重要な情報が関与するイベントをさらに強力に保護できます。重要な更新でシステム管理者プロファイルから「暗号化鍵の管理」権限が削除されます。

このセクションの内容:

プラットフォームイベントの暗号化
プラットフォームイベントでキャプチャされた重要なデータは、Shield Platform Encryption によってさらに保護されるようになりました。変更データキャプチャイベントに加えて、リアルタイムイベントモニタリングストリーミングイベントなど、すべてのプラットフォームイベントを暗号化できます。プラットフォームイベントに対して Shield Platform Encryption を有効化すると、イベントメッセージがイベントバスで保存されるときに、専用のイベントバスキーで暗号化されます。イベントは、イベントバスに残っている間は暗号化されたままです。

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの重要な更新)
システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。この重要な更新を有効化すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。この重要な更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化
HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに[おすすめの説明]などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

プラットフォームイベントの暗号化

プラットフォームイベントでキャプチャされた重要なデータは、Shield Platform Encryption によってさらに保護されるようになりました。変更データキャプチャイベントに加えて、リアルタイムイベントモニタリングストリーミングイベントなど、すべてのプラットフォームイベントを暗号化できます。プラットフォームイベントに対して Shield Platform Encryption を有効化すると、イベントメッセージがイベントバスで保存されるときに、専用のイベントバスキーで暗号化されます。イベントは、イベントバスに残っている間は暗号化されたままです。

対象: この変更は、Financial Services Cloud と Shield Platform Encryption の両方が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: プラットフォームイベントの暗号化と配信を有効にするには、まず [設定] の [鍵の管理] ページでイベントバスのテナントの秘密を作成します。次に、[暗号化ポリシー] ページでプラットフォームイベントの暗号化を有効にします。

関連トピック:

イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化
Salesforce ヘルプ: イベントバスデータの暗号化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。この重要な更新を有効化すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。この重要な更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、Spring '20 で自動的に有効になります。

対象ユーザ: この重要な更新は、Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザに適用されます。Spring '16 リリースより後に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザはこの重要な更新の影響を受けません。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート

Next Best Action のおすすめの説明項目の暗号化

HIPAA 要件に対処するため、Next Best Action で Shield Platform Encryption を使用しておすすめの説明情報を暗号化できるようになりました。確率的暗号化を使用する場合、おすすめを読み込むための条件を指定するときに [おすすめの説明] などの暗号化項目は使用できません。確定的暗号化を使用する場合、暗号化項目は、「次の文字列と一致する」または「次の文字列と一致しない」演算子を使用する読み込み条件でのみ使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [暗号化ポリシー] ページで、[項目を暗号化] をクリックし、[おすすめの説明] 項目を暗号化します。

イベントモニタリング: 従来のトランザクションセキュリティの廃止、Event Monitoring Analytics アプリケーションの改善

従来のトランザクションセキュリティフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されますので、現在のポリシーは強化されたフレームワークに移行してください。また、Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンスが向上しました。

このセクションの内容:

- EventLogFile での Apex 要求を長時間要求としてカウントするかどうかの決定

  Apex 実行イベント種別の IS_LONG_RUNNING_REQUEST 項目を使用して、要求を実行時間が長い組織の同時 Apex 要求の上限にカウントするかどうかを決定します。5 秒以上実行されるすべての要求を確認する代わりに、この項目を使用します。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行(以前にリリース済みの重要な更新)

Salesforce の拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成できなくなりました。従来のフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンス向上

一部のデータセットを並列で処理することで、データの Event Monitoring Analytics アプリケーションへの統合のパフォーマンスが向上しました。また、処理されるデータセットチャンクのサイズも引き上げられました。新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションでは常に最新の API バージョンが使用されるようにもなりました。これにより、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションではデータセットメタデータのアプリケーションメタデータとの比較や、必要な場合のメタデータの変換など、負担の大きい作業が行われなくなりました。

EventLogFile での Apex 要求を長時間要求としてカウントするかどうかの決定

Apex 実行イベント種別の IS_LONG_RUNNING_REQUEST 項目を使用して、要求を実行時間が長い組織の同時 Apex 要求の上限にカウントするかどうかを決定します。5 秒以上実行されるすべての要求を確認する代わりに、この項目を使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: Apex 実行イベント種別

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行(以前にリリース済みの重要な更新)

Salesforce の拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成できなくなりました。従来のフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Summer '20 リリースで従来のフレームワークが廃止されると、従来のポリシーは完全に無効になり、更新できなくなります。Summer '20 リリースまで、従来のポリシーは引き続き正常に機能します。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: セキュリティポリシーが従来のフレームワークを使用しているかどうかを判断するには、それらに関連付けられている Apex クラスを確認します。従来のポリシーは `TxnSecurity.PolicyCondition` インターフェースを実装しています。

従来のポリシーを移行するには、以前の動作を模倣するポリシーを新しい拡張フレームワークで作成します。従来のポリシーは新しいフレームワークでは実行できませんが、引き続き表示されるため、そのロジックを調べて新しいポリシーで再現することができます。

ポイント&クリックツールを使用したい場合、条件ビルダーには、新しいフレームワークでポリシーを作成するためのほとんどの機能が用意されています。コーディングを行う場合や、条件ビルダーで提供されていない機能を必要とする場合は、新しい `TxnSecurity.EventCondition` インターフェースを使用して Apex クラスを実装します。

移行や発生した問題に関するフィードバックをお寄せください。このフィードバックにより、すべてのイベントモニタリングユーザの移行を改善することができます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Official: Shield」グループに投稿してください。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート
- *Salesforce* ヘルプ: 拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの従来のポリシーの移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 拡張トランザクションセキュリティポリシーの適用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Event Monitoring Analytics アプリケーションのパフォーマンス向上

一部のデータセットを並列で処理することで、データの Event Monitoring Analytics アプリケーションへの統合のパフォーマンスが向上しました。また、処理されるデータセットチャンクのサイズも引き上げられました。新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションでは常に最新の API バージョンが使用されるようにもなりました。これにより、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションではデータセットメタデータのアプリケーションメタデータとの比較や、必要な場合のメタデータの変換など、負担の大きい作業が行われなくなりました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

データ保護とプライバシー: 関係者の同意、コミュニケーション登録、連絡先オブジェクト

顧客の全般的な同意設定および登録したコミュニケーションに関連したデータを保存できます。また、個人または個人取引先に複数のメールアドレスまたは電話番号を関連付けて、希望する時間と連絡することに対する同意を管理することもできます。

このセクションの内容:

顧客の同意設定の追跡
関係者の同意オブジェクトを使用して、データが収集または共有されることに対して同意するかどうかなど、顧客の全般的な同意設定に関連した情報を保存できます。同意をキャプチャした時期および方法も示されます。複数の関係者の同意レコードを個人レコードまたは個人取引先レコードに関連付けることができます。

顧客のコミュニケーション登録の管理
ニュースレターや予定のリマインダーなど、顧客が登録しているコミュニケーションに関連したデータを把握できます。顧客が連絡することに対して同意した時期と方法、および希望するタイミングに関する情報を保存できます。メールアドレスや電話番号など、連絡できるチャネルを記録することもできます。

複数の連絡先および顧客の同意情報の保存
顧客に連絡しやすくするため、個人または個人取引先に複数のメールアドレスまたは電話番号を指定できるようになりました。以前のデータモデルでは、1件の顧客に1つの電話番号またはメールアドレスしか関連付けることができませんでした。連絡先メールと連絡先電話を使用して、取引先責任者に連絡する最適な時間や希望する連絡方法などの詳細を追加することもできるようになりました。さらに、連絡先の同意レコードからこうしたレコードを参照し、この方法で連絡することに対する顧客の同意を保存できます。

顧客の同意設定の追跡

関係者の同意オブジェクトを使用して、データが収集または共有されることに対して同意するかどうかなど、顧客の全般的な同意設定に関連した情報を保存できます。同意をキャプチャした時期および方法も示されます。複数の関係者の同意レコードを個人レコードまたは個人取引先レコードに関連付けることができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:関係者の同意レコードの項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

顧客のコミュニケーション登録の管理

ニュースレターや予定のリマインダーなど、顧客が登録しているコミュニケーションに関連したデータを把握できます。顧客が連絡することに対して同意した時期と方法、および希望するタイミングに関する情報を保存できます。メールアドレスや電話番号など、連絡できるチャネルを記録することもできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:コミュニケーション登録オブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

複数の連絡先および顧客の同意情報の保存

顧客に連絡しやすくするため、個人または個人取引先に複数のメールアドレスまたは電話番号を指定できるようになりました。以前のデータモデルでは、1 件の顧客に 1 つの電話番号またはメールアドレスしか関連付けることができませんでした。連絡先メールと連絡先電話を使用して、取引先責任者に連絡する最適な時間や希望する連絡方法などの詳細を追加することもできるようになりました。さらに、連絡先の同意レコードからこうしたレコードを参照し、この方法で連絡することに対する顧客の同意を保存できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: 連絡先電話と連絡先メールはデフォルトで各オブジェクトのレイアウトに表示されます。オブジェクトマネージャで取引先オブジェクトのレイアウトに追加する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:連絡先メールおよび連絡先電話レコードの項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

その他のセキュリティの変更: ゲストユーザレコードの割り当て、外部 URL ホワイトリスト、設定の強化

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を設定します。ユーザが直接移動できる外部 URL をホワイトリストに登録します。また、セッションセキュリティレベルポリシーと設定変更履歴が改善されました。

このセクションの内容:

Salesforce サイトでゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトでゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。Salesforce サイトでゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

警告メッセージを表示せずに外部 URL へのリダイレクトを許可

[Salesforce の外部にユーザをリダイレクトする前にユーザに警告する] 設定が有効な場合に、ユーザが直接移動できる Salesforce ドメインの外部の URL をホワイトリストに登録します。ホワイトリストに登録されていない URL にリダイレクトしようとすると、事前に警告メッセージが表示されます。

セッションセキュリティレベルポリシーに対する変更

[ユーザ] 設定ページでの機密情報の操作の保護を強化するために、ページにアクセスする前に高保証セッションレベルを要求することができます。また、[セッションセキュリティレベルポリシー] セクションから [イベントログファイルを参照] 設定が削除されました。

設定変更履歴でのより多くの変更の監視

ユーザや他のシステム管理者が Salesforce 組織に対して行った最近の設定変更を追跡するため、設定変更履歴に新しいイベントが追加されました。

指定ログイン情報の変更

指定ログイン情報に Salesforce API を介してアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。

Salesforce サイトでゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトでゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。Salesforce サイトでゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効な Salesforce サイトを持つ組織に適用されます。

理由: Salesforce のセキュリティのベストプラクティスに従うには、内部組織ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者に指定します。デフォルトの所有者を割り当てることを強くお勧めしますが、レコードの所有権を変更すると、ゲストユーザによるレコードアクセスに影響することがあります。本番環境で変更を実装する前に Sandbox 環境ですべての変更をテストして、データ共有と表示に対する影響を確認してください。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] を選択します。[保存] をクリックします。

組織でデフォルト所有者が選択されていない場合、Salesforce は、Salesforce サイトの所有者をゲストユーザが作成したレコードの所有者として自動的に割り当てます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サイトユーザレコードを操作するときのベストプラクティスと考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

警告メッセージを表示せずに外部 URL へのリダイレクトを許可

[Salesforce の外部にユーザをリダイレクトする前にユーザに警告する] 設定が有効な場合に、ユーザが直接移動できる Salesforce ドメインの外部の URL をホワイトリストに登録します。ホワイトリストに登録されていない URL にリダイレクトしようとすると、事前に警告メッセージが表示されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「*ホワイトリストに登録されたリダイレクトの URL*」と入力し、[ホワイトリストに登録されたリダイレクトの URL] を選択します。[新規 URL] をクリックします。

関連トピック:

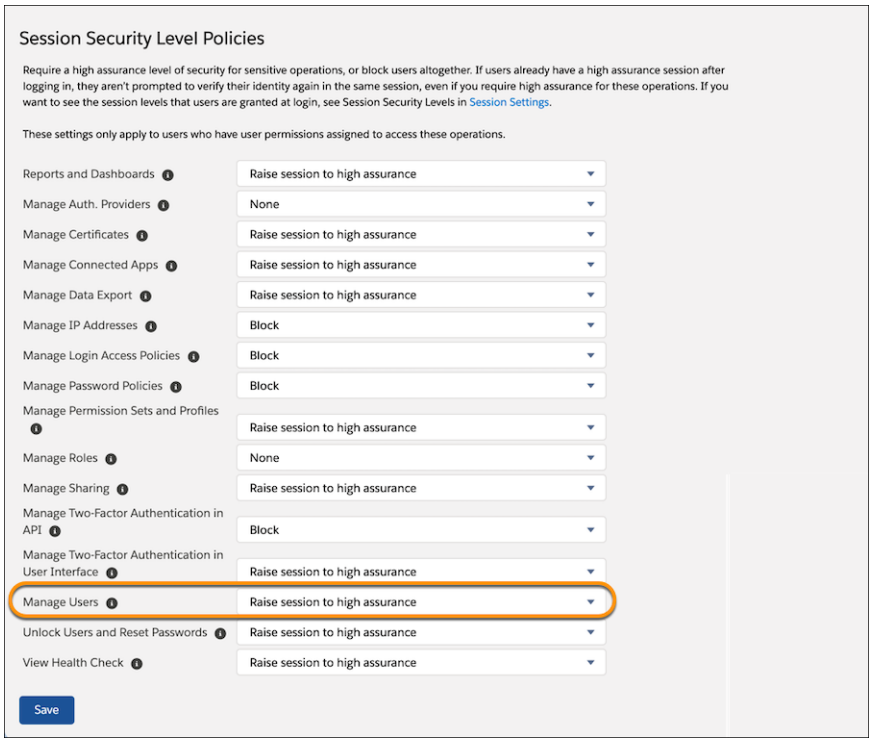
Salesforce ヘルプ: 外部 URL へのリダイレクトの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セッションセキュリティレベルポリシーに対する変更

[ユーザ] 設定ページでの機密情報の操作の保護を強化するために、ページにアクセスする前に高保証セッションレベルを要求することができます。また、[セッションセキュリティレベルポリシー] セクションから [イベントログファイルを参照] 設定が削除されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「*ID 検証*」と入力し、[ID 検証] を選択します。[セッションセキュリティレベルポリシー] セクションの [ユーザの管理] で [セッションを高保証に上げる] を選択します。[保存] をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 機密情報の操作への高保証セッションセキュリティの要求 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

設定変更履歴でのより多くの変更の監視

ユーザや他のシステム管理者がSalesforce組織に対して行った最近の設定変更を追跡するため、設定変更履歴に新しいイベントが追加されました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic の設定変更履歴に適用されます。

理由: 次に対する変更を追跡できます:

- メールの配信到達性 — [配信到達性の設定] ページの [アクセスレベル] 項目により、Salesforce での送信メールへのアクセス。
- 接続アプリケーション — 接続アプリケーションの設定の [モバイルインテグレーション] セクションで設定される接続アプリケーションの PIN 長と無操作タイムアウト。これらの設定には、[接続アプリケーションを管理する] の [設定] ページからアクセスできます。
- 通知 — [カスタム通知設定] ページで設定されるカスタム通知種別と [通知の配信設定] の [設定] ページで設定される標準通知種別の通知配信設定。モバイル、デスクトップ、および接続アプリケーションの配信設定への変更を追跡できます。

方法: 監査履歴を表示するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「設定変更履歴の参照」* と入力し、[設定変更履歴の参照] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: セットアップ変更のモニタリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Email Deliverability Changes Not Tracked in Audit Log (監査ログでメール送信の変更が追跡されない)

指定ログイン情報の変更

指定ログイン情報に Salesforce API を介してアクセスできるのは、「設定・定義を参照する」権限のあるユーザです。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

リリース: アップロードした変更セットと新しい変更セットコンポーネントをすぐに使用可能

アップロードした変更設定をすぐにリリースできます。新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

このセクションの内容:

変更セットのアップロード後にカスタマイズをすぐにリリース

以前は、新しくアップロードした変更セットがリリース可能になるまでしばらく時間がかかっていました。アップロードした変更セットをすぐにリリースできるようになりました。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント
変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

変更セットのアップロード後にカスタマイズをすぐにリリース

以前は、新しくアップロードした変更セットがリリース可能になるまでしばらく時間がかかっていました。アップロードした変更セットをすぐにリリースできるようになりました。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

メールサービス
: メールサービスを表します。

Lightning コミュニティテンプレート
: カスタマイズされたコミュニティの作成とエクスポート、および他のユーザが使用するカスタムコンポーネントの配布に使用されるテンプレートを表します。

Lightning コミュニティテーマ
: コミュニティのページの外観と構造をカスタマイズするためのレイアウトとスタイル(色、フォント、画像)を表します。コミュニティテーマは事前構築されているか(カスタマーサービス、Partner Central、カスタマー取引先ポータル、Build Your Own)、カスタマイズできます。

Lightning メッセージチャネル
: UI テクノロジ (Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、および Visualforce) 間で通信するための安全なチャネルを表します。

Managed Content Type
: Salesforce CMS で使用するカスタムコンテンツタイプの定義を表します。カスタムコンテンツタイプは、定義済みの項目を含むフォームとして表示されます。

ホワイトリストに登録されたリダイレクトの URL
: 警告メッセージが表示されることなくユーザが移動できる、ホワイトリストに登録された URL を表します。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 簡素化された反応、カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定、スクラッチ組織での Lightning Web コンポーネントのソース追跡

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

Einstein プラットフォーム: 予測インサイトの詳細

Visualforce: Lightning Message Service の概要 (ベータ)、ID パラメータによるリモートメソッドの種別チェック

Apex

API

カスタムメタデータ型

Salesforce CLI: オートコンプリート、拡張 DX テンプレート、進行状況バー

Lightning コンポーネント: 簡素化された反応、カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定、スクラッチ組織での Lightning Web コンポーネントのソース追跡

Lightning Web コンポーネントのすべての項目がリアクティブになりました。Lightning Web コンポーネントでカスタム Aura 設計トークンを使用します。Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用するときに、スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントの変更を追跡します。コンテンツセキュリティポリシー (CSP) の制御が改善され、いくつかの重要な更新があります。

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Einstein プラットフォーム: 予測インサイトの詳細

組織内で予測ビルダーなどの Einstein AI 機能を使用する方法を拡張することに関心がありますか? Einstein プラットフォームは、予測ビルダーやその他の多くの Einstein が強力な AI ジョブを実行するために使用する Salesforce レイヤです。新しい Einstein プラットフォーム API を使用して、予測インサイトにアクセスし、独自の AI ソリューションに Einstein 機能を適用します。

Visualforce: Lightning Message Service の概要 (ベータ)、ID パラメータによるリモートメソッドの種別チェック

Lightning Message Service を使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。Visualforce は文字列が有効な Apex ID としてフォーマットされていることを JavaScript Remoting ツールで確認するようになりました。

Apex

Apex セキュリティ機能 `WITH SECURITY_ENFORCED` および `Security.stripInaccessible` が正式リリースされました。新しい `System.Finalizer` インターフェース (パイロット) では、アクションを非同期のキュー可能ジョブに関連付けることができます。重要な更新により、`Type.newInstance` メソッドで Apex 種別の表示ルールの厳密な適用が可能になります。Schema 名前空間の `getDescribe` メソッドには、子リレーションを事前に読み込むかどうかを決定するパラメータがあります。`toString` メソッドを使用して、System 名前空間の Map、List、Set クラスの文字列表現を取得します。

API

API バージョン 48.0 では、関連するオブジェクトドキュメントをより簡単に検索したり、管理パッケージの非グローバル実装の詳細のない記号テーブルを取得したり、より多くの API コールを使用したりできます。

カスタムメタデータ型

データのセキュリティを強化するために、新しい設定が追加され、機密性が高いと思われる情報を保護できる制限が有効になりました。

Salesforce CLI: オートコンプリート、拡張 DX テンプレート、進行状況バー

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) は、Salesforce 開発モデルをサポートする機能やコマンドが追加され、進化し続けています。Salesforce CLI を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御を行うことができます。

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

Sandbox: Sandbox のコピーの機能強化およびデータセキュリティの向上

Sandbox で使用できるコピーオプションが増え、データセキュリティが向上しました。

AppExchange パートナー: Lightning アプリケーションとページ用の AppExchange の App Analytics

AppExchange の App Analytics データを調べて、登録者が Lightning アプリケーションとページをどのように使用しているかを確認します。

パッケージ化:パッケージ作成の迅速化、新しい検証のスキップオプション、フローおよび外部共有設定の変更

パッケージバージョンの作成またはインストールにかかる時間が短くなりました。新しいパッケージバージョンを作成するときに検証をスキップできます。また、ロック解除済みパッケージのフローに対する変更と、パッケージに影響を与える可能性があるデフォルトの外部共有設定に対する変更が行われました。

変更データキャプチャ: オブジェクトサポートの向上とイベント強化 (パイロット)

変更が通知される対象オブジェクトが増え、項目を使用してイベントメッセージが強化されます (パイロット)。

プラットフォームイベント: 暗号化サポート

イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化を有効化します。また、CometD イベント配信の使用状況を正確に把握するために新しい REST API 制限を使用します。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント: 簡素化された反応、カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定、スクラッチ組織での Lightning Web コンポーネントのソース追跡

Lightning Web コンポーネントのすべての項目がリアクティブになりました。Lightning Web コンポーネントでカスタム Aura 設計トークンを使用します。Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用するときに、スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントの変更を追跡します。コンテンツセキュリティポリシー (CSP) の制御が改善され、いくつかの重要な更新があります。

メモ: 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか?新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。

このセクションの内容:

Lightning Web コンポーネントで不要になった @track デコレータ

項目をリアクティブにするために `@track` を使用するかどうかについて推測する必要がなくなりました。Lightning Web コンポーネントクラスのすべての項目がリアクティブです。項目の値が変更され、その項目がテンプレートで使用されているか、テンプレートで使用されているプロパティの getter で使用されている場合、コンポーネントは再表示され、新しい値を表示します。

厳密に等しいオブジェクトの生成が保証されないワイヤアダプタ

Lightning データサービスでデータのストリームをプロビジョニングする場合、ワイヤアダプタの設定オブジェクトが同等であっても、データが厳密に等しいこと (JavaScript の `===` 演算子) は保証されません。

カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定

Lightning Web コンポーネントの CSS ファイルでは、組織で作成または未管理パッケージからインストールしたカスタム Aura トークンを使用できます。トークンを使用することで、設計の一貫性を確保しやすくなり、設計の変化に伴った更新がさらに簡単になります。

スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントのスマートなソース追跡

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) でスクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントへの変更が追跡されるようになりました。CLI 出力には変更がリストされ、ローカルプロジェクトとスクラッチ組織の競合のアラートが表示されます。

Lightning 基本コンポーネント: オープンソース

Lightning Web コンポーネントフレームワークの基本コンポーネントがオープンソースになりました。ソースコードを探索し、各自のアプリケーションに合わせて基本コンポーネントをカスタマイズできます。

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

開発者ガイドへの Aura の JavaScript API リファレンスドキュメントの移動

JavaScript API ドキュメントをホストしていた従来の Aura Reference ドキュメントアプリケーションが廃止されました。代わりに、『Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド』の「リファレンス」セクションでこの情報を見つけることができます。Aura Reference ドキュメントアプリケーションのその他のすべての情報は、すでにコンポーネントライブラリ (Lightning コンポーネントドキュメントのハブ) で使用できるようになっています。

CSP 信頼済みサイトのリソース読み込みの管理

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) 信頼済みサイトから Lightning コンポーネントがどのリソースを読み込むことができるかを制御します。たとえば、Lightning コンポーネントでサイトから画像、スタイルシート、フォントを読み込むことを許可し、音声、動画を許可しないことができます。

Lightning Locker が無効になっている Lightning コミュニティでのコンポーネントの使用

Lightning Locker が無効になっているコミュニティで、管理パッケージからインストールしたコンポーネントを実行できるようにするには、コンポーネントの設定ファイルで `lightningCommunity__RelaxedCSP` タグを使用します。

デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移動

新しい `lightning/pageReferenceUtils` モジュールまたは `lightning:pageReferenceUtils` Aura コンポーネントを使用して、レコード作成ページにデフォルト項目値を事前入力するコンポーネント内にナビゲーションリンクを作成します。値の事前入力により、すばやいデータ入力や、データの一貫性向上、レコード作成プロセスの簡素化を実現します。

Lightning Locker で insertHTML コンテンツをサニタイズ

`document.execCommand(insertHTML)` を使用して挿入された HTML が Lightning Locker でサニタイズされ、潜在的に悪意のある実行可能スクリプトコンテンツが削除されるようになりました。

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Lightning Message Service を使用すると、メインの Lightning ページ内のコンポーネントと、ポップアウトユーティリティバー内のコンポーネント間の通信も可能になります。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。

Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)

Lightning Web コンポーネントでローカル開発が提供されるようになり、コンポーネントモジュールを構築し、コンポーネントを組織に公開せずに変更をライブで表示できるようになりました。新しい Salesforce CLI プラグイン `lwc-dev-server` を使用して、コンピュータで Lightning Web コンポーネント対応のサーバを設定および実行します。ローカル開発サーバには、コマンドラインと VS Code 向け Lightning Web コンポーネント拡張機能からアクセスできます。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

Jest テストで作成されたスナップショットの属性値の更新

Jest を使用してスナップショットを作成し、Lightning Web コンポーネントをテストすると、Lightning Web コンポーネントは一部の要素属性にプレースホルダ値を挿入します。この置換により属性値が変わるため、テストが失敗する場合があります。この問題を解決するには、`--updateSnapshot` コマンドオプションを使用します。

[JavaScript プロトタイプを凍結] セッション設定の削除

[JavaScript プロトタイプを凍結] 設定が [セッションの設定] から削除されました。この実験的設定は Winter '19 で導入され、デフォルトでは無効になっていました。一部のお客様が有効にしましたが、この設定が原因で本番組織で問題が発生しました。Salesforce は、グローバル JavaScript プロトタイプの変更を防止する他の方法を探しています。

重要な更新: @AuraEnabled Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他

重要な更新がいくつかあります。

セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限

いくつかのセキュリティアラートを追加しました。

関連トピック:

- Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)
- Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド)

Lightning Web コンポーネントで不要になった `@track` デコレータ

項目をリアクティブにするために `@track` を使用するかどうかについて推測する必要がなくなりました。Lightning Web コンポーネントクラスのすべての項目がリアクティブです。項目の値が変更され、その項目がテンプレートで使用されているか、テンプレートで使用されているプロパティの getter で使用されている場合、コンポーネントは再表示され、新しい値を表示します。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: どの項目を `@track` でデコレートするかを開発者が認識することは困難でした。項目の値が変更された場合、開発者は、コンポーネントがいつ再表示されて新しい値を表示するかを容易に予測できませんでした。

方法: このフレームワークでは、項目の値の変更を監視し、コンポーネントを再表示して、新しい値を表示します。コンポーネント内のすべての式も再評価されます。実際にはすべての項目がリアクティブのため、「リアクティブな項目」という語を使用する必要はなくなります。

Spring '20 よりも前は、項目をリアクティブにするには、項目を `@track` でデコレートする必要がありました。この方法は古いコードサンプルで使用されており、まだサポートされています。

```
@track firstName = '';
```

ここでは、`@track` デコレータを 1 つの使用事例でのみ使用します。これについて以降で説明します。

サンプルコードを見てみましょう。このコンポーネントには、[First Name (名)] と [Last Name (姓)] の 2 つの入力項目があります。どちらかの項目に名前を入力すると、コンポーネントは名前を大文字に変換して表示します。

```
<!-- helloExpressions.html -->

<template>
    <lightning-input
        name="firstName"
        label="First Name"
        onchange={handleChange}
    ></lightning-input>
    <lightning-input
        name="lastName"
        label="Last Name"
        onchange={handleChange}
    ></lightning-input>
    <p>
        Uppercased Full Name: {uppercasedFullName}
    </p>
</template>
```

コンポーネントのクラスで `firstName` 項目と `lastName` 項目を定義しています。Spring '20 以降のすべての項目と同様に、これらはリアクティブです。これらは、テンプレートで使用されているプロパティ (`uppercasedFullName`) の getter で使用されているため、値が変更されるとコンポーネントが再表示されます。

```
// helloExpressions.js

import { LightningElement } from 'lwc';

export default class HelloExpressions extends LightningElement {
    firstName = '';
```

```
    lastName = '';

    handleChange(event) {
        const field = event.target.name;
        if (field === 'firstName') {
            this.firstName = event.target.value;
        } else if (field === 'lastName') {
            this.lastName = event.target.value;
        }
    }

    get uppercasedFullName() {
        return `${this.firstName} ${this.lastName}`.trim().toUpperCase();
    }
}
```

Spring'20 よりも前は、ユーザが名または姓を入力したときにコンポーネントを再表示するには、項目を `@track` でデコレートする必要がありました。

```
@track firstName = '';
@track lastName = '';
```

オブジェクトのプロパティまたは配列の要素の監視

`@track` のもう 1 つの使用事例があります。項目にオブジェクトまたは配列が含まれる場合、追跡される変更の深度には制限があります。オブジェクトのプロパティまたは配列の要素の変更を監視するようにフレームワークに指示するには、項目を `@track` でデコレートします。

`@track` を使用しない場合、フレームワークは、項目に新しい値を割り当てる変更を監視します。新しい値と以前の値が `===` ではない場合、コンポーネントは再表示されます。

理解しやすくするため、`firstName` と `lastName` の 2 つのプロパティを持つオブジェクトが含まれる `fullName` 項目を宣言してみましょう。

```
fullName = { firstName : '', lastName : '' };
```

フレームワークは、`fullName` に新しい値を割り当てる変更を監視します。このコードは、`fullName` 項目に新しい値を割り当てるため、コンポーネントが再表示されます。

```
// Component rerenders.
this.fullName = { firstName : 'John', lastName : 'Doe' };
```

ただし、オブジェクトのプロパティの 1 つに新しい値を割り当てた場合、コンポーネントは再表示されません。プロパティは監視されていないためです。

```
// Component doesn't rerender.
this.fullName.firstName = 'John';
```

フレームワークは、`fullName` 項目に新しい値を割り当てる変更を監視します。このコードではこれを行いません。代わりに、`fullName` オブジェクトの `firstName` プロパティに新しい値を割り当てます。

オブジェクトのプロパティの変更を監視するようにフレームワークに指示するには、`fullName` 項目を `@track` でデコレートします。これで、どちらかのプロパティを変更した場合、コンポーネントは再表示されます。

```
// Component rerenders.
@track fullName = { firstName : '', lastName : '' };
this.fullName.firstName = 'John';
```

ヒント: この `helloExpressions` コードサンプルは lwc-recipes GitHub リポジトリ から取得されました。同様のコードをオープンソース LWC 開発者ガイドのプレイグラウンドで試すこともできます。

厳密に等しいオブジェクトの生成が保証されないワイヤアダプタ

Lightning データサービスでデータのストリームをプロビジョニングする場合、ワイヤアダプタの設定オブジェクトが同等であっても、データが厳密に等しいこと (JavaScript の `===` 演算子) は保証されません。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: 以前は、同等の設定値をワイヤアダプタに指定すると、JavaScript の `===` 演算子で示されているとおりに、ワイヤアダプタは厳密に等しい値をプロビジョニングできました。プロビジョニングされたデータが厳密に等しいことは保証されなくなりました。Lightning データサービスは、ワイヤアダプタごとに一意の値を生成してプロビジョニングする場合があります。

カスタム Aura 設計トークンを使用した Lightning Web コンポーネントのスタイル設定

Lightning Web コンポーネントの CSS ファイルでは、組織で作成または未管理パッケージからインストールしたカスタム Aura トークンを使用できます。トークンを使用することで、設計の一貫性を確保しやすくなり、設計の変化に伴った更新がさらに簡単になります。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: ビジュアルデザインの重要な値をカスタム Aura トークンに取得します。トークンの値を一度定義すると、Lightning コンポーネントの CSS で再利用できます。

方法: 開発者コンソールで Lightning Tokens バンドルを作成して、カスタム Aura トークンを作成します。たとえば、このトークンバンドルには、`myBackgroundColor` というカスタム Aura トークンがあります。

```
<aura:tokens>
    <aura:token name="myBackgroundColor" value="#f4f6f9"/>
</aura:tokens>
```

カスタム Aura トークンは新しいものではありませんが、標準の `var()` CSS 関数を使用して Lightning Web コンポーネントの CSS ファイルで使用できるようになりました。カスタム Aura トークンの先頭に `--c-` を追加します。

```
// myLightningWebComponent.css
color: var(--c-myBackgroundColor);
```

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: 設計トークンを使用したスタイル設定

スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントのスマートなソース追跡

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) でスクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントへの変更が追跡されるようになりました。CLI 出力には変更がリストされ、ローカルプロジェクトとスクラッチ組織の競合のアラートが表示されます。

対象: この変更は、スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 2 月 15 日にリリースされる `salesforcedx` v48 を含む Salesforce CLI で使用可能になります。`salesforcedx` v48 のプレリリースバージョンは 2019 年 12 月 5 日に利用できるようになりました。

理由: 以前は、CLI コマンドでは、ローカルプロジェクトの Lightning Web コンポーネントのソース変更が追跡されていましたが、スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントの変更は追跡されていませんでした。

方法: これらの CLI コマンドは、スクラッチ組織の Lightning Web コンポーネントのソース追跡をサポートし、競合を報告するように機能強化されました。

`sfdx force:source:pull`
変更されたソースをスクラッチ組織からプロジェクトに取得します。

`sfdx force:source:push`
変更されたソースをプロジェクトからスクラッチ組織に転送します。

`sfdx force:source:status`
プロジェクトとスクラッチ組織の間の変更を追跡します。

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: スクラッチ組織

Lightning 基本コンポーネント: オープンソース

Lightning Web コンポーネントフレームワークの基本コンポーネントがオープンソースになりました。ソースコードを探索し、各自のアプリケーションに合わせて基本コンポーネントをカスタマイズできます。

理由: 基本コンポーネントのソースコードを使用して、各自の要件に合ったカスタムコンポーネントを作成できます。基本コンポーネントレシピの GitHub リポジトリでは、コンポーネントライブラリに表示されているコンポーネントのサブセットに参照アクセスできます。現在オープンソースで使用できないコンポーネントには内部連動関係が含まれています。そのため、現時点ではオープンソース化できません。ただし、長期的にはすべての基本コンポーネントをオープンソース化することを目指しています。

方法: 基本コンポーネントは、`lightning` 名前空間から `c` 名前空間に変換されました。これにより、各自のプロジェクトで `c` 名前空間のコンポーネントを自由に使用および変更できます。`c` コンポーネントには、`lightning` 名前空間のコンポーネントを含めることもできます。基本コンポーネントを使用して、プラットフォーム上のコンポーネントを開発するには、『Salesforce Lightning Web Components Developer Guide (Salesforce Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)』を参照してください。基本コンポーネントのプラットフォーム外の使用は、現在実験段階で、まだ正式リリースされていません。

`ui` 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce では、2021 年 5 月 1 日に `ui` 名前空間で Aura コンポーネントのサポートを終了する予定です。2021 年 5 月 1 日以降もこれらのコンポーネントを引き続き使用することはできますが、その日付以降、これらのサポートケースは受け付けられなくなります。

理由: 従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

方法: 廃止されるコンポーネントを `lightning` 名前空間の対応するコンポーネントに置き換えます。これらのコンポーネントのほうが高速で効率的であり、Lightning Design System のスタイル設定を標準で使用できます。

> **メモ:** `lightning` 名前空間のコンポーネントには、Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントの 2 つのバージョンがあります。可能であれば、Lightning Web コンポーネントを使用することをお勧めします。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。詳細は、*『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』*を参照してください。

廃止される Aura コンポーネントとその推奨される代替コンポーネントを次に示します。

`ui:actionMenuItem`
代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

`ui:button`
`lightning:button`、`lightning:buttonIcon`、または `lightning:buttonIconStateful` を使用します。ボタングループの場合、`lightning:buttonGroup` を使用します。

`ui:checkboxMenuItem`
代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

`ui:inputCheckbox`
`lightning:input` と `checkbox`、`toggle`、または `checkbox-button` 型を使用します。チェックボックスグループの場合、代わりに `lightning:checkboxGroup` を使用します。

`ui:inputCurrency`
代わりに、`lightning:input` と `number` 型および `currency` フォーマッタを使用します。

`ui:inputDate`
代わりに、`lightning:input` と `date` 型を使用します。

ui:inputDateTime
代わりに、lightning:input と datetime 型を使用します。

ui:inputDefaultError
代わりに、lightning:input と組み込みの項目検証を使用します。

ui:inputEmail
代わりに、lightning:input と email 型を使用します。

ui:inputNumber
代わりに、lightning:input と number 型を使用します。

ui:inputPhone
代わりに、lightning:input と phone 型を使用します。

ui:inputRadio
代わりに、lightning:input と radio 型を使用します。ラジオグループの場合、代わりに lightning:radioGroup を使用します。

ui:inputRichText
代わりに lightning:inputRichText を使用します。

ui:inputSecret
代わりに、lightning:input と password 型を使用します。

ui:inputSelect
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputSelectOption
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputText
代わりに、lightning:input と text 型を使用します。

ui:inputTextArea
代わりに lightning:textarea を使用します。

ui:inputURL
代わりに、lightning:input と url 型を使用します。

ui:menu
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItemSeparator
代わりに、lightning:menuDivider と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuList
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTrigger
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTriggerLink
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:message
代わりに lightning:notificationsLibrary を使用します。

ui:outputCheckbox
lightning:input と checkbox 型を使用し、readonly を true に設定します。

ui:outputCurrency
lightning:formattedNumber と currency に設定された style を使用します。

ui:outputDate
代わりに lightning:formattedDateTime を使用します。

ui:outputDateTime
代わりに、lightning:formattedDateTime または lightning:formattedTime を使用します。

ui:outputEmail
代わりに lightning:formattedEmail を使用します。

ui:outputNumber
代わりに lightning:formattedNumber を使用します。

ui:outputPhone
代わりに lightning:formattedPhone を使用します。

ui:outputRichText
代わりに lightning:formattedRichText を使用します。

ui:outputText
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputTextArea
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputURL
代わりに lightning:formattedUrl を使用します。

ui:radioMenuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:spinner
代わりに lightning:spinner を使用します。

開発者ガイドへの Aura の JavaScript API リファレンスドキュメントの移動

JavaScript API ドキュメントをホストしていた従来の Aura Reference ドキュメントアプリケーションが廃止されました。代わりに、『Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド』の「リファレンス」セクションでこの情報を見つけることができます。Aura Reference ドキュメントアプリケーションのその他のすべての情報は、すでにコンポーネントライブラリ (Lightning コンポーネントドキュメントのハブ) で使用できるようになっています。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントに適用されます。

関連トピック:

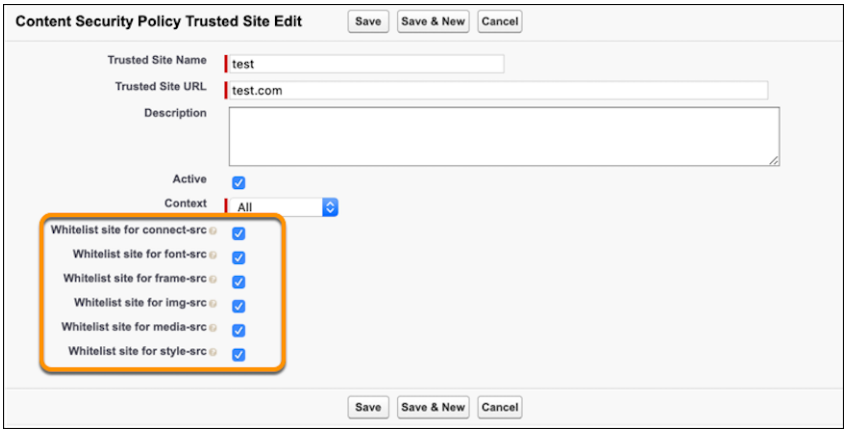
Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: リファレンス

CSP 信頼済みサイトのリソース読み込みの管理

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) 信頼済みサイトから Lightning コンポーネントがどのリソースを読み込むことができるかを制御します。たとえば、Lightning コンポーネントでサイトから画像、スタイルシート、フォントを読み込むことを許可し、音声、動画を許可しないことができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*CSP 信頼済みサイト*」と入力し、**[CSP 信頼済みサイト]** を選択します。変更する信頼済みサイトで**[編集]**をクリックし、どのディレクティブに対してサイトをホワイトリストに登録するかを選択します。



関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: サードパーティ API にアクセスするための CSP 信頼済みサイトの作成

Lightning Locker が無効になっている Lightning コミュニティでのコンポーネントの使用

Lightning Locker が無効になっているコミュニティで、管理パッケージからインストールしたコンポーネントを実行できるようにするには、コンポーネントの設定ファイルで `lightningCommunity__RelaxedCSP` タグを使用します。

対象: この変更は、Lightning コミュニティで実行される管理パッケージからインストールされた Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: コミュニティで Lightning Locker が無効になっている場合、`lightningCommunity__RelaxedCSP` 機能を備えたコンポーネントのみが実行時に表示され、設計時に使用できます。

方法: `lightningCommunity__RelaxedCSP` を Lightning Web コンポーネントの設定ファイルの新しい `<capabilities>` タグに追加します。

```
<capabilities>
    <capability>lightningCommunity__RelaxedCSP</capability>
</capabilities>
```

関連トピック:

- UI での Lightning Locker の有効/無効の切り替え
- *Lightning コミュニティ開発者ガイド*: Lightning Locker in Communities (コミュニティの Lightning Locker)
- *Lightning Web コンポーネント開発者ガイド*: Configuration File Tags (ファイルタグの設定)

デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移動

新しい `lightning/pageReferenceUtils` モジュールまたは `lightning:pageReferenceUtils` Aura コンポーネントを使用して、レコード作成ページにデフォルト項目値を事前入力するコンポーネント内にナビゲーションリンクを作成します。値の事前入力により、すばやいデータ入力や、データの一貫性向上、レコード作成プロセスの簡素化を実現します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。この変更は、Lightning Out、Lightning コミュニティ、Salesforce モバイルアプリケーションには適用されません。

方法: このコンポーネントは、デフォルトの項目値を符号化および復号化するためのユーティリティを提供します。この文字列を `standard__objectPage` ページ参照種別の新しい `pageReference.state.defaultFieldValues` 属性に渡します。このコンポーネントを既存の `lightning:navigation` コンポーネントと共に使用して、事前入力された項目値を含むレコード作成ページを起動できます。

レコード作成ページに移動するには、`force:createRecord` ではなく `lightning/pageReferenceUtils` および `lightning/navigation` を使用することをお勧めします。

関連トピック:

- デフォルト項目値を含むレコードの作成ページへの移動

Lightning Locker で `insertHTML` コンテンツをサニタイズ

`document.execCommand(insertHTML)` を使用して挿入された HTML が Lightning Locker でサニタイズされ、潜在的に悪意のある実行可能スクリプトコンテンツが削除されるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience と Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Lightning Message Service を使用すると、メインの Lightning ページ内のコンポーネントと、ポップアウトユーティリティバー内のコンポーネント間の通信も可能になります。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。

Lightning Web コンポーネントは、Lightning メッセージチャネルを使用して Lightning Message Service API にアクセスします。範囲設定されたモジュール `@salesforce/messageChannel` を使用して Lightning メッセージチャネルを参照します。Visualforce では、グローバル変数 `$MessageChannel` を使用します。Aura では、コンポーネント内で `lightning:messageChannel` を使用します。

対象: この機能は、Lightning Experience で使用できます。Lightning メッセージチャネルを作成するには、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition を使用します。

メモ: Lightning Message Service はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。Lightning Message Service は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Lightning Message Service に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Lightning Platform」グループに投稿してください。

理由: Lightning Experience では、1 ページに複数のコンポーネントが含まれることがよくあります。以前は、Lightning Experience で Visualforce ページが Lightning Web コンポーネントと通信するには、カスタム公開/登録ソリューションを実装する必要がありました。現在は、Lightning Message Service API を使用してその通信を処理できます。

方法: メタデータ API を使用して `SampleMessageChannel__c` というメッセージチャネルを作成したとします。Lightning Web コンポーネントが公開するメッセージチャネルに Visualforce ページを登録する方法は次のとおりです。

`SampleMessageChannel__c` (メッセージチャネルの API 参照名) で公開する `publisherComponent` という Lightning Web コンポーネントを作成します。コンポーネントは、`lightning/messageService` モジュールからメッセージチャネルで公開するメソッドをインポートします。このモジュールは、Lightning Message Service API にアクセスします。次に、`@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c` からメッセージチャネルをインポートし、識別子 `SAMPLEMC` に割り当てます。

`handleClick()` メソッドは、メッセージチャネルで公開されるデータを保持します。ここでは、データは `recordId` (値は "some string") と `recordData` (値はキー-値ペア value: "some data") です。`lightning/messageService` モジュールからインポートされた `publish()` メソッドをコールすることでデータを公開します。

```
// publisherComponent.js
import { LightningElement, wire } from 'lwc';
import { publish, MessageContext } from 'lightning/messageService';
import SAMPLEMC from "@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c";
```

```
export default class PublisherComponent extends LightningElement {
    @wire(MessageContext)
    messageContext;

    handleClick() {
        const message = {
            recordId: "some string",
            recordData: {
                value: "some data"
            }
        };
        publish(this.messageContext, SAMPLEMC, message);
    }
}
```

コンポーネントの HTML **テンプレートファイルに、**`handleClick()` **メソッドをコールする [公開] ボタンを含めます。このボタンをクリックすると、レコードデータが** `SampleMessageChannel__c` **に公開されます。登録している** Visualforce **ページはそのデータを受信します。**

```
<-- publisherComponent.html -->
<template>
    <lightning-card title="MyLwcPublisher" icon-name="custom:custom14">
        <div class="slds-m-around_medium">
            <p>MessageChannel: SampleMessageChannel</p>
            <br>
            <lightning-button label="Publish" onclick={handleClick}></lightning-button>
        </div>
    </lightning-card>
</template>
```

Lightning Web **コンポーネントが公開するメッセージチャネル** `SampleMessageChannel__c` **を** Visualforce **ページが登録および登録解除する方法は次のとおりです。**

```
<apex:page>
    <div>
        <p>Subscribe to SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="subscribeMC()">Subscribe</button>
        <p>Unsubscribe from SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="unsubscribeMC()">Unsubscribe</button>
        <br/>
        <br/>
        <p>Received message:</p>
        <textarea id="MCMessageTextArea" rows="10"
style="disabled:true;resize:none;width:100%;"/>
    </div>
    <script>
        // Load the MessageChannel token in a variable
        var SAMPLEMC = "{!$MessageChannel.SampleMessageChannel__c}";
        var subscriptionToMC;
        // Display message in the textarea field
        function onMCPublished(message) {
            var textArea = document.querySelector("#MCMessageTextArea");
          textArea.innerHTML = message ? JSON.stringify(message, null, '\t') : 'no message
```

```
 payload';
        }

        function subscribeMC() {
            if (!subscriptionToMC) {
                subscriptionToMC = sforce.one.subscribe(SAMPLEMC, onMCPublished, {scope:
"APPLICATION"});
            }
        }

        function unsubscribeMC() {
            if (subscriptionToMC) {
                sforce.one.unsubscribe(subscriptionToMC);
                subscriptionToMC = null;
            }
        }
    </script>

</apex:page>
```

重要: 開発者プレビューの Lightning Message Service を使用していた場合は、ベータリリースの次の互換性を破る変更に注意してください。Lightning Message Service API の `subscribe()` メソッドに `scope` パラメータが含まれるようになりました。範囲をアプリケーションに設定すると、登録コンポーネントはアプリケーションの任意の場所からメッセージチャネルでメッセージを受信できます。使用可能な値は「Application」のみです。次に、`subscribe()` の更新されたメソッド署名を示します。

Visualforce

```
subscribe(channelName, listenerMethod, {scope: "APPLICATION"})
```

Aura

```
<lightning:messageChannel onMessage="{!c.listenerMethod}" scope="APPLICATION"/>
```

Lightning Web コンポーネント

```
subscribe(messageContext, channelName, listenerMethod, {scope: APPLICATION_SCOPE})
```

詳細は、開発者ガイドを参照してください。

関連トピック:

- Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Visualforce 開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ポップアウトユーティリティの使用

Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 ベータ

Lightning Web コンポーネントでローカル開発が提供されるようになり、コンポーネントモジュールを構築し、コンポーネントを組織に公開せずに変更をライブで表示できるようになりました。新しい Salesforce CLI プラグイン `lwc-dev-server` を使用して、コンピュータで Lightning Web コンポーネント対応のサーバを設定および実行します。ローカル開発サーバには、コマンドラインと VS Code 向け Lightning Web コンポーネント拡張機能からアクセスできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: ローカル開発はベータ版で、フィードバックを収集できるように早期にリリースされています。重要な問題が含まれていたり、大幅な変更が行われたり、廃止されたりする可能性があります。問題が発生した場合、または機能強化を求める場合は、GitHub の問題を登録してください。この機能の使用は、Salesforce.com Program Agreement (Salesforce.com プログラム契約) に準拠します。

方法: ローカル開発サーバをインストールするには、Salesforce CLI がインストールされていて、開発者ハブ対応の組織と Chrome、Firefox、Safari、Edge Web ブラウザの最新の安定バージョンがあることを確認します。

ローカル開発サーバのインストール

1. ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドを実行してローカル開発サーバをインストールします。

```
sfdx plugins:install @salesforce/lwc-dev-server
```

2. ローカル開発サーバの更新を確認します。

```
sfdx plugins:update
```

3. SFDX プロジェクトに移動するか、Lightning Web コンポーネントのあるプロジェクトをコピーします。次の例では、`lwc-recipes` を使用します。

```
git clone git@github.com:trailheadapps/lwc-recipes.git
```

4. まだ `lwc-recipes` ルートディレクトリに移動していない場合は、`cd` で移動します。

```
cd lwc-recipes
```

5. SFDX プロジェクトの `.localdevserver` フォルダを `.gitignore` ファイルに追加します。このフォルダにはローカル開発設定が含まれます。このフォルダ内のファイルは変更しないでください。
6. 『*Salesforce DX 開発者ガイド*』の「組織での Dev Hub の有効化」の手順を実行して、開発者ハブ (Dev Hub) を承認します。Dev Hub は、あなたとチームがスクラッチ組織 (Salesforce Platform での開発用の一時的な環境) を作成および管理するために使用するメインの Salesforce 組織です。Dev Hub は、後の手順でスクラッチ組織を作成するために必要になります。
7. 『*Salesforce DX 開発者ガイド*』の手順に従って、Dev Hub のログイン情報を使用してログインします。次のコマンドを実行すると、ブラウザでログインウィンドウが開きます。

```
sfdx force:auth:web:login -d -a myhuborg
```

8. ローカル開発で、本番組織に移動する方法と同様に Lightning データサービスおよび Apex に対してスクラッチ組織に移動するように要求します。スクラッチ組織を作成するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
sfdx force:org:create -s -f config/project-scratch-def.json -a "LWC"
```

`"LWC"` は、スクラッチ組織の別名で、他の Salesforce CLI コマンドで使用できます。

> メモ: ローカル開発サーバを使用して本番 Salesforce 組織に接続しないでください。ローカル開発では、リアルタイムにデータが使用されます。本番組織に対して認証を行うと、本番環境のデータが変更または上書きされます。

スクラッチ組織を作成するには、スクラッチ組織定義ファイルを指定します。この例では、`lwc-recipes` に含まれているスクラッチ組織定義ファイル `project-scratch-def.json` を使用します。他のプロジェクトでは、独自のスクラッチ組織定義ファイルを作成します。詳細は、『*SalesforceDX 開発者ガイド*』の「スクラッチ組織の作成」の手順を参照してください。

9. コードをスクラッチ組織に転送します。

```
sfdx force:source:push
```

10. サーバを起動します。

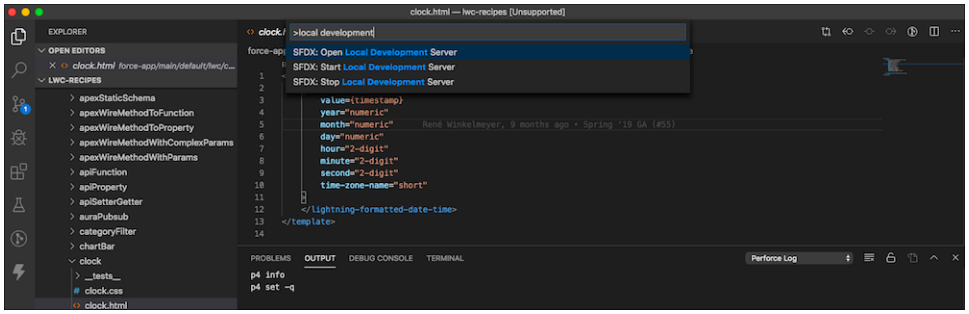
```
sfdx force:lightning:lwc:start
```

11. http://localhost:3333/ でサーバを確認します。

ローカル開発コマンドについての詳細は、`sfdx force:lightning:lwc:commandName --help` を実行して、ローカル開発ドキュメントを参照してください。

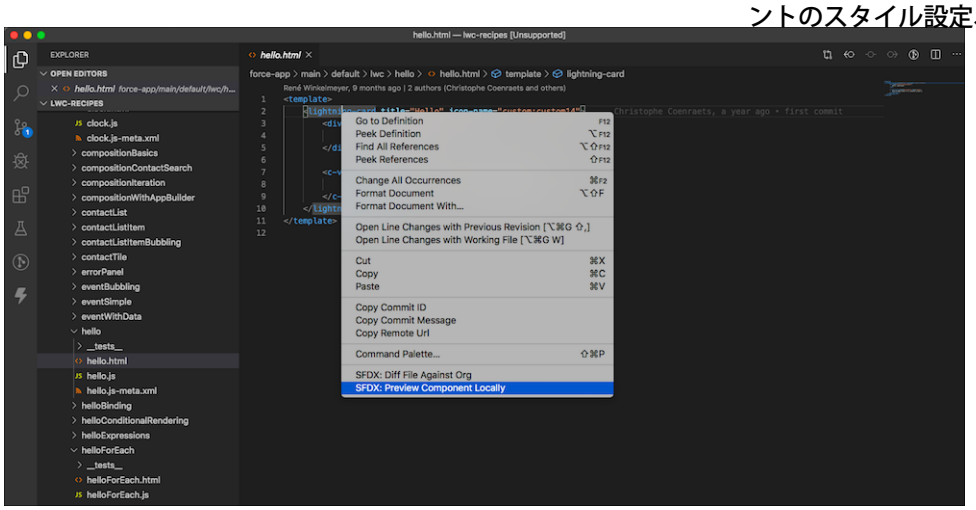
VS Code からローカル開発サーバへのアクセス

VS Code のコマンドパレットからローカル開発サーバの SFDX コマンドにアクセスするには、**command** + **shift** + **p** キーを押します。「local development」と入力すると、3 つすべてのコマンドが表示されます。

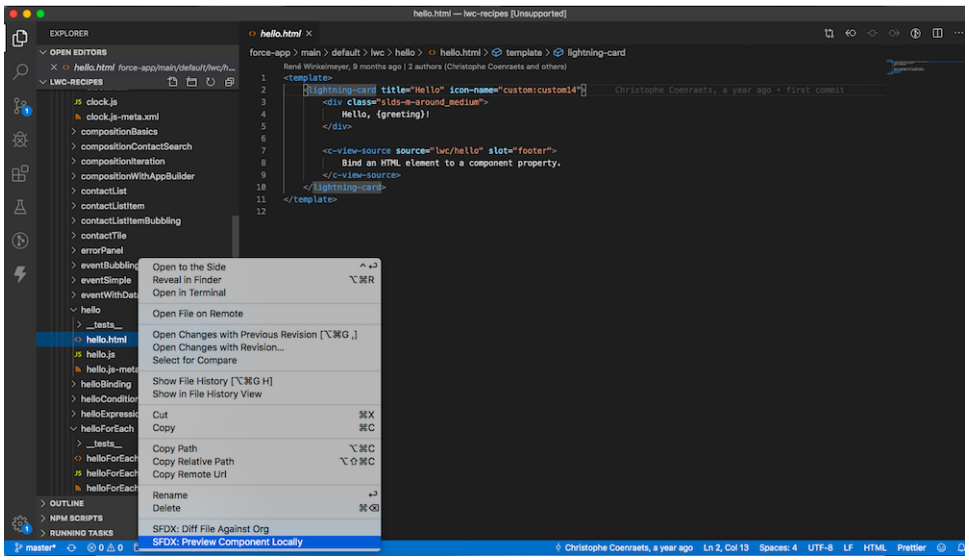


Lightning Web コンポーネントをプレビューするには、コンポーネントの HTML、CSS、または JavaScript ファイルで任意のコード行を右クリックします。HTML、CSS、JavaScript ファイル名のいずれかまたはコンポーネントフォルダを右クリックすることもできます。

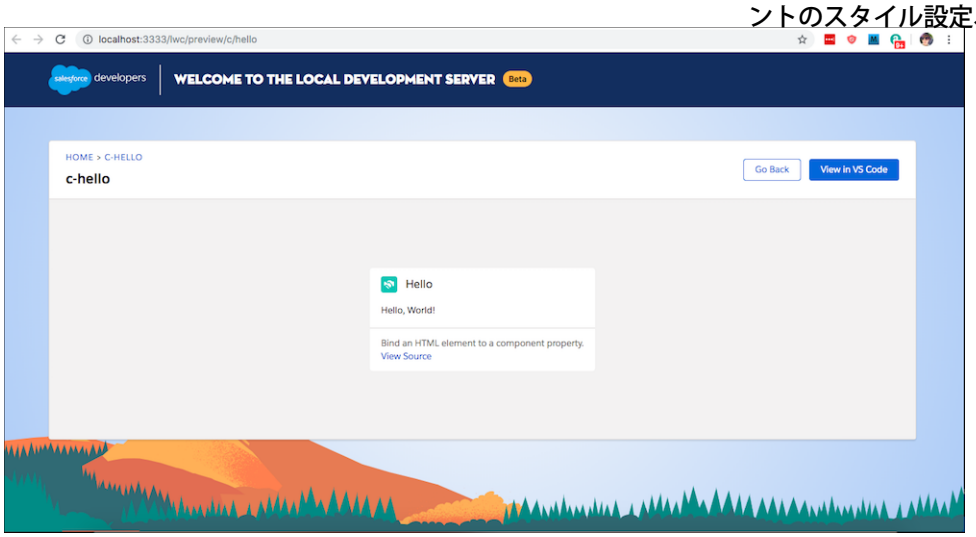
HTML コードから `c-hello` をプレビューします。



HTML ファイルから `c-hello` をプレビューします。



ローカル開発サーバでのコンポーネントのプレビューを次に示します。



関連トピック:

Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能: ローカル開発 (ベータ)

Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド): Develop Locally (ローカルで開発)

Salesforce DX 設定ガイド: Salesforce CLI のインストール

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

理由: Lightning Experience が最新の Web 標準に合わせて進化し続けるにつれて、変更が発生します。Salesforce は、この変更によるこのテストの脆弱性を指摘します。Salesforce は、ユーザが自動 UI テストから得られる価値と、この変更によりユーザにかかるメンテナンスの負荷を理解しています。Salesforce では、HTML、CSS、または DOM の下位互換性は保証されません。

方法: 以前のリリースからの UI テストに問題がある場合は、このナレッジ記事を参照してください。問題を修正するのに役立つ手順とカスタムツールが含まれています。

Jest テストで作成されたスナップショットの属性値の更新

Jest を使用してスナップショットを作成し、Lightning Web コンポーネントをテストすると、Lightning Web コンポーネントは一部の要素属性にプレースホルダ値を挿入します。この置換により属性値が変わるため、テストが失敗する場合があります。この問題を解決するには、`--updateSnapshot` コマンドオプションを使用します。

理由: Jest を使用して UI のスナップショットテストを実行するときにテストの失敗を容易に回避できるようにします。表示される、UI 要素の属性の値は、テストの順序や、他のコンポーネントまたは Lightning Web コン

ポーネントによるコンポーネントのリファクタリングに応じて変わる可能性があります。このリファクタリングには、`id`、`for`、`href` などの属性の変更や、ID 値を参照する ARIA 属性セットの変更などがあります。

方法: Lightning Web コンポーネントは、これらの値を安定したプレースホルダに置き換えます。たとえば、以前は変換された値として表示されていた属性 ID 値は、`id="[shadow:guid]"` などのプレースホルダとして表示されるようになりました。テストコマンドに `--updateSnapshot` または `-u` オプションを渡した場合、Jest はスナップショットを自動的に更新してプレースホルダを置き換えることができるため、値の編集を続ける必要はありません。

```
jest --updateSnapshot -t="ColorPicker"
```

詳細は、「Jest CLI Options (Jest CLI オプション)」を参照してください。

[JavaScript プロトタイプを凍結] セッション設定の削除

[JavaScript プロトタイプを凍結] 設定が [セッションの設定] から削除されました。この実験的設定は Winter '19 で導入され、デフォルトでは無効になっていました。一部のお客様が有効にしましたが、この設定が原因で本番組織で問題が発生しました。Salesforce は、グローバル JavaScript プロトタイプの変更を防止する他の方法を探しています。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

重要な更新: `@AuraEnabled` Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他

重要な更新がいくつかあります。

このセクションの内容:

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)
「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Spring '20 で適用されます。「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。この制限はすでに他の Salesforce 機能に適用されていますが、この重要な更新では Lightning Out に制限が適用されます。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)
この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この重要な更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新、延期)

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この重要な更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の重要な更新を有効にしていない限り、この重要な更新は表示されません。

重要な更新「管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (重要な更新)

この重要な更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この重要な更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)

セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)

「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Spring '20 で適用されます。「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。この制限はすでに他の Salesforce 機能に適用されていますが、この重要な更新では Lightning Out に制限が適用されます。

対象: この変更は Lightning Out にのみ適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Spring '20 にアップグレードすると、この重要な更新は自動的に有効化されます。自動有効化はすべての組織で 1 つの特定の日付に実行されるわけではないため、[設定] の [重要な更新] ページに記載されている自動有効化日付を無視できます

対象ユーザ: この変更は、「API 限定ユーザ」権限を持つユーザに影響します。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティアラート
- *Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド*: Lightning Out を使用した任意のアプリケーションへの Aura コンポーネントの追加 (ベータ)

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この重要な更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

対象: この変更は、Lightning コミュニティ、ポータル、および Salesforce サイトの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。

5. 開発したカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントがゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)

Apex 開発者ガイド: クラスのセキュリティ

Salesforce ヘルプ: ゲストユーザプロファイルの設定

重要な更新とセキュリティアラート

暗黙的な共有での `@AuraEnabled` Apex コントローラの `with sharing` の使用 (重要な更新、延期)

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この重要な更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の重要な更新を有効にしていない限り、この重要な更新は表示されません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Summer '20 にアップグレードすると、この重要な更新は自動的に有効化されます。自動有効化はすべての組織で 1 つの特定の日付に実行されるわけではないため、[設定] の [重要な更新] ページに記載されている自動有効化日付を無視できます

理由: `with sharing` または `without sharing` を明示的に設定しない `@AuraEnabled` Apex クラスは、デフォルトまたは暗黙的な値として `with sharing` を使用します。廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の目的は、Aura コンポーネントの Apex コントローラをデフォルトで `without sharing` にすることでした。この動作により Apex コントローラが Aura コンポーネントおよび Visualforce ページで一貫するようになりました。

さらに検討した結果、デフォルトで Lightning コンポーネントのセキュリティを確保することに決まりました。そこで、Aura コンポーネントまたは Lightning Web コンポーネントで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定する新しい重要な更新が作成されました。

Apex クラスは一般にシステムモードで実行されます。したがって、現在のユーザのログイン情報は Apex ロジックの実行に使用されないため、ユーザの権限と項目レベルのセキュリティは自動的に適用されません。

`with sharing` または `without sharing` キーワードを使用することによって、Apex クラスで共有ルールを適用するかどうかを選択できます。`with sharing` キーワードを使用した共有ルールを強制実行しても、ユーザの権限および項目レベルセキュリティは適用されません。CRUD 権限と項目レベルセキュリティは、Apex クラスで手動で別々に適用する必要があります。

方法: この重要な更新に備えるための最良の方法は、すべての `@AuraEnabled` Apex コードで `with sharing` または `without sharing` キーワードを使用して共有動作を明示的に制御することです。すべての `@AuraEnabled` コードで共有動作が明示的に設定されている場合、この重要な更新による影響を受けません。

この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. `with sharing` または `without sharing` キーワードを含まない Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: 共有ルールの適用

Winter '20 リリースノート: 暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 (重要な更新、廃止)

重要な更新「管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: `global` が付いた Apex コントローラメソッドのみが、管理パッケージに追加されると、その管理パッケージの名前空間外の Aura コンポーネントによってアクセス可能になります。Apex 定義で `public` が付いたメソッドは、パッケージの名前空間に含まれる Aura コンポーネントでのみアクセス可能です。この重要な更新を有効にすると、これらのルールが適用されます。

この更新の前は、パッケージ名前空間外の Aura コンポーネントから `global` 以外のメソッド (`global` アクセス修飾子が付いていない Apex コントローラメソッド) にアクセスできました。

この更新を有効にすると、管理パッケージの `global` 以外の Apex メソッドをコードで誤って使用している場合、そのメソッドをコールするサーバアクションは失敗します。パッケージによって `global` メソッドとして提供されるサポート対象 API メソッドのみを使用するように、コードを更新してください。

メモ: パッケージ外の Aura コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。Aura コンポーネントは、別のパッケージからインストー

ルするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のコンポーネントは未管理パッケージと同様に扱われます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. **[重要な更新]** を選択します。
3. **管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (重要な更新)** の詳細を確認します。
4. **[有効化]** をクリックします。
5. カスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (重要な更新)

この重要な更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: Aura では、`access` システム属性を介して、アプリケーション、属性、コンポーネント、イベント、インターフェース、メソッドへのアクセスを制御できます。`access` システム属性は、リソースをその名前空間外で使用できるかどうかを示します。Aura または Lightning Web コンポーネントでは、コンポーネントにアクセスするための権限を必要とすることもできます。

この重要な更新を有効化すると、フレームワークは、各コンポーネントへのアクセスに必要な権限を含め、最上位コンポーネントおよび各コンポーネントの連動関係に対する許可されたアクセス権をチェックします。この重要な更新を有効化しない場合、フレームワークは、最上位コンポーネントに対するアクセス権のみをチェックします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. **[重要な更新]** を選択します。
3. **重要な更新**「Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックを有効化」の詳細を確認します。
4. **[有効化]** をクリックします。
5. Lightning コンポーネントが含まれるすべてのパッケージを再インストールします。

6. カスタム Lightning コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: アクセスの制御

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この重要な更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. 開発したカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントが認証済みユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)

Apex 開発者ガイド: クラスのセキュリティ

重要な更新とセキュリティアラート

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: `counter` クラスプロパティの private getter を含む Apex クラスの例を見てみましょう。

```
public class EnforcePrivateGetter {
    @AuraEnabled

    public Integer counter { private get; set; }

    @AuraEnabled
    public static EnforcePrivateGetter GetRepro2()
    {
        EnforcePrivateGetter result = new EnforcePrivateGetter();
        result.counter = 2;
        return result;
    }
}
```

この重要な更新が有効になると、この Aura コンポーネントは `{!v.apexObject.counter}` 式を使用して `private` getter にアクセスできなくなります。同じ制限が Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

```
<aura:component controller="EnforcePrivateGetter" access="global">
    <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.doInit}"/>

    <aura:attribute type="EnforcePrivateGetter" name="apexObject" />

    counter = {!v.apexObject.counter} <br></br>
</aura:component>
```

JavaScript コントローラを次に示します。

```
({
    doInit : function(cmp, ev) {
        var action = cmp.get("c.GetRepro2");

        action.setCallback(this, function(response) {
          var state = response.getState();
          if (state === "SUCCESS") {
            cmp.set('v.apexObject', response.getReturnValue());
          }
          else if (state === "ERROR") {
            console.log('Error : ' + JSON.stringify(errors));
          }
        });
        $A.enqueueAction(action);
    }
})
```

この重要な更新が有効になった場合、修正方法は、getter の `private` アクセス修飾子を削除して、クラス変数定義を次のように変更することです。

```
public Integer counter { get; set; }
```

Apex プロパティを Apex クラス外で参照可能にするには、プロパティに `private` または `protected` アクセス修飾子を含めないようにします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. getter に `private` または `protected` アクセス修飾子を含む Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)

セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新が有効化されると、オブジェクトで `$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値としてキー - 値ペア `{"exprType": "FUNCTION"}` を使用すると、予期しない動作がトリガされるのではなく、エラーが発生します。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 「Prevent Creation of Function Expressions When Using `$A.createComponent()` or `$A.createComponents()` in Aura Components」 (Aura コンポーネントで $A.createComponent() または $A.createComponents() を使用する場合の関数式の作成の防止) 重要な更新の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. 開発したカスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide: Dynamically Creating Components (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントの動的な作成)

重要な更新とセキュリティアラート

セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限

いくつかのセキュリティアラートを追加しました。

このセクションの内容:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

対象: この変更は、Lightning コミュニティ、ポータル、および Salesforce サイトの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: 関連付けられた重要な更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: セキュリティアラートと組織の推奨事項を参照するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「*セキュリティアラート*」と入力し、[セキュリティアラート] を選択します。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)

重要な更新とセキュリティアラート

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: 関連付けられた重要な更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: セキュリティアラートと組織の推奨事項を参照するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「セキュリティアラート」と入力し、[セキュリティアラート] を選択します。

関連トピック:

- ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)
- 重要な更新とセキュリティアラート

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

Einstein Vision: より詳細なエラーメッセージ
Einstein Object Detection トレーニング API へのコールで、よりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。

Einstein Language: 新しいモデル評価指標
モデル評価指標情報を返す Einstein Language API へのコールに `macroF1` 項目、`precision` 配列、`recall` 配列が含まれるようになりました。

Einstein Vision: より詳細なエラーメッセージ

Einstein Object Detection トレーニング API へのコールで、よりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。

このセクションの内容:

Einstein Object Detection トレーニング API コールのより詳細なエラーメッセージの取得
オブジェクト検出データセットをトレーニングしているときにトレーニングプロセスでエラーが発生すると、API でよりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。通常、このエラーメッセージにはエラーの原因となった問題とその修正方法が明記されます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要)

Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Einstein Object Detection トレーニング API コールのより詳細なエラーメッセージの取得

オブジェクト検出データセットをトレーニングしているときにトレーニングプロセスでエラーが発生すると、API でよりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。通常、このエラーメッセージにはエラーの原因となった問題とその修正方法が明記されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: データセット種別が `image-detection` の場合、次の API エンドポイントで改善されたエラーが返されます。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/vision/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/vision/retrain`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Einstein Language: 新しいモデル評価指標

モデル評価指標情報を返す Einstein Language API へのコールに `macroF1` 項目、`precision` 配列、`recall` 配列が含まれるようになりました。

このセクションの内容:

Language API モデル評価指標の応答内の新しい要素により深まるモデルの理解
モデル評価指標で返される新しい要素により、モデルのパフォーマンスの理解を深めることができます。モデル評価指標情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON には、3 つの新しい要素 (`macroF1` 項目、`precision` 配列、`recall` 配列) が含まれます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)
Salesforce Einstein: Einstein Voice アシスタントを使用した声での Salesforce の操作 (ベータ)、記事のおすすめを使用したケースの迅速な解決、検索条件を使用した将来の予測

Language API モデル評価指標の応答内の新しい要素により深まるモデルの理解

モデル評価指標で返される新しい要素により、モデルのパフォーマンスの理解を深めることができます。モデル評価指標情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON には、3 つの新しい要素 (`macroF1` 項目、`precision` 配列、`recall` 配列) が含まれます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2019 年 9 月 30 日以降に作成されたすべての言語モデルに適用されます。その日付より前に作成されたモデルでこれらの変更を確認する場合、データセットを保持して新しいモデルを作成します。

方法: モデル種別が `text-intent` または `text-sentiment` の場合、これらのコールの応答に新しい項目と配列が表示されます。

- モデル評価指標を取得する — GET `/v2/language/models/<MODEL_ID>`
- モデルの学習曲線を取得する — GET `/v2/language/models/<MODEL_ID>/lc`

モデル評価指標を返すコールは、次の JSON のようになります。簡潔にするため、混同行列および適合率-再現率曲線データは削除されています。

```
{
  "id": "XTRMEB5KGSS2IL2JMSJSOWG108",
  "metricsData": {
    "f1": [
      0.8333333333333333,
      0.4,
      0.9333333333333332
    ],
    "labels": [
      "hourly-forecast",
      "five-day-forecast",
      "current-weather"
    ],
    "recall": [
      1,
      0.3333333333333333,
```

```
      0.875
    ],
    "macroF1": 0.7222222222222223,
    "testLoss": 0.44152334332466125,
    "precision": [
      0.7142857142857143,
      0.5,
      1
    ],
    "threshold": {
      "current-weather": 0.41057,
      "hourly-forecast": 0.98462,
      "five-day-forecast": 0.9775
    },
    "testAccuracy": 0.8125,
    "trainingLoss": 0.2154673933982849,
    "confusionMatrix": [],
    "trainingAccuracy": 0.9122806787490844,
    "precisionRecallCurve": {}
  },
  "createdAt": "2019-11-19T22:27:57.000+0000",
  "language": "en_US",
  "algorithm": "intent",
  "object": "metrics"
}
```


関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: モデル評価指標の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Model Learning Curve (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: モデルの学習曲線の取得)

Einstein プラットフォーム: 予測インサイトの詳細

組織内で予測ビルダーなどの Einstein AI 機能を使用する方法を拡張することに関心がありますか? Einstein プラットフォームは、予測ビルダーやその他の多くの Einstein が強力な AI ジョブを実行するために使用する Salesforce レイヤです。新しい Einstein プラットフォーム API を使用して、予測インサイトにアクセスし、独自の AI ソリューションに Einstein 機能を適用します。

このセクションの内容:

Sandbox 組織での Einstein 予測の実行
Sandbox 組織で予測を作成および実行し、さまざまな設定で試します。

Sandbox 組織での Einstein 予測の実行

Sandbox 組織で予測を作成および実行し、さまざまな設定で試します。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein Predictions ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: Sandbox 組織で新しい予測を作成し、テストしてから、本番で予測を実行します。

Visualforce: Lightning Message Service の概要 (ベータ)、ID パラメータによるリモートメソッドの種別チェック

Lightning Message Service を使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。Visualforce は文字列が有効な Apex ID としてフォーマットされていることを JavaScript Remoting ツールで確認するようになりました。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『Visualforce 開発者ガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

Lightning Message Service API を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)
Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。詳細は、リリースノートの「Lightning コンポーネント」セクションを参照してください。

ID パラメータによるリモートメソッドの種別チェックを使用したセキュリティの脆弱性からの保護
SOQL インジェクション脆弱性のリスクを緩和するため、Visualforce は文字列が有効な Apex ID としてフォーマットされていることを JavaScript Remoting ツールで確認するようになりました。無効な文字列を検出すると `RemoteObjectExeption` エラーを返します。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)
Spring '18 リリースで発表されたように、Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。

Visualforce アクセス総計値に関する権限の変更
SOAP API を介して Visualforce ページの総計値にアクセスするには、ユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

Lightning Message Service API を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。詳細は、リリースノートの「Lightning コンポーネント」セクションを参照してください。

ID パラメータによるリモートメソッドの種別チェックを使用したセキュリティの脆弱性からの保護

SOQL インジェクション脆弱性のリスクを緩和するため、Visualforce は文字列が有効な Apex ID としてフォーマットされていることを JavaScript Remoting ツールで確認するようになりました。無効な文字列を検出すると `RemoteObjectExeption` エラーを返します。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: JavaScript Remoting は、フロントエンド開発者が Visualforce ページから直接 Apex コントローラへの AJAX 要求を行うことができるツールです。Remoting コールで `@RemoteAction` に文字列が渡された場合、予期されるパラメータ種別は `Id` です。この変更では、Visualforce は ID が正しいフォーマットに準拠していることを確認して、セキュリティの脆弱性からシステムを保護します。JavaScript コンソールは、すべてのエラーと例外をログに記録します。この更新は、Apex コントローラクラスの API バージョンが 48.0 以降でなければ表示されません。

関連トピック:

Visualforce 開発者ガイド: Apex コントローラの JavaScript Remoting

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

Spring '18 リリースで発表されたように、Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)
重要な更新とセキュリティアラート
重要な更新とセキュリティアラート

Visualforce アクセス総計値に関する権限の変更

SOAP API を介して Visualforce ページの総計値にアクセスするには、ユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Apex

Apex セキュリティ機能 `WITH SECURITY_ENFORCED` および `Security.stripInaccessible` が正式リリースされました。新しい `System.Finalizer` インターフェース (パイロット) では、アクションを非同期のキュー可能ジョブに関連付けることができます。重要な更新により、`Type.newInstance` メソッドで Apex 種別の表示ルールの厳密な適用が可能になります。Schema 名前空間の `getDescribe` メソッドには、子リレーションを事前に読み込むかどうかを決定するパラメータがあります。`toString` メソッドを使用して、System 名前空間の Map、List、Set クラスの文字列表現を取得します。

これらの機能強化についての詳細は *『Apex 開発者ガイド』* を参照してください。

このセクションの内容:

- SOQL クエリの WITH SECURITY_ENFORCED を使用した項目およびオブジェクトレベル権限チェックの有効化 (正式リリース)
- Apex での項目およびオブジェクトレベルのセキュリティの適用 (正式リリース)
- TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)
- 非グローバルコントローラコンストラクタへのリフレクティブアクセスの制限 (重要な更新)
- 組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新)
- 呼び出し可能なメソッドおよび呼び出し可能な変数での汎用 sObject データ型の使用
- イベント監視ログを使用して Apex トリガで消費される CPU 時間を追跡

SOQL クエリの WITH SECURITY_ENFORCED を使用した項目およびオブジェクトレベル権限チェックの有効化 (正式リリース)

`WITH SECURITY_ENFORCED` を使用した SOQL クエリが正式リリースされました。Apex コードの SOQL SELECT クエリ (サブクエリとクロスオブジェクトリレーションを含む) で `WITH SECURITY_ENFORCED` 句を使用して、項目およびオブジェクトレベルセキュリティ権限のチェックができます。`WITH SECURITY_ENFORCED` 句は Apex でのみ使用できます。

Apex での項目およびオブジェクトレベルのセキュリティの適用 (正式リリース)

項目およびオブジェクトレベルのデータ保護の `Security.stripInaccessible` メソッドが正式リリースされました。`stripInaccessible` メソッドを使用して、現在のユーザがクエリおよびサブクエリの結果からアクセスできない項目を削除します。このメソッドは、DML 操作の前に sObject からアクセスできない項目を削除し、例外を回避するために使用します。また、`stripInaccessible` メソッドを使用して、信頼されない提供元からの並列化された sObject をサニタイズします。

TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)

Spring '20 では、新しい `System.Finalizer` インターフェースを使用してアクションを非同期のキュー可能ジョブに関連付ける方法が導入されました。具体的な使用事例として、キュー可能ジョブが失敗した場合の回復アクションの設計が挙げられます。

非グローバルコントローラコンストラクタへのリフレクティブアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新を有効にすると、API バージョンに関係なく、`Type.newInstance` を実行するコードに表示される非引数コンストラクタを含む Apex クラスのみを開始できます。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新)

組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

呼び出し可能なメソッドおよび呼び出し可能な変数での汎用 sObject データ型の使用

`@InvocableMethod` アノテーションのあるメソッドと `@InvocableVariable` アノテーションのある変数で汎用 sObject および List<sObject> データ型がサポートされるようになりました。

イベント監視ログを使用して Apex トリガで消費される CPU 時間を追跡

Apex トリガイベント項目の `CPU_TIME` を使用して、トリガのアプリケーション CPU 時間を追跡します。以前のリリースでは、この項目はスキーマに存在しましたが、入力されませんでした。

SOQL クエリの WITH SECURITY_ENFORCED を使用した項目およびオブジェクトレベル権限チェックの有効化 (正式リリース)

WITH SECURITY_ENFORCED を使用した SOQL クエリが正式リリースされました。Apex コードの SOQL SELECT クエリ (サブクエリとクロスオブジェクトリレーションを含む) で WITH SECURITY_ENFORCED 句を使用して、項目およびオブジェクトレベルセキュリティ権限のチェックができます。WITH SECURITY_ENFORCED 句は Apex でのみ使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 45.0 より前の API バージョンの Apex クラスまたはトリガで WITH SECURITY_ENFORCED を使用することはお勧めしません。WITH SECURITY_ENFORCED を使用して多態的な参照項目を照会するときの新しい制限があります。多態的な参照項目とは、複数のエンティティを参照できるリレーション項目です。

- 多態的な項目のリレーションのトラバースは、WITH SECURITY_ENFORCED を使用したクエリではサポートされません。たとえば、ユーザエンティティおよびカレンダーエンティティの ID および所有者名を返す次のクエリでは WITH SECURITY_ENFORCED を使用できません。`SELECT Id, What.Name FROM Event WHERE What.Type IN ('User','Calendar')`
- ELSE 句と組み合わせた TYPEOF 式の使用は、WITH SECURITY_ENFORCED を使用したクエリではサポートされません。TYPEOF は任意の多態的なリレーションの種別について返される項目を指定するために SELECT クエリで使用されます。たとえば、次のクエリで WITH SECURITY_ENFORCED を使用することはできません。このクエリでは、取引先オブジェクトと商談オブジェクトで返される特定の項目と、他のすべてのオブジェクトで返される [名前] 項目と [メール] 項目を指定します。

```
SELECT
TYPE OF What
   WHEN Account THEN Phone
   WHEN Opportunity THEN Amount
   ELSE Name,Email
END
FROM Event
```

- 多態的な参照項目 Owner、CreatedBy、LastModifiedBy は、この制限から除外され、多態的なリレーションをトラバースできます。
- AppExchange セキュリティレビューでは、WITH SECURITY_ENFORCED を使用するときに API バージョン 48.0 以降を使用する必要があります。機能がベータまたはパイロットだった API バージョンは使用できません。

Apex での項目およびオブジェクトレベルのセキュリティの適用 (正式リリース)

項目およびオブジェクトレベルのデータ保護の Security.stripInaccessible メソッドが正式リリースされました。stripInaccessible メソッドを使用して、現在のユーザがクエリおよびサブクエリの結果からアクセスできない項目を削除します。このメソッドは、DML 操作の前に sObject からアクセスできない項目を削除し、例外を回避するために使用します。また、stripInaccessible メソッドを使用して、信頼されない提供元からの並列化された sObject をサニタイズします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: `stripInaccesible` メソッドは、ソースレコードに現在のユーザの項目およびオブジェクトレベルのセキュリティチェックに失敗した項目がないか確認し、SObject のリストを返すために作成します。返されるリストは、現在のユーザがアクセスできない項目が除外されている以外は、ソースレコードと同じです。

TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)

Spring '20 では、新しい `System.Finalizer` インターフェースを使用してアクションを非同期のキュー可能ジョブに関連付ける方法が導入されました。具体的な使用事例として、キュー可能ジョブが失敗した場合の回復アクションの設計が挙げられます。

対象: この変更は、組織の作成時に機能を有効化したスクラッチ組織の Lightning Experience と Salesforce Classic にのみ適用されます。Finalizer は、現在パイロットとして提供されており、スクラッチ組織でのみ使用できるため、パッケージ化しないでください。

> **メモ:** TransactionFinalizers 機能は、組織の作成時に機能を有効化したスクラッチ組織でのみ、パイロットプログラムとして使用できます。この機能は変更される可能性があり、パイロット期間中は本番組織で使用できません。パイロットプログラムは変更される可能性があります。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能に関するフィードバックや提案は、IdeaExchange の「TransactionFinalizers」グループに投稿してください。

理由: 現在、非同期ジョブが成功または失敗したときに実行されるアクションを直接指定する方法はありません。SOQL クエリを使用して `asyncapexjob` の状況をポーリングし、ジョブが失敗している場合にジョブを再度キューに追加することしかできません。TransactionFinalizers を使用すると、後処理アクションシーケンスを非同期ジョブに関連付け、ジョブの実行結果に基づいて関連するアクションを実行できます。

方法: まず、`System.Finalizer` インターフェースを実装するクラスを実装します。次に、Finalizer インターフェースを実装するインスタンス化されたクラスの引数を使用して `System.attachFinalizer` メソッドを呼び出し、キュー可能ジョブの execute メソッド内で Finalizer を関連付けます。1 つの Finalizer のみを任意のキュー可能ジョブに関連付けることができます。Finalizer では、1 つの非同期 Apex ジョブ (キュー可能ジョブ、実行予定ジョブ、一括処理ジョブ) をキューに追加できます。Finalizer でコールアウトを実行することもできます。

`execute (FinalizerContext ctx)` メソッドは、Finalizer が関連付けられているキューに追加された各ジョブでコールされます。execute メソッド内で、キュー可能ジョブの終了時に実行されるアクションを定義できます。`System.Finalizer` クラスは、Apex ランタイムエンジンによって作成され、引数として execute メソッドに挿入されます。このクラスのインスタンスを作成したり、派生させたりしないでください。
`System.FinalizerParentJobResult` 列挙は、Finalizer が関連付けられている親非同期 Apex キュー可能ジョブの結果を表します。この列挙は、`SUCCESS`、`UNHANDLED_EXCEPTION` の値を取ります。

この例では、Finalizer インターフェースを実装し、予期しない、キャッチできないエラーが発生するまでにキュー可能ジョブがどこまで進むのかを識別します。また、エラーの詳細も取得します。

```
public class AccountUpdateLoggingFinalizer implements Finalizer {
    // Used to maintain progress
    List<String> acctNames;

    public AccountUpdateLoggingFinalizer() {
        acctNames = new List<String>();
```

```
    }

    public void execute(FinalizerContext ctx) {
        Id parentQueueableJobId = ctx.getAsyncApexJobId();
        System.Debug('Executing Finalizer that was attached to Queueable Job ID: ' +
parentQueueableJobId);
        if (ctx.getAsyncApexJobResult() == FinalizerParentJobResult.SUCCESS) {
            // Queueable executed successfully
          System.Debug('Parent Queueable (Job ID: ' + parentQueueableJobId + '): completed
 successfully!');
        } else {
            // Queueable failed
            // Log some additional information.
          System.Debug('Parent Queueable (Job ID: ' + parentQueueableJobId + '): FAILED!');

            System.Debug('Parent Queueable Exception: ' +
ctx.getAsyncApexJobException().getMessage());

            // Show the accounts that were processed before Queueable Job encountered the
 exception
            System.Debug('Parent Queueable processed following accounts:');
            for (String acctName : acctNames) {
                System.Debug(acctName);
            }
        }
    }

    public void reportProgress(Account acct) {
        acctNames.add(acct.Name);
    }
}
```

```
public class FollowupActionQueueable implements Queueable {
    public void execute(QueueableContext ctx) {
       System.Debug('FollowupActionQueueable is executing');
    }
}
```

```
public class AccountUpdateQueueable implements Queueable {

    public void execute(QueueableContext ctx) {

        // Create a transaction finalizer
        AccountUpdateLoggingFinalizer finalizer = new AccountUpdateLoggingFinalizer();

        // Attach the transaction finalizer to this queueable
        System.attachFinalizer(finalizer);

        // Do some (partial) work
        Account acct = new Account();
        acct.Name = '1st Account';
        insert(acct);

        // Send some status update to the finalizer
```

```
        finalizer.reportProgress(acct);

        // do some work that results in an unforeseen, uncatchable exception
        someWork();

        // Attempt to do some more work
        Account acct2 = new Account();
        acct2.Name = '2nd Account';
        insert(acct2);

        // Report more progress
        finalizer.reportProgress(acct2);
    }

    private void someWork() {
        // regular implementation that could result in an un-catchable
        // exception e.g. System.LimitException due to CPU usage over limits

        // for demonstration, try to enqueue 2 jobs so this method results in
        // System.LimitException because more than one job cannot be enqueued
        // from a Queueable
        System.enqueueJob(new FollowupActionQueueable());
        System.enqueueJob(new FollowupActionQueueable());
    }
}
```

非グローバルコントローラコンストラクタへのリフレクティブアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新を有効にすると、API バージョンに関係なく、`Type.newInstance` を実行するコードに表示される非引数コンストラクタを含む Apex クラスのみを開始できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: この重要な更新により、`Type.newInstance` メソッドで Apex 種別の表示ルールの厳密な適用が可能になります。また、API バージョン 28.0 以前のこれらのルールをサポートする従来の互換性動作が削除されます。第二世代パッケージに含まれる Apex クラスは、@NamespaceAccessible アノテーションがある場合のみ、同じ名前空間の他のパッケージから公開クラスをインスタンス化できます。

また、API バージョンに関係なく、種別が参照可能で `Type.forName` を使用して参照できる場合であっても、抽象クラスまたはインターフェースの作成ができなくなります。こうしたインスタンス化は失敗し、次のメッセージが表示されます: 「*ApexType* does not have a no-arg constructor (ApexType に非引数コンストラクタがありません)」。ここで、*ApexType* は `Type.newInstance` メソッドを使用して作成しようとした種別です。

メタデータ API を使用してこの機能をプログラムで有効化するには、『*メタデータ API 開発者ガイド*』の「ApexSettings」を参照してください。

メモ: グローバルクラスに変更はなく、引き続きすべての名前空間で使用できます。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新)

組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: この重要な更新は、標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、およびそれらの項目を含む組織スキーマを定義してキャッシュする内部システムを改善することで、既知のバグを修正します。ドキュメントに記載された組織のスキーマの動作に変更はありません。この更新では、ドキュメントが既知の動作と一致しないバグが修正されます。また、ドキュメントに記載されていないオブジェクト種別が Apex の Describe Result メソッドに表示されたり、バージョン固有のスキーマの詳細が不適切に再利用されるという、まれに発生する断続的な問題も解決されます。

メモ: この更新は、Summer '19 で短い間利用でき、リリースノートに記載されていましたが、カスタマーリリースの前に削除されました。これは、この更新を有効化できるようになった最初のリリースです。

呼び出し可能なメソッドおよび呼び出し可能な変数での汎用 sObject データ型の使用

`@InvocableMethod` アノテーションのあるメソッドと `@InvocableVariable` アノテーションのある変数で汎用 sObject および List<sObject> データ型がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

- 複数のオブジェクトで機能する呼び出し可能なアクションの作成

イベント監視ログを使用して Apex トリガで消費される CPU 時間を追跡

Apex トリガイベント項目の `CPU_TIME` を使用して、トリガのアプリケーション CPU 時間を追跡します。以前のリリースでは、この項目はスキーマに存在しましたが、入力されませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Apex トリガイベントについての詳細は、『*Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス*』の「Apex トリガイベント種別」を参照してください。

API

API バージョン 48.0 では、関連するオブジェクトドキュメントをより簡単に検索したり、管理パッケージの非グローバル実装の詳細のない記号テーブルを取得したり、より多くの API コールを使用したりできます。

このセクションの内容:

関連するオブジェクトドキュメントの検索の簡易化
冗長なオブジェクトドキュメントが削除され、関連するオブジェクトがグループ化されたため、より簡単に目的のオブジェクトを見つけられるようになりました。

本番組織と Sandbox 組織での MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)
多くの組織には、使用しなくなったさまざまなメタデータコンポーネント (カスタムオブジェクトや項目など) が散乱しています。Tooling API の MetadataComponentDependency オブジェクトを使用する Dependency API 機能を使用して、組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を表示できます。この情報を基に、コンポーネントを削除しても問題ないかどうかを判断することができます。コンポーネント間で連動関係を見つければ、メタデータをパッケージに分割する場合にも役立ちます。単一の組織を操作する代わりにパッケージのセットを操作することで、変更の管理やバージョン管理の使用、継続的インテグレーションシステムの使用が容易になります。

改善された記号テーブルの生成
管理パッケージの記号テーブルに非グローバル実装の詳細が含まれなくなりました。この変更により、管理パッケージで使用できない不要な情報が記号テーブルに表示されなくなります。

使用できる API コールの増加
デフォルトの API 要求の日次割り当てが 15,000 から 100,000 に増加しました。

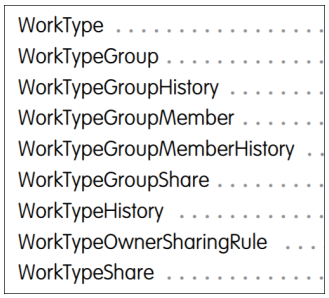
API コールの日次上限の削除
API 要求の日次上限 (1,000,000) が削除されました。

新しい使用量ベースのエンタイトルメントを使用した月次 API コールの表示
API要求の日次制限を超えても組織がブロックされなくなりました(システムの状態の影響を受ける)。プラットフォームリソースを保護するために、ハードキャップが設定されています。新しい使用量ベースのエンタイトルメントには、30 日間の集計された API 要求の合計数が表示されます。

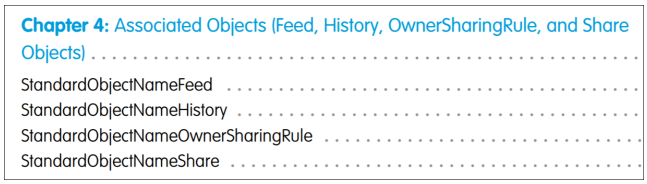
関連するオブジェクトドキュメントの検索の簡易化

冗長なオブジェクトドキュメントが削除され、関連するオブジェクトがグループ化されたため、より簡単に目的のオブジェクトを見つけられるようになりました。

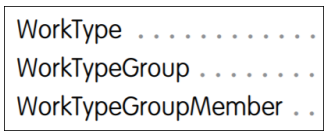
理由: WorkType オブジェクトを操作していて、関連するオブジェクトドキュメントをすべて見つけようとしているとします。以前は、『*Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス*』開発者ガイドの目次にすべての親オブジェクトと関連付けられたオブジェクトが含まれていました。



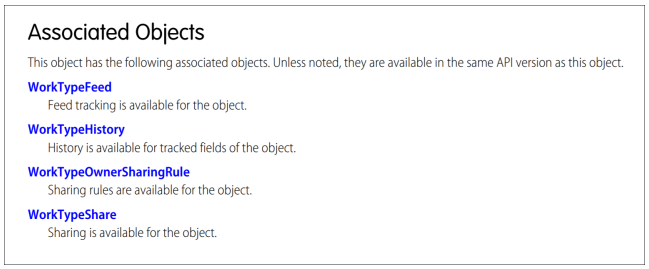
これでは、どのオブジェクトが親オブジェクトでどれが関連付けられたオブジェクトなのかを理解するのは大変です。さらに、関連付けられたオブジェクトの多くでサポートされるコールおよび項目は同じです。たとえば、WorkTypeHistory オブジェクト、WorkTypeGroupHistory オブジェクト、WorkTypeGroupMemberHistory オブジェクトのドキュメントはまったく同じです。そのため、各オブジェクトを個別に文書化するのは冗長なことです。こうした問題を解決するために、開発者ガイドに「関連付けられたオブジェクト」の章が設けられ、Feed、History、OwnerSharingRule、Share といった関連付けられたオブジェクトの各種別が 1 つのトピックになりました。



関連付けられた各オブジェクトのトピックには、オブジェクトのサポートされるコールおよび項目が含まれます。さらに、冗長なオブジェクトドキュメントが削除されました。WorkType オブジェクトの目次に親オブジェクトしか記載されなくなりました。



親オブジェクトのドキュメントには新たに「関連付けられたオブジェクト」セクションが設けられ、便利なリンクのリストがあります。たとえば、WorkType オブジェクトには次のリストがあります。



関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス

SOAP API 開発者ガイド

本番組織と Sandbox 組織での MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)

多くの組織には、使用しなくなったさまざまなメタデータコンポーネント (カスタムオブジェクトや項目など) が散乱しています。Tooling API の MetadataComponentDependency オブジェクトを使用する Dependency API 機能を使用して、組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を表示できます。この情報を基に、コンポーネントを削除しても問題ないかどうかを判断することができます。コンポーネント間で連動関係を見つければ、メタデータをパッケージに分割する場合にも役立ちます。単一の組織を操作する代わりにパッケージのセットを操作することで、変更の管理やバージョン管理の使用、継続的インテグレーションシステムの使用が容易になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Sandbox 組織と本番 (Prod) 組織で使用できます。

メモ: ベータ機能の MetadataComponentDependency (Dependency API) は、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因する危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。フィードバックや提案は、「Dependency API/Field Usage (Beta)」 Trailblazer Community グループページに投稿してください。

方法: SOQL クエリを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間のリレーションを取得します。クエリ結果には、リレーションごとに 1 つの列が含まれます。クエリにつき取得できるレコードは最大 2,000 個までです。このレコード数の範囲内で正確な結果が返されるように、クエリは具体的な内容にしてください。

```
{
  "size" : 132,
  "totalSize" : 132,
  "done" : true,
  "queryLocator" : null,
  "entityTypeName" : "MetadataComponentDependency",
  "records" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "MetadataComponentDependency",
      "url" :
"/services/data/v47.0/tooling/sobjects/MetadataComponentDependency/000000000000000AAA"
    },
    "RefMetadataComponentId" : "00NXXXXXXXXXXXXXXX",
    "RefMetadataComponentName" : "acctTime",
    "MetadataComponentName" : "acctTimeReport",
    "MetadataComponentType" : "Report"
  },  {
    "attributes" : {
      "type" : "MetadataComponentDependency",
      "url" :
"/services/data/v47.0/tooling/sobjects/MetadataComponentDependency/000000000000000AAA"
```

```
    },
    "RefMetadataComponentId" : "00XXXXXXXXXXXXXXX",
    "RefMetadataComponentName" : "acctTime",
    "MetadataComponentName" : "formulaTime",
    "MetadataComponentType" : "CustomField"
  },...
```

次のクエリはサポートされていません。

- SOQL `ORDER BY` 句
- SOQL `SELECT` 句 — `count()` 関数
- SOQL `queryMore()`
- SOQL `WHERE` 句 — MetadataComponentName を使用した任意の検索条件の種別
- SOQL `WHERE` 句 — RefMetadataComponentName を使用した任意の検索条件の種別
- SOQL `WHERE` 句 — `=`、`!=`、`AND`、`OR` を除く演算子を含む
- SOQL `WHERE` 句 — (`RefMetadataComponentType = 'StandardEntity'`) で絞り込む
- SOQL `WHERE` 句 — `LIKE` 演算子を MetadataComponentType 項目または RefMetadataComponentType 項目と組み合わせて使用
- SOQL `OFFSET` 句

詳細は、「MetadataComponentDependency」を参照してください。

改善された記号テーブルの生成

管理パッケージの記号テーブルに非グローバル実装の詳細が含まれなくなりました。この変更により、管理パッケージで使用できない不要な情報が記号テーブルに表示されなくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 改善されたプロセスでは、修飾子が明示的に `global` に設定されている実装の詳細のみが管理パッケージの記号テーブルに含まれます。その他の詳細はすべて非表示になります。

記号テーブルに含まれる要素と含まれない要素に関する情報を次に示します。

- パラメータ: コンストラクタまたはメソッドの修飾子を継承しないため、含まれません。
- 参照: 誤認される内部参照は含まれなくなりました。記号テーブルの生成で、内部参照なのか、外部参照なのかを正しく識別できるようになりました。
- ローカル変数: `global` に設定できないため、含まれません。ローカル変数は、親実装がグローバルでも非表示になります。

使用できる API コールの増加

デフォルトの API 要求の日次割り当てが 15,000 から 100,000 に増加しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition (API アクセス有効)、Unlimited Edition、および Performance Edition に適用されます。

理由: この変更により、Salesforce とのインテグレーションをより適切にサポートするための追加の API コールがデフォルトで有料組織に提供されます。

API コールの日次上限の削除

API 要求の日次上限 (1,000,000) が削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Professional Edition (API アクセス有効) に適用されます。

理由: この変更により、割り当てを超えずにより多くの API コールを実行できます。

新しい使用量ベースのエンタイトルメントを使用した月次 API コールの表示

API 要求の日次制限を超えても組織がブロックされなくなりました (システムの状態の影響を受ける)。プラットフォームリソースを保護するために、ハードキャップが設定されています。新しい使用量ベースのエンタイトルメントには、30 日間の集計された API 要求の合計数が表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition および Professional Edition (API アクセス有効) に適用されます。

時期: このエンタイトルメントは、今後数か月にわたり段階的にロールアウトされます。

理由: 組織の API コールの月表示を確認することで、API 要求の消費をより効率的に管理できます。日次制限を超える要求でも続行できるため、予期しないワークロードの急増で組織がブロックされることがなくなります。

方法: このエンタイトルメントの使用量を表示する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*組織情報*」と入力し、[組織情報] を選択します。
2. [組織情報] ページの下部にある [使用量ベースのエンタイトルメント] リストで月ごとの API 要求制限の情報を表示します。

カスタムメタデータ型

データのセキュリティを強化するために、新しい設定が追加され、機密性が高いと思われる情報を保護できる制限が有効になりました。

このセクションの内容:

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要(重要な更新、適用済み)

この重要な更新の一部として、保護されていないカスタムメタデータ型を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

開発者およびスクラッチ組織のカスタムメタデータ型の保護

[表示] 項目は、管理パッケージを作成できる開発者組織またはスクラッチ組織でのみ使用可能になりました。カスタムメタデータ型を作成するときに、パッケージ種別と [表示] 項目によって、カスタムメタデータ型が公開か非公開かが決まります。保護されたカスタムメタデータ型は開発者組織またはスクラッチ組織でのみ作成可能で、その後管理パッケージでリリースされます。さらに、[表示] 項目を [保護されたパッケージ] に設定する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: カスタムメタデータ型

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新の一部として、保護されていないカスタムメタデータ型を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Professional Edition 組織では、インストール済みパッケージの型のみのカスタムメタデータレコードを作成、編集、および削除できます。この変更は、カスタムメタデータ型を直接参照する Visualforce ページと Lightning コンポーネントにも影響します。

時期: この重要な更新は、2020 年 1 月 2 日に Spring '20 リリースで Sandbox インスタンスに適用されるようにスケジュールされています。これは 2020 年 1 月 2 日にすべてのインスタンスにロールアウトされるわけではありません。Sandbox インスタンスは、本番環境にリリースされる 4 ～ 6 週間前にアップグレードされます。インスタンスの正確な有効化日を確認するには、https://status.salesforce.com を参照してください。

方法: この重要な更新がインスタンスに適用されると、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは、カスタムメタデータ型にアクセスできなくなります。ユーザへの影響を最小限に抑えるため、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、プロファイルまたは権限セットを使用して参照アクセス権を付与できます。

1. アクセス権の付与先のプロファイルまたは権限セットに移動します。
2. [有効なカスタムメタデータ型アクセス] で、[編集] をクリックします。
3. カスタムメタデータ型を [有効なカスタムメタデータ型] のリストに追加します。

メモ: この変更は、Apex またはシステムモードのコンテキストからのカスタムメタデータ型のアクセシビリティには影響しません。カスタム Apex コードを使用して取得したカスタムメタデータ型は、この更新後も引き続き機能します。

推奨される方法ではありませんが、[スキーマ設定] の [カスタムメタデータ型へのアクセスを制限] 権限をオフにすることでこの重要な更新を無効化できます。このスキーマ設定権限は、組織全体のセキュリティに関する重要な更新に該当します。

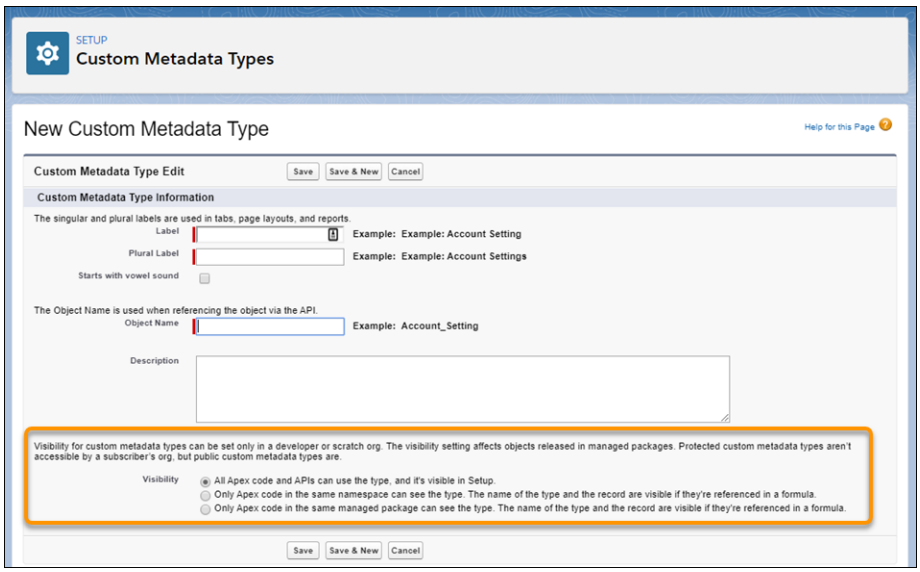
1. [設定] に移動し、[スキーマ設定] を検索します。
2. [カスタムメタデータ型へのアクセスを制限] をオフにします。

開発者およびスクラッチ組織のカスタムメタデータ型の保護

[表示]項目は、管理パッケージを作成できる開発者組織またはスクラッチ組織でのみ使用可能になりました。カスタムメタデータ型を作成するときに、パッケージ種別と[表示]項目によって、カスタムメタデータ型が公開か非公開かが決まります。保護されたカスタムメタデータ型は開発者組織またはスクラッチ組織でのみ作成可能で、その後管理パッケージでリリースされます。さらに、[表示] 項目を [保護されたパッケージ] に設定する必要があります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 機密情報を保存する場合、開発者組織またはスクラッチ組織で保護されたカスタムメタデータ型を作成し、[表示] 項目を [保護されたパッケージ] に設定してから、管理パッケージでリリースします。



表示オプション	API の対応するオプション
すべての Apex コードと API でこの種別を使用でき、[設定] で参照可能です。	公開 — だれでも参照できます。
同じ名前空間内の Apex コードのみがこの種別を参照できます。この種別の名前とレコードは、数式で参照される場合に表示できます。	Protected — カスタムメタデータ型と同じ名前空間内にあるコードは、レコードを参照できます。この型または保護レコードを含まない名前空間内のコードは、保護レコードを参照できません。

表示オプション	API の対応するオプション
同じ管理パッケージ内の Apex コードのみがこの種別を参照できます。この種別の名前とレコードは、数式で参照される場合に表示できます。	PackageProtected — 同じ管理パッケージ内にあるコードのみがレコードを参照できます。この型または保護レコードを含まないパッケージ内のコードは、保護レコードを参照できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: パッケージでのコンポーネントの動作

Salesforce CLI: オートコンプリート、拡張 DX テンプレート、進行状況バー

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) は、Salesforce 開発モデルをサポートする機能やコマンドが追加され、進化し続けています。Salesforce CLI を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御を行うことができます。

Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v48 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。CLI コマンドの詳細は、『Salesforce CLI コマンドリファレンス』を参照してください。

このセクションの内容:

オートコンプリートを使用した時間の節約とエラーの削減

新しいオートコンプリート機能をインストールすれば、CLI コマンドを入力してから Tab キーを押すだけで部分的に入力したコマンドをオートコンプリートで入力したり、Tab キーを押して使用可能なすべてのコマンド、パラメータ、ファイル名を表示したりできます。

メタデータのリリース時の進行状況の表示

`force:source:deploy`、`force:source:push`、または `force:mdapi:deploy` を実行する場合、リリースの進行状況が強調表示された進行状況バーが表示されます。

拡張標準 DX テンプレートを使用した推測を排除

`sfdx force:project:create` を実行するときの DX プロジェクト用の標準テンプレートに SOQL および Apex ファイルが追加されました。新しい Analytics テンプレートも追加されました。アクセスするには、`force:project:create --template analytics` を実行します。

関連トピック:

新規または変更された CLI コマンド

オートコンプリートを使用した時間の節約とエラーの削減

新しいオートコンプリート機能をインストールすれば、CLI コマンドを入力してから Tab キーを押すだけで部分的に入力したコマンドをオートコンプリートで入力したり、Tab キーを押して使用可能なすべてのコマンド、パラメータ、ファイル名を表示したりできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: この機能をインストールする手順は、次のとおりです。

1. `sfdx plugins:install @oclif/plugin-autocomplete` を実行します。
2. `sfdx autocomplete` を実行して、手順に従います。

メタデータのリリース時の進行状況の表示

`force:source:deploy`、`force:source:push`、または `force:mdapi:deploy` を実行する場合、リリースの進行状況が強調表示された進行状況バーが表示されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: この機能はデフォルトで有効になっています。進行状況バーは次のいずれかの方法を使用して無効にできます。

- グローバルに設定する: `SFDX_USE_PROGRESS_BAR=false`。
- 1 つのコマンドについて設定する: `SFDX_USE_PROGRESS_BAR=false sfdx force:source:deploy`。

拡張標準 DX テンプレートを使用した推測を排除

`sfdx force:project:create` を実行するときの DX プロジェクト用の標準テンプレートに SOQL および Apex ファイルが追加されました。新しい Analytics テンプレートも追加されました。アクセスするには、`force:project:create --template analytics` を実行します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: テンプレートについての詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』を参照してください。

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』の「スクラッチ組織」を参照してください。

このセクションの内容:

機能が追加されたスクラッチ組織の作成
スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

機能が追加されたスクラッチ組織の作成

スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition **の** Lightning Experience、Salesforce Classic、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

方法: 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

- BigObjectsBulkAPI
- CalloutSizeMB:<value>
- ChangeDataCapture
- CMSMaxContType
- CMSMaxNodesPerContType
- CMSUnlimitedUse
- ConAppPluginExecuteAsUser
- ConcStreamingClients:<value>
- ConnectedAppToolingAPI
- ConsolePersistenceInterval:<value>
- DataMaskUser
- DensityValue
- DeviceTrackingEnabled
- DisableManageIdConfAPI
- DurableClassicStreamingAPI
- DurableGenericStreamingAPI
- DynamicClientCreationLimit
- EinsteinArticleRecommendations
- EmbeddedLoginForIE
- EmpPublishRateLimit:<value>
- EnableManageIdConfUI
- EnablePRM
- ExperienceBundle
- FinancialServicesCommunityUser:<value>
- GenericStreaming
- GenStreamingEventsPerDay:<value>
- HoursBetweenCoverageJob:<value>
- IdentityProvisioningFeatures
- IgnoreQueryParamWhitelist
- IndustriesManufacturingCmty
- IndustriesMfgAccountForecast
- LegacyLiveAgentRouting
- ListCustomSettingCreation
- MaxAudTypeCriterionPerAud

- MaxFavoritesAllowed:<value>
- MaxNoOfLexThemesAllowed:<value>
- MaxStreamingTopics:<value>
- MaxUserNavItemsAllowed:<value>
- MaxUserStreamingChannels:<value>
- MedVisDescriptorLimit:<value>
- MobileExtMaxFileSizeMB:<value>
- MobileSecurity
- MultiLevelMasterDetail
- MutualAuthentication
- NumPlatformEvents:<value>
- OutboundMessageHTTPSession
- PardotScFeaturesCampaignInfluence
- PlatformConnect
- PlatformEventsPerDay
- RefreshOnInvalidSession
- S1ClientComponentCacheSize
- SalesCloudEinstein
- SalesforceIdentityForCommunities
- SAML20SingleLogout
- SCIMProtocol
- SecurityEventEnabled
- SessionIdInLogEnabled
- SingleSignOn
- StreamingAPI
- StreamingEventsPerDay
- SubPerStreamingChannel
- SubPerStreamingTopic
- SustainabilityCloud
- TransactionFinalizers
- WorkThanksPref

名前変更されるスクラッチ組織の機能

次のスクラッチ組織機能は Spring '20 **で名前変更されました。スクラッチ組織定義ファイルで次のいずれかの機能を指定している場合、新しい機能名を使用してファイルを更新してください。定義ファイルに古い機能名が含まれる場合、スクラッチ組織の作成は失敗します。**

- AddHistoryFieldsPerEntity **は** AdditionalFieldHistory **になりました。**
- RetainFieldHistory **は** FieldAuditTrail **になりました。**

廃止されるスクラッチ組織の機能

次のスクラッチ組織機能は Spring '20 で廃止されました。スクラッチ組織定義ファイルで次のいずれかの機能を指定している場合は、ファイルから機能を削除してください。定義ファイルで、廃止された機能が指定されている場合、スクラッチ組織の作成は失敗します。

- ChatterAnswersUser
- CustomerSelfService
- DecisionStudio
- EinsteinAssistant
- ExternalAccountHierarchy
- MobileUser
- OfflineUser
- SiteDotCom (コミュニティに置き換え)
- SiteForceContributor (コミュニティに置き換え)
- SurveyCreatorUser (Enterprise Edition および Developer Edition のスクラッチ組織ではデフォルトで有効)

Sandbox: Sandbox のコピーの機能強化およびデータセキュリティの向上

Sandbox で使用できるコピーオプションが増え、データセキュリティが向上しました。

このセクションの内容:

本番と異なるバージョンの Sandbox のコピー
本番組織とは異なる Salesforce メジャーリリースバージョンの Sandbox をコピーできるようになりました。以前は、リリース移行のために本番組織とは異なるバージョンの Sandbox はコピーできず、UI のコピーリンクも無効化されてしまました。開発、テスト、トレーニング目的でプレビューの Sandbox をコピーできるようになりました。

Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護
Salesforce Data Mask は Salesforce システム管理者および開発者向けの強力な新しいデータセキュリティリソースです。Sandbox 組織のデータおよびアクセスを手動で保護する代わりに、システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

本番と異なるバージョンの Sandbox のコピー

本番組織とは異なる Salesforce メジャーリリースバージョンの Sandbox をコピーできるようになりました。以前は、リリース移行のために本番組織とは異なるバージョンの Sandbox はコピーできず、UI のコピーリンクも無効化されてしまました。開発、テスト、トレーニング目的でプレビューの Sandbox をコピーできるようになりました。

Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護

Salesforce Data Mask は Salesforce システム管理者および開発者向けの強力な新しいデータセキュリティリソースです。Sandbox 組織のデータおよびアクセスを手動で保護する代わりに、システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

対象:

この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由:

Data Mask ではプラットフォーム固有の難読化テクノロジを使用して Sandbox 全体または一部で機密データをマスクします。マスクプロセスでは、データの機密性に応じて異なるマスクレベルで一部またはすべての機密データをマスクできます。データをマスクするとマスク解除できなくなります。この元に戻せないプロセスを使用すると、データを判読可能または認識可能な方法で別の環境に複製することはできなくなります。

方法:

Data Mask は本番組織にインストールする管理パッケージです。その後、本番組織から作成された任意の Sandbox からマスクプロセスを実行します。

AppExchange パートナー: Lightning アプリケーションとページ用の AppExchange の App Analytics

AppExchange の App Analytics データを調べて、登録者が Lightning アプリケーションとページをどのように使用しているかを確認します。

このセクションの内容:

AppExchange の App Analytics を使用した Lightning ページの使用状況と組織情報の分析
AppExchange の App Analytics は、登録者が管理パッケージをどのように使用しているかについてのインサイトを得るのに役立ちます。管理パッケージで使用可能な使用状況データには、Lightning アプリケーションとページ、およびアプリケーションをダウンロードした登録者の組織情報が含まれるようになりました。

AppExchange の App Analytics を使用した Lightning ページの使用状況と組織情報の分析

AppExchange の App Analytics は、登録者が管理パッケージをどのように使用しているかについてのインサイトを得るのに役立ちます。管理パッケージで使用可能な使用状況データには、Lightning アプリケーションとページ、およびアプリケーションをダウンロードした登録者の組織情報が含まれるようになりました。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: AppExchange の App Analytics を有効化するには、Salesforce パートナーコミュニティでケースを登録します。AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できます。

パッケージ化:パッケージ作成の迅速化、新しい検証のスキップオプション、フローおよび外部共有設定の変更

パッケージバージョンの作成またはインストールにかかる時間が短くなりました。新しいパッケージバージョンを作成するときに検証をスキップできます。また、ロック解除済みパッケージのフローに対する変更と、パッケージに影響を与える可能性があるデフォルトの外部共有設定に対する変更が行われました。

このセクションの内容:

パッケージ開発をすばやく反復するための検証のスキップ
パッケージバージョンの作成中に連動関係、上位パッケージ、メタデータの検証をスキップすることで、パッケージ開発をより効率的に反復できます。検証スキップパラメータは第二世代の管理パッケージとロック解除済みパッケージで使用できます。検証をスキップすればパッケージバージョンを新規作成する時間が短くなりますが、検証なしで作成されたパッケージバージョンをリリース済み状態に昇格することはできません。

パッケージバージョンの作成およびインストールの迅速化
新しいパッケージを作成した直後に新しいパッケージバージョンを作成するときの待ち時間が大幅に短縮されました。また、パッケージバージョンが作成されてからインストールできるようになるまでの時間も大幅に短縮されています。パッケージバージョンをリリース済みに昇格した後で、遅延なしで本番組織にインストールできるようになりました。ほとんどのシナリオでは、`publishwait` CLI パラメータは必要ありません。

外部共有モデルの変更に対応するための管理パッケージの更新
外部共有モデルに対する変更に対応するために管理パッケージが最新であることを確認してください。外部共有モデルは Spring '20 以降で作成された Salesforce 組織で自動的に有効になります。また、こうした組織のすべてのオブジェクトで外部アクセスレベルが[非公開]に初期設定されます。こうした変更は既存のユーザには影響しません。

リストおよびレポートの Salesforce CLI コマンドでのパッケージの詳細の表示内容の増加
`package:version:list` コマンドと `package:version:report` コマンドが拡張され、コードカバー率、上位パッケージ、検証がスキップされたかどうかが表示されるようになりました。

パッケージマネージャでの多数のコンポーネントの表示方法の決定
[設定]の[パッケージマネージャ]でパッケージに多数のコンポーネントを表示する方法を調整できます。デフォルトでは、コンポーネントが10,000件未満のパッケージではすべてのコンポーネントが表示されます。コンポーネントが 10,000 件を超えるパッケージはデフォルトでページ設定されます。

ロック解除済みパッケージでのフローの更新
フローが含まれるロック解除済みパッケージが、API名の処理方法およびフローの削除方法に対して行った変更に対応していることを確認してください。

パッケージ開発をすばやく反復するための検証のスキップ

パッケージバージョンの作成中に連動関係、上位パッケージ、メタデータの検証をスキップすることで、パッケージ開発をより効率的に反復できます。検証スキップパラメータは第二世代の管理パッケージとロック解除済みパッケージで使用できます。検証をスキップすればパッケージバージョンを新規作成する時間が短くなりますが、検証なしで作成されたパッケージバージョンをリリース済み状態に昇格することはできません。

対象: この変更は、Salesforce CLI または Tooling API を使用して作成されたパッケージに適用されます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

方法: Salesforce CLI で、次のコマンドを実行します: `sfdx force:package:version:create --skipvalidation`。Tooling API で、Package2VersionCreate オブジェクトの `SkipValidation` 項目を使用します。

メモ: コードカバー率は検証中に計算されるため、検証のスキップとコードカバー率の両方を指定することはできません。

パッケージバージョンの作成およびインストールの迅速化

新しいパッケージを作成した直後に新しいパッケージバージョンを作成するときの待ち時間が大幅に短縮されました。また、パッケージバージョンが作成されてからインストールできるようになるまでの時間も大幅に短縮されています。パッケージバージョンをリリース済みに昇格した後で、遅延なしで本番組織にインストールできるようになりました。ほとんどのシナリオでは、`publishwait` CLI パラメータは必要ありません。

対象: この変更は、Salesforce CLI または Tooling API を使用して作成された管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

理由: 継続的インテグレーション (CI) プロセスがある場合、パッケージバージョン作成中の検証によって CI ステップが複製され、エンドツーエンドの CI にかかる時間が長くなる場合があります。

CI プロセスと統合していない場合、見逃すかもしれないエラーを検出できるように検証をスキップせずにパッケージバージョンを作成するのがベストプラクティスです。

外部共有モデルの変更に対応するための管理パッケージの更新

外部共有モデルに対する変更に対応するために管理パッケージが最新であることを確認してください。外部共有モデルは Spring '20 以降で作成された Salesforce 組織で自動的に有効になります。また、こうした組織のすべてのオブジェクトで外部アクセスレベルが [非公開] に初期設定されます。こうした変更は既存のユーザには影響しません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Dev Hub を使用可能なエディション: Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。

理由: オブジェクトの [非公開] 以外の外部アクセスレベルに依存するパッケージは、Spring '20 以降で作成された組織で常に期待どおりに機能するとは限りません。

方法: 組織全体のデフォルトを変更して、こうした変更をサポートするようにパッケージを更新します。

関連トピック:

すべての組織で外部組織の共有設定をデフォルトで有効化

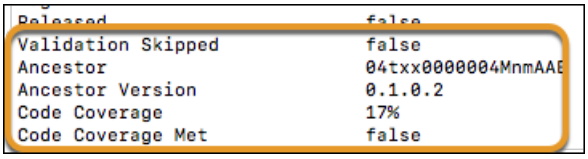
リストおよびレポートの Salesforce CLI コマンドでのパッケージの詳細の表示内容の増加

`package:version:list` コマンドと `package:version:report` コマンドが拡張され、コードカバー率、上位パッケージ、検証がスキップされたかどうかが表示されるようになりました。

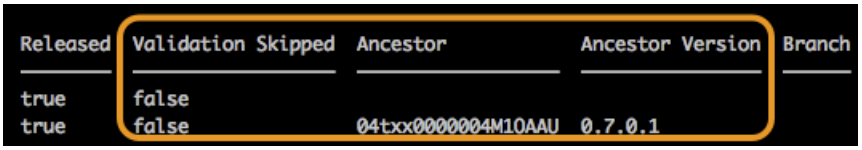
対象: この変更は、Salesforce CLI または Tooling API を使用して作成されたパッケージに適用されます。

理由: パッケージバージョンがコードカバー率を渡したかどうか、どのパッケージバージョンが上位かをすばやく確認できます。

`package:version:report` CLI コマンドからの出力。



`package:version:list` CLI コマンドからの出力。`--verbose` を使用してコードカバー率情報を表示します。



メモ: 上位情報は Spring '20 以降で作成されたパッケージバージョンで使用できます。

パッケージマネージャでの多数のコンポーネントの表示方法の決定

[設定] の [パッケージマネージャ] でパッケージに多数のコンポーネントを表示する方法を調整できます。デフォルトでは、コンポーネントが 10,000 件未満のパッケージではすべてのコンポーネントが表示されます。コンポーネントが 10,000 件を超えるパッケージはデフォルトでページ設定されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。Dev Hub を使用可能なエディション: Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「パッケージマネージャ」と入力します。パッケージを選択し、コンポーネントのリストの下にあるドロップダウンメニューを使用してページ設定を調整します。

ロック解除済みパッケージでのフローの更新

フローが含まれるロック解除済みパッケージが、API 名の処理方法およびフローの削除方法に対して行った変更に対応していることを確認してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Dev Hub を使用可能なエディション: Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。

理由:

- API名が同じロック解除済みパッケージからフローをインストールすると、対象組織で既存のフローが上書きされます。
- フローは、ロック解除済みパッケージから手動で削除します。ロック解除済みパッケージから削除するという方法で削除することはできません。

関連トピック:

ヘルプ: フローのパッケージに関する考慮事項
ヘルプ: インストールされたフローの考慮事項

変更データキャプチャ: オブジェクトサポートの向上とイベント強化 (パイロット)

変更が通知される対象オブジェクトが増え、項目を使用してイベントメッセージが強化されます (パイロット)。

このセクションの内容:

変更データキャプチャのオブジェクトのサポートの拡張
より多くのオブジェクトのレコード変更のイベント通知を受け取ることができるようになりました。

常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)
変更イベントメッセージには、新しい項目と変更された項目の値が含まれますが、データの処理や複製のために変更されていない項目の値が必要になる場合があります。たとえば、複製アプリケーションには、外部システムのレコードを照合するための外部 ID が必要です。変更イベントメッセージが空でない場合に、常に含める項目を選択できるようになりました。

変更イベントは暗号化が有効になっていない場合にブロックされない
Shield Platform Encryption を使用する組織では、変更イベントの暗号化を有効にしていないと、イベントメッセージがイベントバスにクリアテキストで最大 3 日間保存されます。以前は、変更イベントはイベントの暗号化を有効にするまでブロックされ、配信されませんでした。

変更データキャプチャのオブジェクトのサポートの拡張

より多くのオブジェクトのレコード変更のイベント通知を受け取ることができるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: これらは、変更データキャプチャをサポートするようになった新しいオブジェクトです。

- ActionCadence
- ActionCadenceStep
- ActionCadenceStepTracker
- ActionCadenceTracker
- AssignedResource
- CallTemplate
- ContactPointConsent

- ContactPointEmail
- ContactPointPhone
- EmailMessage
- EmailTemplate
- Location
- Macro
- MacroInstruction
- MaintenanceAsset
- MaintenancePlan
- OpportunitySplit
- PartyConsent
- Pricebook2
- ProductConsumed
- ProductItem
- ProductRequest
- ProductRequestLineItem
- ProductTransfer
- QuickText
- Recommendation
- ResourceAbsence
- ReturnOrder
- ReturnOrderLineItem
- ServiceAppointment
- ServiceCrew
- ServiceCrewMember
- ServiceResource
- ServiceTerritory
- ServiceTerritoryMember
- Shipment
- SocialPost
- TimeSheet
- TimeSheetEntry
- VoiceCall
- VoiceCallRecording
- WorkOrder
- WorkOrderLineItem
- WorkType

[設定] の [変更データキャプチャ] ページで、通知を取得するオブジェクトを選択します。変更データキャプチャに対応するオブジェクトの完全なリストは、『*変更データキャプチャ開発者ガイド*』の「変更イベントオブジェクトのサポート」を参照してください。

メモ: すべてのオブジェクトが組織で使用できるようになっているわけではありません。一部のオブジェクトでは、特定の機能の設定や権限が有効になっている必要があります。

常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)

変更イベントメッセージには、新しい項目と変更された項目の値が含まれますが、データの処理や複製のために変更されていない項目の値が必要になる場合があります。たとえば、複製アプリケーションには、外部システムのレコードを照合するための外部 ID が必要です。変更イベントメッセージが空でない場合に、常に含める項目を選択できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 変更データキャプチャ強化は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。変更データキャプチャ強化は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。変更データキャプチャ強化に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community グループからお寄せください。

方法: 変更イベント強化の項目を選択するには、Tooling API またはメタデータ API の PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用します。

変更イベントは暗号化が有効になっていない場合にブロックされない

Shield Platform Encryption を使用する組織では、変更イベントの暗号化を有効にしていないと、イベントメッセージがイベントバスにクリアテキストで最大3日間保存されます。以前は、変更イベントはイベントの暗号化を有効にするまでブロックされ、配信されませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 変更イベントの暗号化を有効にするには、最初に [設定] の [鍵の管理] ページでイベントバステナントの秘密を作成します。その後、[暗号化ポリシー] ページで変更イベントの暗号化を有効にします。

警告: 暗号化を有効にする前にイベントバステナントの秘密を作成する必要があります。[設定] の暗号化設定は、イベントバステナントの秘密の作成後にのみ使用できます。メタデータ API では、テナントの秘密なしで PlatformEncryptionSettings を使用して暗号化を有効にすると、変更イベントがブロックされます。

プラットフォームイベント: 暗号化サポート

イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化を有効化します。また、CometD イベント配信の使用状況を正確に把握するために新しい REST API 制限を使用します。

このセクションの内容:

イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化
セキュリティ強化の目的で、Shield Encryption 組織のイベントバスに保存中のプラットフォームイベントメッセージの暗号化を有効にできるようになりました。
契約開始日に基づくプラットフォームイベントエンタイトルメントの取得
大規模プラットフォームイベントのアドオンライセンスがある場合、limits REST API リソースの新しい MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement 値を使用します。この新しい値は、月の初日ではなく、正確な契約開始日に基づいて CometD クライアントへの配信の使用状況を返します。

イベントバスのプラットフォームイベントメッセージの暗号化

セキュリティ強化の目的で、Shield Encryption 組織のイベントバスに保存中のプラットフォームイベントメッセージの暗号化を有効にできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: プラットフォームイベントの暗号化を有効にするには、まず [設定] の [鍵の管理] ページでイベントバスのテナントの秘密を作成します。次に、[暗号化ポリシー] ページでプラットフォームイベントの暗号化を有効にします。

Shield Encryption 組織でプラットフォームイベントの暗号化を有効にすると、イベントバスのテナントの秘密種別に基づく鍵を使用してイベントメッセージが暗号化されます。暗号化されたイベントメッセージは、最長 3 日間 (標準量イベントの場合は 1 日) イベントバスに保存されます。暗号化は、リアルタイムイベントモニタリングストリーミングイベントを含む、カスタムと標準のすべてのプラットフォームイベントに適用されます。

登録クライアントにプラットフォームイベントメッセージを配信する前に、暗号化鍵を使用してイベントペイロードが復号化されます。プラットフォームイベントメッセージは、転送中のデータを保護して暗号化する、HTTPS と TLS を使用した安全なチャネルで送信されます。

関連トピック:

プラットフォームイベントの暗号化

契約開始日に基づくプラットフォームイベントエンタイトルメントの取得

大規模プラットフォームイベントのアドオンライセンスがある場合、`limits` REST API リソースの新しい `MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` 値を使用します。この新しい値は、月の初日ではなく、正確な契約開始日に基づいて CometD クライアントへの配信の使用状況を返します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

理由: 以前の API バージョンで、契約開始日に基づく `MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` のほうが、月の初日に基づく `MonthlyPlatformEvents` より正確でした。`MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` は、API バージョン 48.0 以降では `MonthlyPlatformEvents` に置き換わります。

方法: `/services/data/v48.0/limits` に対して GET 要求を実行します。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目
新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

Apex: 新規および変更された項目
次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。パーソナライズ利用者および対象を取得、作成、更新、削除します。

API: 新規および変更された項目
API バージョン 48.0 では、より多くのデータオブジェクト、メタデータ型、REST リソースなどにアクセスできます。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド
Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。Salesforce CLI の v48 に対する最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

このセクションの内容:

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI をより効率的に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール
モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI をより効率的に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI をより効率的に作成します。

新しいコンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 48.0 以降が必要です。

lightning-progress-ring
操作の進行状況を示す円形の進行状況バーを表示します。

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning-button-menu
`lightning-menu-subheader` 子コンポーネントで次の属性が変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

lightning-datatable
プリミティブのセル要素は使用されなくなり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。

`text` 型が `linkify` 属性をサポートするようになりました。テキストでリンク変換を有効化するには、次のようにします。

```
var columns = [
    {
        label: 'Comments', fieldName: 'comments', type: 'text',
            typeAttributes: { linkify: true }
    },
// other column data
]
```

次のカスタムイベントが変更されています。

- `resize` — `isUserTriggered` パラメータが新規追加されました。この boolean は、マウスまたはキーボードを使用したユーザアクションで列のサイズが変更されたかどうかを示します。

次の属性が新規追加されました。

- `wrap-text-max-lines` — この値は行数を指定します。この行数より後のコンテンツは切り捨てられ、表示されません。1 以上の値を指定してください。最後の行のテキストは切り捨てられ、省略記号を付けて表示されます。

`columns` 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- `wrapText` — テーブルが表示されたときに列のテキストを折り返すかどうかを指定します。テキストを折り返した場合、その内容をすべて表示するには行を拡張します。一定の行数を表示して残りを非表示にするには、`wrapTextMaxLines` を使用します。

カスタムテンプレート定義の次のプロパティが新規追加されました。

- `standardCellLayout` — カスタムセルで標準レイアウトを使用するかどうかを指定します。カスタムセルのデフォルトのレイアウトは、ベアレイアウトです。

lightning-input
次のカスタムイベントが新規追加されました。

- `commit` — 次のユーザアクションでディスパッチされます。
  - 入力値を変更し、Enter キーを押すか、入力 (すべての入力種別) からフォーカスを移動する。
  - `number` 入力種別の上矢印または下矢印キーを押す。

- search 入力種別の X ボタンをクリックして検索をクリアする。

入力種別 number が変更されました。

- データ入力でシステムロケールではなく Salesforce ロケールが使用されるようになりました。これまで、このコンポーネントでは、データ入力にはシステムロケールが、項目のフォーカスが失われたときのデータ表示には Salesforce ロケールが使用されていました。今回の更新により、環境がより一貫したものになりました。
- 数値を入力する場合、Salesforce ロケールの数値の区切り文字 (カンマまたはピリオド) を使用できます。
- アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされています。
- 検証エラーがあった場合、無効な入力が入力項目に保持され、再入力する代わりに入力を修正することができます。
- 数値を変更するボタンは削除されました。さらに、入力項目でマウスを使用してスクロールした場合に、数値が変更されなくなりました。上矢印および下矢印キーを使用して、数値を増減できます。
- 非常に長い数値の入力が自動的に丸められなくなりました。ただし、上矢印および下矢印キーを使用して数値を変更した場合は、これまで通り丸められます。
- パーセントの書式設定で小数点以下の桁が余分に表示されなくなりました。たとえば、0.50 という値は 50.00% ではなく 50% と表示されます。
- change イベントは、入力の value が変更されるたびにディスパッチされますが、値が空の文字列に設定されたタイミングが含まれるようになりました。数値入力が無効になると、入力コンポーネントで値が空の文字列に設定されます。入力が無効な場合に onchange ハンドラで項目をリセットできるようになりました。

入力種別 date および datetime が変更されました。

- アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされています。
- Salesforce ロケールがタイ語の場合、タイ仏暦が表示されます。

lightning-input-field

種別 number、date、datetime の項目の lightning-input に対する変更は lightning-input-field にも適用されます。

次の属性が変更されています。

- readonly — このフォームでは参照のみの項目が無効ではなく参照のみとして表示されるようになりました。フォームでインライン編集を使用した場合、参照のみの項目の表示はそのまま変更されません。

lightning-map

次の属性が新規追加されました。

- selected-marker-value — 現在選択されているマーカーの値を示します。value を map-markers に渡さない場合は、undefined を返します。

次のイベントハンドラが新規追加されました。

- onmarkerselect — マーカーを選択すると markerselect イベントがディスパッチされます。マップまたは場所のリストでクリックしてマーカーを選択します。

lightning-menu-item

次の属性が新規追加されました。

- `download` — メニュー項目のリンクをクリックしたときにダウンロードするファイルの名前を指定します。この名前は、ファイルがダウンロード場所に保存される場合に使用され、必ずしも元のファイルの名前とは限りません。`href` 属性と共に `download` を使用します。

lightning-output-field

レコード詳細ページに表示されるメールアドレスとの一貫性を保つために、メールアドレスはメールアイコンと一緒に表示されなくなりました。

lightning-pill

次の属性が変更されています。

- `has-error` — ⚠ (警告) アイコンは ⊘ (エラー) アイコンで置き換えられました。

lightning-progress-indicator

次の属性が変更されています。

- `has-error` — ⚠ (警告) アイコンは ⊘ (エラー) アイコンで置き換えられました。

lightning-record-form

項目が参照のみの場合、このフォームでは項目が無効ではなく参照のみとして表示されるようになりました。フォームでインライン編集を使用した場合、参照のみの項目の表示はそのまま変更されません。

lightning-tree

`items` 配列が変更されています。ブランチを展開または折りたたむには、ツリー項目を取得し、`expanded` プロパティを変更します。

```
// expand the first branch
this.template.querySelector('lightning-tree').items[0].expanded = true;

// collapse the first branch
this.template.querySelector('lightning-tree').items[0].expanded = false;
```

lightning-tree-grid

プリミティブのセル要素は使用されなくなり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。

`text` 型が `linkify` 属性をサポートするようになりました。テキストでリンク変換を有効化するには、次のようにします。

```
var columns = [
    {
        label: 'Comments', fieldName: 'comments', type: 'text',
            typeAttributes: { linkify: true }
    },
// other column data
]
```

次の属性が変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

lightning-vertical-navigation-section

次の属性が変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新しいモジュール

次のモジュールを使用できるようになりました。

`lightning/pageReferenceUtils`

デフォルトの項目値を符号化および復号化するためのユーティリティを提供します。事前入力された項目値を含むレコード作成ページの URL を生成するか、そのページに移動するには、この文字列を `standard__objectPage` ページ参照種別の `pageReference.state.defaultFieldValues` 属性に渡します。上書きアクションを使用するときにのみ文字列を復号化します。`force:createRecord` を使用する代わりに `lightning/pageReferenceUtils` と `lightning/navigation` を使用して、レコードの作成ページに移動することをお勧めします。詳細は、「デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移」 (ページ 530)を参照してください。

`lightningsnapin/minimized`

最小化された状態のユーザインターフェースのカスタマイズを可能にします。カスタムコンポーネントでは、`js-meta.xml` 設定ファイルで`lightningSnapin__Minimized` 対象が指定されている必要があります。詳細は、「Lightning Web コンポーネントを使用したチャットのカスタマイズ」 (ページ 243)を参照してください。

`@salesforce/messageChannel` (ベータ)

Lightning メッセージチャネルの名前を示す文字列。`lightning/messageService` モジュールと共に使用します。Lightning Web コンポーネントは、Lightning メッセージチャネルを使用して Lightning Message Service API にアクセスします。Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。

```
// Syntax
import channelName from '@salesforce/messageChannel/channelReference';
```

```
// Syntax for resources in a managed package
import channelName from '@salesforce/messageChannel/namespace__channelReference';
```

```
// Example
import SAMPLEMC from '@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c';
```

- ***channelName*** — メッセージチャネルを識別するインポートされた記号。
- ***channelReference*** — メッセージチャネルの API 参照名。
- ***namespace*** — メッセージチャネルが管理パッケージ内にある場合は、この値は管理パッケージの名前空間です。メッセージチャネルが管理パッケージ内にない場合は、名前空間を省略します。

詳細は、「Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)」を参照してください。

lightning/messageService (ベータ)

Lightning Message Service API メソッドとリソースへのアクセスを提供します。メッセージチャネルの登録または登録解除を行うには、次をインポートします。

```
// Subscribe/unsubscribe example
import { subscribe, unsubscribe, APPLICATION_SCOPE, MessageContext } from
'lightning/messageService';
```

メッセージチャネルで公開するには、`publish()` メソッドと `MessageContext` をインポートします。

```
// Publish example
import { publish, MessageContext } from 'lightning/messageService';
```

詳細は、「Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)」を参照してください。

lightningsnapin/basePrechat

事前チャットフォームのユーザインターフェースのカスタマイズを可能にします。カスタムコンポーネントでは、`js-meta.xml` 設定ファイルで`lightningSnapin_PreChat` 対象が指定されている必要があります。詳細は、「Lightning Web コンポーネントを使用したチャットのカスタマイズ」 (ページ 243)を参照してください。

変更されたモジュール

次のモジュールが変更されています。

lightning/uiListApi (ベータ)

このモジュールは、以下により指定された項目を含むレコードを返すようになりました。

- `displayColumns` によって返されるリストビューメタデータ
- `fields` および `optionalFields` パラメータ (ユーザがこれらにアクセスできると仮定します)
- `CreatedDate`、`Id`、`LastModifiedById`、`LastModifiedDate`、`SystemModstamp` など、オブジェクトのシステム項目 (オブジェクトにこれらがある場合)

以前は、`lightning/uiListApi` で返されるレコードには、上記のすべての項目のほかに、`@wire` 定義で要求されておらず、リストビューでも定義されていない追加の項目も含まれていました。`lightning/uiListApi` で返されない特定の項目値がコンポーネントで必要とされる場合、`fields` または `optionalFields` パラメータを使用してその項目を含めます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI をより効率的に作成します。

新しい Aura コンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 48.0 以降が必要です。

lightning:pageReferenceUtils

このコンポーネントには、デフォルト項目値を符号化および復号化するためのユーティリティがあります。レコードの作成ページに移動するための URL を生成するには、`standard__objectPage` ページ参照種別の新しい `pageReference.state.defaultFieldValues` 属性に符号化文字列を渡します。上書きアクショ

ンを使用するときにのみ文字列を復号化します。`force:createRecord` を使用する代わりに `lightning:pageReferenceUtils` と `lightning:navigation` を使用して、レコードの作成ページに移動することをお勧めします。詳細は、「デフォルト項目値を含むレコード作成ページへのユーザの移行」(ページ 530)を参照してください。

`lightning:progressRing`
操作の進行状況を示す円形の進行状況バーを表示します。

`lightning:messageChannel` (ベータ)
Lightning Message Service API にアクセスできます。Lightning Message Service を使用して、DOM 全体、および Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネント間でメッセージの公開と登録を行います。詳細は、「Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (ベータ)」を参照してください。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

`forceCommunity:navigationMenuBase`
次の属性が新規追加されました。

- `navigationLinkSetId` — コンポーネントに表示される NavigationLinkSet 型の ID または API 参照名。NavigationLinkSet は、コミュニティのナビゲーションメニューを表します。

`lightning:breadcrumb`
次の属性が変更されています。

- `label`—テキストの表示ラベルは、すべての大文字には変換されなくなりました。

`lightning:buttonMenu`
`lightning:menuSubheader` 子コンポーネントで次の属性が変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

`lightning:card`
次の属性が変更されています。

- `title` — この属性は必須ではなくなりました。

`lightning:datatable`
プリミティブのセル要素は使用されなくなり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。

`text` 型が `linkify` 属性をサポートするようになりました。テキストでリンク変換を有効化するには、次のようにします。

```
var columns = [
    {
        label: 'Comments', fieldName: 'comments', type: 'text',
            typeAttributes: { linkify: true }
    },
// other column data
]
```

次の属性が変更されています。

- `onresize` — `isUserTriggered` パラメータが新規追加されました。この boolean は、マウスまたはキーボードを使用したユーザアクションで列のサイズが変更されたかどうかを示します。

次の属性が新規追加されました。

- `wrapTextMaxLines` — この値は、コンテンツが切り捨てられて非表示になるまでの行数を指定します。1以上の値を指定してください。最後の行のテキストは切り捨てられ、省略記号を付けて表示されます。

`columns` 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- `wrapText` — テーブルが表示されたときに列のテキストを折り返すかどうかを指定します。テキストを折り返した場合、その内容をすべて表示するには行を拡張します。一定の行数を表示して残りを非表示にするには、`wrapTextMaxLines` を使用します。

`lightning:input`

次のカスタムイベントが新規追加されました。

- `commit` — 次のユーザアクションでディスパッチされます。
  - 入力値を変更し、Enter キーを押すか、入力 (すべての入力種別) からフォーカスを移動する。
  - `number` 入力種別の上矢印または下矢印キーを押す。
  - `search` 入力種別の X ボタンをクリックして検索をクリアする。

入力種別 `number` が変更されました。

- データ入力でシステムロケールではなく Salesforce ロケールが使用されるようになりました。これまで、このコンポーネントでは、データ入力にはシステムロケールが、項目のフォーカスが失われたときのデータ表示には Salesforce ロケールが使用されていました。今回の更新により、環境がより一貫したものになりました。
- 数値を入力する場合、Salesforce ロケールの数値の区切り文字 (カンマまたはピリオド) を使用できます。
- アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされています。
- 検証エラーがあった場合、無効な入力が入力項目に保持され、再入力する代わりに入力を修正することができます。
- 数値を変更するボタンは削除されました。さらに、入力項目でマウスを使用してスクロールした場合に、数値が変更されなくなりました。上矢印および下矢印キーを使用して、数値を増減できます。
- 非常に長い数値の入力が自動的に丸められなくなりました。ただし、上矢印および下矢印キーを使用して数値を変更した場合は、これまで通り丸められます。
- パーセントの書式設定で小数点以下の桁が余分に表示されなくなりました。たとえば、0.50 という値は 50.00% ではなく 50% と表示されます。
- `change` イベントは、入力の `value` が変更されるたびにディスパッチされますが、値が空の文字列に設定されたタイミングが含まれるようになりました。数値入力が無効になると、入力コンポーネントで値が空の文字列に設定されます。入力が無効な場合に `onchange` ハンドラで項目をリセットできるようになりました。

入力種別 `date` および `datetime` が変更されました。

- アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされています。
- Salesforce ロケールがタイ語の場合、タイ仏暦が表示されます。

lightning:inputField

種別 number、date、datetime の項目の lightning:input に対する変更は lightning:inputField にも適用されます。

次の属性が変更されています。

- readonly — このフォームでは参照のみの項目が無効ではなく参照のみとして表示されるようになりました。フォームでインライン編集を使用した場合、参照のみの項目の表示はそのまま変更されません。

lightning:map

次の属性が新規追加されました。

- selectedMarkerValue — 現在選択されているマーカーの値を示します。value を mapMarkers に渡さなかった場合、undefined が返されます。

次のイベントハンドラが新規追加されました。

- onmarkerselect — マーカーを選択すると markerselect イベントがディスパッチされます。マップまたは場所のリストでクリックしてマーカーを選択します。

lightning:menuItem

次の属性が新規追加されました。

- download — メニュー項目のリンクをクリックしたときにダウンロードするファイルの名前を指定します。この名前は、ファイルがダウンロード場所に保存される場合に使用され、必ずしも元のファイルの名前とは限りません。href 属性と共に download を使用します。

lightning:outputField

レコード詳細ページに表示されるメールアドレスとの一貫性を保つために、メールアドレスはメールアイコンと一緒に表示されなくなりました。

lightning:pill

次の属性が変更されています。

- hasError — ⚠ (警告) アイコンは ⊘ (エラー) アイコンで置き換えられました。

lightning:progressIndicator

次の属性が変更されています。

- hasError — ⚠ (警告) アイコンは ⊘ (エラー) アイコンで置き換えられました。

lightning:recordForm

項目が参照のみの場合、このフォームでは項目が無効ではなく参照のみとして表示されるようになりました。フォームでインライン編集を使用した場合、参照のみの項目の表示はそのまま変更されません。

lightning:treeGrid

プリミティブのセル要素は使用されなくなり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。

text 型が linkify 属性をサポートするようになりました。テキストでリンク変換を有効化するには、次のようにします。

```
var columns = [
    {
        label: 'Comments', fieldName: 'comments', type: 'text',
            typeAttributes: { linkify: true }
```

```
    },
// other column data
]
```

`columns` 属性の以下のプロパティが変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

`lightning:verticalNavigationSection`

次の属性が変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

詳細は、*『Apex 開発者ガイド』*を参照してください。

このセクションの内容:

Auth 名前空間

Auth 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

Reports 名前空間

Reports 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

Schema 名前空間

Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

System 名前空間

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

Auth 名前空間

Auth名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

コミュニティサブドメインのシングルサインオン URL を取得する

`Auth.AuthConfiguration` クラスの新しい `getAuthProviderSsoDomainUrl(communityUrl, startUrl, developerName)` メソッドを使用します。

Reports 名前空間

Reports名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

レポート検索条件種別の取得

`reports.ReportFilter` クラスの新しい `getFilterType(reports.ReportFilterType)` メソッドを使用します。

レポート検索条件種別の設定

`reports.ReportFilter` クラスの新しい `setFilterType(reports.ReportFilterType)` メソッドを使用します。

レポート検索条件種別の文字列表現の取得

`reports.ReportFilter` クラスの新しい `toString()` メソッドを使用します。

新しい列挙

`getFilterType(reports.ReportFilterType)` および `setFilterType(reports.ReportFilterType)` メソッドで使用されるレポート検索条件種別を指定する

`ReportFilterType` 列挙の使用を使用します。

Schema 名前空間

Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

項目の sObject 結果の記述を取得し、子リレーションを読み込むか、またはパラメータ値に基づかないかを決定する

`Schema.SObjectType` クラスの新しい `getDescribe(options)` メソッドを使用します。

System 名前空間

System名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

ページ URL リダイレクトを制御するリダイレクトコードの指定

`PageReference` クラスの新しい `setRedirectCode(redirectCode)` メソッドを使用して、301、302、303、307、308の *`redirectCode`* を指定します。新しい `getRedirectCode()` メソッドは、`PageReference` *`redirectCode`* を返します。

List コレクション型の文字列表現の取得

`System.List` クラスの新しい `toString()` メソッドを使用します。

Map コレクション型の文字列表現の取得
`System.Map` クラスの新しい `toString()` メソッドを使用します。

Set 型の文字列表現の取得
`System.Set` クラスの新しい `toString()` メソッドを使用します。

Cookie の SameSite 属性の文字列表現の取得
`System.Cookie` クラスの新しい `getSameSite()` メソッドを使用します。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。パーソナライズ利用者および対象を取得、作成、更新、削除します。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データをより簡単に公開できます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、複数のコールではなく 1 回のコールで行うことができます。

メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

新規 Chatter in Apex クラス
次のクラスが新規追加されました。

新規 Chatter in Apex 入力クラス
次の入力クラスが新規追加されました。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス
次の出力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter in Apex Enum
次の Enum が新規追加または変更されました。

新規 Chatter in Apex クラス

次のクラスが新規追加されました。

管理コンテンツ

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.ManagedContent` クラスに含まれます。

メモ: ベータ機能のこの API は、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の

正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

チャネルのすべての管理コンテンツバージョンの取得

- `getAllContent(channelId, pageParam, pageSize, language, managedContentType, includeMetadata, startDate, endDate)`

管理コンテンツ ID のリストを使用したチャネルのすべての管理コンテンツバージョンの取得

- `getContentByIds(channelId, managedContentIds, pageParam, pageSize, language, managedContentType, includeMetadata, startDate, endDate)`

コンテキストユーザの管理コンテンツ配信チャネルの取得

- `getAllDeliveryChannels(pageParam, pageSize)`

注文管理

`ConnectApi.FulfillmentOrder`、`ConnectApi.OrderPaymentSummary`、`ConnectApi.OrderSummary`、`ConnectApi.OrderSummaryCreation` クラスには、Salesforce注文管理を操作するための新しいメソッドが含まれています。

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.FulfillmentOrder` クラスに含まれます。

FulfillmentOrder からの FulfillmentOrderLineItems のキャンセル

- `cancelFulfillmentOrderLineItems(fulfillmentOrderId, cancelFulfillmentOrderLineItemsInput)`

FulfillmentOrders の作成

- `createFulfillmentOrders(fulfillmentOrderInput)`

FulfillmentOrder の請求書の作成

- `createInvoice(fulfillmentOrderId, invoiceInput)`

次の新規メソッドは、`ConnectApi.OrderPaymentSummary` クラスに含まれます。

OrderPaymentSummary の作成

- `createOrderPaymentSummary(orderPaymentSummaryInput)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.OrderSummary` クラスに含まれます。

OrderSummary の変更注文のクレジットメモの作成

- `createCreditMemo(orderSummaryId, creditMemoInput)`

請求書の資金を非同期で確認

- `ensureFundsAsync(orderSummaryId, ensureFundsInput)`

クレジットメモの返金を非同期で確認

- `ensureRefundsAsync(orderSummaryId, ensureRefundsInput)`

提案されたキャンセルアクションで期待される変更注文のプレビュー

- `previewCancel(orderSummaryId, changeInput)`

提案された返品アクションで期待される変更注文のプレビュー

- `previewReturn(orderSummaryId, changeInput)`

キャンセルアクションの送信

- `submitCancel(orderSummaryId, changeInput)`

返品アクションの送信

- `submitReturn(orderSummaryId, changeInput)`

次の新規メソッドは、`ConnectApi.OrderSummaryCreation` クラスに含まれます。

OrderSummary の作成

- `createOrderSummary(orderSummaryInput)`

パーソナライズ

これらの新しいメソッドは、`Personalization` クラスに含まれます。

利用者の取得

- `getAudience(communityId, audienceId, includeAudienceCriteria)`
- `getAudienceBatch(communityId, audienceIds)`
- `getAudiences(communityId, ipAddress, domain, userId, publishStatus, includeAudienceCriteria, targetTypes)`

利用者の作成

- `createAudience(communityId, audience)`

利用者の更新

- `updateAudience(communityId, audienceId, audience)`

利用者の削除

- `deleteAudience(communityId, audienceId)`

対象の取得

- `getTarget(communityId, targetId)`
- `getTargets(communityId, ipAddress, domain, userId, publishStatus, recordId, targetTypes, includeAudience, includeAllMatchingTargetsWithinGroup, groupNames)`

対象の作成

- `createTargets(communityId, target)`

対象の更新

- `updateTargets(communityId, target)`

対象の削除

- `deleteTarget(communityId, targetId)`

新規 Chatter in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加されました。

注文管理

ConnectApi.ChangeInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- changeItems — OrderItemSummaries への変更のリスト。

ConnectApi.ChangeItemInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- orderItemSummaryId — OrderItemSummary の ID。
- quantity — 変更する数量。正の値を使用します。たとえば、2 の値は「2 単位をキャンセルまたは返品」を意味します。
- reason — 変更の理由。
- shippingReductionFlag — 送料を按分するかどうかを指定します。

ConnectApi.CreateCreditMemoInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- changeOrderIds — 変更注文の ID のリスト。

ConnectApi.CreateOrderPaymentSummaryInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- orderSummaryId — OrderSummary の ID。
- paymentAuthorizationId — 支払承認の ID。
- paymentIds — 支払の ID のリスト。

ConnectApi.EnsureFundsAsyncInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- invoiceId — 請求書 の ID。

ConnectApi.EnsureRefundsAsyncInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- creditMemoId — クレジットメモの ID。

ConnectApi.FulfillmentGroupInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- fulfilledFromLocationId — 履行場所の ID。
- fulfillmentType — 履行種別。FulfillmentOrders で定義された [種別] 項目値のいずれか。
- orderItemSummaries — OrderItemSummaries の リスト。

ConnectApi.FulfillmentOrderInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- fulfillmentGroups — OrderItemSummaries および履行場所を指定する履行グループのリスト。
- orderDeliveryGroupSummaryId — OrderDeliveryGroupSummary の ID。

- orderSummaryId — OrderSummary の ID。

ConnectApi.FulfillmentOrderInvoiceInputRepresentation
この新しい入力クラスには、プロパティがありません。

ConnectApi.FulfillmentOrderLineItemInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- fulfillmentOrderLineItemId — FulfillmentOrderLineItem の ID。
- quantity — キャンセルする数量。

ConnectApi.FulfillmentOrderLineItemsToCancelInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- fulfillmentOrderLineItemsToCancel — FulfillmentOrderLineItems および数量のリスト。

ConnectApi.OrderItemSummaryInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- orderItemSummaryId — OrderItemSummary の ID。
- quantity — 含める数量。

ConnectApi.OrderSummaryInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- orderId — 元の注文の ID。

パーソナライズ

ConnectApi.AudienceCriterionInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- criterion — 利用者の条件と値の対応付けのリスト。
- criterionNumber — 数式内の利用者の条件に関連付けられている番号。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。指定しない場合、追加された順序で条件に番号が割り当てられます。
- criterionOperator — パーソナライズ利用者の条件で使用される演算子。値は次のとおりです。
  - Contains
  - Equal
  - GreaterThan
  - GreaterThanOrEqual
  - Includes
  - LessThan
  - LessThanOrEqual
  - NotEqual
  - NotIncludes
  - StartsWith
- criterionType—パーソナライズ利用者の条件の種別。値は次のとおりです。
  - Default — 利用者の条件がありません。
  - Domain — 利用者の条件はドメインに基づきます。

  - FieldBased — 利用者の条件はオブジェクト項目に基づきます。
  - GeoLocation — 利用者の条件は場所に基づきます。
  - Permission — 利用者の条件は標準権限またはカスタム権限に基づきます。
  - Profile — 利用者の条件はプロファイルに基づきます。

ConnectApi.AudienceCriterionValueInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- city — ユーザの市区郡。
- country — ユーザの国。
- domainId — ユーザのドメイン ID。
- entityField — オブジェクトの項目。
- entityType — オブジェクトの種別。
- fieldValue — 項目の値。
- isEnabled — ユーザに対して権限が有効化されているか (true)、否か (false) を示します。
- permission — 標準ユーザまたはカスタム権限の有効な API 参照名を示します。
- profileId — ユーザのプロファイル ID。
- subdivision — ユーザの下位区分。

ConnectApi.AudienceInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- criteria — 更新または追加する利用者の条件のリスト。
- customFormula — 利用者の条件のカスタム数式。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。
- formulaFilterType — パーソナライズ利用者の数式の条件種別。値は次のとおりです。
  - AllCriteriaMatch — すべての利用者の条件が true (AND 操作)。
  - AnyCriterionMatches — いずれかの利用者の条件が true (OR 操作)。
  - CustomLogicMatches — 利用者の条件はカスタム数式に一致します (たとえば (1 AND 2) OR 3 など)。
- name — 利用者の名前。

ConnectApi.TargetInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- audienceId — 対象に割り当てる利用者の ID。
- groupName —対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- priority —対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- publishStatus — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - Draft
  - Live
- targetType — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。
- targetValue — 対象の値。

ConnectApi.TargetCollectionInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- targets — 作成する対象のリスト。

ConnectApi.TargetCollectionUpdateInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- targets — 更新する対象のリスト。

ConnectApi.TargetUpdateInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- audienceId — 対象に割り当てる利用者の ID。
- priority — 対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- targetId — 更新する対象の ID。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

管理コンテンツ

ConnectApi.ManagedContentChannel (ベータ)
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- channelId — 管理コンテンツチャネルの ID。
- channelName — 管理コンテンツチャネルの名前。
- channelType—管理コンテンツチャネルの種別。値は次のとおりです。
  - CloudToCloud
  - Community
  - ConnectedApp
- isChannelSearchable — チャネルのテキストコンテンツが検索可能か (true)、否か (false) を示します。

ConnectApi.ManagedContentChannelCollection (ベータ)
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- channels — 管理コンテンツチャネルのリスト。
- currentPageUrl — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Chatter REST API URL。次のページがない場合は null。
- previousPageUrl — 前のページを識別する Chatter REST API URL。前のページがない場合は null。
- totalChannels — 管理コンテンツチャネルの合計数。

ConnectApi.ManagedContentDateAndTimeNodeValue
この新しい出力クラスは、ConnectApi.ManagedContentNodeValue のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- dateTimeValue — 管理コンテンツノードの UTC 日時値。
- timeZone — 日時が作成されるタイムゾーン。

ConnectApi.ManagedContentDateNodeValue
この新しい出力クラスは、ConnectApi.ManagedContentNodeValue のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- value — 管理コンテンツノードの日付値。

ConnectApi.ManagedContentMediaNodeValue
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- fileName — 管理コンテンツノードのファイル名。
- resourceUrl — アセットファイルのリソース URL。
- unauthenticatedUrl — アセットファイルの未認証 URL。または、外部ユーザにアセットファイルが表示されない場合は null。

ConnectApi.ManagedContentVersion
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- contentUrlName — 管理コンテンツバージョンのコンテンツ URL 名。
- language — 管理コンテンツバージョンの言語。

注文管理

ConnectApi.BaseOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errors — 返されたエラー。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

ConnectApi.ChangeItemOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- grandTotalAmount — GrandTotalAmount 項目への変更。
- totalAdjustedDeliveryAmount — TotalAdjustedDeliveryAmount 項目への変更。
- totalAdjustedDeliveryTaxAmount — TotalAdjustedDeliveryTaxAmount 項目への変更。
- totalAdjustedProductAmount — TotalAdjustedProductAmount 項目への変更。
- totalAdjustedProductTaxAmount — TotalAdjustedProductTaxAmount 項目への変更。
- totalAdjustmentDistributedAmount — TotalAdjustmentDistributedAmount 項目への変更。
- totalAdjustmentDistributedTaxAmount — TotalAdjustmentDistributedTaxAmount 項目への変更。
- totalAmount — TotalAmount 項目への変更。
- totalExcessFundsAmount — TotalExcessFundsAmount 項目への変更。
- totalRefundableAmount — TotalRefundableAmount 項目への変更。
- totalTaxAmount — TotalTaxAmount 項目への変更。

ConnectApi.CreateCreditMemoOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- creditMemoId — 作成されたクレジットメモの ID。

ConnectApi.CreateOrderPaymentSummaryOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- orderPaymentSummaryId — 注文支払概要の ID。

ConnectApi.EnsureFundsAsyncOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- backgroundOperationId — バックグランド操作の ID。

ConnectApi.EnsureRefundsAsyncOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- backgroundOperationId — バックグランド操作の ID。

ConnectApi.ErrorResponse
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errorCode — エラーコード。
- message — エラーの詳細 (利用可能な場合)。

ConnectApi.FulfillmentOrderCancelLineItemsOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、プロパティはありません。基本出力をラップするだけです。

ConnectApi.FulfillmentOrderInvoiceOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- invoiceId — 作成された請求書 の ID。

ConnectApi.FulfillmentOrderOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- fulfillmentOrderIds — 作成された履行注文の ID のリスト。

ConnectApi.OrderSummaryOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- orderSummaryId — 注文概要の ID。

ConnectApi.PreviewCancelOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- changeBalances — キャンセルアクションの期待される変更注文の財務的価値。
- orderSummaryId — OrderSummary の ID。

ConnectApi.PreviewReturnOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- changeBalances — 返品アクションの期待される変更注文の財務的価値。
- orderSummaryId — OrderSummary の ID。

ConnectApi.SubmitCancelOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- changeBalances — 作成された変更注文の財務的価値。
- changeOrderId — 作成された変更注文の ID。

ConnectApi.SubmitReturnOutputRepresentation
この新しい出力クラスは ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- changeBalances — 作成された変更注文の財務的価値。
- changeOrderId — 作成された変更注文の ID。

パーソナライズ

ConnectApi.Audience
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- criteria — 利用者の条件の詳細。
- customFormula — 利用者の条件のカスタム数式。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。
- formulaFilterType — パーソナライズ利用者の数式の条件種別。値は次のとおりです。
  - AllCriteriaMatch — すべての利用者の条件が true (AND 操作)。
  - AnyCriterionMatches — いずれかの利用者の条件が true (OR 操作)。
  - CustomLogicMatches — 利用者の条件はカスタム数式に一致します (たとえば (1 AND 2) OR 3 など)。
- id — 利用者の ID。
- name — 利用者の名前。
- targets — 利用者への対象の割り当て。
- url — この利用者への URL。

ConnectApi.AudienceCollection
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- audiences — 利用者のコレクション。

ConnectApi.AudienceCriteriaDetail
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- criterion — 利用者の条件と値の対応付けのリスト。
- criterionNumber — 数式内の利用者の条件に関連付けられている番号。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。指定しない場合、追加された順序で条件に番号が割り当てられます。
- criterionOperator — パーソナライズ利用者の条件で使用される演算子。値は次のとおりです。

  - Contains
  - Equal
  - GreaterThan
  - GreaterThanOrEqual
  - Includes
  - LessThan
  - LessThanOrEqual
  - NotEqual
  - NotIncludes
  - StartsWith
- criterionType—パーソナライズ利用者の条件の種別。値は次のとおりです。
  - Default — 利用者の条件がありません。
  - Domain — 利用者の条件はドメインに基づきます。
  - FieldBased — 利用者の条件はオブジェクト項目に基づきます。
  - GeoLocation — 利用者の条件は場所に基づきます。
  - Permission — 利用者の条件は標準権限またはカスタム権限に基づきます。
  - Profile — 利用者の条件はプロファイルに基づきます。

ConnectApi.AudienceCriterionDetails
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- value — 利用者条件の値と項目の対応付け。

ConnectApi.AudienceTarget
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- audienceName — 対象に割り当てられた利用者の名前。
- id — 対象に割り当てられた利用者の ID。
- url — 対象に割り当てられた利用者への URL。

ConnectApi.AudienceTargetAssignment
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- groupName —対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- id — 対象の ID。
- isMatch — 対象が現在のコンテキストに一致するか (true)、否か (false) を示します。
- priority —対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- publishStatus — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - Draft
  - Live
- targetType — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。
- targetValue — 対象の値。

- `url` — 対象への URL。

`ConnectApi.Scope`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `name` — 対象の範囲の名前。
- `value` — 対象の範囲の値。

`ConnectApi.Target`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `audience` — 対象に割り当てられた利用者。
- `groupName` — 対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- `id` — 対象の ID。
- `priority` — 対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- `publishStatus` — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - `Draft`
  - `Live`
- `scope` — 対象の範囲のリスト。
- `targetType` — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。
- `targetValue` — 対象の値。
- `url` — 対象への URL。

`ConnectApi.TargetCollection`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `targets` — パーソナライズの対象のリスト。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

`ConnectApi.AudienceCriteriaOperator`

この新しい Enum には次の値があります。

- `Contains`
- `Equal`
- `GreaterThan`
- `GreaterThanOrEqual`
- `Includes`
- `LessThan`
- `LessThanOrEqual`
- `NotEqual`
- `NotIncludes`
- `StartsWith`

ConnectApi.AudienceCriteriaType
この新しい Enum には次の値があります。

- `Default` — 利用者の条件がありません。
- `Domain` — 利用者の条件はドメインに基づきます。
- `FieldBased` — 利用者の条件はオブジェクト項目に基づきます。
- `GeoLocation` — 利用者の条件は場所に基づきます。
- `Permission` — 利用者の条件は標準権限またはカスタム権限に基づきます。
- `Profile` — 利用者の条件はプロファイルに基づきます。

ConnectApi.FormulaFilterType
この新しい Enum には次の値があります。

- `AllCriteriaMatch` — すべての利用者の条件が true (AND 操作)。
- `AnyCriterionMatches` — いずれかの利用者の条件が true (OR 操作)。
- `CustomLogicMatches` — 利用者の条件はカスタム数式に一致します (たとえば (1 AND 2) OR 3 など)。

ConnectApi.ManagedContentChannelType
この新しい Enum には次の値があります。

- `CloudToCloud`
- `Community`
- `ConnectedApp`

ConnectApi.ManagedContentNodeType
この Enum には次の新しい値があります。

- `Date`
- `DateTime`
- `Url`

ConnectApi.PublishStatus
この新しい Enum には次の値があります。

- `Draft`
- `Live`

API: 新規および変更された項目

API バージョン 48.0 では、より多くのデータオブジェクト、メタデータ型、REST リソースなどにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント
こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) の制限とコールが変更されました。

SOSL

Salesforce Object Query Language (SOSL) の制限が変更されました。

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたリソースが含まれます。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。パーソナライズが正式リリースされ、利用者情報を一括取得できるようになりました。コミュニティまたはチャネルで管理コンテンツを検索します。ナレッジ記事の参照カウントを増やします。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、登録メールの添付ファイル、およびレポート項目と S オブジェクトのリレーションを記述する新しいプロパティが含まれています。

ユーザインターフェース API

新しいオブジェクトを使用し、レスポンスの各レコードのレコードタイプ ID にアクセスして、選択リストのケース状況を取得します。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

Salesforce 全体

DeleteEvent を使用して削除済みレコードを照会する

新しい DeleteEvent オブジェクトを使用して、組織のごみ箱の中のレコードを照会したり絞り込んだりできます。DeleteEvent は、ごみ箱およびその他のカスタムオブジェクトをサポートするすべての標準オブジェクトで動作します。

アプリケーション内ガイダンスに翻訳、動画、プロファイルの検索条件が含まれる

新しい PromptLocalization オブジェクトと PromptVersionLocalization オブジェクトを使用して、翻訳されたプロンプトの表示ラベルを整理します。

LightningOnboardingConfig オブジェクトの `PromptDelayTime` 項目を使用して、プロンプト間のデフォルトのグローバル遅延時間を変更します。または、PromptVersion オブジェクトで `shouldIgnoreGlobalDelay` 項目を使用して、特定のプロンプトでプロンプト間のグローバル遅延を無視します。特定のプロファイルにプロンプトを表示するには、PromptVersion オブジェクトで `userProfileAccess` 項目を使用します。PromptVersion オブジェクトの `videoLink` 項目を使用して、動画を追加します。

PromptVersion オブジェクトに対しても小規模な変更が行われています。

- `Group` プロパティは `ActionButtonLink` 項目でサポートされなくなりました。
- `Update` プロパティは `ParentId` 項目でサポートされなくなりました。
- `PublishedByUserId` 項目は参照種別に変更されました。

`undelete` コールは PromptAction オブジェクトでサポートされなくなりました。

特定の権限でのみ表示されるプロンプトを見るのに「設定・定義を参照する」権限は必要なくなりました。

数式でサポートされている関数を識別する

新しい FormulaFunctionAllowedType オブジェクトを使用して、指定された数式種別でサポートされている関数を識別します。

FormulaFunction オブジェクト項目 `IsAllowedInEntityContext`、`IsAllowedInFlowContext`、`IsAllowedInVisualforceContext` の代わりに FormulaFunctionAllowedType オブジェクトを使用します。これらの項目は API バージョン 48.0 以降では削除されています。

個人取引先に複数のメールを指定する

新しい `ContactPointEmail` オブジェクトを使用します。

連絡先メールの項目の値への変更に関する情報を取得する

新しい `ContactPointEmailHistory` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと ContactPointEmail オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する

新しい `ContactPointEmailOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

連絡先メールへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する

新しい `ContactPointEmailShare` オブジェクトを使用します。

個人取引先に複数の電話番号を指定する

新しい `ContactPointPhone` オブジェクトを使用します。

連絡先電話番号の項目の値への変更に関する情報を取得する

新しい `ContactPointPhoneHistory` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと ContactPointPhone オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する

新しい `ContactPointPhoneOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

連絡先電話番号へのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する

新しい `ContactPointPhoneShare` オブジェクトを使用します。

営業

いずれかのセールスケイデンスに関する情報 (名前、ID、説明、状態など) を確認する

新しい ActionCadence オブジェクトを使用します。

セールスケイデンスに属しているステップや、ステップの相互接続方法を確認する

新しい ActionCadenceStep オブジェクトを使用します。

分岐ステップに関する情報 (ロジックや次のステップなど) を確認する

新しい ActionCadenceRule オブジェクトを使用します。

分岐ステップの論理演算子を確認する

新しい ActionCadenceRuleCondition オブジェクトを使用します。

有効なセールスケイデンスに関する情報(状態、現在のステップ、割り当てられた見込み客、完了の理由など)を確認する
新しい ActionCadenceTracker オブジェクトを使用します。

セールスケイデンスの現在有効なステップに関する情報を確認する
新しい ActionCadenceStepTracker オブジェクトを使用して、ステップの状態、完了の理由、タイプ、割り当てられた見込み客などの情報を検索します。

リードが割り当てられているセールスケイデンスを確認する
Lead オブジェクトで新しい `ActionCadenceId` 項目を使用します。

セールスケイデンスの見込み客の対象任命先となっているユーザを確認する
Lead オブジェクトで新しい `ActionCadenceAssigneeId` 項目を使用します。

初めてリードに電話をかけた日時を確認する
Lead オブジェクトで新しい `FirstCallDateTime` 項目を使用します。

初めてリードにメールを送信した日時を確認する
Lead オブジェクトで新しい `FirstEmailDateTime` 項目を使用します。

オブジェクトカレンダーを作成および配布する
新しいCalendarViewオブジェクトを使用して、ユーザ向けのオブジェクトカレンダーを表示、作成、配布します。

ユーザが電話をかけるときに参照するコールスクリプトに関する情報を取得する
新しい CallTemplate オブジェクトを使用します。

拡張メモの最終変更日を確認する
ContentNote オブジェクトで新しい `ContentModifiedDate` 項目を使用します。

タスクをキューに割り当てる
Task オブジェクトで既存の `OwnerId` 項目の新しいグループ ID 値を使用します。キューのグループ ID は、OpenActivity、ActivityHistory、LookedUpFromActivity オブジェクトで参照のみの値として使用することもできます。

High Velocity Sales ユーザの [私のフィード] タブの作業項目のリストに関する情報を取得する
新しい UserWorkList オブジェクトを使用します。

High Velocity Sales ユーザの [私のフィード] タブの個々の作業項目に関する情報を取得する
新しい UserWorkListItem オブジェクトを使用します。

組織を構成する法人に関する情報を保存する
新しい LegalEntity オブジェクトを使用します。

Salesforce Einstein

動作の変更: Pardot および High Velocity Sales から Sales Cloud Einstein オブジェクトにアクセス不可
Pardot または High Velocity Sales を使用していても Sales Cloud Einstein を使用していない場合、AccountInsight、ContactSuggestionInsight、OpportunityInsights、OpportunityContactRoleSuggestionInsight、SalesAIScoreCycle、SalesAIScoreModelFactor の Sales Cloud Einstein オブジェクトにアクセスできなくなりました。Sales Cloud Einstein オブジェクトにアクセスすることを想定しているメタデータまたは APEX コードが保存されている場合、以前はなかった不具合が発生する可能性があります。

OpportunityContactRoleSuggestionInsight オブジェクトの項目を削除

`ContactTitle`、`Email`、`FirstName`、`LastName`、`Phone` 項目が OpportunityContactRoleSuggestionInsight オブジェクトで使用できなくなりました。

Salesforce アンケート

Financial Services Cloud オブジェクトレコードをアンケートへの招待および回答に関連付ける

`SurveySubject` オブジェクトの `SubjectEntityType` 項目で新しい `BusinessMilestone`、`Claim`、`ClaimParticipant`、`InsurancePolicy`、`InsurancePolicyParticipant`、`PersonalLifeEvent`、`Producer` 選択リスト値を使用します。

サービス

エージェントが作業を受け入れたときに、オムニチャネルウィジェットを自動的に最小化する

既存の ServiceChannel オブジェクトで新しい `DoesMinimizeWidgetOnAccept` 項目を使用します。

セカンダリルーティング優先度項目と値の対応付けを表す

新しい ServiceChannelFieldPriority オブジェクトを使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、『*Omni-Channel Developer Guide (オムニチャネル開発者ガイド)*』に追加されました。

セカンダリルーティング優先度で使用される項目を指定する

既存の ServiceChannel オブジェクトで新しい `SecRoutingPriorityField` 項目を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、『*Omni-Channel Developer Guide (オムニチャネル開発者ガイド)*』に追加されました。

作業がセカンダリ優先度で転送されて、オムニチャネルウィジェットに正しい順序で表示されるようにセカンダリルーティング優先度を指定する

既存の AgentWork オブジェクトで新しい `SecondaryRoutingPriority` 項目を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、『*Omni-Channel Developer Guide (オムニチャネル開発者ガイド)*』に追加されました。

メッセージングの会話のエントリ終了時刻を記録する

既存の ConversationEntry オブジェクトで新しい `EntryEndTime` 項目を使用します。

メッセージングチャネルの同意フレームワークを設定する

新しい MsgChannelLanguageKeyword オブジェクトを使用します。

新しい同意要件をメッセージングチャネルに追加する

既存のメッセージングチャネルオブジェクトで新しい `ConsentType`、`DoubleOptInPrompt`、`IsRequireDoubleOptIn`、`OptInPrompt` 項目を使用します。`OptInResponse` および `OptOutResponse` 項目は、API バージョン 48.0 までで使用できます。

メッセージングユーザがメッセージの受信に同意していることを確認する

既存の MessagingEndUser オブジェクトで新しい `IsFullyOptedIn`、`IsoCountryCode`、`MessagingConsentStatus` 項目を使用します。

エージェントまたはボットに割り当てられていないメッセージングセッションを記録する

MessagingSession オブジェクトで既存の `AgentType` 項目の新たにサポートされた値 `System` を使用します。

サードパーティ API にアクセスするときにクロスサイトスクリプト (XSS) 攻撃や他のコードインジェクション攻撃を防止する
CspTrustedSite オブジェクトを使用します。

Field Service (Lightning)

納入商品のデジタル追跡の状況を記録する
納入商品オブジェクトの `DigitalAssetStatus` に選択リストオプション `On`、`Off`、`Warning`、`Error` を使用します。

Chatter

ダイレクトメッセージの会話の件名データを編集する
DirectMessage オブジェクトを使用します。API バージョン 38.0 で導入されたこのオブジェクトは『Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス』に追加されています。

イベントモニタリング

EventLogFile で Apex 要求を長時間要求としてカウントするかどうかを決定する
Apex 実行イベント種別の新しい IS_LONG_RUNNING_REQUEST 項目を使用します。

EventLogFile の Apex 実行イベント種別で Bulk API および Bulk API 2.0 コールを区別する
Bulk API および Bulk API 2.0 に対する Apex コールのイベントが「R」 (未カテゴリの同期) ではなく「B」 (quiddity) で指定されるようになりました。`QUIDDITY` 項目についての詳細は、『オブジェクトリファレンス』の「EventLogFile」および「Apex 実行イベント種別」を参照してください。

Field Service Lightning

削除: 作業種別ベースのスケジュール制限を作成する機能を廃止
`WorkCapacityLimit`、`WorkCapacityUsage`、`ServiceAppointmentCapacityUsage` オブジェクトは使用できなくなりました。

Lightning フロー

フローを実行するコンテキストに関する情報を取得する
FlowVersionView オブジェクトで新しい `runInMode` 項目を使用します。

セキュリティ、プライバシー、ID

シングルログアウト中に選択した署名要求メソッド (RSM) を適用する
SamlSsoConfig オブジェクトで新しい `OptionsUseConfigRequestMethod` 項目を使用します。

設定が変更されたコンテキストを表示する
SetupAuditTrail オブジェクトで新しい `CreatedByContext` 項目を使用します。

Apple をサードパーティ認証プロバイダとして選択する
AuthProvider オブジェクトで既存の `ProviderType` 項目の新しい `Apple` 値を選択します。Apple をサードパーティ認証プロバイダとして選択した後に、AuthProvider オブジェクトで新しい `AppleTeam` 項目と `EcKey` 項目の値を指定します。

特定のコミュニケーションの顧客の希望を管理する
新しい CommSubscription **オブジェクトを使用します。**

顧客にリーチするときに使用できるコミュニケーション登録エンゲージメントチャネルを指定する
新しい CommSubscriptionChannelType **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録チャネル種別レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeFeed **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録チャネル種別レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeHistory **オブジェクトを使用します。**

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録チャネル種別オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeOwnerSharingRule **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録チャネル種別レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionChannelTypeShare **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録に対する顧客の同意を保存する
新しい CommSubscriptionConsent **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録の同意レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentFeed **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録の同意レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentHistory **オブジェクトを使用します。**

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録の同意オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentOwnerSharingRule **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録の同意レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionConsentShare **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionFeed **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionHistory **オブジェクトを使用します。**

所有者以外のユーザとコミュニケーション登録オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionOwnerSharingRule **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionShare **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録の受信に関する顧客の希望のタイミングを保存する
新しい CommSubscriptionTiming **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録タイミングレコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionTimingFeed **オブジェクトを使用します。**

コミュニケーション登録タイミングレコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい CommSubscriptionTimingHistory **オブジェクトを使用します。**

連絡先を介して連絡することへの顧客の同意を保存する
新しい ContactPointConsent **オブジェクトを使用します。**

連絡先に関する同意レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい ContactPointConsentHistory オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと連絡先に関する同意オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい ContactPointConsentOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

連絡先に関する同意レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい ContactPointConsentShare オブジェクトを使用します。

顧客にリーチできるコミュニケーションチャネルを指定する
新しい EngagementChannelType オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい EngagementChannelTypeFeed オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい EngagementChannelTypeHistory オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとエンゲージメントチャネル種別オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい EngagementChannelTypeOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

エンゲージメントチャネル種別レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい EngagementChannelTypeShare オブジェクトを使用します。

個人のプライバシーに関する同意設定を管理する
新しい PartyConsent オブジェクトを使用します。

関係者の同意レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい PartyConsentFeed オブジェクトを使用します。

関係者の同意レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい PartyConsentHistory オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと関係者の同意オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい PartyConsentOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

関係者の同意レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい PartyConsentShare オブジェクトを使用します。

警告メッセージが表示されずにユーザが移動することが可能な信頼できる URL をホワイトリストに登録する
新しい RedirectWhitelistUrl オブジェクトを使用します。

商業注文

注文に適用された調整に関する情報を取得する
新しい OrderAdjustmentGroup オブジェクトを使用します。

支払方法と納品先住所を共有する注文品目を整理する
新しい OrderDeliveryGroup オブジェクトを使用します。

購入者が注文で要求したカスタマイズに関する情報を取得する
新しい OrderDeliveryMethod オブジェクトを使用します。

注文品目に行われた変更に関する情報を取得する
新しい OrderItemAdjustmentLineItem オブジェクトを使用します。

注文品目に適用された税金に関する情報を取得する
新しい OrderItemTaxLineItem オブジェクトを使用します。

商取引の支払

顧客のカード支払方法に関する情報を取得する
新しい CardPaymentMethod オブジェクトを使用します。

顧客の支払に関する情報を取得する
新しい Payment オブジェクトを使用します。

ユーザが準備金に対する支払の請求または取り消しを行った支払イベントに関する情報を取得する
新しい PaymentAuthorization オブジェクトを使用して、取り消しまたは請求が行われた支払に関する情報を保存します。

外部支払ゲートウェイへの接続を設定する
新しい PaymentGateway オブジェクトを使用します。

Salesforce 支払プラットフォームと外部支払ゲートウェイ間で行われた通信に関する情報を取得する
新しい PaymentGatewayLog オブジェクトを使用します。

支払ゲートウェイアダプタの Apex クラスへの接続を定義する
新しい PaymentGatewayProvider オブジェクトを使用して、支払ゲートウェイ接続を設定します。

注文または契約に対する処理が行われた支払トランザクションを整理する
新しい PaymentGroup オブジェクトを使用します。

請求書に割り当てられた支払または請求書から割り当て解除された支払に関する情報を取得する
新しい PaymentLineInvoice オブジェクトを使用します。

顧客のクレジットカードの詳細を保存して、支払処理時に支払ゲートウェイに渡す
新しい PaymentMethod オブジェクトを使用します。

支払に対して行われた返金に関する情報を取得する
新しい Refund オブジェクトを使用します。

支払に適用された返金品目に関する情報を取得する
新しい RefundLinePayment オブジェクトを使用します。

注文管理

FulfillmentOrder オブジェクトの `Status` 項目が変更されたときにアクションをトリガする
新しい FOStatusChangedEvent オブジェクトを使用します。

注文履行ワークフローを管理および追跡する
新しい FulfillmentOrder オブジェクトを使用します。

履行注文品目に行われた調整に関する情報を取得する
新しい FulfillmentOrderItemAdjustment オブジェクトを使用します。

履行注文品目の税金に関する情報を取得する
新しい FulfillmentOrderItemTax オブジェクトを使用します。

履行注文の項目に関する情報を取得する
新しい FulfillmentOrderLineItem オブジェクトを使用します。

注文概要に行われた調整に関する情報を取得する
新しい OrderAdjustmentGroupSummary オブジェクトを使用します。

納品方法と受取人を共有する注文品目概要に関する情報を取得する
新しい OrderDeliveryGroupSummary オブジェクトを使用します。

注文品目概要に行われた調整に関する情報を取得する
新しい OrderItemAdjustmentLineSummary オブジェクトを使用します。

注文概要の商品に関する情報を取得する
新しい OrderItemSummary オブジェクトを使用します。

注文品目概要に対して行われた変更要求に関する情報を取得する
新しい OrderItemSummaryChange オブジェクトを使用します。

注文品目概要の税金に関する情報を取得する
新しい OrderItemTaxLineItemSummary オブジェクトを使用します。

注文概要に関連付けられている支払に関する情報を取得する
新しい OrderPaymentSummary オブジェクトを使用します。

注文概要ワークフローを管理および追跡する
新しい OrderSummary オブジェクトを使用します。

OrderSummary オブジェクトが作成されたときにアクションをトリガする
新しい OrderSummaryCreatedEvent オブジェクトを使用します。

OrderSummary オブジェクトの `Status` 項目が変更されたときにアクションをトリガする
新しい OrderSumStatusChangedEvent オブジェクトを使用します。

販売チャネルに関する情報を取得する
新しい SalesChannel オブジェクトを使用します。

サイト

Site.com ゲストユーザが作成したレコードの所有者を指定する
`GuestRecordDefaultOwnerId` 項目を使用して、Site.com サイトのゲストユーザや認証されていないユーザが作成したレコードの所有者として Salesforce 組織の有効なユーザを指定します。

Analytics

Analytics アプリケーションの自動インストール要求を照会および作成する
`WaveAutoInstallRequest` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 43.0 で導入され、『*オブジェクトリファレンス*』に追加されました。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

Salesforce 注文管理

プロセスの開始、フローの再開、または履行注文の状況が変更されたときの通知を行う
新しい FOStatusChangedEvent に登録します。このイベントは、Salesforce 注文管理の一部です。

プロセスの開始、フローの再開、または注文概要が作成されたときの通知を行う
新しい OrderSummaryCreatedEvent に登録します。このイベントは、Salesforce 注文管理の一部です。

プロセスの開始、フローの再開、または注文概要の状況が変更されたときの通知を行う
新しい OrderSumStatusChangedEvent に登録します。このイベントは、Salesforce 注文管理の一部です。

カスタマイズ

画面フローのランタイムエラーに関する通知の詳細を取得する
FlowExecutionErrorEvent イベントオブジェクトの次の新しい項目を使用します: ContextObject、ContextRecordId、FlowVersionNumber、InterviewStartedById。

動作の変更: FlowExecutionErrorEvent イベントオブジェクトの既存の項目に EventType、FlowApiName、InterviewGuid、InterviewStartDate の値が常に含まれるようになりました。以前は、これらの項目で null 値が許容されていました。

セキュリティと ID

サポートの変更: LightningUriEvent および LightningUriEventStream イベントオブジェクトの SessionLevel 項目をサポート
SessionLevel 項目は Winter '20 では将来の使用のために予約されていました。LightningUriEvent イベントオブジェクトと LightningUriEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) の制限とコールが変更されました。

変更された制限

より長い SOQL クエリを使用する
SOQL ステートメントの最大長が 20,000 から 100,000 に増加しました。

クエリでより多くのリレーションを使用する
クエリの子-親リレーションの最大数が 35 から 55 に増加しました。

変更されたコール

表示に基づいて項目を選択する
新しい `RecordVisibilityContext` 句を使用して、`WITH` クエリを絞り込みます。

SOSL

Salesforce Object Query Language (SOSL) の制限が変更されました。

変更された制限

より長い SOSL クエリを使用する

SOSL ステートメントの最大長が 20,000 から 100,000 に増加しました。

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたリソースが含まれます。

カスタマイズ

Custom Invocable Actions

この Describe レスポンスボディには、1 つの新しいプロパティ `category` があります。このプロパティでは、呼び出し可能なカスタムアクションのカテゴリを指定します。この変更は、Apex アクションに影響します。

開発

動作の変更: 契約開始日に基づいてプラットフォームイベントのエンタイトルメントを取得

大規模プラットフォームイベントのアドオンライセンスがある場合、`limits` REST API リソースの新しい `MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` 値を使用します。この新しい値は、契約開始日に基づいて CometD クライアント配信の利用状況を返します。この値は、月の最初の日に基づいていた以前の API バージョンの `MonthlyPlatformEvents` 値より正確です。`MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` は、API バージョン 48.0 以降では `MonthlyPlatformEvents` に置き換わります。

`MonthlyPlatformEventsUsageEntitlement` 値を取得するには、`/services/data/v48.0/limits` に対して GET 要求を実行します。

Lightning Scheduler

プライマリリソースを指定するマルチリソーススケジュールの予定時間枠を取得する

マルチリソーススケジュールでプライマリリソースを指定するには、`primaryResourceId` を使用します。

動作の変更: シングルおよびマルチリソーススケジュールのスキルの一致で予定時間枠を取得

これらの値を取得するには、`/services/data/v48.0/scheduling/getAppointmentSlots` に対して GET 要求を実行します。

Salesforce アンケート

特定の言語のアンケート項目の翻訳を取得する

`/services/data/v`***`XX.X`***`/localizedvalue/record/`***`developerName`***`/`***`language`*** を使用して、コールで指定した言語のアンケート項目の翻訳された値を取得します。

アンケート項目の翻訳を追加または変更する

`/services/data/v`***`XX.X`***`/localizedvalue/record/` を使用して、アンケート項目の翻訳された値を post したり、その翻訳された値を更新したりします。

アンケート項目の翻訳を削除する

`/services/data/v`***`XX.X`***`/localizedvalue/record/`***`developerName`***`/`***`language`*** を使用して、指定した言語の特定のフロー項目の翻訳された値を削除します。

複数のアンケート項目の翻訳された値を取得する
`/services/data/vXX.X/localizedvalue/records/get` を使用して、1 つ以上の言語の複数のフロー項目の翻訳された値を取得します。

複数のアンケート項目の翻訳された値を追加または更新する
`/services/data/v`***`XX.X`***`/localizedvalue/records/upsert` を使用して、複数のフロー項目の翻訳された値を post したり、1 つ以上の言語の翻訳された値を更新したりします。

複数のアンケート項目の翻訳された値を削除する
`/services/data/v`***`XX.X`***`/localizedvalue/records/delete` を使用して、1 つ以上の言語の複数のフロー項目の翻訳された値を削除します。

検索

オートコンプリートの結果とインスタント結果の動的項目を検索する
`dynamicFields` を使用して、追加の動的項目を返します。たとえば、`dynamicFields=secondaryField` の場合、検索レイアウトの次の対象項目に基づいて、`Id` および `Name` (または `Title`) 以外の項目が結果の各推奨レコードに追加されます。

新規、変更、および廃止されたコール

次のコールは、API バージョン 48.0 で新規追加、変更、または廃止されました。

変更されたコール

Composite 要求のパフォーマンスの改善
Composite 要求 (`vXX.X/composite`) を作成するときに新しい `collateSubrequests` 項目を使用します。この項目が `true` (デフォルト) に設定されている場合、API は処理速度を上げるために関係のない要求を順に並べて一括処理します。要求の実行順序を制御する必要がある場合は、これを `false` に設定します。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。パーソナライズが正式リリースされ、利用者情報を一括取得できるようになりました。コミュニティまたはチャネルで管理コンテンツを検索します。ナレッジ記事の参照カウントを増やします。

メモ: カスタム Chatter とコミュニティの環境を Salesforce で作成するには、ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter REST API リソース
次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ
新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

ファイル

Adobe Flash 表示のサポート終了

Summer '20 で、`/connect/files/fileId/rendition` リソースはデフォルトで Adobe Flash 表示の作成を停止します。Winter '21 で、このリソースは Adobe Flash 表示を返さなくなります。`/connect/files/fileId/previews/previewFormat` リソースを使用して SVG 表示を取得してください。

ナレッジ

ナレッジ記事の参照カウントを 1 つずつ増やす

新しい Knowledge Article View Stat Input リクエストボディまたは `articleOrVersionId` 要求パラメータを使用して、`/connect/knowledge/article/view-stat` に対して PATCH 要求を実行します。

Lightning Scheduler

サービス予定を作成する

取引先、納入商品、リード、商談、作業指示、または作業指示品目のサービス予定を作成するには、`/connect/scheduling/service-appointments` に対して POST 要求を実行します。このメソッドでもサービスリソースを予定に割り当て、ゲストユーザのリードレコードを作成します。

`WorkType` を使用してサービステリトリーを取得する

`WorkType` または `WorkTypeGroup` を使用してサービステリトリーを取得するには、`/connect/scheduling/service-territories` に対して GET 要求を実行します。

管理コンテンツ

コミュニティの管理コンテンツの検索

`queryTerm` 要求パラメータを指定して、`/connect/communities/communityId/managed-content/delivery/contents/search` に対して GET 要求を実行します。

チャネルの管理コンテンツの検索

`queryTerm` 要求パラメータを指定して、`/connect/cms/delivery/channels/channelId/contents/search` に対して GET 要求を実行します。

コンテキストユーザの管理コンテンツ配信チャネルの取得 (ベータ)

メモ: ベータ機能のこの API は、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特

定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

`/connect/cms/delivery/channels` に対して GET 要求を行います。

チャネルの公開された管理コンテンツバージョンの取得 (ベータ)

`/connect/cms/delivery/channels/`***`channelId`***`/contents/query` に対して GET 要求を行います。必須の `managedContentType` パラメータをコンテンツバージョンの API 参照名に設定します。

注文管理

メモ: 注文管理リソースにアクセスするには、Salesforce 注文管理ライセンスが必要です。

FulfillmentOrder からの品目のキャンセル

新しい Fulfillment Order Line Items to Cancel Input リクエストボディを指定して、`/commerce/fulfillment/fulfillment-orders/`***`fulfillmentOrderId`***`/actions/cancel-item` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary のクレジットメモの作成

新しい Create Credit Memo Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/actions/create-credit-memo` に対して POST 要求を実行します。

FulfillmentOrders の作成

新しい Fulfillment Order Input リクエストボディを指定して、`/commerce/fulfillment/fulfillment-orders` に対して POST 要求を実行します。

FulfillmentOrder の請求書の作成

新しい Fulfillment Order Invoice Input リクエストボディを指定して、`/commerce/fulfillment/fulfillment-orders/`***`fulfillmentOrderId`***`/actions/create-invoice` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary の OrderPaymentSummary の作成

新しい Create Order Payment Summary Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-payment-summaries` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary の作成

新しい Order Summary Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries` に対して POST 要求を実行します。

資金の確認または請求書の支払の収集

新しい Ensure Funds Async Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/async-actions/ensure-funds-async` に対して POST 要求を実行します。

クレジットメモの返金の確認
新しい Ensure Refunds Async Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/orderSummaryId/async-actions/ensure-refunds-async` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary での商品のキャンセルアクションの期待される結果をプレビュー
新しい Change Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/orderSummaryId/actions/preview-cancel` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary での商品の返品アクションの期待される結果をプレビュー
新しい Change Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/orderSummaryId/actions/preview-return` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary からの商品のキャンセル
新しい Change Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/orderSummaryId/actions/submit-cancel` に対して POST 要求を実行します。

OrderSummary からの商品の返品
新しい Change Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries/orderSummaryId/actions/submit-return` に対して POST 要求を実行します。

パーソナライズ (正式リリース)

利用者 ID のカンマ区切りリストの利用者情報の取得
`/connect/communities/communityId/personalization/audiences/batch/audienceIds` に対して GET 要求を行います。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

ナレッジ

Knowledge Article View Stat Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `articleOrVersionId` — 1 つずつ参照カウントを増やすナレッジ記事またはナレッジ記事バージョンの ID。

Lightning Scheduler

Assigned Resource Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `extendedFields` — カスタム項目。

- isPrimaryResource —割り当て済みリソースが主要なリソースかどうかを示します。マルチリソースの予定の場合、主要なリソースにできるのは 1 つのリソースのみです。
- isRequiredResource — 割り当て済みリソースが必須リソースかどうかを示します。
- serviceResourceId — サービス予定に割り当てられたリソース。

Extended Fields Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- name — カスタム項目の名前。
- value — カスタム項目の値。

Lead Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- company — リードの会社。
- email — リードのメールアドレス。
- extendedFields — カスタム項目。
- firstName — リードの名。
- lastName — リードの姓。
- phone — リードの電話番号。

Service Appointment Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- additionalInformation — サービス予定に関する追加情報。
- appointmentType — 予定の種別を表します。
- city — 予定が完了した市区郡。
- comments — 予定に関するコメント。
- contactId — 親レコードに関連付けられた取引先責任者。
- country — 予定が完了した国。
- description — 予定の説明。
- extendedFields — カスタム項目。
- parentRecordId — 予定に関連付けられた親レコード。
- postalCode — 予定が完了した郵便番号。
- schedEndTime — 予定を終了するようにスケジュールされた時刻。
- schedStartTime — 予定を開始するようにスケジュールされた時刻。
- serviceTerritoryId — 予定に関連付けられたサービスリテリトリー。
- state — サービス予定が完了した都道府県。
- street — サービス予定が完了した番地および町名。
- subject — 予定について説明する短い語句。
- workTypeId — サービス予定に関連付けられた作業種別。指定されている場合、サービス予定レコードに追加されます。

Service Appointments Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- assignedResources — サービス予定に割り当てられたサービスリソース。
- lead — 見込み客またはリード。
- schedulingPolicyId — AppointmentSchedulingPolicy オブジェクトの ID。リクエストボディでスケジュールポリシーが渡されない場合、デフォルトの設定が使用されます。時間枠の決定時に使用される唯一のスケジュールポリシー設定は、取引先訪問時間の適用です。
- serviceAppointment — 顧客のサービス作業を完了するための予定。

注文管理

Change Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- changeItems — OrderItemSummaries への変更のリスト。

Change Item Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- orderItemSummaryId — OrderItemSummary の ID。
- quantity — 変更する数量。正の値を使用します。たとえば、2 の値は「2 単位をキャンセルまたは返品」を意味します。
- reason — 変更の理由。
- shippingReductionFlag — 送料を按分するかどうかを指定します。

Create Credit Memo Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- changeOrderIds — 変更注文の ID のリスト。

Create Order Payment Summary Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- orderSummaryId — OrderSummary の ID。
- paymentAuthorizationId — 支払承認の ID。
- paymentIds — 支払の ID のリスト。

Ensure Funds Async Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- invoiceId — 請求書の ID。

Ensure Refunds Async Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- creditMemoId — クレジットメモの ID。

Fulfillment Group Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- fulfilledFromLocationId — 履行場所の ID。
- fulfillmentType — 履行種別。FulfillmentOrders で定義された [種別] 項目値のいずれか。
- orderItemSummaries — OrderItemSummaries のリスト。

Fulfillment Order Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentGroups` — OrderItemSummaries および履行場所を指定する履行グループのリスト。
- `orderDeliveryGroupSummaryId` — OrderDeliveryGroupSummary の ID。
- `orderSummaryId` — OrderSummary の ID。

Fulfillment Order Invoice Input
この新しいリクエストボディには、プロパティがありません。

Fulfillment Order Line Item Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentOrderLineItemId` — FulfillmentOrderLineItem の ID。
- `quantity` — キャンセルする数量。

Fulfillment Order Line Items To Cancel Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentOrderLineItemsToCancel` — FulfillmentOrderLineItems および数量のリスト。

Order Item Summary Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `orderItemSummaryId` — OrderItemSummary の ID。
- `quantity` — 含める数量。

Order Summary Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `orderId` — 元の注文の ID。

パーソナライズ (正式リリース)

Audience Criterion Input
このリクエストボディには、次の変更があります。

- `criterion` — このプロパティの種別が Audience Criteria Value Input に変更されました。

Audience Criterion Value Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `city` — ユーザの市区郡。
- `country` — ユーザの国。
- `domainId` — ユーザのドメイン ID。
- `entityField` — オブジェクトの項目。
- `entityType` — オブジェクトの種別。
- `fieldValue` — 項目の値。
- `isEnabled` — ユーザに対して権限が有効化されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `permission` — 標準ユーザまたはカスタム権限の有効な API 参照名を示します。
- `profileId` — ユーザのプロファイル ID。

- subdivision — ユーザの下位区分。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Lightning Scheduler

Service Appointment Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- result — POST メソッドの結果。

Service Appointment Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- assignedResourceIds — 割り当て済みリソースの ID。
- parentRecordId — 親レコードの ID。
- serviceAppointmentId — 作成されたサービス予定の ID。

Service Territories List Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- serviceTerritories — サービステリトリーのリスト。

Service Territories Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- result — GET メソッドの結果。

Service Territories Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- city — サービステリトリーの市区郡。
- country — サービステリトリーの国。
- id — サービステリトリーの ID。
- latitude — サービステリトリーの緯度。
- longitude — サービステリトリーの経度。
- name — サービステリトリーの名前。
- operatingHoursId — サービステリトリー operatingHours レコードの ID。
- postalCode — サービステリトリーの郵便番号。
- state — サービステリトリーの都道府県。
- street — サービステリトリーの町名・番地。

管理コンテンツ

Managed Content Channel (ベータ)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- channelId — 管理コンテンツチャネルの ID。

- channelName — 管理コンテンツチャネルの名前。
- channelType—管理コンテンツチャネルの種別。値は次のとおりです。
  - CloudToCloud
  - Community
  - ConnectedApp
- isChannelSearchable — チャネルのテキストコンテンツが検索可能か(true)、否か(false)を示します。

Managed Content Channel Collection (ベータ)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- channels — 管理コンテンツチャネルのリスト。
- currentPageUrl — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Chatter REST API URL。次のページがない場合は null。
- previousPageUrl — 前のページを識別する Chatter REST API URL。前のページがない場合は null。
- totalChannels — 管理コンテンツチャネルの合計数。

Managed Content Date and Time Node Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- dateTimeValue — 管理コンテンツノードの UTC 日時値。
- nodeType — 管理コンテンツノードの種別。値は DateTime です。
- timeZone — 日時が作成されるタイムゾーン。

Managed Content Date Node Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- nodeType — 管理コンテンツノードの種別。値は Date です。
- value — 管理コンテンツノードの日付値。

Managed Content Media Node Value

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- fileName — 管理コンテンツノードのファイル名。
- resourceUrl — アセットファイルのリソース URL。
- unauthenticatedUrl — アセットファイルの未認証 URL。または、外部ユーザにアセットファイルが表示されない場合は null。

Managed Content Search Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- contentType — 管理コンテンツのコンテンツタイプ。
- id — 管理コンテンツの ID。
- publishDate — 管理コンテンツの公開日。
- title — 管理コンテンツのタイトル。
- urlName — 管理コンテンツバージョンの URL 名。

Managed Content Search Result Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `count` — 検索結果の合計数。
- `currentPageUri` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `items` — 検索結果のコレクション。
- `nextPageUri` — 次のページを識別する Chatter REST API URL。次のページがない場合は `null`。

Managed Content Search Result Content Type

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `developerName` — 管理コンテンツ種別の API 参照名。
- `label` — 管理コンテンツ種別の表示ラベル。

Managed Content Version

このレスポンスボディには、次の新規追加および変更されたプロパティがあります。

- `contentNodes` — このプロパティの種別で Managed Content Date and Time Node Value と Managed Content Date Node Value の対応付けがサポートされるようになりました。
- `contentUrlName` — 管理コンテンツバージョンのコンテンツ URL 名。
- `language` — 管理コンテンツバージョンの言語。

注文管理

Change Item Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `grandTotalAmount` — GrandTotalAmount 項目への変更。
- `totalAdjustedDeliveryAmount` — TotalAdjustedDeliveryAmount 項目への変更。
- `totalAdjustedDeliveryTaxAmount` — TotalAdjustedDeliveryTaxAmount 項目への変更。
- `totalAdjustedProductAmount` — TotalAdjustedProductAmount 項目への変更。
- `totalAdjustedProductTaxAmount` — TotalAdjustedProductTaxAmount 項目への変更。
- `totalAdjustmentDistributedAmount` — TotalAdjustmentDistributedAmount 項目への変更。
- `totalAdjustmentDistributedTaxAmount` — TotalAdjustmentDistributedTaxAmount 項目への変更。
- `totalAmount` — TotalAmount 項目への変更。
- `totalExcessFundsAmount` — TotalExcessFundsAmount 項目への変更。
- `totalRefundableAmount` — TotalRefundableAmount 項目への変更。
- `totalTaxAmount` — TotalTaxAmount 項目への変更。

Create Credit Memo Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `creditMemoId` — 作成されたクレジットメモの ID。
- `errors` — 返されたエラー。
- `success` — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Create Order Payment Summary Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `errors` — 返されたエラー。

- orderPaymentSummaryId — 注文支払概要の ID。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Ensure Funds Async Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- backgroundOperationId — バックグランド操作の ID。
- errors — 返されたエラー。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Ensure Refunds Async Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- backgroundOperationId — バックグランド操作の ID。
- errors — 返されたエラー。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Fulfillment Order Cancel Line Items Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 返されたエラー。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Fulfillment Order Invoice Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 返されたエラー。
- invoiceId — 作成された請求書 の ID。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Fulfillment Order Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 返されたエラー。
- fulfillmentOrderIds — 作成された履行注文の ID のリスト。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Order Summary Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 返されたエラー。
- orderSummaryId — 注文概要の ID。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Preview Cancel Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- changeBalances — キャンセルアクションの期待される変更注文の財務的価値。
- errors — 返されたエラー。
- orderSummaryId — OrderSummary の ID。
- success — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Preview Return Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `changeBalances` — 返品アクションの期待される変更注文の財務的価値。
- `errors` — 返されたエラー。
- `orderSummaryId` — OrderSummary の ID。
- `success` — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Submit Cancel Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `changeBalances` — 作成された変更注文の財務的価値。
- `changeOrderId` — 作成された変更注文の ID。
- `errors` — 返されたエラー。
- `success` — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Submit Return Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `changeBalances` — 作成された変更注文の財務的価値。
- `changeOrderId` — 作成された変更注文の ID。
- `errors` — 返されたエラー。
- `success` — トランザクションが成功したかどうかを示します。

パーソナライズ (正式リリース)

Audience Criteria Details
このレスポンスボディには、次の変更があります。

- `criterion` — このプロパティの種別が Audience Criterion Details に変更されました。

Audience Criterion Details
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `value` — 利用者条件の値と項目の対応付け。

Audience Target Assignment
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `id` — 対象の ID。
- `priority` — 対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- `publishStatus` — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - `Draft`
  - `Live`
- `url` — 対象への URL。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、登録メールの添付ファイル、およびレポート項目と S オブジェクトのリレーションを記述する新しいプロパティが含まれています。

変更されたリソース

新しいプロパティは、登録メールの添付ファイルと、レポートタイプ項目と S オブジェクト項目間のリレーションを記述します。

レポート (/services/data/48.0/analytics/reports/*{report_id}*/ および /services/data/48.0/analytics/reports/*{report_id}*/describe/)

reportExtendedMetadata と reportTypeMetadata に次の新規プロパティが追加されました。

プロパティ	型	説明
entityColumnName	文字列	レポート項目が対応する S オブジェクトおよび S オブジェクト項目名を返すことで、S オブジェクトとレポート項目間のリレーションを記述します。 値は *sObject.sObject field* という形式で返されます。このプロパティは reportTypeMetadata からのレポートタイプオブジェクトの columns[] 配列のオブジェクトなど、レポート項目を記述するオブジェクトに含まれます。 たとえば、LAST_UPDATE_BY 列では、entityColumnName の値は "User.Name" です。これは、User S オブジェクトの Name 項目に対応することを意味します。

```
"reportTypeMetadata" : {
    "categories" : [ {
      "columns" : {
        "LAST_UPDATE_BY" : {
          "allowedInCustomDetailFormula" :
true,
          "bucketable" : true,
          "dataType" : "string",
          "entityColumnName" : "User.Name",
          "fieldToFieldFilterable" : false,
          "filterValues" : [ ],
          "filterable" : true,
          "inactiveFilterValues" : [ ],
          "isCustom" : false,
          "isLookup" : true,
          "label" : "Last Modified By",
          "maxLength" : null,
          "uniqueCountable" : true
        }
      }
```

プロパティ	型	説明

		<pre>}]
		}</pre>
		メモ: 行レベルの数式はレポート項目などの S オブジェクト項目に直接対応しませんが、entityColumnName プロパティはあります。行レベルの数式の場合、entityColumnName の値は CDF1 です。

通知 (/services/data/48.0/analytics/notifications?source=lightningReportSubscribe)

thresholds オブジェクトに次の新規プロパティが追加されました。

プロパティ	型	説明
attachment	文字列	Lightning Experience レポートの登録に添付ファイルが含まれるかどうかを指定します。添付ファイルが含まれる場合、添付されるファイルも指定します。 有効な値は次の 1 つのみです。 • excel — レポート結果を .XLSX ファイルの形式のスプレッドシートとしてメールに添付します。登録メールにレコードレベルの詳細は含まれません。 Lightning レポートの登録に添付ファイルが含まれない場合、attachment プロパティは返されません。attachment プロパティが返されない場合、HTML 形式のレポート結果は直接登録メールの本文に含まれます。

関連トピック:

Reports and Dashboards REST API Developer Guide (Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザインターフェース API

新しいオブジェクトを使用し、レスポンスの各レコードのレコードタイプ ID にアクセスして、選択リストのケース状況を取得します。

List Record Collection レスポンスにより詳細な情報が含まれる

List Record Collection レスポンスボディに、プロパティ fields、optionalFields、listReference、pageSize、sortBy が追加されました。

List View Summary Collection レスポンスにより詳細な情報が含まれる

List View Summary Collection レスポンスボディに、プロパティ objectApiName、pageSize、queryString、recentListsOnly が追加されました。

Picklist レスポンスにケース状況が含まれる

Picklist Value レスポンスボディには、ケース状況がクローズされているかどうかに関する情報が含まれるようになりました。

Record レスポンスに `recordTypeId` が含まれる

Record レスポンスボディには、レコードのレコードタイプの ID である新しい `recordTypeId` プロパティが含まれます。2 つのレベルのネストされたレコードでのみ返される `recordTypeInfo` の代わりにこのプロパティを使用します。

Record レスポンスに `weakEtag` が含まれる

レコードが変更されたかどうかを判断するには、レスポンス間でこのプロパティの値を比較します。値が大きくなっている場合、このレコードは新しいレコードです。値が小さくなっている場合、このレコードは古いレコードです。値が同じ場合、このレコードは同じレコードです。すべてのレコードタイプがサポートされているわけではありません。サポートされていないレコードタイプの場合、この値は `0` になります。

サポートされるオブジェクト

これらのオブジェクトは、大部分のユーザインターフェース API リソースでサポートされるようになりました。リストビューリソースと最後に使用した (MRU) リストビューリソースでは、より少ないオブジェクトのセットがサポートされます (下記参照)。

- AccountForecast
- AccountForecastPeriodMetric
- AccountProductForecast
- AccountProductPeriodForecast
- BasicDataRecord
- DataExportDefinition
- DeleteEvent
- DigitalSignature
- KnowledgeArticleVersion — 削除はサポートされない
- LoyaltyProgramCurrency
- LoyaltyProgramMember
- LoyaltyTier
- LoyaltyTierGroup
- OpportunityLineItemSchedule
- Product2DataTranslation
- ProductCategoryDataTranslation

リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- AccountForecast
- BasicDataRecord
- DeleteEvent
- LoyaltyProgramCurrency
- LoyaltyProgramMember
- LoyaltyTier

- LoyaltyTierGroup

最後に使用した (MRU) リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- AccountForecast
- LoyaltyProgramCurrency
- LoyaltyTier
- LoyaltyTierGroup

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

Salesforce 全体

組織内のプロファイルごとにオブジェクトの検索結果レイアウトを微調整する

SearchLayout オブジェクトで新しい `Profile`、`ProfileName`、および `ListLayout` 項目を使用します。

指定された数式種別でサポートされている関数を識別する

新しい FormulaFunctionAllowedType オブジェクトを使用します。

削除: FormulaFunction オブジェクトから `IsAllowedInEntityContext`、`IsAllowedInFlowContext`、`IsAllowedInVisualforceContext` 項目を削除

代わりに、新しい FormulaFunctionAllowedType オブジェクトを使用します。

パッケージ化

パッケージバージョンの作成時に連動関係、上位パッケージ、メタデータの検証をスキップする

Package2VersionCreateRequest オブジェクトで新しい `SkipValidation` 項目を使用します。

サービス

タイムシートテンプレートを管理パッケージに追加できることを指定する

TimeSheetTemplate オブジェクトで新しい 2 つの項目 (`ManageableState` と `NamespacePrefix`) を使用します。

タイムシートテンプレートの割り当てを使用してタイムシートとプロファイルをリンクする

新しい TimeSheetTemplateAssignment オブジェクトを使用します。

Lightning フロー

フローを実行するコンテキストを設定する

Flow オブジェクトで新しい `RunInMode` 項目を使用します。

開発

改善された記号テーブルの生成

管理パッケージの記号テーブルの生成で、非グローバル実装の詳細が含まれなくなりました。詳細は、「改善された記号テーブルの生成」を参照してください。

Lightning コンポーネントのリソースにアクセスするために Salesforce 組織で使用できる URL を指定する
CspTrustedSite オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 39.0 で導入され、『*Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)*』に追加されました。

動作の変更: 一部の Tooling オブジェクトにアクセスするための必須権限を変更
Spring '20 以降、一部のオブジェクトに追加のアクセス要件があります。

- ApexClassMember または ApexTriggerMember にアクセスするには、ユーザに「すべてのデータの参照」権限と「Apex 開発」権限が必要です。
- ApexComponentMember、ApexPageMember、または ContainerAsyncRequest にアクセスするには、ユーザに「すべてのデータの参照」権限と「アプリケーションのカスタマイズ」権限の両方が必要です。
- MetadataContainer にアクセスするには、ユーザに「すべてのデータの参照」権限と、「Apex 開発」権限または「アプリケーションのカスタマイズ」権限のいずれかが必要です。
- OperationLog にアクセスするには、ユーザに「設定・定義を参照する」権限が必要です。

動作の変更: 変更データキャプチャチャネルアクセスの権限を変更
ID で PlatformEventChannel および PlatformEventChannelMember オブジェクトを取得するには、「設定・定義を参照する」権限が適用されるようになりました。この権限は、オブジェクトのクエリではすでに適用されています。

項目が複合項目かどうかを示す
FieldDefinition および EntityParticle オブジェクトで `isCompound` 項目を使用します。この項目は、API バージョン 38.0 で導入され、『*Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)*』に追加されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Salesforce 全体

組織で有効なテーマの名前を指定する
既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で新しい `activeThemeName` 項目を使用します。

組織で Skype を有効にする
既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で `enableSkypeChatEnabled` 項目を使用します。

組織で Webex Teams および Webex Meetings を有効にする
既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で `enableSparkConversationEnabled` 項目および `enableWebExEnabled` 項目を使用します。

すべてのユーザに Webex Teams および Webex Meetings へのアクセス権を付与する
既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で新しい `enableSparkAllUsers` 項目および `enableWebexAllUsers` 項目を使用します。

すべてのユーザに Lightning Extension 機能へのアクセス権を付与する
既存の LightningExperienceSettings メタデータ型で新しい `isLEXExtensionOff`、`isLEXExtensionDarkModeOff`、`isLEXExtensionComponentCustomizationOff`、`isLEXExtensionLinkGrabberOff` 項目を使用します。

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードを組織のデフォルトの所有者に割り当てる
既存の SiteSettings メタデータ型で新しい `enableSitesRecordReassignOrgPref` 項目を使用します。

個人に公式名を使用するかどうかを指定する
NameSettings 型で新しい `enableInformalName` 項目を使用します。

アンケートの質問を異なる項目に保存する
Flow メタデータ型で `fieldType` 項目 (FlowScreenField サブタイプ) の新しい `ComponentChoice` および `ComponentInput` 値を使用します。

予定の詳細を変更する
QuickAction メタデータ型で `standardLabel` 項目の新しい `ModifyAppointment` 値を使用します。この型は、API バージョン 47.0 で導入され、*『メタデータ API 開発者ガイド』* に追加されました。

検索

Salesforce Classic の検索サイドバーの高度な検索を有効にする
SearchSettings 型の新しい `enableAdvancedSearchInAlohaSidebar` 項目を使用します。

Lightning Experience で Einstein Search のパーソナライズを有効にする
SearchSettings 型で新しい `enableEinsteinSearchPersonalization` 項目を使用します。

ユーザが Salesforce Classic で個人タグを使用してテーマでレコードをグループ化できるようにする
SearchSettings 型で新しい `enablePersonalTagging` 項目を使用します。

ユーザが Salesforce Classic で公開タグを使用してテーマでレコードをグループ化できるようにする
SearchSettings 型で新しい `enablePublicTagging` 項目を使用します。

シノニム検索を有効にする
SearchSettings 型で新しい `enableSalesforceGeneratedSynonyms` 項目を使用します。

グローバル検索ボックスの検索語履歴を有効にする
SearchSettings 型で新しい `enableSearchTermHistory` 項目を使用します。

ケースから推奨ナレッジ記事へのリンクを有効にする
SearchSettings 型で新しい `enableSuggestArticlesLinksOnly` 項目を使用します。

Salesforce Classic のサイドバー検索でシステム管理者が指定したデフォルトのエンティティを使用できるようにする
SearchSettings 型で新しい `enableUseDefaultSearchEntity` 項目を使用します。

モバイル

削除: MobileSettings 型の `enableLightningOnMobile` 項目を削除
`enableLightningOnMobile` 項目は、Winter '20 の選択期間中に組織が新しい Salesforce モバイルアプリケーションに対応しているかどうかを示していました。すべての組織が新しい Salesforce モバイルアプリケーションに対応するようになったため、この項目は不要になりました。

すべてのユーザの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境を有効にする
既存の MobileSettings メタデータ型で新しい `enableNewSalesforceMobileAppForTablet` 項目を使用します。

標準通知とカスタム通知種別の組織レベルの通知設定を表示および変更する
新しい `NotificationTypeConfig` メタデータ型を使用します。

営業

動作の変更:すべての API バージョンで、ロック解除済みパッケージの場合に Territory2 型に名前空間が設定されていないパッケージが必要
Territory2 は Territory2Type に依存しており、これには名前空間が設定されていないパッケージが必要です。この変更により、Territory2 と Territory2Type の動作が一貫したものになるため、Territory2 をロック解除済みパッケージで使用できるようになりました。

Salesforce と支払ゲートウェイプロバイダ間の通信プロセスをカスタマイズする
新しい PaymentGatewayProvider メタデータ型を使用します。

より優れた注文処理を有効にする
OrderSettings 型で新しい `enableEnhancedCommerceOrders` 項目を使用します。

動作の変更:すべての API バージョンで、ロック解除済みパッケージの Territory2Model の名前空間サポートを削除
この変更により、テリトリーモデルがロック解除済みパッケージは含まれるが名前空間が設定されずにリリースされるという既知の問題が解決されます。

ユーザがアクション & おすすめコンポーネントでおすすめを拒否したときにフローを開始する
RecordActionDeployment 型で新しい `shouldLaunchActionOnReject` 項目を使用します。

動作の変更:項目 `doesAutoAddSplitOwnerAsOpportunityTeamMember` が OpportunitySettings メタデータ型で使用不可
この機能を有効にするには、[設定] の [商談分割設定] を使用します。この機能が有効になっている場合、ユーザが商談分割を編集したときにメンバーが自動的に商談チームに追加されます。この機能が無効になっている場合、ユーザは商談チームの関連リストを使用してメンバーを追加する必要があります。この機能はデフォルトで無効になっています。

自動的にメールを送信するセールスケイデンスステップをユーザが作成できるようにする
HighVelocitySalesSettings メタデータ型で新しい `enableACAutoSendEmail` 項目を使用します。

差し込み印刷を使用して複数のレコードから Microsoft Word ドキュメントを作成する
新しい MailMergeSettings メタデータ型を使用します。

Salesforce と Microsoft または Google アカウントの間で行動と取引先責任者を同期する
EmailIntegrationSettings メタデータ型で新しい `enableContactAndEventSync` 項目を使用します。

外部アカウントと Salesforce 間でメール、行動、取引先責任者の同期を維持する
新しい EACSettings メタデータ型を使用します。Microsoft または Google アカウントから関連する Salesforce レコードの活動タイムラインにメールと行動を追加するかどうかを制御します。Microsoft または Google アカウントと Salesforce 間で取引先責任者および行動データを同期するかどうかを指定します。

参照のみのプロセス型 SalesEntryExperienceFlow は FlowProcessType 列挙に追加される
この値は、将来の使用のために予約されています。

キャンペーンが商談パイプラインにどう影響するかを理解できるようにキャンペーンインフルエンスを設定する
新しい CampaignSettings メタデータ型を使用します。

Einstein 自動取引先責任者を使用して、新しい取引先責任者および取引先責任者の役割を検索する
新しい AutomatedContactsSettings メタデータ型を使用して、Einstein 自動取引先責任者を有効にします。この設定は、Einstein で新しいデータをユーザに推奨するのか、自動的に追加するのかを制御します。

Einstein 商談インサイトを使用して、商談に関連する更新情報を取得する
新しい OpportunityInsightsSettings メタデータ型を使用して、Einstein 商談インサイトを有効にします。

Einstein 取引先インサイトを使用して、顧客との関係を維持する
新しい AccountInsightsSettings メタデータ型を使用して、Einstein 取引先インサイトを有効にします。

営業担当が取引先の作成、関連するニュース記事の参照、取引先レコードへのロゴの追加を簡単に行えるようにする
新しい AccountIntelligenceSettings メタデータ型を使用して、自動化された取引先項目、ニュース、取引先ロゴを有効にします。

コマース

Salesforce 注文管理を有効にする
新しい OrderManagementSettings メタデータ型を使用します。

サービス

Lightning Knowledge チャネルレイアウトの挿入された記事で添付ファイルおよび項目の表示ラベルが含まれるかどうかを制御する
ChannelLayout 型で新しい項目 `doesExcludeFieldLabels` および `doesExcludeFiles` を使用します。

動作の変更: ソーシャル、チャット、メッセージングコミュニケーションチャネルの場合、デフォルトで項目の表示ラベルが含まれる
以前は、ソーシャル、チャット、メッセージングチャネルに挿入される記事項目に項目の表示ラベルは含まれていませんでした。この変更により、`doesExcludeFieldLabels` 項目が ChannelLayout に追加されます。デフォルト値は `false` であるため、これらのチャネルの既存の設定に項目の表示ラベルが含まれるようになりました。

ケース管理オプションをカスタマイズする
CaseSettings 型で次の新しい Boolean 項目を使用します。

- `enableEmailContactOnCasePost` — 他のユーザがコミュニティケースに対して外部から参照可能な投稿を行うと、メールでケースの取引先責任者に通知します。
- `enableEscalateQfiToCaseInternal` — 組織で、モデレータが Chatter の質問からケースを作成できるようにします。
- `enableEscalateQfiToCaseNetworks` — Chatter の質問が有効になっているすべてのコミュニティで、モデレータが Chatter の質問からケースを作成できるようにします。
- `enableExtNetworksCaseFeedEnabled` — ケースに関連するメール、コメント、更新をコミュニティメンバーがケースフィードで参照できるようにします。
- `keepCaseMergeRecords` — ケースのマージ後に重複するケースレコードを保持します。
- `visibleInCssCheckbox` — CSS でのケースのデフォルト表示を設定します。

チャネルメニューリリースを作成するための設定ノードを設定する
新しい EmbeddedServiceMenuSettings メタデータ型を使用します。

Einstein Intent セットのエンティティ内でデータ型を定義する
既存の MISlotClass メタデータ型で新しい `dataType` 項目を使用します。

エンドユーザエントリに基づいてナレッジ記事をボットに配信する
既存の BotVersion メタデータ型で新しい `conversationRecordLookup` 項目を使用します。

Analytics

Analytics レシピをリリースおよび取得してカスタムデータセットを作成する
新しい WaveRecipe メタデータ型を使用します。

データフローとその接続先の Analytics アプリケーション名を関連付ける
WaveDataflow 型で新しい `application` 項目を使用します。

Customer 360 データ検証ダッシュボードコネクタを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableC360GlobalProfileData` 項目を使用します。

Data Discovery ライブモデル評価指標の計算を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `canEnableLiveMetrics` 項目を使用します。

Analytics の暗号化を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableAnalyticsEncryption` 項目を使用します。

分析共有を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableAnalyticsSharingEnable` 項目を使用します。

削除: AnalyticsSettings 型の `enableAnalyticsSubtotals` 項目を削除
`enableAnalyticsSubtotals` 項目は API バージョン 48.0 で削除されました。

PDF へのダッシュボードのエクスポートを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableDashboardToPDFEnable` 項目を使用します。

データの組み合わせを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableDataBlending` 項目を使用します。

Firebird エディタを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableFirebirdEditor` 項目を使用します。

Analytics SAQL クエリのグルーピングキーとしての null 値のサポートを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableNullDimension` 項目を使用します。

ライブコネクタのクエリを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableQueryLiveConnectors` 項目を使用します。

削除: AnalyticsSettings 型の enableReportFieldToFieldPref 項目を削除
`enableReportFieldToFieldPref` 項目は API バージョン 48.0 で削除されました。

レポート通知を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableReportNotificationsEnable` 項目を使用します。

削除: AnalyticsSettings 型の enableReportUniqueRowCountPref 項目を削除
`enableReportUniqueRowCountPref` 項目は API バージョン 48.0 で削除されました。

S1 Mobile Analytics の EclairNG グラフを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableS1AnalyticsEclairEnable` 項目を使用します。

レコードアクションのブラウザタブナビゲーションを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableWaveRecordNavigation` 項目を使用します。

商談オブジェクト以外のすべての Salesforce オブジェクトで Analytics 共有継承のメディア表示共有継承を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `inheritSharingForNonOpptyObjects` 項目を使用します。

Salesforce の商談オブジェクトで Analytics 共有継承のメディア表示共有サポートを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `inheritSharingForOpptyObject` 項目を使用します。

null 値のサポートを有効にして、空白の基準の暗黙的なデフォルト値を null にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `replaceBlankMeasuresWithNulls` 項目を使用します。

タイムゾーン機能を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `turnOnTimeZones` 項目を使用します。

大部分のレポートタイプに項目間の絞り込みを適用する
既存の `ReportFilterItem` データ型で新しい `columnToColumn` 項目を使用します。外部オブジェクトを参照するレポートタイプやオブジェクト間のリレーションの「ある」または「ない」外部結合が設定されているレポートタイプでは、項目間の絞り込みはサポートされません。

システムによってリストの項目に割り当てられるインデックス値を表示する
既存の WaveXmdRecordDisplayLookup メタデータ型で新しい `sortIndex` 項目を使用します。

コミュニティ

利用者がデフォルトの利用者かどうかを示す
Audience 型で新しい `isDefaultAudience` 項目を使用します。

B2B 検索の結果のないページを作成する
FlexiPage 型で `FlexiPageType` 項目の新しい `CommNoSearchResultsPage` 値を使用します。

非公開取引先の取引先責任者を参照する
CommunitiesSettings 型で新しい `enableCspContactVisibilityPref` 項目を使用します。

取引先や取引先責任者に関連付けられているメモと添付ファイルにアクセスする
CommunitiesSettings 型で新しい `enableCspNotesOnAccConPref` 項目を使用します。

パートナーユーザを有効にする
CommunitiesSettings 型で新しい `enableEnablePRM` 項目を使用します。

外部取引先階層を有効にする
CommunitiesSettings 型で新しい `enableExternalAccHierPref` 項目を使用します。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を設定する
CommunitiesSettings 型で新しい `enableGuestRecordReassignOrgPref` 項目を使用します。

Chatter にゲストユーザを招待する
CommunitiesSettings 型で新しい `enableInviteChatterGuestEnabled` 項目を使用します。(廃止)。

エクスペリエンスワークスペースを有効にする
CommunitiesSettings 型で新しい `enableCommunityWorkspaces` 項目を使用します。

コミュニティの外部ユーザがレポートを実行できるようにする
CommunitiesSettings 型で新しい `enableNetPortalUserReportOpts` 項目を使用します。

コミュニティを有効にする
CommunitiesSettings **型で新しい** `enableNetworksEnabled` **項目を使用します。**

セルフ登録およびユーザ作成で標準外部プロファイルを使用する
CommunitiesSettings **型で新しい** `enableOotbProfExtUserOpsEnable` **項目を使用します。**

Customer Community Plus ユーザとしてケース状況を変更する
CommunitiesSettings **型で新しい** `enablePowerCustomerCaseStatus` **項目を使用します。**

取引先リレーションおよび取引先リレーションデータ共有ルールの設定オプションにアクセスする
CommunitiesSettings **型で新しい** `enablePRMAccRelPref` **項目を使用します。**

商談およびリードの [パートナー取引先] 項目の編集を許可する
CommunitiesSettings **型で新しい** `enableRelaxPartnerAccountFieldPref` **項目を使用します。**

コミュニティでサポートされていないブラウザの警告を表示する
CommunitiesSettings **型で新しい** `enableUnsupportedBrowserModalPref` **項目を使用します。**

ユーザ名の一意性を組織レベルに含める
CommunitiesSettings **型で新しい** `enableUsernameUniqForOrgPref` **項目を使用します。**

Chatter

ケースフィード項目のタイムスタンプの形式を相対時間または絶対時間に設定する
ChatterSettings **型で新しい** `enableCaseFeedRelativeTimestamps` **項目を使用します。**

削除: ChatterSettings 型の `allowSharingInChatterGroup` 項目を削除
`allowSharingInChatterGroup` **項目は組織では無効です。**

ファイル

ファイルの設定を行う
新しい ContentSettings **メタデータ型を使用します。**

カスタマイズ

外部オブジェクトの関連リストが非同期に読み込まれるかどうかを示す
UserInterfaceSettings **型で新しい** `enableExternalObjectAsyncRelatedLists` **項目を使用します。** Salesforce Classic **のみ**

標準オブジェクトのローカルネームを定義できるかどうかを示す
LanguageSettings **型で新しい** `enableLocalNamesForStdObjects` **項目を使用します。**

参照項目やシステム項目でレコードの名前を表示するためにユーザにレコードへの参照アクセス権が必要かどうかを示す
SharingSettings **型で新しい** `enableRestrictAccessLookupRecords` **項目を使用します。**

プロファイルを使用して特定のカスタム設定へのアクセス権を付与する
Profile **型で新しい** `customSettingAccesses` **項目を使用します。**

権限セットを使用して特定のカスタム設定へのアクセス権を付与する
PermissionSet **型で新しい** `customSettingAccesses` **項目を使用します。**

アプリケーション内ガイダンス

ドッキングプロンプトに動画を含める

Prompt 型で `videoLink` 項目を使用して、動画を追加します。

プロファイルでプロンプトを絞り込む

Prompt 型で `userProfileAccess` 項目を使用して、特定のプロファイルにプロンプトを表示します。これを反映して `leftValue` および `rightValue` 項目も更新されました。

1 つのプロンプトのグローバル遅延時間を無視する

Prompt 型で `shouldIgnoreGlobalDelay` 項目を使用して、特定のプロンプトでプロンプト間のグローバル遅延を無視します。

翻訳されたプロンプトの表示ラベルを整理する

Translations 型で新しい `prompt` 項目を使用します。

動作の変更: ユーザ権限とプロンプトの表示

特定の権限でのみ表示されるプロンプトを見るのに「設定・定義を参照する」権限は必要なくなりました。

Lightning フロー

レコードの作成時または更新時にフローを起動する

`triggerType` 項目の新しい `RecordBeforeSave` 列挙を使用し、Flow 型の新しい `recordTriggerType` 項目の列挙 `Create`、`Update`、または `CreateAndUpdate` を指定します。詳細は、「フロー内の保存前更新を使用した新規レコードと変更されたレコードの 10 倍速い更新」 (ページ 435)を参照してください。

注文管理のフローを実装する (Salesforce 注文管理が有効になっている組織)

フローで `actionType` 項目の注文管理の新しい列挙を使用します。

- `cancelFulfillmentOrderItem`
- `cancelOrderItemSummariesPreview`
- `cancelOrderItemSummariesSubmit`
- `createCreditMemoOrderSummary`
- `createFulfillmentOrder`
- `createInvoiceFromFulfillmentOrder`
- `createOrderPaymentSummary`
- `createOrderSummary`
- `ensureFundsOrderSummaryAsync`
- `ensureRefundsOrderSummaryAsync`
- `returnOrderItemSummariesPreview`
- `returnOrderItemSummariesSubmit`

変数と出力が自動的に処理されることを示唆

Flow の FlowRecordCreate サブタイプと FlowActionCall サブタイプで新しい `storeOutputAutomatically` 項目を使用します。

汎用 sObject の入力または出力を特定のオブジェクトに対応付ける

Flow の FlowActionCall サブタイプで新しい `FlowDataTypeMapping` 項目を使用します。

フローを実行するコンテキストを設定する
Flow の FlowVersionView サブタイプで新しい `runInMode` 項目を使用します。

セキュリティ、プライバシー、ID

他の検証方法を登録したユーザではメールによる ID 検証を防止する
SecuritySettings 型の SessionSettings サブタイプで新しい `canConfirmIdentityBySmsOnly` 項目を使用します。

シングルログアウト中に選択した署名要求メソッド (RSM) を適用する
SamlSsoConfig 型で新しい `useConfigRequestMethod` 項目を使用します。

Salesforce API への外部ユーザのアクセスを制限する
ConnectedAppSettings 型で新しい `enableAdminApprovedAppsOnlyForExternalUser` 項目を使用します。

Apple をサードパーティ認証プロバイダとして選択する
AuthProvider 型で既存の `providerType` 項目の新しい `Apple` 値を使用します。

ID ファーストログイン環境を提供する
新しい MyDomainDiscoverableLogin 型を使用します。

警告メッセージが表示されずにユーザが移動することが可能な信頼できる URL をホワイトリストに登録する
新しい RedirectWhitelistUrl メタデータ型を使用します。

開発

削除: OrgPreferenceSettings メタデータ型を削除
OrgPreferenceSettings 型は、API バージョン 47.0 で廃止され、API バージョン 48.0 以降で削除されます。代わりに、有効または無効にする機能に適した Settings 型を使用します。詳細や、すべての使用可能な型のリストは、『*メタデータ API 開発者ガイド*』の「*設定*」を参照してください。OrgPreferenceSettings リファレンストピックも参照してください。このトピックには、各 `preferences` 項目値から別の Settings 型の新しい場所へのリンクもあります。

開発者ハブ (Dev Hub) と、ロック解除済みパッケージおよび第二世代管理パッケージを有効化する
新しい DevHubSettings メタデータ型は、API バージョン 47.0 で導入され、『*メタデータ API 開発者ガイド*』に追加されました。

Apex 型の表示ルールが `Type.newInstance` メソッドで厳密に適用されるかどうかを示す
ApexSettings メタデータ型で新しい `enableSecureNoArgConstructorPref` 項目を使用します。

権限セットを使用して特定のカスタム設定へのアクセス権を付与する
PermissionSet 型で新しい `customSettingsAccesses` 項目を使用します。

プロファイルを使用して特定のカスタム設定へのアクセス権を付与する
Profile 型で新しい `customSettingsAccesses` 項目を使用します。

Lightning Web コンポーネントの機能を示す
LightningComponentBundle 型で新しい `capabilities` 項目を使用します。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックを有効にする
LightningExperienceSettings 型で新しい `enableAuraDepAccessChksCRUCPref` 項目を使用します。これは、重要な更新「Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化」に対応します。この項目により、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルがチェックされるようになり、Lightning コ

ンポーネントのアクセス権チェックが改善されます。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。

Lightning コンポーネントで信頼済みサイトから読み込むことができるリソースを指定する
既存の CspTrustedSite メタデータ型で新しい `isApplicableToConnectSrc`、`isApplicableToFrameSrc`、`isApplicableToImgSrc`、`isApplicableToStyleSrc`、`isApplicableToFontSrc`、`isApplicableToMediaSrc` 項目を使用します。

動作の変更: DeployMessage のアクセスルールを変更
認証済みユーザのみが DeployMessage (DeployResult の子) にアクセスできます。

Salesforce CMS

URL、日付、日時をノードでサポートされるコンテンツタイプとして識別する
ManagedContentType メタデータ型で既存の `nodeType` 項目の新しい `URL`、`DATE`、`DATETIME` 値のいずれかを使用します。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。Salesforce CLI の v48 に対する最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

このセクションの内容:

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール
CLIのプレリリースバージョンをインストールしている場合、今後は更新されません。リリースされたバージョンがインストールされるように、アンインストールして CLI を更新してください。

新規または変更された CLI コマンド
Salesforce CLI v48 に対する更新は次のとおりです。ただし、CLI の変更は定期的にリリースされます。Salesforce CLI コマンドの v48 に対する更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール

CLIのプレリリースバージョンをインストールしている場合、今後は更新されません。リリースされたバージョンがインストールされるように、アンインストールして CLI を更新してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法:

プレリリースバージョンをアンインストールしてリリースされたバージョンに更新します。

```
sfdx plugins:uninstall salesforcedx
sfdx update
```

新規または変更された CLI コマンド

Salesforce CLI v48 に対する更新は次のとおりです。ただし、CLI の変更は定期的にリリースされます。Salesforce CLI コマンドの v48 に対する更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

新しいコマンド

`force:analytics:template:create`
指定されたディレクトリでシンプルな Analytics テンプレートを作成できます。

`force:community:create`
テンプレートを使用してコミュニティを作成します。

`force:community:publish`
Lightning コミュニティを公開してライブ状態にします。公開するたびに、最新の更新でライブコミュニティを更新します。

`force:community:template:list`
コミュニティを作成するために組織で使用できるテンプレートのリストを取得します。

変更されたコマンド

`force:package:version:list`、`force:package:version:report`
パッケージバージョンでコードカバー率を渡しているかどうか、およびコードカバー率のパーセンテージを示す列が表示されます。また、上位のパッケージバージョンの上位 ID および上位バージョン番号を示す列も追加されました。上位 ID およびバージョン番号は、Spring '20 以降で作成されたパッケージバージョンで表示されます。

`force:project:create`
`S1DesktopEnabled` 設定は、スクラッチ組織を作成したときに自動的に有効になります。プロジェクトを作成するときのスクラッチ組織定義ファイルのサンプルからこの設定は削除されました。

新しいパラメータ

`force:package:version:create --skipvalidation`
パッケージバージョンの作成中に検証をスキップします。検証をスキップするとパッケージバージョンの作成にかかる時間が短縮されますが、検証なしで作成されたパッケージバージョンは昇格できません。

`force:source:delete --checkonly`
メタデータを削除せずにソースが追跡されない組織でテストリリース (検証) を実行します。検証に合格したら、このコマンドを使用してメタデータを安全に削除できます。

変更されたパラメータ

`salesforcedx` の毎週のリリースで、以下のパラメータが `force:source:convert` コマンドと `force:mdapi:convert` コマンドに追加されました。

`-x | --manifest`
変換するメタデータ種別を指定するマニフェスト (`package.xml`) ファイルへの完全なパスを指定します。

`-m | --metadata`
変換するメタデータコンポーネント名のカンマ区切りリストを指定します。

-p | --sourcepath
変換するローカルソースファイルへのパスのカンマ区切りリストを指定します。

廃止されたパラメータ

`--apiversion` パラメータの短縮形 `-a` が削除されました。次のコマンドが影響を受けました。

force:apex:class:create

force:apex:trigger:create

force:lightning:app:create

force:lightning:component:create

force:lightning:event:create

force:lightning:interface:create

force:visualforce:component:create

force:visualforce:page:create

関連トピック:

- プログラムによるスクラッチ組織でのコミュニティの作成および公開
- パッケージ開発をすばやく反復するための検証のスキップ
- リストおよびレポートの Salesforce CLI コマンドでのパッケージの詳細の表示内容の増加
- Salesforce CLI: オートコンプリート、拡張 DX テンプレート、進行状況バー

Quip: 関連リスト、管理者インサイト、絞り込まれた Salesforce レポート、新しい Quip プロセスビルダーおよび Flow Builder アクション、簡素化された設定など

従来よりも迅速に Salesforce 組織を Quip に接続できます。絞り込まれたレポートを Quip に追加して、Salesforce レコードに埋め込んで動的に絞り込むことができます。プロセスビルダーと Flow Builder で新しい Quip アクションを使用してビジネスワークフローを自動化できます。更新された Salesforce リストライブアプリケーションを使用して、関連 Salesforce リストを表示して編集できます。

このセクションの内容:

- Quip 文書への関連リストのインポート
  更新された Salesforce リストライブアプリケーションを使用して、レコード固有の関連リストを Quip 文書に追加できます。埋め込み Quip 文書は、埋め込まれたレコードの関連リストを動的に抽出するため、ユーザの時間を節約できます。ユーザはインライン編集、コメント、Salesforce との双方向同期を使用して、取引およびケースを簡単に把握できます。

Quip for Customer 360 の使用状況に関するインサイトの取得

Quip 管理コンソールの新しい Quip for Customer 360 インサイトダッシュボードを使用してユーザ採用を測定できます。データを使用して Quip での Salesforce インテグレーションのエンゲージメントを追跡し、Quip for Customer 360 ライセンスを最大限に活用できます。

Quip からのライブ Salesforce レポートの動的な絞り込み

レポートのカスタム検索条件を使用して、Quip でライブ Salesforce レポートを絞り込むことができます。Quip 文書から標準テンプレートを作成し、Quip 文書コンポーネントを使用する Salesforce レコードに追加できます。埋め込み Quip 文書に追加されたレポートは、レコードのデータに基づいて動的に絞り込まれます。

Quip での集計された Salesforce レポートの取得

Quip でレポートの詳細行を非表示にして、レポートのパフォーマンスを高めてグルーピング、総計、小計、レコード件数などの重要な詳細に集中できます。サマリービューを使用してレポートの概要を取得し、身動きが取れなくなることなくコラボレーションを簡単に実現できます。

動的ライブアプリケーションを使用した Quip テンプレートの最新状態の維持

Salesforce ライブアプリケーションを Salesforce レコードに組み込まれた Quip 文書に追加できます。レコードのデータに基づいて自動的に更新されるように設定します。

新しい Quip プロセスおよび Flow Builder アクションを使用したワークフローの自動化

権限の異なるユーザを Quip 文書に追加できます。文書の編集をロックし、文書を完了とマークできます。Quip テンプレートからコメントをコピーし、アノテーションを重視できます。文書からメンバーを削除、またはフォルダから文書を削除するプロセスをトリガできます。テキスト検出を使用して文書のセクションを自動的に編集できます。

Quip 関連文書コンポーネントになった Quip コンポーネント

Quip Lightning コンポーネントの名前が Quip 関連文書コンポーネントに変更されました。また、新機能も追加されました。Quip 関連文書コンポーネントをページレイアウトに追加し、ユーザがレコードおよびその関連レコードにリンクされた文書に簡単にアクセスできるようにできます。

Salesforce での既成の Quip テンプレートの使用

Quip テンプレートを使用してコピー&ペーストにかかる時間を節約します。方法をご存じなくても、Lightning アプリケーションビルダーから直接既成の Quip テンプレートを追加できるようになりました。

関連レコードにリンクされた Quip 文書の表示

リンクされた文書および関連レコードにリンクされた文書に 1 か所からアクセスできます。新しい Quip 関連文書コンポーネントを使用して、アカウントにリンクされたすべての文書を表示できるため、ユーザは適切なタイミングで適切な文書を見つけることができます。

複数の SSO を使用した Quip へのログイン

複数の Salesforce 組織に属すユーザが複数のシングルサインオン (SSO) を使用して Quip サイトにログインできるようになったため、時間を節約し、生産性を高めることができます。

再接続せずに Salesforce ライブアプリケーションを使用

ユーザが Salesforce 組織を Quip に接続したら、再接続することなくライブ Salesforce データを Quip 文書に追加できます。各ライブアプリケーションに個別にログインする必要はもうありません。複数の Salesforce 組織を 1 つの Quip サイトに接続して、コンテキスト内でクロスクラウドコラボレーションの維持を簡単にすることもできます。

Quip for Salesforce の設定手順の簡略化

Quip を Salesforce に接続するためのステップが少なくなりました。個別のサイトに移動して接続アプリケーションをダウンロードする必要はもうありません。わずか数クリックで既存の Quip サイトを Salesforce に接続したり、Quip 設定ページから無料トライアルを開始したりできるようになりました。

Salesforce レコードへの Quip スライドの追加

Quip スライドを Salesforce レコードに添付して、チームがより効率的にコラボレーションを実現できるようにします。ユーザはスライドデッキを Salesforce レコードにリンクして、同僚や見込み客と共有できます。テンプレートの設定、ユーザアクセスの制御、さらにはリンクされたスライドの参照もモバイルでできます。

差し込み印刷の参照項目の上限の撤廃

ビジネスに合わせて Quip テンプレートをさらにカスタマイズできるように、テンプレートあたり 20 件の参照項目の上限が撤廃されました。

[ファイル] タブからの Quip 文書でのリッチテキスト編集の使用

Salesforce を離れることなく、[ファイル] タブから Quip 文書を参照して編集できます。

Quip 文書への関連リストのインポート

更新された Salesforce リストライブアプリケーションを使用して、レコード固有の関連リストを Quip 文書に追加できます。埋め込み Quip 文書は、埋め込まれたレコードの関連リストを動的に抽出するため、ユーザの時間を節約できます。ユーザはインライン編集、コメント、Salesforce との双方向同期を使用して、取引およびケースを簡単に把握できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Quip 文書への関連リストの追加は 2020 年 2 月からです。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: Quip 文書で Salesforce リストを @メンションし、[関連リスト] を選択して開始します。

Quip for Customer 360 の使用状況に関するインサイトの取得

Quip 管理コンソールの新しい Quip for Customer 360 インサイトダッシュボードを使用してユーザ採用を測定できます。データを使用して Quip での Salesforce インテグレーションのエンゲージメントを追跡し、Quip for Customer 360 ライセンスを最大限に活用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce インテグレーションに関するインサイトの取得は 2020 年 2 月 25 日からです。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: Salesforce インテグレーションを使用して Quip 文書を開いた有効なユーザの数を定量化します。Salesforce レコードにリンクされているか、Salesforce ライブアプリケーションおよびライブレポートが組み込まれている Quip 文書の数を確認します。

方法: Quip 管理コンソールにログインします。[インサイト] で **[Salesforce]** をクリックします。

Quip からのライブ Salesforce レポートの動的な絞り込み

レポートのカスタム検索条件を使用して、Quip でライブ Salesforce レポートを絞り込むことができます。Quip 文書から標準テンプレートを作成し、Quip 文書コンポーネントを使用する Salesforce レコードに追加できます。埋め込み Quip 文書に追加されたレポートは、レコードのデータに基づいて動的に絞り込まれます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Quip でレポートを絞り込めるようになるのは 2020 年 2 月からです。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: ユーザ、地域などに基づいてレポートを自動的に絞り込み、マスターレポートを各個人に合わせて調整するのにかかる時間を節約します。Quip 文書と Salesforce レポートをレコードに埋め込むと、そのレコードに基づいて自動的に絞り込まれます。

方法: レコードに基づいてレポートを動的に絞り込むには、Quip 文書コンポーネントをレコードページレイアウトに追加しておく必要があります。

シンプルな @Salesforce Report を使用して、ライブ Salesforce レポートを Quip 文書にインポートします。動的な絞り込みを有効にするには、**[Salesforce** レコードに基づいてレポート検索条件を再適用**]** チェックボックスをオンにします。

Quip での集計された Salesforce レポートの取得

Quip でレポートの詳細行を非表示にして、レポートのパフォーマンスを高めてグルーピング、総計、小計、レコード件数などの重要な詳細に集中できます。サマリービューを使用してレポートの概要を取得し、身動きが取れなくなることなくコラボレーションを簡単に実現できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Quip での集計されたレポートのインポートは 2020 年 2 月からです。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: Salesforce レポートを @メンションし、**[詳細行を非表示]** チェックボックスをクリックします。

動的ライブアプリケーションを使用した Quip テンプレートの最新状態の維持

Salesforce ライブアプリケーションを Salesforce レコードに組み込まれた Quip 文書に追加できます。レコードのデータに基づいて自動的に更新されるように設定します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 動的ライブアプリケーションの Quip テンプレートへの追加は 2020 年 2 月からです。動的 Salesforce レコードライブアプリケーションは 2 月末までに使用できるようになります。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: Salesforce 関連リストを取引先に組み込まれた Quip テンプレートに追加すれば、その取引先に関連する商談を確認できます。Quip テンプレートを設定するときにオブジェクトに応じて目的の出力を設定できます。

新しい Quip プロセスおよび Flow Builder アクションを使用したワークフローの自動化

権限の異なるユーザを Quip 文書に追加できます。文書の編集をロックし、文書を完了とマークできます。Quip テンプレートからコメントをコピーし、アノテーションを重視できます。文書からメンバーを削除、またはフォルダから文書を削除するプロセスをトリガできます。テキスト検出を使用して文書のセクションを自動的に編集できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

このセクションの内容:

Quip 文書へのアクセスレベルの異なるユーザの追加
プロセスビルダーを使用して、Quip 文書を権限の異なるユーザと自動的に共有できます。コメントアクセス権を持つユーザからフィードバックを取得したり、編集またはフルアクセスユーザと文書でコラボレーションを実現できます。

編集のロックを使用して文書を完了とマーク
契約書などの機密性の高い文書に対する編集を最終処理するプロセスをトリガできます。編集をロックまたはロック解除できるのは Quip 文書へのフルアクセス権限を持つユーザのみです。

Quip テンプレートへのライブアプリケーションの追加
最新の Salesforce データを使用してテンプレートを自動的に最新に保つことができます。プロセスビルダーと Flow Builder を使用して、ライブ Salesforce レコードおよびリストビューを Quip 文書に追加できるようになりました。

テキスト検出を使用したコピーされた文書の更新
プロセスビルダーを使用して文書の更新を自動化できます。テキスト検出を使用してテンプレートからコピーされた文書を更新できるようになりました。最新の Salesforce データを使用してアカウントプランを最新に保ち、コピーされた文書のセクションを大規模に更新できます。

Quip コンテンツを共有するタイミングと場所の制御
Tier 3 エスカレーションまたは不成立になりそうな取引がある場合、部門を超えたコラボレーションで業務を完了します。しかし、業務を完了した後に何が起こるでしょうか。文書からユーザを自動的に削除、またはフォルダから文書を自動的に削除するプロセスをトリガして、通常どおりに業務を進めることができます。

Quip テンプレートからのコメントのコピー
テンプレートのコピー元文書から新規作成したコピー先文書にコメントをコピーして、アノテーションを常に重視します。

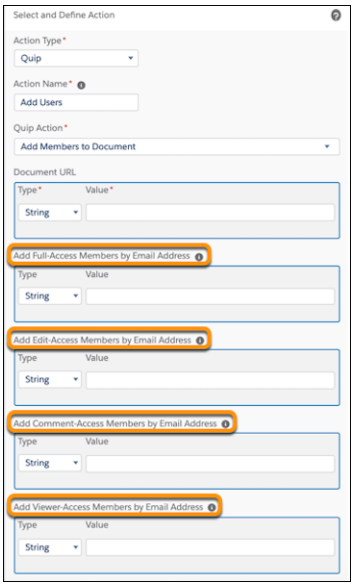
Quip 文書へのアクセスレベルの異なるユーザの追加

プロセスビルダーを使用して、Quip 文書を権限の異なるユーザと自動的に共有できます。コメントアクセス権を持つユーザからフィードバックを取得したり、編集またはフルアクセスユーザと文書でコラボレーションを実現できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*プロセスビルダー*」と入力します。ユーザアクセスレベルは [メンバーを文書に追加] Quip アクションから定義できます。



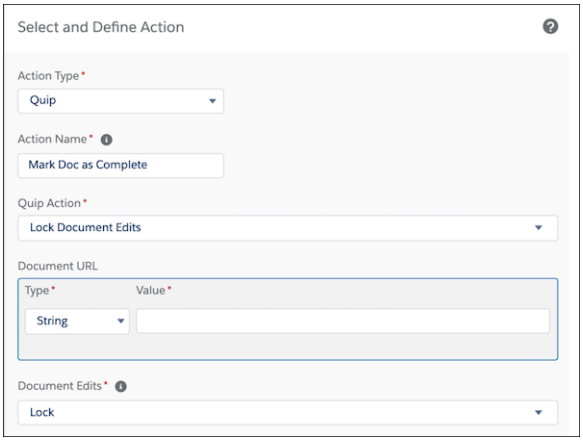
編集のロックを使用して文書を完了とマーク

契約書などの機密性の高い文書に対する編集を最終処理するプロセスをトリガできます。編集をロックまたはロック解除できるのは Quip 文書へのフルアクセス権限を持つユーザのみです。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*プロセスビルダー*」と入力します。アクション種別の [Quip] で、[文書の編集をロック] を選択します。

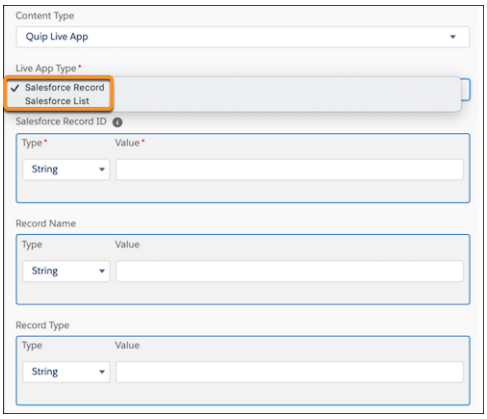


Quip テンプレートへのライブアプリケーションの追加

最新の Salesforce データを使用してテンプレートを自動的に最新に保つことができます。プロセスビルダーと Flow Builder を使用して、ライブ Salesforce レコードおよびリストビューを Quip 文書に追加できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。



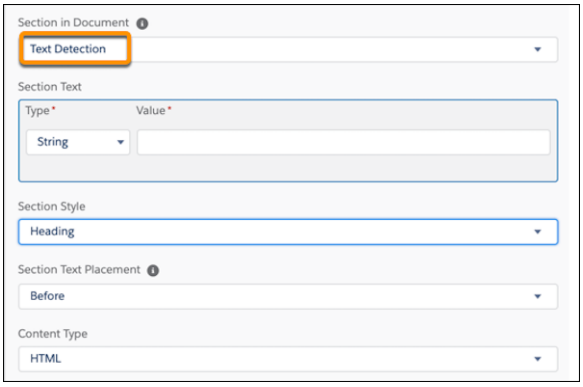
テキスト検出を使用したコピーされた文書の更新

プロセスビルダーを使用して文書の更新を自動化できます。テキスト検出を使用してテンプレートからコピーされた文書を更新できるようになりました。最新の Salesforce データを使用してアカウントプランを最新に保ち、コピーされた文書のセクションを大規模に更新できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*プロセスビルダー*」と入力します。アクション種別の [Quip] で、[文書を編集] を選択します。[文書のセクション] で、[テキスト検出] を選択してアンカーリンクではなくセクションテキストに基づいて新しいコンテンツを追加します。



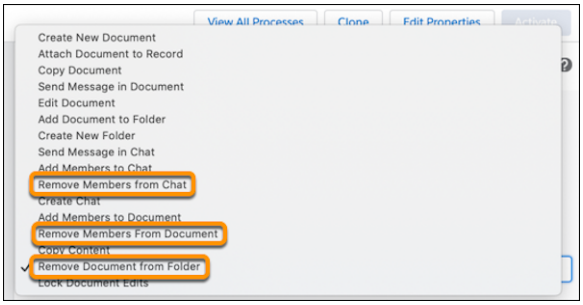
Quip コンテンツを共有するタイミングと場所の制御

Tier 3 エスカレーションまたは不成立になりそうな取引がある場合、部門を超えたコラボレーションで業務を完了します。しかし、業務を完了した後に何が起こるでしょうか。文書からユーザを自動的に削除、またはフォルダから文書を自動的に削除するプロセスをトリガして、通常どおりに業務を進めることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: コラボレーションが終了したときに文書からユーザを削除します。共有文書を再び非公開にします。



Quip テンプレートからのコメントのコピー

テンプレートのコピー元文書から新規作成したコピー先文書にコメントをコピーして、アノテーションを常に重視します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

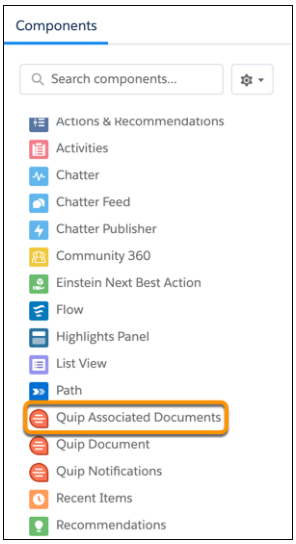
理由: Quip 文書は実務を標準化するためのテンプレートとして使用できます。重要なメモを忘れないように、コメントをテンプレート化した文書からコピーできるようになりました。

Quip 関連文書コンポーネントになった Quip コンポーネント

Quip Lightning コンポーネントの名前が Quip 関連文書コンポーネントに変更されました。また、新機能も追加されました。Quip 関連文書コンポーネントをページレイアウトに追加し、ユーザがレコードおよびその関連レコードにリンクされた文書に簡単にアクセスできるようにできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。



Salesforce での既成の Quip テンプレートの使用

Quip テンプレートを使用してコピー & ペーストにかかる時間を節約します。方法をご存じなくても、Lightning アプリケーションビルダーから直接既成の Quip テンプレートを追加できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、Quip 文書コンポーネントを設定するときに [詳細はこちら] をクリックし、既成のテンプレートのギャラリーを表示します。https://quip.com/templates にアクセスすることもできます。

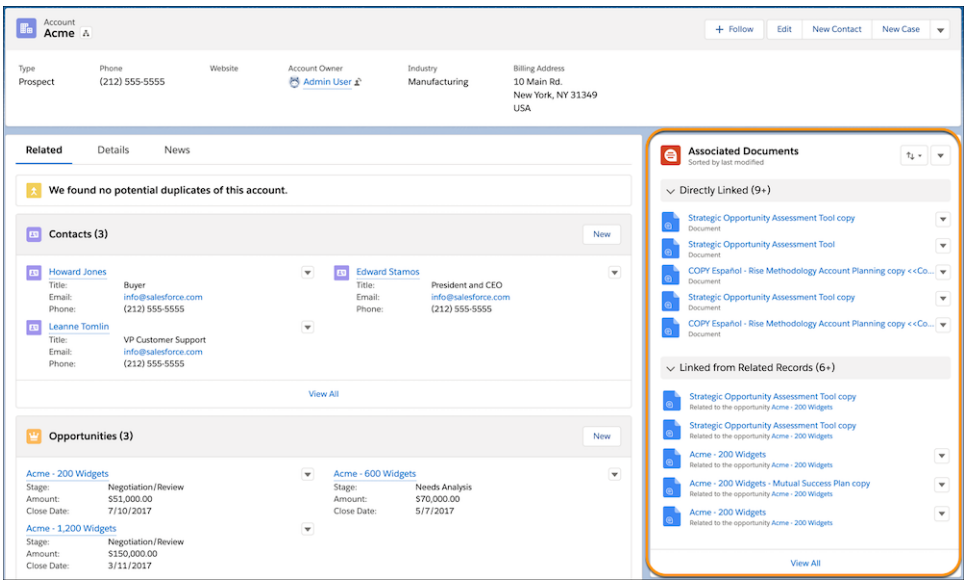
関連レコードにリンクされた Quip 文書の表示

リンクされた文書および関連レコードにリンクされた文書に 1 か所からアクセスできます。新しい Quip 関連文書コンポーネントを使用して、アカウントにリンクされたすべての文書を表示できるため、ユーザは適切なタイミングで適切な文書を見つけることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: 子アカウントにリンクされた文書はなくなりやすく、時間が無駄になったり、重複した文書が作成されたり、ユーザをいらつかせたりすることがあります。新しい関連文書コンポーネントにより、最も関連性の高い文書が表示されるだけでなく、レコードの名前に基づいてスマートな文書の提案も行われます。



方法: コンポーネントを追加するには、Lightning アプリケーションビルダーに移動します。[コンポーネントを検索] で、*「Quip 関連文書」*と入力し、コンポーネントをページレイアウトにドラッグします。

複数の SSO を使用した Quip へのログイン

複数の Salesforce 組織に属すユーザが複数のシングルサインオン (SSO) を使用して Quip サイトにログインできるようになったため、時間を節約し、生産性を高めることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

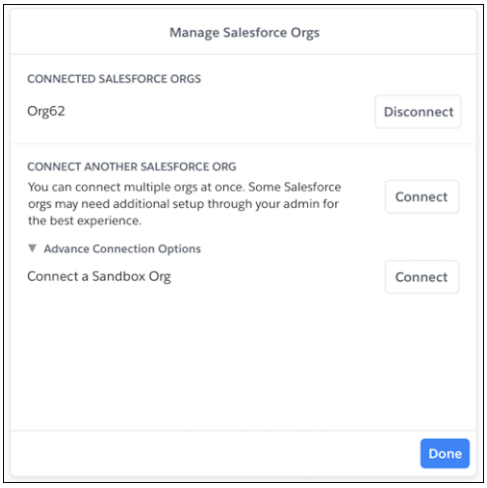
再接続せずに Salesforce ライブアプリケーションを使用

ユーザが Salesforce 組織を Quip に接続したら、再接続することなくライブ Salesforce データを Quip 文書に追加できます。各ライブアプリケーションに個別にログインする必要はもうありません。複数の Salesforce 組織を 1 つの Quip サイトに接続して、コンテキスト内でクロスクラウドコラボレーションの維持を簡単にすることもできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Quip でのライブアプリケーションのシームレスな使用は 2020 年 2 月後半からです。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。



Quip for Salesforce の設定手順の簡略化

Quip を Salesforce に接続するためのステップが少なくなりました。個別のサイトに移動して接続アプリケーションをダウンロードする必要はもうありません。わずか数クリックで既存の Quip サイトを Salesforce に接続したり、Quip 設定ページから無料トライアルを開始したりできるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「`Quip`」と入力し、新しいシンプルになった手順に従います。

Salesforce レコードへの Quip スライドの追加

Quip スライドを Salesforce レコードに添付して、チームがより効率的にコラボレーションを実現できるようにします。ユーザはスライドデッキを Salesforce レコードにリンクして、同僚や見込み客と共有できます。テンプレートの設定、ユーザアクセスの制御、さらにはリンクされたスライドの参照もモバイルでできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

差し込み印刷の参照項目の上限の撤廃

ビジネスに合わせて Quip テンプレートをさらにカスタマイズできるように、テンプレートあたり 20 件の参照項目の上限が撤廃されました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

[ファイル] タブからの Quip 文書でのリッチテキスト編集の使用

Salesforce を離れることなく、[ファイル] タブから Quip 文書を参照して編集できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

マーケティング: Datorama データレイク、Einstein メッセージングインサイト、Instagram モバイルストーリーの公開

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- 2020 年 1 月リリース
- 2019 年 10 月リリース
- 2019 年 8 月リリース
- 2019 年 6 月リリース
- 2019 年 4 月リリース
- 2019 年 1 月リリース

関連トピック:

Marketing Cloud の概要
Marketing Cloud: 以前のリリースノート
Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

重要な更新とセキュリティアラート

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。これらの更新は、Spring '20 に重要な更新コンソールで使用できます。[セキュリティアラート] ページの更新と、以前にリリース済みで、新しく適用された重要な更新も確認してください。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、各更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は Salesforce により永久に有効化されます。詳細は、「重要な更新への対応」を参照してください。

[設定] の [セキュリティアラート] ページには、組織に影響するセキュリティアラートのリストがあります。各アラートには、組織で実行するアクションに関するステップバイステップの推奨事項が記載されています。

新しい重要な更新

Spring '20 の新しい重要な更新を次に示します。

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (重要な更新)
この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードにアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮重要な更新 (重要な更新)
この重要な更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (重要な更新)
Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。Summer '20 以降、このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の参照」権限が必要になります。この重要な更新は、[作成者] や [最終更新者] などのシステム項目にも適用されます。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションの有効化 (重要な更新)
この更新により、すべてのモバイルユーザが新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードされます。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (重要な更新) (ページ 543)
この重要な更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

非グローバルコントローラコンストラクタへのリフレクティブアクセスの制限 (重要な更新)
この重要な更新を有効にすると、API バージョンに関係なく、`Type.newInstance` を実行するコードに表示される非引数コンストラクタを含む Apex クラスのみを開始できます。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新)
組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

セキュアな HTTPS 接続の必須化 (重要な更新)
Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[セッションの設定] ページから HTTPS 接続を無効にできる [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が削除されます。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

以前にリリース済みの重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新を依然として利用できます。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (以前にリリース済みの重要な更新)

`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は Winter '19 で最初に使用可能になりました。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (以前にリリース済みの重要な更新)

[私のドメイン] に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この重要な更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)

セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行 (以前にリリース済みの重要な更新)

Salesforce の拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成できなくなりました。従来のフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの重要な更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。この重要な更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (以前にリリース済みの重要な更新)

この重要な更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。この重要な更新を有効化すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。この重要な更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

適用済みの重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新が適用されます。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート

Salesforce は、まだ有効にしていないすべての組織で Lightning Experience を有効にします。Lightning Experience の有効化 (重要な更新) は、2020 年 1 月 7 日に有効化が開始されます。組織はローリング方式で有効化され、2020 年 1 月 31 日までにはすべての組織が有効化される予定です。Lightning Experience を有効にした後も、ユーザは Salesforce Classic にアクセスできます。ただし、ビジネスの成長を促進し、生産性を高めるには、すべてのユーザが Lightning Experience を使用することをお勧めします。準備を行うには、組織の既存の機能とカスタマイズを新しいインターフェースで検証し、変更管理のベストプラクティスに従ってユーザの準備を整えます。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新、適用済み)

「エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化」は、Spring '19 の重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コード

が `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)

「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Spring '20 で適用されます。「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。この制限はすでに他の Salesforce 機能に適用されていますが、この重要な更新では Lightning Out に制限が適用されます。

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新の一部として、保護されていないカスタムメタデータ型を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新の一部として、保護されていないカスタム設定を参照する「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザのアクセスは無効になります。Salesforce が提供する異なる API を使用して、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザは保護されていないカスタム設定を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、このアクセスが無効になります。

アクション & おすすめリリースを必須にする (重要な更新、適用済み)

この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスの Lightning フローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントの ToDo リストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。「アクション & おすすめリリースを必須にする」は、Winter '20 では重要な更新であり、Spring '20 で適用されます。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新、適用済み)

「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は、Spring '19 では重要な更新であり、2020 年 2 月 18 日の Spring '20 で適用されます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新、適用済み)

「呼び出し可能なアクションの部分的保存の有効化」は、Winter '20 では重要な更新であり、2020 年 4 月 9 日の Spring '20 で適用されます。この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

自動項目更新によるメール通知の抑制の防止 (重要な更新、適用済み)

「自動項目更新によるメール通知の抑制の停止」は、Summer '17 の重要な更新であり、2020 年 3 月 1 日の Spring '20 で適用されます。ユーザへの ToDo の割り当てなどのさまざまな操作で、影響されるユーザにメールで通知することを選択できます。この更新では、プロセス、ワークフロールール、Apex トリガによってメール通知が抑制されることが防止されます。

セルフ登録およびユーザの作成での標準外部プロファイルの使用禁止 (セキュリティアラートおよび重要な更新、適用)

この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

延期された重要な更新

重要な更新「管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新、延期)

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この重要な更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の重要な更新を有効にしていない限り、この重要な更新は表示されません。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新、延期)

この重要な更新は Summer '20 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化される予定でした。この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この重要な更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

廃止された重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新は廃止されました。これらは重要な更新コンソールから削除されており、有効化されません。

プロセスおよびフローの数式からの有効な HTML 出力の生成 (重要な更新、廃止)

この重要な更新は Spring '20 でリリースされ、廃止されました。使用可能だった短期間内にこの重要な更新を有効化した場合にのみ、Salesforce 組織にこの変更が影響します。また、この重要な更新に備えて数式の HTML を変更した場合、この廃止が組織に影響します。

新しいセキュリティアラート

Spring '20 の新しいセキュリティアラートは次のとおりです。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする重要な更新に関連しています。

以前にリリース済みのセキュリティアラート

以前のリリースで次のセキュリティアラートが発表されています。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

適用済みのセキュリティアラート

以前のリリースで発表された次のセキュリティアラートが適用されます。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (セキュリティアラート、適用済み)

2020 年 3 月 1 日、Salesforce データの安全性を高めるために、このセキュリティアラートですべての組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が自動的に有効になります。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック(セキュリティアラートおよび重要な更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

関連トピック:

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

コンテンツへのスポットライト

Salesforce アプリケーション内コンテンツ、Lightning Experience への移行のヒント、新しい技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブ、Sustainability Cloud について説明します。Trailhead のモジュールとプロジェクトが追加され、手順動画が更新されました。 また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーが一覧表示された新しいドキュメントが導入されました。独自のアプリケーション内ガイダンスプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、同じ情報が重複しないようにするために使用してください。

Lightning Experience への移行時にヒントを確認

Salesforce のデータおよびビジネスに欠かせないカスタマイズを Lightning Experience の機能と統合するためのヒントとベストプラクティスのコレクション。一般的な問題や途方に暮れるような問題を回避する方法を確認できます。

技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブを使用して Salesforce を最大限に活用

新しい技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブには、パフォーマンスに関連するすべての情報が一元管理されています。推奨されるハードウェア、Salesforce 組織のパフォーマンスを測定および改善する方法を確認できます。

Sustainability Cloud での二酸化炭素排出量の削減および報告

Salesforce Sustainability Cloud が導入されました。Sustainability Cloud ではグローバルな排出係数を使用して温室効果ガス排出量を計算するため、組織のビジネス活動全体を通じたエネルギー使用量および温室効果ガス排出量データを収集、分類、分析することができます。以前は 数か月かかっていたデータ収集や監査の作業を数週間に短縮できます。

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の改善された機能について知ることができる説明用の動画が更新されました。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforceのシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーが一覧表示された新しいドキュメントが導入されました。独自のアプリケーション内ガイダンスプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、同じ情報が重複しないようにするために使用してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Lightning Experience への移行時にヒントを確認

Salesforceのデータおよびビジネスに欠かせないカスタマイズを Lightning Experience の機能と統合するためのヒントとベストプラクティスのコレクション。一般的な問題や途方に暮れるような問題を回避する方法を確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブを使用して Salesforce を最大限に活用

新しい技術要件とパフォーマンスのベストプラクティスハブには、パフォーマンスに関連するすべての情報が一元管理されています。推奨されるハードウェア、Salesforce組織のパフォーマンスを測定および改善する方法を確認できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:技術要件とパフォーマンスのベストプラクティス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Sustainability Cloud での二酸化炭素排出量の削減および報告

Salesforce Sustainability Cloud が導入されました。Sustainability Cloud ではグローバルな排出係数を使用して温室効果ガス排出量を計算するため、組織のビジネス活動全体を通じたエネルギー使用量および温室効果ガス排出量データを収集、分類、分析することができます。以前は 数か月かかっていたデータ収集や監査の作業を数週間に短縮できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 二酸化炭素排出量の削減および報告

Sustainability Cloud Trailblazer Community

Sustainability Cloud Partner Community

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュール、トレイル、プロジェクトは次のとおりです。

モジュール

Salesforce CMS の基本

Salesforce コンテンツ管理システムを使用してコンテンツを作成してチャネル間で共有します。

ユーザエンゲージメント

アプリケーション内ガイダンスを作成して、ユーザが Salesforce アプリケーションから最大の価値を得られるようにします。

Salesforce ライセンス

ライセンス、権限、エディション、アドオン間の関係を理解します。

Health Cloud データモデル

Health Cloud で使用可能なさまざまなデータモデルを使用する方法を学習します。

セールスとサービス用の保険エージェントコンソール

保険プラットフォームがつながりのあるカスタマーエクスペリエンスの提供にどのように役立つかを学習します。

Consumer Goods Cloud のリテールエグゼキューション

アプリケーション内顧客訪問管理ですべての店舗を最適な店舗に変えます。

プロジェクト

Next Best Action を使用した予測からのアクションの実行

Einstein 予測ビルダーを使用して、顧客、取引先、セールスなどに関する予測を作成し、Next Best Action を使用してこれらの予測をおすすめに変えます。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の改善された機能について知ることができる説明用の動画が更新されました。

- インライン編集、クイックアクション、商談リストでのテキストの折り返しなど、売上予測に対する最近の改善について説明するため、「Forecast Accurately with Collaborative Forecasts in Lightning Experience (Lightning Experience のコラボレーション売上予測による正確な売上予測)」の動画が更新されました。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

Infrastructure and Sub-Processors

ドキュメント『**Infrastructure and Sub-Processors**』に次の変更が加えられました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Lightning プラットフォーム (Force.com を含む)、IoT Explorer (IoT Plus を含む)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (Einstein Discovery を含む)、WDC、メッセージング、Financial Services Cloud、Health Cloud、Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud、Salesforce CPQ および Salesforce Billing、Salesforce Maps、Salesforce Advisor Link、foundationConnect

- **Services Covered:** 新しいサービス (Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud) と新しい Einstein 機能を含めるように対象サービスが更新されました。

Einstein プラットフォーム

- **Services Covered:** Einstein 商談スコアリング、Einstein ケース分類、Einstein 記事のおすすめ、Einstein Object Detection、Einstein 予測ビルダーなどの新しい Einstein 機能を含めるように「Services Covered」が更新されました。
- **Branding Change:** 「Einstein エージェント」は現在の機能名「Einstein ケース分類」に更新されました。
- **Data Hosting Location:** 新しい EU を拠点とする、Einstein ケース分類と Einstein 予測ビルダーのデータセンターが追加されました。

Marketing Cloud

- Exact Target および予測インテリジェンスのドキュメントの適用性に 2 つの新しい Einstein 機能が追加されました。
- ExactTarget サービスのサブプロセッサとして Google Cloud Services (GCP) が追加されました。

Security, Privacy, and Architecture

ドキュメント『**Security, Privacy, and Architecture**』に次の変更が加えられました。

Audience Studio

- **Audits and Certifications:** 「Audits and Certifications」が更新され、Audience Studio サービスは APEC プライバシーフレームワークに基づいてプロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) および PRP 認証の対象となることが記述されるようになりました。
- **Deletion of Customer Data:** Audience Studio サービスの終了後に削除するデータの範囲と期間を明記するように更新されました。

- **Personal and Sensitive Data:** 『2020 Network Advertising Initiative (NAI) Code of Conduct』で定義されている用語に合わせて更新されました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Lightning プラットフォーム (Force.com を含む)、IoT Explorer (IoT Plus を含む)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (Einstein Discovery を含む)、WDC、メッセージング、Financial Services Cloud、Health Cloud、Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud、Salesforce CPQ および Salesforce Billing、Salesforce Maps、Salesforce Advisor Link、foundationConnect (「Covered Services」)

- **Audits and Certifications:** このセクションの認証範囲が更新され明記されました。APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) に関する情報が追加されました。
- **Services Covered:** 新しいサービス (Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud) と新しい Einstein 機能を含めるように対象サービスが更新されました。
- **Reliability and Backup:** 特定の状況下で複製とバックアップが使用できない可能性がある製品のリストに Sustainability Cloud を含めるように更新されました。
- **Sensitive Data:** 特定の種類の機密データの受信が許可されていない対象サービスのリストに Consumer Goods Cloud と Manufacturing Cloud が追加されました。

B2B Commerce

- 「Audits and Certifications」が更新され、Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) が追加されました。
- 「Audits and Certifications」が更新され、EU/米国間およびスイス/米国間のプライバシーシールド認証が追加されました。
- 「Audits and Certifications」が更新され、APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) が追加されました。

B2C Commerce/Commerce Cloud

- 「Audits and Certifications」が更新され、Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) が追加されました。
- 「Audits and Certifications」が更新され、APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) が追加されました。

Einstein Discovery Classic

- **Certifications:** 「Audits and Certifications」が更新され、Einstein Discovery Classic は Salesforce の EU/米国間およびスイス/米国間のプライバシーシールド認証、拘束的企業準則 (BCR)、APEC Privacy Recognition for Procssors (PRP) の対象となることが記述されるようになりました。

Einstein プラットフォーム

- **Services Covered:** Einstein 商談スコアリング、Einstein ケース分類、Einstein 記事のおすすめ、Einstein Object Detection、Einstein 予測ビルダーなどの新しい Einstein 機能を含めるように「Services Covered」が更新されました。
- **Branding Change:** 「Einstein エージェント」は現在の機能名「Einstein ケース分類」に更新されました。
- **Certifications:** 「Audits and Certifications」が更新され、対象サービスは Salesforce の EU/米国間およびスイス/米国間のプライバシーシールド認証、TRUSTe、APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) の対象となることが記述されるようになりました。
- **Certifications:** 「Audits and Certifications」が更新され、上記の除外されるサービスに含まれている対象サービスを除き、すべての対象サービスは Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) の対象となることが記述されるようになりました。

Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、myTrailhead、SalesforceIQ CRM サービス

- **Audits and Certifications:**「Audits and Certifications」が更新され、対象サービス (Desk.com、myTrailhead、SalesforceIQ CRM は除く) はプロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) と EU/米国間およびスイス/米国間のプライバシーシールド認証の対象となることが記述されるようになりました。
- **Audits and Certifications:**「Audits and Certifications」が更新され、すべての対象サービスが APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) の対象となることが記述されるようになりました。

Heroku

- **Audits and Certifications:**「Audits and Certifications」が更新され、プロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) および APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) 認証が追加されました。
- **Quota and Limits:**「Quota and Limits」セクションの情報は Heroku の『Notices and License Information (NLI)』に記述されているため、このセクションが削除されました。

IoT Cloud

- **Audits and Certifications:**「Audits and Certifications」が更新され、プロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR)、EU/米国間およびスイス/米国間のプライバシーシールド認証、および APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) 認証が追加されました。

Marketing Cloud

- 「Security Controls」セクションが更新されました。
- **Services Covered:** 予測インテリジェンスサービスが更新され、新しい Einstein 機能、Einstein コピーインサイトと Einstein メッセージインサイトが追加されました。

MuleSoft

- **Audits and Certifications:** プロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) および APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) 認証が追加されました。
- **Deletion of Customer Data:** MuleSoft Anypoint Partner Manager でのトランザクション処理情報のデータ保持が明記されました。

Pardot

- **Audits and Certifications:**「Audits and Certifications」が更新され、プロセッサに対する Salesforce の拘束的企業準則 (BCR) および APEC Privacy Recognition for Processors (PRP) 認証が追加されました。
- **Data Encryption:** データ暗号化情報が更新され、新しい暗号化標準が追加されました。

Notices and Licenses

ドキュメント『**Notices and Licenses**』に次の変更が加えられました。

Audience Studio

- **Restricted Uses of Information and Compliance with Self-Regulatory Programs:**『2020 Network Advertising Initiative (NAI) Code of Conduct』で定義されている用語に合わせて更新されました。

Salesforce

- **Services Covered:** 新しいサービス (Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud) と新しい Einstein 機能を含めるように対象サービスが更新されました。
- **foundationConnect:** foundationConnect は統合されたスクリーニングリスト API を使用し、国際通商局のサービス利用規約に従うことが明記されました。

Einstein Analytics (Einstein Discovery を含む)

- **Non-SFDC Applications:** Einstein Analytics コネクタに関するセクションが更新され、Salesforce のお客様が統合できる非 SFDC アプリケーションが追加されました。

「**Einstein プラットフォーム**」**(Sales Cloud Einstein、Pardot Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision、Einstein Language、Einstein ボット、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダー、Einstein Vision for Social Studio)**

- **Services Covered:** Einstein 商談スコアリング、Einstein ケース分類、Einstein 記事のおすすめ、Einstein Object Detection、Einstein 予測ビルダーなどの新しい Einstein 機能を含めるように「Services Covered」が更新されました。
- **Salesforce Inbox:** FullContact および Clearbit 非 SFDC アプリケーションはサポートが終了したため削除されました。
- **Einstein Vision for Social Studios:** Einstein Vision for Social Studios は Google Vision API を使用し、Google の規約に従うことが明記されました。

Marketing Cloud

- Social Studio の「Restricted Uses of Information」セクションが更新され、プラットフォームでの Cookie や他の追跡技術の使用がより詳しく明記されました。
- Social Studio の「Mentions」セクションが更新されました。
- Social Studio の「Third Party Notices」セクションが現在の製品提供内容を反映するように更新されました。これには新しいサードパーティコンテンツプロバイダ、製品、サービス、プラットフォームの追加が含まれます。
- **Services Covered:** 予測インテリジェンスサービスが更新され、新しい Einstein 機能、Einstein コピーインサイトと Einstein メッセージインサイトが追加されました。

myTrailhead

- **Distributed Software:** 「Distributed Software」が Trailhead GO for iOS を追加するように更新されました。

Salesforce Maps

- 新しいサードパーティデータソースを追加するように更新されました。

Sustainability Cloud

- Sustainability Cloud で使用されるサードパーティデータソースを追加するように更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。

IdeaExchange

IdeaExchange はアイデアを Trailblazer Community および Salesforce 製品マネージャと共有するためのホームベースです。2019 年後半に優先度設定プロセスが追加され、ユーザが Salesforce リリース計画プロセスに貢献できるようになりました。好ましい機能のアイデアに仮想コインを消費して、自分にとって何が重要なのかを Salesforce 製品マネージャに伝えることができます。最優秀アイデアの優先度の結果と開発の進捗状況を把握できます。詳細は、IdeaExchange にアクセスしてください。